

ドラゴンボール超 宇宙 宇宙サイバイバル(超IF)

銀河の至る所

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

pixivにも書いていましたがこちらにも投稿!!

ドラゴンボール&宇宙サバイバル編が好きな僕がおくる作品!!きみたちも“激読”してくれ!!↑と英語で書いてある。

https://m.youtube.com/watch?feature=youtu.be&v=WEVBJ-tYGeM&a=

暇つぶch.様が私の小説を動画化してくださっていますのでよろしければこちらも

!

※編集上の都合若干ストーリーが異なる所もありますがストーリー自体に大きな差
違はございません。

目次

第7宇宙の策 復活のF?	1
10人目の仲間はまさかのあいつ!地球の命運を賭け決戦!	9
10人目の仲間はまさかのあいつ!地球の命運を賭け決戦!の続き	19
ついに開幕『力の大会』宇宙一危険なサバイバル!!	40
姑息VS優しさ 第9宇宙の猛攻!!	50
大暴走!荒ぶる狂戦士VSセル	78
サイヤ人の誇り キャベよ目覚めろ!!	99
特殊な技とパワー!第4宇宙の女戦士VS天津飯と亀仙人	117
漢と漢の肉弾戦!!愛する者の為に戦うポリスマン!	138
シークレット・ミッション!クリリン脱落!?	157
將軍奮闘!正義のコンビネーション炸裂!!	177
まさかのタッグ!第7宇宙と第9宇宙	206
第2宇宙の本領!強愛で強大で巨大なる力!!	226
愛の超決戦!クリリン一家VSリブリ	

アン!! 249

第2宇宙史上最凶の戦士 悪魔のツフル

人! 270

裁きが下される時!! 全ては神の思うま

まに 290

超絶光速バトル勃発! 悟空とベジータ

とヒットの共同戦線!! 316

三つ巴の決闘! 吃驚仰天の大バトル!!

336

悟空とベジータに迫る最強の敵! 第7宇

宙に危機が迫りし時!! 354

悟空VSジレン 究極バトルの先に:!

378

第4宇宙の狂策 破壊の雷鳥怒泣する!!

生命を燃やす武天老師!! 技と力のぶつか

り合い!! 431

進化する雷鳥! 第7宇宙が狙われる!

453

始めようか:! 更なる進化を遂げる第6

宇宙のF! 478

とびっきりの戦士対戦士! 激突する最大

パワー!! 509

第3宇宙の切り札! 3体合体最強マシン

!! 532

最強マシンVS三兄弟と3正義の全力総

378

攻撃！	—	554	最凶コンビ結成!?フリーザとヒット	前
第3宇宙の本領！究極の4体合体VS各	—	583	半	739
宇宙総攻撃	前半	—	最凶コンビ結成!?フリーザとヒット	後
第3宇宙の本領！究極の4体合体VS各	—	611	半	757
宇宙総攻撃	後半	—	第6宇宙最強の誇り	本
究極のパワーを手に！宇宙を越えし種族	—	631	領!!	780
の絆	前半	—	第6宇宙最強の誇り	本
究極のパワーを手に！宇宙を越えし種族	—	651	領!!	796
の絆	後半	—	神の領域への挑戦！全細胞の潜在能力覚	覚
激烈バトル！戦闘狂サイヤ人達の大乱戦	—	691	醒!!	826
!!	前半	—	神の領域への挑戦！全細胞の潜在能力覚	覚
激烈バトル！戦闘狂サイヤ人達の大乱戦	—	711	醒!!	843
!!	後半	—	究極の更なる究極へ：地球人とサイヤ人	人

の血をもつ男孫悟飯！

868

白と黒の死闘!! 悟飯VSゴクウブラック

前半

904

白と黒の死闘!! 悟飯VSゴクウブラック

後半

920

第7宇宙から新たな犠牲者! 第4宇宙と

第11宇宙の切り札!!

前半

947

第7宇宙から新たな犠牲者! 第4宇宙と

第11宇宙の切り札!!

後半

967

越えろ限界を破壊神を! 最大パワーの界

王拳!!

前半

993

越えろ限界を破壊神を! 最大パワーの界

王拳!!

後半

1008

付けようぜ：決着を 神次元の極致! 身

勝手の極意孫悟空VS破壊神トツポ!!

前半

1027

付けようぜ：決着を 神次元の極致! 身

勝手の極意孫悟空VS破壊神トツポ!!

後半

1047

絶対絶命!! さよなら孫悟空!?

前半

1072

絶対絶命!! さよなら孫悟空!?

後半

1095

3宇宙の運命 宇宙最大のくじ引き!

1115

真の強者揃いし戦い 力の大会最終決戦

後半	目覚めた邪神 第4宇宙の乾坤一擲!!	1245
前半	目覚めた邪神 第4宇宙の乾坤一擲!!	1226
半	怒りを越えた先に ベジータ覚醒!!	1210
半	怒りを越えた先に ベジータ覚醒!!	1194
後半	防御と速度の戦い 両者を狙う極小の影	1174
前半	防御と速度の戦い 両者を狙う極小の影	1155
!!	防御と速度の戦い 両者を狙う極小の影	1135

強者達の超決戦! 究極の聖戦始まる!!	1363
限界超絶突破! 極めし神の領域!!	1344
限界超絶突破! 極めし神の領域!!	1321
最強と最凶 ベジータ最大の危機!!	1300
最強と最凶 ベジータ最大の危機!!	1282
身勝手の極意封じ 孫悟空脱落計画	1264
身勝手の極意封じ 孫悟空脱落計画	前

前半

強者達の超決戦！究極の聖戦始まる！！

1382

後半

奇跡の決着！また会おう孫悟空！

前半

1403

奇跡の決着！また会おう孫悟空！

後半

1425

1459

第7宇宙の策 復活のF?

悟空「フリーザだ！フリーザを力の大会に出せばいいじゃねえか！」

悟空はフリーザを復活する案を立てる。

大半は反対する。が、ウイスの説得によりあの世で悟空がフリーザをスカウトする。

しかし、この時に第7宇宙の様子を見るスパイが……。

ガノス「……」

第4宇宙の破壊神キテラはフリーザの復活を知り第9宇宙を利用しフリーザ抹殺を謀る。

シドラ「許せぬ……我々第9宇宙を先に潰しにかかるとは……第7宇宙め」

キテラ「俺とお前は対の宇宙同士。仲良くやろうじゃないか」

シドラ「うむ……しかしそちらは誰も呼ばぬのか？我々の宇宙だけというのは少し……」

キテラ「心配するな。既に送り込んでいる。キキキキ!!」

キテラ（フリーザと孫悟空。この二人を利用しない訳にはいかないだろ）

しかし、フリーザの圧倒的な力に逆に抹殺される第9宇宙と第4宇宙の黒い衣に身を包んだ者達。

シドラの破壊エネルギーも防ぎ逆に破壊エネルギーを手取るフリーザ。

通信機の水晶を手に取り第9宇宙のロウに何と自分を第9宇宙の戦士に引き抜いてくれと提案したのだ!

フリーザ「私の強さはご理解いただいたでしょう? どうです?」

シドラ「いや、しかし・・・」

ロウ「お前にだつて愛する者が・・・風景が・・・思い出があるだろ!」

フリーザ「失礼。何をおっしゃっているのか・・・まーったく理解できません!」

キテラ（キキキキ。これは面白い事になってきたな）

クル「キテラ様、な、何を!？」

ここで、第4宇宙の生き残りの黒い衣を着た一人の戦士が通信機を手にフリーザに近寄った。

キテラ「シドラ!!フリーザをメンバーに入れる!俺は何度もルールブックを見るが他宇宙から引き抜くのはルール上問題ない!」

ロウ「待て!あやつは自分の宇宙が消滅するのを何とも思っていない異常者だ!」

キテラ「何甘い事言ってるんだ?負けたら消滅だぜ?シドラ、お前は消えたくないよな?なら、フリーザを引き抜け!」

フリーザ「おやおや、あなたの所の宇宙もこの私の抹殺に関わっていたのですかねえ?」

キテラ「俺はお前の力を見たかっただけさフリーザ。驚くほどに強いじゃないか」

フリーザ「これはどうも。まあ、軽いウォーミングアップという事で今回は許してあげますよ。さあ、どうします？ 私と手を組みませんか？」

ロウ「シドラあいつお前より破壊神らしいぞ！だが、奴を引き抜くのは・・・」

分かった！！

ロウ「なっ!？」

悟空「イーッ!？」

シドラ「コンフリーを抜いてフリーザ。これでいくしかないですな」

ロウ「ふざけるな!!! 私は反対だ！この様な異常者をメンバーになど・・・」

モヒイト「・・・」 呆れ顔

キテラ「ん？ビルスが来るぞ。早く連れてけ！」

黒い衣を着た戦士「分かりましたキテラ様」

悟空「ま、待てフリーザ！うわああああ!!」

フリーザ「残念でしたね！サイヤ人のお猿さん。せいぜい消滅を楽しみにしておくのですね！ホツホツホツホ！」

フリーザ「その前にあなたはこの破壊エネルギーで消滅するかもしれませんがね!!」

第4宇宙の黒い衣を着た戦士と共にフリーザは消えてしまった・・・。

ビルスが来るも時既に遅し。ビルスが軽く息を吹きかけると悟空は破壊エネルギーから解除される。

悟空はビルスにフリーザが第9宇宙に引き抜かれた事を伝えた。

それを聞きビルスは驚きを隠せない。

ビルス「何だって!?!フリーザが第9宇宙に!?!」

ウイス「これは困りましたねえ・・・姑息な宇宙と呼ばれる第9宇宙。私達の動きを手取り足取り見てたのですねえ」

悟空「それがよ。もう一人関わってたんだ。あの丸っこい水晶から黄色いネズミ見たいな奴が映ってフリーザをスカウトしろってさ」

ビルス「黄色いネズミだど!? キテラの奴め。わざわざ第9宇宙にフリーザをメンバーに入れて何を企んでやがる・・」

ウイス「第4宇宙も関わっているとは・・もしかすると第9宇宙と第4宇宙は手を組んでるかもしれませんねえ」

ビルス「どうするんだ!? 魔人ブウも寝てるしもう誰もいないぞ!!」

悟空「そんな事言ったって・・・」

ビルス「おいはあさん!」

占いババ「は、はひ!」

ビルス「他にあの世で強い奴はいないのか!?!」

占いババ「いきなり言われましても・・」

悟空「フリーザがダメなら……あいつにしてみるか」
ウイス「おや、他にアテがあるのでですか？」

悟空「フリーザと同じくらい悪人だけどフリーザよりは話分かるかもしんねえ!! 閻魔のおっちゃんに会って話して連れてくる! ウイスさん! ビルス様! すぐ戻つから先ブルまんちにいてくれ!!」ピシユン

ビルス「あいつ誰を呼ぶつもりだ……」

占いババ「まさか悟空の奴……!」

ウイス「どうやら悟空さん的には期待できそうな戦力の様ですなビルス様」

ビルス「:ブルマのところに戻るぞ。どうせなら上手い物を食って消滅するよ僕は」

ウイス「おやおや、諦めが早い事」

ビルス「お前はいいよな! 消えなくてき!」

ウイス「オツホツホツホ」

フリーザが第9宇宙に引き抜かれピンチの第7宇宙。

しかし、悟空は瞬間移動で閻魔大王に頼み一人戦士を呼ぶとの事。
果たしてそれは誰なのか・・・？

10人目の仲間はまさかのあいつ!地球の命運を賭け決戦!

閻魔大王「ご、悟空!お前本気なのか!」

悟空「本気もなんもそうしないとならねえ様になっちまって・・頼むよ!閻魔のおつちゃん」

閻魔大王「あいつは極悪人だぞ?パイカーハンはどうだ?戦力としてなら問題ないと思うが・・」

悟空「パイカーハンも悪くねえけどよ。けど、この力の大会はサイヤ人の気質も持っているあいつの方がいいと思うんだ」

閻魔大王「・・本来なら許されんのだが。今回は本当の本当に特別だからな。地獄に行つて会つてこい」

悟空「サンキューな閻魔のおつちゃん!!」ピシユン

瞬間移動である者の気を探し地獄に来た。

その者は地獄の牢に閉じ込められ一人静かに瞑想をしていた。

悟空「よう。久々だな」

セル

セル「孫悟空。何をしに来た？」

悟空「セル。おめえ、一日だけでもこの世に帰りたくねえか？」

セル「ただ戻る訳では無さそうだな」

悟空「へへ。バレちまったか」

セル「わざわざ悪人である私を呼ぶなどあり得ないからな。それに私がこの世に帰れ

ばすぐにも地球を破壊してやろうか?」

悟空「そうはさせねえさ。それよりもおめえ、つえー奴とっばい戦いたくねえか?」

セル「・・・強い奴?」

悟空「力の大会つちゆう宇宙からつえー戦士がっばい集まってよ。そこで全員が戦う大会つてのがあんだよ!」

悟空「おめえも久々につえー奴とっばい戦つて体を動かしたくねえか?」

セル「貴様があの世にいた時のお仲間でいいんじゃないのかな?」

悟空「パイクーハンはその世の悪い奴を止めなきやなんねえからな。あいつがいなくなったら地獄にいる悪い奴等が大暴れするし閻魔のおつちゃんも困るしな」

悟空「それにおめえだつて久々に悟飯を見たくねえか?あいつ強くなったからなあ」

セル「ふん。今更孫悟飯などどうでもいい。それに貴様等もな」

セル「だが、強い戦士と戦うというのは面白そうではあるな」

セル「私があこの世にいる間何もしていない訳ではない。貴様がブウと戦っているのも見ているし破壊神と戦っているのも見ていた。そして、私は貴様や破壊神を超えるために鍛えぬいていた」

悟空「やっぱおめえはサイヤ人の細胞が入ってっからな。フリーザの細胞が入ってっつつつてもオラやベジータの細胞があるなら真面目に修行もしてたんだろ？」

セル「好きではないがな。だが、当時の私では新たに変身したフリーザは厳しい相手と分かった。だからこそ鍛え直した」

セル「肉体と精神と私の持っている潜在能力。全てを一から見つめ直し地獄で鍛えぬいた。・・・どうだ？私と戦ってその強さを貴様の身体に教えてやるぞ？」

悟空「わりいな。時間がねえんだ。もう行かなきゃなんねえ。おめえは行くよな？サイヤ人の細胞があるなら興味が沸かない訳ねえよな？」

セル「私をただ利用するというのは気に入らない。一つここは私の条件を呑んでもらおうか」

セル「この大会で私が優勝または最優秀賞に選ばれた場合、私をこの世に戻してもら

おうか」

悟空「・・・ああ、分かった」

セル「ふっ・・・よろしく」

悟空「よし、そうと分かればブルマンちに瞬間移動すつからオラに触ってくれ」

セル「ご心配なく。私も瞬間移動は出来るのでね。ベジータの気を探ればその家に行けるのだろ？」

悟空「ああ。閻魔のおっちゃんからは許可をもらってるからこの世に行ってもでえじょうぶだ」ピシユン

セル「貴様はもちろんあの破壊神もその内倒してやるぞ」ピシユン

ブルマンちでは・・・。

ビルス「あいつは何をしてるんだ!!もうすぐ大会が始まってしまおうぞ!!」
ベジータ「フリーザが別の宇宙に加わっただど?」

ウイス「ええ。第9宇宙に引き抜かれてしまいましたね」

悟飯「第9宇宙って全覽試合で僕達が戦った宇宙じゃ!？」

ビルス「悟空の奴が喧嘩を売ってしまったからな。第9宇宙と第4宇宙は少なくとも手を組んで僕達を潰しにいくのが分かったよ」

悟飯「そ、そんな!」

ウイス「悟空さんはあの世でフリーザさんと同じくらいの悪人の別の方をスカウトしにいきましたよ」

クリリン「フリーザと同じくらい・・・」

18号「あいつ、まさか・・・」

17号「・・・」

ピシユン

ピシユン

悟空「待たせたな皆!」

ベジータ「カカロット遅いぞ! なっ、セルだと!？」

セル「ほう、ベジータか。それに・・・」

18号「ふざけるな! 何でこいつを呼んだんだい!？」

クリリン「18号さん落ち着いて! 17号も、うつ・・・」

17号「・・・」ギロツ

セル「フフ。随分と不穏な歓迎で」

悟空「18号、17号。今はそうも言ってられねえんだ!」

クリリン「け、けどもセルって・・・」

悟飯「セル・・・!」

セル「孫悟飯。あの時やられた事を思い出すぞ・・・」

セル「だが、今回は互いにいがみ合うのはやめにしよう。負ければ消滅・・・だろ？」
悟空「なんでえ知ってたのかおめえ」

セル「破壊神様や界王神様がわざわざ強い者を集めてただ戦うだけなんて普通はおかしいと勘づく」

セル「まあ、あの世から観察していたからな。フリーザでなく私を選んだのは想定外だったが」

ビルス「ふくん、君鋭いね」

シン「あなたは過去、地球ごと爆破しようとしてましたね。今回の力の大会は殺しは禁止です。場外に落としてくださいね。後、武舞台では武空術は使えませんからそこも気を付けてください」

セル「セルゲームも場外負けが最初はあったな・・・ククク、懐かしい話だ」

ベジータ「おいセル。貴様、あの時と変わらないのなら役立たずだから生き残る事だけを考えて動けよ」

セル「あの時と変わらないか・・・信頼されていないな私も。まあ今は好きナだけ言うがいい。大会が始まれば私の真の力、そして更なるパワーアップが可能だからな」

セル「そして、ベジータ及びここにいる戦士全員、大会が終わり次第殺してやるぞ」

天津飯「くっ・・・やはり極悪人は極悪人のままか」

亀仙人「しかし、悟空がいれば大丈夫じやろう。いくらセルとはいえどそうそう勝てんわい」

ビルス「おい、時間がないからさっさと武舞台に行くぞ。ウイス」

ウイス「ええ。それでは皆さん手を繋いでください」

ベジータ「な、セルと仲良く輪になれというのか・・・」

セル「おやおや、今はチームだから当たり前じゃないのか?フッフ・・・」

ベジータ「ふざけやがって・・・!」

ビルス「おい、早くしろ!!これでいいだろ!!」

ベジータ「くっ……」

ビルスがセルと手を繋ぐと全員が手を繋ぎウイスが大神官に10人が揃った事を伝えると武舞台にいく第7宇宙の戦士達。

シンがチームプレイで戦おうと言うも卑怯だとチームプレイには反対の悟空、ベジータ。

チームがバラバラで不安なシンをよそに力の大会がいよいよ始まろうとしている……！

10人目の仲間はまさかのあいつ!地球の命運を賭け決戦!の続き

武舞台に一番最後に着いた第7宇宙。

他の宇宙の戦士達は第7宇宙に強い恨みを持つ者が多く悟空の全覽会後の煽りで更に狙われる可能性が高い。

悟空「よう、きたな!」

トツポ「宇宙の命運がかかっている。個人的な争いには興味はない」

悟空「・・・そうか。ま、いつか。おめえよりつええつてのはあいつか?」

トツポ「おい」

トツポが止めるも無視し悟空は第1宇宙最強の戦士ジレンに話し掛けようとしたが瞬時に後ろに回り込まれていた。

ジレンに一言「消えろ」と言われその場を去るジレン。

後ろに回り込まれていた事に全く気付けなかった悟空は冷や汗を垂らす。

ベジータもジレンを一目見てただ者じゃないと分かり歯をくいしばり両手に拳を作っていた。

悟空「ただ者じゃねえな・・・いつの間に後ろに回り込んでたんだ」

ビルス「お、おい!!何であいつがいるんだ!?!」

シン「どうしたのですかビルス様?・・・な、なっ!?!」

ビルスとシンと老界王神は開いた口が塞がらない。

ビルス達の目線の先にはチームの誰とも馴染もうとせず一人武舞台上立ち尽くす戦士がいる。

長袖の黒いインナーの上に灰色の武道着姿。

有り得ない。そもそも消えたはずだ。

それに力の大会には出場だって不可能なはずだ。

ビルスは大神官にその男の正体を伝えるも大神官はもちろん知っている。

大神官「はい。本来なら出場は不可能です。けれども、ある条件を受け入れた事で出場を許可しました」

シン「あ、ある条件とは一体・・・」

大神官「界王神の力を使用しない事と神具を持たない事を条件に出場を許可しました。何よりも全王様が孫悟空選手が二人もいるのは面白いとの事でルールを変えてでも出場を認めました」

大神官「もちろん。界王神の復活パワー等を使用すれば即失格と致しますので」

ビルス「くっ・・・過去と未来の行き来は重罪だと言うのに。第10宇宙め」

ウイス「予想外ですね。タイムマシンに乗ったのはいいですがどうやって彼を連れてきたのか・・・」

天津飯「あいつが悟空とベジータとトランク스가命を賭けて戦った・・・」

ピッコロ「ゴクウブラックか・・・」

ゴクウブラック（俺以外はカスしかないな。さっさと全員叩き落として大会が終わったらゴワスを殺してやる）

ゴクウブラック（破壊神ラムーシ。俺がいつまでも破壊に恐怖を感じると思うのか？俺はこの大会で更に強くなりいずれお前を殺す。本当の神とは誰なのか教えてやる）

ゴワス「不本意だが・・・私だつて消滅はしたくない。せつかく今まで投稿した神tubeの動画も負けければ消えてしまうしな」

ラムーシ「あいつは命令など受けないじゃろう。不安なのは殺しをしないかだけじゃ」

ゴワス「そうですねラムーシ様。だが、ザマ・いえ、ブラックでも殺す殺さないの匙加減は出来るはずですよ」

クス「あの怖いから苦手・・・」

大神官「皆様揃いましたね。それでは早速ですがまずは各宇宙の紹介から始めましょ

う。まずは第2宇宙」

メンバー

ブリアン・デ・シャトー

サンカルク

スーロース

ジミズ

ラバンラ

ビカル

プラン

ハーミラ

ザブト

ザロイン

大神官「第3宇宙」

メンバー

ニグリツシ

ナリラーマ

ザ・プリーチヨ

マジ||カーヨ

パパロニ

ボラレータ

カトペスラ

ビアラ

コイツカイ

パンチア

大神官「第4宇宙」

メンバー

ガノス

ニンク

シヨウサ

マジヨラ

キャウエイ

ダーコリ

モンナ

シャンツア

???????

大神官「第6宇宙」

メンバー

ヒット

フロスト

ボタモ

オツタ・マゲツタ

キャベ

カリフラ

ケール

サオネル

ピリナ

D r . ロタ

大神官「第7宇宙」

メンバー

孫悟空

ベジータ

孫悟飯

ピッコロ

セル（フリーザが別宇宙に二人もいるのか？いや、あそこの紫のフリーザはこちらの宇宙のフリーザだな。・裏切ったという訳か）

大神官「第9宇宙」

メンバー

バジル

ラベンダ

ベルガモ

ポツプ

ソレル

オレガノ

チャツピル

ヒソツプ

ローゼル

フリーザ

フリーザ（ほう、第7宇宙はセルさんと呼んだのですか？セルさんでも今の私には敵わないでしょうけどね）

大神官「第10宇宙」

メンバー

ムリチム

リリベウ

ジラセン

ムリサーム

メチオープ

ナパパ

ルバルト

オブニ

ジウム

ゴクウブラツク

ゴクウブラツク（ダサイパフォーマンスなどしなくていい。こつちが恥ずかしい…）

アグ「あの者が中身は界王神の者か」

オグマ「全王様の寛大なお心に感謝すべき」

イル「神々が見守る中、元神が人間と戦うとは滑稽」

アナト「所詮はレベルが低い宇宙の神。例え界王の中で期待されるも消滅しても問題がないと全王様が判断なさったのでしよう」

ゴクウブラック（言いたい放題言いやがって・お前達も大会が終わり次第殺してやる）

大神官「そして、最後は第11宇宙」

メンバー

ジレン

トツポ

デイスポ

カーセラル

クンシー

タツパー

ゾイレ

ココット

ケツトル

ブーオン

クリリン「どれも強そうなのしかいねえ・・・」

悟飯「大丈夫ですクリリンさん。しっかりとチームワークを駆使して戦いましょう」

セル「らしくないな孫悟飯」

悟飯「セル。これは宇宙消滅を賭けた戦いなんだ。遊びじゃないんだぞ！」

セル「戦闘民族が戦いを楽しまなくてどうする？私は存分に楽しませてもらうぞ。チームワークなど必要はない」

ベジータ「ふん。それには同感だ。用は勝てばいいだけだからな」

悟空「だな。オラワクワクすつぞ！」

悟飯「お父さんまで・・・」

ピッコロ「あいつらは元々そんな奴等だ」

天津飯「俺達は固まって落ちない様にする」

クリリン「俺もそうする。というか悟飯やピッコロが近くにいたら助かるしな・・ハ、ハハハ」

フリーザ「わかっていますね?あなた達は第7宇宙を狙ってはいけません」

バジル「けど、あいつらは俺達を・・」

フリーザ「一端、様子を見てみましょう。私はどうも信用できないのですよ。あの破壊神の言葉はね・・」

フリーザ(シドラが言うには第7宇宙が私達第9宇宙を狙う。けれど、その情報を伝えたのは第4宇宙のキテラという破壊神。あの破壊神は無能なシドラを利用しているのでしょうか。・・無能共を騙せても私の事は騙せませんよキテラ)

キテラ(第9と第7で潰し合え!!)

フリーザ「あなた達の指揮は私がとります。この宇宙の破壊神と界王神ははつきり

言って無能ですからね」

ラベンダ「兄者。本当に大丈夫なのか!？」

ベルガモ「あいつの実力は確かだ。それに他のメンバーへの指揮も的確だしな。ここは黙って従うのが吉だろう」

バジル「兄者がそこまで言うならそうするけどよ・・・」

ロウ「くそっ！フリーザめ!!自分に任せてあなた達は寝ていろだど!？」

シドラ「しかし、高いリーダーシップで第9宇宙のメンバーをまとめていますな。引き抜いて良かったかと・・・」

ロウ「バカかお前は!あいつは故郷が滅んでも何も思わない異常者だぞ!!」

ロウ「私は認めないぞ。あいつはイカれている!絶対裏切る!!」

ムリチム「この第10宇宙の為に必ず勝つぞ!!」

ゴクウブラック以外の第10宇宙メンバー「オー!!!」

ゴクウブラック（このチームは俺以外はカス同然だ）

大神官「ルールを説明します。制限時間は100タックです。地球時間で48分です。舞台の中央にある柱が徐々に下がっていき、下がりがきつて床と同じ高さになれば終了です」

大神官「また、術以外の武器の使用禁止。相手を殺すのも禁止。殺してしまった場合その殺した選手はペナルティとして失格とし脱落扱いとなります。とにかく相手を武舞台から落とせばいいです」

ゴクウブラック（ほう、相手を殺した場合は失格か・・・）

大神官「ただ戦闘不能で動けなくなっても武舞台から落ちなければ負けにはなりません。回復するための道具の使用も禁止です。そして舞空術などの空を浮く技は使えなくしてありますが翼を持つものは例外で飛行は可能です」

フリーザ「ローゼルさん。分かっていますね」

ローゼル「は、はい」

大神官「それでは全王様から一言開始の宣言をお願いします」

全王二人「みんな〜！良く来たのね。すつごく楽しみにしてたから。盛り上げて欲しいのね」

大神官「ありがとうございます全王様。それでは各宇宙の戦士のみなさん、準備をお願いします」

悟空「いよいよ始まつぞ!!」

悟飯「皆さん向かってくる敵に対して必ず二人以上で戦ってください」

ベジータ「ふん、つまらん作戦だ」

セル「孫悟飯。私は貴様の強さは認めている。小細工等必要ないだろう。なあ、18号」

18号「少なくともお前とは絶対組みたくないよ」

17号「俺もだ。好きにさせてもらう」

悟飯「み、皆・・・」

シン「大丈夫でしょうか第7宇宙は・・・」ハア

、老界王神「戦う前から不安になるんでない馬鹿者」

ビルス「ぐぬぬ・・・あいつら。頼むぞ!お前ら!チームワークだ!けつぱれ!第7宇宙!!」

キテラ「キキキ。ビルスともあろうものがチームワークとはしよつぺえ!」

ビルス「いちいち絡んでくるなキテラ」

キテラ「けつ、生意気な奴だぜ。ま、お前の宇宙は狙われるだろうからな。あつという間に消滅かもな!キキキキ」

ウイス「おやおや苦手な破壊神じゃなかったのですか?」

ビルス「あいつが消滅すればそれはそれで悪くない。苦手なのに変わりはないがな」

静寂になる無の界。

最初から静寂な界とはいえその気はどれも強い。

緊張する者、ワクワクする者、ただ開始の宣言を待つ者。

それぞれの思考と戦略が開始前から始まっている。

そして……。

大神官「力の大会！ 始め！」

その一言と同時に80人の戦士が動く!!

静寂な無の界が一秒も持たず戦場と化す。

殴り合い気弾の応酬を仕合う者もいれば戦場に隠れる者、様子見をする者も。

全王はあつという間に戦場と化し静寂の無の界が爆発するのに大興奮。

それとは反比例するかの様に消滅の危機がある各宇宙の破壊神、界王神は緊張しつつ冷静に戦況を見つめる。

フリーザ「私が思うに：第2宇宙は見た所大した事がなさそうです。バジルさん、ラベンダさん、ベルガモさんを筆頭に第2宇宙を潰しなさい」

フリーザ「私はもう少し戦況を見てから他宇宙を狙います」

ベルガモ「第2宇宙か」

バジル「けつ、自分は何もしないのかよ」

ラベンダ「第7宇宙は散らばって戦う者もいればまとまって戦う者がいるな」

フリーザ「やはり、第7宇宙は私達を狙っては来ませんね。第4宇宙はそうやって私達の戦力を減らそうとしたのでしよう。頭に来ますが第7宇宙のサイヤ人の猿共は手強いですからね」

フリーザ「それに、第6宇宙、第10宇宙にもサイヤ人がいますね。忌々しい猿は手が落として差し上げましょう」

ベルガモ「いくぞ!!」

第9宇宙メンバー「おおお
!!!!!!」

悟空「トツポ、オラと戦え!」

ガノス「てやあ!!!」

悟空「うおつと!!」

セル「貴様は別宇宙のサイヤ人だな」

キヤベ「強そうだ・・・けど、僕だって負けない!」

ベジータ「ブラッケー!!!」

ゴクウブラック「来たか。愚かな人間よ」

力の大会は始まったばかり!!

続く

はてさてこの先どうなる事やら

ついに開幕『力の大会』 宇宙一危険なサバイバル!!

悟飯、ピッコロ、クリリン、亀仙人、天津飯は五人で円を作りチームワークを駆使し脱落を防ごうと戦う。

5人を狙うは第6宇宙のボタモ、マゲツタ、D.R. ロタ、第4宇宙のキャウエイ、ダーコリ、モンナ、マジヨラ。

直ぐ様マジヨラがクリリンに狙いを定め攻撃を仕掛けてきた!

クリリン「早い!」

マジヨラ「遅いな」

マジヨラの蹴りがクリリンの腹部に直撃。それに乗じボタモが口からビームを放つ。

ビームはクリリンに迫るも悟飯がクリリンを庇う形で右手で弾きビームが右側に反れた。

クリリン「た、助かったぜ悟飯」

悟飯「やはり力の大会・・・強い相手ばかりだ」

天津飯「武天老師様。女性相手は・・・」

亀仙人「大丈夫じゃ。煩惱を解いた今のワシにはな」

D r. ロタ「このD r. ロタが何故D rと呼ばれているか・・・」

ピッコロ「テヤア!!!」

D r. ロタ「き、聞けえ!!」

ダーコリ「キヤア!!!」

ピッコロがD r. ロタを殴り飛ばし前にいたダーコリが飛んできたD r. ロタごと吹っ飛ばす。

天津飯「何て硬さだ・・・それに熱い」

マゲツタ「シユポー・・・」

モンナ「潰してやるよ!」

キャウエイ「ジジイはさっさと隠居したら?」

亀仙人「むう・・・」

マゲツタの頑丈さに驚く天津飯。亀仙人はモンナとキャウエイに狙われ硬直状態。

第6宇宙と第4宇宙の戦士が第7宇宙を潰しにかかっている！

シヤンパ「第7宇宙をぶっ潰せ!!マゲツタ、ボタモ!!」

D r. ロタ「シヤ、シヤンパ様!」

ダーコリ「いつまで引っ付いてるのさ!」

ポイ

D r. ロタ「ちよ、落ち・・・」

何をしている？

D r. ロタ「た、助かったあ・・・」

ヒット「・・・」キツ
!!

ダーコリ「くつ、相手にしない方がいい・・・」

ダーコリはヒットの一睨みで勝てないと判断し離脱。
D r. ロタはヒットの時飛ばしにより脱落は免れた。

悟飯「僕が相手だ」

マジョラ「これは手強そうな相手・・・」

クリリン「待て！こいつは俺が倒す!!」

悟飯「クリリンさん？」

クリリン「やられっぱなしは嫌だからな。それに悟飯。お前はこの五人の中で一番強いんだ。体力を残しておくんだ」

クリリン「それに俺だってやる時はやるからな」

悟飯「分かりました。クリリンさん、お願いします！」

ピッコロ「悟飯！武天老師を助けるんだ!!お前はあの球体女と戦え!!」

悟飯「はい！ピッコロさん！」

ビルス「おいおい、じいさん！しっかりしてくれー!!」

キテラ「キツキツキ。宇宙の存亡をかけた大会でジジイを呼ぶとは。第7宇宙は戦力に乏しい様だな!!」

シャンパ「いいぞーマゲッタ！まずはその3つ眼ハゲを叩き落とせ!!」

キテラ「兄弟の宇宙にも狙われるとは・・・嫌われ者は辛いなビルス」

ビルス「うるさいぞキテラ！」

ピッコロ「天津飯！」

天津飯「くっ・・・」

マゲッタ「シュポー」

ボタモ「分身なんざしたって力がなければ生きていけないぜ！ボタマゲッタだ!!」

ピツコロ「な、何だと!？」

シャンパ「最強の布陣『ボタマゲッタ』。ビルス！あの3つ眼ハゲは終わりだ!!」
ビルス「くっ・・・」

天津飯「ここまでか・・・」

ボタモ「終わりだく!!」

太陽拳
!!

ボタモ「うわ、眼が!!」
マゲッタ「シュポー!？」

ピシユン

天津飯「・・・まさかお前に助けられるとはな」

セル「貴様の四身の拳を使わせてもらった。私の四身は戦闘力は落ちないからな」
セル「だが、無駄な体力は使いたくない。次は助けんぞ」ピシユン

セル「さあ、再開しようか・・・！」

キャベ「くうつ・・・第7宇宙にはこんなサイヤ人もいるのか・・・」

天津飯「まだまだ俺は戦える」

ビルス「あのセルって奴。技が多彩だね。瞬間移動も使えるのか」

界王神「悟空さんの細胞やフリーザの細胞等、強い者の細胞を集め作られた虫の戦士ですからね」

ビルス「なるほど・・・あいつの実力次第では超サイヤ人やゴールデン化も可能なのかもしれないな」

キテラ（第7宇宙にも虫の戦士がいるのか。だが、俺の所の戦士には勝てないだろうがな！）

セル「どうした？先程とはうってかわって守ってばかりだぞ！」

ズドツ
!!

セルの蹴りでキャベが吹っ飛ばされ地面に叩きつけられた。

キャベは立ち上がるもセルの強さに恐れてしまう。

キャベ「ぐっ・・・!!」

カリフラ「キャベの奴。何やってんだよ！」

ケール「あ、姉さん!!」

セル「もう少し遊びたかったのだかな・・・」

カリフラ「オラーー!!!」

キャベ「カリフラさん!」

落とされそうになったキャベをカリフラが不意打ちでセルの左横腹を蹴飛ばそうとしたがかわされる。

キャベはその隙を見て逃げた。

カリフラ「お前、なかなか強そうじゃねえか。相手しな!!」

キャベ「二人でならなんとかかなりそうで・・・」

カリフラ「おいキャベ。お前は引つ込んでな!!」

キャベ「カリフラさん!ここはチームワークで・・・」

カリフラ「うるせえ!!」

カリフラに蹴飛ばされるキャベ。

第6宇宙のサイヤ人は本来大人しい者が多いが第7宇宙のサイヤ人の様な闘争本能を強く持つカリフラ。

セルはニヤリと不敵な笑みをこぼしながら構えた。

セル「ウォーミングアップにはなるかな」

カリフラ「へっ！ウォーミングアップどころかここで終わりにしてやるぜ!!」

ケール「だ、大丈夫ですか？」

キャベ「ありがとうございますケールさん。僕は大丈夫です」

キャベとケールはカリフラとセルの戦いを黙って観戦する事に。

セルはカリフラの潜在能力に気付き楽しめる戦いになるとワクワクしている。

姑息VS優しさ 第9宇宙の猛攻!!

悟空はガノスの連続エネルギー弾をかわしガノスにパンチのラッシュを浴びせる。

一撃一撃が重い悟空のパンチにガノスの顔が歪む。

ガノス「くっ！退くか」

悟空「なかなかいい腕してたな」

ガノスが退却した後、悟空はジレンを捜す。

ジレンは開始から全く動かず仁王立ち。

ラバンラ「・・・くっ」

第2宇宙のラバンラがジレンに挑もうとしたがその気迫に押され逃げていく。

ポップ「逃がさないよ!!」

ラベンダ「ぶぁーははは!!」

ラバンラ「ひえっ!!」

ジレン「・・・」

ジレンの目前にはポップとラベンダの連携攻撃を受け苦しむラバンラ。
ジレンは自分は狙われないと分かっており一步も動いていない。

バジル「ニツヒヒヒヒ」

バジルはザーブトを得意の蹴りの応酬で場外まで追い詰めようとしている。

ベルガモ「ふぬおお!!」

ザーロイン「うおおお!!!」

ベルガモはザーロインと力の力のぶつかり合い。ベルガモの力の方が上だ。

ヘレス「何と品のない・・・」

バジル「このまま落としてやる!! シャイニングブラスター!!!」

ザープト「うわあああ!!!」

足から放たれる赤いエネルギー弾はザープトを宙に飛ばしていった。

リリベウ「えっ!?!」

バジル「ただテメーを飛ばすだけじゃないぜ!」

リリベウ「きやあー!!!」

エネルギー弾は宙を舞っていたリリベウも巻き込みザープトとリリベウはそのまま落ちていった。

大神官「第10宇宙リリベウさん、第2宇宙ザーブトさん。脱落です」

ロウ「おーバジル!!! 凄いぞ! 二人落とした!!」

全王「えつと・・・リリベウとお・・・」

未来全王「ザーブト・・・えいつ!」

神padに表示されている戦士達を押すとその戦士の画面が黒くなった。

10人の脱落はその宇宙の消滅・・・。

ラベンダ「対策したつもりかそれで?」

ラバンラ「ううっ・・・」

全宇宙は全覽試合で使用したラベンダの毒は身体に気を纏って毒を防ぐ様に対策してくるとラベンダは読んでいた。

ラベンダはそれ逆手にとりホップとの素早いコンビネーションで攻撃をさせず疲

労を蓄積させる作戦に出ていたのだ。

フリーザはラベンダの毒は使えろと判断し、ホップとのコンビネーションと氷で相手の動きを封じるヒソップを潜ませる策を立てていたのだ。

ラバンラは疲労し気を纏う力が弱まりそこをラベンダの毒の息が襲う。

ラバンラ「うわああ!!ど、毒が・・・」

ホップ「殺したらいけないからね」

ラベンダ「毒を浴びればまともに動けない。さつさと落ちて付き人にでも治してもらった方がいいぞ!おりや!!」

ラバンラ「く、くそおお・・・」

大神官「第2宇宙ラバンラさん。脱落です」

ヘレス「・・・美しくない。品性の欠片もない!」

ペル「き、汚いぞ!」

ロウ「汚い？これは宇宙消滅をかけた戦いだぞ。愛だの正義だのしのごの言ってもらるか!!」

ロウ「勝てばいい！人間レベルはそちらが上でも戦闘能力と勝利への執念は我々の方が遥かに上だ!!」

アグ「底辺宇宙とはいえど、勝利への執着心は確か」

ジーン「姑息の名に恥じないな」

ザーロイン「うおおお!!」

ベルガモ「お前ごときに俺の力を使うまでもない。ぬんっ!!」

ペル「ザーロイン！力で負けるのは許されんぞ！」

ザーロイン「そうだ・・愛の力を、愛の強さは誰にも負けん!!!」

ベルガモ「愛の力だあ？そんな腑抜けた力で倒せると思うなあ！があ!!」

ザーロイン「うぐ、おお・・・」

ベルガモはザーロインの右腕に噛みつく。

鋭い牙がザーロインの右腕に食い込んでいく。

ベルガモ「殴る蹴るだけだと思うな。勝つためには手段は選ばねえ」

ベルガモ「潰してやるよ・・・！」

フリーザ「ほっほ。やるじゃないですか。さて・・・ここそ何をしてるのですかね？」

!?

フリーザ「気付かれない様に気をなくしていたのでしょうか・・・その大きな身体では簡単に気付いてしまいますよ？」

プラン「に、逃げ・・・」

フリーザ「残念」

プラン「う、動けない・・・氷が足に!？」

ヒソップ「俺のアイスランスは絶対零度。すぐに身体の先から凍り付く」
オレガノ「この糸からは逃げられんぞ」

ハーミラ「こ、こいつら・・・」

フリーザ「姑息さではどうやらこちらの方が上でしたね」

フリーザ「ビームを影からこそこそ撃って殲滅を計ろうとしたのでしよう・・・けれど、ツメが甘すぎませんかね？」

プラン「うう・・・」

ハーミラ「こんな糸・・・」

オレガノ「俺の糸をちぎろうとしやがる！ヒソップ、急げ！」
ヒソップ「ぬおお!!」

ビカル「危ない!!」

ハーミラ「ビカル!!」

ビカルは両手からエネルギー弾をオレガノに当て糸がほどけた。
ハーミラは逃げれたがプランは身体が凍てついてしまっていた。

オレガノ「ちっ、逃がしてしまった・・・」

ヒソップ「けど、こいつ終わり」

プラン「うわぁー・・・」

プランはヒソップに突き飛ばされあつけなく脱落。これによりハーミラとのコンビ
ネーション攻撃が出来ない様になってしまった！

大神官「第2宇宙プランさん脱落です」

ペル「あ、あつという間に3人落とされたぞ！」

ヘレス「第9宇宙・・・何と醜い」

フリーザ「やれやれ・・・まだまだあなた達も優秀なコマではありませんね」

オレガノ「こ、コマだと!？」

フリーザ「あなた達は私のコマですよ？黙ってこのフリーザの命令通りに動いてほしいのですよ」

フリーザ「それとも・・・私に反抗しますか？結果は目に見えてますけどね！」

オレガノ「くっ・・・このや・・・」

ヒソツプ「やめろオレガノ。俺達勝たなければならぬ」

オレガノ「・・・逃げた奴を捜すぞ」

フリーザ「コマは黙って私に従ってもらえばいいのですよ。ほーっほっほ」

ヘレス（ブリアン、サンカ、スー）

ブリアン（ヘレス様どうしたのですか？）

ヘレス（我等第2宇宙が第9宇宙に狙われておるのじゃ。早急に変身して第9宇宙の醜い者を愛の力で倒すのじゃ）

ブリアン（分かりましたヘレス様）

ブリアン「サンカ、スー」

サンカ「分かってる」

スー「もう少しためておきたかったけどね」

美少女3人組が武舞台の高台にかたまった。
変身をする前の儀式を行う様だ。

ブリアン「全員ちゅーもーく!!!」

ベジータ「な、何だ？」

ゴクウブラック「くたばれ！人間!!」

ベジータ「ちいつ!! 注目などしてられん！」

ブリアン「私は第2宇宙の戦士、ブリアン・デ・シャトー」

サンカ「サンカ・クー」

スー「スー・ロース」

バジル「自ら目立つとは・・・第2宇宙は馬鹿の集まりか？」

ラベンダ「隙だらけだ・・・毒を浴びせてやる」

ザーロイン「は、早く所定の位置に行かねば・・・」

ベルガモ「所定の位置とは場外の事か!?! ふぬうん!!!」

ザーロイン「ぐおおー!!!」

ベルガモ「・・・ちっ！助けられたか」

ベルガモの右ボディブローで吹っ飛んだザーロインだがジミズの瞬間移動により助けられた。

シドラ（手段を選ばぬ。やるのだバジル、ラベンダ）

バジル（もちろんですともシドラ様）

ラベンダ「宇宙存亡の危機に愛などと下らん語りをするな」

ブリアン「咲かせましょう、響かせましょう。愛と勝利の歌を！」

第2宇宙メンバー「愛と勝利の歌を!!」

ゴクウブラック「勝利の歌をだ・・・神である私に勝利だ等と。人間は墮ちるところまで墮ちてしまったか・・・」

ベジータ「テエエヤー!!」

拳をぶつけられ吹っ飛ぶ。エネルギーの刃を出し殺意を見せるゴクウブラック。人間に對する憎しみが増す!

ゴクウブラック「人間が・・・!」

ブリアン「さあ、変身よ」

サンカとスー「ええ!!」

ブリアン「ブリアンブリアン、ブリブリア・・・」

バジル「ひゃっはー!!」

ラベンダ「びゃーははは!!」

ペル「変身前を狙った!!」

ヘレス「どこまでも醜い・・・!!」

サンカ「ブリアン!!」

スー「ち、ちよつと崩れ・・・!」

バジル「何だ!?!」

ラベンダ「うおお!?!」

高台が崩れブリアン達が落ちていく。

下にはグルグルと回転する戦士がいた。

両腕を伸ばし武舞台を縦横無尽に暴れまわっている第3宇宙のナリラーマだ。

エア「ナリラーマさんはスーパーサバイバル仕様の改造戦士です。伸縮自在の腕の先に付いた長い爪「アイアンクロー」、肩に内蔵している大型の吸盤「スーパー吸盤」。攻防優れた改造戦士ですよ」

モスコ「ピポポポ」

カンパーリ「モスコ様曰くビアラとコンビネーション攻撃をしろ」

ビアラ「ふうん!!」

ナリラーマは変形しビアラの背中に合体。

ビアラのパワーとナリラーマの伸縮自在のアイアンクロウのコンビネーションだ。

ラベンダ「毒は効かなそうだ」

バジル「テヤツ!!!」

バジルがビアラに蹴りを入れようとしたがアイアンクロウに掴まってしまう。

更にもう片方のアイアンクロウでサンカを捉えた。

サンカ「な、何なのさ!! 邪魔して許さないんだから・・・うぐぐ・・・」

バジル「こ、こいつ・・・は、離しやがれ・・・!」

エア「二人を武舞台から落としてしまうのです!」

スー「サンカ!!」

ホップ「隙あり!!」

スー「きやあ!!」

ブリアン「スー!!!」

ジームズ「手段を選ばないか・・・」ピシユン

ホップ「仲間の心配するよりか自分の心配をしたら？アハハハハ！」

ドズツ
!!

ホップ「ガツ・・・」

ラベンダ「ホップ!!うぐあつ！」

ピアラ「ぬぐう!!」

瞬間移動で一瞬で3人に攻撃を仕掛けたジミーズ。

サンカを助けホップとラベンダとピアラにダメージを与える。

ジミーズ「3人は我が第2宇宙の希望」

ブリアン「ジミーズ！」

サンカ「カッコいい」

スー「流石」

ペル「ジミーズは第2宇宙のナイト。愛のナイトはそうそう負けんぞ！」

バジル「いつまで掴んでやがる!!」

バジルは足に溜めたシャイニングプラスターで解放される。

ハーミラ「ブリアン様、サンカ様、スー様。もう一つ高台があるのであそこで変身を

！」

ザーロイン「ここは我々にお任せを」

ブリアン「ありがとう皆！」

ポップ「行かせないよ!!」

ラベンダ「叩き落としてやる！」

ジームズ「君達の相手は私だ」

ベルガモ「変身されると面倒だ。その前に落とさねばな」

そうはしません!!

ベルガモ「うおっ!?!」

トツポ「選手は見栄を張ってこそジャステイス!!それを邪魔するとは無礼だ!!!」

ベルガモ（第11宇宙か・・・こいつは強い）

突然のトツポの攻撃にベルガモは体力を消耗したくないとブリアン達から引き下がった。

ブリアン「ご協力感謝するわ」

トツポ「うむ」

カイ「い、いいのでしょうか？わざわざ敵に変身させるなんて・・・」

ベルモツド「敵といっても対の宇宙だ。好きにやらせてやつてもいいじゃ〜ん」

バジル「オラオラ!! 兄者に嘸まれた傷は痛いだろ!？」

ザーロイン「ぐう・・・」

ハーミラ「ザーロイン!! 汚いぞ。傷口ばかり狙いやがつて!」

ピアラ「ぬううん!!」

ピカル「私は掴まらないわよ!」

モスコ「ピポポポポ」

カンパーリ「モスコ様曰く投げ飛ばせ」

ピアラとナリラーマは合体を解除しピアラはナリラーマを掴みビカルに向けて投げ飛ばした。

高速で投げ飛ばされたナリラーマにビカルは驚きかわせない。

エア「これぞエアサバイバル」

ビカル「と、飛んできた!? きゃー!!!」

スー「ビカル!!」

ブリアン「スー!! 気持ちは分かるけど急ぐわよ!!!」

大神官「第2宇宙ビカルさん。脱落です」

ロウ「あの瞬間移動の戦士、強いぞ。ラベンダとホップのコンビが押されてないか!？」

シドラ「大丈夫ですぞ」

ロウ「大丈夫?どこにそんな根拠があるんだ馬鹿者!!」

モヒイト「……」冷めた眼

ラベンダ「こいつ……」

ホップ「やるじゃん。行くわよう(オレガノ!)」

ジームズ「また真正面からか……単調な」

ビシッ
!!

ジームズ「い、糸!？」

ラベンダ「よくやったオレガノ!!」
ホップ「右手を抑えた!これで瞬間移動は出来ない」

ジームズ「・・・くっ」

ラベンダ「じゃあな!!」

ホップ「あっはっはっは!!」

ジームズ「問題ないさ」ピシユン

ラベンダ「な、左手で!」

ホップ「ど、どこに!」

オレガノ「う、うわ!!」

ジームズは瞬間移動でオレガノを蹴り飛ばした。

オレガノは糸を再度出し場外を逃れようとしたがジームズはエネルギー弾を撃ち場外に叩き落とした。

ローゼル「し、しまった！落ちそうになった仲間を助けるのが俺の役目なのに…」

大神官「第9宇宙オレガノさん。脱落です」

ロウ「くそう！」

シドラ「まだ9人残ってる」

フリーザ（やれやれ。まだまだ私のコマには相応しくありませんね）

フロスト「これはこれは私と同じ種族の者が出場するとは思いませんでしたよ」

フリーザ「あなたは第6宇宙の…」

フロスト「はい。私フロストと申します。あなたは見る限り私よりも強そうで…先輩と呼ばせていただいでよろしいでしょうかね？」

フリーザ「ええ。お好きにどうぞ。私はフリーザといいますよ。フロストさんもお強そうですけどね」

フロスト「いえいえ。フリーザ先輩には勝てませんよ。ここで出会ったのも何かの縁。どうです？私と手を組みませんか？」

フリーザ「いいでしょう。それとあなたはまだ変身出来ますね。今の最終形態より更に上に」

フロスト「本当ですか？」

フリーザ「私の知らない領域ですけどね。けど、あなたはあの方に似てるのですよ。誰とは言いませんけどね」

フォーメーション！ブリアンブリアンブリアンブリアン
！！

フォーメーション！サンサンカックサンカック
！！

フォーメーション！スースースロスロスロスロス
！！

ヘレス「おう、美しい」

ペル「美しいぞ！」

第2宇宙の戦士、ブリアン達の切り札である変身能力でリブリアン、カクンサ、ロージイに変身。

厄介な敵が新たに現れた！！

だが、悟空はリブリアン達の変身には全く興味を示さなかった。そして悟空は変身に見とれているトツポを見つけ向かっていく。

トツポ「おお・何と美しいのだ」

悟空「トツポ！全覽試合の続きだ!!」

トツポ「孫悟空！」

見とれていたトツポに攻撃を当てるのは容易だったが武道家である悟空は正々堂々とトツポと戦う。

個人的な戦いはしないとトツポは悟空に突き飛ばす様に言ったが内心は決着をつけたいとも思っていた。

ジレン以外のプライド・トルーパーズが駆け付けデイスポとカーセラルが攻撃の体制に入ろうとしたがトツポは左の掌を大きく開き攻撃をするなど合図した。

カーセラル「トツポ!!」

トツポ「將軍。この男とは決着を付けたいとも思っていた」

デイスポ「おいおい、個人的な戦いをするな！」

トツポ「分かっている」

デイスポ「だったら何故？」

悟空「理由なんていらねえよな？オラとおめえの戦いにはよ」

トツポ「好戦的な奴だ。・・いいだろう。正義の元お前を成敗する!!悪・即・斬なり
!!!」

悟空「いくぞトツポー!!!」

悟空とトツポの激しいラツシユ!!

両者の殴打の応酬に息を飲むプライド・トルーパーズの面々。

ジレンのみ動かず未だに戦況を見つめている・・。

ジレンはどれほどまでに強いのか？そして、トツポと悟空のバトルの行方は!?

力の大会終了まで残り45分

続く

大暴走！荒ぶる狂戦士VSセル

悟空は自身の身体への負担を気にしながら戦う。

それを知ったトツポは怒りの攻撃で悟空を追い詰めていく。

トツポ「本気で来ないのならばこのまま落とすまでだ!!」

悟空「すまねえな。体力の事気にしすぎちまってよ」

デイスポ「バカかあいつは。トツポ相手に手を抜くなんざ自殺行為に等しいぞ」

クンシー「俺達の中ではトツポはNo.2の強さだからな」

ゾイレー「あいつが手を抜いたまま落ちてくれればそれでいいんだけどな!」

超サイヤ人になりトツポに挑むもトツポは軽々と攻撃を受け流し丸太の様な右腕で悟空を殴り飛ばす。

トツポはまだ悟空が全力ではないのを分かっている。

頭部の血管が浮き出て怒り心頭だ。

トツポ「本気を出せ孫悟空!髪を蒼にしろ!!」

ビルス「悟空!!まだ始まったばかりだ!!力は抑えておけよ!!」

ウイス「悟空さんの事ですからねえ。おそろく・・・」

悟空「そうだな。おめえ相手だと全力でやらねえと厳しいよな」

悟空「だけでも抑えておきてえんだよ。だからブルーの力はずっとは使わねえ」

トツポ「・・・そうか。ならば力を出す前に落とすまでだ!!ジャスティス・・・」

悟空「掴まんねえぞ!」ピシユン

バシイ!!

トツポ「ぬお!?!」

カーセラル「瞬間移動か」

デイスポ「トツポめ。油断しすぎだ。あれくらい本来のお前なら読めただろ!!」

瞬間移動でトツポの背後に移動しトツポの背中に蹴りを入れ込む。

だが、トツポは倒れるどころか怯みもせずその場に残る。

悟空は超サイヤ人になりトツポに攻めかかる!

トツポ「ジャステイスフラッシュユ!」

悟空「くっ!」

指から無数に放たれるジャステイスフラッシュユをガードしつつトツポに立ち向かっていく。

悟空はトツポ相手に接近戦は危険なのは承知の上で立ち向かっている。

トツポ「ヌオオ!!!!」

悟空「ハアア!!!!」

両者の拳がぶつかり合い衝撃が発生。
互いに退かない。互いに譲れない。

全王「悟空戦ってるね」
未来全王「戦ってるね」

眼をキラキラさせながら悟空の活躍に胸を躍らせる全王。
大神官も両者のぶつかり合いを興味津々に見つめる。

悟空「クツ、グヌヌ・・!!」

トツポ「フゴオ・・ウグググ・・ジャステイス・・!!」

悟空「受けねえぞ!」

左手から撃とうとしたジャステイスフラッシュを悟空は身体をねじり右足でトツポの左の横顔を蹴り飛ばした!

蹴りをもろに受けたトツポ。だが倒れず悟空の右足を掴み地に叩きつけた!

一回、二回、三回目の叩きつけの瞬間に一瞬だけ超サイヤ人ゴッドになりゴッドに

なった反動を利用し右足をトツポの手から離せれた。

悟空「いちちちち・・・」

トツポ「体力の温存もダメージを受け続けているとは思えないと思うのは私だけか？」

悟空「確かに。困ったなあ」

トツポ「顔が笑っているぞ。いい加減に本気を出せ。・・・フン!!」

トツポは一瞬で悟空の目前に移動し地面を叩きつけ悟空の視界を悪くした。突然の行動に悟空は守りの体制に入るがトツポは悟空の背後に回っていた。

悟空「し、しまったあ!」

トツポ「ジャステイス裸絞!!」

トツポの大技ジャステイス裸絞が悟空を絞め上げる。

太い腕で胴体ごと首を絞める技は超サイヤ人化した悟空でも逃れられない。

悟空「ウワアアアア!!!」

ココット「決まったわトツポの必殺技!」

タツパー「あの技を受けて逃れられる訳がない」

カーセラル「いや、孫悟空は全覽試合でジャステイス裸絞から逃れたらしい」

クンシー「何!?!」

カーセラル「ジャステイス裸絞を受けた時、髪が蒼色に変化しトツポの絞め技を力尽くで抜け出したらしい」

カーセラル「トツポがジレンを呼ぶ必要があるきっかけになった一つだろう」

デイスポ「だが、トツポが負けるとは思えない。ベルモッド様から直接戦いの教えを受けているんだぞ」

カイ「孫悟空はおそらくあの時の様に髪を蒼くしてトツポの絞め技から解こうとしま

すね」

ベルモッド「最強はジレンだがトツポも簡単には負けやしない。第7宇宙はチーム最強の孫悟空が落ちた時、崩壊する」

マルカリータ「そう簡単にいくとは思えないですますわ」

ビルス「悟空！早くブルーになれ!!」

老界王神「どうせ抱かれるなら可愛い女の子に抱かletたいの〜」
シン「ご先祖様!!呑気な事を言ってる場合ではありませんよ!!!」

悟空「ハアアアア!!!」

トツポ「ふぬん!!」

このままではやられると分かり悟空はついにブルーに。

トツポの絞め技から解放されそのまま右手でトツポの顔面にパンチを浴びせトツポをぶっ飛ばした!

ブルーの力と絞め技から解放された事に驚きを隠せないカーセラル他メンバー。

ぶっ飛ばされたトツポに直ぐ様次の攻撃を仕掛ける悟空。

だが、トツポは飛ばされつつも倒れはせず体制を戻し悟空との激しいラツシュに。

トツポ「どうした!蒼になるのはもう終わりか!?

悟空「またみれるさ」

セル「ほう、貴様も超サイヤ人に変身できるとはな」

カリフラ「お前もなつてんじやねえか。第7宇宙にはお前みたいな姿をしたサイヤ人もいるんだな」

セル「私は優秀な武道家達の細胞を取り込まれ造られた。例えばだ・」

セルが両手をかざしそれをカリフラに向けるとカリフラは金縛りにあつたかの様に動けなくなり腹痛が起こる。

カリフラ「な、何だ!?!動けねえ!!腹も痛え!!」

キャベ「カリフラさん!？」

ケール「姐さん!!」

セル「ふん」

今度は目からアイビーム。

餃子の超能力とフリーザのアイビームを混ぜた攻撃だ。

両手をかざしたままの攻撃なのでカリフラは動けないままアイビームを両肩にまともを受けてしまう。

しかも金縛りを受けたままなのでアイビームを受けて吹き飛ばない。

カリフラ「ぐああ!! 何だこいつ!?! 魔法使いか何かか!？」

キャベ「カリフラさんが危ない!!」

カリフラ「キャベ来んじゃねえ!! いててて・・」

セル「サイヤ人は一対一の戦いを好む者が多い。誰かの手を借りるくらいなら戦いで死んだ方がましと。貴様もかな？」

カリフラ「これくらい乗り越えねえと力の大会は生き残れない・・あたしはまだ強く
なれる」

セル「いつまで持つかな？その強気は」

ケール「姐さん!!!」

カリフラ「ケール、待ってな・・これくらいすぐ乗り越えてやるからよ・・」

だが、カリフラはアイビームを受け続ける。

キャベはグツと拳を作り歯を食い縛り戦況を見つめる。助けたいけどもカリフラはそれを拒む。

だが、苦しむカリフラを見て耐えられず立ち向かおうとした時だった。

キャベ「ケ、ケールさん!？」

ケール「助けられない・・姐さんが苦しんでるのに私は、私は・・・」

悲しみの中目覚める・・。

ケールの中にある力が目を覚ます。

それは通常の超サイヤ人とは全く違う別の気・・・。

ケール「ウグアアアアアア!!!」

ベジータ「な、何だこの気は!?!」

ゴクウブラック「・・・人間め」

ケール「殺してやる!」

キャベ「ケールさん殺してはダメです!」

ケール「うるさい!私に命令するな!!」

キャベを右手で軽く弾き飛ばしセルに飛び掛かる。

筋骨隆々な体つきと白眼を向いた姿。

普段のケールとは全くもって別人の姿。

キャベはケールのこの形態に成す術もなくポコポコにされカリフラが超サイヤ人2

にならなければ殺されていた事を思いだし緊張で汗が吹き出る。

全王「ムキムキだね」

未来全王「だね」

ムリチム「何という鍛え抜かれた身体だ・・・」

ケール「ガアア!!」

セル「速い!」

ケールの豪快な右腕のリアアットでセルは地面に叩きつけられ地面が砕けた。血を吐くセルだがケールは容赦しない。

セル「き、貴様・・・」

ケール「今楽にしてやる」

カリフラ「ケールやめろ!つつ!!」

キャベ「カリフラさん！ダメですよ！その身体では・・・」

暴走するケールの右掌から巨大なエネルギー弾が出される。

そのエネルギー弾をセルにそのままぶつけた！

ケール「死ぬがいい!!!」

カリフラ「ケール・・・ばかやろー!!!!」

カリフラはケールを止めるべく今までなるのに苦戦した超サイヤ人2に再度覚醒した！

だが、時既に遅し。セルはエネルギー弾をもろに受け砕け散った。

シドラ「こ、殺した・・・」

ロウ「失格だ失格!!」

モスコ「ピポポポ」

カンパーリ「モスコ様曰くイカれた奴だ！」

シャンパ「あわわ・・ケールの奴!何やってんだあ!」

ケールは止まらない。暴走するエネルギーを抑えきれず緑のオーラを出しながら武舞台の辺り一面をエネルギー弾の雨が降り掛かる。

悟空「うわつとつと!」

トッポ「一端は退いた方が良さそうだな」

ベジータ「くそつたれがあ!!」

ゴクウブラック「ふん・・まあいい。前菜は放っておいてやろう」

ケールの暴走で武舞台が砕け各宇宙の戦士達は回避に専念。

各破壊神、界王神もケールの暴走を目の当たりし驚きと脱落者が出ないか不安の表情。
情。

が、第4宇宙のキテラとコニツクのみ不安な表情もせず楽観視している。

クル「あれくらいならまだ・・・」

キテラ「クル、ビビるなよ。凄いパワーだぜ。なあ、コニツク」ニヤリ
コニツク「そうですね。キテラ様」

ブーオン「あいつを止める」

暴走するケールに向かってジャステイスウィップで動きを封じようとするブーオン。
しかし、簡単にジャステイスウィップを解かれケールに目を付けられた。

ブーオン「ば、馬鹿な！ジャステイスウィップが解か・・・」

ドゴツ!!

ケールの右アッパーがブーオンの顎に直撃しブーオンはそのまま場外へ。

大神官「第11宇宙ブーオンさん。脱落です」

デイスポ「やりやがったな!!」

カーセラル「待てデイスポ!不用意に攻撃はしない方がいい」

ベルモッド(ジレン。あのうるさい女を止めろ)

ジレン(うむ……)

今まで目を閉じ動かずにいたジレンが目を開きケールに向かっていく。

トツポ「ジレン!」

ジレン「俺がやる」

ケール「ガアアア
!!!!」

ジレンが歩きながら近づいて来ているのを見つけたケールは直ぐ様ジレンに飛び出して攻撃しに掛かる。

ケールはジレンの顔面めがけて右パンチを繰り出したがジレンは表情を変えずに左手で軽く抑えた。

そのまま左手でケールを後ろ向けに投げ飛ばしエネルギー弾を放つ。

ケール「ウグ・ガアア!!」

ジレン「終わりだ」

エネルギー弾の大爆発と共にケールは吹っ飛んでいった。
一瞬の出来事に各戦士と各破壊神、界王神は啞然とする。

悟空「あの暴走を簡単に止めやがった・・・」

クリリン「ば、化物だぜ。あんなのどうやって脱落させんだよ」

キヤベ「あの暴走したケールさんをいとも簡単に・・・」

カリフラ「こんなやべー奴がいるのかよ。でもよ、興奮すつぞ!」

キヤウエイ「皆とはぐれちゃったわ……。モンナーどこー!つてこれ……」

イヤーツ
!!!!

キヤウエイ「さっきの暴走戦士で砕け散った戦士の上半身……ひいゝつ!」

ビルス「セルは死んでしまったのか?」

シン「セルなら大丈夫かと」

キヤウエイ「え、嘘?う、動いてる?」

セルは頭が破壊されない限り再生出来る。

だが、それは本当か嘘かは分からない。悟空に過去、上半身を粉々に砕かれた時も再生したからだ。

セルの再生の核はセル本人にしか分からない。

セル「結構痛かったぞ・・・」

キャウエイ「しや、喋った!？」

セル「おかげで瀕死からのパワーアップが出来た。だが、生き残るには更なる強化が必要だな」

キャウエイ「いやー!!!」

セル「ん？何だあの女は。どこかにいったが・・・まあいいだろう」

セルは再生しサイヤ人の特性でパワーアップした。わざとケールの攻撃を受けパワーアップを計ったのだ。

セルはケールにリベンジをしようと思っていたがジレンの攻撃を受け倒れていたのを自身が砕かれた時から既に知っており他の戦士に狙いを定める事にした。

セル「さて、どうするか・・・フフツ」

ビルス「再生能力か？」

シン「はい。ナメック星人の細胞の再生能力がありますから。更にサイヤ人の特性である瀕死からのパワーアップも細胞の中に含まれていますからおそらく・・・」

ウイス「さっきの攻撃もわざと受けたのでしようねえ。自身を強化するために」
ビルス「なかなか面白い奴じゃないか。あの緑色」

シヤンパ「きたねえぞ第7宇宙!! 再生能力する戦士なんて連れてきやがって!!」
ヴアドス「あのニヤけた顔を見る辺り余裕そうですね。シヤンパ様が美味しい物を食べてる時の顔みたいで」

シヤンパ「あの虫みたいな奴と俺を一緒にするなー!!」
ヴアドス「それに再生したからこそケールさんは失格にならずに済んだのですから」
シヤンパ「うっ・・・そ、そうだったな」

吹っ飛んでいったケールはヒットの時飛ばしにより助けられたがカリフラ、ケールはダメージを負っておりそれを他宇宙の戦士が放っておく訳がない。

ヒットはデイスポに眼をつけられデイスポとの戦いに。

タツパー「見つけたぞ」

ゾイレー「ブーオンをよくも落としたな！」

ケツトル「仲間の仇は取る」

ココット「覚悟しなさい」

カーセラル「行くぞ！」

我等プライド・トルーパーズ
!!!!!!

キャベ「ご、5人も相手するなんて・・・」

サイヤ人の誇り キャベよ目覚めろ!!

カリフラ「きたねえ奴等だ・・・」

キャベ「くっ・・・」

カーセラル「そこにいる女は今の内に落とさないと危険と判断した」

キャベの後ろには気を失っているケールとセルとの戦いでダメージを負っているカリフラがいる。

キャベVSプライド・トルーパーズ5人。

かなり不利な戦いだ但しキャベは退かない。

キャベ「二人は僕が守ってみせる!!」

ケツトル「その強気がいつまで持つか」

ケツトルは空中に光点をケールが暴れる前から既に大量に出しておりその光点をキヤベに狙いを定め撃ち落とす。

キヤベはかわすもピンクのバリアーがキヤベがいる武舞台を覆う。

ココット「ココットゾーン。あなたの行動は制限されてるわよ」

カーセラル「仲間が駆け付けられては困るからな。特にあのヒットという男は我々でも勝てそうにない相手だ」

ゾイレ「そのヒットもデイスポに狙われてしまったけどな」

キヤベ「うわっ！」

光点から逃げるキヤベに石化したタッパーのヘッドバッドがキヤベの腹部に直撃し吹っ飛ばすキヤベ。

光点がまだキャベに襲い掛かる。キャベは必死に横に転がり光点をかわす。

カリフラ「ちくしょー!!何だよこのバリアー!!」

カリフラがバリアーを叩く、蹴るが壊れない。

バリアーの前に立つカーセラル。暴れるカリフラに指をさし宣言する。

カーセラル「この男を落としたら次はお前達だが、その前に・・・」

カリフラ「その前に、何だよ？」

カリフラ「何だテメーら!!」

ジラセン「勝つためには仕方ないです。美しくこのジラセンが始末しますよ」

ムリサーム「ぐへへへ」

ナパパ「寄り切って終わりだ!!」

カリフラ「テメーらグルか!？」

カーセラル「グル?それは違う。どの宇宙も危険因子をわざわざ放置する訳がない」
カリフラ「ちっ!どいつもこいつもぶっ飛ばしてやる!!かかってこいよ!!」

ナパパ「威勢だけはいいな!嫌いじゃねえぜお嬢ちゃん!!」

メチオーブ「行くぞ!シュツ!」

カリフラ達に襲い掛かるは第10宇宙のジラセン、ナパパ、ムリサム、メチオーブ。
カリフラはダメージを負っているかっ気を失っているケールを守りながら戦わなければならぬ。

第6宇宙はピンチに陥る。

シャンパ「くっそー!!集団で狙いやがって!」

ヴアドス「カリフラさんとケールさんは簡単に落とされる訳には行きませんからね」
シャンパ「そうだ。あいつらには切り札がある。おいカリフラ!!意地でも勝て!!!」

カリフラ「るせー!!こんな奴等に負けるかよ!!!」

ジラセン「華麗なるジラセンのこの美しき拳の乱舞。受けるがいい!」
ナパパ「ほれほれー!!」

カリフラ「調子にのりやがって!」

ジラセンの連続パンチとナパパの連続張り手をケールを背負いながらジャンプでかわしジラセンの顔面を踏みながら逃げるカリフラ。

カリフラはバリアーから離れ武舞台の端へと近付く。

第10宇宙の戦士達も追い掛けカリフラを落とそうと総攻撃を仕掛ける。

カリフラはケールを優しく地に置き戦う覚悟を決める。

カリフラ「ケール、待ってな。すぐに終わらせっからよ!」

ムリサーム「諦めて落ちる準備でもしたのか!？」
カリフラ「何言ってるんだ? 決まってるんだろ?」

超サイヤ人に変身しムリサームをぶん殴った。

ダメージを負いながらもその速さに目が追いつかなかったジラセン達。
焦るもこれだけの人数がいれば負けないとたかをくくる。

カリフラ「さっき言ったよな? どいつもこいつもこいつもぶつ飛ばすつてよ!!!」
カリフラ「覚悟しとけよ。あたしを本気にさせた事をな!!!」

キャベ「テヤア!!!!」
ゾイレー「へっ!!」

キャベの蹴りをかわし角で攻撃するゾイレー。

キャベもゾイレーの角をギリギリでかわし左手で角を掴み投げ飛ばした。

キャベ「また光点が！」

プライド・トルーパーズの矢継ぎ早に飛んでくる攻撃にキャベはかわすのに精一杯。ココットゾーンにより狭い中でのバトルになりキャベは逃げる事が出来ない。圧倒的に不利なバトルだ。

カーセラル「タッパー！ゾイレー！」

タッパー「はっ！將軍!!」

ゾイレー「見せてやるぜ！」

カーセラルの命令でタッパーとゾイレーはコンビネーション技『ダブルプライドスピーン』をキャベにぶつけようとした。

まともにくらえば耐えられないだろう。

光点も飛びつつそれもかわし逃げるキャベだがココットゾーンにより端まで逃げられずその先には場外・・・。

カーセラル「吹っ飛ばされたその瞬間に場外行きだ！」

ケツトル「逃げ道はない」

ゾイレー「今度こそ終わりだ!!」

キャベ「ま、まだ・・・」

超サイヤ人になりダブルプライドスピンの立ち向かうも簡単に弾き飛ばされる。

更に光点の雨がキャベに直撃し超サイヤ人が切れキャベの膝が地を付いた。

キャベ（師匠、僕は弱いままでした・・・師匠みたいに強ければカリフラさんやケールさんも守れたのに・・・）

カーセラル「とどめだ!!!」

キャベ「ウワアアアア
!!!!!!」

ダブルプライドスピンの直撃しココットはキャベを場外に落とす為バリ
アを一瞬解いた。

カーセラル「まずは1人・何だ!？」

タツパー「ぐおっ!!」

ゾイレー「うぎやあ!!」

ダブルプライドスピンを力尽くで止めタツパーとゾイレーを瞬時に二人を蹴飛ばす一人の戦士。

キャベを助けたのは超サイヤ人2になったベジータだ。

ココットの一瞬解除したバリアーの中に入ったのだ。

ビルス「ベジータめ。余計な事を・・・」

キャベ「し、師匠・・・ぐはっ!？」

ベジータはキャベの腹部に少し強めのボディブローを浴びせる。

弱々しいキャベの眼と顔にベジータは怒る。

ベジータ「何たるザマだ！それでもサイヤ人か!!」

ベジータ「この程度の相手に苦戦しやがって！貴様の仲間の女サイヤ人を見てみる」

キャベがカリフラをその目で見ると苦しみながらも一人勇猛果敢に戦うカリフラの姿があった。

カリフラはケールを守りながら戦っている。自分と比べればあきらかに不利な戦い。それでもカリフラは強気な姿勢で戦いに挑んでいる。

ベジータ「こんなのはピンチにすら値せん。貴様の力はこの程度ではないはずだ」

キャベ「師匠・・!」

カーセラル「別宇宙の人間が助けるとはな。だが、我々には勝てんぞ!!」

ベジータ「俺を師と仰ぐのなら俺を失望させるな!!」

キャベ「は、はい!」

ベジータはカーセラルに立ち向かっていった。

キャベはベジータに情けない姿を見せてしまった事を反省する。

光点が襲うも何とか回避する。

タツパー「無駄だ！」

ゾイレー「もう一度ダブルプライドスピンを浴びせてやる!!」

キャベ（もつと強くなりたい。僕も師匠みたいに強くなりたい!!!）

キャベ「ハアアアア
!!!!!!」

カーセラル「弟子だったのか。別宇宙とはいえど助けるとは思わなかったぞ」

ベジータ「勘違いするな。俺はあいつを助けた訳ではない。貴様等がうるさいから始末しに来ただけだ！」

タツパー「な、何だ!？」

キャベの回りにはバチバチとスパークが流れる。

顔つきも変わり普段の優しい顔ではなくなり鋭い眼光に変わりタツパーとゾイレールのダブルプライドスピンをエネルギー弾を回転しているゾイレールに直撃させる。

ゾイレール「ぎゃあっ!!」

タツパー「ゾイレール!!」

ダブルプライドスピスが止まりキャベはゾイレールの右角を蹴りでへし折り石化しているタツパーの右腕を掴みゾイレールごと投げ飛ばした。

ゾイレールは大きくダメージを受けこのままではまずいと一端回転し退却。

タツパーも石化を解きケツトルとココットを呼び四人で攻撃体制に入る。

カーセラル「一人相手にユナイテッド・ジャステイス・ストリームを撃つのか!?! 予定変更だ」

ベジータ「どこを見てやがる!!」

カーセラル「ジャステイス・ボンバー!」

ベジータ「そんな技が当たるか。・・逃げたか？」

キャベ「僕は負けない・・！」

ケツトル「ゾイレール大丈夫か!？」

ゾイレール「奴に大分やられた。早く落とすぞ！」

タツパー「今度こそブーオンの仇は取る」

ココット「ココットゾーンMAX」

ゾイレール「何だ!?ココットゾーンにわざわざ入りやがった!」

キャベ「師匠!」

ベジータ「一人を確実に潰すってか。あいつらのやりそうな事だ」

ココットゾーンMAXの中に素早く移動したベジータも入る。

カーセラル「私も加勢するぞ」

ケツトル「將軍」

カーセラル「5人分のユナイテッド・ジャスティス・ストリームは流石に耐えられん
だろう」

カーセラル「行くぞ!!」

ユナイテッド・ジャスティス・ストリーム
!!!!!!

異空間ごとベジータ達を吹き飛ばそうとする!

キャベは師匠であるベジータと似た体制からギャリック砲の様な光線状の技を放つた。

ベジータもあえて超サイヤ人2の状態でギャリック砲を放つ。

師弟ギャリック砲だ!!

ベジータ「ふざけた異空間だ。これで俺達を閉じ込めたと思ひ込んでやがる」

ベジータ「サイヤ人は誇り高き戦士だ。この程度の異空間で俺達を封じ込めたと思うなあ!!!」

キャベ「いっけー!!!」

2つの光線はココットゾーンを突き破りユナイテッド・ジャスティス・ストリームを押し込んでいった!

ゾイレー「ば、馬鹿な!？」

ケツトル「うおおお!!」

タツパー「しょーぐーん!!!」

ココット「ココットゾーン!!」

カーセラル「ココット!？」

ココット「將軍は早くお逃げを!!あなたはまだ落ちてはならないわ!」
カーセラル「くっ・・・」

ココットの背後にいたカーセラルはバリアーで2つの光線から守られるがいつ突き破られてもおかしくない。

カーセラルは拳をグツと握り自分の無力と采配ミスを悔やみ光線に当たらない様
しやがんで移動した。

カーセラル「すまないココット!!」

ココット「將軍、第11宇宙を勝利へと・・・」

ココットは異空間ごと吹き飛ばされ脱落。

第11宇宙は一気に4人脱落してしまった。

大神官「第11宇宙ゾイレーさん、タツパーさん、ケツトルさん、ココットさん。脱
落です」

カイ「5人も脱落者が・・・」

ベルモッド「幸いなのはカーセラルが残った事だ。ご苦労だったなお前達」

キャベ「師匠！」

ベジータ「早く助けたらどうだ？あそこの女共をな」

キャベ「そ、そうでした！師匠、ありがとうございます！師匠のおかげでまた強くなれました」

ベジータ「忘れるなよ。その感じをな」

キャベ「はい！カリフラさん今助けます!!」

ベジータ「もっと強くなってみる。キャベ」

ベジータとキャベの活躍により第1宇宙は多大なダメージを受けたに思われた。だが、第1宇宙の破壊神ベルモッドは余裕の表情を浮かべる。

トッポ「將軍」

カーセラル「すまんトツポ。俺の采配ミスで多くを脱落させてしまった」
トツポ「全てを背負い込むな。將軍の悪い癖だ」

カーセラル「あ、ああ・・・」

トツポ「將軍は後半まで身体を休ませておくんだ。私達がそれまで戦う」
カーセラル「すまないトツポ。頼んだぞ」

力の大会終了まで残り42分

続く

特殊な技とパワー!第4宇宙の女戦士VS天津飯と亀仙人

カリフラ「ちっ!第10宇宙の奴ら。キャベがやってきたと思つたら散らばつて逃げやがつて!!」

キャベ「カリフラさん大丈夫ですか!」

カリフラ「どうつて事ねえよ。ていうかお前もバチバチになれんのか!」

キャベ「気が付けばなれまして……。でも、今やれと言われても無理ですよ。あの時は師匠の叱咤激励もありましたから」

カリフラ「師匠だあ!?!あの変な髪型した奴がお前の師匠なのか!」

キャベ「し、失礼ですよカリフラさん!師匠は僕に超サイヤ人を与えるきつかけを作つてくれた人なのですから」

カリフラ「まじか!?!じゃあ、戦わずにいらねーな!!今は身体がいてーけど治つたら

すぐにでも戦ってやるぜ!!」

キャベ「カ、カリフラさん……」

第7宇宙はケールの暴走により悟飯達は五人で円を作って脱落を防ぐ策はメンバーがバラバラになってしまい出来なくなる。

天津飯と亀仙人、クリリンと悟飯は二人で行動が取れていたがピッコロははぐれてしまい第10宇宙のルバルトと交戦。

クリリン「お前と組むとフリーザとのドラゴンボール争奪戦の事を思い出すぜ」

悟飯「懐かしいですね。あの頃の僕は無茶をしました……。クリリンさんにも迷惑を掛けました」

クリリン「何言ってるんだよ。お前かいなきやデンデや村の皆はフリーザに殺されてい
たからな。デンデはどちらにせよ殺されたけど……」

クリリン「まあ俺も殺されたけどな……はあ、死の次は消滅かもしれないんだぜ。俺は負けたくないぞ!」

悟飯「……!!」

クリリン「どうしたんだ悟飯？」

悟飯「ハア!!!」

悟飯はクリリンの頭上にエネルギー弾を放つ。

荒れた武舞台のカチカッチン鋼の岩陰に誰かが隠れていると見抜いていた。

悟飯の眼は鋭くなっている。クリリンも最初は驚いたが悟飯の顔で察し身構える。

お気付きでしたか？

クリリン「フリーザ!!にしては、色が違うような？」

悟飯「第6宇宙の戦士・・・」

フロスト「フロストと言います。フリーザ先輩は一度あなたを殺したのですか。フツフツ、流石はフリーザ先輩ですね・・・」

クリリン「な、何だよフリーザ先輩って・・・」

フロスト「やってしまいなさい!!ボタマゲッタさん!!」

クリリン「悟飯!!!」

悟飯はボタモとマゲッタのコンビ『ボタマゲッタ』とのバトルに。フロストはニヤリとしながらクリリンに攻め寄る。

フロスト「あなた程度なら私でも勝てそうですよ」

クリリン「バ、バカにしがって・・・」

クリリン（だけでも見て分かる・・・俺では厳しい相手だ。けど、何とかして一矢報いてやる!）

天津飯「武天老師様」

亀仙人「ふむ・・・相手は同じく二人」

キャウエイ「ハゲ二人になんか」

モンナ「負けないわよ!!」

第4宇宙のキャウエイとモンナと対峙する天津飯と亀仙人。

天津飯はキャウエイを見て不安に感じている。

天津飯自身は問題ないが亀仙人はキレイな女性に弱いからだ。

もちろん修行で煩惱を封印したと本人は話すが・・・。

天津飯（武天老師様には出来る限り女性とは戦わせたくない）

キャウエイ「モンナはあの3つ目ハゲを」

モンナ「分かってるさキャウエイ」

天津飯（くっ・・・武天老師様の弱点を知ってるのか!?!）

キャウエイ「覚悟しなさい!!」

亀仙人「気を武器に変えるとは面白いの」

天津飯「ハアツ!!!」

ガキン!!

天津飯「何だこの硬さは!？」

モンナ「潰すわよ!!」

キテラ「キキキキ。モンナの下半身はカツチン鋼に匹敵するほどの耐久力だ！生半可な攻撃が通用するか!!」

クル「第4宇宙屈指のパワーファイターですからね」

モンナ「ほらほらー。逃げてばかりい？」

モンナは下半身を肥大化させ天津飯を潰そうとジャンプする。

横に大きな体格のモンナであるが運動量はかなりの物だ。

天津飯「逃げてばかりではない。こちらも対策を練っていた所だ：ハアアアア：：：」

モンナ「う、腕が背中から生えてきた!?!」

天津飯は四妖拳で飛びかかって天津飯ごと潰そうとしてきたモンナを持ち上げる。潰されそうになるも持ちこたえた天津飯。

モンナをそのまま場外に投げ飛ばそうとしたがモンナは息を吐いて身体を萎ませ元の体格に戻り天津飯を蹴飛ばした。

モンナ「驚いたわ。そんな技を持っていたなんてね」

天津飯「どどん波!!」

モンナ「!!」

四妖拳で放たれる4連どどん波。

モンナの両肩、両足に当て爆発。

さっきのモンナの蹴りが顎に直撃し頭がフラフラとするも天津飯は気合いで放つ。

天津飯「立つか・・・」

モンナ「やってくれるじゃないの！ぶっ潰してやるわよ!!」

キヤウエイ「あらあら、モンナが怒っちゃったわ。あの男は終わりね」

亀仙人「可愛い女の子でも容赦はせぬぞ」

キヤウエイ「キヤア!!」

亀仙人はキヤウエイの気で作った武器を掴み投げ飛ばす。

そして、キヤウエイに攻撃しようとした時だ。

キヤウエイ「や、やめて・・・お爺様・・・」

亀仙人「ぬ、うむむ・・・」

キヤウエイ「うっふふくん。こっちよ・・・いらっしやい・・・」

亀仙人「しゅぽー!」

マゲッタ「しゅぽ!?!」

ボタモ「どうしたマゲッタ!?!」

キヤウエイが色仕掛けをしてきたのだ!

胸を強調させ、艶かしいポーズを決める。

天津飯「ふん。武天老師様は色仕掛け対策をしている。その様な攻撃が通用するか
！」

亀仙人「デヘツ!もつとじやく。もつとく」

キャウエイ「仕方ないわ・・・もう、慌てないの」

天津飯「む、武天老師様ー!!!」

モンナ「効いてんじゃないか!!」

ズドツ!!

天津飯「ごはっ・・・」

モンナのロケットの様に突っ込んできた頭突きが天津飯の腹部に直撃しぶっ飛ぶ。

天津飯「む、武天老師様・・・な、何故です」

キャウエイ「このエロジジイ!!!」

亀仙人「ぬおっ!？」

キャウエイ「えっ!？」

キャウエイの気で作られたランスの先端をギリギリキャッチ。

危うく刺されそうになった亀仙人は一呼吸おきながらキャウエイに迫りかかる!

キャウエイ(このジジイ。何てパワーなの・・・)

亀仙人「わしは煩惱を封印するのにどれほどの苦行を耐えたかわかるまい・・・今のわしにはその様な物など・・・」

キャウエイ「ひ、ひいつ!!」

筋肉を隆起させ肉体は二倍近く膨れ上がらせキャウエイに更に迫り寄る。

亀仙人「浪費されていた莫大な気は、今この肉体に限界を超えて満ち、マグマのごとくたぎっておるのじゃあ!!!」

亀仙人「そんなわしに色仕掛けで迫ろうとは、お主どうなつても知らんぞ・・・!」

キャウエイ「い、いやあく！お嫁に行けなくなる〜!!」

キャウエイは逃げていった。

亀仙人は身体を元に戻し安堵した時だ！

キャウエイ（なーんて馬鹿なジジイ!!）

天津飯「武天老師様!!・・・太陽拳！」

モンナ「うわああ!!め、目があ!!」

天津飯「くっ、間に合わん・・・」

キャウエイは亀仙人の背後にあるカチカツチン鋼の岩陰に隠してあつた別の気で作つたランスを操り亀仙人の背中目掛けて放つた！

だが、亀仙人は既に気付いており気で作つたランスを掴む。

亀仙人「恐ろしい女の子じゃよ。最初からわしを殺す気で襲つて来たのか・・・」

キャウエイ「う、嘘!? 取られるなんて」

亀仙人「お嬢さん、悪い事は言わん。自分から脱落しておくれ。わしからは手を出し
たくはないからの」

キャウエイ「う、うるさいジジイ!! 息の根を止めてや・・」

天津飯「ハアツ!!」

キャウエイ「キヤーツ!!」

キャウエイの足下に放たれたどどん波の衝撃でキャウエイは場外に。

大神官「第4宇宙キャウエイさん脱落です」

モンナ「キャウエイ!」

天津飯「次は・・」

武天老師「お主じゃ」

モンナ「調子に乗るんじゃないよ!!キャウエイを落としやがって!ぺしゃんこにしてや・・」

どきなさーい!!

モンナの背後に転がるリブリアンがモンナを轢き天津飯と亀仙人は回避。
轢かれたモンナは場外に落ちかけたが復帰しリブリアンに怒りの矛先を変える。

リブリアン「あら耐えたの?頑丈ね」

モンナ「何するのよ!不細工!!!」

リブリアン「ぶ、不細工ですって!?!この肥満女!!」

モンナ「そっちもじゃないか!!」

リブリアン「この美しさを理解できないなんて・・嫉妬かしら?オホホホホ」
モンナ「はあっ?ぶっ潰してやるからな!」

リブリアンとモンナが転がり合いながらバトルを展開。
モンナは天津飯と亀仙人を後にしリブリアンとのバトルに。

天津飯「どうやら攻撃の対象を変えたようです。このまま戦わせましょう」

亀仙人「そうじゃな。共に相打ちしてくれば良いが・・」

天津飯「それにしても女の戦いとは恐ろしいものです。先程のキャウエイという女戦士。武天老師様を本気で殺そうと・・」

亀仙人「第4宇宙は手段を選ばん戦いをする様じやの。ある意味一番厄介な宇宙かもしれないわい」

天津飯「確かに・・第4宇宙はまだ二人の戦士が姿を見せていません。嫌な予感がします」

亀仙人「ふむ・・足がチクつとしたが気のせいかの」

二人はモンナとリブリアンが離れていくのを確認し一端回復を計ろうとしたが突如辺りが暗くなる。

そして二人の周囲に炎の渦が突然現れた！

天津飯「な、何が!?いきなり炎に囲まれ・・・」

亀仙人「・・・ほう」

天津飯「武天老師様!!何故炎に近付・・・」

亀仙人「お主には分からぬか?これは幻惑術じや。ほれ、触ってみそ」

天津飯「熱くない・・・誰がこの様な能力を?」

亀仙人「むっ・・・!」

アツハツハツハ!

天津飯「これも幻惑術なのですか!?!あまりにも大きすぎる!!」

高らかに二人を嘲笑する第4宇宙の札術使いダーコリ。

幻惑術とはいえど大猿以上の巨大サイズのダーコリに圧倒される天津飯。

亀仙人も幻惑術と分かりつつもその顔に余裕はなく真剣そのもの。

「亀仙人「この様な技で攻めてくる相手を倒すのがわしの役目」

ダーコリ「わが札術は76の攻撃術と129の幻惑術でなされた秘伝。お前達に見切れるかな？」

天津飯「こ、これは・・・くう！」

天津飯の左腕の感覚がなくなる。

ダーコリの幻惑術の1つが天津飯のトラウマを抉る。

亀仙人「幻とはいえ相手の脳裏に強く焼き付けまるで実現させたかの様に身体を封じ込める・・・こやつ、とてつもない使い手じゃ」

ダーコリ「どうした？私を倒す術は見つけたか？幻にどう勝つという？」

ダーコリ「お前達は幻の中なす術なく私に倒される。これで終わりだ」

青い札の形をしたエネルギー弾が大量に飛び交う。これは幻惑術ではなく攻撃術だ

！

更にダーコリは幻惑の巨体をいかし巨大な手で天津飯達を潰しにかかる。幻とはいえどこれはダーコリ本体。きちんと攻撃が当たる。

亀仙人「天津飯よ。ほんの少し時間を稼いでくれんかの？わしはこれで奴を落とすぞい」

天津飯「こ、この小瓶はまさか!?!しかし、この技を使用すれば武天老師様が・・」
亀仙人「心配するでない。戦闘力に大きな差があれば死にはせんよ」

キテラ「キーキツキツキ!!ダーコリの多彩な幻惑術と攻撃術をかわす事など出来るか!」

ビルス「くっ・・キテラの奴。調子に乗りやがって」

天津飯「時間を稼ぐならこれしかない」

天津飯は四身の拳で分身し散らばりダーコリを攪乱させる。

ダーコリはちよこまかする分身に苛立ち亀仙人を完全に無視していた。

亀仙人「うちの連中は力と力の勝負にはめっぽう強い。じやが、技も心も真っすぐ過ぎてのう、搦め手を使う敵には足元をすくわれかねん」

亀仙人「これで決めるぞい・・・」

魔封波じゃー!!!

ダーコリ「な、何!? いやあああああ!!!」

天津飯「本当に大丈夫なのですか? 武天老師様・・・」

クル「あんな能力が!? キテラ様!!」

キテラ「全く・・・ジジイ相手に何してるんだあの馬鹿は! 仕方ない」

ピルス「じいさんいいぞー!!」

ダーコリは小瓶に封じ込まれる。

幻惑術が解け元の武舞台の世界に戻り安堵する天津飯。

亀仙人「力だけではないからの。こういう大会ならわしだって活躍できる」

小瓶を場外に投げ飛ばしダーコリは脱落・

パキン!!

亀仙人「!？」

天津飯「小瓶が割れた!？」

ダーコリ「危なかったよ・・危うく脱落しそうになった」

亀仙人「そんな馬鹿な!? 魔封波に封じ込まれた者は出られんはずじゃ!!」

ダーコリ「こ、これも幻惑の一つよ! さて、お前達にはタネが知られているし今は何もしないで退いてやるよ」

ダーコリ「けれど次は必ず落とす! 覚悟する事だ」

ダーコリ（助かった・・・）

ダーコリは天津飯と亀仙人を後にし幻惑術で姿を消した。

魔封波が効かなかった事に信じられず茫然とする二人。

天津飯「魔封波が効かないだと・・・有り得ない!」

亀仙人「本当に効かなかったのかの。どうも怪しい態度を取っていたが・・・」

ウイス「効いている様には見えましたがね」

ビルス「じいさんの技は確かに効果があつたはずだ・・・何が起こつたんだ!？」

キテラ（甘いなビルス。搦め手で俺達に勝てると思っているのか？）

い・・・。
謎が多い第4宇宙。この先、悟空達第7宇宙にとって脅威の存在になるのかもしれない。

漢と漢の肉弾戦!! 愛する者の為に戦うポリスマン!

クリリンとフロストのバトルはフロストがクリリンを一方的に遊びながら戦っている。

フロストはクリリンを簡単に脱落させるつもりはなく徹底的に痛め付けようとまずは尻尾でクリリンの首を捉える。

フロスト「どうしたのですか? もっと楽しませてくださいよ」
クリリン「くそっ!! アガツ・・グツ・・」

尻尾でクリリンの首を絞め付けもがき苦しむ姿が面白いと更にフロストは強く絞め付ける。

悟飯はクリリンを助けようとフロスト目掛けてエネルギー弾を放つもボタマゲッタコンビがそれを遮る。

悟飯「やめろー!!」

ボタモ「やめねえよ!」

マゲツタ「しゅぽー」

フロスト「悲しいですねー。あなたのお仲間さんはとても強いのにあなたはとても弱い。弱い癖に力の大会に出るから・・・こうなるのですよ!!」

悟飯「クリリンさーん!!!」

尻尾を高く上げクリリンを地面に叩きつけようとした時。

フロストの背中に二つのエネルギー弾が直撃!

クリリンは尻尾から解放されフロストは顔を歪ませ後ろを振り向くと二人の戦士が。

クリリン「18号さん!17号!助かったぜ・・・」

18号「クリリン大丈夫かい?」

17号「どうやら悟飯を仲間に任せお前は戦わない辺り大したこと無さそうだな」
フロスト「これは厄介な相手ですね・二人を相手するのはやめておきましょう」

18号「待ちな卑怯者！真っ先に叩き落とす！」

17号「やれやれ、大切な人を傷つけられ怒ってるか。あのままだと殺すかもしれないから俺も行くか」

クリリン「二人共ありがとうな！」

クリリンは18号達に親指を上に向け感謝の気持ちを現すと17号は少し笑いながら親指を上に向き返した。

18号はフロストを倒すことに集中し追い掛けていた為、クリリンの感謝の気持ちに気づかなかったが大事な人を傷つけたフロストを許しはしない。

悟飯はボタマゲッタのコンビネーション攻撃に苦戦。

お互いの高い耐久力に悟飯の攻撃が全く通用しない。

悟飯（合体してお互いの防御能力を生かしているけど、闇雲に合体して場外に落ちよ

うものなら二人脱落となる。この合体はただお互いの防御能力を生かしてるだけじゃない)

悟飯(あの機械の戦士に乗ってる黄色の熊の戦士は機械戦士の耳部分を塞いでいる。戦闘において音を聴くのはとても重要なのに塞ぐという事は機械戦士は単純に耳に弱いのか聴きたくない音または言葉があるのじゃ!?)

クリリンはその頃、フロストに何も出来ずに悔しい思いもあつたが今は身体を安静にするのが大事と判断し身体を休ませるが・・・。

クリリン「そうはさせてくれないか・・・」

空から赤いエネルギー波が飛んでくる。

第10宇宙の緑色のオウムの様な姿をした戦士ジウムが空から攻撃を仕掛けてくる。

ジウム「この好機を逃す奴などいないぜ!」

クリリン「・・・力の大会は宇宙の消滅が掛かっている。誰もが生き残るのに必死だもんな」

クリリン「まだまだ戦えるぞ俺は！」

クリリンはジウムの赤いエネルギー波の連続攻撃をかわし右手に気を集め楕円形のエネルギーの塊を作る。

クリリン「気円斬!!ハァー!!!」

ジウム「な、何い!?!」

ジウムの右翼下が斬られバランスが崩れる。

このまま落ちていくかに思われたがジウムは両翼を閉じ身体を回転させクリリンに突っ込んできた!

ジウム「やりやがったなあ!!」

クリリン「かゝめ」

ジウム「この俺のスピンの攻撃を受けてただですむと思ふなよ!」
クリリン「はくめ」

ジウム「くたばれー!!!」

クリリン「波ー!!!」

ジウム「な、何!?!ぐああああ!!!」

ジウムのスピン攻撃も虚しくクリリンのかめはめ波で吹っ飛ぶ。
だが、ジウムはギリギリ場外には落ちず立ち上がった。
羽はボロボロでもう飛べなさそうだ。

ジウム「ただでは落ちん!この俺の巨大エネルギー球をくらえ・・!」
クリリン「まだ来るか!?!」

ジウム「カーアー!!!」

クリリン「くそお！もう一発かめはめ波で・・」

カトペスラ・スピード・ミツシヨン!!!

ジウム「馬鹿な!?俺の巨大エネルギー球が!!ぎやあああ!!!」

大神官「第10宇宙ジウムさん。脱落です」

クリリン「何だ!?!」

クリリンの頭上に突如放たれた赤いエネルギー波。それはジウムのエネルギー波とは比べ物にならないくらいに強大なエネルギー波だ!

巨大なエネルギー球を貫くエネルギー波を放ったのは第3宇宙のポリスマン、カトペスラだった。

クリリン「S・スピードの意味か?」

カトペスラ「いかにも。このスピードモードになった俺は通常の300倍の速さで動ける!!行くぞ!」

クリリン「き、消えた!?!」

エア「フフフフ・Dr.パパロニが開発した特殊スーツを着たカトペスラさんは我が第3宇宙最強のポリスマンと呼ばれていますからね」

モスコ「ピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰くあのボール頭を落とせ!」

ビルス「ボール頭とは酷い言われ様だなツルリン」
シン「ツ、ツルリンも結構酷いかと・・・」

クリリン「ぐわっ!!ぐふっ・・・!」

カトペスラ「工作上弱き者を守り罪無き者を傷付けるなどあつてはならんがこの力の大会は生き残りをかけた戦いだ!」

カトペスラ「第3宇宙の民はもちろん愛する家族を守る為に・・・俺は勝つ!」

スピードモードのカトペスラの連続攻撃を受け地につく間もなく攻撃を受けるクリリン。

クリリン（何だよこの速さ・・・俺なんかが付いてける訳ねえよ・・・）

クリリン（それに工作上弱き者を守り罪無き者を傷付けるなどあつてはならんがつて・・・こいつまさか!?!）

悟空「クリリン!!」

クリリン「ご、悟空・・・」

悟空「今助けにいくぞ！」

悟空がクリリンのピンチに駆け付けに来た。

カトペスラを蹴飛ばしクリリンを心配する悟空。

18号と17号に助けられ今度は悟空に助けられる。

クリリンは自身の不甲斐なさに1つの覚悟を決めた。

カトペスラ「仲間が来たか? いいだろう!俺は2対1でも構わないぞ。多人数相手は
仕事上慣れているからな」

悟空「よし。クリリン、おめえは休んでろ。こいつはオラが・・・」

待ってくれ悟空!!!

悟空「!?」

クリリン「こいつは、俺が倒す!」

悟空「お、おいクリリン。やめとけて!」

クリリン「お前の発言で分かった。お前はポリスマンだな!俺は第7宇宙のポリスマン、クリリンだ!!」

カトペスラ「何だと!」

クリリン「俺だってな・・愛する家族がいる。お前の様に宇宙を守る強さはないけどな」

クリリン「それに俺は守られてばかりだ。さつきから助けられてばかりで情けねえ・・。この第7宇宙の代表じゃ一番弱いと思う。それでも俺はお前に勝つてみせる。1対1で勝負だ。第3宇宙のポリスマン!」

カトペスラ「いいだろう。貴様もポリスマンだったとは・・。宇宙には様々なポリスマンがいるんだな」

カトペスラ「だが、貴様とはこの力の大会で合間見えなくなかった。共に平和を守る

者同士が平和を守る為に互いに戦うとは皮肉だ」

クリリン「悟空、悪いな。でも、俺だつて強くなつてゐるからな。あの時の武天老師様の極楽草を取りに行つた修行を何の為にしてきたんだ。ここで見せてやる!」

悟空「そうか!分かつた!おめえの力信じてゐるからな!」

悟空はクリリンの戦いを見守る事に。

クリリンとカトペスラの1対1のバトル。

シンとエア、ビルスとモスコもこのバトルに注目している。

エア「あの様な小さな人間がカトペスラさんに勝つなど不可能です。孫悟空に助けてもらえば良かったのに」

シン「クリリンさんもこの力の大会の為に厳しい修行を積んできました。そう簡単に負けはしませんよ」

モスコ「ピポピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰く場外という名のゴールネットに叩き込めカトペスラ！」

ビルス「あのロボ野郎・本当にツルリンの事をボールと思い込んでるのじゃないか？」

老界王神「このバトル、ただの対決ではなさそうじゃの」

ウイス「互いに同じ職種でかつ愛する家族を持つもの同士。退けない物があるのでしようねえ」

ビルス「だが、いざとなったら助けるよ悟空の奴」ボソツ

カトペスラ「モードチェンジ！」

クリリン「あいつのスーツの色が変わっていく・・！」

ベルトにBの文字が出るとスーツの色が黄色に変わる。

カトペスラ「怒濤のバトルモード!!」

カトペスラ「このバトルモードは通常の300倍の力で戦えるのだ！俺のこのバトル

モードのパワーを受けてみる!!」

クリリン「あんな攻撃まともに受けてられないぜ・・いつもの俺ならな!」

カトペスラの拳の一撃をかわしクリリンはカウンターでカトペスラの腹部に右足で蹴りを浴びせる。

更に左足でカトペスラの左頬を蹴飛ばす。

だが、カトペスラは倒れず右手でクリリンの服の襟を掴み左手で殴り飛ばした!

クリリン「集中するんだ・・・」

ハア・・!!

カトペスラ「カトペスラ・バトル・リミット!!!」

カトペスラが技名を言い放つとぶっ飛んだクリリンに拳と蹴りの乱舞攻撃を仕掛け

てきた!

防ぐクリリンだが一発一発が重くとても耐えきれぬ物ではない。
本来のクリリンなら防げやしない。

が・・!

悟空「クリリン!!!」

悟空は駆けつけようとしたがクリリンの身体には白いオーラ、両手には白い気を纏っている・・。

修行で得た無我の境地に目覚めたのだ!!

顎を蹴ろうとしたカトペスラの右足を掴み睨み付ける。

悟空「へへっ。心配して悪かったなあ。あれならでえじようぶだ」

カトペスラ「何だ!?!奴の気が急速に上がったぞ!?!」

クリリン「はあー!!!」

カトペスラ「うおっ!？」

カトペスラの右足からジャイアントスイングの要領で投げ飛ばし気円斬をカトペスラに放つ!

カトペスラ「信じられん!この俺のパワーが抑えられるなど・・!」

クリリン「どうだ!!」

カトペスラ「いい気になるな!!モードチェンジ!」

ベルトにDの文字が出るとスーツの色が緑に。

カトペスラ「通常の300倍の耐久力を得るディフェンスモードならこれくらい・・クリリン「お前は1つ勘違いしている!」

カトペスラ「勘違いだ?!」

クリリン「さっきお前は俺のパワーと言ったよな?だが、気付いたんだ。お前自身のパワーは大したことないって」

クリリン「お前はそのスーツに強化されているだけだ!!つまりそのスーツを使えない様にすればいい!」

カトペスラ自身はディフェンスモードで気円斬を防いだがクリリンは元々ベルト目掛けて気円斬を放っていたのだ。

腰に装着していたベルトに直撃しベルトが故障しカトペスラはスーツの能力が使えない様に。

エア「しまった!スーツを使えないカトペスラさんは第3宇宙で一番最弱の戦士です!」

カトペスラ「ベルトを始めてから狙っていたのか!」

クリリン「ああ。生身では俺の方が強いはずだからな」

カトペスラ「・・・それはやってみないと」

バザツ!!!!

カトペスラ「分からないだろ!!!」

カトペスラはスーツを脱ぎ生身で戦う覚悟を決める。

凛々しく強い気迫だがクリリンも負けじとカトペスラを睨み少しにやりとする。

クリリン「へへ。お前も覚悟を決めた様だな」

カトペスラ「貴様に触発された訳ではない。スーツが使えないのならば邪魔なだけだから」

カトペスラ「だが、今回だけだぞ。この俺がスーツを使わずに戦うのはな」

クリリン「負けたら宇宙消滅の大会だしな。誰もが必死になるのは仕方ないよ。ただ、俺とお前のバトルは漢と漢のバトルだ!!」

カトペスラ「言葉の積み重ねなどもういらん。続きは拳で語るまでだ!!うおおお!!!」

クリリン「行くぞポリスマン!!!」

カトペスラ「決着をつけるぞポリスマン!!!」

悟空「何かあいつらすんげー仲良くなってねえか？」

クリリンとカトペスラの漢と漢のバトルが始まる!!

悟空は二人のバトルをワクワクしながら観戦する。

愛する者の為、そして互いに譲れない物。

両者の交わる思いが拳で語られようとしていた！

??? 「カトペスラの奴何してるんだよ。まあいい。孫悟空が油断している内に脱落させてやる。マジカヨって言わせてな・・・」

力の大会終了まで残り40分

続く

シークレット・ミッション!クリリン脱落!?

クリリン「うおおお!!」

カトペスラ「負けるかあ!!!」

両者の激しいラツシュ。

だが、威力も手数もクリリンの方が上だ。

スーツの力が使えないカトペスラはクリリンのラツシュに押されカチカツチン鋼の岩柱に追い込まれてしまう。

クリリン「これが俺が修行で得た力だ!スーツに頼らなければ何も守れないお前とは違うんだぞ!!」

カトペスラ「ぐおっ!!」

クリリンのパンチがカトペスラの腹部に直撃し悶絶する。

その後もクリリンが無我の境地の力でカトペスラを追い詰めていく。

悟空「やるなくクリリン!!おめえほんと強くなつたな」

カトペスラ「くらえ!!」

クリリン「はああ!!」

両者のエネルギー弾が相殺し煙が上がる。

カトペスラはその隙に岩柱を蹴り右側からクリリンに蹴りを浴びせようとしたがクリリンは見切つてカトペスラの顎にパンチを浴びせた。

カトペスラはそのパンチで吹っ飛び地に膝がつく。

カトペスラ「・・・それも見切つたというのか?」

クリリン「ああ。お前が動く時の風の音と気で丸分かりだったぜ」

カトペスラ「くっ・・・俺は最後まで諦めないぞ。家族を、第3宇宙を守る為なら死んでも構わん!!」

クリリン「死んだら俺が失格になるからやめてくれよ」
カトペスラ「これはどうだ!!」

今度は左側の岩柱を蹴りクリリンに飛び掛かるもクリリンは身体を少し横に傾けて軽くかわしカトペスラの後首にチョップを浴びせる。

それでも耐えたカトペスラは反撃に足掛けをするも無駄なく小さく飛んでかわされクリリンのキックが右頬にヒット!

何をやってもクリリンには通用しない。

ビルス「勝負あつたな」

シン「クリリンさんの修行で得た力を思い知りましたか!!」

エア「ベルトをDr.パパロニの修復能力で直せば・・・」

モスコ「ピポピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰くまだ終わっていない!カトペスラを侮るな!」

エア「モスコ様!?!」

カトペスラ「くっ・・・」

カトペスラは武舞台の端。場外まで追い込まれていた。

クリリンが迫る。最後まで諦めていないと歯を食い縛りながらクリリンに睨みを効かせるもクリリンは止まらない。

クリリン「お前もさつき言っただけさ。力の大会で出会うのは嫌だったな。ポリスマン同士で争うだなんておかしいもんな」

カトペスラ「・・・」

クリリン「だけどな。俺にも愛する家族がいるんだ。負けられないんだ!!」

カトペスラ「そうか・・・お前の家族も今頃お前の帰りを待っているのだろうか・・・」
クリリン「子供だけな。奥さんは今頃戦ってる・・・さあ、終わりにするぞ! 悪いが脱落してくれ」

!!
クリリンがカトペスラを脱落させようと助走を付けてキックを浴びせようとした時

ビシイ
!!!!

クリリン「な、何だこれは!？」

カトペスラ「俺は最後まで諦めないと言ったはずだ!!」

左右の岩柱から青色のエネルギー弾が飛び、それが油断していたクリリンの左右の手にスライムのように絡むとクリリンの両手首を手錠の様に拘束!

カトペスラが先程岩柱を蹴ったのはクリリンに攻撃すると見せ掛け本当は足から出していたこのエネルギー弾を岩柱の中に潜ませていたのだ。

カトペスラ「これがスーツがなくても使える俺の秘技!カトペスラ・シークレット・

ミッションだ!!!」

クリリン「は、外せねえ!おおおお!!!」

どれだけ力を入れても外れない手錠。

ならば気円斬で斬ろうと両手を上げ気を練ろうとしたが・・。

カトペスラ「させるか!!」

クリリン「ぐああ!!」

カトペスラがクリリンの腹部に膝蹴り。

カトペスラの反撃が始まる!

両手を封じられながらもカトペスラの猛攻をガードするがダメージは蓄積されていく。

カトペスラ「逮捕した相手を痛め付けるなど極悪非道なのは分かっている。諦めて脱落してほしい」

クリリン「逆に言われるとは思っても寄らなかつたぜ・・」

ビルス「おい、悟空! ツルリンを助ける!!」

悟空「け、けんど真剣勝負だしオラが入るのは・・」

ビルス「馬鹿かお前は!! 助けないとこいつを破壊するぞ!!」

シン「ビルス様!私を破壊したらあなたも消えてしまいますよ!!!」

悟空「わ、分かったから無茶しないでくれ!クリリン今助けるからな」

させねーよ

悟空「うわっ!!何だこの液体!」

マジ||カーヨ「あのハゲは終わりだぜ。カトペスラ、さつさと落としまえよ」

特殊液体化能力を持つ改造人間マジ||カーヨの拘束で悟空は身動きがとれない。

カトペスラ「お前、仲間にご無断で勝手に仕掛けたのか?」

クリリン「これは俺とお前のバトルだ・・・」

カトペスラ「・・・そうであつたな。だが、これは力の大会。生き残る為には手段を選ばないのも当然」

カトペスラ「これで終わりだ!!」

クリリン「・・・ぐっ!!」

カトペスラがクリリンを強く蹴飛ばし場外へと続く真つ暗な世界に落としたかに思われた。

クリリン「かかったな!離れた今なら撃てる!かーめ・・・」

カトペスラ「何!?!」

クリリン「はーめ・・・」

カトペスラ「逃げはせん!」

エア「カトペスラさん逃げてください!!スーツを着ていないカトペスラさんがあのエネルギー波をくらえば場外は確実です・・・」

モスコ「ピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰くマジカヨ!」

マジカヨ「マジカヨ。仕方ねえ」

マジカーヨは悟空を拘束するのをやめ移動。
悟空はクリリンの戦いを見守っている。

ビルス「悟空!!何突っ立ってる!」

ウイス「瞬間移動でクリリンさんを助けるのでしよう」

ビルス「そ、そうか・・・だったらいいが」

クリリン「波ーーーーっ!!!」

カトペスラ「ぐっ・・・何てパワー・・・」

拘束されながらも放つかめはめ波。カトペスラは押し返そうとするもジリジリと押される。

声を張り上げながらも粘るも最後はかめはめ波に押されてしまい吹っ飛んだ!!

カトペスラ「ぐおおおおお!!!」

クリリン「いい・・勝負だったぜ」

ピシユン

悟空「今回は引き分けだな」

クリリン「ご、悟空!?! 助かったが・・引き分けって?」

カトペスラ「・・・」

マジ||カーヨ「なーにが漢と漢の勝負だ。手段を選ばな!」

カトペスラ「しかし・・」

マジ||カーヨ「お前は敵に狙われないよう休んでおくんだな。おい、ボラレータ!」
ボラレータ「ハイ!」

マジ||カーヨ「スーツとベルトをD r. パパロニに渡しておけ! ほらよ!」
ボラレータ「ワカリマシタ!」

スーツを投げてボラレータに渡したマジックカーヨはクリリンを脱落させようとクリリンの元へ液体化しながら忍び寄る。

クリリン「あいつは落ちてないのか!？」

悟空「オラを取っ捕まえた奴が助けたにちげえねえ。大神官様も脱落って言ってねえかんな」

クリリン「そうか・・・あいつには勝ちたかつたぜ」

悟空「また再戦すりゃいいじゃねえか!」

クリリン「あのスーツを着られたら勝てねえよ・・・」

談笑している中襲い掛かろうと地を液体が這いずる。

マジックカーヨ（終わりだぜハゲ!）

クリリン「何だ?この禍々しい気は!？」

悟空「この気は・・・あいつにちげえねえ!!」

マジカカーヨ（マジカヨ!?気付かれたのか!?）

グワアーン!!!

クリリン「ご、悟空!!」

黒いエネルギー弾がクリリン目掛けて飛んできたが悟空がそれを弾き飛ばし岩柱に当たり爆発。

黒いエネルギー弾を放った張本人は悟空にニヤリとしながらエネルギー弾を再度放とうと構えている。

悟空「ブラツク!!」

クリリン「悟空に似た奴か……。悟空とは全く違って卑怯な奴だ」

ゴクウブラツク「孫悟空は人間の中でも最大の失敗作。俺は孫悟空がどれほど愚かで恥ずべき人間かを表現しただけだ」

悟空「小難しい事言ってねえでやるならやつぞ!!」

クリリン「でも、俺じゃ絶対勝てねえ・・・」

ゴクウブラック「くくくく・・・人間が付け上がるな」

悟空はゴクウブラックと戦う事になりクリリンはまた一人になる。

同行していた悟飯もボタマゲッタとのバトルで離ればなれになってしまった。

マジ||カーヨ（何だか孫悟空と似た奴が来たがこれはチャンスだ。ハゲ一人なら余裕で落とせるぜ）

クリリン「どうしようか。さっきの戦いでエネルギーも使っちゃまったし・・・出来るなら身体を休めたいんだけどな」

マジ||カーヨ（外野で応援しやがれハゲが!!）

クリリン「でも、休めないよな。俺を狙おうとしてるからな!」

マジッカーヨ「気付いていても遅いぜ！ぶっ飛ばしてやる!!」

クリリン「太陽拳!!」

マジッカーヨ「なっ!?目、目がああ!!」

クリリン「あいつもかなり強そうだ。くそっ！俺は生き残る。弱くても生き残るんだ!!」

クリリンはマジッカーヨが眼を抑えている間に逃亡。

落ち着きを取り戻したマジッカーヨは目潰しをしてきたクリリンを絶対叩き落とすと怒りに燃えている。

マジッカーヨ「あのクソハゲ野郎!!絶対許さねえ！殺さねえ程度に拷問してやる・・！」

エア「カトペスラさんも何とか生き残りました。けれど、そろそろ攻めに入ってもいい頃合いです。・・・ここはピアラさんとナリラーマさんのコンビで場を荒らすべきかと」

モスコ「ピポピポピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰く第1作戦決行の時。Dr. パパロニよ!改造戦士2体を使い人数の少ない第1宇宙の戦士達を叩き落とせ!」

パパロニ「モスコ様からの指令ですな・・招致致しました」

パパロニが杖を掲げると杖の先端に付いてある球体が赤く輝く。

改造戦士達はパパロニの指示の元動く様に改造されている。

赤い光のエネルギーに反応したピアラとナリラーマは攻撃をやめパパロニの指示の元移動していく。

カクンサ「逃げたか!・・まあいいや。あのロボット硬くて全くダメージを与えられなかったし」

ロージ「あのロボットはリブリアンの愛の力で倒してもらえないわ」

第2宇宙は残り6人。

しかし、また犠牲者が出ようとしていた。

ハーミラ「お、追い込まれたか・・・」

チャツピル「第2宇宙はこの程度の奴等ばかりか？この俺のアイアンスキンに少しくらい響かせる一発がほしいぜ」

ハーミラ「お、俺の負けだ。落とすなら落とすやがれ」

チャツピル「潔いな。ならば落ちろやー!!」

ハーミラ「お前がな!!」

ハーミラはカチカツチン鋼の地を拳で叩きつけるとハーミラとチャツピルのいる周辺の地が崩れる。

ハーミラはすぐに崩れていない場所まで飛び落ちていくチャツピルを見て嘲笑していた。

チャツピル「き、貴様ー!!!」

ハーミラ「ハハハハハ!! 脳ある鷹は爪を隠すつてな。あばよ!!」

ドンツ!!

ハーミラ「な、何い!？」

ソレル「油断大敵だよ♪」

ハーミラ「ば、ばかなあああ!!!」

第9宇宙の兎の戦士ソレルがハーミラの背中に得意の高くジャンプしてからのキックでハーミラを落とした。

チャツピルはハーミラを落としたソレルに向かって親指を上に向け落ちていった。

ソレル「あーあ、チャツピルも落とされちゃった・・・」

フリーザ「ソレルさん。あなたはあなたの役目を果たさないとなりませんよ」

ソレル「は、はい！軍師フリーザ!!ピシッ!!」ケイレイ

フリーザ「ま、結果的にあなたのおかげで一人落とせたので良しとしましょう。さて、私は肩慣らし程度にあのヤードラット星人でも落としましょうかね」

大神官「第2宇宙ハーミラさん、第9宇宙チャップルさん。脱落です」

ペル「第9宇宙め！我が宇宙ばかり狙いおって!!」

ヘレス「戦士も嘆かわしければ神も嘆かわしい。あの宇宙こそ消えるべきじゃー！」

ロウ「これも作戦の内だ。狙われる方が悪いのさ」

シドラ「何だか不安になってきましたぞ。全王様の気分を損なう様な・・・」

ロウ「何言ってるんだ。ルールにはきちんと則ってる。集中攻撃をするなんてルールブックには書いてなかっただろ」

シドラ「そ、そうではあるが・・・」

第11宇宙はデイスポとヒットのバトルが展開されている。

時飛ばしを駆使し攻撃するヒットだがデイスポはことごとくヒットの攻撃をかわしデイスポの攻撃もヒットはガードし続けていた。

デイスポ「こいつ・・・やはり手強いな」

ヒット「そのスピードは確かだが一撃一撃は軽い」

デイスポ「なら、これはどうだ!!」

ヒット（ん!?消え・・・）

ズドツ!!

ヒット「ぐっ・・・」

デイスポ「悪かったな。今までは6割で戦っていた。体力を使いたくなかったからな。光をも音をも超えた俺のスピードにお前は勝てん!これで終いだ!!」

デイスポがヒットにジャステイスキックを浴びせようとした瞬間!

突如機械の手がディスプレイを捉えた!!

将軍奮闘!正義のコンビネーション炸裂!!

デイスポ「ぐああ!!な、何だこいつは!?!」

ヒット「第3宇宙の戦士か」

デイスポを捉えた機械の手。

その正体はナリラーマの右アームだ。

デイスポをしつかり押さえ付け身動きを取れなくしている。

ビアラとナリラーマのコンビが襲い掛かってきたのだ!

ビアラはヒットに向かって両手からエネルギー弾のガトリングを乱射するも軽々と表情も変えず一歩一歩ビアラに近付いている。

ヒット「この程度か」

ビアラ「ヌグウ!!」

ヒットが右手で挨拶変わりに拳をビアラの胸部にぶちこむがビアラは地を滑りつつも耐えた。

ビアラ「コノテイド？キカナイゾ」

ヒット「そうか・・・」

一言つぶやいた時には既にヒットはビアラの後ろにいた。

ビアラの胸部、腹部、手足に時飛ばしからの攻撃の連続を浴びビアラは耐えるもかなり苦しんでいた。

ビアラ「ヌググ！キカヌ・・・キカヌ・・・」

ヒット「・・・」

デイスポ「く、くそお・・・」

ナリラーマはデイスポを掴んだまま場外まで高速回転しながら向かう。

第3宇宙は人数の少ない第1宇宙を中心に狙いを定めた。

エア「確かにあのジレンという男の強さは我が第3宇宙では敵わないかもしれない。けれど、この力の大会は人数が多い宇宙が勝利にもなります。つまり、ジレンがどれだけ強くてもこちらの人数が上回ればいいのですよ!」

カイ「悔りすぎでは?プライド・トルーパーズは何もジレンのワンマンチームではない!」

デイスポ「離しやがれ!!この!」

デイスポは暴れまわったり嘔み付いたりするもナリラーマは止まらない。

トツポ「デイスポめ、仕方ない奴だな・・」

カーセラル「ここは俺が行かせてもらう!」

トツポ「将軍!?!」

デイスポ「ち、ちくしょー!!」

ナリラーマの高速回転が止まり場外に投げ飛ばされようとしていたデイスポ。ナリラーマの右アームが高く上げられデイスポを投げ飛ばそうとした時。

ズバツ!!

デイスポ「うおっ!!」

カーセラル「デイスポ!!大丈夫か!？」

デイスポ「しよ、將軍!!」

ナリラーマの右アームがカーセラルの遠距離まで飛ぶくの字を縦にしたカッター状のエネルギー刃『ジャステイス・カッター』で切断されデイスポは脱落から逃れた。

デイスポは直ぐ様カーセラルの元に駆け寄り共に戦闘体勢に移る。

デイスポ「すまん、助かった!」

カーセラル「気にしなくていいさ。もう、仲間を場外に落とさせやしないぞ!」

ベルモッド「デイスポとカーセラルのコンビか。これは楽しみだ」

カイ「我が第一宇宙が誇る音速をも超える最速の戦士とエネルギーを様々な形に変える知将の戦士。ジレンに頼らなくともプライド・トルーパーズは心強いメンバーばかりです」

エア「これは想定外です。ナリラーマさん一人では敵えるかどうか・・・」

モスコ「ピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰くビアラとナリラーマの本当の力を見せる時が来た!」

パパロニ「分かりましたモスコ様。・・・ビアラ!ナリラーマ!」

ビアラ「リョウカイ」

ナリラーマ「キャノンモード」

斬られたナリラーマの右手から砲口が右肩の内部から出される。

高速回転しながら今度はビアラがいる西側へと移動。デイスポとカーセラルはジャステイスフラッシュを撃ちつつ追い掛けるがナリラーマの高速回転に弾き飛ばされ効果がない様だ。

ビアラはヒットに追い詰められていたがニグリツシとザ・プリーチョが乱入しビアラを助けヒットと対峙。

ニグリツシ「第3宇宙の最高の改造戦士と呼ばれる私の力を見せてやろう」
ヒット「最高の改造戦士か」

ビアラ「ナリラーマカクニン」
ナリラーマ「ビアラカクニン」

パパロニ「さあ、見せてやろう！第3宇宙の力を!!」

2体合体!!

パパロニが岩柱のてっぺんで杖を無の界に高く掲げる。

杖が今度は青く光りナリラーマとビアラのそれぞれのパーツが外れ姿を変えていく!

パパロニ「出ですよ!堅牢なるボディであらゆる攻撃を防ぎ強靱なる腕で次々と戦士を屠るバトルマシン!!」

ビアラーマ!!!

ビアラとナリラーマのそれぞれの良い部分を併せ持つ強力なバトルマシンがパパロニの指示の元合体し新たな戦士が出現!

強力な気を感じた悟空達第7宇宙は一瞬戦いの手が止まる。

悟空「またつえー奴が現れたぞ」

ゴクウブラック「神との戦いに手を休めるとは・・・落ちるがいい人間!!」

悟空「うわつと・・・おめえほんと容赦ねーな」

全王「合体したねー!」

未来全王「ガシンガシンってしたねー!」

大神官「これは面白くなってきました」

ビアラーマ「ビアラーマ!!!」ガシンン!!!

デイスポ「が、合体だと!?!」

カーセラル「デイスポ。こいつは手強い相手だ!連携で倒すぞ」

デイスポ「了解。だが、将軍。身体は大丈夫なのか?」

カーセラル「心配無用だ。トツポにも許可を取ってある」

トツポ「将軍・全く仕方のない」

ムリチム「フオオ!!!」

トツポ「ふん!!」

トツポ（パワーは確か。無駄のない筋肉だ）

トツポは第10宇宙のマッチョな戦士ムリチムと対峙。鍛えられた肉体からの拳の一撃はトツポも心の中では認めている程の威力。

ビアラーマを倒すのはデイスポとカーセラルに一任させる事にしムリチムとのバトルに集中する。

デイスポとカーセラルは共にジャステイスフラッシュで遠距離から攻撃するもビアラの特徴である頑丈なボディには効いていない。

更にナリラーマの特徴である手足を伸ばしての高速回転攻撃でデイスポとカーセラルを弾き飛ばそうと迫り来る!

デイスポ「將軍！奴をどう攻略するんだ!？」

カーセラル「まずは左腕を斬り落とす。俺が左腕を斬り落とし回転攻撃の攻撃範囲を無くす。デイスポ、お前は俺が左腕を斬り落としたら奴のボディに蹴りの連打を浴びせるんだ。いくら硬い身体でもお前の連続蹴りをくらい続けていればただではすまはずだ」

デイスポ「了解!!」

高速回転攻撃はデイスポやカーセラルを狙ってはいるもののその攻撃範囲は他の戦っている戦士にも影響が出ていた。

ピッコロ「竜巻か？それにしては強い気だ・・・」

ルバルト「隙を見せたな!!」

バツ
!!!!

ルバルト「口から光線だ?!?ぐわああ!!!」

ルバルトはピッコロの口から怪光線を腹部にまともに受け体が浮かび制止できない。だが、その先には鉄の竜巻が近付いていた・・・。

ルバルトは鉄の竜巻に巻き込まれ遙か高く飛ばされ怪光線を弾き返した。

ピッコロ「こいつはかなり厄介だな。・・・ん?あれは第11宇宙の戦士か。ここは様子を見るとでもするか」

大神官「第10宇宙ルバルトさん。脱落です」

ルバルト「申し訳ありませんラムーシ様、ゴワス様」

ゴワス「ご苦労だったな。応援頼んだぞ」

ラムーシ「まだ残りは7人じゃ。・・・気に入らぬがお前の元仕いはやはり強いわい」

ゴワス「はい。元界王の中でもずば抜けた強さでしたから・・・」

クス「私は苦手。皆で踊らなかつたし口も悪いしひねくれてるし・・・強いのは強いけども」

一方で第2宇宙はハーミラが落とされ残りが第1宇宙と同じく残り5人となっている。

相変わらず第9宇宙の面々はフリーザの命令の元第2宇宙を集中して狙う。

ベルガモ「おら！テメーらの宇宙消滅まで残り5人。いよいよ消滅までのカウントダウンが近付いてきた様だな」

ザーロイン「・・・ん？」

ベルガモ「逃がすか!!」

ロージイ「ハッ!!!」

カクンサ「そらそら!!」

ベルガモ「今度はうるさい奴等が相手か！」

ザーロインはロージイとカクンサがベルガモを攻撃する事が分かると直ぐ様ベルガモから逃亡した。

ペル「どうしたのだザーロインは!？」
ヘレス「傷も多くボロボロじゃ。よく頑張つて戦つておつた。ゆつくり休む事を許さう」

ザーロイン「……フツ」ニヤリ

ザ・プリーチョ「迷彩機能で姿を隠せるニグリツシがあつけなく捕まえられるなんて信じられん!!」

ヒット「最高の改造戦士か。・豚もおだてれば木に登る。だが、お前は登れなかつたな」

ニグリツシ「ぶ、豚だと・・!」

ヒット「落ちろ」

ズギヤ
!!!!

ニグリッシ「うわああ!!」

パパロニ「パンチア」

パンチア「レスキューー!」

パンチアは手足を引っ込めロケットになってヒットの蹴りを受け吹っ飛んだニグリッシを脱落から救った。

雑な脱落の救い方で背中を痛そうに擦っていたが・・。

ザ・プリーチョ「ビアラを合体まで持ち込めたんだ・・俺達はここでお役御免だ」

ヒット「・・逃がすと思うか？」

ザ・プリーチョ「!?!」

時飛ばしでヒットは飛んで逃げるザ・プリーチヨの正面に瞬時に立ちはだかりザ・プリーチヨの腹部を発勁で突き飛ばす。

余りの突き飛ばされる速さにパンチアも追い付けずザ・プリーチヨは場外に落ちていった。

大神官「第3宇宙。ザ・プリーチヨさん脱落です」

ザ・プリーチヨ「あんなの勝てませんよ・・・」

モスコ「ピポピポ」

カンパリー「モスコ様曰く諦めたらそこでバトルは終わっているぞ馬鹿者!」

エア「第6宇宙の殺し屋ヒット。彼にも気を付けないといけませんね。それにしてもピアラーマさんの暴れっぷりは素晴らしいです。さあ、早く二人を落とすのです!!」

カーセラル「この程度の高速回転。我が第11宇宙の悪人との戦いで何度も攻略してきたぞ」

デイスポ「まだゾイレーの方が高速だな!」

カーセラル「ジャステイスサーベル!!」

カーセラルは高速回転するピアラーマに突っ込んでいった！
自殺行為と嘲笑するエア。それでもカーセラルは臆する事なく斬り掛かる。

カーセラル「行くぞ!!」

ピアラーマは高速回転しながら右手の砲口から特大キャノン砲をカーセラルに正確に放つ。

カーセラルは両手のサーベルをクロスにしキャノン砲を抑える。

カーセラル「ウオオオオオ
!!!!!!」

タツパー「將軍!!」

ブーオン「負けるなあ!」

カーセラル「当たり前だ・・・こんな物・・・ツアア
!!!!」

キャノン砲をX字に切り裂きピアラーマの高速回転する左手を切断しようとジャス

ティスサーベルを振りかざした!

ケツトル「いけえー!!」

ゾイレー「将軍!頑張れー!!」

カーセラル「正義の斬撃をくらえい!!ハアア!!」

脱落したメンバーはテレビのヒーローを応援する子供の様にカーセラルを応援する。カーセラルもそれに応えるべくジャスティスサーベルでビアラーマの左手を切り裂いた!

ビアラーマ「グアアアア!!!」

デイスポ「よし!これで終いだ!!!」

高速回転するビアラーマにデイスポの連続蹴りが何発も打ち込まれていく。我慢するが耐えられず回転が止まり頑丈なボディに僅かにヒビが入った。

デイスポ「ふん！雑魚にしてはよくやったと褒めてやろう。消えるがいい!!」

デイスポが気を右手一つに集中しピアラーマを殴り飛ばす。

これで場外に落ち終わった・・・。

デイスポ「これで二人脱落だな」

カーセラル「デイスポよ。油断が多いのがお前の悪い癖だ」

デイスポ「何言ってるんだ將軍。奴はこの目で落ちたのを確認した。時期に大神官様からコールが出されるだろう」

カーセラル「・・・コールされないではないか」

大神官を見つめるデイスポ。大神官の口は閉ざされたままだ。落としたはずなのに何故だ？それに第3宇宙の席にも2体はいない。いるのは一人。自分達と戦っていない戦士だけ。

疑問に思っていた時、落ちたはずの場所から何か音が聞こえた。

デイスポ「どうなってやがる!?飛べるのか奴は!」

エア「ナリラーマさんの能力です。肩に内蔵している大型の吸盤『スーパー吸盤』で場外を防いだのですよ。そしてビアラさんは硬いボディを駆使し身体を丸めローリングモードで戦士達を撥ね飛ばすのですよ!」

ビアラーマ「トメレルモノナラトメテミロ!」

デイスポ「しぶとい奴だ!」

カーセラル「攻防を生かす策に出たか。高速回転とは違いあの体をそのままぶつけられると耐えられんな」

デイスポ「蹴り返してや・っつ!」

デイスポは目の前に迫った球体となって転がるビアラーマを蹴り返せないと瞬時に判断し右側に移動しかわしたがビアラーマは突如かわした右側に軌道を変えデイスポに鉄の塊が直撃!

デイスポは吹っ飛び場外に落ちそうになる!

デイスポ「ぐあ!!軌道が変わりやがった・・・」

エア「スーパー吸盤で咄嗟にブレーキを掛けられるのですよ。ただ転がるだけなら簡単に攻略されますからね」

カーセラル「デイスポ!!ぐおっ!」

突如カーセラルの左頬に誰かが殴ってきた。

カーセラルは体勢を整え落ち着いて構えた。

カーセラル（気は感じた。おそらく透明になっているのだろう）

カーセラルはすぐに状況を判断し右手からエネルギーの塊を出す。

カーセラル（来る!）

カーセラル「ジャステイス・スマツシユ!!」

右手のエネルギーの塊を地に叩きつけ蜘蛛の巣の様に地に亀裂が入る。

カーセラルの回り以外の亀裂からエネルギーの柱が現れ柱が直撃し隠れていた戦士が吹っ飛んだ。

カーセラル「お前も第3宇宙の戦士か」

ニグリツシ「うぐぐ：やったな！だが、さっきの男と比べればどうにかなりそうだ。第3宇宙最高の改造戦士ニグリツシ！今行く・・・」

将軍はデイスポの元に!!

ニグリツシ「ぐああ!!何だこの気のロープは!?縛られていく・・・」

カーセラル「クンシー!」

クンシー「将軍とデイスポのコンビネーション技『ダブルキャノンマキシマム』なら

あいつを倒せるはずだ！ヒビが入ったあいつのボディを打ち砕くんだ！！」

カーセラル「そうさせてもらおう！悪いがそいつは任せたぞクンシー！」

ニグリツシ「私の機動力を甘く見たな。とあつ！！」

クンシー「俺の能力も甘く見てないか！？ふん！」

ニグリツシ「ぐっ！気のロープが絡み付いてくる・・・」

カーセラルはディスプレイの元に向かいディスプレイと戦っているビアラーマの背後にジャステイス・フラツシユを当てビアラーマを振り向かせた。

カーセラル「ディスプレイこつちだ！！決めるぞ！！」

ディスプレイ「あの構え！了解した！！」

瞬時にカーセラルの元に移動しカーセラルは左手、ディスプレイは右手をビアラーマに向け両者のエネルギーを合わせたエネルギー光線を放った。

ビアラーマ「ソナモノハジキカエシテクレルワ!!」

デイスポ「転がってきたか」

カーセラル「心配するな。タイミング的にはヒビが入っている箇所には直撃する」

ビアラーマはローリングモードで転がってくるがダブルキャノンマキシマムがビアラーマを抑えている。

ベルモッド「勝つのはカーセラルとデイスポだ」

エア「ビアラーマさんが勝ちます!」

デイスポ「将軍!!」

カーセラル「力をもつと出すぞ!ウオオオオオ!!!」

ビアラーマ「コレシキノコウゲキナド!!」

ピキピキ

ビアラーマ「ボ、ボディーガ!!」

デイスポ「もうそのボディーは限界のはずだ!」

カーセラル「これで終わりだー!!」

バキヤ!!!

ビアラーマのボディーが破壊されエネルギーを更に強く上げ放ったダブルキャノンマキシマムにビアラーマは飲み込まれていった!

ビアラーマのボディーが破壊され両手で頭を抑え信じられないと慌てめくエア。

カイとベルモッドは二人の活躍に感嘆と息を吐いている。

カイ「これで分かったはず。我々はジレンだけのチームじゃないという事が」

マルカリータ「第3宇宙は僅か3分で4人が落ちてしまったですます」

ビアラーマ「マ、マダダ……。シユホウヲ……」

「ビアラーマは自らの死を覚悟に両手の砲口を合わせ1つの巨大な砲口を作り上げた。

ビアラーマ「シシテモオマエタチヲオ……」

お前の負けだ。

ジレンがビアラーマの頭部を蹴飛ばし主砲を放つ前に場外に叩き落とした。

ジレンは例えどんな悪人であろうとも死なせないポリシーを持っている。死のうと
したビアラーマを死なせず場外に落としたのだ。

カーセラル「ジレン」

ジレン「あいつは自らの命を犠牲にするつもりだった」

デイスポ「……いいところをお前に取られちゃったな」

ジレン「どんな奴であれ死なせはせん」

デイスポ「お前は厳しいのか優しいのかよく分からん奴だ。・・まあいい。これで第3宇宙は大幅に戦力を失った」

大神官「第3宇宙。ナリラーマさん、ビアラさん、ニグリツシさん。脱落です」

エア「な、何て事です！残り6人に・・」

モスコ「ピポピポピポ」

カンパリー「モスコ様曰くまだ6人いる。生き残っている面々は生存する事を中心に考えて動け」

カトペスラ「Dr・パパロニ！ベルトは直りましたか？」

パパロニ「ベルトとスーツは直した。更なる強化も施したがモスコ様からの命の通り生存を中心に行動し戦うのだ」

カトペスラ「ハッ!!!」

デイスポ「なかなか手強かったがまだまだ動ける。ヒットを必ず叩き落としてやる！」

カーセラル「ふう・・・」

クンシー「あのニグリツシって奴。俺の技に突っ込むとは思わなかったぜ」

カーセラル「あれで最高の改造戦士らしい。あからさまに俺達が戦った2体の方が強かったと思うがな・・・」

デイスポ「将軍大丈夫か？」

カーセラル「俺は大丈夫だ。お前達だけに任せるのは将軍として如何な物か」

ジレン「・・・この戦い覚悟しておけ」

カーセラル「ジレン？」

デイスポ「覚悟なんて当の最初からしてるぞ。・・・っておい！」

ジレンは意味深な言葉を吐くとカーセラル達から離れていく。

デイスポとクンシーはしょうがない奴だと談笑するがカーセラルはジレンの覚悟と
いう言葉にいつものジレンらしくないと甚だ不思議に感じている。

カーセラル（ジレン自ら覚悟なんて言葉を発するだと？ 回りには確かに強敵が多いが
ジレンならどれも余裕で倒せるレベルだと思うが・・・）

クンシー「どうしたんだ將軍？」

デイスポ「ん？ 足下がチクツてしたな。何だ？」

カーセラル「いや、何でもない。デイスポはヒットと戦うんだ。クンシーと俺はデイスポのサポートに入るぞ」

デイスポ「あいつなら俺一人でも・・・」

カーセラル「確実性を重視する！ 俺やクンシーはともかくデイスポ、トツポ、ジレンはプライド・トルーパーズの中でも精鋭だからな。脱落は許されん」

クンシー「そうだな。脱落しそうになったら任せな！」

デイスポ「し、仕方ない。3人でヒットに勝つぞ！」

カーセラル・クンシー「おお!!」

ピツコロ「・・・流石にチームプレイも完璧だな。ジレンという男だけが強い訳じゃないさそうだな」

高みの見物をしていたピツコロ。

だが、それを狙おうとする戦士がいた・・・。

??????? 「高みの見物とはいいい身分だ」

「あいつも一緒に・・・」

ピツコロを狙う者は!?

力の大会終了まで後37分

続く

まさかのタツグ!? 第7宇宙と第9宇宙!!

全王「落ちていつてるねー。残り人数・1、2、3」

未来全王「4、5、6・・・」

全王「まだいっぱいいるね!」

未来全王「たつくさんいるね!」

大神官「免除された宇宙の皆様はどこ宇宙に期待されていますかお聞きします。まずは第1宇宙」

アナト「私は第1宇宙です。やはり、ジレンの圧倒的強さ、そしてトツポ、デイスポと優秀かつ強い面々があります。免除から外れたとはいえ人間レベルもギリギリ足りなかつただけですからね」

イワン「うむ。同じです大神官様」

大神官「第5宇宙はどうですか？」

オグマ「はい。私は第3宇宙です。先程多くの戦士を失いましたがそれでも戦士も見ている神々も慌てめく事なく冷静に戦い冷静に指揮を取っています。まだ何か切り札を隠し持っていていそうな所も今後楽しみな宇宙です」

アラク「精神の宇宙の名は決して名だけでは無さそうな所も良いですな。特に第3宇宙の中心であるあのパパロニという男。第3宇宙の運命を握っているのは彼でしょう」

大神官「第8宇宙はどうですか？」

イル「私はあの愛の力を持つ第2宇宙ですね。現状は人数が少なく苦しい戦いになってはおりますがあのリブリアンという女戦士の愛の力とカクンサ、ロージイの愛の力。この愛の力はレベルが高いです。もしかするとここで本領を発揮するのでは？」

リキール「あの愛の力強さがヘレスの言う美しさであれば案外第2宇宙は最後まで残

るかもしれないですね。それ程までに期待が持てる力かと」

大神官「では最後に第12宇宙はどうですか？」

アグ「私はまだ1名も落ちていない第6宇宙ですね。全体的に戦士が強く更には時飛ばしで敵を圧倒するヒット。おそらくですが終盤まで残るチームになるでしょう」

ジーン「まだどの宇宙に肩を持つか等は決まっています。期待している戦士ならいます」

大神官「分かりました。皆様の回答ありがとうございます」

アグ「ジーン様が期待している戦士とは？」

ジーン「少なくとも周りの奴等が期待している宇宙にはいないというのは教えておいてやる」

アグ「は、はあ・・・」

第2宇宙の愛の戦士3人が暴れまわる！

カクンサ、ロージイはベルガモに攻撃を仕掛けリブリアンはモンナとのバトルでモンナを追い込んでいた。

モンナ「へっ!ブスな分強いつて事ね」

リブリアン「この美しさを理解できないなんて・・・ああ、哀れ。ああ、悲劇」

モンナ「うるさいわね!!ペツちゃんこにして見れる顔にしてやるわ!」

ガノス「モンナ、大丈夫か!」

マジョラ「助けに来た」

モンナ「悪いけどこいつはタイマンで倒したいのよ!あんた達は他の戦士と戦ってなさい」

ガノス「仲間のピンチを放っておく馬鹿がいるか!!キャウエイを助けられなかった・・・俺は誰も落ちてほしくないんだよ!」

モンナ「大丈夫よ!それにガノス。あんたも狙われてるわよ!」

ガノス「何!」

ガノスの後ろからエネルギー弾が飛んできた。

ガノスはギリギリ左に体をねじらせかわし、背後から襲ってきた戦士に一睨みする。

マジヨラは目が見えないものの背後から感じる気で気付いていた。

ジームズ「なかなかいい動きだ」

ガノス「第2宇宙の奴だな」

マジヨラ「ガノス。こいつは強いぞ」

ジームズ「ええ。強いだろうね」ピシユン

ガノス「き、消え・・・」

ドゴツ

バキヤ
!!

ガノス「つつ!!」

マジョラ「がはっ・・・!」

モンナ「ガノス!マジョラ!」

リブリアン「愛の光を受けなさい!!」

リブリアンは体格からは想像も出来ないほど高くジャンプし身体を回転させると武
舞台全体にピンクの光がばら撒かれる。

愛の光の根源が現れ一部の戦士は愛の光にメロメロになってしまい攻撃を止め愛の
光を心地よい気分で浴びている。

悟空「何だこれ!?!こそばいぞ!」

ゴクウブラック「人間の愛・・・実に不快だ・・・!」

ベルガモ「どこまでふざけてやがる?」

カクンサ「リブリアンの愛の光が効かないとは」

ロージイ「可愛そうね」

ベルガモ「けっ。頭のおかしな連中だ。さっさと消滅させないとな」

ピッコロ「よくわからん・・・」

ピッコロは第6宇宙のサオネルとピリナと対峙。同じナメック星人同士のバトルは両者一步も譲らない。

だが、ピッコロはサオネルとピリナの一撃一撃の攻撃の重さが気になっていた。

ピッコロ（この重さ・・・奴等ただのナメック星人ではないな）

サオネル「貴様、強いな。それに・・・」

ピリ「第7宇宙からも我々と同じナメック星人が出場するだろうとシャンパ様から聞かされたが・・・大した戦闘力だ」

ピッコロ「ふっ・・・貴様等も強い。だが、俺は負けんぞ」

キャベ「一体何が!?けれど、一部の戦士は攻撃を止めている。チャンスです!」

トツポ「何て美しい・・・！これが愛の光・・・」

ムリチム「美しい・・・何と言う愛なのだ」

キャベ「第11宇宙のリーダーまでもあの光で動けなくなっている！ここで落とせば第11宇宙は大幅な戦力ダウンです！はああああ!!」

超サイヤ人になりキャベはギャリック砲の構えのエネルギー波をトツポに向けて放つ！

トツポの胸部にエネルギー波が直撃する！

キャベ「なっ!?ま、全く効いていない！」

トツポ「ん!?いかぬ!!これは宇宙全てをかけた戦い！油断は命取りだ!・・・ジャステイ スフラッシュュ！」

トツポにはびくともしておらずキャベは撤退。

トツポの頑丈さに驚くと同時に自身の力のなさに悔しい思いで拳を作っていた。

キャベ「きつとヒットさんなら落とせていた……。僕は何て弱いんだ……！」

バジル「何なんだこの気色の悪い光は!？」

ラベンダ「ムズムズするぞ!あのハートが原因か!？」

ホップ「さっさと破壊するよ!」

フリーザ「あなた達は第2宇宙の変身した戦士を落としなさい。あれは私が壊します」

ラベンダ「フリーザ。それにさっきの瞬間移動野郎が現れやがった!」

ジームズ「させんぞ。あの光は我々第2宇宙の愛の光だ。純潔なる愛を破壊など絶対に許されん!」

フリーザ「純潔ですか……。私から見れば不潔にしか感じませんよ。第2宇宙はおつむがない連中ばかりで困ります」

ジームズ「黙れ!」ピシユン

ビシッ
!!!!

ジームズ「ぐっ!!な、何だと!？」

フリーザ「瞬間移動をすると分かれば造作はないです」

瞬間移動で背後から攻撃を仕掛けたジームズをフリーザは軽く尻尾を振り回し弾き飛ばした。

フリーザが簡単に瞬間移動からの攻撃を攻略したのに驚くバジル、ラベンダ、ホップ。

フリーザは余裕なのか腕を組みその場から一步も動いていない。

フリーザ「何してるのですか?あなた達は早くあの3人の愛だ愛だとほざく害虫を落とさない」

ラベンダ「くそっ!行くぞ!」

ジームズ「希望の光を害虫呼ばわりとは・・・！」

フリーザ「愛や希望など。この様な大会で綺麗事を並べても何も響かないでしょう。ま、私は元々その様な物は破壊してしまう事が快樂なのですけどね！」

ジームズ「あ、悪魔め・・・！！」

ドゴーン！！

ジームズ「あ、愛の光が!？」

フリーザ「おやおや。私以外にも不潔に思う方がいた様で」

ゴクウブラック「汚らしい人間の愛を私に振り掛けるな」

悟空「おつ。こそばくなくなつたな。おめえが破壊したからか？」

リブリアン「全く・・・この愛を理解できないなんて。可愛そうな人達がいるのね」

モンナ「理解したくもないわよ!デブ!

リブリアン「それはあなたもでしょ!

モンナ「デブなのは認めたわね。けど、私のは能力よの・う・り・よ・く!!」

口喧嘩するリブリアンとモンナ。

大きめの高場の岩柱で争っている2人。

殴り合いに発展した中、2人の戦士がエネルギー弾を1人の逃げる戦士目掛けて攻撃しそれがリブリアンとモンナを巻き込んでしまう。

18号「ちよこまかちよこまかと!」

17号「ん?別の奴に当たったな」

モンナは直撃し高場から落ちてしまう。リブリアンは当たらなかつたものの突如襲い掛かってきた18号達が不意をついて狙ったのだと勘違いし怒っていた。

リブリアン「卑怯者!怒ったわよー!!」

18号「何だい？」

17号「やれやれ、面倒な相手と遭遇してしまったな」

フロスト「何とか撒けました。力を使うにはまだ早すぎますからね」

リブリアンは18号と17号と対峙する。

ベルガモはカクンサ、ロージイに狙われるもベルガモは相手の技を受けて自分の力に変える特殊能力をもつ。

その為、ロージイのヤツチャイナー拳、カクンサの素早い攻撃からの連続攻撃もベルガモには全く効いていないどころか強化されていくばかりだった。

ロージイ「何てタフな奴」

カクンサ「この・・・!!うらうらうらああ!!」

ベルガモ「ハッ!ちゃちな技だ。身体も少しづつしか大きくならねえ。だが、下手に巨大になれば狙われるからな」

バジル「兄者！」

ラベンダ「助けに来たぜ．．って圧倒してるか。流星は兄者」

ベルガモ「お前らは赤デブを落とすにかかれ。こいつ等は俺だけで十分だ」

ロージイ「リブリアンをデブだなんて！美意識つてものが．．」

ベルガモ「うるせえよ!!」

ズドツ
!!

ロージイ「ウギツ．．」

カクンサ「ロ、ロージイ!!」

バジル「ひゅーっ！兄者流星だぜ」

ホップ「頼りになるわ」ウツトリ

ベルガモ「早く行け。こいつ等はただの雑魚だが赤デブは何かあるかもしれない。あいつだけは一応警戒しておけ」

ラベンダ「行くぞお!!」

カクンサ「行かせな・・・」

ガシツ

ベルガモ「弱肉強食のこの世界。弱い者は強い者に負けるのが性だ」

追おうとしたカクンサの両足を攻撃を受け少し大きくなった右手で掴みカクンサの胸部を殴り飛ばした。

ロージイもカクンサも立ち上がり攻めの姿勢になるが恐怖で足が震えていた。

ベルガモ「怖いか？安心しろ。貴様等全員落ちれば恐怖を感じずにすむ！第2宇宙はもう終わりだ！」

カクンサ「ふ、ふぎけるな！」

ロージイ「消滅なんて・・・」

カクンサ・ロージイ「絶対させない!!」

18号と17号はリブリアンの愛の力の攻撃に苦戦。

体格の割に素早く更に近距離、遠距離の攻撃のメリハリがはつきりしていて強敵だ!

18号「厄介だねえ。特にあの弓矢の攻撃が」

17号「肉弾戦も思ったより強い。二人で掛かっても瞬時に対応する。見た目だけで判断するなという事か」

リブリアン「見た目で判断しても分かるでしょ?」

ヘレス「全くじゃ。美しいだけでなく力強さもある。我が第2宇宙は美しいかつ強い!」

ペル「サワア様もリブリアンの美しさは本物と思わないですか?」

サワア「は、はあ・・・美麗なお姿かと」

クリリン「18号さん！17号！」

18号「クリリン！」

クリリン「助けに来た！3人で倒しにかかるぞ！！」

17号「ああ。なかなか手強いからな。手助けがあれば楽になるしな」

びゃーはっはっは
！

クリリン「お、お前達は！」

バジル「こいつはさつさと落とさないと！」

ラベンダ「第9宇宙も加勢してやるよ」

ホップ「覚悟しな！」

18号「結構おしやれじゃないか」

ホップ「え、そ、そう?あ、ありがとう」テレツ

リブリアン「ろ、6人で来るなんて・・卑怯な!」

17号「俺達は別の戦士を追っていただけだ。お前とは本来戦うつもりはなかった」

バジル「兄者がお前は警戒しておけとの事だ。何かされる前に落としてやる」

クリリン「・・やり方的には好きじゃないけどな」

ラベンダ「狙われる奴が悪いんだよ!やり方なんざ何でもいい!」

ヘレス「ヒーローとは多人数相手に絶対絶命に陥った時こそ力を発揮するのじゃ」

ペル「皆で応援するぞ!」

第2宇宙はヘレスやペル、脱落した者がサイリウムを手に取りリブリアンを全力で応援していた。

ジームズ「ぐ・ふっ・」

フリーザ「無駄な騎士道精神ご苦労様でした」

ジームズ「ぐあぁー!!」

フリーザに瀕死になる程の重傷を負わされたままジームズは場外に落とされてしまった。

大神官「第2宇宙。ジームズさん。脱落です」

ペル「ジ、ジームズ!!」

ジームズ「も、申し訳ありませんペル様・ヘレス様・・・」

ヘレス「喋るでないジームズ！お前は本当によくやったのじゃ！・・・それにしても第9宇宙。腐りきっている」

フリーザ「せっかくの応援気分を台無しにしてしまいましたかね。どうでもよろしいですが。さて、私は見物と行きましようか」

フリーザは第7宇宙と共同で戦っているバジル達を高場の岩柱で見物。

第2宇宙は残り4人。ベルガモと戦っているカクンサとロージイ。

6人の戦士相手に1人で立ち向かうリブリアン。

戦いを見守るザーロイン。

そんな中、リブリアンは6人相手でも恐れるどころか自信満々な態度を取っている。

ヘレスもペルもリブリアンの本当の強さを見せれば6人相手でも余裕だと確信していた。

バジル「逃げられないぜ・・・覚悟しやがれ!!」

リブリアン「覚悟?それはこっちの言葉よ。見せてあげるわ:私達の重い愛を!!」

第2宇宙の本領！強愛で強大で巨大なる力！！

ベルガモ「何度掛かっても同じだ」

ロージイ「くうっ」

カクンサ「くそお！」

ヘレス「サワアよ。ジミズの治療を」

サワア「はい、ヘレス様」

ヘレス「皆よ！今こそ全力の応援をする時じゃ！愛の力は奇跡を起こす！！」

ザープト「もちろんですとも！」

ラバンラ「そうだ。愛は力。愛は奇跡・・・！」

ビカル「ロージイ、カクンサ、リブリアン。第2宇宙の3人の輝く希望！」

プラン「第2宇宙は強く優しく・・・！」

ハーミラ「そして、我々と第2宇宙を愛する者達全ての光を今!!」
ザーロイン「3人に更なる希望を与えよ!」

ペル「頑張るのだロージイ!カクンサ!リブリアン!お前達が第2宇宙の・・」

一番の光だ!!!

第2宇宙に住む多くの民は力の大会の映像を見ている。

ヘレスがサワアに頼み戦いを観戦してほしいとサワアの能力で見えるようにしたのだ。

他の宇宙は自分の宇宙の運命を見せる戦いを見せはしない。

けれど、第2宇宙はあえて自分達が懸命に戦っている姿を見てほしいと第2宇宙で過
ごす民に伝え戦っていたのだ。

リブリアン「感じるわ・・・！」

カクンサ「皆の声が・・・！」

ロージイ「幾千万の・・・希望が・・・！」

ヘレス「見るのじゃ・・・3人が目映く・・・美しくもどこか強く切なく・・・！」

ペル「迷いがなくなったのだ・・・！」

第2宇宙の民達の応援が大きくなる。

リブリアン達3人は無の界にいても聞こえているかの様に思えた。どこまでも諦めない、どこまでも信じて、どこまでも愛する。

破壊神、界王神、戦士、民の全てが。

第2宇宙が今1つになる！！

リブリアン「奇跡はあるのよ!!」

バジル「下らねえ!!落ちやがれ!」

リブリアンに蹴りを浴びせようとしたが第2宇宙のシンボルマークの形をしたバリ
アーに弾き飛ばされるバジル。

愛が形になりリブリアン達3人の身体に光が包まれていく!!!

クリリン「いい!?嘘だろ!」

ヘレス「魅せるのじゃ・・・これが第2宇宙の愛!!!」

リキール「強い・・・!これが、第2宇宙の本領だということのか!」

イル「3人の戦士が巨大に・・・しかもただ大きいだけではない!!」

ホップ「あ、あわわわ・・・こんなのだうしたら・・・!」

ラベンダ「ち、ちくしょう!逃げたって何もねえ!!うおおおお!!!」

ラベンダはリブリアンに攻撃を仕掛けるも巨大化したリブリアンの軽い蹴り一発で場外まで吹っ飛んだ！

ラベンダ「ぐあああああ!!!」

バジル「兄者ー!!!」

ガシツ!!

ローゼル「ま、間に合ったあ!」

ラベンダ「ロ、ローゼル・助かつ・ぐほあ・・・・」

ローゼル「ラベンダ!!」

飛行要員かつ落ちそうになる仲間を助ける役目のローゼルに救われたラベンダだが、その一撃は重く強大!

軽い蹴りだけで血を吐きながら倒れてしまっていた。

ロージイ「愛の力は・・・」

カクンサ「奇跡を起こす!!」

ベルガモ「・・・上等じゃねえか。ただデカくなっただけで俺様を倒せると思うなよ!」

全王「おつきいね〜!」

未来全王「アタタタタ〜!!」

巨大化したロージイのヤツチャイナー拳は今までとは比べ物にならないくらいの破壊力!
カクンサも巨大化したにも関わらず素早い一撃を放つ!

相手の技を受けて自分の力に変えるベルガモもまともに受けては自分の力に変える前に吹っ飛ばされ場外になると判断し回避に専念。

フリーザ「これは一人ではきついでしょう。第9宇宙の中ではベルガモさんは私の次に強いですからね。いなくなつては困ります」

スタツ

ベルガモ「フリーザ！」

フリーザ「今回は加勢してあげますよ。あなたは使えますからね」

ベルガモ「使えるだあ・・チツ、まあいい。俺はあの拳法使いを倒す！」

フリーザ「分かりました。では、私はうるさい野良犬でも片付けましょうか」

カクンサ「野良犬だつて？ぶっ潰す!!」

ロージイ「今度はあなた達が怖さを思い知る番よ！」

バジル「くそっ！兄者をよくも！」

17号「……」

17号はエネルギー弾をリブリアンの腹部に放つも全く効いていない。

18号「何ビビってるんだい!」

ホップ「だ、だって、ち、ちよつと蹴っただけでラベンダが・・」

クリリン「大神官様が脱落のコールをしてないから残ってるはず。17号、何か手はあるか?」

17号「光になったとかそういう訳ではない。あの巨体を倒すには力を1つにまとめるしかなさそうだな」

他宇宙の戦士は狙われない様に隠れる者、近くで観察する者、関係なしに戦う者と別れていた。

デイスポ「あれはやばいな。将軍、何か突破する手口はあるのか?」

カーセラル「巨大になればその分攻撃を受けやすくなるデメリットがある。俺とお前の攻撃ならロージイ、カクンサはどうかなるであろう。だが、リブリアンだけは厳し

いかもしれんな・・・」

クンシー「まさか、あの巨体で転がったりしてくるのか!？」

ガノス「あれは相手にしない方がいい。今の俺では勝てない」

マジョラ「シヨウサ達は大丈夫だろうか・・・」

モンナ「あいつにあんなパワーがあるなんて・・・」

ゴクウブラック「どうした?ただのデカ物におののいてるのか?」

悟空「そうじゃねえさ。ワクワクすんだよ。強い奴ばっかだよ!」

ゴクウブラック「ほう・・・俺もだ。殺してはならないが殺しがいがある人間ばかりだ」

悟空は超サイヤ人になりゴクウブラックも超サイヤ人に。互いの拳と蹴りの撃ち合いが更に激化する!

リブリアン「オーホツホツホ!!愛さえあれば飛行だって可能なのよお!!!」

クリリン「肩に羽が!!」

17号「あの巨体で飛べるのか」

バジル「おおおい!!反則じゃねえかよ!」

18号「反則じゃないよ。あれはあいつの能力・いや、愛の力とやらで飛んでるの
さ」

ホップ「ひいつ!飛ぶの!?!デカいのに飛ぶの!?!」

ヘレス「奇跡じゃ!もはや奇跡としか言えぬぞ!」

ペル「おおお!!リブリアン!凄いぞお!」

リブリアン「プリティラブマシンガン!!!」

宙から放つ愛のマシンガン。ハートの形をしたエネルギー弾の連続弾は強大で巨大で巨愛だ!

クリリン達はかわすのに専念するが回避が出来ず・・。

クリリン「やべっ!!」

17号「おっと。想像以上のパワーだな」

17号と18号はバリアーを張り攻撃を防ぎバリアーの中にクリリンを入れ助けた。

クリリン「ありがとうな二人共」

17号「そういえば気を使うのが得意だったよな?」

クリリン「えっ?俺か?得意といえばまあそうなるのかな?」

18号「クリリン。確かエネルギー波を拡散させる攻撃があったよね?私達がエネルギーを分けるからあんたそれで攻撃したらどうなんだい?」

クリリン「ええっ!?通用するのかな?」

17号「愛の力が本当の愛に負けるわけにはいかないだろ」

18号「茶化すんじゃないよ17号!」

バジル「まったく何ベラベラ話してんだ。よくそんな余裕があるな」

18号「おい、狼と猫娘」

バジル「バジルだ!」

ホップ「・・・立ち向かえだなんで言わないでよ」

17号「立ち向かわないと困る。お前達は素早い動きであいつを翻弄してほしい。俺と18号はクリリンにエネルギーを分け与える。それまで時間を稼いでほしい」

バジル「何言ってやがる!誰が命令など・・・」

リブリアン「プリティキャノン!!」

バジル「うおっ!!」

ホップ「逃げようバジル!こんな化け物相手してられ・・・」

リブリアン「油断大敵よお!プリティキャノンは操れる」

ホップ「ま、曲がった!？」

ズォーン
!!!!

バジル「ホ、ホッピー!!!」

ホップ「いやああああ!!」

ローゼル「逆方向に飛ばされたか!!」

大神官「第9宇宙。ホップさん。脱落です」

クリリン「分かっただろ!頼むから時間を稼いでくれ!!」

バジル「く、くそお!覚えてやがれー!!」

17号「ここから一端離れるぞ」

リブリアン「逃がさないわよ〜!」

リブリアンは地に降りて17号達を追いかけようとしたがバジルがリブリアンの後頭部を蹴り挑発する。

バジル「おい!!不細工で出来損ないの豚野郎!!」

リブリアン「ぶ、不細工で、出来損ないで、豚野郎ですって!!!」

バジル「真実を伝えたただけだ!ここまで来いよばーか!!」

リブリアン「あなたから落ちてもらうわよ!・・キヤア」

ズデー
ン
!!!!

クリリン「うわ!すげー揺れたぞ」

18号「放つといたらいいさ!今はあんたの力に掛かってんだ」

バジル「よくやったぞヒソツプ」

ヒソツプ「俺の氷よく滑る」

ヒソツプがリブリアンの股の下の地で氷を吐き散らし地がツルツル滑る様に仕掛けていたのだ。

ヒソツプはリブリアンの足を凍らせようと氷を吐き続けたが全く凍らない。

ヒソツプ「効かない。こいつ暑いのか？」

リブリアン「あなたね。この私に恥をかかせたのは！プリティ・・」

バジル「シャイニングブラスター!!!」

今度はバジルがリブリアンの右踵にシャイニングブラスターを当て転倒させた。

ヒソツプ「バジル助かった」

バジル「くっそ!!全力のシャイニングブラスターも全く効いてなさそうじゃねえ

か・・」

リブリアン「ちよございわね!!愛の力にそんな攻撃効かないわよ!」

17号「もう少し欲しいな」

18号「クリリン。頼んだよ」

クリリン「ま、任せてくれ!」

17号と18号がクリリンにエネルギーを分け与えクリリンは力を溜めてゆっくりと構える。

クリリン「やる時はやるんだ俺だつて・・!見せてやるぜ」

クリリンが集中する姿にカッコいいと少し惚れ惚れする18号とそれを見て鼻で小さく笑う17号。

クリリンの身体の周囲には白いオーラが纏われている・・!!

ロージイ「カクンサ!!」

カクンサ「な、何故・・愛の力が負けるわけが・・!」

フリーザ「何故つて? 簡単です。力の差ですよ!」

ロージイはカクンサを助けようとフリーザにヤッチャイナー拳を仕掛けたが今までのヤッチャイナー拳を受け大きくなっている(ロージイよりは小さい)ベルガモに止められる。

そして、ロージイの右手首を掴み地に叩きつける!

ベルガモ「手が増えた訳じゃあるめえ!」

ベルガモは倒れたロージイの背中を踏みつける。

悲鳴を上げるロージイにベルガモは更に強く踏みつける。

フリーザは残忍な戦い方をするベルガモに感心している。

フリーザ「いいですねえ。相手を徹底的に痛め付けなければ何をするか分からないですからね。特にこの様な愛だ愛だとほざくゴミは」

カクンサ「ゴミはお前だ・・!!がああ!!」

フリーザ「ゴミには本気を出すまでもありません」

フリーザは襲い掛かってくるカクンサにデスビームを乱射しカクンサの身体の至る箇所当て貫通させる。

苦しみがくカクンサを楽しみながらデスビームを乱射するフリーザの残忍性にベルガモは嫌気がさしロージイを痛め付けるのをやめ左手で髪の毛を掴み右手でぶん殴り場外へ叩き落とした。

フリーザ「おや、もうお止めになられたのですか?」

ベルガモ「やりすぎだ。殺してしまえばアウトなんだぞ!」

フリーザ「殺さない程度に痛め付けてますのでご安心を」

カクンサはついにダウンし巨大化が解かれ元のサンカ・クーの姿に。

これでは殺してしまうとフリーザは尻尾でゴミを掃くかの様にサンカ・クーを場外へと落とした。

大神官「第2宇宙。スー・ローズさん、サンカ・クーさん。脱落です」

スー「ヘレス様。申し訳ございません」

サンカ「せっかく愛の力を頂いてもらえたのに・・・」

ヘレス「スー、サンカ。よく頑張った。リブリアンとザーロインの応援をするのじゃ
ペル「それにしてもザーロインのダメージはそんなに酷いのか・・・さつきから一歩も
動いていない」

ザーロインはリブリアンを影で見守っている。ペルはリブリアンのピンチになれば
駆け付けるだろうと思っていた。

第2宇宙はリブリアンとザーロインの二人のみ。消滅が近付いている・・・。

ベルガモ「巨大化すれば強くなれるって訳じゃねえんだよ」
フリーザ「それでは私はまた見物でもしますかね。あのリブリアンとかいう女戦士と戦うのか見物するかはあなた方にお任せします」

ベルガモ「お、おい!待て!・・まあいいだろう。今回ばかりは助けられなきや危なかったかもしれないからな」

ベルガモはあぐらをかいて体力の回復をする事に。

リブリアンはロージイとカクンサがいなくなり攻撃がヒートアップ。

鼻息が荒くなり攻撃も怒り混じりの一撃で拳を振るうだけの拳圧だけでバジルとヒソップが吹っ飛ばされていった。

脱落は免れたもののあれ以上相手するのは危険と判断し逃げる事に。

バジル「化け物め!逃げるしかねえよ」

ヒソップ「ババ、バジル」

リブリアン「プリティ・・・」

バジル「やべえ!! キャノンが飛んできたら終わりだ!」

リブリアン「キャ・・・」

18号「おいデブ!」

リブリアン「ぬぐっ!?!」

17号と18号のエネルギー弾がリブリアンの後頭部に直撃!

ダメージはほぼ効いていないがリブリアンはデブと言われ怒りの矛先を18号達に変える。

リブリアン「デブではなくこれは愛ある肉体・・・」

17号「どうでもいいだろ。お前にプレゼントしたい物がある」

リブリアン「プレゼントですって?」

18号(クリリン!)

18号が目で合図するとクリリンは拡散エネルギー波を撃つ構えを取った。

18号と17号からエネルギーを分けてもらいクリリンの身体はエネルギーで満ち溢れている。

このエネルギーを拡散エネルギー波で使いリブリアンを脱落させる手段に出る。

クリリン「行くぞ・・・!」

リブリアン「ありがとう♡っていらないわよ!!あなた達にプレゼントを上げるわ。それは・・・私の愛よ!!」

リブリアンはまた羽を使い宙を飛び今度は体を丸め回転し始めた。

火の玉・・・いや、あれはまるで隕石!!

17号「落ちれば脱落決定だな」

18号「頼んだよ・・・」

クリリン
!!!

クリリン「はああああ!!!」

果たしてクリリンは18号と17号にエネルギーを分け与えてもらい放った拡散エネルギー波で巨大隕石のごとく落下するリブリアンを弾き返せるのか!?

力の大会終了まで残り35分

愛の超決戦！ クリリン一家VSリブリアン！！

クリリン「ぐっ・・・！」

18号「17号」

17号「分かってるさ」

クリリンの拡散エネルギー波、人造人間二人の気弾連射で隕石の如く落下してくるリブリアンを押し返そうとする。

が、リブリアンはそれすらも押し潰しながらクリリン達に迫る！

クリリン「まだだ！！はああああ
!!!!」

クリリンは全開で拡散エネルギー波を出す。

絶対に負けない。絶対に勝ってやると気合充分だ。

だが、それを揉み消すかの様に迫るリブリアン。ついに3人の前に近付いてきた。

眼前にあるリブリアンの巨体。このままだと潰されてしまう！

クリリン「限界を超えるしか……。じゃないと勝てない！」

18号「クリリン！無茶するんじゃないよ!!」

17号「身体が耐えられなくなるぞ!？」

クリリン「18号、17号。この後の戦いは任せるぜ。この勝負は俺が絶対に……」

勝ってやる!!!

18号「クリリン!!」

クリリン「おとおおおお!!!」

クリリンは無我の境地から限界を超える力でリブリアンを押し出す。すると、リブリアンの巨体が目の前で止まった。

クリリン「お前の愛の力は重いし強い。けど、俺だって負けられねえんだ!!」

クリリンは限界を超えた中、家族で笑い合っている光景が頭に浮かんだ。

妻の18号、娘のマーロン、義理の弟の17号……。自身は妻や弟には戦闘力では遥かに劣る。

それでも、やれる事はやらないといけない。

クリリンの強い意志がリブリアンを今度は逆に押し返していく!!

シン「あの巨体を押し返しています!」

ペル「リブリアンのパワーが押されているというのか!？」

クリリン「これで・・・つぐ・・・どうだあ!!!」

リブリアン「どこにそんな力が!？」

クリリンの全身全霊を込めた拡散エネルギー波がリブリアンを無の界の真つ暗な空へと飛ばした!

リブリアンの悲鳴が真つ暗な空から聞こえる。

クリリン「ううっ・・・」

18号「クリリン!!」

17号「・・・」

クリリンは息苦しく呼吸をしながら倒れてしまった。

自身の限界を超えた力の負担は大きくこれから先、まだ戦うのならば命を削る覚悟で挑まなければならないだろう。

18号「本当に無茶してさ・・・けど、あの時のあんた、誰よりもカッコよかったよ」
17号「このまま脱落しても誰も文句は言わないな」

クリリン「へへ・・・俺だってやる時はやるんだぜ・・・」

18号「・・・けど、あいつまだ脱落してないのかい？」

無の界の真つ暗な空へ飛ばした。けれども、大神官の口から脱落の言葉が発せられていない。

17号が真つ暗な空を見上げるとピンクの何かが一番星の様に輝いている物が見えた。

17号「あの光は・・・まずい！」

18号「どうしたんだい17号？」

17号「奴は飛ばされたのをいい事に気を溜めていたのか!!」

クリリン「うわわ、17号!?!」

17号「バリアーでは防げない。散らばるぞ!」

18号「・・・あいつまだ残っていたのか」

17号はクリリンを背負い今いる場所から東に。

18号は西に移動する。二人は移動する前から策を立てていた。

17号「18号!チャンスが来たら・・・」

18号「ああ。そのつもりだよ」

リブリアンは右手を上へ上げ強力なハートの形をしたエネルギーの塊を作っている!

リブリアン「あなた達の愛なんてたかが知れているわ!本当の愛のパワーを今ここに・・・!」

ヘレス「皆よ!!今こそリブリアンに最大の応援を今こそ!!!」

サンカ「はい!ヘレス様!!」

ジームズ「第2宇宙の光を・・・!」

脱落した第2宇宙の戦士、ペル、ヘレス、そして残っているザーロインもサイリウムを手にリブリアンを応援。

すると、ハートの形をしたエネルギーの塊がどんどん大きくなっていく!!

17号「まさか孫悟空の元気玉の要領で・・・!」

クリリン「悟空が元気ならあつちは・・・」

18号「愛情とでも言いたいのかい・・・!」

リブリアン「感じる。皆の・・・第2宇宙の愛のパワーを!!」

ヘレス「やるのだリブリアン!!お前の最大の技を・・愛のパワーはどれ程美しく強い
かを!!」

リブリアン「もちろんですヘレス様・・!これが第2宇宙の希望の光!!!」

アフエクシヨンボールよ
!!!!!!

悟空「あれは・・やべえ!!」ピシユン

ゴクウブラック「まあいいだろう。楽しみは後に取っておくとする。人間め・・」

セル「おっと・・・一気に3人脱落されては困るな」

強大なエネルギーを秘めたリブリアンの技に悟空、セルが動く。
ビルスもリブリアンの奥義に動揺する。

クリリン「悟空、それにセルまで!」

17号「あの攻撃からは逃げられない・・・5人で押し退けるしかない。お前と共同作業などしたくなかったけどな」

セル「ふん。私は3人も脱落されては困ると思判断しただけだ。18号は何処だ?」

17号「別の作業に移っている。俺達はこれを押し退ける事だけを考えればいい」

悟空「ハアアア!!!」

クリリン「ぐっ・・・」

17号「無理をするな。今度は俺達があいつを倒す番だ」

セル「吹き飛ばえい!!!」

悟空とセルは超サイヤ人のかめはめ波で応酬。17号もエネルギー波で応酬。しかし、愛のパワーの塊のアフエクシオンボール（愛情球）は重く押し返せない。

ビルス「第2宇宙め・・こんな切り札を持っていたとは」

シン「しつかりしてください!!」

老界王神「そのまま地に沈めば四人脱落になつてしまうの〜」

ウイス「おそらくリブリアンさんはこれで一気に落とすにかかっているのです。そして、あの応援がパワーの源になり威力がどんどん上がっていますねえ」

ビルス「何だと!? おい、第2宇宙!! その応援は反則じゃないのか!？」

ヘレス「反則? これは奇跡の力じゃ! ルールに反していない」

全王「おつきいねー!」

未来全王「おつもいねー!」

ビルス「全王様が見とれているのか・・」

抗議をしようと思ったビルスだが、全王の機嫌を損なうと危険なので黙って観る。シャンパとキテラは第7宇宙のピンチにニヤニヤしておりビルスはそれを見て舌打ちをしながら不愉快な気分。

悟空「ぐぐつ・・・こいつはすげえ気だ・・・」

セル「面白い・・・!これがあの宇宙の最強の技か。元氣玉と似たような技か・・・」

リブリアン「おーほっほっほ!!第2宇宙皆の優しき愛であり重き愛なのよ!!あなた達にこの愛を受け止めようだなんて・・・」

絶対に不可能なのよ
!!!!!!

ヘレス「もつと応援をするのじゃー!!」

リブリアン！

リブリアン！！

リブリアン！！！！

リブリアン「愛が溢れる・・皆の応援が私を更に・・！！」

コールと共に更に膨らむ愛の塊！！

悟空達は押される。流石にこれ以上は危険と判断し超サイヤ人ブルーになって愛の塊を押し出そうとする。

悟空「フグギギ、ググウ・・」

セル「これが貴様の力か・・確かに強力だ。ならば、私も一段階強くなったパワーをお見せしよう」

ブルアアアアアアア

！！！！！！！！

クリリン「セルの奴・・・いつの間にこれほどのパワーを・・・」

セルのパワーは超サイヤ人ブルーには劣るものの凄まじい気だ。その気の強さを目の前で感じ取った悟空はワクワクしていた。

悟空「おし、セル!! 一気に押し出すぞ!!!」

セル「貴様に言われるまでもない」

両者のかめはめ波が愛の塊を徐々に押し返していく。

高笑いしていたリブリアンは笑うのをやめ押し返されているアフエクシヨンボールを押し出そうと前が出る!

リブリアン「この・・・!!」

17号「今だ行けえ!!」

おおおおお
!!!!

リブリアン「嘘!？」

18号は前に出てきた巨大化しているリブリアンの額目掛けて右拳を突き上げて突っ込んだ!!

アフエクシヨンボールが押されれば前に出て押し返すと読んでいた。

リブリアン「そ、そんな!!」

クリリン「18号さーん!! いけえー!!!」

18号「こつちの愛だつてあんた達と負けず劣らずなんだよ!!」

リブリアン「あの鼻のない男は・・・ま、まさかあ・・・!!」

リブリアンが発言する前に18号の突撃がリブリアンの額を貫通!!

リブリアンの巨体が光となって消えてしまいアフェクションボールも同時に消えてしまった。

ペル「リ、リブリアンがああ!!!」

ヘレス「第7宇宙の愛・・・!こ、これほどとは・・・」

リブリアンの変身が解除される。

そして、ブリアンは地に倒れる。

ブリアンに迫る17号、18号、クリリン、悟空、セル。

もはや、満身創痍のブリアン。けれども、諦めていない。

ブリアン「ううう・・・愛は・・・私達の愛の力はまだ・・・」

18号「もう、あんたは動けない。脱落してもらおうよ」

クリリン「悪いとは思うけどよ・・・俺達だって負けられないんだ」

ブリアン「あ、あなた達まさか夫婦なの?」

18号「ああ」

クリリン「そうだ」

ブリアン「・・・そう。お似合い・・・とは思えないけど」

17号「中身が大事なのさ。な」

18号「顔もいいさ！」

クリリン「喜ぶべきなんだよな・・・」

セル「もういいだろ。さっさと消えてもらおうか」
ブリアン「終わらないわよ。まだ・・・！」

ビシッ
!!!!

18号「なっ!？」

17号「しまった!!」

セル「何だこれは!？」

悟空「おめえ、まだ何かあったのか!？」

ブリアン「ビッグアムール!!愛なき者を拘束よ!」

18号「くっ・・・不覚」

セル「・・・ふふ。やるではないか」

ブリアン「な、何がおかしいのよ・・・あれ、鼻無しハゲは・・・」

ハアアア
!!!!

ブリアン「きやああああ
!!!!」

クリリンは残像拳でビッグアムールを回避しブリアンの背後に回っていた。そして、エネルギー弾を放ちブリアンを吹き飛ばした！

クリリン「くっ・・・場外に落とせなかったか・・・」

悟空「クリリン!!」

クリリンは疲労で立ち上がるのもやっと。

ビッグアムールから解放された悟空達。18号は真つ先にクリリンに駆け寄り介抱した。

18号「よくやったよ。クリリンがいないとあいつは倒せなかった」

17号「助かった。クリリン・・・いや、義兄さん」

クリリン「へ、へへ。俺久々に役立てたかなあ・・・」

ブリアンはもう戦えない。それでも第2宇宙の誇りを胸にフラフラになりながらも立ち上がる・・・。

ヘレス「ブリアン・・・そこまでして・・・」

ブリアン「ヘレス様：私はまだ戦えます。第2宇宙の希望・・・このブリアンが必ず・・・」

セル「能書きも飽きたぞ。消えろ」

ペル「ザーロイン!!ブリアンを庇うのだ!!!」

ザーロイン「はい」

ブリアン「ザーロイン・・・」

セル「二人まとめて落としてやる。グツバイ」

セルは大きめのエネルギー波をブリアンを庇うザーロイン目掛けて放つ。

もし二人脱落しようものなら第2宇宙は消滅。

ベルガモ「第2宇宙は終わりだな・・・ん?あいつの右腕、俺の噛んだ跡が消えて

いないか？」

ブリアン「ごめんなさいザーロイン・・・」

ザーロイン「ブリアン様。もう、動けないのですね？」

ブリアン「・・・そ、そうね。でも、回復すればまだ戦えるわ！」

ザーロイン「・・・それは仕方ない。ならば、動けない戦士などもう・・・」

必要ない!!!

ブリアン「ザーロイン!何を!」

ドゴオン
!!!!

悟空「あ、あいつ!!」

17号「仲間を盾にしたのか!」

クリリン「ひ、ひでえ・・・」

大神官「第2宇宙ブリアンさん。脱落です」

ヘレス「ブ、ブリアン!!!」

ペル「ザーロイン!!何故だあ!!!何故ブリアンをー!!!」

思わぬ凶敵現る!!!

第2宇宙史上最凶の戦士 悪魔のツフル人！

ザーロインの卑劣な行為に唾然とする悟空達と第2宇宙の面々。

ペル「サワアよ！何故、あの様な男を招聘したのだ!!」

サワア「おや？ペル様は筋肉質な戦士を連れてくる様に私に伝えたのではありませんか？」

ペル「た、確かに言ったが・・・」

ラバンラ「あ、あいつは・・・」ガタガタ

ザーブト「へ、ヘレス様！あの男はもしかや!!」

ザーロイン「破壊神ヘレス、俺様を覚えているかな？」

ヘレス「・・・生き残っていたのか。ツフル人の寄生体め！」

ザーロイン「クククク・・・。ああ、そうだ。俺様は貴様に破壊される直前、寄生した

奴の体から離れ別の者に寄生したのだよ」

ザーロイン「それがこいつ、ザーロイン将軍。第2宇宙で最大のパワーを誇る男だ！元々は宇宙を守る心優しい光の将軍だったが・俺様が寄生した事により第2宇宙を絶望に変える闇の将軍と化したのだ」

ペル「第2宇宙の悪なる者は全てお前が仕組んで送り込んでいたのか・・・」

ザーロイン「グワツハツハツハー!!! 察しがいいなペル。優しさの宇宙？俺様にとつては最悪の宇宙だからな!! ヘレス、大会で優勝したらこの俺様を破壊神にしろ!!!」

サンカ「ヘレス様に向かって何たる無礼を！」

ザーロイン「おっと、このまま脱落してもいいんだぜ？俺様が落ちれば消滅だからな」

18号「気に入らないね!!」

18号がザーロインに飛び掛かり拳と蹴りを何度もボディにぶちこむもザーロインは余裕の顔。

逆にザーロインが18号の腹部に右ボディブローをぶちこみ18号がぶっ飛ばされた!

ザーロイン「まさかあの女共が第2宇宙最強だと思っていたのか? ガア!!!」

18号「ぐあつ・・・」

17号「18号!!」

クリリン「18号さん!!!」

悟空「とんでもねえ奴が現れたな・・・それにツフル人って界王様から聞いたことあるぞ」

セル「ツフル人か・・・第7宇宙ではサイヤ人に滅ぼされた種族だろ? ベジータの方がその事については詳しいだろう」

ヘレス「忌々しいツフル人め・・・奴等が第2宇宙の人間レベルを下げた要因じゃ」

ペル「多くの星を破壊し更には罪無き人間を拉致し自分達の強化の科学実験の為に犠牲になった人間が数えきれない程いる・・・あいつらは我が第2宇宙の悪魔だ!!」

ザーブト「私の故郷も家族もツフル人に・・・」

ラバンラ「思い出したくねえよ・・・」

プラン「父ちゃん・母ちゃん・うう・・・」

ハーミラ「くそお! あんな奴に第2宇宙を託さなきゃならねえのかよ!!」

ザーロイン「俺様を本気で戦わせたくば大会で勝った条件として破壊神にしろ!!! 優しさの宇宙など直ぐに終わらせこの俺様が人間レベルを上げるために徹底的に破壊活動をしてやるぞ!!」

スー「ヘレス様。私達は消滅も覚悟しています・・・」

サンカ「あの様な者にヘレス様の破壊神としての座をとられるくないなら・・・」

ヘレス「スー、サンカ。気持ちを受け止めておく。だが、この戦いは宇宙そのものがかかっておる。例えお前達が良くても応援している愛する第2宇宙の民達はどうするのだ?」

ブリアン「ヘレス様・・わ、私は・・」
サンカ「ブリアン!!」

悟空「おめえ、あいつらと仲間なんだろ? どうしてあんなひでえ事したんだ?」

ザーロイン「仲間? フハハハ! あいつらは利用してたに過ぎない。さあ、第7宇宙の愚かな人間どもよ。神になるこのザーロインにかかってくるがいい!」

17号「いけすかない奴だ」

クリリン「18号さん。大丈夫ですか?」

18号「ああ・・何とか。あいつ、今まで力を隠していた様だね」

クリリン「俺達は体力回復に専念しよう。あれほど強い敵は悟空やベジータぐらいの強さじゃないと厳しいかもしれない・・」

ピツ!!

クリリン「うわっ!」

クリリンの左頬にデスビームがかかる。

悪どくニヤリとするフロストが二人を落とそうと狙っていた!

フロスト「おやおや、随分と弱っていませんかね?」

18号「またお前か。丁度いい。今度こそ叩き落とす!!」

クリリン「くそっ! 当たって砕けるだ!」

ザーロイン「オラアどうした!!」

17号「頑丈なやつだ」

ザーロイン「このザーロインの肉体を完全に支配している。この様にな」

ザーロインの腹部から顔面が出てきた。

不気味にニヤつく顔面に不快を現す二人。

悟空「気持ちわりいな・・・」

17号「結局は他人頼りか。お前自身は何も強くなっていないのだな」

ザーロイン「強者の身体を支配しツフル人の高い知能を持って操作する。せつかくの能力を有効活用できない光の將軍ザーロインは俺様に肉体を支配されるべきだったのだ!!」

17号「勝手な奴め・・・」

ザーロイン「見せてやろう。その力を・・・神になる俺様の力をな!!」

グオオン!!

悟空「何!?!引き寄せられ・・・」

ザーロインの右腕がどす黒いオーラに包まれている。

悟空はオーラに引き寄せられリアットをもろに受けた。

17号「孫悟空! くっ!!」

ザーロイン「俺様の右腕からは逃げられんぞ。このブラックホールアームは俺様が引き寄せたい者を引き寄せられる!!」

17号「引き寄せられるなら反撃するだけだ!」

17号は引き寄せられるのを利用しザーロインに突撃するがザーロインの右腕の裏拳が頭に直撃し地に叩き付けられカチカッチン鋼の地面が砕ける。

更にザーロインは重い身体からの右足で17号を踏みつける。

17号「うわあああ!!!」

悟空「17号!!」

ザーロイン「次は貴様だ!!」

セル「ふっ・・・」

ザーロインの右腕にセルが引き寄せられる。

セルは地を砕き足を埋めるもブラックホールアームに引き寄せられていく！

ザーロイン「そんな小細工でブラックホールアームから逃げられると思ったのか!!」
セル「うおおおお!!!・・・なんちゃって」

ザン!!!!

ザーロイン「ぐおあ!!」

背後からデススライサーがザーロインの右腕を切り裂き顎を蹴り飛ばす。

だが、ザーロインにはびくともせずニヤつきながら顎を蹴ったセルの右足を掴みぶん投げる。

カチカッチン鋼の岩柱をぶち壊しながら投げ飛ばされていった。

ザーロイン「こちらも、なんちゃってだな」

セル「ぐっ・デカ物めが」

ザーロインの右腕がすぐにゲル状の液体で固められ再生される。

斬撃も受け付けず身体の硬さとゲル状の液体で再生も可能なザーロインの特異な肉体に悟空は本気を出さないと勝てないと判断。

悟空「おめえ、本当につええな。本気で掛からねえとやられちまうな」

ザーロイン「本気になっても無駄だ。神に相応しき俺様のパワーに敵うはずがない」

悟空「オラだって神の気を纏めれるぞ」

ザーロイン「あの蒼い髪の奴だな。いいだろう！神に抗う愚かな人間よ。このザーロインが直々に神罰をくれてやろう!!」

悟空「大会で勝たなきゃ神になれねえのならまだおめえは神じゃねえよな?」

ザーロイン「もう、なったも同然だ！全宇宙は俺様に絶望するのだ。グワツハツハ・」

ズドツ
!!!!

ばか笑いしていたザーロインの腹部に気の刃が刺さる。

ザーロインが振り向くと怒りに震えピンクの髪に染まる黒き戦士の姿が・・。

ザーロイン「貴様は第10宇宙の・・・」

悟空「ブラック・・・!?」

ゴクウブラック「貴様みたいなカスが神という言葉を経々しく使用するな・・・!」

ザーロイン「カスは貴様だ!ウオオオオオ!!!!」

悟空「17号」

17号「俺は大丈夫だ。お前はまだあいつと戦うのか?」

悟空「いや、手は出さねえ。あいつもちつとサイヤ人の気質があるなら邪魔はされたくねえだろうし・・・」

17号「・・・本当はお前もあいつとサシで戦いたかったのだろ?」

悟空「へへっ。本当の事言うとな」

17号「呆れた奴だ……」

悟空「ん？クリリンの気が小さくなっているぞ!!」

18号「どこまでも卑怯な奴め!!」

フロスト「誉め言葉と受け止めておきますよ」

18号とフロスト。万全な状態ならほぼ同レベルで疲労していけば18号に分があるがゼロインにぶっ飛ばされた時に右足を負傷し思った戦いが出来ないのだ。もちろんフロストはそれを知っており右足を中心に攻撃する。

クリリン「18号さん……」

18号「クリリン! あんたはここから離れな!! こいつはあたしがぶっ倒す!!」

フロスト「私自ら離してあげますよ」

18号「しまっ．．！」

フロストはデスビームで18号の右足を狙い打つ。

構えもなく突然放ってきたので直撃し18号は悲痛な叫びと共に右膝が地に付く。

フロストは更に地を砕くほどの勢いのある飛び出しで逃げようとするクリリンの腹部に飛び膝蹴りを仕掛けヒット！

クリリンは意識が薄れ場外に．．．。

ドンッ

クリリン「あ、あれ．．俺まだ残ってる．．？」

場外寸前で助かり目を開けるとそこには白い肌の戦士が．．。

その姿を確認したクリリンの顔が青ざめる。

クリリン「フ、フ、フリーザ・・・」

フリーザ「フロストさんは優しいですね。この程度ですまそうとしたのですから」

ズドツ!!

クリリン「ぐ・・・えっ」

フリーザの踏みつけがクリリンの腹部に何度も・・・。

血を吐き散らかすクリリン。

クリリンは今度こそ意識が無くなりフリーザの遊び道具となってしまうていた。
ビルスはフリーザの行いに怒りを露にしている。

フリーザ「おやおや、もう少し面白い鳴き声を聞きたかったのですけどね」

フリーザは踏みつけるのをやめクリリンの胴着の襟を掴み場外に投げ飛ばすとフワフワと宙に浮く。

フリーザ「思い出しませんか？孫悟空」

悟空「フリーザ・クリリンをよくも!!」

フリーザはわざと落とさず悟空の気を感じ取ったのでかつてのトラウマを思い出させる為にこの様な卑劣な行動に出る。

悟空がクリリンの死により超サイヤ人に目覚めたきっかけとなった状況と似ている。

ただ違うのはフリーザはあの時と違いダメージを全く受けてなくクリリンに意識がない事であった。

フリーザ「私がこの手を閉じればどうなるか覚えていますよね？」

悟空「やめろフリーザー!!!」

フリーザが手を閉じようとしたその時。

フリーザ「くっつ・・誰ですか!？」

フリーザの手にエネルギー弾が当たり手を閉じられずクリリンはそのまま落ちていった。

悟空「ク、クリリン!!」

大神官「第7宇宙クリリンさん。脱落です」

悟空「ベジータ!」

ベジータ「貴様の好き勝手になどさせるものか!!」

フリーザ「これはベジータさん。まさかあなたが人助けをするとは思いませんでしたよ」

ベジータ「貴様の思い通りに行動はさせません!今すぐにも叩き落としてやるぞ!!」

フリーザ「今あなた達と戦うのはリスクがあるのでやめておきますよ。ほっほっほ!!」

悟空「待てフリーザ!!!」

フリーザは地にエネルギー弾を放ち爆煙を利用し逃げていった。

ベジータはフリーザを必ず自分の手で場外に落とすと宣言し悟空と別れる。

悟空「オラだってフリーザとは戦けえてえのによ」

フリーザ（フロストさんは何やら第4宇宙の戦士達と密談していましたね。ま、彼等が勝手に第7宇宙を狙ってくれるのならこちらとしても好都合ですよ）

第7宇宙の観覧席ではウイスがクリリンを回復させクリリンの意識が戻った。

クリリン「すみません・・・」

シン「よくやってくれましたよクリリンさんは！お疲れ様です」

ビルス「第2宇宙の奴の相手への攻撃は見事だった。結果的には強力な技を放つ原因となったけどね」

クリリン「うっ・・・」

ビルス「ふん・・・だが、あの根性は見事だったぞ。クリリン」

ビルスはクリリンの勇敢な戦いぶりを評価しツルリンと呼ぶのをやめた。

クリリンは応援に回る事に。

クリリン「皆俺の分まで頑張ってくれよ!!!」

悟空「クリリン・・・へへっ、おめえの分まで暴れっからよ!」

フロスト「フフフフ・・・ついに脱落者が第7宇宙から出てしまいましたね」

17号「すぐにお前も脱落させてやるから安心しろ」

18号「クリリンをよくもやってくれたね！」
フロスト「落としたのはフリーザ先輩ですけどね。ま、私が落としたという事にほぼ
変わりはありませんがね」

17号「18号戦えるか？」

18号「余裕だよ。こいつは絶対に落とす!!」

フロスト（さあ、作戦開始ですよ）

第4宇宙の方々。

第7宇宙からついに一人脱落者が出てしまった。そして、第2宇宙の残り一人の戦士
ザーロインの残忍な本性と本来の戦闘力はゴクウブラックと拮抗する程の実力だ！ゴ

クウブラックは果たしてゲル状の身体で再生しブラックホールアームで引き寄せる最凶のツフル人、ザーロインをどう攻略するのか!?

力の大会終了まで残り33分!

裁きが下される時!! 全ては神の思うままに

ゴクウブラック「お前みたいなカスが神になれると思うか？神とは美しく気高く孤高なこの俺の様な姿と強さでなければなり得ない」

ゴクウブラック「お前は醜く汚ならしくそして人間だ。人間が神になろう等と夢を思うのなら今すぐ俺が絶ちきってやろう」

ザーロイン「ベラベラと喋る神だな。いや、自称神か。貴様こそ神ならば何故この力の大会に出場している？貴様も神ではなくただの人間だろうが!!」

ブラックホールアームでゴクウブラックを引き寄せる。ゴクウブラックは右手に気の刃を出しながら突撃する。

ゴクウブラックをぶん殴ろうとした右拳。だが、怪しく光る刃がザーロインの右拳を先に貫く!

ザーロイン「効かぬ!!」

ゴクウブラック「これで終わりではないぞ。知性なき人間よ」

突き刺した刃を手に持ち気を送ると刃が肥大化しそのままザーロインの右半分を消滅させた!

殺したと喚くペルと失格だとゴクウブラックに指を差すロウ。

ゴクウブラックは煩い界王神に呆れる。

神なのに殺したと無様に吠え散らかす。

冷静に判断も出来ず失格と決めつける。

今すぐにでも殺してやりたいとペルとロウに一睨し左半分のみ身体のザーロインに刃を向ける。

ゴクウブラック「さつきと再生しろ。どうせこの程度の攻撃など効いていないのは分かっているぞ」

ザーロイン「どうした? 左半分は消さないのか?」

ゴクウブラック「これは見せしめだ。どれだけ切り裂いても意味がないと愚かな神共に分からせる為のな」

ゴクウブラック「お前こそ油断していた俺にさっきのブラックホールを何故使わなかった？左腕では発動出来ないのか？」

ザーロイン「俺様の勝手だろ？グワツハツハ!!」

ゴクウブラック「何!？」

ゴクウブラックの背後が何かに引き寄せられる!

消滅させたザーロインの右半分の身体がゴクウブラックの背後に立っており右腕で引き寄せたのだ。ザーロインは右半分が消滅させられる際に細胞の一欠片を残し気を消しながらゴクウブラックの背後に潜ませていたのだ。

気付けなかったゴクウブラックの背中にザーロインの右腕の一撃がヒット!!
ゴクウブラックが地に倒れる。

ゴクウブラック「ぐっ!!」

ザーロイン「どうしたんだよ神様？おっと俺様も神だったな」

ゴワス「ブラック!!超サイヤ人口ゼになっておるのに・・・」

ラムーシ「何という身体をしておるのじゃ。あのザーロインという男は」

ビルス「ゴクウブラックですら苦戦する相手とは・・・」

シン「これは勝てるのか分からない相手かもしれないね」

ビルス「まあ、僕達第7宇宙から見ればどつちが脱落しても美味しいのだけだね」

ウイス「第2宇宙の皆さんはさぞ複雑でしょうね。人間レベルを落としていた全ての

元凶がこの宇宙の生き残りをかけた戦いにおいて最後の希望なのですから」

ヘレス「ブリアン・・・本当にそれでよいのか？」

ブリアン「私は全然大丈夫ですヘレス様。それにザーロインの立場からしてみれば足手まといがいて守り抜くなんて出来ないでしょうし」

ブリアン「それに私はこの優しさの宇宙を誇りに思っています！ヘレス様とペル様が作り上げた理想郷。今この戦いを見ている皆を不安にさせてはならないのです」

ペル「ブリアン、お、お前・・・」

ブリアン「皆、怒りや悲しみの気持ちを今は抑えてほしいの。私達は優しさの宇宙よ。どんな悪人であれ宇宙存続をかけて戦っている。だったら・・・」

応援しましょうよ
!!!

サンカ「ブリアン・・・」

スー「あんな酷い目にあつたのに・・・」

ハーミラ「そうだよな・・・そうだよ！」

プラン「優しさの宇宙・・・」

ジームズ「そのお心の広さ。まさに優しさの宇宙のリーダーとして相応しきお姿です
ブリアン様」

ラバンラ「流石ブリアン様！俺は自分の事しか考えていなかっただよ」

ザープト「どんな悪人でも・・・そうであった。優しさの宇宙の誇りを我々は忘れてい

た・・・」

ビカル「だったらやるべき事は一つ・・・」

ブリアン「さあ、皆応援よ!!」

ブリアン達はサイリウムを手に取り全力でザーロインを応援する。
例えばどんな悪人でも・・・優しさの宇宙の真骨頂が発揮されている。

ベルモット「強いな。ヘレスが作り上げた宇宙は」

カイ「はい。あれほどの極悪人ですら優しさで包み込もうとするとは・・・」

ザーロイン「俺様が勝てば真っ先に破壊予定のカス共が応援とは・・・滑稽だな」
ゴクウブラック「元に戻りやがって・・・」

ザーロインの別れていた身体が元に戻り再度ブラックホールアームで引き寄せようとしたが瞬間移動で背後に移動したゴクウブラックがザーロインの背中を蹴り飛ばし

連続エネルギー弾で攻撃。

だが、ザーロインには無傷。それでもゴクウブラックは攻撃の手を緩めずひたすらラツシユを掛ける！

ザーロイン「何のつもりだ!?!」

ゴクウブラック「ふん・・・」ニヤリ

ザーロイン「その笑い面をやめやがれ！カスが!!」

接近戦に持ち込めばブラックホールアームを使う意味がない。ゴクウブラックは拳と蹴りの応酬でザーロインをずるずると場外まで持ち込もうとしていた。

ザーロインの肉体は元々頑丈かつ改造されたツフル人の能力のゲル状の液体で再生が可能であったがゴクウブラックは頑丈な身体を押し出す形でザーロインを追い詰める。

ザーロイン「効かぬと言ってるだろお!!」

ゴクウブラック「大振りしか出来ないのか？デカ物」ピシユン

ザーロイン「ぐおっ!？」

瞬間移動でザーロインのハンマーナツクルを回避し頭部付近に移動したゴクウブ
ラックがザーロインの顔面を右足で蹴り飛ばす。

大きな音を立てザーロインが倒れる。

ザーロインの頭部に地がつかない。場外が近付いている!

ブリアン「ザーロイン!!あなたならまだ戦えるでしょ!」

サンカ「落ちたら絶対ダメなんだから!!!」

スー「そんな黒色に負けるあなたじゃないでしょ!!」

ザーロイン「嫌いぞカス共が!」

ゴクウブラック「さらばだ人間!」

チユドーン
!!!!

ペル「ザ、ザーロイン!!」

ゴクウブラックの黒いエネルギー弾が場外すれすれのザーロインに。至近距離からの一撃にヘレス達第2宇宙は諦めかけていたが・・・。

ゴクウブラック「逃げたか」

ザーロイン「俺様は神になる存在だぞ。これで終わると思うか？」

瞬時に液体化しエネルギー弾を回避しゴクウブラックの背後に付いていた。が、ゴクウブラックもすぐに反応し瞬間移動で逆にザーロインの背後に。

ゴクウブラックの右ストレートとザーロインの右裏拳がぶつかり合う!!

ゴクウブラック「ハアアアア
!!!!」

ザーロイン「ヌオオオオオ!!!」

全王「おおおお!!」

未来全王「おおおお!!」

リキール「第2宇宙に期待していたがまさかこれほどとはな」

18号「あつちは派手にやってる様だね」

17号「そうだな。・・・で、お前は一人では何も出来ないのか?」

フロスト「勘違いしていませんか?あなた達第7宇宙は他宇宙から恨まれているのですよ?」

マジョラ「消えてもらおうか第7宇宙」

ニンク「フッフッフ・・・」

シヨウサ「負けんぞ・・・ゴホッ、ゴホッ・・・」

フロスト「さあ、行きますよ!!」

17号「多勢に無勢とでも言いたいのか？」

18号「こんな奴等に負けないよ！」

シャンパ「フロストの奴・第4宇宙の連中といつ仲良くなったんだ？」

キテラ「キキキキ。そんな事はどうでもいいだろ。さつさと叩き落とせ！」

シャンパ「そ、そうだな……。よし、やってしまえ！」

ビルス「あいつらー!!」

ゴクウブラック「もう少しだったが・しぶとい人間め」

ザーロイン「お互い様だ。貴様ごときに落とせる俺様じゃないぞ！」

ゴクウブラック「生きる価値のない人間めが・・！」

ムリサーム「おい、大丈夫か!？」

メチオーブ「ラムーシ様からの声を聞いてな」
オブニ「助けに来た」

第10宇宙の戦士が助太刀に来たがゴクウブラックは冷たくあしらう。
ゴクウブラックから見ればメンバーも必要のない人間としか思っていない。

ゴクウブラック「失せろカス共。いてもいなくても同じだ」

ムリサーム「な、何だよ！助けに来たんだぞ？」

ゴクウブラック「神に反感するのをお前は？」

ザーロイン「ふん！」

ムリサーム「うわあ!!何だ、あいつに引寄せられ・・・」

ズドッ
!!

ムリサーム「ぐふあ・・・」

メチオーブ「ム、ムリサーム!!」

ゴクウブラック「役立たずのカスが何人いても引き寄せられるだけだ。・・・ん？」

ザーロイン「さあ、次はどいつにしようか？」

ゴクウブラック（あのブラックホール。単体しか引き寄せられないのか？この程度のカス相手なら纏めて殴り飛ばした方が効率はいいはずだ）

ザーロイン「貴様だ!!」

オブニ「来たか！」

メチオーブ「オブニ!!」

ザーロイン「雑魚はさっさと脱落しやがれ!!」

オブニ「これは厄介な能力だ・・・」

オブニはまともに戦えば勝ち目はないと判断し即座に気の流れと体の動きをずらし相手に動きを予測させない能力でザーロインのパンチを回避。

ゴクウブラックもオブニの回避能力には驚いている。

ゴクウブラック「ほう、カスにしてはマシな奴もいるのだな」

ムリサーム「ガハッ・・・あ、危なかった。もうすぐで脱落だった。それにしてもあんな化物ばかり・・・」

ビシッ!!

ムリサーム「えっ? な、何だ!? ウオオー!!」

大神官「第10宇宙ムリサームさん。脱落です」

ラムーシ「馬鹿者！何滑っておるのじゃー!!」鼻ペシペシ

ムリサーム「す、すみませーん！でも、何かに足下を叩かれた気が……」

ゴワス「ご苦勞だったなムリサーム。仲間の応援をしつかり頼むぞ」

オブニ「ムリサームがやられたか……」

ゴクウブラック「……」

大神官『殺してしまった場合その殺した選手はペナルティとして失格とし脱落扱いとなります』

ゴクウブラック（終わりにしてやるぞ）

ゴクウブラック「宣言する。人間」

ザーロイン「・・・自称神の分際で何が宣言だ」

ゴクウブラック「お前がブラックホールで引き寄せた時、それがお前達の宇宙の最期だ。神の言葉は絶対だ。そして、裁きを受けお前達の宇宙は消滅する」

ゴクウブラック「神の思うままにお前達の運命は終わる」

ブリアン「最期・・・そんな訳」

サンカ「ザーロインはあいつと渡り合ってるのよ」

スー「脱落なんて有り得ないはずよ」

ザーロイン「おもしれえ！やれる物ならやってみる!!カスが!!!」

ゴクウブラック「フフツ・・・さらば第2宇宙。絶対なる神の裁きは防げぬぞ」

ドンツ
!!!!

ヘレス「気弾を煙幕変わりにしたか!？」

ペル「それでも、ザーロインのブラックホールからは逃げられないはず!」

ザーロイン「バカが!!目眩ましだろうが気は隠せんぞ!!」

オブニ「何をするつもりだブラックは!？」

煙幕の影響を受けない場所にながら戦いの様子を見るオブニ。

煙幕の中にはゴクウブラックとメチオープがいる。だが、ゴクウブラックの気は大きくバレバレだ。

ザーロインは気を察知しブラックホールアームで大きな気を放つゴクウブラックを引き寄せていく!

ザーロイン「何が神の裁きだ!笑い話もいとこだったなあ!!吹き飛びやがれ!!」

ズボツ
!!!!

メチオープ 「ごふっ……」

ザーロイン 「な、何だと……!?」

ゴクウブラック 「神の裁きは絶対なのだ」

ザーロインの拳は何とメチオープの腹部を貫通していた。

ゴクウブラックはメチオープを抑え込みながら引き寄せられザーロインの拳に近付くと同時に強くメチオープの背中を蹴飛ばしたのだ！
勢いで飛ぶメチオープはそのままザーロインの拳に突き刺さる形で貫通。

ゴクウブラック「ルール無用ならどうつて事ないがこれは大会。ルールを忘れてはいないよな？」

ザーロイン「ま、まさか貴様!!」

オブニ「メチオープ!!!」

ゴワス「ブラック、いや、ザマスよ。何という事を!!」

ラムーシ「味方をこんな形で利用するとは。何という残酷な奴じや……」
クス「ひ、酷い……酷すぎる……」

ザーロインの右腕に血が流れる。静まり返る武舞台……。

全王「死んじゃったの？」

未来全王「ルール違反だね」

大神官「第10宇宙メチオープさん死亡により殺した第2宇宙ザーロインさん、失格となります」

ザーロイン「貴様も殺しに加担した様な物だろ!!」

ゴクウブラック「殺した選手がペナルティになる。俺は直接は殺していないからなあ」

全王「ザーロイン、ザーロインっと・・・」

未来全王「えい!!」

神PADの第2宇宙の戦士が全て黒く・・・。

ザーロインは失格となり第2宇宙の観覧席に転送されてしまった。

ヘレス「ザーロインよ」

ザーロイン「破壊したければしやがれ。どうせ消滅するのだから何も変わりはない！」

ヘレス「ご苦労だった。お前の鬼人の如き暴れる姿は力強く見事であったぞ」

ペル「そのパワーを余すことなく振るう姿、こつちの肉体も震えたぞ」

ザーロイン「・・・黙って消えたくはねえし納得もいかねえが・・・」

大神官「第2宇宙全戦士脱落。これにより第2宇宙・・・」

消滅でございます!!

全王・未来全王「はーい!!」

ヘレス「定めを受け入れるしかない・・・潔く誰より美しく」

フォーメーション
!!!

リブリアン「皆、今まで本当にありがとう!」

カクンサ「あたいたちの愛は皆の中で生き続ける!」

ロージイ「それじゃあ最後に!いつもの いっちやうよく」

ザーロイン「潔くか・・・ふん」

第2宇宙全員「ラブ」

!!!!!!!!!!!!!!

全王・未来全王「キュツ!!」

第2宇宙消滅。観覧席にいるのは付き人のサワアのみ・・。

サワア「大判狂わせ？ですかね。フフツ・・・」

ゴクウブラック「消えたか。いい気味だ。人間は全て消えるべきだからな。そして、俺を下に見る神々もな」

ゴワス「クスよ。第2宇宙は・・・」

クス「はい。・・・第2宇宙には何もありません。消滅してしまいました」

ゴワス「・・・負けられない大会とはいえ申し訳ない事をしてしまった」

メチオーブ「全く何て奴だ」

ラムーシ「うおっ!?!メチオーブ!」

死んだメチオーブは肉体が武舞台から消え頭にわっかがある状態で第10宇宙の観覧席に。

各宇宙も付き人に第2宇宙がどうなったかを聞き消滅したと分かると焦りの色を隠せずにいる。

ただ1つの宇宙の破壊神を除いて・・・。

キテラ「キキキキ。弱い宇宙が消えるのは当然。これは力の大会だ。力のあるものみが生き残るのさ!」

クル「し、しかし消滅となると・・・」

キテラ「クル。俺達の宇宙が負けると思うか?なあ、コニツク!」

コニツク「まだ時間は掛かるでしょう。・・・一応第2宇宙は完了しています」
キテラ「キシキシ!これからが楽しみだなあ!!」

ビルス「宇宙が消えたというのに・・・キテラの奴イカれてやがる」

ウイス「第2宇宙は綺麗なない。ないないバーですね。私達も気を付けないといけませんねえ」

ビルス「お前は消えないからいいよな!」

ウイス「ホッホッホ」

ベルモッド「まさか最初に消えるのが対の宇宙とはな」

カイ「人間レベルがあつても力の大会では戦闘力が必要です。我々にはジレンやトツポがいます。負ける事は有り得ないでしょう」

ベルモッド「そうだな。プライド・トルーパーズよ。対の宇宙の無念は我々『正義の宇宙』が晴らすぞ」

カーセラル「はっ！ベルモッド様!!」

クンシー「必ず!」

デイスポ「了解!」

トツポ「ジャステイス!!」

ジレン「……」

悟空達はこの戦いに覚悟を決める。

そして、それは各宇宙も同じく。

カトペスラ「Dr. パパロニが新たにベルトに付けた最先端の能力。あまりの強さに夢中になってしまったぞ!第7宇宙のポリスマン、クリリンめ。あいつとは再戦したかっただけに残念だ」

フリーザ「勝利をこの手で掴むのは私達ですよ」

ロウ「本当に消滅とは……く、くそお！負けてたまるか!!」

シドラ「フリーザをスカウトしなければ一番最初に消滅したのは我々かもしれなかった。やはり引き抜いて正解でしたな」

ロウ「私は認めてないがなあいつは！」

ケール「あ、姐さん……う、宇宙がし、消滅したつて。わ、私達もも、もしも……」

カリフラ「目え覚ましたと思つたら何素つ頓狂な事言つてんだよケール！最後に笑つてるのは私達だよ!!……それにしてもなあいつはどこにいるんだ？」

各宇宙は戦いを止めない。

戦いはここから更に過激になるだろう!!

超絶光速バトル勃発！ 悟空とベジータとヒットの共同

戦線
!!

カリフラ「ん？ヒットか。ヒット一人にあつちは二人か」

ケール「姐さん、加勢しますか？」

カリフラ「ヒットなら心配ねえよ。あいつ一人でしめちまうさ」

カーセラル「ジャステイス・フラッシュユ!!」

デイスポ「ハッ!!」

ヒット「な、何・・・」

カーセラルのジャステイス・フラッシュユのエネルギー弾の中にデイスポの光速のスピードが混じりヒットの右頬にデイスポの拳が直撃!

カーセラルとデイスポのコンビネーションに予想外の苦戦を強いられる。

クンシー「さすがは切り込み隊長のデイスポ。光速攻撃はそうそう攻略できない!まさにジャステイス!だが、まだデイスポは本気を出しちやいなえぜ」

シャンパ「1発当てたくらいまぐれだまぐれ!あーイラつく!」

ヴアドス「カツカすると血圧が上がりますよ」

シャンパ「あいつビルスと顔が似てんだよ!!」

ヴアドス「それはつまり、兄弟であるシャンパ様にも似てるということですね」

シャンパ「はあ?全然似てねえし。俺は流行のオリーブオイル顔。ビルスとあいつは古くさいソース顔っしょ!」

ビルス「誰が古くさいソース顔だ・・それにしても、ヒットが押されているとは・・」

シン「相手は第1宇宙の戦士二人ですか。やはり強豪揃いのようですね」

カーセラル「さすが殺し屋のヒット。1発くらったくらいじゃ慌てふためかないか」

デイスポ「だけどよ、お前のその余裕の感じ気に入らねえぜ！余裕をなくしてやる！！」
カーセラル「油断するなよデイスポ！」

デイスポ「ヘッ！將軍、心配ねえって！！」

ヒット「ぬおっ!？」

デイスポ「遅いぜ！」

ヒット「ぐわっ!!」

デイスポの拳がまた炸裂！ヒットは身体が宙に飛び地に激突。
シャンパはヒットが追い込まれている事実慌てふためく。

デイスポ「フハハハ!!」

カーセラル「第6宇宙のヒット。お前を倒せば第6宇宙は終わったも同然だ」

シャンパ「ヒ、ヒットが2発も……。おい、あいつの攻撃速くね？ ヴァドス見えた？」

ヴァドス「ええ、私は何とか」

シャンパ「殺しの技は使えねえし、ヒットヤバくねえ？」

ベルモッド「フフフ……。シャンパのやつ焦ってやがる」

マルカリータ「ヒットはあちらのエース格のようですよ」

カイ「加えて精神的支柱とみます。彼を倒せば第6宇宙は総崩れする可能性もあるかと」

ベルモッド「この勝負もらったな」

全王「速いよ」

未来全王「見えないよ」

大神官「神パッドに新機能を追加しました。こちらのスロー再生をご覧ください」

全王「大神官！」

未来全王「超有能！」

ヒット「攻撃の初動が見えん。まるで時とばしをされているかのようだ」

デイスポ「もう一発いくぞ!!」

ヒット「そうか。俺が時とばしを使う直前、時間にしてほんの一瞬、お前は超人的な速度で動いている」

デイスポ「ご名答」

カーセラル「デイスポは瞬間的に移動速度を数千倍にアップできるからな」

ヒット「どうりで見えないわけだ」

デイスポ「フフ、次にお前はこう考える。なぜあいつは時とばしを使う瞬間にタイミングを合わせて攻撃できるのかと」

ヒット「答えはすぐに出る」

デイスポ「ああ？」

カーセラル「ノーガードか。何もデイスポだけじゃないぞ!!」

カーセラルは飛ぶエネルギーの刃ジャステイス・カッターで遠距離で攻撃しヒットを狙う。

ヒットはこれをおろすがその瞬間の動きをデイスポは逃さない。
今度はキックが腹部に直撃し岩柱がクッション変わりになる。

デイスポ「何度やっても結果は同じだ」

ヒット「音……。時とばしを発動させるとき、ほんのわずかだが俺は全身に力を込める。それで生じる筋肉のきしむ音をお前は聞いている」

カーセラル「見事。だが、分かったところで我々のコンビネーションは対処できんだろう」

デイスポ「人が行動を起こすとき必ず肉体は音を奏でる。それが特殊能力なら尚更!!」

シャンパ「だったら周りで大きな音を立てればいいじゃん! ブブゼラだ! マイブブゼラ持つてこい!!」

ヴァドス「発想が安易です。周波数で聞き分けていると思われまますので、騒音の中でも目的の音だけ聞き取ることができるかと」

ビルス「時とばしは使う直前に力を込め一瞬の間ができる。そこを狙われたんだな」

ウイス「さようです」

シン「一体・・どんな戦いをしてるのですか・・・」

ヒット「時とばしを攻略できても俺を倒せはしない」

カーセラル「強がりはみつともないぞ」

ヒット「どうかনা？」

デイスポ「はああ！」

ヒット「うお!!」

クンシー「圧勝だな！」

トツポ「いや違う」

クンシー「リーダー！それにジレンも。リーダー、第10宇宙の奴とのバトルは!？」

トツポ「一端退いた。この戦いが気になるのな。あのヒットとやらデイスポのス

ピードに慣れてきている」

クンシー「何!？」

トツポ「その証拠に攻撃を受けつつも急所は避け將軍の攻撃にも慣れてきている」

トツポ「もしやわざとデイスポの攻撃を受けているのか?これは罠だ。クンシー!」

クンシー「ああ、俺の仕事が来たようだな」

カーセラル「このまま場外に落とすぞ!」

デイスポ「おう!!」

カーセラルとデイスポのラツシユでヒットは場外に追い込まれてしまう。

背後には真つ暗な穴が口を開けている。

デイスポ「もう後がないぜ。とどめだ!はあつ!」

カーセラル「ん?何だあの余裕な顔は?」

デイスポ「なっ!？」

カーセラル「デイスポ!!!」

シャンパ「よっしやく！もらった!!」

デイスポ「うわああ!!!」

ヒット「後がないのは貴様の方だ」

デイスポが落ちていく。カーセラルは振り向きクンシーを呼ぶ。

カーセラル「クンシー!!!」

シャンパ「いいぞ！そのまま落ちろ！」

ビシッ
!!

デイスポ「おおっ!」

ヒット「何!?!仲間か?」

クンシー「俺はプライド・トルーパーズのクンシー。貴様のようなやつに大事な仲間がやられてたまるか!ふん!」

デイスポ「おゝ痛ててて…。助かったぜクンシー」

クンシー「3人で組んで良かったな」

カーセラル「ああ。・・次元を移動して攻撃を回避したか。ヒット、やはりただ者ではないな」

シャンパ「あのロープみたいなの反則だろ!」

ヴァドス「あれは武器ではありません。身体でから発せられるエネルギーです」

シャンパ「ちっ!ずりーよなあ」

デイスポ「俺を落とすためにわざと端に追いやられていたとは」

クンシー「お前に何かあつては困るからな」

カーセラル「クンシー。ナイスサポートだ。次ももしあれば頼むぞ」

クンシー「もちろんだ」

クンシーはデイスポ達から離れ岩柱で腕を組みながら戦況を見守る。ヒットがどれだけデイスポとカーセラルを追い込んでもクンシーのサポートがある限り場外に落とせないだろう。

カリフラ「きたねーな!!あの青色野郎はあたしが倒してやる!」

ケール「あ、姐さん・・・待つ・・・」

気に入らねえ野郎共だ。

カリフラ「あー!!いたいた!」

ケール「あ、あの人は・・・」

カーセラル「ジャステイス・スマッシュユ!!」

ヒット「地面が砕けて視界が・・・」

デイスポ「今度はもらったぜ!じゃあな第6宇宙最強の男よ!!」

バチイ!!

場外に落ちそうになったヒットを叩き落とすデイスポの右拳が何者かに止められる。

赤い髪に染まり細身の身体。超サイヤ人ゴッドの悟空が間一髪ヒットを救う!

デイスポ「なっ!?!何だと!!」

カーセラル「第7宇宙が助太刀に来たか!?!」

ヒット「孫悟空、お前」

クンシー「ぐわあ!!」

カーセラル「クンシー! あいつも第7宇宙の!」

ベジータ「下らん戦いをしやがって貴様等!! おい、カカロット! その素早いネズミは俺様が相手をする!」

カカロット「何言ってるんだベジータ。あいつはオラが倒すんだ。邪魔しないでくれよ!」

ヒット「こいつは俺が倒す。それに助けなどいらん」

ベジータ「勘違いするな。俺はお前を助けた訳ではない。この戦いが終われば今度こそヒット。貴様を倒す!!」

悟空「オラもだ。助けたつもりなんかねえよ。おめえを追い込んでるあいつらを見たらさ、体がうずいちまったんだ。オラとやろうぜ!」

カーセラル「デイスポ。偉く人気だな」

デイスポ「こんな人気はいらん。それにネズミだと?」

ベジータ「コソコソ動き回る虫とでも言つてやろうか?」

デイスポ「何だと!?!お前から倒してやるぞ!!」

ベジータは超サイヤ人2になりデイスポと対峙するがデイスポの光速のスピードの蹴りを胸部にもろに受け吹っ飛ばす。

光速の中ニヤリとするデイスポは更に追撃に背中、腹部へと攻撃を与えベジータを苦しめる。

デイスポ「口だけだった様だな!!」

ベジータ「ナメやがって・・・」

デイスポ「俺の速さは常人には見えません!!」

ベジータ「常人だと?」

パシツ
!!

デイスポ「な、何!？」

ベジータは超サイヤ人ゴッドに変化しデイスポの蹴ってきた右足を掴み首もとにエネルギー弾をぶつける。

デイスポは吹っ飛ぶが体勢を整える。が、直ぐ様今度はお返しと言わんばかりにベジータがラツシユを仕掛ける!

ベジータ「俺はサイヤ人の王子ベジータ様だ!!俺をそこらの戦士だと思うなよ!!」

カーセラル「デイスポ!!」

悟空「おめえはオラが相手すつぞ」

カーセラル「孫悟空か・第7宇宙はお前が脱落すれば有利になる。いいだろう。力だけではないバトルを見せてやろう!」

デイスポ「ぐおつ!!くつ・・やってくれるな!第7宇宙の二番手にしては」

ベジータ「二番手だと? 貴様はどうやら勘違いしているな」

ベジータ「言っておくが今の俺は全力を出せばカカロットの奴を超えている:!!」

デイスポ「な、何だ!?! こいつ本当に二番手なのか!?!」

悟空「ベジータの奴・・・精神と時の部屋にへえってまた一段と強くなったのか?」

超サイヤ人ブルーをデイスポと悟空に見せ付けるベジータ。ビルスもベジータの神の気を見るなりニヤリとしながら鼻で笑う。

ビルス「フフツ。ベジータの奴、相当鍛えたらしいな。もしかすると現状第7宇宙の中で一番強いかもしれないな」

クリリン「す、すげー・・・」

シン「ベジータさんと悟空さんがいれば第7宇宙もまずは安泰ですね!」

ウイス「そうはいかないでしょう。各宇宙にも隠れた力を持つ者がいるかもしれないよ。それに第1宇宙にはジレンさんがいますからねえ」

トツポ「確かに強力だがジレンには勝てんだろう」
ジレン「……ふむ」

ベジータ「まあ、貴様程度にはブルーになるまでもない。最大でもゴツドで十分だ」
デイスポ「ナメヤがって!!」

ビシツ
!!!!

ベジータ「な、何だ!? うおお!」

ベジータの首に巻かれたジャステイス・ロープ。

クンシーが隙を突いてベジータをロープで引っ張っていく。

クンシー「こいつは俺に任せろデイスポ!!」

デイスポ「クンシー!!」

クンシー「俺のサポートはなくなるがお前はヒットをタイマンで倒せ!」

ベジータ「こんな紐で俺様を倒せると・・ぐあああ!!!」

悟空「ベジータ!!うわっつ!!」

カーセラルのジャステイス・サーベルが悟空の髪にかする。

カーセラルの眼は鋭く悟空は瞬時に強い覚悟を持つて大会に挑む強者と分かった。

カーセラル「余所見とは余裕だな。実質、力の大会の主催者よ」

悟空「へへっ。消滅はオラも望んでなかったさ。おめえらみてえなつええ奴といつぺえ戦けてえただけだったのにな」

カーセラル「プライド・トルーパーズ斬撃の戦士カーセラル。行くぞ!!悪・即・斬!!!」

ヒット「今度は一対一のバトルになったが・・一人でどこまで俺と立ち向かえるか見物だな」

デイスボ「馬鹿が」

ヒット「ん？」

デイスポ「まだ手を抜いてたんだよ。次は・・・少しマジで行くぜ!!」

ヒット「なっ?!?見えな・・・」

ドゴツ
!!

ヒット「ぐおお・・・」

シャンパ「は、速え!!」

ベルモツド「デイスポが本気を出した様だな」

カイ「ヒットは侮っていた様ですね。デイスポの本気の手速度は・・・」

光速なんか遥かに超えていきますからね!

第11宇宙が動く! 果たして悟空達はこのバトルに勝つ事が出来るのか!?

力の大会終了まで残り30分!
続く

三つ巴の決闘！吃驚仰天の大バトル！！

悟空は飛んでくるカーセラルのジャスティス・カッターをかわしエネルギー弾を撃つ。

カーセラルは右手を瞬時にジャスティス・サーベルに切り替えエネルギー弾を切り裂く。

悟空が金髪や蒼髪になっていない。それは、自分が相手だと力を発揮するまでもないと下に見られていると判断するカーセラル。

カーセラル（俺には本気を出す必要はないという訳か。・・まあ、そっちの方が好都合ではある）

悟空「エネルギーの刃かあ。ブラックと似た技するんだな」

カーセラル「ブラックというのはお前にそっくりな第10宇宙の戦士の事か？仲間を實質殺したあの非道な者と一緒にするな！」

悟空「べ、別におめえと似ているとは言ってねえぞ!!うわっ・っつと!」

カーセラルは両手のサーベルを振り回しじりじりと悟空を場外に追い込もうとする。悟空はもちろんそれに気付いており右のジャステイス・サーベルを真剣白刃取りで掴み身体を反らすとカーセラルの身体が宙に浮く。

そのまま場外に落とそうとしたがカーセラルは左のジャステイス・サーベルを伸ばし悟空を狙いつつ地に突き刺し棒高跳びの様に移動し場外から免れる。

悟空は場外から免れ安堵しているカーセラルの間を見逃さず高く宙に飛びエネルギー弾2発を撃つ。

エネルギー弾2発を切り裂くが悟空は地に付いたと同時にカーセラルに飛び掛かり右の拳を浴びせようとする。が、カーセラルも動きを読み両手のサーベルをクロスさせ腹部を狙っていた拳をガードする。

悟空「そう簡単に攻撃は通させねえってか」

カーセラル「勝負において油断と過信は禁物。・お前の拳には強いだけではない何かがあるな。威圧だけではない。俺には分かる」

悟空「おめえもな。ブラックとは違っておめえの刃は傷付けるだけではなさそうだ」

互いに認め合うも負ければ宇宙消滅の戦い。

カーセラルは勝利の為にとある罠を仕込ませている・・。

悟空「ちよつと力入れてくぞ！」

カーセラル「・・金髪になって戦闘力が大幅に上昇している。だが、攻略において支障はない！」

悟空「オリヤアー!!!!」

ベルモツド「カーセラルの知略を力だけで突破するのは至難の技だ」

カイ「将軍と呼ばれ慕われているのは仲間の采配と信頼はもちろん相手を攻略する為の知性があるから。デイスポが脱落せずすんだのもカーセラルの采配があつてこそなのですよ」

デイスポVSヒットの戦いはデイスポが光速を超える速さでリズムよく拳と蹴りの乱舞がヒットを襲う！

ヒットはひたすらガードに専念するも、デイスポに押され場外に近付いていく。

デイスポ「どうしたどうしたー!!俺がちよつとマジになっただけで守りに専念か!?!」
ヒット（光速を超える速さか。それでも、攻撃をよく目視すれば・・・）

スツ

デイスポ「また次元移動か!?!だがな!!!」

ヒット「ぐっ・・・!!」

後ろに回ったヒットだが、デイスポは直ぐ様右足を上げ、ヒットの首もとを蹴り上げる。
吹っ飛ばすヒットだが、一回転し地を滑りながら受け身を取る。

シャンパ「馬鹿な!?!ヒットの次元移動が読まれた!!」

ヴァードス「デイスポさんのスピードはヒットさんの次元移動さえ完全に無にしていま

す。このままではヒットさんが危険です」

シャンパ「おお、おいおいヒット!!お前は第6宇宙のエースなんだぞ!こんなビルスみたいな古臭いソース顔なんかには負けんじやねえぞ!!!」

デイスポ「第6宇宙はお前がエースか。言っておくが俺はプライド・トルーパーズではNo.3だ。俺より上が二人いるんだぜ?」

ヒット「そうか」

デイスポ「ハハハハ!第6宇宙はどうやら大したことがない宇宙の様だな。俺一人で全員場外に送れそうだ。まずはエース格であるヒット。お前から脱落させてや・・」

ズドツ
!!!!

デイスポ「ぐふあっ!!」

ヒット「脱落するのはお前だ」

ヒットが右の拳を高速で何発も振るうと透明の気弾があちこちに飛び交う。

デイスポは光速のスピードでかわすがヒットはそのかわし方を読みパラレルワールドを利用しデイスポの前に立ち膝蹴りを腹部に直撃させる！

デイスポ「がつ・・・！」

もろに受けた膝蹴りに腹を抑え地を滑るデイスポの後ろにヒットはまたもパラレルワールドを駆使しデイスポの背中を殴り飛ばす。

デイスポ「ぐあつ!!ぐおつ!!き、きさ・・・ぐつ!!」

パラレルワールドが飛び交いヒットにひたすら身体の前後を殴り飛ばされ怒ったデイスポが背中が飛ばされる反動を利用し光速のスピードで蹴るもヒットの身体を通り抜けていった。

デイスポ「こ、これも次元移動か!?!」

ヒット「終いだ!」

ドゴツ
!!!!

デイスポ「ぐあ・・や、やば・・落ち・・」

透明の気弾がデイスポの腹部を貫通し吹き飛ばす。
吹き飛んだ先には場外・・。

シャンパ「よし!!流石ヒット!!見たか第一宇宙!!光の速さなんざ次元移動する
ヒットには及ばねえんだよ」ブーブーブー!!!!!!
ヴァドス「シャンパ様。ブブゼラが五月蠅い!です」

ガシツ!!

デイスポ「くお!?!」

トツポ「カツカして自爆するのもお前の悪い癖だぞ。デイスポ」

間一髪、手を差し伸べたトツポがデイスポを脱落から救う。

トツポの手に掴まりジャンプして武舞台に戻り睨みを利かせるヒットに再度挑もうと構える。

が、トツポがそれを制止する。

トツポ「少し頭を冷やせ。お前の本来の実力ならあのヒットとやらと張れるはずが冷静さを欠きあわや脱落しそうになった」

デイスポ「今度は大丈夫だ!もう二度とあんなへまは・・・」

トツポ「これはリーダー命令だ。今のお前にあいつは任せられん」

デイスポ「くっ・・・り、了解・・・」

デイスポは戦線離脱し体力の回復を量る事に。

ヒット「今度はお前か？」

トツポ「私では役不足か？第6宇宙の殺し屋」

ヒット「ただ殺しをしている訳ではない。殺す人間、殺す人間を守る人間など数えきれない程人間を観察している俺から観て・・・」

ヒット「お前は只者ではない。身体の奥底に凄まじい力を隠し持っている」

トツポ「考察など勝手にすればいい。だが、勝負の最中に考察をする暇はないと思え!!」

シャンパ「くそっ！あのビルソース古臭い顔、しぶといな!!それに第1宇宙の奴等、ヒットをとことん狙うな。ま、あんなデカイ身体じゃ気弾のカッコの的だぜ！」
ヴァドス「トツポさんは非常に頑丈な身体です。ヒットさんの攻撃が通用するのかわかりませんか？」

フワ「ふわ〜っ……」

シャンパ「お前はよく欠伸びてられるな、宇宙消滅の危機なのに」

ベジータ「一瞬で終わらせてやるぜ」

クンシー「な、ナメヤがって……」

ベジータVSクンシーはベジータが優勢。

クンシーは最低でも道連れにしてやろうと気で出来たロープでベジータを拘束しようとする。

ベジータ「芸のない奴め。さつきからそればかりでつまらん」

クンシー「これが俺の戦いだ」

カリフラ「やるなああいつ。あんなにウネウネしまくってるロープをかわし続けてらあ」

ケール「あ、姐さん……本当にあの人と戦うつもりですか？」

カリフラ「たっぷりめえだろケール!!あのひよろひよろのキャベをあそこまで強くした男だ!教えるだけでなくつえーに決まってる!!」

カリフラ「それにお前のあの暴走したパワーを試すには絶好の機会だ。あたしとお前であいつに勝つぞ!」

ケール「えっ・・・わ、私も?む、無理ですよ・・・」

ベジータ「ハアツ!!」

クンシー「くそっ!!」

体から発せられるエネルギーのロープでベジータの攻撃を防ごうとするも超サイヤ人のベジータのスピードに翻弄される。

ベジータに顎を殴られ吹っ飛ばすも何とか倒れず耐えたクンシーは爆発する気のロープを自身の周辺の地にばら蒔く。

ベジータ「近付けば爆発する・・・とでも言いたそうだな」

クンシー「その通り。飛ばれば意味のない技だがこの力の大会では羽を持つものい

クンシー「・・・恨むなよ」

ベジータ「何？」

ビシツ
!!!!

ベジータ「な、何だこれは!？」

クンシー「爆風と俺を殴るのに集中していて気が付かなかった様だな!!」

ベジータの背後からクンシーの爆発するロープが身体に巻き付けられた!

実はクンシーはベジータに爆発するロープのばら蒔きを突破されると判断し追い込んで油断したベジータの背後に先程までに残っていた爆発のロープの一部分を左足に絡ませ足で操っていた!

プライド・トルーパーズの中では相手を拘束させるにおいてプロフェッショナルのクンシー。

足で操るのも造作はない事だ。

クンシー「このロープを全て爆発させる。最悪死ぬかもしれんが・第1宇宙を守る為だ。許せ!」

ベジータ「死ぬだと?笑わせやがるぜ」

クンシー「さらばだ!!」

ベジータを縛るロープが大爆発を起こす!

本当に殺すとは思わなかったので驚きを隠せず目を覆うケールとクンシーの行いに拳が震えるカリフラ。

怒りで超サイヤ人になったカリフラがクンシーにふいうちを仕掛けようとした時だった。

クンシー「許せ。第7宇宙の戦士よ」

全王「また死んだのー?」

未来全王「死んじやったの?」

大神官「いえ、ベジータさんは生きておりますよ」

クンシー「まさか・・あれをくらって生きているというのか!？」

大爆発するロープが一瞬で別の爆風により消え去った!!

超サイヤ人ブルーになり爆発するロープを引きちぎりその場に静かに蒼い神の気を纏うベジータ。

その姿にクンシーは焦りの色を隠せない。

ベジータ「・・ブルーを使わせたのは褒めてやる。だが、無駄な体力を少し使ってしまった。貴様みたいな奴にな。さっさと・・」

脱落しやがれー!!!

クンシー「ぐああああ!!!」

ブルーの攻撃とスピードが読めず見ええずクンシーは場外に落ちていく。

クンシー「せめて道連れにしてや・・・」

ベジータ「しぶとい奴め!!」

クンシーはロープを出し道連れにしようとするもそれよりも早くベジータは指先から衝撃波を放ちクンシーを爆発させ脱落させた。

ベジータは落ちていくクンシーに睨みを聞かせ一言吐き捨てた。

ベジータ「へっ!汚ねえ花火だ」

大神官「第1宇宙クンシーさん。脱落です」

クンシー「も、申し訳ありません・・・」

ベルモッド「ご苦労だったクンシー」

カイ「残り4人・・・ベルモッド様。そろそろ、いい頃合いですね」

ベルモッド「だな・・」

ベルモッド（聞こえるか？ジレン）

ジレン（聞こえている）

ベルモッド（力を温存すべき時は終わった）

ベルモッド（孫悟空とベジータを潰しておけ）

ベルモッド（雑魚は無視してもいい）

ジレン（分かった）

ベルモッド（あとは頼んだぞジレン）

悟空「ん!？」

カーセラル（動き出したか。ジレン）

ベジータ「何だこの気は？」

無の界全域が震わせる気。

その気を放つ者がベジータに近付いてくる。

桁外れの気がゆっくりとそして地を踏みしめる度にズンと身体の奥底が震える。

ベジータ「来やがったか!化け物が!」

ジレン「ふん・・・」

ジレンは大きな眼でベジータを確認すると動きを止め腕を組む。

ベジータの性格上向かってくるのを理解しておりただ静かに待っているのだ。

ベジータ「余裕をかましてるのも今の内だぞ。クソ野郎!!」

ジレンVSベジータ!!

悟空とベジータに迫る最強の敵！第7宇宙に危機が迫り
し時！！

ベジータとジレンのバトルになるであろう一方で悟空はカーセラルとのバトルが続いている。

カーセラルの多彩な攻撃に苦戦しつつも楽しんでいる様にも見える。

悟空「ベジータに興味持ったのか!? ちょっと悔しいな〜」

カーセラル「悔しい思いを今からさせてやろう孫悟空!!」

ジャステイス・マイン!!

カーセラルがジャステイス・サーベルを地に突き刺すと悟空がいる周辺一面が爆発を

起こし始める。

カーセラルは悟空とのバトルでジャステイス・サーベルを振り回しつつサーベルの切っ先から小さな気を落としていた。

その小さな気を踏むと爆発する仕組みになっているが地の下からカーセラルのジャステイス・サーベルを突き刺すと同時に爆発する仕組みにもなっているのだ!

同時に爆発している為、爆煙で視界が悪く爆発の衝撃も更に上がり悟空は守りの体制に入る。

悟空「いつの間に爆弾なんて仕掛けたんだ!?!」

カーセラル「今だ!!!」

カポツ
!!!!

悟空「うえっ!?!閉じ込められちゃった!!」

カーセラル「言っただろ。力だけではないバトルを見せてやると。このジャステイ

ス・カプセルに閉じ込められた者は脱出不可能だ!!」

カーセラル「この技を決めるに当たってはチャンスが必要だった。隙も大きければカプセル自体の閉じ込める範囲も小さいからな」

悟空「ぐつ!!こ、壊れねえ・・!!」

悟空がいくら攻撃してもびくともしない気の塊で作られたカプセル。
カーセラルはカプセルを肩に担ぎ持ち上げ場外近くまで運んでいく。

カーセラル「そのまま投げ飛ばせばお前達の仲間に使われる可能性があるからな」

悟空「ハアアアアア
!!!!」

超サイヤ人ブルーになりひたすら暴れまわる!

ビルス「何している悟空!!そんな物さつさと壊せー!!」

ウイス「気の繭：とでも言えればいいでしょうか?あの中では瞬間移動も不可能でしょうね」

シン「繭ですか!？」

ウイス「気を繊維の様に細かくそれを覆わせて固めているのです。硬く柔らかい特殊な気ですが悟空さんのパワーを持ってすれば破れはするでしょう。けれども時間が少し掛かります」

ビルス「解放される前に落とす魂胆か：まともに戦い合えば悟空の方が格上と分かっているからこそ勝てると判断したのか」

シン「悟空さん早く脱出して下さーい!!」

老界王神「ヒビは入ってるようじゃの」

ビルス「ベジータはどうなんだ・・・な、何!？」

カーセラル「これで終わりだ」

悟空「界王拳!!!」

超サイヤ人ブルーからの界王拳で更にパワーを上げカプセルに攻撃!

カプセルにヒビがどんどん入り割れてもおかしくない状況にカーセラルは場外から

少し遠めだが投げ飛ばす。

カーセラル「これほどのパワーとは。だが、これで・・・」

パキン!!

悟空「危ねえ・・・もう少しで真つ逆さま立ったぞ!」

間一髪悟空は爪先に地がつきギリギリの所で場外から免れる。

カーセラルはギリギリ立っている悟空にジャステイス・サーベルで迫りかかるが超サイヤ人ブルーになった悟空は右手で軽くジャステイス・サーベルを払い左手からエネルギー弾を撃ちカーセラルを吹き飛ばす。

悟空「今度はオラの番だ!!」

カーセラル「くっ・・・!」

超サイヤ人ブルーのラッシュシュに守りに入るが強力なあまり防いでいても身体にダ

メージが入る。

そして、悟空の右ミドルキックがカーセラルの左横腹に直撃しカーセラルは岩柱が壊れる勢いで吹っ飛んだ!

カーセラル「がはっ・・・!」

悟空「これでしめーだ!かーめー・・・」

悟空がかめはめ波を撃とうとした瞬間!

悟空は背後から凄まじい気と威圧を感じ取った!

振り向くとそこには地に倒れ伏すベジータと針の様なチクチクする気を放出し悟空に向かってこいと言わんばかりに気で挑発するかの様にジレンが立ち尽くしている。

ジレンはベジータを悟空に投げ飛ばす!

悟空はベジータを掴みジレンの凄まじい気に脅威を感じている。

悟空「ベジータ!!!」

ベジータ「ふぎけやがって・・本気にすらならなかった・・あの野郎」

悟空「ベジータ。おめえは休んどけ。次はオラが行ってくる」

ベジータ「ふぎけるな。俺はまだ戦うつもりだ・・！少し休んだらすぐに挑んでやる
!!」

悟空とベジータが待ち構えるジレンの前に立つ。

ジレンは腕を組むのをやめ何も構えも取らず立ち尽くす。

悟空が先攻を仕掛け超サイヤ人になり挑む！

が、ジレンの身体には悟空の攻撃が全く効いていない。

ベジータも最初は超サイヤ人で戦っていたがその結果は悟空と同じくジレンには攻撃が効いておらず微動だにしなかった。

ベジータ「無駄だ・・ただの超サイヤ人では攻撃すら通りやしない」

ベジータは悟空とジレンのバトルを一端は静観する事に。悟空と組んで戦うのが嫌という理由もあるからだ。

悟空「・・・こいつはやべえな」

ジレンは何も話さず動かない。

強大なる相手にワクワクする悟空だが宇宙の運命を思うと負けられない。今度は超サイヤ人ゴッドでジレンに挑む!

それでようやくジレンが左手で悟空の拳を掴んだ。が、それですら足は一向に動きはしない。

悟空「こんなんじやおめえ本気になれねえよな。・・・ブルーでいくぞ!!」

ブルーになりジレンにかかって行く!

ジレン「フンッ」

ジレンも少しその気になったのか悟空に気の衝撃を武舞台に放つ。

その気は戦っていた他の戦士のほとんどが吹き飛ばされない様ガードする者ばかりだ!

ビルスはジレンの放つ気に焦りの顔を隠せずにいる。

ゴクウブラック「気に入らない奴だ・・！」

カリフラ「うおっ!?なんつー気だよ!!」

ケール「きやつ!!」

18号「くっ・・とんでもない奴だよ」

シヨウサ「ゲホツ、ゲホツ・・身体に来る」

トツポ「ジレンが本格的に動き出したか」

ヒット「戦いの最中だ！」

ズンツ!!

トツポ「なかなかの一撃だ。殺し屋よ」

ヒット「急所を突いているはずだ・・効いてないのか？」

デイスポ「將軍。大丈夫か？」

カーセラル「デイスポか。俺は大丈夫だ。身体は動く。お前の方こそどうなのだ？」
デイスポ「俺もピンピンしてるぜ。次こそはヒットを脱落させてやりたいがトツポが
な・・・」

カーセラル「お前が動けそうなので安心した。・・・さて」

仲間が落とされて復讐しにきたのか？

ボラレータ「コウゲキカイシボラ」

パンチア「ダイーウチユウカクニン」

コイツカイ「デイスポ40%、カーセラル50%」

しよう。その孫悟空をジレンが叩きのめせば武舞台に残っている戦士は戦意を失う。ジレンには絶対かなわないと!」

ベルモッド「生け贄という事か・・ククク」

マルカリータ「油断は禁物です。孫悟空だけでなく他宇宙にも手強い戦士がいると思います」

ベルモッド「一部怪しいのがいるがジレンが負ける訳がない。絶対にな」

悟空「ダダダダダダダダダダ!!!」

ひたすらラッシュをかける悟空。だが、そのラッシュは追撃を防ぐ為の物で攻撃が全く出来ない。

ジレン「お前の力はそれだけか」

ドズツ!!

悟空「グツ・・エツ・・」

クリリン「悟空!!」

ビルス「攻撃の速さと重さ、どちらも備えていやがる。悟空が遊ばれるとは・・」
老界王神「この様な戦士が力の大会に出ているとは・・」

亀仙人「ぬうつ・：離れていてもジレンという男の底知れぬパワーが感じ取れるわい」
天津飯「武天老師様。何者かが来ます」

キヤウエイを落としたのは貴様らか!?

ガノス「もしそうなら許さん・・仲間を落とし傷付けやがって!!」

亀仙人「若いが・・この者の潜在能力はかなりありそうじゃ」

天津飯「第4宇宙の戦士か!?!」

ガノス「俺の名はガノス。キテラ様の判断の元第4宇宙のリーダーを任されている。

モンナから聞いたがキャウエイを落としたハゲ二人とは貴様らだな」

亀仙人「仲間思いじゃのお前さんは。その通りじゃ。可愛い子ちゃんを落としたのはワシらじゃよ」

ガノス「仲間が脱落する事は俺にとつて悲しい事だ。それにキテラ様、クル様を不安にさせてはならない。そして、キャウエイの脱落は俺の弱さのせいでもある」

ガノス「責任は必ず取る。覚悟しろ!第7宇宙!!」

ジレンと悟空のバトルに注目する者もいればその隙を伺い落としにかかる者。各宇宙の動きは変わらず激しいものとなっている。

そんな中、フリーザ率いる第9宇宙は次の策に乗り移る為、報告役のソレルがメンバーを効率よく呼び集めすぐに集めた。

ローゼルの背中に乗るラベンダ。どうやらリブリアンから受けた一撃は重傷の様だ。

ラベンダ「く、くそお・・・あばらやられたかもな・・・」

バジル「兄者!」

ベルガモ「それで呼び寄せたのは何だソレル?」

ソレル「次の狙うべき宇宙についてです！軍師フリーザ！お願いします」

フリーザ「私的に怪しいのは第3宇宙のパパロニという戦士です。あの科学者まがいを落としたのですがその為にはパパロニのガードマンになっているであろう二人の戦士をどうにかしなければなりません」

バジル「変身戦士のカトペスラとかいう奴と・・・」

ベルガモ「液体戦士のマジーカーヨか。・・・マジーカーヨは俺に作戦がある」

フリーザ「ほう・・・それではベルガモさんに一任せましよう。バジルさんはカトペスラさんと戦ってくださいませんか？」

バジル「けっ、仕方ねえ。命令されるのは頭に来るがな」

フリーザ「あなた達は二人を引き寄せてください。パパロニを狙うのなら今がチャンスですからね」

ベジータ「カカロットの攻撃も受け付けないか。ジレンの奴イカれた強さだ」

ベジータは岩柱のてっぺんで身体を休めながら観戦。

ジレンを観察するも攻撃、スピードどれを取っても一挙手一投足隙が見当たらない。

どちらも激しいラッシュをかけ戦っている様に見えるが実際の所、悟空が一方的に追い詰められそれを防ぐのに手一杯。

悟空「おめえほんとすげーな。ここまで仕掛けても全く効いてねえなんてビルス様とのバトル以来だぞ」

ジレンは何も語らない。攻めてくる者を倒す。第7宇宙の孫悟空、ベジータを倒す。

悟空がまたも攻めて来たのを今度は瞬間的にかわしあつという間に悟空の背後に付き背中を蹴り飛ばす!

強烈な一撃に声を上げる悟空にジレンの攻撃がものの数秒で何発もぶちこまれる。

ベジータ「ま、全く見えん・・・ふざけやがって・・・!」

両膝が地に付いている悟空の髪を掴み細めのエネルギー波で場外まで吹っ飛ばした

！

圧倒される悟空。クリリンが悟空の名を大声で呼ぶ。

ジレンは次のターゲットであるベジータに狙いを定め立ち去ろうとしたが・・・。

まだ終わっちゃいねーぞ・・・。

ジレン「……………ん？」

悟空はギリギリ武舞台に掴まって脱落を免れていた。

ブルーのまま界王拳になり再度ジレンに挑む！

クリリン「あれならジレンにだって通用するはず！」

ウイス「いえ、あれでもダメでしょう」

ウイスの発言通りブルー界王拳でもジレンに攻撃が届かない。それでも攻める悟空に今度はごり押しに近い左ハイキックで悟空の拳ごと弾き返し首もとに当てる。

ベルモッド「どれだけ強化能力を持ってしてもジレンの前では無だ」

ベルモッドは怪しくニヤリとする。

ジレンの圧倒的な力の前では何をやっても通用しないと絶大なる信頼を寄せている。

ベジータ「力付くで押し返しやがった・・・！」

悟空「へへッ こいつはめえったな・・・ブルーの界王拳でもまともにダメージ与えることができねえなんて・・・」

悟空「おめえの強さは よく分かった！そんなら、オラのとっておきを見してやる!!」

悟空はブルーと界王拳を解き両手を高く無の界の空へと掲げる。

大半の戦士が手を上げ降参したのかと思う中、悟空の姿を見て気付く第7宇宙の面々。

ベジータ「ブウを消し飛ばした技か」

セル「元氣玉か・・・」

ジラセン「この美しきジラセンをスルーするのは許さ・・・」

セル「うるさい奴だ」

セルはザーロインにぶつ飛ばされた後、第10宇宙の戦士を狙う事に。

ゴクウブラックと戦う為に第10宇宙のメンバーをゴクウブラックのみにし身代わりを使われない様にする為だ。

ジラセンを軽く蹴散らし脱路寸前に追い込む。

セル「貴様らの宇宙の孫悟空の色違いと戦いたいのな。奴以外の第10宇宙の戦士は私が全て落としてやるぞ」

クリリン「俺の力も使ってくれ!!」

17号「俺達のエネルギーもやる」

18号「いくらでも持つてきな」

フロスト「なるほど・・・孫悟空にエネルギーを分けてるのですか」

マジョラ「今の内に・・・」

フロスト「待ちなさい。孫悟空がもしこれでジレンを倒したとしてもエネルギーを消耗するはずです。そこを狙えば・・・」

亀仙人「わしのも持つていくのじゃ」

天津飯「悟空、頼むぞ」

ガノス「何してやがる・・・!」

悟飯「父さん、僕のも使ってください!」

ポタモ「何手を上げてんだ?」

マゲツタ「シユポ？」

ピツコロ「孫、俺のも使え」

サオネル「・・・仲間の技か」

ピリナ「あのジレンと戦っている孫悟空にエネルギーを分けているのだな？」

ピツコロ「ああ、大体その通りだ」

サオネル「いいだろう。待ってやる」

ピリナ「エネルギーを分け与えるのが終えたらまた戦え」

フリーザ「ジレンとやらを倒すのにあの忌々しい技を使ってるのですかね・・・いいでしょう。今は第9宇宙の戦士ですが第7宇宙の者としてこのフリーザも持っていないきなさい！」

悟空の掲げる両手から少しずつ丸い元気のエネルギーの塊が大きくなっていく。

孫悟空「まだ 足りねえ・・・ 気を集めるのに時間が かかり過ぎる」

ジレン「待ってやる」

孫悟空「えっ?」

ジレン「待ってやると言っている。お前にとって 特別な技なんだろう?」

ジレン「全力で来い!」

孫悟空「へっへっへっへ……。随分気前がいいんだな」

カイ「相手の最大攻撃を受け逆に圧倒的な力で たたきつぶす」
ベルモッド「これこそジレンの芸風。 楽しみじゃくん」

マルカリータ「私は 少し不安ですます」

ダーコリ「から空きじゃないの。我が札術の一撃を見舞い・・・」

ズギャ
!!!!

ダーコリ「あああああ!!!」

ベジータ「下らん。さつさとしやがれ!カカロット!!」

ダーコリの不意打ちをベジータがエネルギー弾を当て吹っ飛ばす。

ベジータも元氣玉の威力には期待している。過去、小さな元氣玉を受けた事があるがそれだけでも大ダメージを受けた事があるからだ。

イワン「なるほど。実に 興味深い技だ」

アラク「程度の低い宇宙にも これほどの戦士達がいたとはな」

ジーン「この勝負注目だ。第7宇宙は面白い戦士が多いな。フッフッフ・・」
アグ「ジーン様が期待している宇宙はまさか・・?」

孫悟空「来たあああ!!!」

孫悟空「ジレン! オラに 時間を 与えたことを後悔すんなよ!!!」

孫悟空「はああああ!!!」

巨大な元気玉が出来上がりそれをジレンに向けて放った!!

ベジータ、フリーザに大ダメージを与えブウを完全消去した最強クラスの技にジレンは逃げずに真っ向勝負に挑む!

孫悟空「これが オラたち第7宇宙の元気玉だあ!!」

果たして元気玉はジレンに通用するのか!?

そして、悟空とベジータ、更には第7宇宙の運命やいかに!?

力の大会終了まで残り28分!

続く

悟空VSジレン 究極バトルの先に・・！

元氣玉を放った悟空。それを待ち構えるジレン。

観覧席にいる全宇宙がそのバトルに注目し武舞台にいる一部戦士達も注目する。

悟飯「必ず勝ってください！父さん」

ボタモ「無視すんじゃねー!!」

マゲツタ「シユポー!!!」

ピリナ「どちらが勝つと思う？」

サオネル「さあな。だが、第7宇宙はあの技に相当希望を持っている様だな」

ピッコロ「悟空の持っている技で一番強力な技だろうからな」

悟空「どうだジレン！後悔してもおせーからな!!」

ジレン「ふん・・・」

元気玉がジレンに近づく!

第7宇宙の誰もが勝ったと思った・・・。

悟空「なっ!?う、嘘だろ!?!」

元気玉が動かない。それどころか悟空の方に向かってきてきているのだ!

ジレンは何と元気玉でさえ軽く受け止め悟空に返してしまう!

ピッコロ「バカな!?!押し返されている!!」

クリリン「悟空の体力はまだ残っているはずなのに!!」

悟空「ぐっ・・・ぐぐ・・・はぁー!!!!」

ジレン「ふん!」

圧倒的なパワーの前に元気玉さえ通用しない!?
そんな事はないと悟空はブルー界王拳で押し返しにかかる。

孫悟空「10倍界王拳!!」

それでもジレンのパワーには及ばない。

ならばと更に悟空は力を解放する。

危険な領域の20倍に・・!

孫悟空「界王拳20倍だあ!!」

ジレン「ぐう・・。はーっ!!」

孫悟空「うおっ!?!うわあああ!!!」

全王「うおおっ!!」

未来全王「うおおっ!!」

大神官「いけませんねこれは」

大神官が全王を守る為にバリアーを張る。それほどまでに強大なエネルギーのぶつかり合い!

第7宇宙の面々は悟空を見守る。

孫悟飯「父さん!!」

ポタモ「こらー!!」

ピッコロ「いかん!」

サオネル「凄いバトルだ・・・」

ピリナ「何て奴等だ」

18号「ヤバイよ!」

フロスト「ほっほっほ。これは第7宇宙ピンチですねー」

17号「くっ・・・」

天津飯「こんな状況でも戦いを続けるのか!?!」

ガノス「当たり前だ!ハア!!!!」

亀仙人「悟空……」

フリーザ「おやおや。お二人とも ちよつと やんちゃが過ぎますよ」
ベジータ「何をやってるんだカカロット。さつさと押し返しやがれ!!!」

元氣玉の激しい押し合い。両者が大声を張り上げる。

動かない元氣玉。だが、ジレンがさらにパワーを上げる！

悟空は全力で押すがジレンはまだ本気ではない……。

ウイス「もはやこちらは限界のそのまた限界。そして、ジレンさんはまだ本気ではない様です」

ビルス「うっ……」

シン「この力今までのどの相手とも感覚が違います。強い……ただひたすらに……」
ウイス「あえて言うならば……」

ウイス「破壊神……その領域に達した存在」

ウイス「あるいはもうすでにその先に……。破壊神でさえかなわないような人間のい

る宇宙もあるという噂・・・間違いではなかったように」

クリリン「それじゃあウイスさんが無の界に行く前に行っていたビルス様が腕相撲で負けた破壊神というのは第11宇宙の!？」

悟空「うわああああ!!!」

全王「うおおお〜!」

未来全王「うわああ〜っ!」

悟空が何と逆に元氣玉をぶつけられてしまう!!こんな事は今までなく第7宇宙の面々は衝撃を受ける。

クリリン「げ、元氣玉が・・・俺たちをいつも救ってくれた切り札が・・・」

セル「・・・あのジレンとかいう男。どれほどまでに強いというのだ」

ジラセン「ぐへっ・・・」

18号「あり得ない・・・」

17号「押しきれば悟空の勝ちだった・・・」

ベジータ「くそつたれが・・・どこまでもイカれてやがるぜ」

カイ「孫悟空、なかなかの実力でしたね」

カイ「このまま精神的支柱を失えば 第7宇宙は総崩れになるでしょう」

ベルモット「さすがはジレン。巨大エネルギーボールはヤバめかと思ったけど・・・」

ベルモット「ジレンにとっては どうってことなかったじゃん。フフフ・・・」

全王・未来全王「おおく！」

全王「すごかったね 今の！」

未来全王「今のすごかったねく!!」

大神官「武舞台も持ちこたえてくれたようで何よりです。しかし・・・」

全王・未来全王「うん？」

クリリン「あつ・・・ ああ・・・」

全王「ひよつとしてやられちゃった？」

未来全王「ひよつとして負けちゃった？」

シン「まさかそんな・・・」

クリリン「いやここに飛ばされてないってことは。まだ 場外には!？」

ビルス「だが 武舞台のどこにもあいつの気が感じられない」

老界王神「うーん・・・」

老界王神「あれほどのエネルギーの爆発を間近で食らったんじゃ。消滅したかもしれ

ん・・・」

クリリン「うっ・・・」

シン「し、消滅ですか・・・」

シヤンパ「消滅?つまり死んだ？」

シヤンパ「つてことは 殺したジレン失格じゃん!!」

ロウ「確かに!!第1ー宇宙もただではすまなかつた様だな!アツハツハツハツハ!!」

モヒイト「・・・」 呆れ顔

ヴアドス「それはどうでしょう」

シャンパ「えっ？」

ヴァドス「そもそも今のは消滅した本人が放った技。となると・・・」

大神官「そうですね。過程はどうあれ己の身を滅ぼした。いわば自爆と見なすべきでしょうか」

大神官「よって第11宇宙ジレンさん。ノーペナルティーです」

ロウ「く、くそう・・・」ボソ

シドラ「やはり甘くはないですな・・・」

ベルモッド・カイ「ありがとうございます」

カイ「これで第7宇宙は終わりも同然。このまま一気にジレンが決めてくれましたよ
う全て」

ベルモッド「ああ。勝ち残るのは我ら第11宇宙だ」

悟空とジレンのバトルの中でも戦う者がいればより一層覚悟を強めた者。

各宇宙の戦士は戦う姿勢を変えない。

ヴアドス「ジレンさんの力を前にしても」

ヴアドス「まだまだやる気を失ってはいないようですねどの宇宙も」

シャンパ「くっ。くぬ〜!!おら〜!ぼさつとすんな第6宇宙!!動け!落とせ!勝て〜!!」

キャベ「は、はい!シャンパ様!」

サオネル「さあ、戦いの続きだ!」

ピリナ「行くぞ!!」

ピッコロ「そう来なければ面白くないからな」

そして、どの破壊神、界王神もジレンの圧倒的な強さを間近で見ても諦めてはいない。

けれども、あのバトルを見てもただ一人余裕な態度を取る者がいる。

暴走ケールの時や第2宇宙消滅の時と同様に余裕な態度を見せる第4宇宙のキテラ。足をブラブラさせこの程度かと言いたげだ。

キテラ「コニック。どうだ？」

コニック「確かに強力。が、あの攻撃くらいは容易でしょう」

キテラ「本当に楽しみだなあ」

大神官「力の大会、制限時間の半分切っていません」

大神官「この柱が全て沈むその時まで」

大神官「たとえ誰が倒れようとどの宇宙が消えようと戦いは続きます！」

ビルス「本当に・・・本当にもうお前は終わっちゃったのか！」

ビルス「くっ・・・悟空」

全王が神PADに写る悟空を押そうとする。
押せば悟空は脱落。悟空は武舞台から退場。

ビルス「孫悟空！」

第7宇宙孫悟空脱落・・・?

第7宇宙の戦士はもうダメかと思ひ諦めかけていた。

ベジータ「次は俺だな・・・」

ジレン「……………」

ゴゴゴゴゴゴ……………。

ベジータ「ん？何だ？」

セル「あの程度で死ぬ訳がなからう」

ジラセン「私の美しきか、顔……がっ……」

トッポ「何なのだこの震動は!？」

老界王神「武舞台……いや、この無の界全てを激しい力の流れが揺らしておる」

シン「はい。でも 一体……まさか!？」

クリリン「そんなの決まってるじゃないですか!!」

ゴクウブラック「しぶとい人間だ……」

ウイス「ビルス様」

ビルス「来るぞ」

可能性のドアはロックされたまま・・・!
圧倒的強者を前に今度も壁をぶち破る・・・!

元氣玉で巨大なクレーターが出来そこが地響きの発生源となっている。
発生源の地から爆発するパワーが発生しそこから一人の戦士が静かに立ち上がる。
静寂の中、その戦士から漂う白きオーラ・・・目付きも今までと違い鋭くそしてギラリ
と光る眼光。

全王「おおく！悟空ギラギラしてるね〜！」

未来全王「フフフツ」

全王「ドキドキだね！」

未来全王「ワクワクだね！」

カーセラル「孫悟空・・・やはり危険な奴だ。あの時落とせていれば・・・」

ピッコロ「あの爆発からただ運よく生き残った・・・というわけではなさそうだな」

クリリン「さつきまでとは何かが・・・」

シン「はい。何だかとても強い熱気を放っている様に思えます」

老界王神「気は恐ろしく静か。・・・まさかあれは」

ウイス「今は様子を見ましょう。何せあのような悟空さん。私も見るのは初めてです」

ジレンは再度悟空の方へと歩み寄る。

が、悟空はジレンに近付こうとしない。

逆にジレンに対し向かってくる度胸があるかと言わんばかりの佇まい。

カイ「・・・相当な自信の様ですね」

ベルモット「行けジレン。どんな相手であれ絶対的強者の前では無と言うのを思いさせろのだ」

マルカリータ「あれは・・・ま、まさか・・・」

ジレン「行くぞ」

今度はジレンが悟空に先に仕掛けた!

ジレンの凄まじい拳の連打を悟空はゆらりとかわす。

そして、カウンターでジレンのボディに右足が食い込んだ!

ジレン「!?!」

カイ「な、馬鹿な!?!」

ピッコロ「悟空の攻撃が通用している。ブルーでも 太刀打ちできなかったあいつに・・・」

サオネル「また休戦だな」

ピリナ「奴の力、我々も興味がある」

ベジータ（あの動き……。今までのカカロットのものとは全く違う。ただ速いだけじゃない。攻撃に移る気配が全く読めん）

ベジータ「ちっ、どうなってやがる……。！」

クリリン「急にどうしちまったんだ悟空!?!」

ウイス「うーん……。！」

トツポ（孫悟空・ジレンと渡り合っているというのか？先程のエネルギーを吸収してパワーを上げたのか？それとも……）

ズドドドドド
!!!!

トツポ「くおっ!?!」

トツポの身体の様々な箇所には大量の透明の気弾が直撃！頑丈な身体を誇るトツポもこれは効き背中に地が付いた。

ヒット「勝負の最中に考察をする暇はないと思え、と言いつたのは誰だ？」
トツポ「・・・そうだったな」

ピッコロ「今この瞬間にも戦いながら進化している。弾かれる度に速く鋭く重い一撃をジレンに与えている」

カイ「信じられない!!ジレンにここまで追い迫る者がいるとは!?!」
ベルモツド「落ち着けカイ。ジレンがあれくらいで屈するはずがない」

全王「おおゝ悟空いきなり強くなったね!」
未来全王「おおゝ!悟空いきなり凄くなったね!」

全王「何で？何で？」

未来全王「どうして？どうして？」

大神官「うーん・・・もしかしたら・・・」

ウイス「もしかしたら！悟空さんにとっても素晴らしいことが起こってるかもしれない
ませんか!!」

シン「何かご存じなのですか!？」

ウイス「はくい!!もしかしたらですが！」

ビルス「うっ・・・」

喜び興奮するウイスに対し悟空の戦う姿を眺める度言葉をつまらせるビルス。

それでもあの戦う姿、回避の仕方、ジレンとの撃ち合いの一つ一つ全て。それが一致
していると分かり一言口を開ける。

ビルス「身勝手の極意・・・」

ビルスのその言葉を聞きほとんどの宇宙の神々が驚愕する。

その中でも人間レベルが一番高い第1宇宙の界王神アナトは冷静に悟空の動向を見守っている。

アナト「なるほど。あの動きはしかし・・・人の身である孫悟空が？」

アナト「あれは神ですら容易にたどりつくことがままならぬ境地・・・」

カイ「そんなバカな！あり得ない・・・あり得ない!!」

ベルモッド「落ち着けカイ!!ジレンは絶対に負けん！」

セル「よく分らんが他の神達にもただならぬ空気が走っている様だな」

ナパパ「ジラセンをよくも!!覚悟しろ!!」

全王「みんなもびつくりしてるね！」

全王「何か超すごい物らしいよ！」

大神官「まあ、そうと断言するのは早計なのですが・・・」
大神官「とにかく何とも目が離せない展開です」

全王「ワクワクだね！」

未来全王「ドキドキだね！」

ウイス「いやはやこんなことがあるんですねビルス様」

ビルス「くっ・・・あ、あいつ・・・」

シン「何か神々の間では有名なことみたいですが・・・」
老界王神「な、何じゃ知らんのかこの未熟者めが！」

ビルス「どうしていきなりあれを・・・」

ウイス「おそらくきつかけはあの元氣玉かと」

クリリン「元気玉を取り込んでパワーアップしたとかですか？」

ビルス「しかしあのエネルギーの塊はジレンに通用しなかった。その力が上乘せされたところで渡り合える理由にはならんはずだ・・・」

ウイス「クリリンさん。そのとおりです」

ビルス「な、何だと!？」

ウイス「現在消耗しきっていた肉体の 一時的な原動力としても元気玉のエネルギーは 確かに作用しているのでしょうか」

ウイス「ですが、肝心な点はそれとは別にあります。あの大爆発のさなか悟空さんに飛び込み 暴れ回る元気玉の力、あらがう悟空さん自身の力」

ウイス「そのぶつかり合いの果てに悟空さんは 己に秘められたさらなる可能性の殻を破ったのだと 私は考えます」

クリリン「殻を破った・・・!？」

ウイス「とここまでではいいのですがあの熱さどうなりますかねえ・・・」

ジレンの攻撃に悟空は次々と防ぎひたすらラッシュを掛ける。

流星のジレンも破壊神ですら身に付けるのが困難な身勝手の極意の悟空に攻めるの

は厳しい。

悟空「はああああ!!!」

ジレン「くっ……!!」

ジレンの腹部に強烈な右肘の一撃がクリーンヒット!

右肘の一撃からジレンは反撃に出るも身勝手の極意でまたもかわされ今度は右足のハイキックが首もとに!!

更にラッシュを仕掛ける悟空。そして……!

ジレン「!？」

ジレンの背には真っ暗な世界。場外が近付いていた!!

カイ「ジレンが負ける訳がない!!人間レベルが低いこんな奴に……こんな奴に!!!」
ベルモッド「いや、ジレンは分かっている」

ジレン「サイヤ人・・・実に興味深い存在だ。だが・・・！」

バチツ!!

孫悟空「くっ・・・」

身勝手の極意の効果が弱まっているのを分かっていたジレンはわざと場外近くに追い込まれていた。

拳を右手で防ぎ後ろに投げ飛ばし大きめのエネルギー波を放つ!!

ジレン「この熱さ・・・それがお前の限界だ！」

孫悟空「うわああ!!!」

ベジータ「させるかー!!!」

間一髪ベジータが悟空を蹴飛ばし場外から救う。

だが、ピンチを脱した訳ではない。

ベジータは汗を垂らしながら構えを取る。

ベジータ「カカロットの奴め・・・どこまでも頭に来る野郎だぜ」

ジレン「お前もサイヤ人だな」

ベジータ「俺はサイヤ人の王子ベジータ様だ。・・・サイヤ人を甘く見るなよ」

カイ「フーツ・・・どうやら 一時的なものでしたか」

ベルモッド「当然だ。そうたやすくあれを会得できるものか」

マルカリータ「身勝手の極意・・・まだ兆しとはいえこの大会中にもし取得されるとなると・・・」

トツポ「ジャステイス・クラッシュャー!!」

スツ

トツポ「むっ!?!消えた? いや、次元移動か!?!」

ジレン「終わりだ」

ベジータ「く、くそつたれが・・・」

ジレンがベジータの首を掴みエネルギー波を腹部に当て吹き飛ばそうとした時!

ドゴツ!!

ジレン「んん？」

シャンパ「ぐっ！直撃したつてのにびくともしねえ！」

ヴアドス「とどめを刺す瞬間こそ最大の隙が生じるもの。ジレンさんにはそれすらも……」

ジレン「第6宇宙の殺し屋……何の用だ？」

ヒットの右ストレートがジレンの背中に直撃するもジレンはそこから動きもしない。が、突然の攻撃で一瞬掴んでいた手が若干弱くなっていたのでベジータはブルーに一瞬変身し逃れる。

ベジータは屈辱に思いつつも一端は離脱し倒れている悟空の元へ行き先程の力は何なのかと問いただす。

悟空「ううつ……力使い切っちゃまったみてえだ……」

ベジータ「さつさと答えろ」

悟空「へっ……オラにもよく分かんねえ……」

ベジータ「チツ、無駄足か。・・・ん？貴様はさつさと身体を治しやがれ！」

ベジータは何者がが近付くのが分かり立ち向かう。

ベジータ「来るだろうと思った」

フリーザさんよ

フリーザ「サイヤ人は誰一人残す訳には行きませんからね」

ベジータ「宇宙の帝王と呼ばれた貴様も落ちぶれた者だな。雑魚共を率いて弱い奴や弱った奴を狙いにかかるのだからな」

フリーザ「憎つくきサイヤ人を倒すのなら弱つていようがいまいが関係ありませんよ。さあ、まずはあのジレンとの戦いで動けない孫悟空から終わりにしてあげましょうかね・・・」

第7宇宙の戦いはもちろん各宇宙のバトルはここから激化する!!!

第4宇宙の狂策 破壊の雷鳥怒泣する!!

悟空とベジータがジレンとバトルしていた中、他の第7宇宙の戦士も様々な宇宙の戦士と戦っている。

長丁場になっている悟飯VSポタモとマゲッタ

ナメック星人同士のバトルのピッコロVSサオネルとピリナ

ゴクウブラックと戦いが為に身代わりを使われないよう第10宇宙をゴクウブラックのみにし、残りの第10宇宙の戦士を徹底的に狙うセルと落とされまいと戦うジラセンとナパ

怒りに燃える者と戦う天津飯・亀仙人VSガノス

そして、集団で狙われている17号・18号VSフロスト・ショウサ・ニnk・マジョ
ラ

バトルにおいて第7宇宙は第4宇宙、第6宇宙の集中攻撃に苦しんでいる様だ。

17号「眼が見えないからこそ感覚が研ぎ澄まされているという事か」

マジョラ「いかにも。最初に戦った奴と違ってお前は手応えがありそうだ」

18号「あんた・・・大丈夫なのかい？さっさと脱落した方がいいんじゃないか？」

ショウサ「私は大丈夫だ・・・戦士として誇りを持つて戦っているのだ・・・ゴホッ、ゴ
ホッ・・・自ら落ちる等戦士として恥だ！」

フロスト「フフフ・・・なるほど・・・」

ニnk「どうした？」

フロスト「いえ、何も。ニnkさん、分かっていますね」

ニnk「・・・うむ。それが俺の役目」

ニnkは17号の背後へ隠れようと横からのつそりと歩み始める。もちろん17号は戦いながらニnkの動きも読んでいる。しかしながらマジヨラの嗅覚を頼りにした攻撃は意外と厄介な様だ。

マジヨラ「お前、何だか鉄の臭いがするな。分かるぞ、お前から漂う心無きキリング・マシーンがな」

17号「心外だな。こう見えて家族もいる。戦うだけの人間じゃない」

マジヨラ「家族か・・・どうでもいい物だ。私は生まれつき光が見えない。家族の顔も見ることがない」

マジヨラ「戦うことだけを強いられたただひたすら戦闘技術に磨きをかけてきた。盲目でも戦える技術をな。それで多くの生物を抹殺してきたが・・・」

マジヨラ「それもこれも全ては生き残る為に。戦いにおいて薄っぺらな愛や正義を語るなど愚かしいと思わないか？ 私達はどんな手段を使ってもこの第4宇宙を消滅から免除させる」

17号「ある意味ではお前の方がキリング・マシーンだな。俺は殺しはしない。：お

前は俺を殺す気でののか？」

マジョラ「それは分からない・・が・・」

17号「バレバレだからな。後ろにいるのは」

17号は静かにニンクが背後に迫っているのに気付いており左足で後ろ蹴りをニンクの腹部に浴びせ吹き飛ばす。

この瞬間を計りマジョラが軽くジャンプし両足で連続キックを仕掛けるが17号は右腕でガード。

更にニンクが倒れた瞬間に放ってきたフロストのデスビームを左手からエネルギー波を放ち相殺。

僅かな時間からの総攻撃を防がれるもフロストは不敵に笑い出す。

17号「3V S1か。てつきり2V S1で来ると思ったのだけだな。18号相手はあの病人で十分って事か？」

マジョラ「ショウサを侮るな。あいつはこの戦いを第4宇宙の代表として、戦士として誇りを持って戦っている」

ガシツ
!!!!

17号「しまっ・・・」

ニンク「いい蹴りだ。俺は強い奴が好きだ」

ニンクは両手で17号の両足首を掴まえ前に引き17号を無理矢理地にひれ伏させる。
る。

そこから素早く首を絞め上げホールドを決め互いに倒れながら横向きで転がりながら場外へと向かっていく。

ニンク「強いお前が好きだ。一緒に天国にいこうぜ」

17号「お断りだ・・・!」

ニンクの絞めつけは思った以上に強くなかなか脱出が出来ない。

場外へと迫るニンクと17号。このまま脱落かに思われたが・・・。

17号「俺はお前が好きじゃない。悪いが一人で落ちてくれ」

17号はバリアーでニンクを弾き飛ばし場外から免れる。

一方でニンクはバリアーに弾き飛ばされ一人場外へとまっさかさま……。

ゴツン

ニンク「おつとつと！」

突如ニンクの身体が宙に浮く。ニンクの背中には額で重そうな身体を抑え背中の中の突起でプカプカ飛行する戦士が……。

ニンクを武舞台に降ろしその小さな戦士もブーツとしながら地に降りた。

ニンク「助かったぜシャンツア」

シャンツア「・・・ツア？」

ニンク「自分の名前も分からないのか？」

シャンツア「・・・ほえ？」

ニンク「シャンツアだ。お前の名前はシャンツア」

シャンツア「シャン・・・ツア・・・？」

ニンク「そうだシャンツアだ」

シャンツア「シャンツア！」

17号「何だあいつは？自分の事すら分からない奴がいるのか」

シヨウサ「シャンツアシャンツア!!」

ニンク「・・・何故キテラ様は物心すらまだ付いていない戦士を代表にしたんだ？」

シャンツア「シャンツア!!!」

シャンツアはキャツキャツとはしやぎながら宙高く飛んでいつてしまった。助けてはもらったがシャンツアが何を考えているのか分からず困惑した表情を浮かべるニンク。

一方18号VSシヨウサは一方的な展開を繰り広げていた。

シヨウサは18号の攻撃を防ぐばかり。だが、場外だけは何としても免れる立ち回りをし18号はイライラしている。

シヨウサ「ゴホツ・・ケホツ・・」

攻撃を防ぐ度に吐血するシヨウサ。

口で抑えてはいるが吐血が止まらない。

それでもシヨウサはガクガクと足と身体を震わせながらも戦いに赴く。

18号「あんたもうやめなよ。そんな身体でどうして大会に出ようとしたのさ」

シヨウサ「戦士としての誇り：そして、愛すべく第4宇宙を守るべく：グウツ……」
18号「気持ちはわかるけどさ。これ以上の戦いは命に関わるよ」

シヨウサ「私は逃げぬ。このちっぽけな命を犠牲にしても守りべく物がある限り！
お前も逃げるなよ……！」

18号「大した根性だよ。その点は認める。だけど落ちな!!」

18号は無限式エネルギーから放つエネルギー弾の弾幕でシヨウサを更に追い詰める。

イライラしているのもあって力を込めてエネルギー弾を撃ち続ける。

防ぐの到手一杯なシヨウサだがついに抑えられずエネルギー弾を受けてしまい苦悶の声を上げながら血を吐き散らかす。

シヨウサ「ならんだ……絶対に落ちてはならんだ……！」

17号「やめろ18号!!!」

マジョラ「隙を見せたな！」

17号「つく!?!」

フロスト「人の心配してる暇がありますかね？」

17号「ちっ！」

シャンパ「おいおい、第4宇宙の奴死にそうじゃね？」

ヴアドス「殺してしまうと失格です。もしかすると第4宇宙は・・・」

18号「これで落ちただろ？」

爆煙が少しずつ消え18号は右手で髪をたなびかせる。

後は大神官の脱落の宣言を待つだけ。

あれほど弱っていて連続エネルギー弾を受け場外にも近い位置にいた。耐えられやしない。

18号「まだかい。脱落の宣言は？」

爆煙が完全に消え視界が全て見える。
そこには……。

ガノス「シ、シヨウサ……？」

天津飯「ん？奴の動きが止まった？」

亀仙人「どうしたのじゃ？」

ガノス「シヨウサの気が小さく……？そ、そんな……！」

バチイ!!

天津飯「くあつ!」

亀仙人「ぬぐう!」

ガノスが二人の前を駆け抜けると電気が流れた。二人を放置し雷の如くシヨウサの元へと駆ける。

18号「殺すつもりでは撃つてない・・・」

クル「シヨ、シヨウサが!」

キテラ「・・・」

慌てめくクル。シヨウサはギリギリ場外に落ちず倒れている。だが、息絶え絶えで・・・。

ガノス「シヨウサ!!おいシヨウサ!!!」

シヨウサ「そ、その声は・・・ガ・・・ガノスカ・・・」
ガノス「しっかりしろシヨウサ!!!」

シヨウサ「すまないな・・・私はここまでの様だ・・・ゴフツ・・・」

シヨウサ「第4宇宙の運命・・・この戦いの行方・・・ああ、悩みの種が消えそうにない」
ガノス「もう喋らないでくれ・・・頼むから」

シヨウサ「ガノス・・・短い間だったがお前達といた時間・・・忘れない」

ガノス「シヨウサ・・・何言ってるんだ・・・やめろよ!そんなのやめろよ!!!」
シヨウサ「そして・・・」

私の好きな第4宇宙と皆を守ってくれ……頼んだぞ……ガ……ノ……。

ガノス「シヨ、シヨウサ……」

18号「あ、あいつ……」

シヨウサの身体が消えていく……場外でなく武舞台から消えていく者は死を意味する。

ガノスの目の前から足から光になって消える肉体。

また一人の戦士が死を遂げてしまう。

大神官「第4宇宙シヨウサさん死亡により殺した第7宇宙の18号さん、失格となります」

17号「18号!!」

18号「殺す程のエネルギー弾を撃ってない……なのに、死んでしまうなんて……」
17号「……まさか第4宇宙は」

18号が第7宇宙の観覧席に転送される。

18号の失格を知った第7宇宙のメンバーは焦りの色が出る。

天津飯「18号が殺しを!？」

亀仙人「なるほど……じゃから先程の若者は仲間の様子を見に行ったのじゃな」

悟空「じ、18号が……」

フリーザ「ほっほっほ。これは朗報ですよ。第7宇宙からの失格はとても気分がいい者です」

ベジータ「黙れええええ!!!」

ソレル「軍師フリーザ！バジルとベルガモかまだかまだかつて怒ってるよ〜」

フリーザ「・・・やれやれ。猿共を相手にしていると本来の作戦を忘れそうになってしまします」

フリーザ「まあ、あのジレンとかいう宇宙人を倒せそうなのは孫悟空あなただけですからね。ここは・・・」

フリーザは悟空に向けてエネルギーの塊を放つ。本意ではないが悟空を守りながら戦っていたベジータ。

そのエネルギーの塊が何なのかがすぐに分かりベジータは手を出さない。フリーザの突然の行動が何を示しているのか察しがついたからだ。

悟空「力が・・・」

フリーザ「フフフ。私の気を少し分けてあげたんですよ。あなたならその体でも十分動けるでしょう？これでナメック星での貸し借りはなしですよ」

ベジータ「大方、カカロットにジレンをぶっ飛ばせと言いたいんだろ？」

フリーザ「流石はベジータさん。頭が回りますねえ・・あなたにはまだまだ働いてもらいますよ」

フリーザ「特にあのジレンという化け物の相手をするのは・・フフツ、私はごめんですからねえ。ま、せいぜい頑張ってくださいね」

悟空「へっ：おめえらしくねえな。あれだけつえー奴だとプライドに触るんじゃねえかと思つてたけどよ」

フリーザ「いえいえ。あなたのあの力とジレンの力。見ていて楽しめましたからね。・・あつ、そうそう」

フリーザ「さつき上で神々が言っていた言葉。聞こえていましたか？」

悟空「いいや・・」

フリーザ「あなたが先ほど見せた強さ。あれは。神々の領域では身勝手の極意、というそうですよ」

ソレル「軍師フリーザ!!急いで!3体ロボットがパパロニの所に戻っちゃうよ」
フリーザ「はいはい。仕方ありませんね」

悟空「身勝手の極意か・・・」

ベジータ「ちっ！ジレンをぶっ倒すのはこの俺だ！」

悟空「あれがもう一度できたらジレンに勝てるんか？」

ベジータ「貴様に先を越されてたまるか。必ず俺もその身勝手の極意とやらを修得してやるからな」

ウガアアアアアア
!!!!!!

ベジータ「な、何だ!？」

悟空「ものすげえ気だ!!」

マジョラ「ガノスが!？」

ニンク「・・・変化しやがる」

シヨウサ「これでいいのですか？」

キテラ「キキキキ・・・上出来だシヨウサ。だが、どうせ死ぬなら孫悟空かベジータ辺りを相手にしてほしかったがな」

シヨウサ「キテラ様。これで私も天国に行けるのですね？」

キテラ「ああ、約束だからな。コニツクにその後の事は任せておけ」

クル「ま、まさかわざと病人を代表にしたのは・・・」

クリリン「じ、18号さん・・・」

18号「何て事だよ。殺害してしまうなんて・・・」

ビルス「気にするな。キテラの奴ニヤニヤしてやがる。おそろくだがわざと病人や死にかけの戦士を代表に選んだに違いない」

シン「わざとその様な戦士を代表に!?!」

ウイス「確信したとは思っていませんが可能性はあります。：あの宇宙の付き人。キラテラ様と陰謀めいた事をするのをかなり楽しんでますからねえ」

ガノスは怒る。そして涙が溢れる。

「神々にこの第4宇宙を任された。

なのに、誰も守れやしない。

リーダーとしてあるまじき姿に対しての怒り。

そして、大切な仲間を殺された悲しみ。

残り8人いるとはいえガノスは誰一人として落ちてほしくない。

・・もう、誰も落とさせやしない。

自身の未熟さに怒り目の前で仲間が消えた悲しみ。

全てを第7宇宙にぶつける・・・!!

キテラ「来たぞ来たぞ!!ガノスの真の力が!!」

クル「一体これは!?ガノスにこれほどの潜在能力が秘められていたとは!!」

コニツク「ここから面白くなりますよ。ガノス君は若さがあり伸び代は十二分にありますからね。戦うにつれ更に強くなっていく事でしょう」

17号「第4宇宙の切り札か?かなりのパワーを感じる・・・」

フロスト「ほうっ・・・第7宇宙は大変ですねー」

ガノス「もう許さないぞ・・・第7宇宙!!」

天津飯「武天老師様!!」

亀仙人「・・・いかん。あの者を放っておくと強さをどんどん身に付け止められなくなる。じゃが、今ならワシでもまだあの若者に勝つのは不可能ではない」

17号「お前達。来てたのか」

亀仙人「17号よ。すまぬがお前さんは二人相手に出来るか？」

天津飯「武天老師様。まさかあの怪物を一人でお相手に!？」

亀仙人「倒すのなら今しかないわい」

ガノス「第7宇宙・・・捻り潰してくれる!!!」

天津飯「武天老師さ・・・」

マジョラ「余所見厳禁だ」

天津飯「ぐあっ!」

マジョラ「フフ・・・ん?」

天津飯「気功砲!!」

マジョラ「くっ！分身か!？」

天津飯はマジョラと対峙。

気功砲はかわされるも多彩な技でマジョラに勝てるか!？」

ニンク「次こそ一緒に天国に行こうぜ」

フロスト「フフフフ・道連れが理想なのですがもしもの事があれば・」

17号「・お前にも何か策があるのか?」

17号は隙あらば道連れにしようとするニンクと第6宇宙のフロストと対峙する。

フロストが不気味に笑っているのが気になる17号。18号が失格になったがそれでも冷静さは一切失われていない。

ガノス「ジジイ一人で俺を止めるつもりか・」

亀仙人「今のお前さんなら勝算があるからの」

ガノス「死にたいと思わせるくらい痛め付けてやるぞ。ジジイ!!!」

そして、怒りと悲しみで筋骨隆々に変化しバチバチと雷を撒き散らすガノスと対峙するのは亀仙人。

若さと溢れる才能をもつガノスを早く脱落させないと止められない。

亀仙人はサングラスを取り鋭い眼光をガノスに向けて飛ばす。

亀仙人「行くぞ。若い戦士よ」

ガノス「地獄を見せてやるぞ!!!」

18号が失格となった今これ以上の脱落は防がねばならない！果たして3人はバトルを制する事が出来るのか!?

力の大会終了まで残り26分

続く

生命を燃やす武天老師!!技と力のぶつかり合い!!

ガノス「古いぼれが・粉々にしてやる!!」

亀仙人(とてつもない気じゃ。それでも、今ならばまだわしにも勝機はある)

亀仙人「かかってきなさい」

ガノス「バキバキに老骨を砕いてやるぞ!!ジジイがあああ!!」

怒り狂うガノス。握りしめられる両拳からの一撃はカチカツチン鋼の地を軽々砕き更に迸る電撃が更に破壊力を増している。

一撃でも直撃すれば致命傷は免れない!だが、亀仙人はひよいひよいと軽くかわす。

ガノス「ちよこまかちよこまかと・」

亀仙人「ほれ、足下がお留守じゃぞ」

ガノス「ぐあっ!？」

足を掛けガノスを転倒させ距離を離す。

細やかな亀仙人の動きに苛立つガノスは更に身体に電気を纏い突進を仕掛ける！

ガノス「貴様ら第7宇宙は許さん・絶対になあ!!」

亀仙人「技も直線的」

ガノス「つつ!？」

突進をかわされ岩柱に激突。亀仙人に動きを見透かされているガノス。再度突進するも今度は電気を纏っていない頭を掴まれ投げ飛ばされる。

キテラ「何をやっているガノス!! さっさとそんなジジイ倒せ!」

コニツク「若さ故に・・・ですかね」

クル「若さ故に?」

コニツク「片や実戦が浅い若き戦士。片や数々の戦いを経験し武術を極めし達人。いくらガノス君の潜在能力があるとしても実戦経験が少ない為に相性が悪いのかもしれないね」

キテラ「チツ・・ガノスの奴め。負けたら承知しないからな」

ビルス「いいぞじいさーん！」

18号「・・殺してしまうだなんて思わなかったよ」

クリリン「相手は病人で死にかけの身体ですよ。18号さんは相手の策に一本取られただけですよ」

ウイス「確定したとは言ってませんけどね」

シン「と、とにかく応援しましょうよ。夫婦でほら・・仲良く手と手を繋いで・・夫婦っていいですね。ヒューヒュー」

18号「殺すぞ」

シン「うっ・・・」

クリリン「じゅ、18号さん・・」

天津飯「武天老師様の助けに入らなくては・・・あのガノスという戦士。離れていても凄まじいパワーを感じる」

マジヨラ「ハッ!!」

天津飯「その為にも早くこの戦いを終わらせなければ・・・!」

モンナ「見つけたわよ! 3つ目ハゲ」

マジヨラ「モンナか」

天津飯「くっ・・・加勢が来たか」

モンナ「キャウエイをよくも落としてくれたわね。フフツ、お返しはきちんとしないと」

マジヨラ「良かったではないか。早く戦いを終わらせて。お前が脱落という形ではな」

天津飯「脱落などしてたまるか!!」

亀仙人VSガノス

天津飯VSモンナ・マジョラ

17号VSニンク・フロスト

第7宇宙は徹底的に第4宇宙に狙われている。

シヨウサの死は返って第4宇宙の士気を高めるきっかけとなっていた。

リーダーのガノスを筆頭に第7宇宙に猛攻が仕掛けられている。

第6宇宙のフロストはそれに乗じ憎たらしい第7宇宙の人間を第4宇宙の戦士と共に攻撃を仕掛ける。

フロストが頭の中で描く戦闘構図は大方完成されていた。

次の狙いはニンクと17号を共に道連れにさせようと謀るが．．。

17号「お前の企みなど分かるぞ」

フロスト「その様ですね」

ニンク「・・・ヌググ」イライラ

フロスト「ニンクさん何しているのです！早く捕らえなさい！」

ニンク「お前もすっかりサポートしろ！」

フロスト「こつちはしっかりと攻撃し捕らえられるチャンスを与えています！それを生かせないあなたが悪いのです」

ニンク「何!?!じゃあお前が道連れになれ！」

フロスト「何故私ができるのですか!?!それはあなたの役目です！」

17号（やはり別宇宙同士だとウマが合うはずはない様だな）

フロスト「とにかく、私があいつを場外近くへ引き付けるのであなたは何かなんでも捕らえるのです！」

ニンク「出来るなら最初からやっている！」

不平をこぼすもニンクは諦めず17号を捕らえようと構える。

17号も二人の動向に目を配り慎重に戦闘体制に入る。

フロストは17号とニンクから離れ人指し指を17号に向ける。

先程とは反対に静かになるも・・・

シャンツア!!!

17号達がいる宙を飛んでいったシャンツアの声を合図に3人が一斉に攻撃に入つていく!!

フロスト「今度は逃がしませんよ!」

17号「逃げはしない。二人落とすつもりでいるからな」

ニンク「天国へ行こうぜ・・・!」

ガノス「何故当たらねえ!!」

亀仙人（変身しても戦い方は変わっておらん）

亀仙人「全て手に取る様に分かる・・お主の攻撃は単調」

ガノス「ジジイがあ!!」

ダーコリ「ガノス!! 落ち着きな!」

ガノス「ダーコリか!」

亀仙人「むっ、あやつは札術使いの・・」

ダーコリ「このジジイ、小瓶を使って身体を封じる技を使ってくるよ」

ガノス「お前が危うく脱落しそうになった技か!」

ダーコリ「そうだ。実力はあんたが上でも搦め手ならあのジジイの方が多く持つてるだろうね」

亀仙人（こやつら二人を落とす事が出来れば第4宇宙の戦力は大幅にダウンする。しかし、わしの力では一人を落とせば御の字じゃ）

「亀仙人「得意の札術で攻めるのかの?」

ダーコリ「この間合いだとガノスまで巻き込む可能性もあるからしないさ。それにお前にはもう下手な幻惑術は通用しないのも分かってる」

ダーコリ「それでも二人相手はきついだろう。ガノス、悪いがこの場所だけ暗闇にしたいから時間を稼いでほしい。暗闇でもあんたは動けるかい?」

ガノス「ああ。心配しなくてもいい。気でジジイの居場所なんざ手に取る様に分かるからな」

ダーコリがぶつぶつと術を唱えている。

ガノスがダーコリを守る為に亀仙人に攻撃を仕掛ける!

ガノス「暗闇になった瞬間、貴様は終わりだ。闇の中でその肉を切り裂いてやる!」

亀仙人「わしは闇の中の戦いでも構わんよ。それでもまだお前さんには勝てるからの」

ガノス「ナメやがって・・!!」

周囲が暗闇に包まれる。

亀仙人とガノスは暗闇の中でも変わらずバトルを続けていた。

ダーコリは気で作った札を手の上から作り出しその札をガノスの背中に飛ばし貼り付けた。

ダーコリ「札術の1つだ。これでガノスの雷撃の威力が増す」

亀仙人「特殊能力の強化か!？」

ガノス「カアツ!!!」

ガノスの口から雷の球が放たれる!

予想外の攻撃とその球の速さに体を反らしギリギリかわした亀仙人だがガノスはそれを見越し軽く飛び右腕で亀仙人の腹部に拳をぶちこんでくる!

亀仙人「ま、まずい!」

わざと倒れ身体を横に転がしかわすが両腕の握り拳をまるで畑を耕すかの様に亀仙人目掛け叩きつける。

転がった後瞬時に立ち上がりかわしていく亀仙人だがその後ろには・・・。

ガシツ!!

亀仙人「ぐうう!!」

ダーコリ「終わりだぞジジイ」

ガノス「やってしまえ!」

幻惑術で巨大な姿となったダーコリに捉えられてしまう。身動きが取れず巨大なダーコリの手の中でもがく事しか出来ない。

ダーコリ「このまま落としても構わないがお前達第7宇宙を憎んでいるガノスが許さないだろうね」

亀仙人「ぐっ・・・動けん・・・」

亀仙人を手から離し気の札を背中に貼り付ける。

クリリン「武天老師様!!!」

ビルス「何が起こっている!? さっきからじいさんの動きが止まったままだ」

ウイス「何かの術でしょうね。幻を見せられ何かに縛られている、と見ていいでしょう」

18号「まずいよ!!」

ガノス「おら!!」

亀仙人「ぐふっ!」

ガノス「まだだ・・・死ぬよりも苦しい痛みを味合わせてやる!!」

ダーコリが貼り付けた札は動きを縛る札だった。

亀仙人は身動きが取れず強力な一撃を浴びせられても吹っ飛ばない。

ガノスは更にいたぶる。憎しみの打撃は止まる事を知らない。

ダーコリ「もういいだろうガノス。これ以上やると死んでしまうぞ」

ガノス「そうだな……。ジジイ、この大会が殺しはなしで良かったな。俺は今すぐにも貴様を八つ裂きにしたかったが！」

クリリン「む、武天老師様……。くそっ！あいつら、いたぶるのを楽しみやがって

!!」

シン「仲間を殺されて怒る気持ちは分かりますが……。それでも、酷いですよあれは！」

亀仙人の身体はガノスにいたぶられボロボロであった。

ボロボロの姿を嘲笑するダーコリ。亀仙人の頭を強く掴み苦しむ姿を楽しみつつも惜しく思うガノス。

ガノス「何か一言あるかジジイ？仲間共に伝えてやるが」

亀仙人「・・・う波」

ガノス「うば？まともに喋れやしないか」

亀仙人「ま、ま・・・ふう・・・ば・・・!!」

ガノス「な、何だ!？」

ダーコリ「しまった!!ガノスー!!!」

ドンツ
!!!!

ガノス「ダーコリ!!何す・・・」

ダーコリ「いやああああ!!!」

ガノスが亀仙人の身体全体をいたぶった時、背中をいたぶっていた影響で背中に貼ら

れていた札の効力が弱まり手足が動ける様になっていた。

ダーコリは魔封波が来ると瞬時に予測しガノスに長い手を伸ばし突き飛ばした。

そして、魔封波の渦にまたもダーコリは飲み込まれていく。

そして、ガノスがいた場所に小瓶が置かれていた。

実はダーコリに捕らえられる前に既に置いた小瓶であった。ガノスはこれに気付かず第7宇宙に対する憎しみの影響で冷静さを欠き小瓶の存在に気付けなかったのだ。

亀仙人「お前さんらはいいいチームじゃ……。仲間を思い……。イチチ、助け合う。はっきり言うとお前さんを封じよう物なら今のわしの体力なら……。死んでいたわい」

ガノス「よくもダーコリを……。!!」

亀仙人は小瓶に詮をしポケットにしまい込んだ。

暗闇が消え幻術の効果がなくなる。

ダーコリは出てこない。これで亀仙人は一つ確信した。

亀仙人「やりの……。一度封じた時に出てこれたのは……。第4宇宙には目には見えない戦士がいて小瓶を割ったという訳じゃな」

ガノス「黙れ!!小瓶を渡せー!!」

い)
亀仙人(戦闘力が更に上がっておる・・これ以上はまともに戦つては絶対に勝てんわ

亀仙人「ねんねんころりよ・・おころりよ・・坊やはよい子だ・・」

ガノス「ふぎげやが・・!ううつ・・くう・・な、何だ!?眠・・く」

亀仙人「坊やよ・・」

ガノス「く、くそお・・」

よいこ眠眠拳を使われガノスは眠気に襲われる。

ここで眠れば弱っている亀仙人でも脱落させるのは容易だろう。

キャウエイ「ガノス!起きなさいよ!!」

キテラ「脱落してこつちに来ようものなら破壊するぞガノス!起きやがれ!」

クル「眠らされればおしまいです！目を覚ましてください!!」

ガノス「み、皆・・・お、俺は・・・」

生き残れガノス!!

ガノス「シ、シヨウサ・・・」

シヨウサ「第4宇宙を引っ張ってるのならこんな所で負けてはならないはずだ！」

ガノス「そ、そうだ・・・俺は・・・俺は!!」

負けない!!!

ガノス「ヌガアアアアアア
!!!!!!」

亀仙人「ち、力付くで術を解きおった!!」

ガノスの身体からは更に電気が纏う。ダーコリの特殊能力強化の札を自分の身体に取り込みパワーアップを果たしたのだ!

ガノスは両腕を広げ声を張り上げる。

ガノス「これで決める!!」

亀仙人「わしも・・限界に近いが・・そんなものくそ食らえじや」

亀仙人はボロボロになりながらもかめはめ波を放つ構えを取る。

亀仙人「弟子達よ! 亀仙流はお主らと共にある!」

亀仙人「よく動きよく学びよく遊びよく食べてよく休め!人生を面白おかしく張り切って過ごせ!!」

亀仙人「これが最大最強のかめはめ波じゃー!!」

ガノス「これか今の俺の中で最大最強の第4宇宙の思いをのせた一撃だあー!!!」

ガノスが両腕を広げ空を切り裂く!すると切り裂いた空の跡から雷のエネルギー波が飛び交う!

電のエネルギー波とかめはめ波のぶつかり合いに。

二人の全王が興奮する中、亀仙人とガノスは必死に押し合う。

ガノス「じいさんにしては頑張ったな。ダーコリを二回も封じただけでも大金星だ」
亀仙人「ぐっ・・・威力が更に増しておる・・・」

ガノス「昔はさぞ立派な武道家だったんだろうな。だが、お前の時代はもう終わって

いるんだよ!!」

ガノス「自分の限界を受け入れておとなしく落ちろ!!!」

亀仙人「ま、まだじゃ・・・お前さんを倒さんと・・・」

ガノス「カアアアアアアア!!!」

ガノスは口からもエネルギー波を出す!

口からのエネルギー波も威力があり亀仙人が押される。

そして、耐えきれず・・・。

亀仙人「み、見事じゃ・・・若さだけでなく迷いのない攻撃・・・天晴れじゃ・・・」

ガノス「ハアアアアアア!!!」

うおおおおお!!!

クリリン「武天老師様ー!!!!」

大神官「第4宇宙ダーコリさん。第7宇宙亀仙人さん。脱落でございます」

ガノス「すまない、ダーコリ。くそっ!第7宇宙・許さねえ」

亀仙人が第7宇宙の観覧席に転送される。

ポロポロになった身体とエネルギーを使いきった影響で瀕死の状態であった。

クリリン「ウイスさん!!」

ウイス「はい、分かっておりますよ」

亀仙人「む、無念じゃ・あの若者は1分1秒ごとに戦闘力を上げておる・・・」
老界王神「むむ・確かに。また強くなった気がするの・」

ビルス「ご苦労だったなじいさん。第4宇宙もダメージを受けている。あの幻惑使い

を落とせただけでも健闘したよ」

シン「そうですね！あの戦士も放っておけば後々第7宇宙に驚異をもたらす存在でしたよ」

クリリン「力が万全ならあのエネルギー波は押し退けたのに・・・」

亀仙人「確かにそうかもしれないがあの若者を任せたのに落とせなかったのが申し訳ないわい・・・」

モンナ「ダーコリを落としたの？あのジジイが？」

マジョラ「搦め手においては我が第4宇宙では最高の戦士だぞ!？」

天津飯「くっ：武天老師様を助ける事が出来なかった。だが、武天老師様から授かったあれを必ずピッコロに渡す！」

ガノスが変身する前のバトルで実は亀仙人に渡されていた物があつた天津飯。どうやらピッコロに渡したらしいのだが・・・？

進化する雷鳥!第7宇宙が狙われる!

悟飯「18号さんが失格になって武天老師様が落とされた。二人の脱落には第4宇宙が絡んでいる・・・」

ポタモ「マゲツタ!!」

マゲツタ「シユポー!!!」

悟飯「それに西側から感じるビリビリする様な気・・・武天老師様を脱落させたのはあの気を放つ者に違いない!」

悟飯「早く倒さないと!戦闘力がどんどん上がっているぞ!」

悟飯はマゲツタの右のパンチをかわしマゲツタに乗るポタモに連続パンチを浴びせる!

ダメージを異空間に受け流すポタモには全く効いていないが身体が宙に浮くほどの高速パンチで身動きが取れない。

ボタモ「こ、こいつ！」

悟飯「お前は攻略した!!」

マゲツタから離れてしまいそのまま場外に近付く。

ボタモは口から光線を出すも悟飯は首を少し右に傾け攻撃を避ける！

悟飯「波ー!!」

ボタモ「な、何ー!!」

溜めが少な目の弱めのかめはめ波でボタモを吹き飛ばしボタモは場外に。

大神官「第6宇宙ボタモさん。脱落です」

シャンパ「くっそー！脱落者が出ちまった!!」

ジーン「ふっ．．あいつはやはり面白い」

アグ（ジーン様が興味を示しておられる．．）

悟飯「次はお前だ!」

マゲツタ「シユポー!!!」

ポタモを落とされ怒るマゲツタ。

マゲツタは口からマグマを吐き攻撃する。

悟飯はポタモがマゲツタの耳を抑えていたのは何か理由があると考えるが分からず仕舞い。

このままだと更にビリビリする様な気を放つ戦士がパワーアップしてしまう。焦る悟飯。だが、その時だった。

ボンコツ、出来損ない・・・とでも言えばいいかな?

マゲツタ「シユポー!」

悟飯「!?誰だ!」

マゲツタは弱点の悪口を言われうずくまってしまふ。

うずくまった所がある戦士がマゲツタを両足で跳び蹴りを浴びせ場外に叩き落とした!

大神官「第6宇宙オツタ・マゲツタさん。脱落です」

マゲツタ「シユポー・・・」

ボタモ「大丈夫だって・・・お前は出来損ないでも何でもねえから」

シャンパ「一気に二人落とされちまった!!何て事だあー!!」

悟飯「あなたは!?!」

オブニ「私の名はオブニ」

マゲツタを落としたのは第10宇宙の熟練の戦士オブニだ。

鍛え抜かれた肉体と漂うベテラン戦士の感覚を見抜いた悟飯は強者と判断し構える。

悟飯「よく弱点が分かりましたね」

オブニ「あの二人はゴラス様の神tubeで調査済みだった。そして、君とは戦士として一対一の戦いがしてみたい」

悟飯「僕とですか?・・分かりました。よろしくお願いします!」

オブニ「では行くぞ!」

一人の武人を無視する訳には行かないと悟飯はオブニとのバトルに。

セル「どうした?もう終わりか?デカイだけだった様だな」

ナパパ「ド、ドスコイ・・ドスコイ・・」

ナパパに攻撃をひたすら浴びせ苦しめるセル。

ポロポロのジラセンが後ろで倒れている。

ラムーシ「ドヒョードルのヨコヅーナであるナパパがこうもあつさりやられるじやと

!？」

ゴワス「あの者からは邪な気が溢れておる・・ブラックとはまた違う邪なる気を・・」

セル「殺しは失格だからな。消えろ」

セルはナパパを蹴り飛ばし場外に叩き落とす！

更にジラセンが力を振り絞ってセルに立ち向かったがそれを嘲笑うかの様に攻撃を瞬間移動で回避し振り向いたジラセンの右頬をぶん殴って場外に叩き落とした！

大神官「第10宇宙ナパパさん、ジラセンさん。脱落です」

セル「雑魚がいくらかかった所で同じだ・・」

ムリチム「貴様!!よくも二人を落としたなあ!!!」

セル「わざわざ落とされたいのか第10宇宙の戦士達は?まあ、好都合だがな」

ムリチムの右の拳をセルは左手で抑える。

が、想像以上のムリチムのパワーにセルは少し押されていく。

セル「ほう・・先程の雑魚共よりは楽しめそうだな」

ムリチム「規則よく鍛えられたこの肉体は簡単には抑えられんぞ」

セル「だが、パワーだけの様だ。スピードが全くもってない。・・けれども、そのパワーは認めよう」

セル「私も小手先のエネルギー波や弾などの攻撃はしないでにおいてやろう。パワーならパワーで答えてやる。ハアアアアア・・!!」

セルは超サイヤ人になり肉体を大きく膨らせ筋肉を肥大化させる。超サイヤ人第3段階でムリチムの相手をする様だ。

本来は攻撃、防御は上がるがスピードが下がるこの形態だがセルは地獄での修行で欠点を克服しスピードを下げずにこの形態で戦える様になっていた。

ムリチム「つ、強い・・!」

セル「パワーでも私の方が上だと証明させてやろう」

ムリチムとセルのバトルに。

その様子を密かに視察するゴクウブラック。

サイヤ人の姿ではない化け物の戦士が何故超サイヤ人になれるのか気になっていた。

ゴクウブラック「あの様な人間でも超サイヤ人になれるのか？ 気に入らないな・・・」

悟空はその頃、体を休めている。座りながら身勝手の極意をどうやって発動させたのか腕を組み考えている。

もちろん、弱っている悟空を無視する戦士等いない。

ローゼル「おいおい、ほんとに行くのかよ？」

ラベンダ「痛みはあるが・・・毒を浴びせればこつちにも分がある。第7宇宙を放つておくなんて出来るか」

リブリアンの攻撃を受けあばらをやられたと思われるラベンダが悟空に迫る。

気を感じられない第9宇宙のトリオ・デ・デンジャーズの3人。

悟空の背後にラベンダが毒の息を手に浴びせ襲い掛かろうとする!

悟空「おめえも休んだ方がいいんじゃないか?」

ラベンダ「気付いたか!?だが、くらいやがれ!」

毒を纏う腕で攻撃するもかわされ悟空に軽く腹部を叩かれる。

リブリアンにやられたあばら骨の部位だったのでラベンダは激痛のあまり倒れてしまふ。

ラベンダ「ギャー!!!」

悟空「気を感じられなくても今のおめえの痛みを和らげようとする呼吸は丸聞こえだぞ」

悟空はラベンダに向けてエネルギー弾を撃つて脱落させようとしたが背後からローゼルが飛び掛かりラベンダを掴み飛んでいった。

悟空はラベンダが離れたと分かるや再度体の回復を計る。

悟空「じつちゃんか落とされちゃうなんてな・・ジレンとのバトルで本気出しすぎち
まって今は動けねえ。皆、オラが動ける様になるまで負けねえでくれよな」

ローゼル「無茶するなよな」

ラベンダ「う、うるせえ！いちいち・・」

ビルス「悟空は動けんか・・」

ウイス「身勝手の極意により急激にエネルギーと力を使ってしまったからねえ」

マジョラ「フッフッフ・・」

モンナ「キャウエイの仇を取らせてもらおうわよ!!」

天津飯「挟み撃ちか」

クリリン「天津飯!!」

ビルス「くそっ！また、第4宇宙の奴等か!?!」

キテラ「キキキキ!! どんどん落としてやるからな」

シヨウサ「マジヨラ! モンナ! やってしまえー!」

キャウエイ「仇を取って〜! マジヨラにモンナー!!」

18号「あいつ、頭上にわっかはあるけど元気そうじゃないか」

天津飯「どうする……」

マジヨラ「お前の技には驚かされた。特に四人に分身する技はな。だが、眼が見えない私には四人が単調な攻撃を繰り返すだけにしか見えなかった」

マジヨラ「技が多くあってもその全てを見分けられれば何の役にも立ちほしない。お前の技は全て見切った」

モンナ「どうする? 脱落する? でも、簡単にはさせないわよ」

天津飯「……!!」

モンナ「な、何じろじろ見てんのよ?」

天津飯はモンナの球体の様な体つきに着目した。

マジヨラには持っている技を出し尽くしたと思っていたがまだ出していない技があった。

そして、これなら意表を確実に着けると確信する。

マジヨラ「降参したのか？さつきから棒立ちのままです」

モンナ「私に気があるのか知らないけど私はあんたみたいなのお断りよ！」

天津飯「俺はまだ技を全て出していない」

マジヨラ「何だと!?強がりを・・・」

天津飯「お前にこれは見切れない!絶対にな!!」

天津飯は全速力でモンナのいる前方に向かって走りモンナの球体の様な下半身を宙高く蹴飛ばした!!

モンナ「はやっ・・・!!?」

天津飯「ふーっ・・・」

天津飯は蹴飛ばしたモンナに背を向け一息つき大声で技名を張り上げる!!

排球拳!いくわよーっ
!!!

マジョラ「な、何だ!?あいつの声か!」

ビルス「あいつ、ふざけてるのか!」

18号「な、何て声出してんだい・・」

全王「何か始まるね!」

未来全王「ドッキドッキだね！」

大神官「私も大変驚いてます」

マジョラに満面の笑みを向ける！

天津飯「はぁーい！」

マジョラ「何が起こっている!? 気でも狂ったのか!？」

天津飯の変貌にたじろぐマジョラ。

天津飯「ワン!!」

落ちてきたモンナをダイビンググレシーブ！

モンナ「な、何すんのさ！」

天津飯「あ、ツー!!」

モンナを空高くトス！

モンナ「ふぎけんじや・・・」

天津飯「はぁー・・・!!」

モンナ「えっ!?!」

マジョラ「くっ!ふぎけた声で笑わせようと謀ってるな!!見損なつたぞ!」

天津飯「はぁー!!!!」

マジョラ「ナメやが・・・!」

ガシツ
!!!!

マジョラ「なっ!?!いつの間に分身を!?!」

天津飯「アターーック!!」

掛け声とともにモンナをマジョラ目掛けて地に叩き落とす!!

最初のアタックの気合いを入れていた天津飯は分身体でモンナが驚いていたのは分身体はフェイントを仕掛けマジヨラを抑える為に移動していたからであった。

バレーボールでいう時間差攻撃と似た状況で撃つと見せ掛けスパイクは天津飯本人がぶち込んだ！

マジヨラ「この・・・！」

モンナ「逃げて！」

マジヨラ「く、来るなー!!」

強烈なスパイクを受けたモンナの重球をまともに受けたマジヨラは天津飯の分身ごと吹っ飛んでいった！

モンナは地に突き刺さりバタバタしている。

大神官「第4宇宙マジヨラさん。脱落です」

キテラ「チツ!!」

クル「あつという間に二人も!!」

17号「どうした?もう、息が上がってるが?」

ニンク「だ、黙れ……。ゼエ、ゼエ……」

フロスト「この!!」

17号「天国へ連れていくには無理がありすぎたな」

フロスト(軽々と私のビームをかわしている……!)

攻撃を受け続け耐えて耐えて何とか17号を道連れにしようと企んだニンクだが体力が持たずヘトヘトであった。

対する17号は体力という概念がない為、ニンクとフロストを追い詰めていた。

フロスト「生意気な人間め!!」

17号「それも人間臭くていいと思わないか？」

飛び掛かってきたフロストをバリアーで弾き飛ばす。

フロストは吹っ飛び岩柱がクッションとなり脱落は免れる。

ニンクは一端戦線離脱をしようとしたが17号はエネルギー弾を連射しニンクの背中に当てていく。

ニンク「うぐっ！ぐあっ！！や、やめ・・・」

17号「俺のエネルギー弾と一緒に天国に行ったらどうだ？」

ニンク「お、おのれ〜！ウオオオオオー！！」

耐えられずニンクはエネルギー弾に押し出される形で場外に落ちていった。

クルは3人落とされたかと慌てめくがキテラは冷静にそして不気味にニヤリとしながら戦況を見つめる。

大神官「第4宇宙ニンクさん。脱落です」

キテラ「派手にやりやがって!だが・知らねえぜ」

コニック「ガノス君はさぞ怒り狂うでしょうね。ダーコリ君、マジョラ君、ニンク君。3人共、全て第7宇宙の人間に落とされたのですから」

ガノス「第7宇宙・俺をそんなに怒らせたのか・?」

ガノスの身体から沸々と蒸気が沸き上がる。

シューシューと蒸気が沸くと同時にガノスの髪が更に尖り背中が変形する。

ガノス「許さんぞ・ゆるさんぞ・!!」

ユルサンゾ!!!

ガノス「ガアアアアア!!!」

何と背中から雷撃を帯びた羽が生え瞳の色が深紅に染まり身体全体に電気が流れる
!

更に進化を遂げおどろおどろしい咆哮が武舞台に響き渡る!

天津飯「何だ!？」

モンナ「よくもやってくれたわね!!」

天津飯「立ち上がるか!？」

モンナ「キャウエイだけでなくマジヨラまでも!絶対に許さな・・」

ドゴツ!!

モンナ「ぐっ!!」

モンナの左横腹に蹴りが直撃!

何者かと構える天津飯。第6宇宙のカリフラがモンナを蹴飛ばしたのだ。

天津飯「第6宇宙のサイヤ人か!」

カリフラ「心配すんなよ。お前には攻撃しねえからさ」

天津飯「どういう事だ?」

カリフラ「おい、ケール。ビビってねえで出てこい!あたしかお前どつちか一人でも戦士を落とさねえとキャベの師匠は戦ってくれねえんだからな!」

ケール「は、はい・・・」

カリフラ「それと、これは恩返しだ。お前らの宇宙は第1宇宙に狙われてピンチだったヒットを助けてくれたからな」

天津飯「まあ、俺が助けた訳ではないが・・・」

カリフラ「あのままだとお前やられてたる?さつさと逃げて体力の回復した方がいいと思うぜ。聴いたろ?第4宇宙の化けもんの声をよ」

モンナ「や、やってくれたわね・・・」

ケール「姐さん!!」

カリフラ「脂肪がある分頑丈っつか!?」

天津飯「こいつは任せる・・・俺はお前らの忠告通り回復させてもらうぞ」

モンナはカリフラとケールに任せ天津飯は一度回復を計ろうと戦線離脱する。

マジヨラとのバトルで体力を消耗しており今は静かに回復を計りガノスに立ち向かうと決心していたが・・・。

天津飯「俺が早く加勢すれば奴も倒せて武天老師様を脱落させずにすんだ・・・」

ズドーン!!!!

雷が落ちたかの如く岩柱が一瞬ですみ屑になる。

天津飯の目の前に現れたガノス。羽が生え飛行が可能になり雷を落とす力をも身につけている!!

ビルス「まずいぞ!!」

シン「逃げてください!!」

ガノス「ダイナナウチュウ!!」

天津飯「有り得ん!!ここまで急激にパワーアップするなど!!」

逃げられないと覚悟した天津飯は岩柱に何かを隠す様に置き全身に力を込める。ガノスの回りに落雷が発生する。暴走するガノスのパワーにキテラは興奮する。

キテラ「怒れ、狂え、叫べガノス。お前の怒りと憎しみを第7宇宙にぶつけろ!」

天津飯「これが俺の全力の・・・気功砲だあ!!!」

ガノス「クダラン」

ガノスは何と全力の気功砲を片腕だけで防いでしまった!

そして、左手から大量に体内に流れる電流を放出させ天津飯を宙に浮かせて動きを封じ感電させる!!

天津飯「ぐああああ!!」

亀仙人「いかん！あれは萬國驚天掌と同じ原理で放っておる!!」

クリリン「子供の頃、天下一武道会で悟空がああ技にやられたよな．．」

ガノス「クルシイカ！クルシイダロ！ラクニシテヤルゾ!!」

宙に浮く天津飯に雷を込めた右手で腹部にボディーブローを浴びせ天津飯を高高くぶっ飛ばし口から雷撃弾を放ちそのまま場外へと落とした！

怒りのまま暴れるガノスは空を飛び第7宇宙の戦士を捜す。

大神官「第7宇宙天津飯さん。脱落です」

クリリン「天津飯!!」

亀仙人「しっかりするのじゃ!」

ビルス「死んではないな。ウイス。早く治してやれ」

老界王神「それにしても、とんでもない奴に狙われたの・・・」

亀仙人、天津飯の二人を落とされた第7宇宙。進化したガノスの脅威なる力に第7宇宙の戦士達はとう立ち向かうのか!?

ガノス「ミツケタゾ!!ダイナナウチユウ!」

力の大会残り終了まで残り24分!

続く

始めようか・・・！更なる進化を遂げる第6宇宙のF！

全王「第10宇宙残り3人で第11宇宙残り4人で・・・残り人数半分くらいだね！」
未来全王「残り時間もちようど半分だね！」

大神官「残り時間も半分なのでここで今一度各宇宙の内訳をご説明させていただきましよう」

全王「うん！」

全王「教えて教えて！」

大神官「まずは第3宇宙残り6人です」

大神官「第4宇宙残り5人」

大神官「第6宇宙残り8人」

大神官「第7宇宙残り6人」

大神官「第9宇宙残り7人」

大神官「第10宇宙残り3人」

大神官「第11宇宙残り4人」

全王「悟空達結構残ってるね!」

未来全王「残ってるね!」

大神官「トップは第6宇宙の8人です。次に第9宇宙の7人です」

シャンパ「ハーツハツハ!!悪いなビルス!優勝は俺達第6宇宙がもうぜ!」

ビルス「……」

ウイス「おや、言い返さないのですか？」

ビルス「聞いたか？第4宇宙の人数」

シン「はい。大神官様は残り5人とおっしゃってましたが・ベンチには5人ですよね？」

クリリン「あつ、俺達大会が始まる前からずっと8人しか見てないですよね!!」

亀仙人「ふむ・一度目の魔封波で小瓶を壊されたのを踏まえるに透明の戦士がいる可能性があり得るかもしれんがの」

クリリン「結局姿は確認出来ませんでしたね・」

ウイス「厄介ですねえ。第4宇宙は特殊な能力を持つ選手が多いと聞きます。ここぞというときに何か仕掛けてくるかもしれませんねえ」

ビルス「くそっ！後2人はどこにいるんだ!?!キテラの奴何を企んでやがる・」

キテラ「キツキツキ。おいコニツク、どうなんだ？」

コニツク「もうすぐです・・楽しみですな」

クル「一体何を・・・?」

キテラ「まあ、楽しみにしとけ。今はガノスに暴れてもらおうじゃねえか」

シドラ「我々ももしかすると生き残れそうで・・・」

ロウ「何がもしかするとだ!絶対に生き残ってやる!!」

ロウは第2宇宙の消滅を目の当たりにしてからは第7宇宙に対する恨みもすつかり消え失せ何が何でも生き残ってやると意気込む。

フリーザの事は未だに信じてはいないがそれでも強さと采配は確かな為、何も言えない。

ロウ「くそっ!加入条件が多すぎんだよあいつは」

シドラ「しかし、超ドラゴンボールで復活を願うだけなら軽いではないか?」

ロウ「バカ野郎!!それだけじゃないだろ!それに復活後、第9宇宙を絶対に支配する

つもりだぞあいつは！おいシドラ、お前あいつに勝てるよな！」

シドラ「攻撃をしてくれば破壊はするが無抵抗な者を破壊するのは・・・」

ロウ「いや、復活させて即座に破壊だ。分かったな！」

モヒイト「・・・」哀れむ顔

大神官「そして、残り時間半分なので少しばかり雰囲気を変えましょうか」

フリーザ「おやおや、焦らせる演出ですね」

暗かった武舞台の場外が緑の霧の様な不気味な空間へと変わる。

まだ真つ暗な方がマシだったのではないかと思うほど場外に落ちるのが嫌になる空間・・・。

が、戦士達は少し気になはったがすぐに元の戦いに戻る！

ガノス「ダイナナウチュウ!!ブチノメシテヤルゾ!!!」

フロスト「おやおや、とんでもない奴に狙われてしまいましたね第7宇宙は」

17号「仲間が18号に倒されたときに泣いてた奴か?また姿が変貌してるぞ!」

ガノス「ガアアアア!!!」

ガノスは17号に向かって雷の気弾を口から放つ!

17号はかわすもその背後からフロストが尻尾で後頭部を狙うがそれも左腕で尻尾を防ぐ。

ガノス「ヌガアアアア!!!!!!」

17号「なっ、早っ・・・!!」

ガノスは背中に生えた羽で雷速の如く飛び17号の首目掛けリアットをぶち込んだ!!

太い腕から繰り出される一撃は威力はもちろん電気も纏っている為にその一撃はとてつもなく重く17号は声を上げ吹っ飛ばす。

フロストはガノスが飛び掛かってくるのを察していた為、すぐに尻尾を引つ込め横に身体を反らし攻撃を回避していた。

フロスト「ほっほっほ。素晴らしい威力ですよガノスさん！」

ガノス「ダレダ！オレノジヤマヲスルナ」

フロスト「ご心配なく。私も第7宇宙が憎いので。共にあいつを痛め付けても構いませんかね？」

ガノス「カッテニシロ!!」

フロスト「それではお言葉に甘えて・・・」

17号「ぐっ・・・また2対1か。しかも、今度はかなりヤバい奴じゃないか」

18号「17号、一端逃げるんだ!!そいつはかなり強いよ！」

キテラ「逃げてどうする？仮に逃げれたとしてもガノスは一分一秒ごとに強くなる。そして、最終的にはお前達第7宇宙を全員ぶつ潰す」

18号「そう簡単に行かないよ!」

キテラ「・・・元はと言えばお前がシヨウサを殺したから第7宇宙は危機に陥ったんだぜ。キキキキ」

18号「くっ・・・それは・・・」

亀仙人「気にしなくてもよい。むしろが脱落したのは力がなかっただけじゃよ」

天津飯「武天老師様のおっしやる通りだ。俺達が仕留めればここまでの暴走はなかった。俺達の責任でもある」

キテラ「キキキキ!ま、傷の舐め合いでもしてるんだな。第7宇宙にとって絶望の幕開けが今始まるのだからな!!」

シン「い、言いたい放題言っ・・・」

ウイス「・・・」

コニツク「お互い頑張りましょう」ニツコリ

ウイス「ええ、そうですね・・・」

ビルス「おい、男の人造人間！無理してかかるな！！仲間に頼ってもいいんだぞ！」
ウイス「けれど皆さん戦ってますからねえ。悟空さんとベジータさんはジレンさんと
の戦いの影響もあつて体力の回復が重要でしょうし」

悟飯（早く17号さんを助けにいかないと・・・）

オブニ「余所見はならん」

悟飯「・・・つつ!!」

オブニの体内の気の流れと体の動きをずらし相手に動きを予測させない攻撃で悟飯
を翻弄し左頬に拳が直撃。

悟飯は宙を一回転し再度力強く構える。

オブニ「目の前の敵に集中するのだ。そして、仲間を助けたくば私を倒してからにし
ろ」

悟飯「そうでしたね。・・・あなたに勝ちます!」

オブニ「来い!!」

ムリチム「何という豪力だ!!」

セル「どうした?それで終わりではないだろうな?」

ムリチム「ぐぬぬ・・・パワーでは・・・パワーでは負けられんのだ・・・!」

『よえくなあ!ムリチムの奴』

ギャハハハ

ヒヤヒヤヒヤ

貧弱で弱虫だった幼きムリチム。
笑われいじめられていたあの頃。

だからこそ徹底的に肉体を鍛え抜いた。

力さえあれば周りがついてくる。同じ境遇を持つ仲間も増える。

信じて鍛えた結果まさにその通りになった。第10宇宙のパワーファイターはほとんどムリチムと同じ境遇を持つ戦士なのだ。

互いに規則正しく鍛え切磋琢磨してきた。だからこそパワーという面では全員が強いプライドを持っているのだ。

ムリチム「パワーだけは・・・パワーだけは!!」

セル「むっ!?!」

超サイヤ人第3形態の右の拳を少しずつだが押していく。気合いの怒声と共にセルを逆に押す!!

セルもムリチムの底力に驚くがニヤリとする。

セル「驚いた。パワーだけならこの形態と匹敵するか・・・」

ムリチム「どうだ。これが規則正しく鍛え抜いたパワーだ!!」

セル「申し訳ないな。私はまだ強化が出来るのだよ。ハアアア・・・!!」

クリリン「セルの右腕が巨大に・・・」

天津飯「ピッコロが昔使った巨大化の能力を右腕のみに凝縮しているんじゃないか？」

18号「・・・どれだけ技をもってるんだよ。あの化物は」

ムリチム「ぐおおお・・・!」

セル「ほう。粘るな・・・だが、これは耐えられんだろう」

ムリチム「腕が伸びるだ?!」

セル「努力賞くらいはくれてやろう。最もエネルギー弾等の類いがありならば貴様など秒殺だがな」

ムリチム「パワーで・・・負けるとは・・・」

うおおおおお!!!

大神官「第10宇宙ムリチムさん。脱落です」

ムリチム「申し訳ございません。ゴワス様、ラムーシ様」

ゴワス「ご苦労だったなムリチム。オブニとブラックの応援を頼むぞ」

ムリチム「は、はい。・・・ブラック・・・」

メンバーは全員、オブニの応援をする。

ゴワスはそのメンバー達をチラッと見て目を瞑る。

ゴワス(ブラック・・・いや、ザマスよ。私はお前がどんな形でもメンバーと意思の通をしチームとして戦う姿を見たかった。そうすれば少しは人間を信じられるかもしれないと思っただからだ)

ゴワス(だが、お前は宇宙消滅の危機よりも超ドラゴンボールの願い事にしか興味を抱かない。もちろん、きちんと指導をしなかった私にも責任はある。それでも・・・)

ゴワス(やはり間違っていたのか私の考えは。。。どうすれば人と向き合えるのだ。お前の心の闇はどうすれば払拭できるのだ・・・)

ラムーシ「ゴワスよ。しっかりと観ておれ。界王神であるお前が落ち込んでいては戦士達も不安に思うじやろうが」

ゴワス「ラムーシ様!」

ラムーシ「お前の弟子は全くもって酷い奴じゃ。代表に選んだのが間違いじやったわ。ジルコルの方がよかったかもしれない」

ゴワス「申し訳ありません・・・僅かな希望を抱いていただけに私も失望して・・・」

ラムーシ「ばかもくくん!!!」

ビルス「何だ!?!」

ベルモッド「ラムーシめ。相変わらずうるさい奴だ」

クス「ビツクリした。ラムーシ様ってばもう」クスクス

ラムーシ「師であるお前が失望してどうするのじゃ？わしは言い返してほしかったくらいじゃのに」

ゴワス「そうですね．．！オブニ！ブラック!!負けるんじゃないぞ!」

オブニ「ムリチムもやられるとは．．」

ゴクウブラック「うるさい奴等だ．．神々は私が消滅させる。免除された神々もな」

その頃、17号は追い詰められていた。

ガノスとフロストが意外にも息の合うコンビネーション攻撃で着実に17号を追い込んでいたのだ。

17号もバリアーを張ったりエネルギー弾で攻撃したりと攻守バランスよく反撃に

出てもなかなか突破口が開かない。

ガノス「グランアドラー!!」

17号「まぜ・・・」

フロスト「がら空きですよ?」

爪に気を集中させ剣の様に鋭く長いグランアドラーを身体を反らせかわすもフロストの肘撃ちが17号の腹部に直撃!

更にフロストは踏み潰そうとしたが17号はエネルギー弾をフロスト目掛けて放ち視界を悪くして距離を取る。

フロストはエネルギー弾を尻尾で防ぐも痛かったのか右手で優しく擦っている。

フロスト「しぶといですね!」

17号「お前も大したことないのによく長く武舞台にいられるな」

フロスト「言ってくれますね。この私に対して攻撃的な態度を取り続けるとは…。第7宇宙の人間はやはり消滅してもらわないといけませんね」

ガノス「ダイナナウチユウ！」

17号「全く、わざと病人を連れてきて18号に殺させたのだろうけどな。こっちも18号の失格はダメージが大きいんだぞ」

ガノス「ウルサイ!!」

突進して17号に攻め立てるがかわされる。岩柱を鋭く尖った頭が砕きガノスは瓦礫に埋もれてしまう。

フロストが超能力で瓦礫を飛ばすがエネルギー弾で破壊し超能力を使うのに集中しているフロストの腹部にお返しと言わんばかりに蹴り飛ばした！

フロスト「お、おのれく!!」

17号「来る！」

ガノス「ウガアアアア!!!」

瓦礫から飛翔したガノスが17号に今度は飛びながら突進を仕掛ける。

ワンパターンな攻撃と思いつつも17号は右側に移動し攻撃を回避しようとするが

ガノスは地に落ちる瞬間左腕を17号がいる右側に向け雷撃を出した!
予期せぬ雷撃に直撃し身体全体に電気が迸る!

17号「うああああ!!」

ガノス「バカナヤツメ」

フロスト「ざまあみろ!」

17号「ぐうう・・・!ま、まだだ・・・」

ガノス「ナニガマダナノダ!?!」

ガノスは17号の左腕を掴む。

そして・・・。

ボギツ
!!!!

17号「ぐあああ!!!」

フロスト「素晴らしい。さあ、次は右腕をへし折ってやりなさい！」

18号「あいつら!!」

クリリン「ダメですよ18号さん！脱落した俺達が乱入したら！」

悟飯「17号さんの声が!?!」

オブニ「余所見はならんと言ったはずだ！」

悟飯「そこだ！」

オブニ「ぐおっ!?!」

悟飯「あなたのその体内の気の流れと体の動きをずらす攻撃は見切りました」

オブニ「何を!?そう簡単に見切られるものか!!」

悟飯は目を瞑りオブニの気の動きに集中する。

目で追おうとせず攻撃の瞬間を待つ。攻撃が当たるその瞬間を狙う。

オブニが向かう。

オブニが気を流す。

オブニが動きをずらす。

オブニが右頬に向かって拳をぶつけようと・・

悟飯「見えた!!」

オブニ「ぐっ!!」

左のショートアッパーが飛び掛かってきたオブニの顎に直撃!

攻撃を受けるも再度気の動きをずらすも悟飯にはもはや通用しない。

悟飯「ハアツ!!!」

オブニ「ぐあっ・・・」

悟飯「魔閃光!!」

オブニ「み、見事・・・。うわああああ!!」

大神官「第10宇宙オブニさん。脱落です」

ゴワス「オブニ、ご苦労だった」

ラムーシ「・・・残り一人」

悟飯「これは・・・」

悟飯は赤いロケットペンダントを拾う。オブニが首もとに付けていた物だ。

それを開くとオブニとその妻と産まれてまだ間もない・・・パンと同じくらいの赤子の写真が。

悟飯「大神官様!」

大神官「どうしました孫悟飯さん?」

悟飯「これを第10宇宙のオブニさんに渡してくれないでしょうか?」

大神官「分かりました」

ロケットペンダントが悟飯の手から消えオブニの手元に転送された。

第10宇宙を守れず申し訳ない気持ちで下を向いていたが手元に戻ってきた赤いロケットペンダントを開き家族の写真を見ているとまだ自分は消滅していないと気付く。

そして、赤いロケットペンダントを拾ってくれた悟飯に感謝の気持ちを述べた。

オブニ「ありがとう孫悟飯。君との戦いは忘れないよ」

悟飯「こちらこそありがとうございましたオブニさん!僕も守るべき者があつて負けれなかつたのです」

オブニ「そうか君にも・・・」

ジーン「孫悟空の息子、孫悟飯か。あいつは面白い力を持っている」

アグ「ジーン様はあの戦士に期待してるので？」

ジーン「アグ。お前ならもつと早く気付くと思つてたがな。孫悟飯の気はシンプルで無駄が一切ない。加えて負担も見受けられない。あの力・鍛え方によつては伸び代があるな」ニヤリ

アグ「は、はあ：（ジーン様が別宇宙の人間の戦いを見てニヤつくなんてあまり見られない光景だ・・・）」

悟飯「ハツ!? 17号さんが！急がないと!!」

ムリサーム「うわー！後一人だ！もう、ダメだああ・・・」

ルバルト「後一人・・・。ゴクウブラックがいる」

ムリチム「ゴクウブラック！第10宇宙は任せた！」

リリベウ「悔しいけどあなたしかいないの。お願い！第10宇宙を救つて！」

ナパパ「どうせ消えるなら腹壊すくらい宇宙ちゃんこ鍋食うべきだった・・・」

メチオーブ「死ぬより怖いなんて・・・」

ジウム「ゴクウブラックー!!」

ゴクウブラック「哀れなカス共だ・・・神にすぎるその姿はまさに愚を象徴する人間そのものだ」

第10宇宙残り一人。ゴクウブラックは不敵に笑う。愚かな人間達が脱落し清々したと言わんばかりであった。

悟飯がビリビリと痺れる気を察知し向かう。

17号は右腕を握られる直前にバリアーを三重に張り守りを固めたがガノスのパワーを防ぐにはまだ足りず三重のバリアーが割れてしまう。

バリアーが割れた途端に背後からフロストが攻撃を仕掛けてくるがそれを逆手にとり右手一本でフロストの右腕を掴みガノスに投げ飛ばした。

ガノスの全身には電気が流れておりフロストの身体に電気が迸る!

フロスト「ぐうああああ!!!」

17号「いい電気マツサージだろ？」

ガノス「ヌガアアア!!!」

17号「こいつをどうするか・・・つつ！」

へし折られた左腕の痛みをこらえガノスの攻撃を再度バリアーを重ね防ごうとしたが一瞬で割られししまう。

眼前にガノスの巨体が!!

チュドーン!!

ガノス「ジャマヲ・・・」

ガノスの背中に気合砲が炸裂。

大して効いてはいない様に見えたがガノスの気を引かせるには十分だった。

悟飯「17号さん!!」

17号「孫悟飯!すまないな」

悟飯「左腕をやられたのですか!?!」

17号「ああ。あいつを倒すのは厳しいかもしれない」

フロスト「余所見とは余裕ですね!」

悟飯「・・・」キツ!!!!

フロスト(な、何だこいつの気は・・・)

悟飯の一瞬の迫力に手を出せないフロスト。あからさまに自身より格上の相手と分かかってしまったからだ。

悟飯は攻撃をしてこないフロストをスルーしガノスの全体像と気の力を視認する。

強大な力を持ちかつ怒りに燃え暴走する姿・少年時代、セルと戦った自身を思い起こす。

ガノス「ダイナナウチュウ！キサマラハユルサナイゾ!!」

17号「どうする？孫悟飯」

悟飯「こいつは僕が相手します!!17号さんは逃げてください」

17号「・・・いいのか？お前一人であいつを相手するのか？」

悟飯「こいつは僕が倒さないといけない・・・そんな気がするんです」

ガノス「ニゲラレルトオモウナヨ!!」

悟飯「早く逃げてください!」

17号「わかった。その暴走戦士は頼んだぞ孫悟飯」

悟飯「二人共。17号さんにな変わって僕が相手だ!」

フロスト「いいでしょう・・・と思いますか!!」

悟飯「何!?!」

フロストは悟飯を無視し17号を追い掛けた。

格上の悟飯相手だと分が悪いと判断し17号に狙いを定めていたのだ。

悟飯「ま、待つんだ!」

ガノス「ウガア!!」

悟飯「くっ・・・」

17号はガノスから離れ構える。

フロストが追い掛けて来るのを読み自分の仕事を果たそうと企てていたのだ。

フロスト「逃げられると思ってましたか?」

17号「俺が逃げると言ったのはあの暴走戦士に対してだ。お前一人程度なら腕が一本使えないくらい問題ない」

フロスト「くくくく・・・いちいち癩にさわる奴だ。お前は確実に落とさないといけない」

フロスト「フリーザ先輩に言われた新たななる変身を見せてやるぞ。私を怒らせた事後悔しろ!!ハアアア・・・!!」

17号「俺は待たないぞ」

エネルギー弾を片手で連続して放つがフロストの回りには特殊なバリアーが張られていた。

フロスト「この姿を見せるのは貴様が初めてでこれが貴様の最後だ!今までの俺とは比べ物にならないぞ!」

フロストの姿が変化する!身体が一回り大きくなり頭部から4本の角が後方に伸び、また両肩がプロテクターのように張り出し、背中から2本の角が生え、両前腕部からもナイフ状の突起物が生える!

フリーザ「おやおや、フロストさんが変化した様ですね。あの形態は我が一族では・・・ま、いいでしょう!」

フリーザ「さて、そのポンコツでどう守りますかね?」

ボラレータ「ドクターニテヲダスノハゲンキン」

パパロニ「このままでは厳しいか・・・」

17号「やはり力を隠し持っていたのか」

フロストは変身が完了し蒼く光る眼を17号に向け気を放出する。

先程までと違い大幅にパワーアップしている!

フロスト「さあ・・・始めようか!」カシャ!!

口に蒼のマスクが覆われ17号に襲い掛かる!

二人の全王は変化したフロストに興奮する。

シャンパ「あいつにあんな変身能力があるとはなあ。ヴァドス。フリーザの小言で変

身できるって言ってたのだろ？」

ヴアドス「はい。しかし、あの力はまだ使いなれていません。突拍子で発動した力を
使うのはリスクも伴います」

シャンパ「第7宇宙を落とせればそれでいいんだよ！フロスト！せつかく呼んでやっ
たんだからな。そいつを落としちまえ！」

シャンパの声援を無視しフロストの拳と17号の拳がぶつかり合った！

とびっきりの戦士対戦士! 激突する最大パワー!!

デイスポ「どうやら一体が退却した様だな」

カーセラル「緊急事態があつたのかもしれない。何はともあれ・・・」

パンチアが突進しコイツカイは眼と思われる赤のアイセンサーからビームを放つ。

デイスポもカーセラルもかわしながら攻撃を当ててはいるが思いの外頑丈なボディなのでダメージをあまり与えられていない。

カーセラルは第3宇宙のロボットタイプの改造戦士は一体でも落とさなければ後々厄介な相手になるかもしれないと考察していた。

ビアラとナリラーマの合体戦士ビアラーマの様に3体の合体も有り得るのではないかと危惧している。

デイスポ「トツポは何をしているんだ!？」

カーセラル「ジレンとヒットの戦いを観戦してるとは、ないか？ジレンは負けはしないと思うがヒットの能力も脅威ではあるからな」

デイスポ「全く呑気に観戦してないで助けに来てくれよ・・・」

ジレンVSヒットはジレンがヒットに一方的に攻める。

時飛ばしを何度も仕掛けるがジレンには全く効かない。

ヒットは第6宇宙最強の戦士。そのヒットでさえジレンを前に圧倒されている。

ヴァドス「ヒットさんの攻撃はジレンさんに一撃も決まってもせんね」

シャンパ「くうく!!」

フワ「困った・・・本当に困った」

ヴァドス「ジレンさんに完全に動きを見切られていますね」

シャンパ「じゃあ何でヒットは何度も時飛ばしを使ってるんだ!？」

フワ「ああ、困った・・・困った・・・」

ジレン「何度同じ事を繰り返す？無駄なことは やめろ」

ヒット「これは俺の仕事だ。最後まで付き合ってもらおうぞ」

悟空「ジレンのやつ全然隙がねえぞ」

悟空は静かにヒットVSジレンを観戦する。

トツポは悟空の存在に気付いているが弱っている悟空を落としてもつまらないとあえて気付かないふりをしていた。

悟空「だけんどヒットにも何か考えがあるみてえだな・・・」

そして、ヒットと同宇宙のキャベもこのバトルを観戦している。

ヒットは圧倒されているがヒットには何か策があると真剣な眼差しで戦いを見守る。

キャベ「ヒットさんには何か策があるはず・・・ジレンの攻撃を食らったときにきちん
と防御しているからダメージは最小限で、きつと反撃のきつかけを狙ってるはず・・・」

私も思っていた。

キャベ「第1宇宙の!!」

トツポ「まあ、構えるでない。今は戦う気はないぞ」

キャベ「……」

トツポ「ジレンも気付いてはいるだろうが何をするか分からない以上攻めに転じるしかないのだろう」

キャベ「ですね……」

トツポ「……」

トツポはキャベの瞳を見て瞬時に感じ取れた。

この者も自分達と同じ正義の為に戦う人間と。

トツポはある悩みがありそれをキャベに話す。

トツポ「お前も第6宇宙では正義の為に戦っているのだな」

キャベ「えっ!?確かに宇宙の悪党と戦い平和の為に戦ってはいますが……」

トツポ「やはりか。お前の眼は真つ直ぐで純粋だ。曇りがないその眼はまさにジャス

ティース!」

キャベ「えっと・・・あ、ありがとうございます」

トツポ「・・・そんなお前に聞きたい事がある」

トツポ「お前はその正義をもしもだ。もしも、捨てる時どういう決意を持って戦う」
キャベ「捨てるって!? 悪党にはなりませんよ! 僕は僕のままです」

トツポ「分かっていると思うが力の大会は負ければ宇宙が消滅する戦いだ。そんな大会で正義を貫くのは正直な所無理がある」

トツポ「散った第2宇宙は最後まで愛を貫いた。その姿は美麗そのものであった・・・。けれども、私は消滅はしたくないしさせたくない」

トツポ「第1宇宙をいつもの様に過ごす民達。そして、悪党だって消滅はさせたくはないのだ・・・。だが、私はこのまま正義を貫いても勝てる気がしないと思う」

キャベ「・・・」

トツポ「いつか決断せねばならない時が来るであろう。その時には私はもう正義と言
う言葉はただの戯言にしかならんのだろくな・・・」

キャベ「正義を捨てる・・・」

トツポ「むっ!? ジレン！」

ジレンの胸部にヒットの拳が入る。

ヒットはこの一撃を当てるために何度も時飛ばしを繰り返していたのだ。
拳の跡がジレンの胸部にめり込んでいく。

キャベ「これがヒットさんの作戦だったのですね！」

ベルモツド「ジレン。どうした・・・動け！」

ヴアドス「時とばしを連続してジレンさんにだけかけているんです。この技がヒッ
トさんの奥の手のようですね」

シャンパ「いいぞ！そのまま止めて落とせ！」

ヒット「やはり・・・厳しいか・・・」

ヒットは何とかジレンの動きを封じる。が、ジレンも負けじと力尽くまで時飛ばしから解放されようと気を放つ。

互いの得意分野の能力のぶつかり合いが始まった!

フロスト「どうした!? 片腕だけで勝てるのじゃなかったのか!？」

17号「くっ・・・」

17号はひたすらバリアーで身を守る。だが、変身したフロストのパワー、スピードは格段に上がりかつ片腕だけでのバリアーは耐久性も下がる為に張って1秒足らずで割れてしまう。

それでも17号は引き下がってはバリアーを張り続ける。

フロスト「逃げてても無駄だぞ!!」

17号「これも立派な作戦だ」

フロスト「作戦だと？ふざけた事を・・・もう我慢ならんぞ!!」

フロストはひたすら守りに転じる17号に怒りに震える。

片腕を上げ気を溜めると赤々と燃える大きな丸いエネルギーの塊が作られた。

フロスト「ハツハツハツ!!今までの俺とは違うと言ったろう!消えてなくなれえーつ!!」

17号「バリアーでは防げない・・・だが、バリアーの力で壊せる」

17号は右の拳をバリアーでコーティングしフロストが作り上げたエネルギーの塊に殴り付ける!

エネルギーの塊に飲まれそうになるがギリギリの所で持ちこたえる。

気合いを入れて声を張り上げエネルギーの塊を抑える。

フロスト「バカめ!これで終わると思ったか!!」

フロストはまたも同じ様に片腕を上げエネルギーの塊を放つ!

17号が懸命に押すエネルギーの塊に更に別のエネルギーの塊が重なる。

18号「17号!!!」

天津飯「まずいぞ!流石に2つも防ぎきれるとは思えん!」

クリリン「えげつねえ事するぜ・頼むから抑えてくれよ義弟!」

フロスト「第7宇宙は消えろ!!!」

失格覚悟の攻撃と分かりつつフロストは17号を殺す気でいた。

もはや力の大会のルールの事など頭の片隅にもない。

強い殺意を持って放ったエネルギーの塊は17号を更に押し上げる!

フロスト「ハア、ハア・ぐっ!」

シャンパ 「何だ!? フロストの奴、胸を抑えてるぜ？」

ヴァドス 「形態で強化された力を維持するのは簡単ではありません。フロストさんはまだあの形態の力を完全にコントロールはしていないので心身に大きな負担が掛かり限界が近付いてきたのです」

シャンパ 「何だと!？」

ヴァドス 「おそらくあの2つのエネルギーの塊を防がれてしまうとフロストさんは負けるでしょう」

シャンパ 「くそっ! フリーザの奴、フロストに余計な事教えやがって!」

フワ 「それでもあの力が無ければ17号とやりに普通に負かされたのかもしれない・
フアーツ」

シャンパ 「それもそうだが・チッ!! フロストー! 気張れ!! 応援してやるからな!」
ブーブー!!

ヴァドス 「だからブブゼラはうるさいと・」

17号「これさえ防げば・・・!!」

だが、エネルギーの塊は容赦なく17号を押し。

このままではエネルギーの塊に飲まれ死亡する可能性もある。

両手で作り上げたバリアーなら簡単に防げるのだが今の17号は左腕をガノスにへし折られてしまいコーティングしたバリアーで殴り飛ばす以外方法がない。

コーティングしたバリアーなら一点にエネルギーを集中できるがエネルギーの塊を殴り飛ばすというのは腕に大きな影響を及ぼす。

それでも17号は絶対に負ける訳には行かないと力を入れる!

17号「オオオオオオオ!!!」

フロスト「し、しぶとい奴め・・・」

17号「ハアアアア!!!」

フロスト「な、何!?!」

エネルギーの塊が押し返されている。フロストは慣れていない変身がたたりもしも押し返されようものなら最悪自滅もあり得ると畏怖する。

徐々にだがエネルギーの塊がフロストに近づく。逃げようにも足が動かない。力が入らないのだ。元にも戻れない。使い慣れていない力が返って自分の首を・命までも消してしまう事になるかもしれない！

フロスト「やめろ・!! 来るな!!」

17号「ラアアアア
!!!!!!」

フロスト「そ、そんな!!」

エネルギーの塊がフロストの眼前に! 2つの重なったエネルギーの塊がフロストに襲い掛かる!!

フロスト「こんな物・・こんな物・・!!」

フロスト「ハッ!？」

手で抑えるようにするも気が付けば場外の宙に浮きそのまま押されていく・・・。
17号の右腕の袖が破れ右手は傷だらけであったがそれを気にせずフロストの行く末を確認している。

フロスト「甘かった・・・俺は・・・甘かつ・・・」

うおおあああああ
!!!!!!

フロストの肉体がエネルギーの塊に飲まれ場外に行く前に爆発し消滅。
もちろん自身が出した技なので・・・。

大神官「第6宇宙フロストさん。自身の技により自滅。よって17号さんはノーペナルティです」

フロスト「はっ!？」

フロストは元の姿に戻り頭には輪っかがある。

死亡してしまい17号に怒りの矛先を向けるがボタモとマゲツタに抑えられる。

ボタモ「落ち着けて！」

マゲツタ「シユポシユポ!!」

フロスト「離しなさい!あいつは僕を殺したのだぞ!!」

ヴアドス「自滅です。フロストさん自身の技で死亡したのですから」

フロスト「くっ・・・あいつ・・・!!」

シャンパ「黙って見とけ。黙れねえと破壊するからな!!」

フロスト「くっ・・・」

いつもはふざけているシャンパも破壊神。到底フロストが敵う相手ではない。

フロストは黙って静観する事に・・・と思われたが。

フロスト「戦士の皆さん!!第7宇宙の17号さんはダメージを大きく受けています!左腕は使い物になりません!チャンスですよ!!」

フリーザ「ほう・・最初から脱落させる為に変身能力を伝えましたが・・左腕を折ったのですかね?」

ボラレータ「ドクターへノコウゲキハキンシ!!」
フリーザ「うるさいですよ」

尻尾でボラレータを弾き飛ばしデスビームを連射しボラレータはフリーザから遠く離される。

パパロニはその隙にフリーザから逃げ杖を使いモスコとカンパーリとある会話をしていた。

パパロニ「モスコ様。二つの宇宙に現在狙われております。そろそろあれを・・」
モスコ「ピポピポピポ」

カンパーリ「モスコ様いわく発動せよDr. パパロニ。第3宇宙の秘技を見せる時だ」

パパロニ「了解致しました」

マジ||カーヨ「どうしたどうした!?!第9宇宙は弱くせえな!」

ベルガモ「いい気になるなよ!!」

ベルガモ「やれ!!」

マジ||カーヨ「はっ!?!」

アイスランス!

マジ||カーヨ「マ、マジカヨ・・・」

ロウ「いいぞヒソツプ!!流石はビッグアイスマンだ!!」
シドラ「そのまんまですな・・・」

ベルガモ「氷漬けになった気分はどうだ?液体野郎」

マジ||カーヨ「俺の体が氷って・・・」

ヒソツプ「お前も終わり」

マジ||カーヨ「しまわなーい!!!」

ベルガモ「何っ!?!」

ヒソツプ「バカな!?!」

ヒソツプの氷を難なく砕くマジ||カーヨ。砕いた後も液体が再生しどや顔でベルガモ達に挑発する。

マジ||カーヨ「氷なんざ俺のパワーで破壊可能だよバーカ!!」

マジルカーヨ「消えちまいな！」

ヒソツプ「ぐああああ!!」

腕を大木の如く太くしたパンチがヒソツプを遥か彼方にぶっ飛ばす。
ベルガモの凍らせる策が失敗してしまった。

大神官「第9宇宙ヒソツプさん。脱落です」

ロウ「くそお！残り6人か・・・」

シドラ「第6宇宙も一人脱落したのが幸いでしたな」

ベルガモ「どうする・・・」

マジルカーヨ「次はお前だぜ」

バジル「スーツが無ければ雑魚の癖によ!」

カトペスラ「言い訳は無用だ!それとも本気で勝つつもりだったのか?」

バジル「んだと!」

カトペスラ「終わりにしてやろう!カトペスラ・バトル・」

カトペスラが必殺技を出そうとするも何かを感じ必殺技を出すのをやめた。

バジルは内心助かったと安堵する。

バジル「へっ!ビビったのか?」

カトペスラ「Dr・パパロニからの呼びだ。助かったな!」

疾風のスピードモード!!

バジル「・・・助かったが嫌な予感がしやがる。ヒソツプが落ちたし兄者は大丈夫なのか?」

マジルカーヨもパパロニの指令でベルガモとの戦闘を避けパパロニの元へ向かった。第3宇宙にとってパパロニの指令は絶対なのだ。

ベルガモ「第3宇宙・・・何をしてくる」

カーセラルとデスポと戦っていたコイツカイ、パンチアもパパロニの指令の元戦闘を離脱。

逃がせはしないとカーセラルとデスポは追いかけてデスポがコイツカイに拘束技を仕掛ける。

デスポ「サークルフラッシュ！」

コイツカイは上手く岩柱を移動しサークルフラッシュを回避。

そして、岩柱の頂点にはパパロニの姿が！

カーセラル「デイスポ。あの岩柱のてっぺんを見ろ！」
デイスポ「・・・あいつが第3宇宙を率いてるって事か」

やれやれ逃げ足だけは早い様ですね。

カーセラル「お前は第9宇宙の！」
デイスポ「そろそろ出てきやがって・・・」

バジル「第11宇宙の奴等だ！」

ベルガモ「やるならやってやるぞ・・・」

フリーザ「お待ちなさい。今は戦っている場合ではないでしょう」

マジル「カーヨ」「Dr. パパロニ。何か御用で？」

カトペスラ「第9宇宙と第11宇宙の戦士達か・・・Dr. パパロニ。あれを始めるのか？」

パパロニ「そうだ。モスコ様からも許可が下りた。お前達は私のガードナーとなるの

だ」

マジルカーヨ「了解」

カトペスラ「了解した！」

フリーザ「何かしてくる様ですね」

カーセラル「第9宇宙よ。お前達も狙われたのか？」

ベルガモ「狙われた？」

バジル「正義を気取ってわざわざ狙われる事なんかしねえよ」

デイスポ「何だと・・・？低レベルの宇宙の分際で!!」

フリーザ「おやめなさい！」

パパロニ「さあ、見せてやるぞ!!」

フリーザ「・・・やはりあのロボット3体の合体でしょうね。今回ばかりは第11宇宙のあなた方にも手伝ってもらいますよ」

カーセラル「・・・俺達は俺達なりに戦う。足を引つ張るなよ」

デイスポ「今すぐ落としてやってもいいけどな」

バジル「やれるもんならやってみやが・・・」
ベルガモ「やめろバジル。お前では勝てん」
バジル「あ、兄者まで・・・」

デイスポ「フン!!お前はちよつとは身の程を弁えている様だな」

パパロニ「発動だ・・・!!」

プランXを今!!

第3宇宙が遂に動き出す!パパロニが言うプランXとは一体!?

力の大会終了まで残り22分!

続く

第3宇宙の切り札！3体合体最強マシン！！

ピッコロ（一撃一撃が更に重くなっている。俺には分かる・・・）
サオネル「どうした？先程よりも攻撃の手数が減っているぞ！」

ピッコロ「ぐっ!!」

サオネルは右腕を伸ばしピッコロの左頬をぶん殴りピリナがピッコロの背後に回り口からの光線でピッコロの左腕を吹き飛ばした！

連携攻撃にピッコロは最初こそ立ち回っていたがどんどん攻撃の重さとスピードが上がる二人のナメック星人に劣勢に立たされている。

ピリナ「腕は再生するだろ？同じナメック星人だから分かるぞ」

ピッコロ「俺もナメック星人だから分かる・・・お前達が大会に勝つために同志を集めたのがな」

悟飯「ハアアアア
!!!!」

悟飯は身体に気を纏いながらガノスにラツシユを仕掛ける。

ガノスも負けじと反撃に出るも手数は悟飯の方が上。だが、パワーにおいてはガノスがやや上回る。

ガノス「ヌガアアアア!!!」

悟飯「ウワツ!!」

雷の爪を振り回し悟飯を切り裂きにかかるが悟飯は身体を反らして回避し嘴に右拳を浴びせた。

が、効いておらず逆に嘴を開け悟飯の右手を挟んだ!

電撃が流れ痛みが全身に迸る!!

悟飯「うわああああ!!!」

ガノス「コノママカンドンシロ!!!」

クリリン「ご、悟飯!!」

ビルス「あの電撃が厄介だな」

ウイス「札の力がまだガノスさんに残っているのでしょうか。体内には沸き上がるほどの電気。更には怒りにより更に羽を生やし機動力までもがアップしていますねえ」

天津飯「札術使いの力が脱落しても残り続けたとは・・・」

亀仙人「恐らくじやがああのだには潜在能力を飛躍的に上げる力があつたのじやろう。しかもそれは札があるからではなく札のエネルギーを直接本人の体内に送り込む事で札を使った本人が脱落しても効力が消えないのじや」

ダーコリ「ジジイにしては頭が回るね」

キャウエイ「種が分かつててもガノスは止められないわよ。ねー」

ダーコリ「フフツ、そうだね」

ニンク・シヨウサ「ねー!」

マジヨラ「ね、ねー・・・」ボソツ

ビルス「第4宇宙め・・・いちいち絡みに来るな」

クル「キテラ様。第9宇宙は全く第7宇宙に攻撃をしませんね・・・」

キテラ「フリーザのせいだろうな。ま、あいつらは大した宇宙じゃねえ。ほつといても勝手に消えるぜ。コニツク、もちろん・・・」

コニツク「はい。第9宇宙も完了しています」

キテラ「そろそろか? 楽しみだぜ・・・」

ビルス「訳の分からない事ばかり言いやがって・・・」

悟飯「この・・・!!」

挟まれた右手を高く振り上げガノスを地に力尽くで叩き付け嘴から右手を離す。

地が砕けるもガノスは大きくダメージを受けておらずガノスは右手から電流を放出する。

天津飯の動きを封じた萬國驚天掌と同じ原理の技だ！

悟飯はガノスの出す電撃の技はどれも当たれば危険と判断しておりバックステップで回避しながら倒れながら技を出していたガノスにエネルギー弾をぶつける。

ガノス「アタレバラクニナレタモノヲ・・・」

悟飯「奴を倒すには生半可な攻撃じゃダメだ！早く倒さないと強化されていく一方だ！」

ガノス「ダイナナウチュウハツブス!!!」

悟飯達が激しいバトルをしている中、第3宇宙が本格的に動き出そうとしている。

パパロニ「我が第3宇宙の秘技を見せてやろう!!」

プランXが始まるうとしている。頭にコイツカイ、胴にパンチア、足にボラレータの3体が合体準備に入る。

フリーザ「させませんよ!!」

マジllカーヨ「させねえよ!!」

フリーザはデスビームをパパロニ目掛けて放つもマジllカーヨが手を肥大化させ防ぐ。

パパロニの前に立つマジllカーヨとカトペスラのガードは固くそうそうこじ開かれそうにない。

カーセラル「裏を返せば3体ロボットに任せ奴等は戦わないという事でもあるな」

デイスポ「プラスに考えれば3体ロボットを倒せば奴等の戦力は大幅に半減するって訳だな。だが・・・」

バジル「合体なんかさせるかよ!今すぐにも叩き落としやる!!シャイニングブ

ラ・・」

カトペスラ「カトペスラ・スピード・ミッション!!」

バジルはシャイニングブラストをボラレータ目掛けて放とうとしたがカトペスラ・スピード・ミッションが飛んで来た為に狙いを変更せざるを得なかった。

エネルギー弾とエネルギー波が相殺し互いに睨み合う。

カトペスラ「ドクターの秘技を邪魔するな!」

バジル「黙って秘技をさせる訳ねえだろうが!!」

ベルガモ「ウルフガングペネトレーター!!」

マジ||カーヨ「これだから底辺宇宙は嫌なんだよ」

握り拳から放たれるエネルギー波、ウルフガングペネトレーターをマジ||カーヨが液体の腕を伸ばしガードする。

パパロニ「何をやっても無駄だ。プランXは止められ・・」

デイスポ「それはどうだろうな!」

カトペスラ「ぐあっ!」

デイスポが光速のスピードでカトペスラを蹴り飛ばしパパロニの前に出た。
マジllカーヨがウルフガングペネトレーターを宙に跳ね返し直ぐ様反撃に移ろうとしたが伸ばした腕がカーセラルのジャステイス・サーベルで切断される。

カーセラル「すぐに再生はするだろうがその一瞬が命取りだ!」
マジllカーヨ「くっ!!」

デイスポ「終わりだぜ!イカれた科学者!!」

コイツカイ!

パンチア!

ボラレーター!

パパロニ「惜しかったな。プランXは
今完了した」

デイスポ「何っ!？」

カーセラル「ドウアアッ!!」

デイスポ「將軍!!!」

パパロニ「ハハハハハ!!」

デイスポ「ま、待て!うおっ!？」

カトペスラ「あれくらいで俺を倒したと思うなよ!」

カーセラルを軽々と弾き飛ばす鞭の様にしなる長いアーム。

パパロニはマジッカーヨの液体の腕をトランポリンの様に跳び跳ねて別の岩柱の頂
に立つ。

カトペスラのスピードモードからのダッシュパンチをかわすデイスポだが頭部のコ

イツカイのアイセンサーからの紫のレーザーがデイスポ目掛けて放たれる。

今まで放ってきたコイツカイのレーザーとは桁違いの威力とレーザーの太さだ!

デイスポは光速のスピードでレーザーをかわすもコイチアレータの攻撃能力に顔をしかめる。

デイスポ「くそお! ふざけたロボット共をまた合体させやがって!」

パパロニ「我が技術の結晶をとくと味わうがいい!! さあ、コイチアレータ。5人を叩き落としてしまうのだあ!!」

パパロニはマジーカーヨを盾にし攻撃が当たらない位置を取る。

飛ばされたカトペスラも戻ってきてパパロニの背を守る。

コイチアレータ「グオオオ!!!」

マジーカーヨ「こいつはすげえぜ! これであいつらはしまいだな!!」

フリーザ「調子に乗るんじゃないやありませんよ・・その様なポンコツで私に勝てると思ってるのですか!? キエー!!」

フリーザはデスビームを連射するもコイチアレータのボディーには全く受け付けない。

ムキになったフリーザはデスビームをひたすら連射するが突如コイチアレータが消えた。

驚くフリーザの背にコイチアレータのアームが直撃する。

フリーザ「ぐあっ!・・お、おのれく!」

バジル「ウルフガングブラスター!!」

ベルガモ「ウルフガングペネトレーター!!」

二人の攻撃もアームで弾かれてしまう。

コイチアレータはバジルをアームで攻撃するがバジルはかわし長いアームに乗って頭部を蹴ろうと駆け抜ける。

バジル「ナメんじやねえ!! その眼、潰してやる!」

デイスポ「おいバカ! その眼からはレーザーが飛ぶぞ!」

コイチアレータ「ウオー!!」

バジル「レーザーごと蹴飛ばす! シャイニングブラスト!!」

コイチアレータの頭部の眼にぶち込もうとするも眼から放たれる紫のレーザーの威力は想像を絶する威力だった。

バジルのシャイニングブラストを受け付けずバジルごとレーザーが地に叩き伏せる!

バジル「ぐああああ!!」

エア「Dr. パパロニのプランX。アタック、デイフェンス、スピード全てを備えたパーフェクトな戦士ですよ!」

モスコ「ピポピポピポ」

カンパリー「モスコ様曰くもう少し発動を待たなかった。だが、コイチアレータには

絶対敵わないだろう」

カーセラル「かなり手強いぞ」

デイスポ「ちっ！パワーだけならどうにでもなると思ったがああ硬さだ」

カーセラル「俺のジャステイスサーベルもジャステイスカタールも受け付けない。ジレンさえいれば・・・」

ジレンはまだヒットとの耐え合いが続いていた。

時飛ばしのパワーと気のパワー。互いのパワーのバトルが長引いている。

それを見守るトツポとキャベ。が、コイチアレータの強力な気に気付きトツポは立ち向かおうとしていた。

トツポ「第6宇宙の正義の男よ」

キャベ「は、はい」

トツポ「次会った時は落としかかる。だが、お前とは争いたくなくかつた」

トツポ「共に宇宙の平和を守る戦士同士が戦うなどあつてはならん事だ。．．私はま

だ正義は捨てられやしない。それでもこの力の大会では決意せねばならん事態になるだろう」

キャベ「僕も同じ気持ちです。あなた達プライド・トルーパーズの正義の思いは本物です。．．でも、僕達も第6宇宙を守らねばなりません」

トッポ「その心意気を忘れるな。我々は宇宙の運命を背負っているのだ。望まれない戦いも受け入れねばならん。それではだ、ジャステイス!!」

ヒット「お前は俺が倒す．．！」

ジレン「．．．!!」

悟空「すげえバトルだ．．！」

ヴアドス「おそらくあの技にヒットさんは全ての力を使うつもりなのでしょう。ジレンさんだけを止めながら落とす覚悟のようです」

シャンパ「ヒット．．よ、よーし! ジレンを叩き落とせ!!」

ヒット「このままこいつを最後まで止め続けられるほど俺の力は持たない。ならば俺の全てを賭けよう」

ヒット「賭け事など殺し屋らしくないがな。この一撃で決める!!」

ヒットは時飛ばしを掛けながら右手にエネルギーの玉を作りジレンにぶつけて場外に落とそうと飛び掛かる！

果たして!?

ラベンダ「バジル、兄者が苦戦している・・・」

ローゼル「ここは避難すべきだ。あんな奴を相手などしてられん」

ラベンダ「・・・」

ローゼル「お、おいラベンダ!!」

ローゼルの背に乗っていたラベンダが地に降りた。

地に降りた衝撃であればらを抑えるも耐える。

ラベンダ「兄者と弟が戦っている。俺がこのまま引き下がるなんて出来るか!」

ローゼル「何言ってるんだ!! 力の大会は生き残る事が大事なんだぞ! 身体がボロボロだろうがぶつ倒れようが生き残れば・・・」

ラベンダ「3人で苦楽を共にしてきたんだ。兄者や弟にこれ以上の負担は掛けられん」

ローゼル「無茶だ!!」

ラベンダ「奴を打ち崩すには連携攻撃だ。3人のパワーを1つにすれば勝機はあるはずだ・・・」

ラベンダ「だから俺は行く。俺を乗せたままだとお前にも負担を掛けてしまうからな」

ローゼル「ラ、ラベンダ!!」

ロウ「ラベンダの奴。立ち向かうのか!？」

シドラ「兄弟を放つてはおけない。負傷してでも強敵相手に臆せず立ち向かう。兄弟との絆を大事にしたいという気持ちか・・・」

ロウ「あいつなりに決意を持って挑むという事か・・・バカ野郎。どうしてそこまでして戦うのだ」

コイチアレータの攻撃は更に過激になる。

アームを乱暴に振り回し胴のパンチアの二つの胸部のハッチからエネルギー波を放つ。

パワーは勿論、攻撃の速度も早く矢継ぎ早に繰り出される攻撃にベルガモ、バジル、フリーザ、デイスポ、カーセラルの5人は手が出せない。

頭に来たフリーザがゴールデン化して一気に決着を付けようと変身の体勢に入った時！

ウラアア
フヌウン
!!!!!!!

コイチアレータ「ヌオオ!?」

二人の戦士がコイチアレータの左右の足を攻撃しバランスを崩させる。
が、左足を攻撃した方は大して効いておらず実質右足をぶん殴られ転倒した様な物であつた。

カーセラル・デイスポ「トツポ!!」

バジル「兄者!」ベルガモ「ラベンダ!」

フリーザ「あなた左足を攻撃しましたが効いていませんよ。それとも、脱落しに来たのですか?」

ラベンダ「う、うるせえ! 兄弟のピンチに何もしない訳にかねえだろ!!」

トツポ「偉く苦戦してる様だな。私も助太刀に入らせてもらう」

マジルカーヨ「マ、マジカヨ・二人助太刀に来やがった」
カトペスラ「Dr. パパロニ。ここはひとまず退くのが・・」

パパロニ「フハハハ!! 第1宇宙の3人がわざわざ来たのだ。落としてやるぞ」

パパロニ「第1宇宙はジレン一人になれば我等が第3宇宙の勝利は確定だ。残りの戦士はコイチアレータで十分だ。孫悟空も今やあの力を使うのはおそらく不可能だろう」

トツポ「ジレン一人になれば勝ちか。第3宇宙は私達を随分と下に見ている様だな。行くぞ!」

デイスポ・カーセラル「おう!!」

トツポ「自由の戦士トツポ!」

デイスポ「音速の戦士デイスポ!」

カーセラル「斬撃の戦士カーセラル!」

トツポ・デイスポ・カーセラル「宇宙の平和を守護する光!! 我等プライド・トルーパー

ズ!!!」

トツポ「我が宇宙を守る光の戦士としてお前を打ち砕く!!」

カイ「決まりましたね」

ベルモツド「我が宇宙の誇りだ」

ロウ「お、おい! お前達トリオ・デ・デンジャーズを見せてやるのだ!!」

フリーザ「やらなくて結構です」

ベルガモ「あ、ああ・・・」

ロウ「フリーザ!! トリオ・デ・デンジャーズのファイティングポーズはあんなプライドなんたらよりもカッコいいのだぞ! それを分かって・・・」

フリーザ（やれやれ。消えた第2宇宙といい第1宇宙やこのおバカな界王神はギニュー隊長みたいな事をするのが好きなのですかね・・・）

ベルガモ「ラベンダ。無理はするなよ」

ラベンダ「俺はもう大丈夫だ・っつ」
バジル「あ、兄者！」

ラベンダ「大丈夫だと言ってるだろ！さあ、俺達三兄弟の力見せ付けてやろうじやないか」

モスコ「ピポピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰く確実に落とせる戦士を狙え」

パパロニ「了解致しましたモスコ様」

杖から会話するパパロニ。話を終えるとラベンダを一見しにやつく。

ラベンダは自分が狙われると確信していた。

ラベンダ「・・上等だ。やってやろうじやねえか！」

ベルガモ「俺達で奴を攪乱させる。フリーザ、お前は俺達が攪乱させている間、奴の足を破壊してくれ」

フリーザ「二応期待してますよ」

バジル（くそっ! フリーザめ。どこまでも生け簀かない野郎だ）

第9宇宙と第11宇宙の連合チームがコイチアレータに立ち向かっていく!

最強マシンVS三兄弟と3正義の全力総攻撃！

トリオ・デ・デンジャーズはコイチアレータの足のボラレータにデンジャーズ・トライアングルで周囲をグルグル回りながら攻撃を与えプライド・トルーパーズの3人はトツポが殴りに掛かってきた両腕を抑え、デイスポとカーセラルが胴のパンチア目掛け連続エネルギー弾で攻撃する。

フリーザは頭部のコイツカイのアイセンサーをデスビームで狙うもコイツカイもレーザーを連射しデスビームを防ぐ。

トツポ「デイスポ、將軍。どうなのだ!？」

デイスポ「大して効力がない様に思える!」

カーセラル「小粒に攻撃を当てるより一気に大技をぶつけた方がよさそうだ」

トツポ「そうか・・フグウ!!」

アームのパワーが更に上がり地をズリズリと砕きながらトツポが押されていた。

カーセラルがすぐさま伸びたアームを切断しに掛かったがアームから電撃が流れ
カーセラルはもろに電撃を浴びてしまう!

カーセラル「グオオオオ!!!」

トツポ・デイスポ「將軍!!」

パパロニ「フハハハ!!お前の戦法などピアラーマとのバトルで調査済みだ」

バジル「全身にも流せそうだな・・・」

ラベンダ「不用意に接近しての攻撃はダメか」

ベルガモ「だが、離れればレーザーやエネルギー波のオンパレードだ」

フリーザ「こんなポンコツに私の力を見せざるを得ないのは屈辱以外何者でもありま
せんよ・・・!!」

フリーザが岩柱に立ち両手を広げ集中する。

ベルガモ達はフリーザが何をするのかを理解しており徹底的にコイチアレータに攻
撃を加え狙いを誘発させようとしている。

パパロニ「脅威的に気が上がっていく……！コイチアレータが負けるとは思えんが一応抑えておくのだマジ||カーヨよ！」

マジ||カーヨ「調子に乗んじやねえよ白坊主!!」

ベルガモ「ふぬうん!!!」

マジ||カーヨの肥大化した液体の拳とベルガモの拳がぶつかり合う！

ベルガモはヒソツプを落としたマジ||カーヨに怒りの思いのついでにフリーザを守り抜く。

フリーザ「おやおや、助かりますよ」

ベルガモ「分かっててやってるのだろ！」

フリーザ「あなた方は仲間思いな所がありますからね」

パパロニ「何をしている！ええーいコイチアレータよ!!」

コイチアレータ「又オオオオ!!」

トツポ「隙を見せたな!!フググ・又オオオオ
!!!!!!」

トツポの気合いをこめたパワーでコイチアレータのアームごと持ち上げる!

持ち上げたコイチアレータはじたばたするもそのまま頭部から地に叩き付ける!!

カトペスラ「何という馬鹿力だ!!」

ベルガモ「フリーザ、まだか!まだ・・」

フリーザ「おまたせしました」

ズドツ
!!!!

ベルガモ「お、お前な・・」

ゴールデン化したフリーザはベルガモの左横腹に拳を浴びせる。

ベルガモの特殊能力である相手の技を受けて自分の力に変える能力で身体が大きくなりパワーアップしマジーカーヨを弾き飛ばした！

岩柱にベチャリと液体がへばりつくが当然ながらマジーカーヨには無傷でありすぐさま再生した。

マジーカーヨ「殴られてパワーアップしやがった！あいつも変質的な能力を持つてるのか!？」

ベルガモ「いきなり殴るな!!」

フリーザ「せっかくの能力を生かしていないので気になりましたね」

ベルガモ「ゴールデン化か・・・」

ベルガモは第9宇宙にフリーザが代表としてシドラに呼び出された時のバトルを思い出していた。そして、フリーザが加入するまでの経緯も・・・。

シドラ「メンバー招集、ご苦労であったぞ。トリオ・デ・デンジャーズ」
ベルガモ「大会開始まで後、15分足らずですが集める事が出来ました」
ラベンダ「所でこの者は一体・・・」

シドラ「それについてだ。すまないがメンバーの一人を外す事にする。コンフリー、悪いが・・・」

コンフリー「えっ?俺が!?お待ちくださいシドラ様!このコンフリー、第9宇宙を守るべくベルガモ達と来たのですよ!?大体そいつは何者で・・・」

ピツ
!!!!

コンフリー「うっ・・・」ドサツ

ベルガモ「コンフリー!!」

フリーザ「宇宙を守るのならこれくらいはかわしてほしかったですけどね」

バジル「コンフリーー！おい!!」

ラベンダ「ダメだ。死んでいる・・・」

ヒソツプ「胸をビームで貫かれた」

オレガノ「全く見えなかった・・・」

チャツピル「シ、シドラ様。この者を代表に!?!」

シドラ「そうだ。第7宇宙では宇宙の帝王と呼ばれていたフリーザを我が第9宇宙のメンバーに入れる事にしたのだ」

ベルガモ「だ、第7宇宙の者ですか!?!」

バジル「ロウ様が認めるとは思えないのですが・・・」

シドラ「界王神は浮遊地でふて腐れている。だが、私はこの第9宇宙の消滅は何としても防ぎたい。その為には強い戦士は多くいた方がよいと・・・」

フリーザ「あなたは何を言ってるのですかね?」

ラベンダ「お前!シドラ様に対して無礼だぞ!

フリーザ「強い戦士は多くですか……。どれもこれも雑魚の集まりじゃないですか」

フリーザ「サイヤ人の猿と組むのは嫌でしたが雑魚しかいない宇宙の戦士と組むのも嫌ですねえ」

バジル「テメー!!」

ホップ「落ち着きなつてバジル!」

フリーザ「けれども、私は過去軍を率いてました。弱い戦士でもそれなりに戦える様に武器を与えたり的確な采配を送っていたのですよ」

フリーザ「あなた達みたいな弱い戦士でも私の采配次第ではそれなりに生き残るかも知れませんかよ」

ソレル「本当に!?!」

ホップ「興味持つんじゃないよソレル」

ベルガモ「お前の采配等誰が受けるか。ましてやにつくき第7宇宙の輩だ」

シドラ「やめるのだベルガモ!!」

フリーザ「あなたが第9宇宙で一番強いのですか？」

バジル「ああ、そうだ。兄者は潰しのベルガモと恐れられてるんだぞ！」

ラベンダ「お前みたいになチビなど兄者の手に掛ければ瞬殺だ」

ベルガモ「3分で蹴りをつけてやる」

フリーザ「あなたは少しは出来る様ですね。けど、3分は長すぎますね。そうですね．．」

30秒で十分ですかね

ベルガモ「ほざけえー!!!!」

シドラ「大会前に怪我されては困る！やめるのだ!!」

バジル「は、速え!」

ラベンダ「兄者負けるな!」

ベルガモ「力の大会は飛べないんだぞ。分かっているのか?」

フリーザ「はぁー!!」

ベルガモ「金に身体が・・・」

フリーザ「から空きですよ」

ズドツ!!

ベルガモ「グホツ・・・」

フリーザ「拳の跡が殴った腹部に?」

ベルガモ「効くなあ。その拳は」

バジル「兄者に勝てる訳ねえだろ」

ラベンダ「孫悟空に負けたのも偶然運が悪かったただけだ」

ベルガモ「ラベンダ。余計な事を言うな」

フリーザ「孫悟空に負けたのですか。つまり

あなた方は第7宇宙についてはそれなりに知っているという訳ですか」

ベルガモ「戦いの最中、話してる時間があると思うなあ!!」

フリーザ「雑魚相手なら話す時間はいくらでもありますからね」

ズドツ!!

ドグツ!!

ゴスツ!!

ベルガモ「ぐうう・・吸収する前にぶっ倒れそうだ」

フリーザ「これが第9宇宙最高の戦士ですか。弱すぎやしませんかね」

ベルガモ「だ、黙れ。俺の最強技を見せてやる。ウルフガング・」

シドラ「やめろといっているのだ!!フリーザ!ベルガモ!」

フリーザ「この程度で最強ですか。私がいなければ真つ先に消滅していたでしょうねえ」

ベルガモ「・・・くそっ!」

バジル・ラベンダ「兄者!!」

フリーザ「さて、シドラさん」

シドラ「な、何だ」

フリーザ「私は第9宇宙の戦士として戦って差し上げますがいくつか条件があります」
「す」

フリーザ「一つは大会で第9宇宙が残り超ドラゴンボールを使う際願ひ事は私の復活

でお願いしますよ」

シドラ「なっ・・・!?」

ロウ「ふ、ふぎけるな！お前が復活しようものならこの宇宙が更に荒れてしまう！」

シドラ「か、界王神!!」

フリーザ「更に荒れるですか・・・元々荒れ果てた宇宙なら誰かが荒れた奴等を統率した方がよろしいのでは？」

ロウ「こ、こいつ・・・」

フリーザ「もう一つはあなた達は命令しないでください。全指揮は私が取りますので」

ロウ「勝手な事を！おいシドラ！」

シドラ「それで我が宇宙は生き残れるのか？」

フリーザ「どうでしょうね・・・」

ベルガモ「ロウ様、シドラ様。頭に来るのは分かります。しかしながら宇宙の存続の事を一番に考えるのならフリーザの言う通りにすべきかと・・・」

ラベンダ「兄者!!?」

バジル「どうしちまつたんだよ兄者!?!」

ロウ「ベルガモ!お前ともあろう男が何故!?!」

ベルガモ「力無き者は屈服せざるを得ない。俺はこいつに負けた。しかも、惜敗じゃなく完敗の結果で」

ベルガモ「ロウ様のお気持ちは分かります。危険な思想を持つ者だと言うのももちろん。けれども、一番大事なのはその後の事ではなく今を生きる事なのではないでしょうか?」

ロウ「くっ……」

シドラ「界王神よ。今回ばかりは私の意見を聞いてほしい。フリーザがどれほどの極悪人であろうと強いのは事実。力の大会は強い宇宙が生き残る」

シドラ「その為にはフリーザの力が必要だ。お前達も分かったであろう。私の勝手な判断で悪いが皆、戦ってくれ!」

バジル「シ、シドラ様!」

ラベンダ「我々なんかには頭を下げないでください！」

フリーザ「まだありますが・・・それは大会が終わってからにしましょう。よろしいです
ね」

シドラ「わ、分かった・・・」

ロウ「くっ・・・私は認めない。認めないからな！」

モヒイト「・・・」ヤレヤレ

ベルガモ（兄弟達はもちろん、第9宇宙を消滅させる訳にはいかない）

コイチアレータ「ブオオオ!!!」

ラベンダ「ぐはあっ!!!」

バジル「兄者!!」

コイチアレータの足の一撃を腹部に受け吹っ飛び倒れるラベンダ。激痛が走り立ち上がるだけでも痛みが走る。

パパロニ「その牙の抜けた狼を落とすのだコイチアレータ!!」

コイチアレータ「グオオオオオ!!!」

バジル「させるかよ!!」

デイスポ「不用意に突っ込めばレーザーの餌食だ」

トツポ「本来なら正義の元助けに入るがこれは力の大会だ」

ラベンダ「バジル逃げろ!」

バジル「兄者を放っておいて逃げれるかよ!」

ラベンダ「バカ野郎!!お前まで落ちてしまうぞ!」

バジル「兄者の危機に見ておくれなんて出来ねえ!!」

フリーザ「・・・おや、速いですこと」

ラベンダ「やめろバジルー!!」

バジルが無理と分かるも伸びるコイチアレータの右アームの一撃に足にエネルギーを集め飛び蹴りを仕掛けるが突如現れた乱入者がバジルのマントを掴み投げ飛ばす。

投げ飛ばされながら驚くバジルの目には生きていて何度も見た大柄の背中。

自分達のピンチにはいつも率先して立ち向かってくれた尊敬する一人の戦士の姿が・・・。

ベルガモ「ウグウ!!!」

ラベンダ・バジル「兄者!!」

右アームの一撃をもろに腹部に受けるベルガモ。

強烈な一撃を受け巨大化する。痛みをこらえコイチアレータの右のハンマーの様な鋼鉄の手を抑え付ける。

ビームを更に当てられるもベルガモはコイチアレータの右手を離さない。

パロニ「バカめ。コイチアレータの攻撃を何発も耐えられると・・・」
ベルガモ「俺達三兄弟を・・・」

なめるなー!!!

!!
巨大化したパワーでコイチアレータの右手を力尽くでコイチアレータごとぶん回す

ハンマー投げさながらの体勢でコイチアレータをぶん回すベルガモ。

ラベンダは地にへばりつく格好でハンマー投げに捲き込まれない様に兄ベルガモの
勇姿を間近で見る。

バジル「兄者!!そのまま場外に叩き落としまえー!」

ベルガモ「このポンコツが!!3体まとめて脱落しやがれえ!!!」

コイチアレータが宙を舞い場外まで飛んでいく……と思われた。

パパロニ「その程度の攻撃でコイチアレータが場外に落ちる物か。3体のマシンは飛行能力も備えている！当然コイチアレータも飛ぶ事が可能だ」

バジル「チツ!!どこまでもしぶとい野郎だ」

ベルガモ「バジル、ラベンダ。トライアングル・デンジャービームで行くぞ」

ラベンダ「分かったぜ兄者」

バジル「俺達3人の必殺技を味合わせてやる！」

トツポ「これ以上奴との戦いは体力を消耗するばかりだ。デイスポ！」

デイスポ「よし！」

カーセラル「待つんだ二人共」

トツポ「將軍。無理をするな」

カーセラル「第9宇宙でも怪我しながら必殺技を撃とうとしてる者がいるのに俺が何もせずにいられん！」

デイスポ「全く將軍らしいな・・・」

トツポ「仕方あるまい。行くぞ!!」

デイスポ・カーセラル「おお!!」

トツポが真ん中に立ち両手を、カーセラルが左に立ち左手を、デイスポが右に立ち右手を出す。

第11宇宙もコンビネーション攻撃を仕掛ける!

不安に思ったパパロニはカトペスラに第11宇宙の戦士を止める様に命令し攻撃に入ろうとしたが邪魔が入る。

フリーザ「させませんよ。ほーっほっほっほ」

ビシイッ
!!!!

カトペスラ「グオアツ!!!」

パパロニ「こ、こつちに飛んでくるなー!!」

フリーザの尻尾の一撃でカトペスラを吹っ飛ばしパパロニごと岩柱から地に落ちていく。

突っ込んできたコイチアレータだが既に攻撃準備はどちらも完了していた。

トツポ「くらうがいい!!」

ベルガモ「ぶっ潰してやる!!」

トツポ「トリプルマキシمام・・・」

ベルガモ「トライアングル・デンジャー・・・」

コイチアレータ「ブオオオ!!!」

キャノン!!!
ビーム!!!

第9宇宙と第11宇宙の3戦士から放たれる極太ビームと強力なエネルギー弾が合わさり飛んでくるコイチアレータのコイツカイの頭部に直撃する。

最初こそ頑丈な身体に任せ防ぐもコイツカイの頭部から電流が流れると同時に全体がギクシヤクしだす。

パパロニ「コ、コイチアレータが!」

コイチアレータ「ヌググ、フングオー!!!」

トツポ「正義は勝つ!!」

ベルガモ「バラバラになりやがれ!!」

うなり声の様な断末魔と共に合体戦士は爆発し頭部、胴、足が分かれ動かなくなる。宙には爆発と共に輝く2つの攻撃が武舞台を照らす。

フリーザ「なかなかいい花火ですよ」

カトベスラ「コイチアレータが負けたというのか!？」

マジ||カーヨ「マ、マジカヨ・・・」

トツポ「協力感謝する。だが、今回だけだぞ」

ベルガモ「へっ。感謝よりも勝利をくれよ」

ベルガモは全力でビームを放ったので元の身体のサイズに戻る。

パパロニは杖からコイチアレータの状態を確認する。

コイツカイ、パンチア、ボラレータの現状が分かり落胆する。

パパロニ「再起動不能、全兵器不良、脱落率100%」

カーセラル「やはりあの頭部は脱落率を俺とデイスポに伝えていたのだな」

「デイスポ「俺が40%で将軍が50%だったな。随分と高い確率だったが・・当てに
ならんな」

「パパロニ「コイツカイの%表示はダメージ率だ!100%になれば死に至るダメージ
を受けたと計算出来るのだぞ」

「トツポ「バラしてよかったのかそれは?」

「パパロニ「ぐっ・・」

「ベルガモ「万が一だ。あの3マシンを落とすぞ」

「バジル「第3宇宙も戦力大幅半減だぜ」

「パパロニ「・・・まだだ」

「フリーザ「諦めが悪い人ですね。秘技を破られたあなたに何が出来るのですかね?」

「パパロニ「この手だけは使いたくなかったが・・仕方あるまい」

「マジ||カーヨ「ドクター、まだ秘技があるのか!?!」

カトペスラ「コイチアレータ以外に何が!？」

パパロニ「マジカーヨ、カトペスラ。お前達は最後の指令を果たしたら私から離れるのだ。そして、他宇宙の戦士、特に人数が多い第6宇宙と第7宇宙と第9宇宙をどんな落としにかかるとだ」

マジカーヨ「最後の指令?つか離れろって正気かよ!？」

カトペスラ「落ち着くのだDr.パパロニ!」

パパロニ「私は冷静だ。この力を使えば近寄る戦士は見境なく攻撃するかもしれん：私自身制御がきちんと出来るか分からん」

フリーザ「仲間同士何をお話しているのですか?消滅した後の事でも話してるのですかね」

パパロニ「・・・最後の私の指令を出す。10秒でいい。私を守り抜くのだ」

マジカーヨ「わ、分かった」

カトペスラ「見せてやる!疾風怒涛のアルティメットモードを今!!」

カーセラル「まだ何かしてくる様だぞ」

デイスポ「諦めて落ちやがれ！」

マジルカーヨ「誰が落ちるカヨ!!こちとら命を捨ててまでこの大会に出てんだよ！」

フリーザ「命を捨ててまで？」

マジルカーヨ(第7宇宙か第9宇宙か第6宇宙。俺は後で第6宇宙の殺し屋ヒットを狙うゼドクター。俺はあの蒼狼にぶん殴られて吹っ飛んだ時に見えた。ジレンと戦い苦戦しているヒットをな！)

カトペスラ「ドクターの指令は絶対だ。覚悟しろ！」

カーセラル「トツポ！」

トツポ「先程とはあからさまにパワーアップしている。あのスーツの変身能力か」

カトペスラ(あのトツポという戦士とまともに戦り合うのは厳しい。コイチアレータのダメージを受けたあいつなら勝てる可能性は高い)

パパロニ「我が命に代えても貴様ら、いや、全戦士を武舞台から落としてくれる！見せてやろう。我が第3宇宙最強にして最後の秘儀を!!」

パパロニが杖を掲げると真っ白に杖の先端の玉が輝く。

パパロニは眼を瞑り覚悟を決めている。

カンパーリ「最後の秘技・・Dr. パパロニは自らの命を賭けてまでも戦うつもりです」

エア「大丈夫です。Dr. パパロニなら必ず生きて第3宇宙を勝利へと導いてくれるはずです」

バジル「厄介なポンコツ共だった」

ラベンダ「だが、これで終わりだ」

ベルガモ「落ちろ!!」

三兄弟がコイツカイ、パンチア、ボラレータを蹴飛ばして落とそうとしたその時。

3マシンの眼が妖しく紅く輝きだし謎のメッセージをいい残した後、パーツがバラバ

ラになりパパロニがいる場所に高速に飛んでいった。

バジル「何だ!？」

ラベンダ「逃げたか？」

ベルガモ「嫌な予感がするな・・・」

コイツカイ「AN」

パンチア「IL」

ボラレータ「AZ」

パパロニ「A・・・!!」

パパロニの周囲に飛び交う3マシンのバラバラのパーツ。一体何が起ころうと言うのか!?

力の大会終了まで残り20分!!

続く

第3宇宙の本領!究極の4体合体VS各宇宙総攻撃 前半

パパロニ「我が最強にして最後の秘技を今ここに!!」

トツポとカーセラルが止めに入ろうとしたがカトペスラのアルティメットモードのパワーでカーセラルを蹴り飛ばしトツポを投げ飛ばした。

デイスポがその隙に攻撃を仕掛けようとするもパパロニの周囲には高速で回る黒い竜巻。

コイツカイ、パンチア、ボラレータのパーツがパパロニを守りつつパパロニの体内にパーツが入っていくのだ。

近寄ろう物なら飛び交う黒い竜巻に弾き飛ばされる。ジャステイスフラッシュも受け付けない。

デイスポ「くそっ！止められねえ!!」

フリーザ「邪魔を・・・!」

マジルカーヨ「ドクターの最後の指令は必ず果たす!」

カトペスラ「第3宇宙は負けんぞ!!」

パパロニ「最後の秘技は私自身が芸術そのものになるのだ・・・!!」

第3宇宙と第9宇宙、第11宇宙が激戦を繰り広げパパロニが最終手段に出る中：。

ガノス「ヌガアアア!!!」

悟飯「ハアアア!!!」

互いの拳がぶつかり合う!

悟飯とガノスのバトルは更に激しさを増す。

気を固めた拳で雷の拳を防ぎ威力を上げる悟飯と一分一秒ごとに強くなるパワーで

攻め立てるガノス。

両者の攻防は最初こそ手数では悟飯がやや上回っていたが今や手数でも互角。このままでは強化されるガノスに負けてしまうだろう。

悟飯は拳を離しガノスを今度は気を固めた左足で蹴飛ばそうとするがガードされてしまう。

ビルス「息子ー!!そんな凶体だけの奴に負けるなよー!!」

老界王神「ふむう。あの若者、また強くなっておる」

シン「悟飯さんはご先祖様の潜在能力を開放した力を使っているのにそれと同等だなんて・・・」

クリリン「悟飯・・・」

18号「あいつはそう簡単に負けないさ」

悟飯（さつきよりパワーも電撃の威力も上がっている。これ以上長期戦に持ち込まれたら僕は負けてしまう）

ガノス「シブトイゾ・・ダイナナウチュウ!!」

悟飯とガノス。

第7宇宙のリーダーと第4宇宙のリーダーのぶつかり合い。

が、今はどちらもリーダーとしてよりも目の前の敵に負けてはならないと互いに集中する。

ガノスが咆哮を上げると周囲にスパークが飛び散る。

電撃の力を溜めつつ相手が近寄れない様になっているのだ。

悟飯「電撃は溜めさせないぞ!!」

悟飯は気のシールドを張りガノスに突撃する!

少年時代、ガーリックJr. 戦でクリリンとピッコロを守った技だ。

今では気のシールドを張りながら動く事も可能になっている。

ガノス「コイツ・・!!」

悟飯「これでどうだ!!」

シールドで無理矢理ガノスを押し出す形で場外に持つていこうとする!

ガノスも負けじと押し返す。

互いに気合の大声を発しながらぶつかり合う!

ガノス「コンナモノデオレヲオトセルト・・」

悟飯（かかった!!）

悟飯「ハアアア!!!」

ガノス「!?」

シールドの中から魔閃光を放ち魔閃光がシールドを押ししていく。ガノスはどんどん押されていく。そして、足下に迫る場外。

クル「ガノスが落とされる！」

キテラ「おい、しっかりしろガノス!!」

ガノス「ウグググ・・・!!」

悟飯「やはり耐えるか・・・！」

ガノス「フガアアアアアア!!!」

ガノスはシールドをグランアドラーで突き刺しながら飛び上がりシールドを押し魔閃光から離れ脱落を免れシールドを悟飯がいた場所に放つ！

だが、悟飯はそれを読み飛んでいるガノスの足下目掛け魔閃光より爆破の拡散が広い爆力魔閃を放った!!

シールドは周囲を見えにくくする為に放たれた物であった。

ガノス「ナンダトー!!!」

グワアアーン
!!!!

ガノスの足下に爆力魔閃が直撃し宙には大きめの爆煙が沸く。
悟飯の顔は変わらず鋭い眼を爆煙に向ける。

クリリン「やったか!?!」

18号「今のは効いたはずだよ」

ウイス「どうでしょうねえ・・・」

ウイスはチラリと第4宇宙に視線を向けると頭を抱えるクルと流石にまずいと不安に思い汗をかくキテラ。

が、それとは対称的に微笑むコニツクに気付かれてしまう。

コニツク「凄い戦いですね」

ウイス「そ、そうですね・・・ホホホ」

ビルス「何だウイス。あいつが苦手なのか？」
ウイス「苦手というよりかはどうもあの方とは折りが合わないのですよね・・・」

悟飯「・・・」

爆煙が少しずつ薄くなり視界が元に戻るとそこにガノスの姿はない。

大神官からの脱落の宣言もない。
ならば当然・・・。

ドガン
!!!!!!

クリリン「ら、落雷!？」

ビルス「しぶといな・・・」

ウガアアアアアアア
!!!!!!

ガノス「ガアア!!グガアアアア!!」

落雷と共に現れたのは狂いに狂ったガノスの姿。

第7宇宙の恨みやリーダーとしての責任等の感情がなくなり破壊のみを行う凶悪な暴君と化していた。

辺りの岩柱や地面を意味もなく破壊し暴走するガノスの姿に悟飯は哀れみすら覚えて
いる。

悟飯「もはや感情すら無くなったのか」

ガノス「グルルル・ウガアア!!」

悟飯「そうなのはお前も終わりだな・・!」

悟飯とガノスのバトルはいよいよ決着が着きそうであった。

ピッコロVSサオネル・ピリナは身体に慣れてきたサオネル・ピリナにピッコロは苦戦している。

サオネル「テャ!!」

ピリナ「トア!!」

ピッコロ「くっ・・・」

連携攻撃もキレが増しサオネルの蹴りを受け止めるもピリナの伸びる左腕の拳がピッコロの腹部にヒットする。

ピッコロが劣性に立たされていた。

サオネル「お前は強い。我々は同志を集めて同化したにも関わらずそれでも身体が慣れるまでは同レベルのバトルをしていたからな」

ピリナ「だが、流石にきつくなってきた様だな。第7宇宙のナメック星人」

ピッコロ「ナメるなよ・・・」

キヤベ「サオネルさん!ピリナさん!」

サオネル「キャベか」

キャベ「僕も加勢しますよ!」

ピリナ「すまないがこいつとは同じナメック星人の者として決着を付けたい」

キャベ「えっ?け、けれど・・・」

サオネル「それでいいだろ?第7宇宙のナメック星人ピツコロ」

ピツコロ「ふん。好きにしろ」

キャベ「分かりました。頑張ってください!」

ピツコロ「さて、どうするか・・・」

モンナ「ほらほらー!さっきの威勢は何だったのかしら?」

カリフラ「チツ・・・うつせえな」

悟飯とガノスのバトルの同時間、モンナVSカリフラ・ケールのバトルはモンナが追い込んで見えるがカリフラはわざと攻撃しない。

ベジータと戦うために自分かカリフラどちらかが一人戦士を落とせば戦うと約束した。

本来ならそんな関係なしに突っ込むつもりだったが超サイヤ人にすらなっていないベジータの威圧だけでカリフラは自分だけでは絶対に勝てないと分かったからだ。

ベジータを倒すにはケールの覚醒が必要。更にもその覚醒のパワーをコントロールする力も。

カリフラ達の傷はDr. ロタの治癒能力により治してもらってはいたがいつDr. ロタが脱落するか分からない為ダメージは受けずにモンナの攻撃をさばく。

モンナ「その女は何突っ立ってんのかしら？フツ!!」

ケール「キヤー!!」

モンナが息を吸い一気に吐くと突風が発生しケールは吹っ飛ばされ岩柱がクツショ

ン変わりになる。

カリフラはケールを助ける事が出来たがあえて助けない。

ケール「あ、姐さん・・・」

カリフラ「ケール。やっぱりお前はダメだ。私の仲間から外れる」

ケール「えっ!?!」

モンナ「あらあら。仲間割れかしら」

カリフラ「毎回毎回うじうじしてうぜーしよ」

カリフラ「いつも助けを求めてばっかだよ」

カリフラ「その癖いざ力を発揮したと思ったら暴走してよ。足手まといなんだよ!!」

ケール「そ、そんな・・・」グズ

モンナ「あんたさ。それはきついわよ・・・」

カリフラ「うっせえデブ!!」

ケール「姐さんに必要とされたい・・・でも、私なんかじゃ・・・私なんかじゃ・・・！」

ケールは涙を流しながらその場にへたり込む。

モンナはチャンスとばかりにケールに攻撃を仕掛けたが超サイヤ人になったカリフラがモンナの腹部に蹴りをぶちこみ吹き飛ばしケールを守る。

カリフラ「所詮、グズはグズってか・・・なあ！」ガシッ!!

ケール「ひい!!」

ケールをの胸ぐらを掴む。今までカリフラにここまで厳しく接された事のないケールはビクビクしている。

カリフラの形相は鬼の様だ。

シャンパ「コラ！カリフラー!!泣かすんじやねえ！ちやんと仲良くしろー!!」

ヴアドス「ケールさんを目覚めさせようとしているのでしょう。あのパワーを制御できれば強力ですから」

シャンパ「とは言ってもあれは制御できねえなら殺してしまう可能性があるだろ！」

ヴアドス「カリフラさんは賭けているのです。自分だけでは勝てない。ケールさんの力が必要だと。まだ悪びれていますね」

フワ「あく・・・また偉い事になりそうだ」

カリフラ「もう知らねえよお前なんざ。キャベと一緒に組んでベジータを倒すから」
ケール「嫌だ・・・姐さんに捨てられたくない・・・嫌だ、嫌だ・・・!!」

嫌だああああ!!!

悲しみから目覚める力。

ケールはまたもあの筋骨隆々な姿の超サイヤ人に変貌。

怒りの拳がカリフラに振りかざされる!

カリフラは右手でケールの拳を抑えた。

右掌がジンジンする程重い拳にカリフラは歓喜の顔を見せる。

カリフラ「へへ・・それを待つてたんだよケール!!」

ケール「その程度のパワーで私に勝てるとも思っているのかあ?」

カリフラ「やっぱすげーよそのパワー!! さあ、あいつを一緒に倒そうぜ!」

ケール「私に命令するな!! 私は私の意思であいつを倒す!!!」

ケールはモンナに勢いよく飛び掛かる。

モンナも負けじと身体を肥大化させケールに挑むが暴走したケールの拳の一撃をまともに受けると頑丈な身体をもつモンナでも意識が飛びかける程の痛みが腹部に伝わる。

モンナ「ごはっ・・・」

ケールは止まらない。モンナに次々と打撃を浴びせる。モンナは防戦一方で守るのが精一杯。

そして、モンナの背には場外が迫る。

シャンパ「よーし! そのまま叩き落としちまえー!!」

キテラ「あいつはもう用済みだろ?」

コニツク「第6宇宙もたつた今完了した模様です」

キテラ「そうか・・・」

モンナ「・・・!!」

モンナは突如身体の割に身軽に高く飛びケールの頭を飛び越える。
ケールがモンナに振り向いた瞬間!!

ビシツ
!!!!

ケール「何だと!?!」

ケールが突然場外へと落ちていく!!

突然ケールが落ちていく姿にパニックになるシャンパとフワ。もう、ダメかと思ったその時。

カリフラ「ケール!!」

カリフラが素早くケールの片手を掴み場外とは逆の方へ投げ飛ばした。カリフラもすぐにその場から離れケールの側に。

シャンパ「あ、危ねえ・ケール、お前何訳も分からず落ちそうになってんだ!!」

ヴアドス「何かいるのでは？」

シャンパ「何かだと？」

ヴアドス「モンナさんが突如飛び越えたのも何かあるのかもしれない。あまりにも不可解です」

シャンパ「第4宇宙とは仲良く第7宇宙を攻めていたのにな」

カリフラ「大丈夫か？」

ケール「グギイ!!」

カリフラ「ごめんなケール。あたしはお前と一緒にキャベの師匠を倒したいんだよ。汚い言葉を吐き散らかしてそのパワーを發揮してほしかったんだ」

ケール「ウググ・・・」

カリフラ「お前と一緒にならどんな相手でも倒せる。お前と一緒にやなきやあいつには勝てねえ」

ケール「ア、アネサ・・・」

カリフラ「だからあいつは一緒に倒そうぜケール!!私とお前でな!!!」

カリフラの喜ぶ姿と本心を聞きケールの凶暴な気が落ち着いていった。

そして、白眼だった瞳に明るさを取り戻す・・・!

ケール「姐さん!」

カリフラ「ケール!私のこと分かるんだな!」

ケール「はい!!」

カリフラ「すげえぞケール!暴走しないで完全に自分の意志で気をコントロールして
る!!」

カリフラ「まあ、あたしはお前ができるやつだって分かってたけどな」

モンナ「な、何盛り上がってんのよ・・倒してやるんだから！」

クル「モンナ！逃げなさい！！」

カリフラ「ケール気張りな。お前はあたしの仲間だ！！どこまでもあたしについてこい
！」

ケール「ううう・・はい！！」

ケールは涙する。カリフラに必要とされようやく自分も役立てる力を手に入れた。

もう、私は姐さんに迷惑をかけない。

二人で放ったエネルギー波は肥大化し防ごうとするモンナを軽々と押し出す！

モンナ「そ、そんな・・・」

いやあああああ!!!

二人の強力なエネルギー波によりモンナは耐えられず場外へと飛ばされる。
がつくりするクルとガッツポーズを決め込むフワ。

落ちたモンナに「せめてひよろひよろの女は落とせよ」と小言を言うキテラとガッツポーズするフワとハイタッチを交わすシャンパ。

両神々の反応は対称的であった。

大神官「第4宇宙モンナさん。脱落です」

カリフラ「やったなケール！」

ケール「はい、姐さん!!」

カリフラ「よし。この勢いでキャベの師匠をブツ飛ばしてや・・」

グオオオオオ!!!

カリフラ「何だ!?!」

ケール「あ、あ、姐さんあれ!!」

悟飯「仲間が落とされたぞ」

ガノス「ズガアアオオオ!!!」

悟飯「……言っても無駄か。それにとんでもない奴がまた現れた様だ」

悟飯「僕のいる場所の西側で暴れ始める。あの周辺は父さんがジレンとのバトルで身体を休めていたはず。早く助けにいかない!!」

キテラ「お前の呼んだ3人は全滅だな」

クル「キャウエイ、マジヨラ、モンナ。お疲れ様です」

モンナ「すみませんクル様」

クル「キテラ様も後はガノスだけですわね」

キテラ「ガノスももうきついかもしれねえ。・・けつ、やっぱりお前の洞察力には敵わねえな。まだ3人全員残ってるからな」

コニツク「第3宇宙が本領を發揮する様です。もちろん・・」
キテラ「当たり前だ。キシシシ」

パパロニ（モスコ様、エア様、カンパーリ様。このパパロニ必ずや第3宇宙を守り抜いて見せますぞ!!）

全てのパーツがパパロニに・・。

けたたましい咆哮を上げ紫の妖しい光と共にパパロニの身体が変化する!

トツポ「何だ!?!」

デイスポ「うおおお!!!」

カーセラル「デイスポ!!」

カトペスラ「待てい!!」

カーセラル「くっ!」

カトペスラ「お前は俺が相手だ」

カトペスラVSカーセラルのバトルに。

アルティメットモードのカトペスラは全ての能力が300倍にアップする。欠点としては制限時間があり3分しか持たない。再度使用するには3分待たなければならぬ。

強力なアルティメットモードにトツポもカーセラルの加勢をするつもりだったがパロニから感じるどてつも無い強大な気を放つてはおけなかった。

エア「あれを行つたのですねDr. パロニ。あなたは第3宇宙の知恵。そんなあなたが全てを賭けてまで発動した最強にして最後の秘技」

エア「その覚悟を私達は最後まで見届けます。これで負ければ仕方ありません。

さあ、存分に暴れるのです!」

アニラーザ!!

アニラーザ「グオオオオオオオ!!!」

全王「うわぁーおつきいねー!」

未来全王「凄いのね〜!」

デイスポはアニラーザに変化する前の気で吹っ飛ばされそうになるも耐えた。が、目の前に現れる巨大な白と紫の肌の巨大戦士アニラーザの姿に身体が震える。

デイスポ「何だこの化物は!?!第3宇宙にはこんな奥の手が隠されていたのか!?!」
トツポ「・・・やるしかない」

アニラーザ「……」ギラン

アニラーザが眼を光らせると突如上空が爆発！
何が起こったか分からない。大神官の口が開く。

大神官「第9宇宙ローゼルさん。脱落です」

ラベンダ「チツ・・化物が」

ベルガモ「挨拶代わりの一撃か・・とても相手出来るもんじゃない」

バジル「逃げようぜ兄者！こんな奴相手していたら身が持たねえって！」

逃げる三兄弟と高めの岩柱で様子見のフリーザ。

どうやら様子見はフリーザだけでなく二人の戦士が離れた場所でアニラーザを観察している。

セル「随分と厄介な奴が出てきたな・・。私の計画の妨げになる。まあ、相手するのは御免被りたいが」

セルは自身から少し離れた東側の岩柱に視線を向ける。
もう一人の戦士がアニラーザを見ていたのに気付く。

ゴクウブラック「愚かな人間よ・・・」

第10宇宙の残りはゴクウブラックただ一人。

第3宇宙にとっては対の宇宙でもあるがそもそも残り一人である第10宇宙は狙わない。

アニラーザが狙うは人数の多い宇宙。

第6宇宙、第7宇宙、第9宇宙を中心に狙うのだが自身に挑む者に対しても攻撃を仕掛ける。

早速目を付けたのが視界からすぐ様捉えたトツポだった!
巨大な右手でトツポに殴りかかる。

アニラーザ「グオオオオオ!!!」

トツポ「お前の一撃、受け止めてやる！」

トツポは構えたがアニラーザの右手が空間から消えた。

何事かと思つた時には既に遅くトツポの背後から拳が現れトツポを殴り飛ばした！
頑丈な身体のとツポでもアニラーザの一撃に顔が歪む。

デイスポ「トツポ!!!」

トツポ「グホア・・・空間移動だと・・・」

アニラーザが低いうなり声を上げゆつくりと歩く。歩く度に武舞台が生きているかの様に揺れ動く。

そして、人数の多い宇宙の戦士を見つけ大きな口を開け咆哮を上げた！

第3宇宙の本領!究極の4体合体V S各宇宙総攻撃 後半

その頃、アニラーザから一番離れているヒットVSジレンの戦い。

ヒットは渾身の一撃をジレンに浴びせようとしたがジレンは目力だけで止めてしまい動きを封じていた時飛ばしですら力尽くで解除してしまう。

その後もヒットは冷静にジレンの一撃一撃を対処するも遂に抑えられずラツシュに持ち込まれる。

力勝負になると到底ジレンに及ばない。ヒットは余りにも速すぎるラツシュを全てを受け吹っ飛ばされてしまう。

ヒット「ぐおあああー!!!」

ベルモッド「レベルが違うのだよ・・・」

マルカリータ「格が違うのですます」

カイ「まさに超人、まさに無敵、まさに最強。ジレンに立ち向かう等無謀なのです」

ヒット「ハア、ハア・・・ぐう・・・」

そして、ヒットの目の前に立つ大きな影・・・。

ジレンの右手にはエネルギーの弾が・・・。

ジレン「これで終わりだ」

ヒット「くっ・・・」

このDr. ロタが何故ドクターと呼ばれているか教えてやろう!!!

ジレン「!?!」

Dr. ロタがジレンの左足にしがみつく。

わざわざ落ちたいのかと悪どくにやつくカイ。

しかし、ベルモッドは反対に驚いていた。

ベルモッド「あの様な弱い戦士がジレンに触れられるはずが・・・」

マルカリータ「ヒットの時飛ばして身体を止める力に対抗すべく自身の力を解放するために気のバリアーを止めていたのでは?それとも、ジレンらしからぬ油断かと」

ベルモッド「そうかもしれないんがジレンめ。油断しすぎだ。お前は最強なのだ。そこいらの戦士に触れられる等・・・」

ヒット「お、お前・・・」

Dr. ロタはヒットを横目で逃げろと言わんばかりに合図する。

弱ったヒットだがこの一瞬の隙を見逃さず力を振り絞り。パラレルワールドの能力を使い逃げていった。

ジレン「・・・」

Dr. ロタ「教えてやるぞ!私がドクターと呼ばれるのは・・・」

ジレン「お前のその度量に敬意を評してやろう」

ジレンはわざとヒットを見逃した。そして、D r. ロタに触れられた自身の甘さを反省しD r. ロタがしがみつく左足を軽く振り上げると小さな身体が宙高く飛んでいった。

D r. ロタ（ヒット君・・・借りは返したよ）

序盤に落とされそうになった恩返しのためにもあった。

ジレンは再度気のバリアーを張る。

ジレン（・・・大丈夫だろう）

大神官「第6宇宙D r. ロタさん。脱落です」

シャンパ「よくやったぞお前。ヒットが脱落せずですんだからな」

D r. ロタ「はい、シャンパ様。所で・・・」

シヤンパ「お前の活躍は無駄にならねえ!お前もすっかり応援しろよ!」
Dr. ロタ「名前を呼んでください!!」

ヴァドス「しかし、一難去ってまた一難ですね」

安堵したのも束の間。ヒットが移動した先は運悪く弱ったヒットを狙おうとしたマジ||カーヨが近くにいた。

マジ||カーヨはヒットを発見し襲い掛かる!

マジ||カーヨ「ハーツハツハ!!こいつが脱落すれば第6宇宙は終わりだ!」
ヒット「俺は・・・脱落するわけにはいかんのだ!」

ベジータ「貴様、力を制御出来る様になったのだな?」

カリフラ「ケール、見せてやれよ」

ケール「こ、これでどうですか?」

ケールはベジータに超サイヤ人を披露する。

ベジータはケールの超サイヤ人状態を間近で見て確信した。

ベジータ「やはり・・・その姿はサイヤ人本来の姿だ。破壊と殺戮にのみ喜びを感じるサイヤ人本来の種としてのな」

カリフラ「ケールにそんな感情なんて今はねーよ。さあ、そんな事より始めようぜおっさん！」

ベジータ「貴様は意思があるまま相手を脱落させた。俺が自分の意思がないまま落としたのをカウントにしなかった理由が分かったはずだ」

ケール「はい。力を制御して姐さんと共に喜びを分かち合える。私はもう、姐さんに迷惑は掛けません！」

カリフラ「ケール・・・」

ベジータ「・・・いい面構えだ。今までの情けない姿は微塵にない。早速戦いに入りたいが・・・」

カリフラ「入りたいが・・・？」

グオオオオオオ
!!!!

ベジータ「まずはあのデカ物を落としてからだ。貴様等とは邪魔抜きで戦いたいからな」

カリフラ「本当か?あたしらにビビってんじやねえのか?」

ベジータ「好きだけほげ。その前にあいつに落とされない様にしろよ」

ケール「私達も手伝いましょう姐さん」

カリフラ「そうだな。さっさと叩き落としてやるぜ」

キャベ「あ、あの師匠・・・」

ベジータ「貴様も来い。あいつを放っておくには少々無理があるからな」

キャベ「はい!!」

一端は手を組むベジータ、カリフラ、ケール、キャベ。

アニラーザを倒す為に各宇宙が動き出す。

ベルガモ「フリーザ。あいつは相手にしないよな?」

フリーザ「さあ・落ちたければ戦ってみては？」

バジル「そう言えばソレルはどこに行っただ？」

ラベンダ「逃げ足と隠れるに至っては相当な物をもってるからな」

アニラーザがフリーザ達のいる場所目掛けエネルギー弾を放つ！

巨大な身体からのエネルギー弾は威力もあれば爆発範囲も広い。

ゴールデンフリーザでもまともに攻撃を受ければ痛い一撃になるだろう。

ベルガモ「来やがったか!？」

フリーザ「いや、通り過ぎます」

フリーザ達の頭上を大きめのエネルギー弾が通り過ぎる。

そこから声高い悲鳴が聞こえ逃げていくソレルがいたのだ。

ソレル「やだ〜!!!」

バジル「あいつ、いつの間に・・・」

ラベンダ「完全に空気になっていたな」

ベルガモ「ロウ様が何故あいつを気に入ったのか分かった気がするな・・・」
フリーザ「化物め。さっさとパパロニを落とせばこうはならなかった・・・」

バジル「ちくしよ〜!狙うなら第7宇宙の奴等にしやがれよ!」

フリーザ「第7宇宙も狙われているはずです。あのデカ物は闇雲にエネルギー弾を放っている訳ではなさそうですよ」

ベルガモ「今度は間違いなく俺達狙いだ!」

フリーザの言う通りアニラーザが両手をあちこちに向けて放ち続けるエネルギー弾は人数の多い宇宙を狙っていた。

カリフラ「くそっ!見えてんのか!?!」

ベジータ「おそろくな」

キャベ「なら、一体どうやって僕達を・・・」

ベジータ「察知できる能力しかないだろう。あの頭の触覚がその役割を果たしている

はずだ。ナメック星人に近い能力と言えはいいか」

カリフラ「ナメック星人か・・サオネルとピリナはまだ残ってっけど何やってんだ」

キャベ「第7宇宙のナメック星人の方と戦ってましたよ。加勢しようかと思いましたがサオネルさんとピリナさんにナメック星人はナメック星人同士で決着をつけたいと言われて・・」

ピッコロ「何やらとんでもない化物が出てきた様だが・・」

サオネル「ならば、早急にお前を倒す！」

ピリナ「第7宇宙のナメック星人！覚悟しろ！」

ピッコロ「それはこちらの台詞だ」

グオオオオオオ!!!

ピッコロ「野郎!!」

アニラーザのエネルギー弾がピッコロ達に向けて放たれる！

3人のナメック星人は回避に専念する。無数に放たれるエネルギー弾だが、流石にここまで残った戦士達はそれでは簡単に脱落しない。

アニラーザも流石にこのままでは誰も脱落しないと分かり遂に動き出す。

まず狙いを定めたのはピッコロ達だ!

回復に専念していた悟空もアニラーザは放っておくには危険すぎると戦いに入るつもりでいた。

悟空「ただめちやくちやにエネルギー弾を撃つてる訳じゃねえな。よつと!」

悟空が屈伸運動をし戦闘準備に入ろうとした時、二人の戦士がアニラーザを追い掛けているのが見えた。

悟空にはすぐにそれが誰か分かっていた。

悟空「トツポ達も戦うのか。あいつらにとつても放っておくにはいけねえだろうしな」

デイスポ「トツポ。孫悟空がいるぞ」

トツポ「放っておくのだ。今は奴を倒しにかかるぞ。ジレンにかかれば楽な相手ではあるが無駄なエネルギーを使わせる訳にはいかんからな」

身勝手の極意でジレンと渡り合っていた悟空の事を思うとアニラーザは自分達の手で脱落させるべきと判断するトツポ。

第6宇宙、第7宇宙、第11宇宙と各宇宙がアニラーザ撃破に動き出している！

エア「ふふふ・大混戦になりますね。かかってきなさい。アニラーザには誰も敵うはずがないのですから」

モスコ「ピポピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰く全員ばったんきゅーとひねってポイツと捨ててやる！」

ビルス「あれほどの戦士が第3宇宙にいるとは・・・」

ビルスですら焦りの表情を隠せない。アニラーザの強さはそれほどまでに計り知れない。

クリリン達も強大な力をもつアニラーザに対し心配の顔は隠せずも悟空達を信じて

いた。

クリリン「大丈夫です。きっと、悟空やベジータなら・・」

天津飯「ベジータは第6宇宙のサイヤ人と共に向かってますね」

亀仙人「うむ。他の宇宙もあの強大な力を持つ奴を野放しには出来んのじゃろう。動いておらんのは第4宇宙と第9宇宙と第10宇宙の悟空の偽物だけじゃの」

ビルス「おい、息子!セル!お前達も奴を倒しにかかれ!!」

セル「一人くらいは残した方がいいのではないかな?」

セルは動かない。当の目的である戦士と戦うべくエネルギーを温存しておきたいからだ。

孫悟空は今回チーム戦というのもあり戦えない。孫悟空の変わりという意味も込めセルが戦いたいあいつも動かない。

セル「いくら強い力を持つとはいえ各宇宙に狙われてはあのデカ物もおしまいだろ

う。第3宇宙も消滅が近くなってきた様で」

悟飯はビルスの命令に早くアニラーザを倒さないといけないとガノスにかめはめ波をぶつける準備に！

悟飯「かくめく・・・」

ガノス「グガアアア!!!」

襲い掛かるガノス！が、悟飯は再度シールドを張りかめはめ波の邪魔をさせない。

悟飯「はくめく・・・」

ガノス「ヴガアアア!!!」

シールドが破壊されてしまう！迫り来るガノスの両腕のグランアドラー!!

悟飯「波——!!!」

グランアドラーが悟飯の目の前に迫った途端に放たれたかめはめ波。
ガノスは最初こそ足をがっしりと地につけ耐えたが次第に押されていく。

ガノス「ウググ・ガガガガ!!!」

キテラ「粘れガノス!!」

ガノス「グギギギ……!!」

悟飯は更に力を強める!アニラーザとも戦わなければならぬが今はガノスを倒す事に集中し全力のかめはめ波をぶつける!!

ガノスは両腕で押し込もうとしていたが押され足下が地に付かなくなり……。

ガノス「グギヤアアアアア!!!」

かめはめ波に押され羽を使って飛べないまま場外に。

亀仙人と天津飯を脱落させ17号の左腕をへし折り第7宇宙を苦しめた戦士をようやく脱落させる事が出来たのだ。

大神官「第4宇宙ガノスさん。脱落です」

ガノス「ぐっ・・俺はいつの間に脱落を・・」

クル「残り3人ですか・・」

キテラ「本番はここからだぜクル。俺達は絶対に負けやしない。何故ならこの力の大会を一番利用出来るのは俺達第4宇宙だからな」

ガノス「キテラ様・・申し訳ありません。リーダーを任されたのにこの有り様で・・」
キテラ「ガノス。お前は第7宇宙を苦しめた。よくやったと褒めておいてやる」

アニラーザにひたすら攻撃を浴びせるピツコロ、サオネル、ピリナ。

だが、アニラーザには全く持って効いていない。

コイチアレータ以上の耐久力を誇るアニラーザ。

もはや、生半可な攻撃はかゆいとも感じない。

アニラーザの右の拳がピツコロに襲い掛かる！

ピッコロ「消えた!？」

右の拳が空間に消える。ピッコロは頭の触覚で瞬時に風を切る音を感じとり振り向き背後から飛んできたアニラーザの拳を抑え様とした。

が、拳の威力は凄まじく抑えた所でどうにかなるレベルではなくピッコロは軽々と吹っ飛ばされ紫の血が口から吐き出る。

ピッコロ「デタラメな威力だ・・・」

サオネルとピリナは二人で共にアニラーザに立ち向かうが口から吐き出してきたレーザーに直撃し地に叩き付けられる。

諦めず立ち向かいアニラーザの胸部に攻撃をぶつけるもアニラーザは余裕の笑みをこぼしていた。

攻撃は全く受け付けておらず今度は触覚からのビームで二人はまたも地に吹き飛ばされビームが爆発する。

全身兵器のアニラーザに手も足も出ない。覚悟を決め同志を集めたにも関わらず相

手にならない。

サオネル「すまん皆・・・私達ではもうどうにもならない・・・」

ピリナ「第6宇宙を任されたにも関わらず・・・シヤンパ様、フワ様・・・弱い我々をお許してください」

エア「素晴らしいですよアニラーザ。戦士の絶望する姿に感動すら覚えますよ」

エア「けれども第6宇宙にはヒツトがいますからね。マジ||カーヨさんが戦っているとはいえ時飛ばしの力で場外から救われる可能性があります。よって・・・」

アニラーザ「ウオオオオ!!」

サオネル「ぐっ!!」

ピリナ「うぐああ!!」

右手にサオネル、左手にピリナを掴むアニラーザ。

両手を高く上げ大きな口を開ける。

バクン!!

シヤンパ「えっ?あ、あいつ・う、嘘だろ?」

ヴアドス「食べちゃいましたね」

フワ「ひ、ヒイイイイイ!!!!」

ピツコロ「く、喰ったのか!?!」

アニラーザの狂気の行動に全宇宙の神々が震える。果たして強大な力を持つアニ

ラーザに悟空達は勝てるのか!?

力の大会終了まで残り18分

続く

究極のパワーを手に!宇宙を越えし種族の絆 前半

シャンパ 「喰ったぞ!殺したぞ!失格だ!!」

大神官 「サオネルさんとピリナさんは生きております」

シャンパ 「なっ!?!」

大神官 「体内に閉じ込められているといった形です」

シャンパ 「な、何て事だ・・あの化物の脱落は・・」

ヴァドス 「同時にサオネルさんとピリナさんの脱落でもありますね。二人の脱落はかなりの痛手です」

シャンパ 「サオネル!ピリナ!化物の体内から早く脱出しろ!!」

カリフラ 「喰うなんてありかよ!」

キャベ「死んではないとはいえ何て恐ろしい作戦なんだ・・」

ケール「サオネルさん、ピリナさん・・」

ベジータ「だが、策としてはアリだ。体内から出れん限りは実質第6宇宙は戦力を二人失ったも同然だ」

カリフラ「くそお！絶対叩き落としてやる！」

ベジータ「そして、あいつを脱落させようものなら第6宇宙から脱落者が二人出る」

ケール「そんな!？」

キャベ「考えましたね。第3宇宙」

ベジータ「俺は攻撃の手を緩めるつもりはない。生き残りを賭けた戦いだからな！」

カーセラル「俺のジャステイス・サーベルが全く効かないだ!？」

カトペスラ「いい攻撃だ。だが、このアルティメットモードには傷一つも付けられやせんぞ!!」

カーセラル「ぐああー!!」

カトペスラのスピードを乗せたダッシュパンチがカーセラルの胸部に直撃し岩柱に激突。

ジャステイス・サーベルもアルティメットモードは全能力が300倍となりディフェンス能力も強化されており受け付けない。

ゾイレー「將軍のジャステイス・サーベルが受け付けねえなんて・・・」

タツパー「速く強く硬いとは・・・」

ブーオン「將軍!!負けるなー!!!」

カーセラル「まだだ・・・俺は任されたのだ」

ケツトル「斬撃の戦士の力を見せつけるんだ將軍!!」

クンシー「頼むぜ・・・將軍、ディスポ、リーダー、ジレン」

ココット「第1宇宙に勝利を・・・お願いします」

カトペスラ「・・・何故こうも俺の相手は善人ばかりと当たるのだろうか。だが、俺達第3宇宙も負けられんのだ！悪いがここで終わりにする!!」

カトペスラ・ザ・ファイナルミッション!!!

カーセラル「第1宇宙は必ず守る・・・どんな手段を用いてもな」

ジャステイス・ストリーム!!!

2つのエネルギー波がぶつかり合う！

押すのはカトペスラ。カーセラルはどんどん押されていく。

カトペスラは更に力を入れて落としてしにかかる。

カーセラルの脳裏には第1宇宙の民達が浮かんでいた。

今日も平和にすごす民。

悪人に襲われ助けを求める民。

プライド・トルーパーズが大好きな子供達。

研修生達が今頃戦っているかもしれない。

そして、悪たる者に苦戦しているかもしれない。

カトペスラ「お前もさぞ強い正義の心を胸に秘めているのだろう。だが、それは俺も同じだ」

カトペスラ「何がなんでも守り抜く。第3宇宙を今日で終わらせぬ為にも!」

カトペスラ「さらばだ。強く汚れなき正義感を持つ漢よ!!」

カーセラル「ジャステイス・・・ぐおおおー!!!」

カトペスラ・ザ・ファイナル・ミッションと共にカーセラルは場外へと飛ばされる。

将軍の脱落到脱出したメンバー達がつくりとする者と涙を流す者もいた。

大神官「第1宇宙カーセラルさん。脱路です」

ベルモツド「ご苦労だったな將軍。後はジレン達に任せるのだ」

カーセラル「私に出来る事はせめてこれだけです」

カトペスラ「アルティメットモードが切れたか……。残っている戦士の事を考慮すればアルティメットモード中心で戦うほかな。。」

カポツ
!!!!

カトペスラ「何だこのカプセルは!？」

カトペスラが気の塊で固められたカプセルに閉じ込められ動けなくなる。

カーセラルは脱落前に左右にジャステイス・カプセルを放ちカトペスラを封じ込めるつもりでいたのだ。

カイ「あれは將軍の技では！」

カーセラル「奴も道連れにします。カプセルは転がり落ちていくでしょう」

カトペスラ「この!パワーモードなら・・!」

カプセルが震動で転がる。

アニラーザが大暴れしている影響で武舞台が揺れておりそれで場外の方向に転がる。カトペスラはパワーモードで壊そうとするがなかなか壊れずそして・・。

カトペスラ「最後に隠していたのか・・してやられたぞ。第1宇宙・・」

大神官「第3宇宙カトペスラさん。脱落です」

デイスポ「将軍がやられたか・・が、上手く相討ちに持っていった様だ」

トツポ「残りは3人か。だが、我々精鋭はそうそう落とせんぞ」

アニラーザの右腕付近で攻撃体勢に入るトツポとデイスポ。

左腕付近にベジータ達がいるのに気付くが考えは同じと分かり攻撃には出なかった。

悟飯「父さん！ピッコロさん！」

悟空「悟飯、ピッコロ。あのでっけえの倒すぞ」

ピッコロ「かなり強いぞ。俺と第6宇宙のナメック星人の攻撃を全く受け付けなかったからな」

悟空、悟飯、ピッコロはアニラーザの正面に。

第6宇宙、第7宇宙、第11宇宙がアニラーザを落とそうと総攻撃を仕掛けた!!

エア「無駄なのですよ。アニラーザの前でそんな攻撃は!!」

モスコ「ピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰く無駄な足掻きはやめるのだ」

カリフラ「びくともしねえ！」

キャベ「あ、危ないカリフラさん!!」

ケール「姐さん!!」

カリフラに飛んできた触覚のエネルギー波をケールが受け止め別方向に飛ばす。ケールはもう暴走せず完全に力を制御していた。

ベジータ「どこからでも攻撃して来やがる・・・」

アニラーザ「ンンン!!!」

突如アニラーザが振り向き口からビームを吐いた。

誰もいないのに何故かビームを吐く。

悟空「何だあ?あそこには誰もいねえぞ」

キテラ「気付いてやがったのか?」

コニツク「これは苦戦しますね」

クル「あの、キテラ様、コニツク様。残りの二人についてなのですが・・」

キテラ「クルよ。まあ待て。楽しみは後で知る方が楽しいだろ？」

クル「は、はあ・・コニツク様は一体どの様な戦士を連れてきたのか」

アニラーザ「グオオオオオ!!」

ピッコロ「気を付ける孫！奴は空間を利用して正面からの攻撃と見せ掛けて後ろから攻撃を仕掛けてくるぞ!!」

悟空「後ろから攻撃だつて!？」

悟空は超サイヤ人になりアニラーザの攻撃を抑えようとするが空間が歪み右の拳が悟空の背後に！

悟空は抑え込むが左の拳が抑える悟空を潰しに掛かる！

ピッコロ「悟飯！」

悟飯「はいピッコロさん!!」

左の拳を抑えるがアニレーザーが少しづつ押ししていく。
悟空はこのままだと潰されてしまうと判断し超サイヤ人ブルーになり両拳を逆に押し返した。

アニレーザーはそれでも怯まず咆哮を上げ地を揺らす。

デイスポ「くうっ・・う、うるせえ！」

トツポ「グウツ・・耳が破裂しそうだ」

キャベ「くっ・・」

ケール「た、耐えられな・・」

カリフラ「や、やべえ!!」

アニレーザーがカリフラ達がいる左側に口からビームを吐く。

当たれば致命傷は確実。下手すれば死なない程度に戦闘不能になるだろう。

カリフラは反撃に出ようとすることもアニレーザーの咆哮があまりにも喧しくまともに攻

撃に集中できない。

ベジータ「チツ!!仕方のない奴等だ」

ベジータがビームの真正面に立ちファイナルバーストキャノンで相殺する。

ビームは防ぐも今度は左腕でベジータ達を風ぎ払おうとした。

ベジータ達サイヤ人4人はかわすもそれを先読みしたアニラーザは触覚からビームを放ちベジータとキャベにビームを直撃させる!

キャベ「ウアアアアア!!!」

ベジータ「グアアア!!」

悟空「ベジータ!!」

悟飯「はっ!?父さん!ピッコロさん!後ろ!!」

ピッコロ「くっ!どこからでも攻撃を仕掛けてきやがる!」

口からのビームですら空間を歪ませ悟空達3人の背後を狙う。
常識はずれなアニラーザのパワーと能力に束で掛かってもダメージすら与えられな
い。

トツポ・デイスポ「ジャステイス・フラッシュユ!!」
アニラーザ「グオオオオオオ!!!」

デイスポ「何だつてんだよ!!全く効かねえ!」

トツポ「・・・」

デイスポ「ジレンを呼ぶべきじゃないか?」

トツポ「待つのだ」

デイスポ「待てつて、うお!」

右腕をぶん回すが二人はかわす。左右、正面と三方から攻撃が飛び交う中でもアニ
ラーザは隙を見せない。

巨体の割に素早く空間移動からの攻撃と無茶苦茶な攻撃手段にどう立ち向かうか悩

む悟空達。

その頃、フリーザ達第9宇宙は様子見と逃げを中心に立ち回っていたがソレルが泣き顔になりながらフリーザ達の元に駆け付けてきた。

ベルガモ「どうしたソレル。あいつがイカれた強さだからって泣くな！」

ソレル「違うよ。襲われたんだよー！」

バジル「当たり前だろ。力の大会なんだからな」

ソレル「襲われたのはここにいる戦士達じゃないよ！」

ラベンダ「じゃあ誰だよ！」

ソレル「襲われたんだよ！影の様に黒ずんだ第2宇宙の戦士達に!!」

フリーザ「現実逃避も程々にしなさい。消滅した宇宙の奴等が復活するはずがありません」

ソレル「いたんだって!私が落とす奴が怨み辛み吐いて襲ってきたんだって!!」
ベルガモ「くだらん。消滅したら幽霊ですら消えるはずだろ」
バジル「つたくソレルは小心者過ぎるな」

——許さん。

ベルガモ「何か言ったか?」

バジル「ソレルは小心者過ぎるって・・・」

——第9宇宙の姑息な人間

——愛のパワーを冒涇したゴミ宇宙。

フリーザ「・・・どうやら嘘ではない様ですね」

ソレル「ギャー!!!出たー!!幽霊だ!幽霊だー!!」

ラベンダ「な訳ねえよ。こいつらは消滅したんだ」

ベルガモ「おそらく能力だ。どこの宇宙が仕掛けたのかは分からないが・・」

フリーザ達の前に現れたのは消滅したはずの第2宇宙のザーブト、ラバンラ、プラン、ハーミラ、ジームズ、ロージイ、カクンサだった。

第9宇宙に脱落させられた戦士達が影の様に真つ黒な姿で現れ不気味に鈍く光る紅い眼光を輝かせる。

ロウ「な、何だあれは!?!何故消えたはずの第2宇宙の戦士達が!?!」

シドラ「憎しみや怨みからか・・が、全王様に消滅させられたのならそもそもあの世にすら存在しないはずだが・・」

ベルガモ「また落とせばいいだけだ!」

ガシツ!!

ベルガモ「うぐおおお!!!何だこの手は!?!」

バジル「兄者!!!」

空間から突如現れた右手がベルガモを握りしめる!

空間を歪ませ遠距離からアニラーザがフリーザ達を感知し捉えたのだ。

ラベンダ「この亡霊共も奴の能力なのか!?!」

バジル「兄者を離しやがれ!この・・・」

バジルが伸ばした右腕のコア部分を蹴るとビクツとアニラーザの腕が反応しその反動でベルガモを手離した。

それを見たフリーザがアニラーザの弱点を見破った。

フリーザ「なるほど。奴の弱点が分かりましたよ」

ラベンダ「本当か!?!」

フリーザ「ですがあえて放っておきましょう。この戦いで他の宇宙の戦士があいつに

落とされていくのならば得をするのは私達ですからね」

ベルガモ「確かに・・・」

ソレル「流石は軍師フリーザ！」

フリーザ「私達はこのゴミを出している奴を捜しますよ」

消滅した第2宇宙の戦士達が襲い掛かるもフリーザは軽々と攻撃をいなし戦士達をぶっ飛ばしていく。

アニラーザの手が急に飛んでくるかもしれないとビクビクするラベンダとバジルとソレル。

ベルガモはロージィとカクンサを相手にぶっ飛ばしたり噛みついたりするが何度も立ち上がり再生する為イライラしている。

ロージィ「今度は私があんたをボコボコにしてやる」

カクンサ「許さない・・・この怨み晴らすまで死ねない」

ベルガモ「消滅した雑魚が何をほざく。怨むなら怨みやがれ！」

フリーザ「そっちに行きましたよ」

バジル「チツ!!わざとやりやがったなフリーザの野郎!」

ザーブトとラバンラがバジルとラベンダに襲い掛かる。

ソレルはハーミラにまたも襲われ逃げていく。

ラベンダ「また毒を浴びせてやるぞ!」

ラバンラ「消滅させてやる。第9宇宙!」

バジル「どこのどいつだ!こんな下らねえもん作りやがって」

シャンツア「シャンツアシャンツア!!」

コニツク「シャンツア君は少しずつ知性が身についていますね。まずは触れられる幻

術を出しているようで」

キテラ「順調に行けば目覚めるのはいつだ？」

コニツク「後5分ばかりくらいでしょうか」

キテラ「随分と遅えな。大会開始から35分も掛かるのかよ」

アニラーザが暴れている中、密かに行動を開始する第4宇宙。
シャンツアが目覚めるとは？そして、残りの二人は・・・？

究極のパワーを手に!宇宙を越えし種族の絆 後半

シャンパ 「ほ、本当にサオネルとピリナは生きてるんだよな?」

ヴアドス 「死んでいるなら大神官様が判定します」

シャンパ 「そ、そうだよな・・・どうにかならないのか!」

ヴアドス 「他の第6宇宙の戦士も体内に入れて救助に入りますか?」

シャンパ 「救助出来なければ全滅じゃねえか!!」

ヴアドス 「けれど他の戦士があのアニラーザを落とせないのならサオネルさんとピリ

ナさんは安全に生き残れるのでは?」

シャンパ 「とは言っても誰かの体内にいるなんて嫌じゃね? もしもだがあいつが腹壊

してうんちしたら・・・」

ヴアドス 「神としての品格を大事にしてください」

シャンパ 「・・・は、はい」

サオネルとピリナはアニラーザの体内で攻撃を繰り返すも全く受け付けない。

体内はどうかやら機械の牢獄になっておりサオネルとピリナは閉じ込められていたのだ。

胸部の緑のコアは外側からは何も見えないがサオネル、ピリナ達がいる内側からはキャベ達が戦っている姿を確認できる。

何としてでも脱出しようと機械の牢獄を破壊しようと懸命に攻撃するも壊せない。必死な二人に体内からエコーが掛かる声で二人のナメック星人を罵る。

??? 《何をしてても貴様等ごときがこのアニラーザから出れるはずかなろう!》

声の主はアニラーザの脳と化したパパロニ。

どう足掻いても無駄だと諦めを促すがサオネルとピリナは諦めず攻撃を続ける。

パパロニ 《愚かな。何をやろうとも同じだ》

サオネル 「何もしないよりはマシだ。第6宇宙をナメるなよ!!」

ピリナ 「諦めていた私達に同志達が心の中で鼓舞している。何もせず黙っていられる

ものか!!」

サオネル「オオオオオオオ!!!」

ピリナ「ヌオオオオオ!!!」

パパロニ《足掻くだけ無駄だ。第6宇宙はヒット以外の3人は確実に落としてやる! そうすればヒットとお前達で残り人数は3人となる》

パパロニ《後は第7宇宙から3人、第9宇宙から2人落とせば後は時間まで生き残るのみだ。このアニラーザは私と3体のマシンが融合し4人分となっている!》

サオネル「人数で勝つつもりか!?!」

ピリナ「お前の思い通りには絶対させせん!!」

ピツコロ「・・・!!」

悟飯「どうかしたのですかピツコロさん?」

ピツコロ「いや、何もない」

ナメック星人にのみ分かる同化した者達の意志。

アニラーザの体内にいるサオネルとピリナが何処にいるかもピッコロは分かっていた。

そして、諦めず体内で戦う姿もピッコロには感じ取れている。

『同じナメック星人の者として決着を付けたい』

ピッコロ（俺は何を・・・）

悟飯「ピッコロさん!!」

ピッコロ「分かっている」

アニラーザが左手を開きピッコロを叩き潰そうとしてきたが左側に身体を反らしてかわすが直ぐ様人差し指をピッコロに向けてエネルギー波を放った！

ピッコロの右腕が吹っ飛び岩柱に叩き付けられる。

ピッコロ「ガハッ・・・」

悟飯「ピッコロさーん!!!」

ベジータ「ハアアア!!!」

!!!

ベジータが超サイヤ人ブルーになりアニラーザの右手の拳を抑える。

抑えながらベジータは大きな声で悟空に伝える。

ベジータ「カカロット!! 奴の頭の触覚をどうにかしろ! 触覚さえ無ければ今の様な超
反応で攻撃は出来んはずだ!!」

悟空「触覚か! 分かった! クリリン。ちよつと技を貸してもらおうぞ!」

左手でエネルギー弾を悟空に向けて放ってきたが悟空に当たる前に丸太の様な腕で
エネルギー弾を力付くでアニラーザに跳ね返す。

自身の攻撃なら受け付けるかと思つたが受け付けず厳しい視線でアニラーザに睨み
付ける。

悟空「サンキューな」

トツポ「勘違いするな。お前を助けたのではなくあいつを倒す為に取った行動だ」
悟空「よし。そんじや行くぞ！気円斬！」

アニラーザの顔を目掛けて飛ぶ気円斬。アニラーザは飛んできた2つの気円斬を首を軽く振ってかわす。

悟空「かわされちまったか……」

カリフラ「下手くそ!!ちゃんと狙えよ！」

ベジータ（いや、わざと顔面を狙ったなカカロットの奴め。だが、ただ後ろを狙うだけならすぐに気付かれるだけだ）

ピッコロ「ぐっ……」

吹っ飛ばされたピッコロはアニラーザから大きく離れ一人静かに岩柱にめり込んだまま目を瞑る。

同化した神とネイルの心が先程から一つの思いを胸に秘めたピッコロに指を差す。

——個人的な問題だ。宇宙消滅が掛かっている戦いにふざけた事など出来ん。

が、決着を付けたい思いはあつた。俺自身もナメック星人同士だから奴等の気持ちがかかる。

ピッコロ（俺の勝手な行動は許される者ではない。それでも俺は・・・）

ビルス「おい、何やっている!!」

シン「ピッコロさん!逃げてください!!」

アニラーザの左手が空間を突き抜けピッコロを掴んだ。

左手の空間から出て掴まれたピッコロを見た悟飯は必死にエネルギー弾を連射するが通用せず・・・。

クリリン「ピッコロー!!!」

悟飯「ピッコロさーん!!!!」

バクン!!

悟飯「そ、そんな・・・」

アニラーザがピッコロを呑み込んでしまった・・・。

目の前で師を呑み込まれ守れなかった弟子は怒りと悲しみでにやつく巨体に何発も拳を左膝に浴びせる。

が、左膝を突き上げられ吹っ飛ばす。にやにやと近づく巨体。

悟飯「ピ、ピッコロさん・・・」

ズバツ
!!!!

アニラーザ「ウオオオオオ!!!」

突如アニラーザが苦しむ!迫る悟飯を痛め付けピッコロを喰って勝ち誇り油断していたアニラーザの両触覚を悟空が2つの気円斬で切断したのだ!

パパロニ《ぐああああ!!耳が!耳がああああ!!!》

サオネル「何が起こった!」

ピリナ「奴の耳に何かあったのではないか?」

ビルス「いいぞ悟空!!ナメック星人の仇を取ってやれ!」

ベジータ「ピッコロの奴、何してやがる！が、奴を油断させたという所だけは評価してやろう」

モスコ「ピポピポ」

カンパーリ「モスコ様曰く退却準備に入れアニラーザよ！」

アニラーザの体内にはサオネル、ピリナが懸命に脱出しようと攻撃していた時にピッコロが機械の牢獄から落ちてきた。

驚くサオネルとピリナ。機械の牢獄は落ちてくる戦士を閉じ込める為に一度だけ牢が引っ込み開くがすぐに閉じてしまった。

ピッコロ「ぐっ・・体内も機械仕掛けなのか？だが、筋肉や人に近い身体の構造もあるな」

ピッコロは右腕を再生しアニラーザの体内を見回す。

機械の牢獄は見るからに頑強で簡単には突破できなさそうだ。

サオネル「お前も喰われたのか!？」

ピッコロ「喰われた訳ではない。自ら潜入しただけだ」

ピリナ「自らだと!?!何のつもりだ!?!」

ピッコロ「お前達と決着をつける為にな。ナメック星人はナメック星人同士で決着をつけたいのだろ?早く脱出するぞ」

サオネル「そう簡単に出て来るものか!それに私達は敵同士だ。放っておけばお前達の仲間や他宇宙の戦士がこいつを落とせば第6宇宙は二人減って得をするはずだ。何故助けに来た!？」

ピッコロ「俺に聞くな。お前達なら見えるだろ?」

ピリナ「・・・お前も同化を」

サオネルとピリナにはピッコロの心にいる同じナメック星人のネイルと元地球の神様の姿が確認できる。

二人の強い視線に同じく同化しているサオネルとピリナの同志達も覚悟を強めてい

た。

ピッコロ「俺の場合と比べればお前達の同化の方が遥かに覚悟は上だろうがな」

サオネル「理由はどうあれ早く脱出する他ない様だな」

ピリナ「行くぞ・・！」

パパロニ《ぐっ・・無駄だと何度言わせる!?一人が加わったくらいでこのアニラーザの体内からの脱出等絶対!絶対!!絶対!出来ぬのだああ!!!》

触覚を斬られ怒るパパロニ。パパロニの怒りはアニラーザの怒り。

アニラーザの全身に紫の光の気が纏う。その紫の光の気から無数のエネルギー弾が放たれ武舞台が更に荒れ戦士達のほとんどがかわすのに精一杯であった。

悟飯「グッ・・!!」

悟空「悟飯!!」

悟飯がアニラーザのエネルギー弾の雨をかわしきれず一つのエネルギー弾を両手で

受け止めたがその威力にたちまち押されていく。

ズリズリと足で地を削りながらもエネルギー弾は止まらない。

悟飯「ピッコロさん・・・本当にすみませんでした。僕が弱いせいで助けられなくて・・・」

17号「お前は弱くない」

悟飯を守る緑色のバリアー。

17号がボロボロになった右手で痛みを堪えつつバリアーを張っているのだった。今なら逃げられるが17号がこのままだと・・・。

17号「行け!!お前は第7宇宙に必要な戦力だ。今ここで脱落してしまえば師匠が泣くぞ」

悟飯「じ、17号さんは!?!」

17号「この身体だ。いてもお前達の足を引つ張るだけだ」

17号「だから早く逃げろ孫悟飯！」

悟飯「・・・分かりました。17号さんの分も必ず僕が・・・」

悟飯がバリアーから出た。17号は仲間を守り自らが犠牲になる覚悟を決めている。それはまさに彼が求めている人間らしさ、というのもあった。

17号「ふっ・・・人間臭さがあってこれも悪くないかもしれないな」

バリアーが割れ17号はエネルギー弾を受けそのまま場外へ。

第7宇宙から脱落者が出ってしまった。

大神官「第7宇宙17号さん。脱落です」

ビルス「よくポロポロの身体で息子を守ったな17号」

17号「少しは神様も認めてくれたって事でいいかな」

ビルス「ふっ：身体を休ませるのだな。人の身体は大事にしないといけないからね」
17号「そうするさ：ビルス様」

アニラーザの暴走は止まらない。脱落者がまたも出てしまう！

ベルガモ「亡霊共がいなくなったと思ったら今度はエネルギー弾の雨か!!」

バジル「しまっ・・・！」

ズギヤーン
!!!!

ぐああああ
!!!!

ラベンダ「バジルー!!!」

ガシツ!!

ラベンダ「だ、誰だ!？」

幻術ラバンラ「落ちろ毒野郎!」

ラベンダ「おい、離しやがれ!はな・・」

ズギヤーン
!!!!

ラベンダ「ぐおおああー!!!」

ベルガモ「バジル!!ラベンダ!!くそっ!亡霊共め。隙を伺ってやがったのか!」

フリーザ「今はかわすのに集中なさい!」

ベルガモ「うるせえ!!弟達を放っておけるか!!」

ラベンダを見つけたが場外すれすれでいつ落ちてもおかしくない場所に。

ベルガモ「ラベンダ待っている!!」
ラベンダ「あ、兄者・・・」

ベルガモはラベンダの元に向かったがエネルギー弾が目の前に落ち爆煙が舞う。怯んでしまったベルガモだがそれでもラベンダの元にか・・・。

ベルガモ「ラベンダ!ラベンダー!!」

大神官「第9宇宙ラベンダさん。脱落です」

ベルガモ「くそっ!ラベンダが・・・はっ!?バジルは!」

バジルもラベンダから少し離れた武舞台の端に。倒れたまま動かない。エネルギー弾の雨が降りしきる中、ベルガモが助けに向かうが・・・。

幻術ロージ「アタタタタタタタタタ!!!」

ベルガモ「邪魔すんじやねえ負け犬野郎!!」

幻術とはいえ触れる事が可能なロージイのヤツチャイナ一拳に邪魔をされる。
ベルガモはロージイを殴り飛ばしバジルの元に向かうが・・・。

幻術ザーブト「第9宇宙は滅びるべき宇宙」

バジル「テ、テメー・・・」

ゲシツ!!

バジル「あ、兄者ア・・・」

幻術ザーブトに腹部を蹴り飛ばされ場外に落ちていくバジル。
何としても助けようと手を伸ばすベルガモ。

後少しで手が・・・。

バジル「後は頼んだぜ・・兄者・・ソレル・・フリーザ・・・・
ベルガモ「バジルー・・・!!!」

大神官「第9宇宙バジルさん。脱落です」

ロウ「あ、後3人に!!」

シドラ「まだ終わってはおらん!」

幻術ザーブト「お前も落ちるのだ」

ベルガモ「うるせえよ・・糞宇宙の奴等が」

キレイなベルガモは幻術ザーブトと襲い掛かってきた幻術ハーミラと幻術カクンサを
瞬時に殴り飛ばす。

ベルガモ「許さねえぞ。デカ物めが!!!」

ベルガモは幻術もアニラーザが出した物と勘違いしつつもアニラーザに対抗すべくエネルギー弾をわざと受け力を溜めていた。

セル「うるさい奴だ・・・」

セルもまたアニラーザの暴走を止めるべく瞬間移動で悟空達の元まで移動し戦闘準備に入る。

ほとんどの戦士がエネルギー弾を回避する中、全くエネルギー弾が飛ばない西側の二人のバトル。

アニラーザは暴走しつつも同宇宙の戦士は狙わない様に調整している。

マジ||カーヨ「ちよこまかちよこまか時飛ばしか？変な移動技使いやがって」
ヒット「ぐっ!!」

マジ||カーヨがヒットの両足を下半身を触手の形に変え捉える。

そして、巨大な右手に変化させヒットの身体に拳をぶつける！
ハンマーで強く叩き付けられた衝撃の様な感じで地ごとヒットがめり込む。

ヒット「ガフツ・・・」

マジ||カーヨ「殺し屋よお。俺は殺せねえぜ」

ヒット「殺せば失格だ・・・」

マジ||カーヨ「殺す気でほれ、撃てよ」

マジ||カーヨは額に指を差し気弾を撃てと挑発する。

ヒットは攻撃しない。無駄だと分かっているからだ。

マジ||カーヨ「・・・分かっている様だな。俺は液体戦士マジ||カーヨ。元は手足が自在に伸縮出来る改造戦士だった」

マジ||カーヨ「だがな。俺は力の大会に出場するならこの能力だけでは勝てないと分かっていた。そこでDr.パパロニに負けない力が欲しいと頼み込んだ」

ヒット「それが・・・液体の能力か」

マジ||カーヨ「Dr. パパロニは様々な宇宙の科学を参考に第3宇宙の可能性を広めている。俺のこの能力はポトフ人という種族が造り上げた物をDr. パパロニが改良したんだよ」

マジ||カーヨ「この能力は本来なら相手を取り込んでその戦士に変身できる。取り込んだ奴を消去もできるがそれを行えば殺してしまうからな。ここまで言えば分かるよな殺し屋」

ヒット「お前、まさか・・・！」

マジ||カーヨ「俺はこの液体の力を使う為に自ら取り込まれたんだよ。もう、改造戦士マジ||カーヨはこの世にいない。俺は液体戦士マジ||カーヨとしてこの力の大会に出場したんだよ！」

マジ||カーヨ「第6宇宙最強の殺し屋だか知らねえけど俺から見れば何にも怖くねえんだよ!!」

ヒット「そうか・・・」

シャンパ「ヒットがまたやべーじゃねえか！」

ヴアドス「ヒットさんが今までと違う様に感じ取れます。仕事としてのみで動いてい

た彼に何か心の変動があったのかもしれませんが」

シャンパ「ヒットがか!？」

ヒット「・・・大会へ出た覚悟は認めよう。だが、今の俺には勝てんぞ」

マジ||カーヨ「おいおい、くたばりぞこないが何言ってる!じゃあな第6宇宙最強の殺し屋!!」

ヒット「俺はまだ仕事を終えていない。それを終えるまでは・・・」

ヴアドス「ヒットさんの膨大な潜在能力がまた一つ目覚めるかもしれませんがね」

シャンパ「マジかよ!!」

ヴアドス「マジです」

ヒット「・・・」

最初は仕事の為にと動いていたのだが気が付けばシャンパやキャベ達と破壊神選抜

格闘試合で知り合った者達、力の大会で知り合ったカリフラやケール達といるのも居心地は決して悪くはない。

それは同時に殺し屋としてはあるべき姿なのかと自問する。
なかなか答えが見つけれずいた。

攻撃をいなしつつ殺し屋とは何なのかとまた自問する。

問うばかりで答えが出せない。

マジーカーヨ「捉えるぜ」

巨大化したマジーカーヨに羽交い締めをされ両手を封じられる。

それでも、ヒットは焦る表情を見せない。

まだ答えが見つけれられない。こんな時、孫悟空なら何を思うのだろうか。

ヒット（：あいつから見れば回りには仲間がついているというのはいつもの風景か）
マジーカーヨ「余裕そうなツラしやがって・・両腕をへし折ってやる！」

ヒット「だが、俺は俺だ」

バシユー
!!!!

マジカヨ「マ、マジカヨ!」

ヒットが気を解放すると巨大化したマジカヨが吹っ飛ぶ。

ヒット「答えが少しずつ見えてきた・・・」

パズルのピースが少しずつ完成するかの様にヒットの自問は解かれつつあった。

悟空やベジータの様な強者達を知りジレンの様な自身を超えた存在を知り一つの答えが分かった。

力の大会に出ているヒットという男は殺し屋であり第6宇宙を救う一人の戦士とし

て出場している。戦いを仕事としてだけでなく武道家としても戦いに挑んでいる自分。悟空に感化されたのかもしれないと少し鼻で笑う。

シャンパやキャベ達といても特に居心地が悪くはない答えも分かった。

自身が殺し屋というよりも1戦士として敬愛され頼られていたから。それだけでなく自身の脱落の危機に自身より遥かに弱い戦士が助けた。第6宇宙の戦士達は勇敢だということも分かった。

ヒット「一番臆病なのは俺だったのかもしれない」

マジックカーヨ「しぶとい野郎だ！」

そして殺し屋ヒットとして・・・！

ヒット「やめておけ。今手を出せばお前は永遠に俺の眼が忘れられなくなる」

マジックカーヨ「黙れえ!!!」

ヒット「……!!」ギンツ
!!!!

マジ||カーヨの拳がヒットの眼前で止まる。いや、マジ||カーヨの液体の身体が凍てついたりかの様に動かない!

まるでマジ||カーヨのみ時間が止まっている様にも見える。

ヒット「警告はしておいた」

ズドツ
!!!!

右手から繰り出される透明の気弾がマジ||カーヨの腹部を一瞬で押し出し動ける様になった時には武舞台から遙か離れた場外に。

エア「な、何が!?!」

大神官「第3宇宙マジ||カーヨさん。脱落です」

マジカーヨ「うう．．．やめてくれ．．．殺さないでくれえ．．．」
カトペスラ「しつかりしろマジカーヨ！」

ビクビクと縮こまりながら震えるマジカーヨ。ヒットの殺し屋としての眼が心奥までも凍てつかせ忘れられない記憶へと植え付けられていた。

シャンパ「俺も感じ取れたぞ．．．ヒットの奴が殺しに掛かったのが」

ヴァドス「いえ、殺す気は最初からなかったかと思えます。あれはいわゆるハツタリに近いものかと」

シャンパ「ハツタリなのか。だが、とてもそんな軽いハツタリには思えなかったぞ」
ヴァドス「目力だけで時を少し止めたのでしょうか。潜在能力が更に目覚めたのです。ただし、それは一人では決して成し得れなかった戦士としてのヒットさんの力を．．．」

シャンパ「ヒット．．．」

ヒット「．．．逃がしはせんぞ」

エア「アニラーザ!!早く逃げるのです!!一旦は退却を・・・」

アニラーザは触覚を斬られた怒りで暴走していたがエアの言葉ではと我に帰り背中に両翼を生やし飛行する。

キューン!!!!
キューン!!!!

アニラーザ「ぐおおおお!!」

しかし、ヒットの気弾が両翼を破壊しアニラーザが地響きを鳴らしながら背中から崩れる。

ヒットの攻撃と分かり安堵するキャベ達。

翼を壊されもはや退却の策が取れなくなりアニラーザは立ち上がりまたも暴走をしようとした時だ!!

ズオビツ
!!!!

—————

サオネル「くっ・・やはり無理なのか」

パパロニ《大人しくするのだ。アニラーザからの脱出など出来やせんのだと何回言わせれば・・》

ピリナ「第7宇宙のナメック星人。お前に何か策はあるのか？」

ピッコロ「・・ない訳ではない」

サオネル「脱出方法があるのか？」

ピッコロ「だが、確実ではない。それにこれを行えばお前達と決着を付けられなくな

る」

サオネル「・・・まさか」

ピツコロ「このまま脱落を待つかそれとも賭けに出るかは俺達次第だ。だが、確実に抜かれる訳ではない。骨折り損になる可能性もある」

ピリナ「同志達は覚悟を決めている。この際なら・・・」

サオネル「こつちの同志もだ。ペースは・・・」

—————

アニラーザ「ぐぼおおお!!!」

アニラーザの胸部から今まで見たことのない極太の魔貫光殺砲が炸裂!!
緑のコアが割れアニラーザの胸部に穴が開いた。

胸部から飛び降りた戦士。

弟子が嬉しそうな表情をし名前を呼んだ。

悟飯「ピッコロさん!!!」

ピッコロ「待たせたな」

悟空「ピッコロ。急に強くなってねえか？」

ビルス「気が今までと違うな。あいつ、まさか・・・」

ウイス「ナメック星人の能力を使用したのでしょうか。つまり・・・」

ヴアードス「ピッコロさんの脱落はサオネルさんとピリナさんの脱落ともなります」

シャンパ「・・・けつ。力をわざともらう為に飛び込んだな。第7宇宙のナメック星人は」

アニラーザは胸部のコアを壊されると動作が鈍くなっていた。

触觉をなくし察知能力が使えず胸部のコアを破壊され動作が鈍くなるともはや各宇宙の的になってしまっていた。

ピッコロは悟空達の前に向かい指示を出す。

ピッコロ「孫、悟飯、セル。奴のコアを狙え。奴はコアを壊されると弱体化する」
セル「確かに胸のコアを壊されてからは動作が鈍くなっている様だな」
悟空「悟飯!セル!決めるぞ!!」

悟飯「はい!父さん!!」

セル「さらばだ第3宇宙」

ベジータ「おい、貴様等。俺達は腕のコアを狙うぞ」

キャベ「はい、師匠!」

カリフラ「終わりにしてやるぜ」

ケール「行きます・・・!」

トツポ「弱点は見抜いた」

デイスポ「ここはダブルマキシマムキャノンで・・・」

ズシーン!!
ズシーン!!

デイスポ「な、何だ!?!」

トツポ「お前は・・・」

ベルガモ「どいている。弟達の仇を撃つ」

フリーザ「やれやれ。兄弟想いな事で」

アニラーザ「ぐぐぐ・・・」

悟空「か・・・」

悟飯「め・・・」

セル「は・・・」

アニラーザ「ぐごおおおお!!!」

悟空達に襲い掛かるアニラーザ!

胸のコアを壊され動作が鈍くなりいつものパワーを發揮できない。

ベジータ「ファイナルフラッシュユ!!」

キャベ「ハーツ!!!」

カリフラ「オラオラオラー!!」

ケール「ハアツ!!!」

4サイヤ人の連携攻撃で左腕のコアが壊され・・・。

ベルガモ「最大パワーのウルフガングペネトレーターを受けやがれー!!!」

巨大化したベルガモの最大パワーのウルフガングペネトレーターで右腕のコアが壊されそして・・・。

悟空「めー・・・」

悟空・悟飯・セル「波ーーーーっ
!!!!!!」

アニラーザ「ぐう・・・がああああ
!!!!!!」

うずまくかめはめの波がアニラーザの額のコアを破壊し巨体が宙を浮く!!
そして・・・。

大神官「第3宇宙コイツカイさん、パンチアさん、ボラレータさん、パパロニさん。脱
落です」

パパロニ「ぐっ・・・も、申し訳ございません」

エア「素晴らしかったですよD r. パパロニ。あなたの最高の科学の力を全宇宙に見
せ付けられたのです。後悔はありません」

大神官「第3宇宙全戦士脱落。これにより第3宇宙・・・」

消滅でございます!!

全王・未来全王「はーい!!」

カトペスラ（第7宇宙のポリスマン、クリリン。お前とは違う形で知り合いたかった。ポリスマン同士良き友としてな・・・）

エア「悔いなく消滅出来ます・・・本当に素晴らしい科学の力でした」

ガパツ!!

??? 「へへっ!」

カンパーリ 「ミ、ミュール様!」

ミュール 「世話になったな。あばよ!!」

全王・未来全王 「キユツ!!」

第3宇宙消滅。新たな消滅宇宙が出てしまう。

寂しそうな表情のカンパーリ。第3宇宙に強い思い入れがあった。

カンパーリ 「こちらこそお世話になりました。ミュール様」

悟飯 「・・・僕達が一つの宇宙を消してしまったんだ」

悟飯は自分達が一つの宇宙を消滅させた事実に手が震える。

どうしようもない事をやってしまった。罪の無い人までも巻き添えに・・・。

申し訳ないとばかりに目を瞑り拳を握っていると師の言葉が飛んできた。

ピッコロ「悲しみを砕け悟飯。お前も戦士だろ」

悟飯「ピッコロさん・・・」

ピッコロ「俺達が負けたらビーデルやパンやサタンやブウはどうなる? チチや悟天はどうなる? 地球は宇宙はどうなる?」

悟飯「・・・」

ピッコロ「甘さを捨てろ。俺達は負けられないのだからな」

ピッコロの背中はとても大きくとても重く感じ取れた。

ピッコロは第6宇宙の運命も背負っている。

ピッコロの脱落は第6宇宙の二人のナメック星人の脱落。だからと言って脱落する訳にはいかない。

複雑な思いを胸にピッコロは戦いに赴く。

悟飯もそんな師を間近に見て決意する。

悟飯「必ず第7宇宙は生き残って見せます！」

泣き虫だった少年は逞しく成長し師と同じく戦いに赴くのであった・・。
第3宇宙が消滅するも戦いは更に激化する。

力の大会終了まで残り16分！

続く

激烈バトル!戦闘狂サイヤ人達の大乱戦!! 前半

ゴワス「対の宇宙が消滅とは・・・」

ラムーシ「こちらも後一人じゃ。ウカウカしてられん・・・」

ゴワス「ブラックは・・・あのアニラーザとやらに幸い目をつけられなかった事もあって疲労もしていない。これはチャンスではありませんな」

ラムーシ「ふむ・・・」

クス「頑張つてブラック・・・」

ビルス「第3宇宙・・・強かったな」

シン「はい。第6宇宙や第9宇宙や第11宇宙のサポートがなければまずかつたかもしれませんね。少し切り札を出すのが早すぎたかもしれません」

ウイス「アニラーザさんの前の形態、コイチアレータさんが第9宇宙と第11宇宙に

倒されなければ分かりませんでしたね」

ビルス「それにしてもキテラの奴め。宇宙が消滅したにも関わらずまたニヤニヤしてやがる……」

キテラ「どうだ？」

コニツク「ヒット君のおかげで無事第3宇宙完了しました」

キテラ「キキキキ。これで残りは……」

コニツク「残りは……」

ジレン君ただ一人です。

一端はキャベ、カリフラ、ケールと手を組んでいたベジータだがアニラーザを倒した為、約束のカリフラとケールとの戦いに。

だが、戦いに入ろうとした時キャベがベジータに悲しげな声で話し掛ける。

キャベ「師匠・・・第3宇宙、消滅してしまいましたね・・・」

ベジータ「宇宙の存亡を賭けた戦いだ。甘言など言つてられん」

キャベ「・・・僕との約束、覚えてますか？」

ベジータ「ふん。貴様の事だ。もう、約束を果たせないとも言いたいのだろう」

キャベ「残る宇宙は一つだけ。だから、どちらかの宇宙は消えてしまいます。ですから約束を守ることはもう・・・」

ベジータ「俺が優勝して超ドラゴンボールで貴様達を生き返らせてやる」

キャベ「えっ!?今、何て!？」

カリフラ「いつまで話してんだよ！早くやろうぜ」

ベジータ「超ドラゴンボールで第6宇宙を復活させてやると言ってるんだ」

ケール「第6宇宙復活ってそれじゃあ私達・・・」

カリフラ「おい、ふざけんじやねえぞ!!まるであたし達が負けるみたいない方しやがって。勝つのは第6宇宙だ!」

カリフラ「・・・まあ、あたし達が勝ったら第7宇宙を復活させてやつてもいいぜ。あたしは気前がいいからな」

ベジータ「調子に乗るな!!勝つのは俺様だ!」

カリフラ「いや、あたしとケールだな!」

ケール「あ、姐さん・・・」

ベジータ「チツ・・・いちいち言い返しやがって。うるさい女だ」

キャベ「待ってください!!僕はそ

の・・・」

ゴクウブラック「あの女共まさかあれを・・・!許されんぞ」

フリーザ「サイヤ人が仲良く何をやってるのか・・・死ぬほど腹が立ちますねえ」
ソレル「軍師フリーザ。軍師フリーザはもう既に死んでるのじゃないですか?」

フリーザ「よ、よ、余計なお世話です。私達は残り3人しかいないのです。ソレルさん。あなたは戦闘に関しては役に立たないのですから逃げに徹しなさい」

ソレル「けど、逃げたらまたあの第2宇宙の亡霊に狙われるよ。軍師フリーザの近くにいた方が安全だと思うけど・・・」

フリーザ「仲良しこよしはしたくないので。私は私で戦います。邪魔しないでください」

ソレル「うゝっ・・・ケチだなあ」

ソレルはフリーザの元から離れる。

フリーザにとってはただの一兵に過ぎないがソレルはそんなフリーザに高い信頼を

寄せている。

ソレル「私だつて戦士だよ。ほぼ戦えないけど」

ロウ「くう・・・残り3人。お前等、下手に攻めるなよ！」

バジル「申し訳ありません・・・」

ラベンダ「エネルギー弾をかわそうとしたら第2宇宙の影と言えはいいのでしようか・・・とにかくそれに掴まって身動きが・・・」

シドラ「負けは負けに変わりはしない。だが、お前達はよく戦った」

ロウ「こつちにはベルガモとフリーザがいるんだ。そうそうやられはしない・・・よな？」

モヒイト「どうでしょうね」

ベジータ「貴様は相変わらず甘いな」

キャベ「でも、僕の願いはそれが一番だと思っんです。叶えられればいいのですが……」

カリフラ「あーキャベ!めんどくせーよ!!そうしてやるからどきな!お前の師匠の強さ確かめてえからな」

ケール「……お願いします!」

ベジータ「いいだろう。手は抜かんぞ……!!」

キャベは3人から離れ一人見学。

サイヤ人同士のバトルが始まるうとしていたが……。

フリーザ「まずは一番弱そうなあの猿から……」

その頃、悟空は一端軽く一息をつきながら同化したピッコロと悟飯と話していた。姿に変わりはないが気の大きさに驚くもワクワクした表情で会話が弾んでいた。

悟空「すんげーな！同化ってよ。おめえほんと今までとは比べ物にならねーくらい強くなつてんじゃねえか？」

ピッコロ「その分身体がとてつもなく重い。奴等二人分の同化した同胞共を背負っているからな」

悟飯「慣れるのにはまだまだ時間が掛かりそうですね・・・」

ピッコロ「時間が時間だ。慣れる慣れないではない。無理にでも慣らさんとならん」
悟空「そつか。よし！オラもう大丈夫だ！」

ピッコロ「悟空。お前は無駄な戦いをするなよ。神々が口にしていたあの身勝手の極意とやらでなければジレンに勝つ事は出来んだろうからな」

それでもジレンには勝てんぞ！

悟飯「第11宇宙……!」

悟空達の目の前に光速のスピードで突如現れたデイスポ。

3人の話をじっくり聞いていた。

デイスポ「強力なパワーを手に入れたらしいがこのデイスポ様のスピードには付いてこれんだろうよ!」

悟空「ちようどよかったぞ。オラ大分疲労取れてよ。おめえ、オラと戦え!」

デイスポ「お前に用はねえ。用があるのは……」

トツポ「ヌン!!!!」

ドゴオ!!!!

悟空「くうつ!!」

トツポが高い岩柱から降下し地を殴り付けながらエネルギー弾を放ち地を砕きつつ砂煙を起こす。

悟空は突然のトツポの攻撃は避けたもののその砂煙と爆風で両腕をクロスし守りに入らざるを得なかった。

悟空「また一人になっちまったな……ん？」

ウワアアア
!!!!

悟空「今の声は……キャベか!？」

フリーザ「私の獲物を!!あのサイヤ人めく!!」

離れていたキャベに突然襲い掛かる黒き神。

疲労とダメージを受けているキャベをあっという間に武舞台の端に追い詰める。

ゴクウブラック「第6宇宙・私には分かるのだぞ。今私は怒りに震えている。何故だと思う?」

キャベ「知らない!僕だって負けない!!ハアアアア!!!」

超サイヤ人2で挑むキャベだがゴクウブラックは超サイヤ人のままキャベの拳を簡単に受け止めてしまう。

ゴクウブラック「お前は見せしめだ。消えろ人間」

キャベ「グウアアア!」

カリフラ「キャベー!!」

ケール「キャベさん!!」

ベジータ「あのかそつたれがあ!!」

3人が駆け付けれるも既に遅くキャベは紫のエネルギーの刃で斜めに斬られた後、気弾を受け超サイヤ人が解けたと同時に武舞台から落ちていった・・・。

大神官「第6宇宙キャベさん。脱落です」

キャベ「ぐうつ・・・も、申し訳ありませんシヤンパ様・・・」

シヤンパ「よくここまで残ったキャベ。ヴアドス治してやれ」

フワ「あの者は人間の身体を借りた界王神見習い。まさか神の気であれを持つてるのを知ったのじゃ・・・」

カリフラ「テメー！キャベをよくもやりがったな！！きつちり落とし前は付けさせて・・・」

ピシユン

ケール「ヒヤツ!!!」

瞬間移動でカリフラとケールの二人の前に現れ紫のエネルギーの刃を突き立てる。手が震え表情は怒りに満ちておりいつ斬りかかってもおかしくない!

ゴクウブラック「野蛮な人間め……。お前達は何故神具を手に行っているのだ?」
ベジータ「何だと?」

カリフラ「何訳わかんねえ事言ってるんだ!!」
ゴクウブラック「誤魔化すな。カスが」

ピッ

カリフラとケールのズボンとスパッツのポケットをほんの少し斬るとコロリと地に転がるイヤリング。

それを見たベジータそして、神々は驚く。

老界王神「ポタラじゃと!?!」

クル「武器ではないとはいえ合体し大幅にパワーアップが可能・・・」

ロウ「ちよつと待て!!相手に直接傷を付ける武器ではなくとも戦士のパワーを上げるだけでも武器みたいな物じゃないか!反則だ反則!!」

全王「ねえねえ大神官。あれそんなに凄いの?」

大神官「ポタラは二人の戦士が左右に付ける事で合体し一人の戦士となります」

未来全王「おっつ!面白いのね」

大神官「更にその一人の戦士は二人の戦士のパワーを凌駕するのです」

全王「すっごいのね。見てみたいのね」

大神官「分かりました。第6宇宙カリフラさん、ケールさんのポタラの使用許可を認めます」

ロウ「なっ!?!」

シドラ「全王様が気に入ったのなら仕方ない・・・」

シャンパ「あ、ありがとうございます!大神官様!」

大神官「ただし今すぐにポタラを使用してください。全王様の機嫌を損なえば・・・分かっていますね」

シャンパ「は、はい!!・・・おい、カリフラ、ケール!お前達の切り札見せてやれー!!」

ゴクウブラック「私は認めないぞ・・・!神具を人間が使うなど!!」

カリフラ「てな訳だ・・・わりいな。最初はあたしとケール二人がかりで戦いたかった

けどよ」

ベジータ「構わん。そっちの方が俺も戦いがいがある相手になるだろうからな」

カリフラ「けつ・・偉そうによ。まあいいぜ。ケール！」

ケール「はい！姐さん。やりましょう!!」

ベジータ「貴様よりも偉い神が使用許可を認めたからな。止める事は出来ないだろ？」

ゴクウブラック「それがどうした？これは生き残りを賭けた戦いだ：まざまざと放っておく訳等・・!!」

ゴクウブラックが両手にエネルギーの刃を出しカリフラとケールに斬りかかろうとする!!

このままではカリフラとケールはポタラを付ける前に斬られてしまう。

そうなればポタラを付けられず踏み潰されるだろう。

ゴクウブラック「神具を使うのが許されるのは神のみだ。人間が気軽に触れるなど極刑に値する」

ゴクウブラック「お前達も先程の人間の様に斬り落と・・!!」

ピシユン

バシイ
!!!!

ゴクウブラック「クアツ!!」

ゴクウブラックの背を何者かが蹴り飛ばし地に伏させる。
カリフラとケールはその戦士を見て戦う姿勢に入るが・・。

セル「心配するな。貴様等に用はない」
ベジータ「セル。何しに来やがった？」

セル「獲物を狩りに来たただけだ。邪魔をするなよ・・」

カリフラ「あたし達じゃないって事は・・」

ゴクウブラック「人間が・・ただではすまんぞ」

セル「自惚れた神様には人間である私が罰を与えんとな」

ゴクウブラック「死よりも苦しい神罰を捧げてやるぞ人間・・!!」

セルVSゴクウブラックのバトルに!!

本来ならセルには敵わない相手ではあるがセルもあの世で鍛えケールに一度バラバラにされ再生しパワーアップを果たしている。

何よりもセルがゴクウブラックを狙っていたのはチームとなり戦う事が出来ない孫悟空の変わりに姿が孫悟空そのもののゴクウブラックを痛め付けるといふ目的もある。

セル「第10宇宙は貴様だけだ。得意の身代わり失格策は使えんぞ」

ゴクウブラック「使わずともお前に勝てる。人間が軽々しく神に話し掛けるな」

セル「・・・くくく。笑いの神様の方がお似合いじゃないかな?」

ゴクウブラック「そんなに死に急ぎたいのならすぐにでも処罰してやるぞ・・・!」

ベジータ「おい、さっさとしろ」

カリフラ「あいつにもやられたけどな・・・。まあいいか。よーし!」

ケール「行きます・・・!」

カリフラが右耳、ケールが左耳にポタラを・・・。

何がなんでも止めてやると攻撃に出ようとしたゴクウブラックだがまたもセルが今度は念力でカチカッチン鋼の瓦礫を飛ばし妨害する。

セル「心の狭い神様もいたものだ。好きにやらせてやればいいだろう。それとも・・・あの女が怖いのかな?」

ゴクウブラック「神に対する態度を弁えるのだ人間。それが出来ぬのなら殺さない程度に身体を痛め斬りつけこの武舞台に野晒しにするまでだ」

ベジータ「・・・ふん」

2つの力が一つに。二人の戦士が一人に・・・！
第6宇宙の切り札が今ここに現る!!

??? 「ケールとカリフラで・・・」

ケフラ!!

激烈バトル!戦闘狂サイヤ人達の大乱戦!! 後半

シャンパ「ほおおお!!ポタラ来た!ついに来た!」

フワ「フワアゝゝゝ元はといえれば私がお貸ししたのですが」

シャンパ「こまけえこたあいいんだよ!やつちまえゝ!!」

キャベ「必ず勝ってください:カリフラさん、ケールさん。いえ、ケフラさんゝゝ!」

ベジータ「ふん。大幅にパワーアップはした様だな。少しは楽しませろよ」

ヴアドス「ポタラによつて合体することで生まれる新しい肉体と人格。その力は1+1ではなく数十倍にも膨れ上がります」

クリリン「ベジータゝゝ大丈夫かな」

天津飯「凄まじい気だ。厳しい戦いになるだろうな」

ビルス「ふくん・・・」

シン「ああ・・・な、何て事に！そうだ！悟空さんとベジータさんにもポタラを・・・」
ウイス「けれども、脱落すれば二人武舞台からいなくなりますよ」

シン「そ、そうですが・・・」

ビルス「黙って見ておけ。それにベジータの奴が使いたいとは思わないだろうしね」

ケフラ「なんていい気分だ！体の奥底から無限に力が湧き上がってくる！」

ベジータ「まずは小手調べだ」

超サイヤ人2でまずは慣らし程度で挑もうとしたが一瞬で背後に突かれてしまった。

その速さに驚くベジータ。ケフラはまだ完全にそのスピードに慣れておらず攻撃は出来なかったがカリフラのセンスがあればすぐにでも身体は慣れていくだろう。

ケフラ「おととつとつと・・・つい、勢い付けすぎちゃった。次はないよ！」

ベジータ「チイツ!!ポタラの力は確かという事か」

シャンパ「はーっはっはっは!!ビルス見たか!これが最強のサイヤ人ケフラだ!!」
ヴアドス「けれども、ベジータさんは冷静です。驚きつつもその目は鋭く怖れなど微塵もありません」

シャンパはニヤニヤとビルスの方を見るがビルスは思ったより冷静に腕を組み戦況を見つめている姿にニヤニヤするのをやめケフラとベジータのバトルを見直す。

すると、超サイヤ人2のベジータがケフラの右頬狙いの右拳の一撃をかわし両手で右腕を掴み後ろに投げ飛ばす。

ケフラは体勢を崩さず着地するもベジータが右手で小さな丸い気功弾フォトンボンバーを投げ付ける。

それも得意のスピードでかわしベジータに突っかかるが・・・。

ケフラ「ぐっ!!」

シャンパ「な、何い!?!」

ベジータ「速さはある。が、攻撃が単調だ」

突っかかってきたケフラのボディーに左の拳がヒットする。

ケールの形態を持っていたからこそ大したダメージにはならなかったがそれでも完全に攻撃を当てられた事にケフラは今までの高揚した気分を一気に消し戦いに集中する。

それを確認したベジータは気合いの掛け声と共に左手からエネルギー弾を放ちケフラを後方に離し距離を取る。

ケフラ「オリヤー!!!」

ベジータ「どうしたケフラ。貴様の力はこの程度なのか!？」

ケフラが再度得意のスピードでベジータに一気に詰め寄り両手で拳をマシンガンの様に撃ち放つ。

ベジータの挑発でヒートアップするがベジータはそれでもかわしていく。

ケフラ「何故当たらない!!」

ベジータ「本気を出せ。ハッ!!」

ケフラ「グウツ!!!」

腹部を蹴飛ばされ岩柱を破壊しながら吹っ飛んでいくケフラ。

一方的にやられているケフラにシャンパがケフラに怒声を浴びせる。

シャンパ「おいケフラ!遊んでんじゃねえ!!さつさとケリをつけちまえ!!」

フワ「……」イライラ

ヴアドス「超サイヤ人でなければベジータさん相手はまだ辛いでしよう。最も超サイヤ人でもベジータさんに勝てるのかは分かりませんが……」

フワ「……!」ムカムカ

シャンパ「な、何を言ってるんだ!ポタラでの合体なんだぜ!圧倒的な力を得てるはずだ!!」

ヴアドス「ケフラさんが神の気を駆使した超絶的な力を持っているか否か。そして、その領域に達しているかと言われたら……」

シャンパ「ポタラは神のアイテムだぞ!だったら神の領域にだって……」

ヴァドス「何よりもベジータさんとの決定的な違いは戦闘に対する思考と多くの死線を潜り抜けてきた集中力の違い。・・弟子のキャベさんなら分かるのでは？」

キャベ「ケフラさんが力を出せば出すほど師匠も力を出しています。ですが、まだ師匠は全力でないながらもケフラさんを追い込んでるかと・・」

フワ「フワァー!!!早く力を見せるんだあ!!」

キャベ「えっ!?!」

シャンパ「熱くなるときは熱くなるんだぜ・・」

ケフラは岩柱に埋もれるも顔はニツと笑っている。

これ程までに強い相手と出会えてワクワクしているのだ。

全身に力を込め声を張り上げると埋もれている岩柱が砕け超サイヤ人へと変身。

更にパワーとスピードを上げベジータに攻撃を仕掛ける!

ベジータ「そう来なければな。ハアアアアアア!!!」

ベジータは今度は超サイヤ人ゴッドに変身しケフラの拳とぶつけ合う。どちらも退かない激しい撃ち合い!!

ケフラの意地とベジータの意地。

ケフラは必死な形相で撃つのに対しベジータは表情を変えずに撃ち続ける。

ケフラ「く、くそお!!オラオラオラ・・」

ベジータ「熱くなりすぎだ・・ハアツ!!!」

両手を抑え込みケフラの身体ごと一度スイングし宙高く飛ばすもすぐにケフラは宙で体勢を直しベジータに両手で赤いエネルギー弾を連射する。

ベジータもそれに応えるかの様に連続エネルギー弾で応戦する。ここでも徐々にベジータが押していく。

シャンパ「何故だ何故だ何故だあ!!!ポタラを使ってるんだぞ!?!」

フワ「フーワー!!!」

全王「ケフラ押されてるね」

未来全王「頑張ってほしいのね」

悟空「いいなあベジータ。オラもそろそろ誰かと戦けえてえぞ……おっ？」

ベルガモ「こいつら……さっさと出してる奴を見つけねえと体力的に追い込まれちゃう」

幻術ザーブト「消えろ……消えろ……第9宇宙」

幻術プラン「消えろ……消えてしまえ……」

悟空「よつと!」

ベルガモを狙っていた幻術ザーブトと幻術プランを蹴飛ばす。

ベルガモは悟空と分かるや否や舌打ちをしながら悟空に背を向ける。

悟空「なあ、オラと・・・」

ベルガモ「失せる第7宇宙。俺はお前達の宇宙とは戦うつもりはない」

悟空「お、おい。全覽試合のリベンジしたくねえのか？」

ベルガモ「フン。ガキじゃあるめえ」

悟空「けんど、おめえあのでつかいの倒すのに貢献したもんな。サンキュー!」

ベルガモ「感謝するなら勝利をよこせ」

悟空「それは出来ねえぞ。オラだってわざと負けるのなんて嫌だもんよ」

ベルガモ「・・・うるさい野郎だ。俺は生きてやるぞ。姑息だろぅが卑怯だろぅが何かなんでもな。お前は大好きな戦闘でさっさとジレンとかいう奴と相手してくれたばりやがれ」

悟空「そつか・・・んじやいや。おめえと戦うのは」

ベルガモ「そもそも全覽試合でお前を倒せばこの様な大会は開催されなかつた・・・」

悟空「手抜いたら全ちゃんに消されるから仕方ねえって」

ベルガモ「・・・だからこそお前に負けた俺自身の無力さに腹が立っている。たらればの話が続いてもキリがないのは分かっている。だが、この大会では人間レベルが一番低い俺達が生き残るチャンスがあるのも事実だ」

悟空「・・・」

悟空はベルガモの強い意志を感じ取り戦うのをやめ幻術を共に倒していく。身体を慣らすためでもあり幻術に狙われているベルガモを助ける計らいもあった。

ベルガモ「何故俺を助ける？」

悟空「身体を慣らすためでもあつぞ。さっさと元凶を見つけるとするか！」

ベルガモ「俺はお前にいつ騙し討ちを仕掛けてもおかしくねえんだぜ・・・」

悟空「おめえに攻撃されねえ様に気を付けねえといけねえな！」

ベルガモ「チツ!!毒気が抜かれる・・・」

幻術の中にはニグリツシ、ザ・プリーチョ等第3宇宙の戦士も一部紛れている。

それでも悟空とベルガモは互いの背を合わせ大勢の幻術と戦いに入るのであった。

悟空「よーしやるぞ!!」

ベルガモ「絶対生き残ってやる!!!」

ロウ「孫悟空と手を組むだと・・・!」

シドラ「ベルガモの体力の事を踏まえれば助けはありがたいがそれでも孫悟空は・・・モヒイト「・・・」

シャンツア「シャンツアシャンツア!!」

キテラ（シャンツアよ。孫悟空に幻術をぶつける!）
シャンツア「シャンツア!!!」

ゴクウブラック「くっっ・あの人間共。神具を使うとは・・・」

セル「神様はどうやら相当ご立腹な様で。が、無視されるのは私も腹が立つのでね」
セル「そろそろ私との戦いに集中してほしいぞ。笑いの神様」

ゴクウブラック「・・・お前が邪魔をしたからだ」

セル「私は貴様と戦いたかっただけだ。神がどうか全く興味がないのでね」

ゴクウブラック「ならその身に教えてやる。神の前では人間等矮小な存在に過ぎぬとな」

セル「貴様の事はよく知らんが孫悟空の名を借りて神と名乗るのは滑稽だと思えん」

ゴクウブラック「凄惨な姿で観覧席に送ってやるぞ・・・！」

ベジータとケフラとのバトルはベジータが優勢のままだった。

超サイヤ人ゴッドの神の気にケフラはなかなか対応出来ずにいる。一撃一撃が重い

攻撃。

それでも対抗できるのはカリフラの戦闘センスとケールのタフな耐久力があるおかげであった。

ベジータ「今の貴様は能力とセンスにかまけているだけだ。まだポタラを使うには早い」

ケフラ「修行すりや強くなるとか言いたいのか!？」

ベジータ「実際、どちらかはまともな修行をした事があるのか?」

ケフラ「密猟団などは蹴散らしていたけどなあ」

ベジータ「それが原因だ。雑魚ばかり相手して自身の強さが分からないまま力に過信しすぎている」

ケフラ「偉そうに!!」

ベジータ「俺は第7宇宙ではサイヤ人の王子だ。偉いと言えば偉いのだろうな」

ケフラ「ええー!? お前王子なのかよ!」

ベジータ「今は才能だけにしか頼れん戦いになるだろう。だが、俺を倒したければもう一段階変身しろ。超サイヤ人2にな」

クリリン「お、おいベジータ!」

天津飯「ベジータの悪い癖だ・・」

17号「やれやれ・・相変わらず直ってないのか」

ベジータとケフラのバトルを気付かれない様に一人岩柱から観戦するフリーザ。

この激しいバトルで残ったどっちかを脱落させる魂胆だ。

サイヤ人を嫌うフリーザにとってサイヤ人同士の潰し合いは願ったり叶ったりでもある。

フリーザ「フフフフ・・この戦いでベジータはエネルギーを激しく消耗するでしょうね。どちらにせよあのケフラとかいうサイヤ人ではまだベジータには勝てない。・・それともどちらかが追い込んだ瞬間二人を落としてやりましょうかね」

あいつらの戦いの邪魔をするな。

フリーザ「なっ!?!」

フリーザの背後にいたのは第6宇宙最強の戦士。
その気配に全く気付かず目を見開き硬直する。

ヒット「邪魔をするのならばお前から落とす」

フリーザ「・・・同じ第6宇宙のお仲間を助けなくてもいいのですかね? 現状はベジータさんの方が上回ってますよ」

ヒット「あいつ等の戦いに割り込むつもりはない」

フリーザ「全く。あなたもサイヤ人共に感化されたのですかね・・・」

ヒットとフリーザが観戦する中、ケフラは更に気を集め全体に力を溜め込む。ベジータも大地が震えるケフラの本気により一層気を引き締め戦闘に入る。

ケフラ「見せてやる・・!!これがあたしの本気だ!!!」

ウオオラアアアア

!!!!!!

シャンパ「よーっし!!これならベジータもブツ飛ばせるだろ!!!」

クリリン「あああ・・どうしてサイヤ人というのは・・」

亀仙人「武道家としては間違っではない考えじゃが・・」

18号「今はそうも言ってられないだろ・・」

ケフラの本気のパワーはカリフラの超サイヤ人2とケールの伝説の超サイヤ人が混ぜた特殊な変身。

強大なる気だがベジータは超サイヤ人ゴッドのまままで戦いに挑もうとしたが・・。

ケフラ「お前も本気を出せよ・・!」

ベジータ「言われなくても出してやる」

ハアアアア
!!!!!!

ベジータも予定を変更し超サイヤ人ブルーで全力のケフラと戦う!

本来は超サイヤ人ゴッドのまままで攻撃する時のみブルーになるという戦法で挑むつもりだったが全力のケフラは長くエネルギーが続かないと分かった。

だからこそ最初から全力で戦う気でいたのだ。

ケフラ「ウオオラー!!!」

ベジータ「テエヤ!!!」

全力のケフラの右拳の一撃にブルーのベジータの拳が少しずつ押されていく。

ケフラは更に左手から赤いエネルギー弾を放ちベジータにぶつけようとする！

ケフラ「くらいやがれー!!」

ベジータ「チイツ!!」

ベジータは後ろに下がリケフラから離そうとしたがそれを待っていたかの様にケフラは自慢のスピードでベジータのみぞおち部分に右肘をぶち込みベジータに初めてダメージを与えた！

苦しむ声を上げるベジータに更に追撃する。

ベジータ「なっ・・・」

ケフラ「オラ!!」

ベジータ「グオアアッー!!!」

右手でアッパー、宙に吹っ飛ぶベジータに両手で赤いエネルギー弾をぶつけ落ちてくる所を腰を掴み地にそのまま力強く叩き付けた!!

連続攻撃は流石のベジータにも効き口から血が流れている。

シャンパ「っし!!」

フワ「フリーワァー!!!これぞポタラパワー!!」

シャンパ「そうだそうだ!!ポタラパワーだ!」

ビルス「神の領域へ近付いているな・・・」

老界王神「ブルー状態のベジータにあれほどまでに攻めれるとは・・・」

シン「やっぱりこちらもポタラを!!」

ビルス「やめておけ。ベジータは使わないよ。悟空もね」

ケフラは攻撃の手を緩めない。叩き付けた場所は地が割れベジータがうつ伏せになっっているが右足で踏みつけようとする!

ベジータ「調子にのるなよ・・・!」

瞬時に右足を掴み反撃に出ようとしたがベジータの両手から右足を強引に離し左手

から黄緑色の丸いエネルギー弾を投げ付ける様に放った！

立ち上がり弾き飛ばしたがケフラは両手から何度も何度もエネルギー弾を投げ付ける。
る。

弾き飛ばしきれないと分かり決意したベジータはケフラに突っ込むもそれを読んでいたケフラは右手で投げ付けるフリをして強烈な張り手を見舞いした。

ベジータ「グウツ！」

ケフラ「あたしの勝ちだあああ!!!」

両手を後ろに力を長めに溜めた後、一気に前に突きだすと赤のエネルギー波と気緑色のスパークが流れるエネルギー弾が放たれる。

これに当たればベジータも耐え切れず場外に落ちる。

張り手を受け吹っ飛ばすベジータだがこれは耐えて立ち上がる。

そして、ベジータもまた手足を大の字に広げブルー状態のみに放てるファイナルフラッシュを放とうと構えた。

ベジータ「詰めが甘い。その溜めの時間が余計だ。：終わりにしてやる。これで：」

落ちやがれえー
!!!!!!

ファイナルフラッシュとケフラのエネルギー波がぶつかり合う!!!

ビルス「ベジータの奴。らしくないね。まあ、僕は勝ってくれたら何でもいいけど」
ウイス「ケフラさんに勝つよりも試合に勝つ方を選びましたね」

クリリン「どういう事なのですか!?!」

天津飯「ベジータの狙いはケフラではないのか!?!」

亀仙人「ケフラとやらの足下目掛けて撃っているのお」

18号「狙いは・・・」

17号「武舞台を砕いて場外負けか。確かにケフラの方は場外が近い場所にいるから

な」

ケフラ「くうっ！もつとパワーを上げるよ!!」

ベジータ「まだパワーを上げられるのか!?だが、後少しだ・・!」

ファイナルフラッシュが武舞台に後少して触れそうになるもケフラのエネルギー波が押していく。

ベジータもこれ以上は押し返されると予測し最大限のファイナルフラッシュで押す。

ケフラ「何てエネルギー・・グググ・・」

ドオオン
!!!!

ケフラ「なっ!?武舞台が崩れていつてるじゃんか!!」

慌てたケフラはエネルギー波をぶつけ合うのをやめ持ち前の運動能力で高くジャンプした。

だが、ベジータの真の狙いはジャンプした瞬間だったのだ!!

ファイナルフラッシュの構えをすぐに解いて右手をケフラに向けて球状の光弾を放った!!

ベジータ「ビツクバンアターック!!!」

ケフラ「し、しまっ・・!!」

グワァン
!!!!

ケフラ「ぐうああああ!!!」

シャンパ「ケケ、ケフラー!!!」
フワ「そんな事があーー!!!」

ヴァドス「ベジータさんの作戦勝ちですね」

ビツクバンアタックはさほど効いていないだろう。
が、ファイナルフラッシュで砕いた武舞台の端には足場がなくケフラはそこから落ちていく・・・。

大神官「第6宇宙カリフラさん、ケールさん。脱落です」

カリフラ「くあっ!!」

ケール「きやあっ!!」

キャベ「カリフラさん!ケールさん!」

第6宇宙のサイヤ人3人が脱落。残りはヒット、そしてピッコロと同化して武舞台に

はいないサオネル、ピリナのみとなってしまう。

状況だけ見れば第6宇宙にはヒットしか戦える戦士がいなくなってしまうた。

ヴァドス「これで第6宇宙はヒットさんのみが武舞台に立っている戦士となりました」

シャンパ「だだ、大丈夫だ。ヒットならそうそう落ちねえ！おいヒットー!!絶対生き残れよー!!!」

カリフラ「こらーキャベの師匠!!こんな認めねえぞ！」

ケール「姐さん!!」

キャベ「カリフラさん！武舞台に入ってはダメですよ!!」

キャベとケールに抑えられるカリフラ。

ベジータが暴れるカリフラに一言助言を与えた。

ベジータ「才能だけに溺れるな。落ちこぼれでも必死に努力すればエリートを超えられることがあるかもしれんからな」

カリフラ「・・・へっ！そこの奴等に負けねえよあたしは！」
ベジータ「俺がそうであつた様にな。全く頭に来る野郎だぜ」

フリーザ「おやおや、得意の時飛ばしで助けなかつたのは何故ですか？」
ヒット「・・・お前が妨害してくるのは分かっている」

フリーザ「ご名答。あなた頭がいいですね」

フリーザ「さて、これで第6宇宙はあなたと力を根こそぎ盗まれ武舞台にはいないナメック星人二人のみとなつてしまいましたね」

ヒット「・・・」

フリーザ「そして、トップは第7宇宙の5人です。このままでは第7宇宙に逃げられると負けてしまいます」

フリーザ「そこで提案です。私とあなたで一端は手を組んで第7宇宙の戦士を落としますませんか？」

ヒット「お前とだと？」

フリーザ「私、第7宇宙の者なのですよ。フロストさんと同じ種族だから気付いていたかもしれませんが・・・」

フリーザ「まあそれはそれとして。つまり、私は第7宇宙の戦士については詳しいですよ。あの5人で一番弱い奴も分かっていますし、どんな能力を使うのかも把握しています」

ヒット「・・・」

フリーザ「どうですか?悪い話ではないでしょう。このまま第7宇宙に負けてしまってもいいのですか?言っておきますが第7宇宙なんかは優勝されたらあのサイヤ人達のことです。他宇宙の安否など全く気にもしませんよ。戦う事しか脳がない猿ばかりです」

ヒット「・・・」

フリーザ「フフフフ・・・あなたにとっても私にとっても得策だと思えますよ」

第6宇宙のサイヤ人が全滅した!だが、第6宇宙にはまだヒットが残っている。そして、第7宇宙は残り人数ではトップなものそれは他宇宙にも狙われる可能性が高くなるといふ事でもある。果たして悟空達はこのまま5人で生き残れるのか!?

力の大会終了まで残り14分！

続く

最凶コンビ結成!?フリーザとヒット 前半

ベジータはケフラに勝利したもののエネルギーを多く消耗し続けて戦うには厳しいだろう。

第7宇宙は残り5人とトップ。それでも油断は出来ない。

ピッコロ「ジュアアアア!!!」

トップ「フヌオオオ!!!」

トップとピッコロがラッシュしあう。

同化したピッコロのパワーに警戒していたトップとデイスポは二人でピッコロを狙おうとしたが悟飯がデイスポと対峙する。

しかし、デイスポのスピードに翻弄される悟飯。悟飯も懸命に戦うもデイスポ相手は厳しいか。

エネルギー弾を牽制変わりに放ったが目の前に当たりそうになった瞬間をかわし一

気に悟飯に詰め寄る！

デイスポ「僕が相手だとか言ったが威勢だけか!?俺のスピードはお前程度では付いていけないぞ!!」

悟飯「くっっ・・・何てスピードなんだ。ウアッ!!」

光速のスピードから背中を突かれたと感じ取りガードの体勢に入るもがら空きの左横腹を蹴られ吹っ飛ぶ。

ピッコロが悟飯の名を呼ぶがトツポがすかさずジャステイス裸絞めを決める。

ピッコロ「グアアアア!!!」

トツポ「仲間を思う気持ちは分かるが目の前の敵から目を反らさん方がいいぞ」

ピッコロ「グッ・・・!!」

僅かに手が動く。ピッコロは右腕を伸ばしトツポの右頬に拳をぶち込む。

耐えるトツポだが同化したピッコロの一撃は重くジャステイス裸絞めをやめ蹴飛ばした。

ピッコロ「クアツ!!!」

トツポ「重い一撃だ……。これが第6宇宙の同種族達を取り込んだ力だといふのか」

ベルモッド「トツポが自ら絞め技を解放させるとは……」

カイ「それ程までに恐るべきパワーを持つているらしいですね。トツポの判断は間違っています。第7宇宙のピッコロは早く脱落させるべきです」

悟飯（どつちから仕掛けて来るんだ。後ろからかそれとも横からか）

デイスポ「俺の速さに付いてこれず恐れているって顔だな」

悟飯「そ、そんな事は……!」

デイスポ「隠しても無駄だ。その息の上げ方で何を感じているかは読み取れる。俺は耳がいいのでな」

デイスポ「逃げれもしない、攻撃も当てられやしない。勝ち目なしの戦いにお前は今直面しているんだよ」

悟飯「そんなのはやってみないと分からない!!」

デイスポ「分かるから言ってるんだ・・」

ドオン!!

デイスポ「グオアツ!!な、何だ!？」

悟飯「トウリヤー!!!」

デイスポ「ガファア!!!」

デイスポの首もとに悟飯の右足からのハイキックが炸裂し吹っ飛ぶが宙で一回転し体勢を整え構える。

牽制変わりに放ったエネルギー弾を操りデイスポの背中当てたのだ。

ピッコロとの修行の一環で悟飯はエネルギー弾の細やかな操作も教わっていた。

トツポ「デイスポ!!」

ピツコロ「逃げ道はないぞ!!」

トツポ「何っ!？」

ピツコロ「くたばれ!!!」

トツポに降り注がれるエネルギー弾の雨。

魔空包囲弾がトツポの胸部を中心に襲い掛かりガードするも同化した影響もあり大幅に威力も上がっており押されていく。

全てを防ぎエネルギー弾の雨が降らなくなった瞬間!

ピツコロ「激烈光弾!!!」

ズガン
!!!!

トツポを更に追撃する！強烈な激烈光弾が直撃しトツポはガードの体勢のまま地をズルズルと引きずりながら押されその後ろには……。

トツポ「……危うく脱落する所だった」

ピッコロ「そう簡単にやられはしないか」

トツポは直ぐ様ピッコロに向かって猛進しながら右拳をぶつけにかかる！
ピッコロもトツポと同じく猛進し右拳をぶつける！

トツポ「フヌウン！！！！」

ピッコロ「テヤアアア！！！！」

戦いを巻き戻したかの様に激しいラッシュがまたも始まる。

悟飯も吹っ飛んだデイスポが直ぐ様背後から攻撃を仕掛けてきたのが分かり左腕でデイスポの蹴りをガードする。

デイスポ「少しばかり油断した。だが、次はないと思え！」

悟飯「僕はやれる限りやるだけだ!!」

第11宇宙の二人の精鋭VS第7宇宙の師弟コンビのバトルをじっくりと眺める二人の戦士。

フリーザがヒットに第7宇宙の残りの戦士の詳細を語っていた。

フリーザ「まずは孫悟空。言わずもがな第7宇宙では一番厄介な戦士です。が、強い戦士と戦いたいという願望があるので放っておけばジレン等強い戦士と戦い勝手に脱落または大きなダメージを負うでしょう」

ヒット「……」

フリーザ「次にナメック星人のピッコロ。まあ、あいつはあなたも手は出せないでしょう。あいつの脱落は第6宇宙のナメック星人二人の脱落にもなりますからね」

フリーザ「その次に緑色と斑点模様のある戦士のセル。私の細胞やサイヤ人の細胞等を合わせもつ戦士です。そこそこ強いですがあいつが今戦っているあのゴクウブラックとやらに近付くと私達も巻き込まれてしまいそうなので放っておいた方がよいでしょう」

ヒット「狙うべきは・・・」

フリーザ「当然、あなた達の宇宙のサイヤ人と戦って疲労しているベジータでしょう。第7宇宙では孫悟空の次に強い戦士ですからね。孫悟空の息子、孫悟飯は残っている5人で一番弱いのでベジータを脱落させたら狙いましょう。・・・その前にあの第1宇宙の戦士に倒される可能性も有り得ますけどね」

ヒット「・・・行くぞ」

フリーザ「おやおや・・・早いですねえ」

ベジータはケフラとのバトルの疲労があるもののそれを隠す様に戦いに赴く。

プライドの高さがベジータを突き動かしていた。

ベジータ「フン！ここにはもう戦士がいない様だな」

西側で激しく争うピッコロとトツポのぶつかり合いで岩柱が爆発したのを確認しピッコロのバトルの様子見しようと西側に向かおうとした時だった。

自身の背後に何者かがいると気で感じ取り左腕を振り抜いたが誰もいず腹部に何者かのボディーブローが直撃!

声を上げ両膝が地に付くと目の前には冷やかな瞳でベジータを見下す一人の戦士がいる。

ベジータ「ヒ、ヒット・・・貴様あ・・・!」

ヒット「少しばかりのブレークタイムだ」

ベジータ「ブ、ブレークタイムだと・・・ナメやがつて!!」

ベジータ。あなたはここで終わりですよ

ベジータ「フリーザ!!」

フリーザ「ほっほっほ。苦しそうですね。サイヤ人は強い者と戦うのを好む種族。この力の大会にはまるつきり向いていない性格ですよ」

ベジータ「貴様ら組んでやがるのか・・・」

フリーザ「第7宇宙は今一番人数が多いので減らしにかかろうと・・・」

ヒット「お前は休むべきだ。どこでとは言わずとも分かるだろう」

ベジータ「いいだろう。貴様等二人叩き落としてくれるわ!!!」

疲労しながらもベジータは超サイヤ人でフリーザに攻撃に掛かる！

フリーザは悪どいにやつきを見せ付けながらベジータの攻撃を軽々とかわす。

フリーザ「おやおや随分とお疲れの様ですね。これくらいなら目をつぶってもかわせ
そうですよ」

ベジータ「くそつたれがあ!!!」

ズドツ
!!!!

ベジータ「ウグア・・・！」

フリーザ「フツ・・・ハア!!!!」

ベジータ「グアアアア!!!!」

腹部にボディーブローをもろに受け更に左足の回し蹴りが胸部にクリーンヒット。吹っ飛び地に転がるベジータだが途中で何かにぶつかり止まった。止めたのは時飛ばしを駆使し瞬時に移動したヒットだった。

ヒット「・・・」

ベジータ「チイツ・・・フリーザなんかと手を組みやがって・・・。見損なったぞ」

ヒット「倒す為には有効な手段だ」

ヒットは右足を振り上げベジータをボールの様に蹴飛ばす！

ベジータが蹴りを受け吹っ飛んだ先にはピッコロ達がいる場所だ。

トッポ「むっ!？」

ピッコロ「べ、ベジータ!!」

フリーザ「なるほど・・・これは面白いですね」

ヒットは時飛ばしで倒れているベジータの近くに移動しピッコロを睨む。

サオネル、ピリナと同化したピッコロは第6宇宙の戦士としても戦う使命があるから話さなくともヒットが伝えたい事を理解した。

ピッコロ「・・・俺にベジータを落とせと言いたいのか?」

トツポ「・・・」

トツポは握っていた両拳をほどく。

自分が入っていい空気ではないと察し同行を見守る。

フリーザ「あなたは第6宇宙の戦士の力を借りてますからね。もしも落とす事に協力してくれるのなら私達も加勢しますよ」

ヒット「・・・選べ。落とすのに協力するか否か」

ベジータ「グアアアアアア!!!」

ヒットはベジータを右足で踏みつける。

冷やかな視線がピッコロに向けられる。

従えばベジータは脱落。

刃向かえばベジータはもちろん自身も脱落させられるかもしれない。

同化の力を持ってしてもフリーザとヒット二人が相手では敵わないだろう。

フリーザ「ベジータさんに言っておきましょうか。誰も信じない事です。そこにいるナメック星人は第6宇宙のナメック星人とも手を組んでいるのですよ」

ロウ「いいぞフリーザ。そいつをさっさと落とせー!」

シャンパ「えげつねえ精神攻撃だぜ」

ヴァドス「けれどもピッコロさんはサオネルさんとピリナさんの力を持っているのも事実ですよ」

シャンパ「そうだな・おい、ベジータをさつさと脱落させろ!!ピッコロは落とすんじゃないぞぞ！」

ピッコロもヒットにお返しと言わんばかりにガンを飛ばし結論を出す。

その姿勢には全くためらいがなく戦闘体制に入る!!

ピッコロ「断る。ベジータがこれくらいでやられるとは思えんしな」ニヤリ

フリーザ「いいのですか？私達に刃向かうのならベジータはもちろんあなたも落とすかもしれませんよ？」

ピッコロ「俺が脱落すれば第6宇宙から二人いなくなる。お前にとっては美味しいだろうが同じ第6宇宙のお前が俺に攻撃するのは仲間割れと同じだ」

ベジータ「いつまで踏んでやがる・・!クソ野郎があ!!!」

ベジータは怒りと共に超サイヤ人ブルーに変身。

ヒットはブルーの気で足がベジータから離れ地を少しばかり滑る。

ベジータはヒットに掛かるが時飛ばしで消え背後を付かれる。

が、それを予測したベジータは右肘をヒットの腹部にぶち込んだ!

ヒット「ぬぐっ!?!」

ベジータ「いつまでも惑わせれると思うな」

フリーザ「そんなあなたはいつまで持ちますかね・・」

ピッコロ「俺がいる事も忘れるな」

ガシツ!!

フリーザ「ナメック星人ごときが生意気に・・・」

フリーザの尻尾を掴み動きを封じる。

フリーザは尻尾から手を離させようと尻尾を動かそうと試みるも動かない。

ピッコロのパワーが予想を超えるほど上昇している事に冷や汗を垂らす。

ピッコロ「お前の思い通りにはさせんぞ」

フリーザ「付け上がるなよ・・・!!」

ゴールデン化しようと構えた時、細かな赤いエネルギー弾が二人に向けて放たれる。

トツポがジャステイスフラッシュで攻撃を仕掛けてきたのだ。

ピッコロは尻尾から手を離し回避しフリーザもまたピッコロとは逆の方向へと回避した。

トツポ「用件は済んだのだろ？」

ピッコロ「ああ」

トツポ「・・・ならば行くぞ!!」

ピッコロ「生き残れよ。ベジータ」

フリーザ「ベジータはきちんと落としますのでご安心を・・・」

ピッコロ「チイツ!!フリーザの奴め!」

トツポ「ジャステイス・ハンマー!!」

ピッコロ「くっ!!」

戦いに集中しろと叱責するかの様に強烈なハンマーナックルが地を砕く!

ピッコロはかわすも砕かれたカチカッチン鋼の破片が身体に刺さり少し血が流れるが再生能力で直ぐ様傷を直した。

トツポ「助けにいくなら行くがよい。お前の仲間が私とデイスポの二人掛かりで果たして生き残れるか・・・」

ピッコロ（悟飯にこいつ相手は荷が重すぎる）

悟飯はデイスポ相手に四苦八苦。

ここにトツポが加わろう物なら脱落は免れないだろう。

ピッコロは迷わずトツポに立ち向かっていく！

ピッコロ「ならばお前をすぐに落とすまでだ!!」

トツポ「やれるものならばな」

ピッコロにとってはやはり避けられない戦いだ！

同化した力も徐々にだが慣れてはきている。それでもトツポは対応する。

力と力のぶつかり合いに全王二人もワクワクドキドキしながら観戦していた。

最凶コンビ結成!?フリーザとヒット 後半

悟空はその頃、ベルガモと共に幻術戦士達を相手にひたすら戦い続けていた。

第3宇宙のニグリツシ、ザ・プリーチョ、ビアラ、ナリラーマの幻術が悟空に一気に襲い掛かる!

悟空「こいつら本物と比べたら大したことねえんじやねえか?」

ベルガモ「バカが。大したことはなくともゾロゾロ沸いてくるだろ」

幻術ザ・プリーチョ「消えろ第7宇宙」

幻術ニグリツシ「滅びろ第7宇宙」

悟空「似たような言葉しか喋んねえしな」

ベルガモ「細かい操作までは出来んのだろうよ。だが・・・」

幻術カクンサ「ゴミ宇宙は消えるべきよ」

幻術ロージ「消えてよ。ねえ」

ベルガモ「幻術にしては技のキレは本体の時と変わらねえ。お前達の宇宙がやってるんじゃねえだろうな？」

悟空「そんな訳ねえって。それだったらオラを落とすになんて掛からねえじゃねえか」

ベルガモ「それもそうだな・・・だとしたら怪しいのは・・・」

クリリン「悟空が戦っているのは消滅した第2宇宙や第3宇宙の戦士達ですよね？」

亀仙人「あれは幻術じゃよ。ただ幻術にしてはまるで本体を召喚して操っている様に見えるわい」

天津飯「これを操る者はそれ程の使い手という訳ですね」

亀仙人「そうなのじゃがこれは恐ろしい使い手じゃ。幻術の力は本体よりかは弱いと

は思うが場外に落としても倒しても現れるのじゃからの・・・」

亀仙人「そして、何よりあの世にすらいない戦士達を幻術とはいえ傀儡の様に操り怨み辛みを吐かせて弄んでおる。操っている者の陰湿な人間性が伺えるわい」

17号「操っているのは第4宇宙なんだろうな」

18号「どうして分かるんだい？」

17号「搦め手をよく使う宇宙だからな。大方操る本体は大したことないだろ」

亀仙人「じゃといいのじゃが・・・」

シャンツア「くく♪」コツン

激しく踊りながら幻術を次々と召喚するシャンツア。

踊っている時に武舞台の破片が足に当たり破片と岩柱がぶつかり合い小さな接触音が鳴る。

ベルガモがその音を逃さず音が聴こえた方面に向かった！

悟空「お、おい！どこ行くんだよ!？」

ベルガモ「お前は戦つてろ!!」

悟空「逃げる・・・つて感じじゃなかったな。まあいつか」

ベルガモが崩れた岩柱の隙間で幻術召喚の構えを取りながら踊るシャンツアを発見する。

驚いたシャンツアは構えを取るのをやめ背中の管を使い空を飛んで逃げようとしたがベルガモの右手に掴まれてしまう。

ベルガモ「お前がバジルやラベンダを実質落とした元凶だな・・・」

シャンツア「シャシャ！シャンツアシャンツア!!!」

ベルガモ「絶対に許さん・・・!!潰してやる!」

悟空「おつ？なんか消えちまったな。あいつが止めたんだな！やるじゃねえか」

ベジータ「貴様……！何を考えていやがる！」

ヒット「……………」

質問に何も応えずひたすらベジータとのラッシュを続けるヒット。

フリーザも加勢に入ろうとしたがヒットが時飛ばしでベジータから離れフリーザの元へ一瞬で移動し止められる。

ヒット「疲労していてもあいつとお前を戦わせるのは危険だ」

フリーザ「……どういう意味ですか？私が今のベジータに負けるとでも？」

ヒット「ダメージは負っているが戦いの姿勢は変わっていない。ムキになって殺す可能性がある」

フリーザ「大丈夫ですよ。加減はきちん出来ますので」

ヒット「逆にお前が殺される」

フリーザ「私ですか？ほっほっほ。あなた冗談が上手いですねえ。ダメージを負っているベジータに私が殺されるなんて・・・」

ヒット「あの状態でも俺の攻撃を予測している。完璧とまではいれないがおおよその位置を先読みしている」

フリーザ「だから何なのです？それが殺される理由になるとでも？」

ヒット「・・・おとなしく尻尾を巻いて逃げる事を進める」

ヒットは再度ベジータの元に戻り戦いに入った。

ヒットの発言にフリーザは頭に来たのか指一本で頭上に赤々と燃え盛る球体『スーパーノヴァ』を作り出しベジータごと武舞台を破壊してヒットを場外に落とそうと目論んだ！

フリーザ「これくらいではあなたは落ちないでしょう。落ちてくれたらラッキーですけどね！」

ベジータ「フリーザの野郎・・・！」

ヒット「ブレークタイムは終了だ。後は好きにしろ」

俺は仕事に戻らせてもらう。

スツ

ベジータ「チツ!!あいつ、はなから俺を狙ってはいなかった。攻撃も全て読みやすい様に動いていやがったか」

フリーザ「消えろ!猿野郎!!!」

ベジータは少し体力を使い超サイヤ人ゴッドからのファイナルフラッシュを放とう

としたが、突然スーパーノヴァがろうそくの火の様にフツ、と消えた！

フリーザ「な、何!？」

無数の透明の気弾がスーパーノヴァをかき消したのだ。

それを放ったのは……。

フリーザ「うあああああ!!!」

フリーザの身体のうちこちに透明の気弾が直撃し悲鳴を上げる。
仕事を始めたヒットは冷徹な眼をしている。

ベジータもヒットの一瞬の攻撃と読み取れない連続の気弾に歯を食い縛りながら汗を垂らす。

ベジータ「ヒットめ……更に強くなっていやがる。フリーザでは相手にならんかもし

れんな」

フリーザ「おのれ・・私に楯突くとは・・」

ヒット「本気になったらどうだ？」

フリーザ「言われなくても・・」

やってやるぞ!!

ロウ「おいおい！何やってんだ!!ベジータを落とせ！」

シドラ「あのヒットとやら最初から組むつもりなどなかったかもしれない」

ロウ「そんなバカな!!残り人数的に第7宇宙は即刻潰すべきだろ！」

シドラ「そうなのだが・・」

フリーザはゴールデン化しヒットにデスビームを乱射する。

が、ことごとく時飛ばしでかわされ当たる気配すら感じない。

背後を狙ってきたパンチを尻尾で守るも乗じて放った透明の気弾が胸部を突き抜けていった。

肉体そのものに穴は空いてはいないが内部にダメージを与える透明の気弾。

例えゴールデン化してもそれは防げないが単純な耐久力は上がっており通常の状態よりもダメージは少ない

フリーザ「ぐっ・・・」

ヒット「お前を狙ったのは2つ訳がある」

フリーザ「2つだと・・・？何なんだその訳は・・・」

ヒット「わざわざ敵にそれは教えん。黙って脱落しろ」

フリーザ「俺が脱落だと？お前は許さないよ。本来ならじわじわといたぶりたかったがすぐにでも落としてやるぞ!!」

ヒット「・・・」

痛みがあるはずなのにそれ以上に怒りで戦うフリーザ。

だが、ヒットから見れば乱れた精神と怒り任せで戦っている愚者にしか感じ取れず思わず鼻で笑ってしまう。

フリーザ「何がおかしい？」

ヒット「・・・吠えるのだけは宇宙一かもしれないな」

フリーザ「もう許さんぞ!!!キエーツ!!!」

挑発に乗ったフリーザがヒットに猛突進するもヒットの身体が通り抜ける。

背後にいると予測し尻尾で攻撃したが空を切る。

そして、前を向くと目の前に立つヒットがいた。

フリーザ「な、何故だ!?!気はあるのに何故当たらない!」

次々と放たれる透明の気弾。

フリーザは半ばやけになりあちこちにデスビームを放つもヒットの平行ワールド

ドは通り抜ける。

透明の気弾に耐えるも何十発も当てられ続けるとゴールデンの身体でも耐えられず膝が地に付く。

フリーザ「ハア、ハア・・隠れているな。俺がビームを乱射をした時に逃げていく気を感じた」

ヒット「・・気付いていたか。流星だな」

フリーザ「認めましたね。種が分かった以上貴様なんか恐れる事はない。ハアアア：！！」

フリーザは念力で視界にある武舞台の瓦礫や岩柱をどかし全て場外へと落とす。

左側に驚いた顔をしたヒットを見つけ怒りのこもった特大デスボールをヒット目掛けて放つ！

スパークを纏った黒い球状の巨大なエネルギー玉がヒットの腹部に直撃し大爆発し場外へと飛んでいく！！

シャンパ「ヒ、ヒットー!!!」

ロウ「よくやったぞフリーザ!!これで第6宇宙は二人だ!」

フリーザ「ほーっほっほ!!第6宇宙最強もこの程度ですか。笑わせてくれますよ!」
フリーザ「さて、ベジータをきちんと落とさないとけませんね。サイヤ人は何をし
でかすか分からないですからね。孫悟空はジレンを倒せる可能性が僅かながらあるの
で今は泳がせて・・・」

ズンツ!!

フリーザ「グオオ・・・」

ヒット「誰も信じないのではなかったのか?」

フリーザ「き、貴様あ・・・」

ヒット「1つ。お前を狙ったのは時間まで逃げられると判断した」

フリーザの背中に強烈な右拳が浴びせられダウン。

それでもヒットは続けざまに話す。

ヒット「2つ。お前に超ドラゴンボールは渡したくない。俺の宇宙にもお前と似た奴がいてそいつはお前と同じで・・・」

小物だ

フリーザ「こ、小物だと・・・!このフリーザに向かって。小物は・・・貴様だー!!!」

ゴールデン化が解けたフリーザは力を振り絞りデススライサーをヒットの首もと目掛けて放つがヒットは軽々と親指と人差し指で掴んでしまう。

そのデススライサーをフリーザに返す!

フリーザは過去この技で自らを切断したトラウマがあり逃げようとするが身体が動かない。

ゴールデン化から放った特大デスポールの影響で身体が言うことを聞かない。

フリーザ「やめろ・・・やめろー!!」

デススライサーはフリーザの右肩に本の少しかすり切断は免れた。

が、情けない醜態を晒してしまい逆上する!

ヒット「・・・これ以上戦士として恥を晒すな」

フリーザ「・・・戦士?宇宙の帝王のこのフリーザが一端の戦士だと・・・」

思うなああー!!!

地球を破壊した時の様に今度はフリーザがいる武舞台の回りを破壊しヒットを道連れに!!

ヒット「ミツシヨンコンプリート」

当然ヒットには通用せず時飛ばしで移動しフリーザのみが武舞台から落ちていった……。

大神官「第9宇宙フリーザさん。脱落です」

フリーザ「あいつは……」

カリフラ「いいぞヒットー!!」

キャベ「ヒットさーん!!」

ヒット「……」

殺し屋として生きた中で応援される等初めてでヒットは何も語らないが内心は期待に応えるべく仕事を続ける。

第6宇宙を勝利へと導く為に・・。

俺に殺されるべきなんだー!!!!

ロウ「バカ!!やめろフリーザー!!!」

全王「ダメー!!」

キュツ!!

フリーザが攻撃しようとした途端に消滅。

フリーザのみが消えロウとシドラ、第9宇宙の戦士全員が恐怖で顔が引きつり先輩を消されたフロストも驚きの顔を隠せない。

全王「次やったら第9宇宙消滅させちゃうよ」

未来全王「させちゃうよ」

フロスト「フ、フリーザ先輩が・・・」

ロウ「すすすすみませんでしたー!!!!」

シドラ「もも、申し訳ございません全王様!!!!」

ロウとシドラが何回も頭を下げ謝罪する。

その姿をバカにするかの様にニタニタとするモヒイト。

コニツク「無責任ですね」

キテラ「どうしたコニツク？」

クル「コニツク様？」

コニツク「いえ、何も……。さて、始めましたね」

キテラ「そうだな！キキキキ!!」

クル「一体何が・・・ん?・・・あ、あつ・・・あれは!!」

第9宇宙はこれでベルガモとソレルのみになってしまった。

ロウは頭を抱え消滅が近付き身体を震わせ怯える。

悟空「なっ・・・何だ!?感じたことのねえ気だ!!」

キシヤシヤー
!!!!!!

ベルガモ「ぐう・・・し、信じられん。あのチビが・・・」

バジル「兄者、無理しないでくれ!」

ラベンダ「あのチビって・・・武舞台に残ってる奴でチビってまさか!」

悟空「な、何だあの四角い集まりは?」

カラフルな無数のキューブが悟空の前に1つになり一人の戦士が現れる!!

水色を基調としたスマートな人間大のボディに長い二本角と尻尾を生やした悪魔の
ような姿。

悟空を見や否やニタリとしながら立ち尽くす。

悟空も瞬時に感じたことのない気がこの戦士から放たれているのが分かった。

??? 「キシヤシヤシヤ!!!!」

悟空 「ヒットやジレンとは全くちげえけど・・・こいつはやべえぞ・・・!!」

突如現れた謎の戦士。悟空は果たしてどうなるのか!?

ベルモッド 「あいつも気にはなるが今はヒットを落とさねばならん」
マルカリータ 「既にジレンが動いてですます」

カイ「ジレンもヒットを危険と見なした様ですね」

ベルモッド「危険というよりかはさっさと落とさないと逃げられるかもしれん」

第9宇宙はフリーザが消滅。いよいよ、消滅が近づく。そして、悟空は？ベジータは？ヒットは？激しいバトルが予想される力の大会。

終了まで残り12分！

続く

第6宇宙最強の誇り 殺し屋ヒツトの本領!! 前半

悟空「おめえ……どこの宇宙の戦士なんだ……」

??? 「ツアー……」

ねつとりと言い返すが悟空には全く分からない。

困惑した悟空に第9宇宙の観覧席からバジルが呼び掛ける。

バジル「孫悟空! そいつは第4宇宙の青いチビだ!!」

悟空「青いチビ……?」

17号「まさか、あの物心すらついていなさそうな奴が変身したのか!？」

18号「そーいやいたね。第4宇宙に小さな戦士が……」

ビルス「あれが第4宇宙の切り札なのか……」

シン「気味が悪い気ですね・・・身体のうちこちに別々の気が混じっていると云えばいいのでしょうか・・・」

老界王神「身震いがするわい・・・あの者からは邪悪な物しか感じ取れん」

ウイス「これは推測ですが・・・人間の魂を体内に取り込み我が物としているのかもしれない。ただ邪悪でただ凶悪・・・」

キテラ「そうさ。シャンツアの本性は善意のある人間の魂はもちろん、悪意や邪悪な心を持つ強い人間の魂をも取り込みそれを糧にする！こいつのせいで1000年程前、第4宇宙は破滅の危機に陥ったからな」

クル「恐ろしい・・・生き残るとはいえあの邪神を復活させるなんて・・・」

キテラ「それでもあの頃と比べれば遥かに弱いけどな・・・」

ラベンダ「お前に頼むなど死ぬほど嫌だが・・・兄者の仇を取ってくれ」

ベルガモ「ラベンダ、勝手な事を・・・ぐっ！」

バジル「無理に身体を動かさないでくれ兄者!!」

悟空「何だかよくわかんねえけどやるならやつぞ!!」

シャンツア「キシヤシャー!!!」

何とシャンツアは突然異空間に入りあつという間に悟空の横に現れる!

驚き動く事すら出来なかった悟空だがシャンツアは悟空を無視し岩柱にひっそり隠れていたソレルを見つけ追い掛けていく。

ソレル「やだやだやだやだー!!来ないでえー!!」

シャンツア「ゲシヤシヤシャー!!」

悟空「第3宇宙の奴もこんな能力使ってたなあ・・・」

悟空はまたしても一人になる。そろそろ戦いに入りたいと思うもほとんどの戦士がそれぞれのバトルに集中していた。

そんな時、悟空の脳からピッコロのテレパシーが響き渡る。

ピッコロ（孫！悟飯の助けに入るんだ！第11宇宙の奴にかなり追い込まれている！！）

悟空「悟飯がか!? よーし、悟飯・・悟飯の気は・・見つけた!」

ピシユン

バジル「兄者・・本当に大丈夫なのか・・?」

ベルガモ「死なない程度に痛めつけられた・・。ぐつ、あいつを見つげ落とそうとした時だ・・・」

――――

ベルガモ「覚悟しやがれ・・・！」

シャンツア「シャンツア・・・ツア・・・」

ベルガモ「やはり本体は大した事がないな。楽しんで勝とうだなんて思うなよ」

シャンツア「シャン・・・ツア・・・」

怒りのこもった一撃でシャンツアは無抵抗のままベルガモに落とされるかに思われた。

しかし・・・！

コニツク「解放の時です」

キテラ「目覚めろ・・・！お前こそが第4宇宙最強にして最悪の戦士・・・」

ベルガモ「これで終わりだ!!」

シャンツア「・・・!!」

ウキヤー!!!

ベルガモ「な、何だ!?あ、あちい!!」

コニツク「体内で蠢く邪念が遂にシャンツア君の本来の身体を精製させたのです」
コニツク「それは途方もなく邪悪。そして、途方もなく凶悪」

クル「シャンツアが変身を・・・?」

キテラ「クル。お前知ってるだろ?あの姿をな」

クル「・・・あ、あつ・・・あの姿は・・・!」

ドロドロと溶ける小さな身体。そのドロドロは熱くベルガモはシャンツアを手離してしまふ。そして、両足のリングが溶けた身体に侵食される。

すると、ドロドロとした物が形になっていくのだ・・・。

ベルガモ「な、何が起こっている？」

クル「いけませんキテラ様！あの者は殺意しか持っていないのでは!!？」

キテラ「ここまで残っている戦士は殺す気で攻撃してもそうそう死なねえさ」

コニツク「けれどもシャンツア君の身体は完全とは言えません」

キテラ「だからあいつ等と呼んだのだろ？」

コニツク「ご名答ですキテラ様。シャンツア君はあの時よりも更に強くなれます。この力の大会だからこそ可能な強化を・・・」

クル「それでも、やはり強い：強すぎる：今までの小さな姿とは掛け離れている・・・」

シャンツア「キシヤー!!!」

ベルガモ「ぐああああ!!」

変身したシャンツアの鋭利な両爪がベルガモの身体を傷付ける。

ベルガモはダメージを受け強化されるがそれすら全く受け付けないシャンツア。

反撃に出たいベルガモだがキシヤシャシャと奇声を上げながらシャンツアはベルガモを追い込んだ。

ベルガモ「ウルフガングペネトレーター!!!」

シャンツア「キシヤハハ!!!」

右手をベルガモに向けて軽くフワリと上げると何とベルガモの身体が少し宙に浮かび更に身動きが取れなくなる。

ウルフガングペネトレーターも虚しく身体を無数のキューブ状の形に変えて分裂しかわすとニヤリと歯を剥き出しにし邪悪な笑みを浮かべる。

すると、シャンツアの背後には異空間から無数の剣の形をしたエネルギー弾が飛ばされベルガモの身体を刻む!!

ベルガモ「やめろおお!!ぐうあああ!!!」

シャンツァ「ツァー・・・？」

耳を傾け聞こえないふりをする。正に邪悪な心を表している。

散々痛め付けた後、ベルガモを最後は口からエネルギー波を出し脱落させた。

キテラ「キキキキ・・・第9宇宙はフリーザもいなくなった。もう終わりだな」

コニツク「ここから楽しくなりますよ・・・」

—————

ベルガモ「あいつの強さは底が知れん・・・」

ロウ「ベルガモ！何やってんだ!!」

ベルガモ「ロウ様、申し訳ございません・・・」

ロウ「ふざけるな！フリーザもいなくなった今、私達の宇宙はソレルだけなのだぞ！」

シドラ「界王神ロウよ。ベルガモを責めるのはやめるのだ」

ロウ「消滅が近付いてきているのだ！落ち着いていられるか！」

シドラ「・・・覚悟は決めている」

ロウ「私は決めてなどおらん！」

ロウとシドラの口論を呆れながら見つめるモヒイト。

人間レベルが低い神々だと呆れているがこのモヒイトの姿にコニツクは不快感を露にしていた。

コニツク「コロン君の様な積極的に意見を出す方なら第9宇宙も変わったかもしれませんね」

クル「・・・対の宇宙も容赦なく消滅させるおつもりですか？」

キテラ「そんな事言ってる場合か？お前達も生き残りたいのだから？」

ガノス「もちろんですキテラ様」

マジヨラ「生き残りたい・・あまり力になれなかつたけれども」

キヤウエイ「消滅なんて嫌よ！ねえモンナ、ダーコリ」

モンナ「当たり前じゃないの」

ダーコリ「生き残れるのならもちろん生き残りたいです。暗い中で生きた私にもこう

して仲間も出来たし・・・」

ニンク「シヤンツア頑張れ」

シヨウサ「シヤンツアとあの二人ならきつと・・」

キテラ「そう思うのが普通だ。情を出すな。非情になれ」

クル「は、はあ・・・」

シヤンツアの本来の姿が現れ他宇宙は騒然とする中、第6宇宙と第11宇宙ではそれすら気にもならない程の大きな戦いが始まるうとしていた。

ヒット「んっ!？」

ズドツ!!

フリーザを脱落させ、その瞬間の隙を狙うが簡単に防がれる。

ヒット「・・・らしくない攻撃だな」

ジレン「お前を早く落とす為だ」

ヒット「俺には通用せん」

またも始まるヒットVSジレン。

しかし、今のヒットは潜在能力を上げ強くなっている。

「が、ジレンにとってヒットを倒すのは容易で時間まで逃げられる可能性がある」と厄介な為、倒しにかかるのだった。

シャンパ「ジレンの方から仕掛けやがったか! まずいかもな・・・」

ヴァドス「ジレンさんですら警戒しているという意味合いとも取れるでしょう。それ程までに今のヒットさんの強さはジレンさんにとっても脅威なのかもしれません」

シャンパ「こうなったら仕方ねえ。ヒット！やってしまえ!!第6宇宙最強の力をあいつに見せてやれ！」

ベルモッド「シャンパは賭けに出た様だが・・ジレンに勝つのは不可能だ」

カイ「逃げた方がまだ生き残れる希望があつたでしょうに」

ベルモッド「まあ、そう言っただけでやるな。あれも武道家としての生き様なのだろうさ。無駄なあがきとはいえない」

ビルス「ヒットがまたジレンと戦う様だな」

ウイス「第6宇宙にとって本当の意味で宇宙を賭けた戦いでしょう。この戦いでヒットさんが負けた場合第6宇宙は実質武舞台には戦士がいなくなるのですから」

シャンパ「おい第7宇宙！ピッコロは死ぬ気で守れよ!!あいつが落ちたらヒットしかないなくなるからな」

ビルス「勝手な奴め・・」

ウイス「ピッコロさんは第7宇宙はもちろん第6宇宙にとつても脱落してはならない存在。しかし・・・」

シン「もしヒットさんが残りピッコロさんが残れば第6宇宙は3人残り、第7宇宙は残り人数がピッコロさんと一人ならば負けてしまいます・・・」

ビルス「それくらいあいつは分かっているはずだ。それでも1戦士として全力を持って戦うだけだよ」

ビルス「そして第11宇宙の一番手と二番手は今、第6宇宙に何としても勝利すべく戦っているだろうし僕としてもナメック星人の力を見せてほしいね」

トツポ「ジレン自ら立ち向かうとは・・・」

ピッコロ「第6宇宙のナメック星人達の心情を教えてやろう」

トツポ「・・・言ってみるがいい」

ピッコロ「お前達第11宇宙に勝つ、と覚悟を決めている」

トツポ「戦士としては立派な決断だ。だが、私達も負ける訳には行かんのだ!!」

悟飯「と、父さん・・・」

デイスポ「孫悟空か」

悟空「悟飯、よく戦ったな。こつからはオウが相手だ!!」

デイスポ「上等だ！第7宇宙で一番のお前を倒せば第7宇宙は崩壊するだろうからな」

悟空「ヒットと戦ったおめえの力見せてもらおうぞ！」

デイスポ「悪の根源め！正義の名の元叩き落としてくれる!!悪・即・斬だ!!」

悟空「おめえらそれ合言葉なのか？」

ヒットはまたもパラレルワールドを駆使しジレンの1つ1つの威力と精度が高い攻撃を回避する。

前に戦った時と同じワンパターンな立ち回りにジレンは苛立ちを募らせていた。

ジレン 「下らん事をするな」

ヒット 「俺はお前を信用している」

ジレン 「殺し屋の信用等いらん」

ヒット 「なら勝手に信用させてもらう。俺はお前を・・・」

全力で殺しにかかる

ジレン 「ムッ!？」

第2ラウンド！ヒットVSジレン!!

第6宇宙最強の誇り 殺し屋ヒットの本領!! 後半

早速ヒットはジレンの前から姿を消す。

その直後、ジレンの前面に何百発もの透明の気弾が飛んできた！

気弾を動かさず気だけで防ぐジレンだが背後から気配を感じ拳を振るった。

そこにはパラレルワールドのヒットがおり拳が当たった瞬間、パラレルワールドのヒットがガラスの様に割れて消えたと同時に無数の透明の気弾がジレンの身体のあちこちに当たる！

ジレン「小賢しい技を・・・」

しかしながら余り効いておらず岩柱や瓦礫だらけの武舞台に一人立ち尽くす。

ヒットはジレンを落とすには真つ向勝負では不可能だと判断。

先程の戦いで一時的だが時の牢獄で止められた事が分かりこれを利用する他ないと

慎重に立ち回る。

ヒット（奴を武舞台から落とす・・・シビアな仕事だ）

パラレルワールドの自身を前後左右4つ出しジレンに攻撃を仕掛けるも凄まじい速度で拳を振るい瞬時に倒すもこれもガラスの様に割れ透明の気弾が無数に今度は4角度から飛び交う。

瞬時に両腕を豪快に左右に振り上げると全角度から飛ぶ透明の気弾が全て消えてしまった。

飛び抜けたパワーに眼を大きく見開き慌てめくシャンパ。

第6宇宙の観覧席にいる戦士達もジレンの桁外れなパワーに愕然としていた。

キャベ「・・・次元が違いすぎる」

カリフラ「ケール。お前よくあんな奴に立ち向かったな」

ケール「あの時はまだ力を制御できていなかったから勝手に立ち向かっただけで・・・」

ジレン「無駄だ」

右腕に赤々と輝くエネルギー弾を東側の岩柱の1つに向けて放ちぶつけると岩柱が爆発。

ヒットはそこに潜んでいたが爆発の衝撃に吹っ飛ばされていく！

パラレルワールドを作る前にジレンに掴まり腹部にボディーブローを受けてしまう。

ヒット「ぐっ・・・」

ジレン「逃がさんぞ」

ベルモッド「こそこそ隠れて攻撃を繰り返してもジレンには無意味だ」

カイ「人間レベルが低い宇宙の戦士らしい攻撃ですよ」

シャンパ「うるせえ！ヒットには策があんだよ策があ!!」

フワ「お前さんには分かるのか？」

「シャンパー・・・と、とにかくあるはずだ！闇雲に突っ掛かる程ヒットはバカじゃねえ!!」

ヴァドス「確かに・・・ジレンさんの激しい両拳の一撃も先程とは違いいなししています」

ウイス「攻撃を受けたのも何かあるかもしれませんがね」

ビルス「時飛ばしは力に差があれば効かないんじゃないのかなかったのか？」

ウイス「本来なら効かないのですが時の牢獄で封じた様に時飛ばしを集中して掛ける事によってある程度動きを封じる事は出来ますよ」

ウイス「ヒットさんの狙いは前の戦いと同じくジレンさんの動きを封じ更にそこから武舞台を壊して脱落に持ち込むのかもしれないですね」

ビルス「それと同じ様に目力で止められそうだがな・・・」

ヒット（力勝負では勝機はない。奴を倒すには技を使い武舞台から落とす他ない）

ジレン「小手先の技など俺には効かん」

ヒット「グアアアアア!!!」

エネルギー弾がヒットの胸部に直撃し吹っ飛んでいく。

脱落はせずとも大きくダメージを受けてしまう。

だが・・・。

ヒット（これでいい。少しでも時間を稼ぐ事が勝利に繋がる）

ジレン「・・・」

ジレンは吹っ飛んだヒットを捜す。

おそらくすぐにヒットを捜し当て落とすに掛かるだろう。

ヒットはジレンを落とすべく次の段階に入る。

ヒット「ここだな・・・」

ドンツ!!

場外に近めの武舞台の端に拳をぶつけ亀裂を作る。

そして、無の界の暗闇の空に無数の透明の気弾を放ちジレンが来るのを待つ。
透明の気弾は空を飛び交うがそれが目視できるのはヒットのみ。

ヒット（後1つで全段階が終わる。・・・第6宇宙の全てを賭ける）

ヒットは右手をポケットに入れている。

覚悟を決めたその強い眼力に第6宇宙の観覧席の全員が黙って見守る。

ヒットが立つ場所は第6宇宙の観覧席が一番近い場所。

シャンパは声を掛けない。そのせいで仕事をしくじるかもしれないという思いが

あったがそれ以上に第6宇宙最強であり誇りであるヒットの仕事を黙ってこの目で見届けたいからである。

シャンパが黙って観戦する姿にビルスも第6宇宙の心情を察していた。

ビルス「あいつ、いつになく真剣だな」

ウイス「ヒットさんも覚悟を決めています。次のヒットさんの反撃が最後の一撃になるでしょう」

ウイス「その先にあるのは第6宇宙の希望か絶望か・・・はたまた第11宇宙の希望か絶望か・・・」

シン「次元が違うもの同士の戦い・・・私には付いていきません」

老界王神「何だかゾトとするの・・・あのヒットの気配は」

老界王神が恐れるのも無理はない。

ヒットはただならぬ殺気を周囲に放っている。

入れば殺す……。

普通の人間ならばそこに近付くだけでシヨックで死ぬ程の凄まじい殺気。ヒットが殺気を辺り一面に放つ事は基本行わない。殺し屋の仕事上、誰かに悟られてはならないから。

——殺せば失格。だが、ジレンなら死にはしないだろう。

奇妙な信頼が殺し屋ヒットとしての全力を發揮できる。

ジレン「己の限界を知れ、殺し屋」

ジレンが場外から近い場所に立つヒットを見つけ地を一度蹴っただけであつという間に近寄られる!

デイスポの時の様にパラレルワールドを駆使しての場外に落とす策は通用しない。飛んでくる拳の乱舞にたちまち追い込まれ場外が近付く。

ジレン「その隠している右手の攻撃では落とせんぞ」

ヒット「……」

殺気を簡単に消し去り強大なパワーが込められた拳の衝撃が戦士の胸部を貫いた!!
パワーを込めたには込めたが最低限威力は抑えていたはず。
ジレンの顔には驚きの表情が出る。

ジレン「!?」

バシイ
!!!!

ヒット「くっ……!」

ジレン「残像を作って落として掛かったか」

亀仙人「残像拳と似た技じやの・・・」

クリリン「それでもジレンに簡単に防がれるなんて・・・」

ビルス「パラレルワールドばかり見せていたのもこの一撃に賭けていたのだろうけど
こうもあつさり防がれるとはね」

ジレン「その拳は届かない。これで終わりだ」

ヒット「・・・!!」

ギンツ
!!!!

ジレン「ん!?!」

カイ「ジレンの動きが止まった!？」
ベルモッド「まずいか!？」

ヒットがジレンの首もとにガンを飛ばすと首もとが小さくへこみジレンを時の牢獄に縛り付ける。

前の時の牢獄よりも更に短い時間しか止められないが突然動きが止まった事により驚くジレンのその表情を見る前に右足で強く地を踏みつけ自らが割った武舞台の地を碎きジレンを落とすに掛かった!

僅かな時間の中、ヒットはジレンのほんの僅かな隙を付いたのだ。

ヒット「終わるのはお前だ」

更に無の界の空に無数に放っていた透明の気弾が1つになり巨大なエネルギー波の様
様にジレンに襲い掛かる!

ジレンにわざと透明の気弾を見せ付け無駄だと分からせあえて無数に放つことで無

意味な攻撃と思わせる為でもあったのだ。

ジレン（下らん）

ジレンは目力で今度は透明の気弾の塊を掻き消そうとしたがヒットが左足に気を溜め地を踏み込んだ。

自ら亀裂を作った武舞台の端が今度はガラガラと音を立てながら壊れジレンの足下には立つ場所が無くなった!!

カイ「ジレンが!!!」

ベルモット「ジレン!!」

ジレン（・・・それで勝ったつもりか）

ハアアアア
!!!!!!

一瞬で時の牢獄を解き更には固めた透明の気弾をも気だけで掻き消す。
ジレンの身体には赤黒い熱気が纏われている。

崩れる武舞台の瓦礫を踏み台に脱落は免れる。
が、地に足を踏み入れた瞬間にヒットが気を込めた右拳を浴びせる！

ヒット「・・・くっ」

ジレン「俺を一瞬本気にさせたのは褒めてやる。第6宇宙の殺し屋ヒットよ」

ジレンの身体には赤黒い熱気はなくヒットの拳を軽く掴まれ腹部に膝蹴りをぶち込
む！

持てる力を使ったヒットだが後一步ジレンに及ばなかった。。。

ジレン「お前の動きを止める能力が万全な状態で使われていたら脱落していたかもしれん」

ヒット「カハツ・・・」

ジレン「一度俺と戦ったダメージの反動はどうやっても隠しきれん」

ジレンはヒットを後にする。

ヒットの後ろは足場がない場外。

にも関わらずヒットに何もせず立ち去っていく。

ヒット「ぐっ・・・俺はまだ・・・」

ビシッ
!!!!

ヒット「!?」

ジレン「この程度の攻撃に反応できんお前にどの道勝機はない」

ウオアアアアア
!!!!

シャンパ「ヒ、ヒットーーー
!!!!」

大神官「第6宇宙ヒットさん。脱落です」

ヒットの脱落到第6宇宙の戦士達はショックを受ける。

そして、ヒットが脱落した事により第6宇宙には武舞台で直接戦える戦士がいなくなってしまう。

キャベ「ヒ、ヒットさんが・・・」

カリフラ「あの野郎何しやがったんだ!？」

ヴァドス「ヒットさんの脱落はジレンさんの攻撃ではありません」

ケール「なら誰がヒットさんを・・・」

ヴァドス「おそらくは・・・」

キテラ（アニラーザの件は感謝するぜヒット。お礼に苦しまず楽に落としてやったぜ・・・）

コニツク「ジレン君は気付いてますね」

キテラ「気付いててもバカ力のジレンじゃ手は出せねえ。殺せば失格だからな」

コニツク「力加減なら出来る気もしますけどね・・・」

おい第4宇宙
!!!!!!

シャンパ「お前のとこの戦士か!? ヒットを落としやがったのは!!」
フワ「フーワー!! 汚い手をく!!」

キテラ「キキキキ・・・」

シャンパ「笑ってんじやねえチビ鼠が!!」

ヒット「やめろ破壊神・・・」

シャンパ「ヒ、ヒット・・・」

ヒット「脱落したのは俺が気付けなかったただけだ・・・試合開始から第4宇宙が何かしているのは薄々勘づいていた」

キャベ「何かしている・・・?」

ヴァドス「特殊な力を持つ戦士が多い第4宇宙。ここぞと言う時に何かしてくるとは思いましたが・・・今まさにここぞと言う時なのかもしれません」

シャンパ「・・・ヒット、ご苦労だったな。ジレンをあそこまで追い詰めたのはお前くらいだ。第6宇宙の誇りだけはお前は」

キャベ「お疲れ様ですヒットさん」

カリフラ「お前が負けちまったら私達でも勝てねえもんな」

ケール「試合序盤に助けてくださりありがとうございます」

Dr. ロタ「私もだよヒット君。君には感謝してるよ」

ボタモ「最後まで凄かったぜ」

マゲツタ「シユポ!!!」

フロスト「・・・まあ、お疲れ様とは言っておいてあげますよ」

ヒット「・・・諦めるには早いぞ」

シャンパ「そうだな。希望がある限りは諦めねえ」

シャンパ「おいピッコロー!!サオネル、ピリナの力を借りてんだぞ!落ちやがったら許さねえんだからな!!」

ピッコロ「俺が脱落したら第6宇宙は消滅か・・・」

トッポ「ジャステイスフラツシユ!!」

ピッコロ「・・・俺は全力で戦うまでだ」

ピットの脱落で第6宇宙がピンチに陥る中、それ以上に消滅の危機に瀕している宇宙があった。

第9宇宙の残りはソレルのみ。逃げる事に関しては第9宇宙でも最高の戦士だが相手が悪すぎる。

空間を自由に行き来するシャンツアの前に遊ばれているのであった。

シャンツア「キシヤシャシャー!!!」

ソレル「何で何もないとこから出てくるの〜!!」

バジル「粘れソレルー!!」

ホップ「あんたが落ちたら終わりなんだよ!!」

ソレル「やだやだー!!」

逃げるソレルとそれを嘲笑するかの様に空間移動でソレルの前に現れるシャンツア。
絶望が近づく第9宇宙・・・。

ロウ「だ、第4宇宙よ。私達は対の宇宙同士ではないか。仲良くやるんじやなかったのか!？」

キテラ「裏切りの第9宇宙とも呼ばれるお前達などと誰が仲良くするか! キーツキキキ!」

キテラ「シャンツア、もう落とせ! 俺は飽き飽きした」

シャンツア「キシヤハ！」

ソレル「やだやだやだやだー!!! って・・・」

シャンツア「ツア!?!」

シャンツアが攻撃を仕掛けようとする前にソレルが武舞台から落ちていった。どうやらヒットが壊した武舞台の場所にて足を踏み外てしまった様だ。

大神官「第9宇宙ソレルさん。脱落です」

ロウ「そ、そんな・・・」

シドラ「全滅・・・」

ソレル「ごめんなさいーい！」

ベルガモ「ここまでか・・・」

大神官「第9宇宙全戦士脱落。これにより第9宇宙・・・」

消滅でございます!!

全王・未来全王「はーい!!」

ロウ「消える・・・私が・・・」

バジル「申し訳ありませんでした・・・」

ラベンダ「自分達の力不足で・・・」

ベルガモ「ロウ様、シドラ様。我々の力不足をお許しく下さい」

シドラ「もうよいのだ。フリーザもお前達もよく戦ってくれた。ここまで戦えたのはお前達の力と知能があったからだ」

ロウ「おいモヒイト」

モヒイト「……………」

ロウ「……………すまなかつたな。こんなバカな神々で」

モヒイト「……………」

全王・未来全王「キュツ!!」

第9宇宙消滅。悟空はベルガモ達が消滅したのが分かるも気を抜かず戦いに挑む。

第9宇宙の付き人モヒイトは前に消滅して寂しい表情をしていた第3宇宙の付き人カンパーリとは対称的にニタリと嫌な笑みを浮かべていた。

モヒイト「情けない宇宙でも結構長生きできて良かったですね」

ビルス「嫌な奴だな。あの付き人」

ウイス「……長い間変えられない荒れ果てた宇宙で長くいましたからね。苦労してい

たのでしょう」

クル「対の宇宙である第9宇宙が消滅とは・・・」

コニツク「呆れますよモヒイト」

モヒイト「・・・何が言いたいのですか？」

コニツク「さあ・・・」

モヒイト「・・・」チツ

キテラ「おいおい。消えた宇宙の関係者なんざほつとけほつとけ。俺達は生き延びるのだからな！」

コニツク「はいキテラ様」

シャンパ「けっ！生き延びるのは俺達だからな！」

キテラ「おいシャンパ。さつきちび鼠って言ったな？」

シャンパ「何だよ。事実だろーが」

キテラ「次のターゲットは決めたぜ・・・！」

シャンツア「キシャー・・・」

デイスポ「くっ!!」

悟空「おめえの攻撃確かにはえーけどよ。直線的で読みやすいぞ」

デイスポ「黙れ!!」

悟空は超サイヤ人ゴツドでデイスポを圧倒する。

デイスポに苦戦した悟飯は改めて父孫悟空の強さを知る。

それでも、悟飯は父とは違う究極の力を目指す。

悟飯（父さんには父さんの、ベジータさんにはベジータさんの強さがある。僕にゴツドは出来なくてもこの力を更に強化できる術があるはず・・・!）

デイスポ「グアツ!!」

悟空「よーし!これでしめーだ!!」

右足で蹴飛ばしたデイスポに一気に突っ込み落とそうと右手に気を強く溜めたパンチで攻撃しようとした時、何者かが突如悟空の前に現れ悟空のパンチを余裕で止めた! デイスポは現れた戦士にニヤリとし地を滑りつつも脱落を防ぐ。

ジレン「お前は弱い方を落とせ」

デイスポ「助かったぜジレン。孫悟空は任せた!」

悟空「・・・へへっ。ヒットとの激しいたたけえでも全く疲れてねえんだな」

ジレン「無駄口を叩く時間などないぞ」

悟飯「父さん!!はっ!?!」

ズガッ
!!!!

悟飯「ぐっ・・・あ・・・」

悟飯の腹部に光速の膝蹴りが直撃！

激痛のあまりししゃがみこんでしまう。

デイスポが苦しむ悟飯の前に立ち歩み寄る。

デイスポ「弱いものいじめは好きじゃないけどな。悪く思うなよ！」

悟飯「うああああ!!!」

首を掴まれズリズリと地に引き摺られる。

悟空は心配するもジレン相手にその様な感情を出す暇すらないと戦いに集中する。

悟空「第2ラウンドはじめっぞ・・・！」

ジレン「フン・・・」

ゴクウブラック「お前の様な醜い人間が何故私と同じ超サイヤ人の姿に変身する？」
セル「簡単な話だ。私の細胞にはサイヤ人である孫悟空やベジータの細胞がある。それだけではない。私には・・・」

バシユ!!

ゴクウブラック「おっとすまない・・・あまりにも隙だらけだったのでな」

セルの右腕が切断され地に落ちる。

セルの苦しむ表情を楽しげに見ているゴクウブラック。

セル「き、貴様ア・・・!!なんちゃって」

ピッ!!

ゴクウブラック「ぐっ!!」

切断された右手人差し指からデスビームが放たれゴクウブラックの首もとに直撃！
貫通はせずとも思わぬ攻撃をもろに受け今度はゴクウブラックが苦悶の表情を浮かべる。

もちろんセルは痛がるふりをしただけで右腕は再生する。

セル「随分と頭が弱い神様がいたものだ」

セル「それとも・・・わざと受けたのかな？私を笑わせる為に」

ゴクウブラック「相手を考えて言葉を選ぶのだ・・・人間風情が!!」

ゴクウブラックは怒りで超サイヤ人口ゼで本気でセルを倒しにかかる!!
今まで体力を消費せずに倒すつもりでいたがセルの神に対する無礼な発言と態度に
ついに怒りを抑えられなくなったのだ!

だが、セルはそれを待っていたと言わんばかりに超サイヤ人口ゼに挑む。

セル「これが神の領域という奴か。私にもその領域に踏み込めるか・・力を見せる時
が来たな」

ゴクウブラック「懺悔は聞かぬぞ・・人間!!」

セルが力を見せる時が来たとは・・?そして、デイスポに追い込まれる悟飯の運命は
いかに!?

力の大会終了まで残り10分30秒!

続く

神の領域への挑戦！全細胞の潜在能力覚醒！！ 前半

超サイヤ人口ゼになりセルに斬りかかるゴクウブラック。

右手の気の刃に警戒しつつ右手からエネルギー弾を放つが簡単に切断され切断したと同時にセルの首もとに鋭い蹴りが直撃！

超サイヤ人口ゼとなったゴクウブラックの攻撃の一つ一つの威力が大幅に上がりスピードも段違いに早くなっていた。

セル「ぐうう・・・！」

ゴクウブラック「神の領域をもつこの俺に相手するなど愚者のやる事と変わらんぞ・・・」

セル「これが噂に聞く神の気という奴か・・・。フツ、思ったより強い攻撃ではないな」
ゴクウブラック「・・・俺が最大の裁きを与えてやる。喜べよ、人間」

セル（・・・私のあの力を使うにはもう一度瀕死からの復活が必要だ。先の戦いを踏まえればこいつ一人を倒すだけでは生き残れん。今あれを使うと私のエネルギーがすぐ

に尽きるだろう)

全王「黒い悟空悪カッコいいね」

未来全王「ワルワルだねー」

ラムーシ「ふむ、あやつにも切り札があるのじゃが使わずにすみそうじゃ」

ゴワス「あれは奥の手ですから。それにしても・・・」

ラムーシ「どうしたのじゃ？」

ゴワス「ブラックを・・・ザマスに超ドラゴンボールの願い事を好きにさせて良かったのかと」

ラムーシ「良くも悪くもそうせんと破壊するしかなかった」

クス「けど、かなり危険だったよねー。第12宇宙から・・・」

ラムーシ「これクス！」

ゴワス「これはタブー中のタブー。それよりも・・・ザマスは大人しくしているのか？」

クス「ちよっと待ってね・・・」

クスが杖の先端の水晶を覗くと第10宇宙の界王神界が映る。そこにはお茶を飲みながら不機嫌な顔で椅子に座る者が。

それはゴクウブラックと共に連れてこられた不死身の肉体を得たザマスだ！

クス「ウフフ。大人しくてますよ」

ゴワス「仮に私達が勝ったとしても平穩の日々にはならなさそうで・・・」

ラムーシ「お前が呼ぶと決意したのじゃ。その後は知らんわ」

ゴワス「し、知らんとは!?!私がいなくなるとラムーシ様もいなくなってしまうのですぞ！」

ラムーシ「ブラックはともかく不死身のザマスは破壊してしまうと手が付けられなくなるのかもしれないのじゃろ？」

ゴワス「破壊とは違うかもしれませんがある一人の戦士がザマスを撃破した時に宇宙に邪念の魂のみをもったザマスが宇宙そのものを作り替えようと暴走しましてな・・・」

ラムーシ「破壊が危険ならばまた神tubeで対策を考えんといけんわい」

クス「倒すのではなく封印とか？」

ラムーシ「ふむ、それも一策じゃ」

ビルス「おい第10宇宙！あいつをどうやって連れてきた？」

ラムーシ「ふん。勝手にザマスを破壊したお前に等教えるものか」

ビルス「破壊しなければお前は消滅していたのだぞ？僕に対してその様な態度をよくとれるねラムーシ」

ラムーシ「ふん。感謝等絶対せぬわ。寝てばかりの怠け者破壊神が」

ビルス「お前も破壊神だからとチャホヤされて楽しんでるだろ！」

ウイス「はいはいストップですよ」

クス「ラムーシ様が怒ると武舞台の戦士達にも迷惑がかかっちゃうからメ、だよ！」

シン「けれども気になります。ゴワス様も口を閉じていて教えてくれなさそうです

し」

ビルス「生き残る為には手段を選ばないだけなんだろうけどね。気持ちは分かるけどどこでタイムマシンを・・・」

2つの宇宙の話聞きニヤリとする第12宇宙の破壊神ジーン。
同じく第12宇宙の界王神アグは不安な表情でジーンに話し掛ける。

アグ「本当に良かったのでしょいかジーン様。あのゴクウブラックは別の世界では私達界王神を皆殺しにしたとんでもない者で・・・」

ジーン「構わん。俺の予想だが消滅を免れる為に手段を選ばず俺達の宇宙のタイムマシンの設計を天使を使わせ複製させたのかもしれない第10宇宙は。本来なら許されず消滅すべき宇宙ではある」

アグ「それは確かに・・・」

ジーン「だがなアグ。こうも考えるべきではないか？消滅を免れる為に俺達の宇宙に頼ったとな」

アグ「・・・その発想なら第1宇宙よりも我々第12宇宙の方が優れているという意味合いとも取れますな」

ジーン「しかし、どこでタイムマシンを知った・・・。マティーン、お前まさか口を滑らせたとかではないだろうな？」

マティーン「オホホホ。必死に第10宇宙を消滅させたくないって懇願していたから助けたくってね」

ジーン「はあ・・・やはりか。お前は甘すぎる」

第12宇宙にもタイムマシンを開発してしまった者がいた。

現在は第12宇宙の神々の元に置かれているがどうやらマティーンが必死に助けを求めろクスを放っておけずタイムマシンは渡さずともその設計を杖で造り上げてしまったのだ。

大神官はもちろん全てを知っている。それでも第10宇宙を許したのは消滅から生き延びる為の決死の行動に敬意を表したのであった。

ラムーシ「しかし、あの世界のこれから先はどうなるのか・・・」

ゴワス「ブラックとザマスが現れた時には孫悟空やベジータはセルゲームとやらで敗北し死んだらしいと……。それでも何とか地球に平和を取り戻したという事で。そして、時が経ち地球及びザマス達に襲い掛かってきた魔導師バビディとその部下ダーブラが地球にやってきたと……」

ラムーシ「ブラックとザマスがバビディとダーブラを撃破し人間0計画を再開しようとした時にわしらが現れた、という事じゃな」

ゴワス「……うーむ。ならザマスとブラックはどの世界からやって来たのか。一向に教えてくれなくてな」

ゴワス達が第10宇宙の全科学者達を結集させ短時間で造り上げたタイムマシン。設計もクスが教え足りない物もクスが杖で造り上げたのだ。

クス「色々ややこしいけど……細かい事はいいんじゃないかなって」

ラムーシ「そうじゃの。ブラックに勝ってもらえない。お前達も応援せんか！」

ムリチム「は、はいラムーシ様!!」

ゴワス（ザマスよ．．．必ず勝つのだぞ）

ゴワスは目を閉じながら優勝品が超ドラゴンボールと分かり妖しく笑む二人の姿を思い出していた。

どんな理由があれこの第10宇宙を消滅から免れる為にはゴクウブラックの力が必要だった．．．。

ゴワス（不埒者なのは分かってはいる．．．それでも第10宇宙を生きる者を守る為には．．．）

ラムーシもまたゴクウブラックを連れてきた経緯を思い出していた．．．。

—————

——とある第7宇宙の未来。

この世界はトランクス不在のままセルゲームが行われ悟空達が殺され怒りで超サイヤ人2に目覚めた少年時代の悟飯がセルと激しいかめはめ波のぶつかり合いの末、悟飯は勝った。

が、その直後に慣れない超サイヤ人2で限界の限界を越えたエネルギーを使い果たし力尽きてしまった。

仙豆があれば助かっただろうがセルを撃破した直後に力尽きてしまったので間に合わなかったのだ。

この世界でのセルとの戦いは悟空達との死闘とは全く異なる決着であった。

自爆形態になる直前に悟飯の一撃で木っ端微塵になったがそれで再生しパワーアップを果たす。

更にこの直前、倒したと思いい込んだ悟飯に復活したセルが不意にビームを放ち（本来ならトランクスを殺したビーム）悟飯の腕に直撃し片腕が使えない様になってしまう。

パーフェクトセルと悟飯のかめはめ波のぶつかり合いはピッコロ達の決死の補助、そして一番重要なベジータの不意の一撃がない。

それでも、負けられない運命の分かれ目。

気を集めて運命を飛ばした一撃をセルに放ち自身の限界を越えセルを撃破と同時に力尽きたのであった。

——時が経ちバビディとダーブラを止めるべくシンが立ち向かったが一方的に翻られ命からがら撤退しようとした所をダーブラの唾により石化しそれを碎かれて死亡してしまう。

つまり、この世界には破壊神ビルスがない。

そして、ザマス達が地球にやって来た時に偶然にも魔人ブウ復活の為に宇宙を転々としていたバビディとダーブラが強力なエネルギーを地球から感じやって来たのだった。

ザマス「この世界はどうやら孫悟空やベジータはいないそうだ」

ゴクウブラック「ある人間に聞くと孫悟空等他戦士達は死に弁当売りの少年とやらが相打ちに持ち込んだらしい」

ザマス「あの変な人間か・・確かMr. サタンとか言っていたな」

ゴクウブラック「私を見るや否やゾンビだとか言つて逃げたな。あまりにも愚かな人間だった。殺す気も失せた」

ザマス「無理もない。お前は姿が孫悟空そのものなのだ。孫悟空が生き返ったと思ひ込んだのだろう」

ゴクウブラック「人間に希望の光と思われる等嘆かわしい。襲い掛かってきたあの愚かな人間共も始末したのだ。次は地球の人間を皆殺しにするぞザマスよ」

ザマス「もちろんだザマス。人間0計画を開始しようではないか・・！」

バビディもダーブラもザマスとゴクウブラックにあっけなく瞬殺されてしまった。
た。

これにより魔人ブウが現れる事もなくなる。

そして、人間0計画が始まる直前にラムーシ達がタイムマシンでやって来た。

ゴワス「東からザマスの気を感じる。クスよ」
クス「はいゴワス様！」

ゴクウブラック「美しき自然を汚す人間には神の裁きを与えるぞ・・」
ザマス「正しき神の元、人間はみな、天へと続く道に誘おう」

ゴクウブラックとザマスが手から気弾を放とうとした！

はーいストップ!!

ゴクウブラック「!?」

やめておけ。ザマスよ

ザマス「な、何故だ。何故いるのだ・・・！」

破壊神ラムーシ!!

ラムーシ「界王神見習いにしては態度がでかくなったの。破壊神に呼び捨てとは」
ゴワス「ザマスよ。お前は平和なこの地球をまた恐怖へと・・・」

ゴクウブラック「大人しく第10宇宙で仕事を放棄してれば良かったものを・・・」
ザマス「くっ・・・ラムーシ様。第7宇宙に御用でもあったのでございましょうか？」

ラムーシ「第7宇宙に用などないわ」

クス「用があるのはあなたにですよー」

ゴクウブラック「俺にだど？」

ラムーシ「全王様が力の大会を開くとの事だな」

ゴワス「各宇宙に強者が揃う大会でな。無謀かもしれぬが中身はザマスとはいえその肉体は孫悟空なゴクウブラックならもしかすると出場でき・・・」

ゴクウブラック「死ねえゴワス!!」

ラムーシ「愚か者めが!!!」

瞬間移動でゴワスの背に回りエネルギーの刃が刺さる寸前をラムーシが刃を素手で

掴んで止めゴクウブラックの腹部に右ボディブローを浴びせる。

破壊神の強烈な一撃に流石のゴクウブラックも耐えれず苦悶の表情を浮かべ地に膝がつく。

ゴクウブラックを一撃で沈めたラムーシにザマスの額には冷や汗が流れる。

ザマス「も、もしもですがそれを断るとなれば・・・」

ラムーシ「分かるじやろ？ 出場しないのなら破壊じや」

ザマス「くう・・・」

ラムーシ「ポタラで合体しても勝ち目などないぞ。不死身の身体でも破壊に耐えられるのか・・・試してみるか？」

ザマス「何故私の身体の事まで!？」

ゴラス「私は別世界のお前達の最期を見届けたのだ。全王様が1つの宇宙を消滅させるという最も恐るべき行動に移りお前達もろとも関係のない生命まで消滅してしまつた・・・」

ザマス「全王様が動くほどに・・・」

ラムーシ「人間0計画は諦めるのじゃな。全王様には何をやっても勝てはせん」

ザマス「で、でたらめだ!消滅させるなど・・・」

ラムーシ「力の大会には参加しなければ・・・」

ザマス「私は消滅等しない!絶対に・・・絶対に・・・」

ラムーシ「ええい!!面倒じやの」

クス「ちよつ、ラムーシ様!!」

バオオオオオオ
!!!!

全宇宙一の音量を持つとされるラムーシの雄叫びは聴いた者の運動神経を一時的に麻痺させてしまう。界王神だと気絶してしまい破壊神でも立っていられるのがやつとな程だ。

雄叫びを上げる直前にクスがゴワスと外側にバリアーを張り地球に影響は及ばずゴ

ワスも気絶はしなかったがまともに雄叫びを受けたザマスとゴクウブラックは気絶してしまった。

ラムーシ「大会までには目が覚めるじやろう。界王神界に戻るぞ」

ゴワス「は、はあ・・何と強引な」

クス「やるならやると言つてよね！」プンプン

ラムーシは気絶した二人を担ぎタイムマシンに。

ぎりぎり5人を乗席したタイムマシンで元の時代に戻り第10宇宙へと戻るのであった。

神の領域への挑戦!全細胞の潜在能力覚醒!! 後半

——こ、ここは・・

ラムーシ「気が付いたか」

ゴクウブラック「ラムーシ・・!」

ラムーシ「様をつけぬか」

ゴクウブラック「ザマスはどこだ?」

ラムーシ「あいつはまだ目が覚めておらん。ゴワスとクスが見ておる。お前の方が肉体も精神も孫悟空の物があるから早く目が覚めたのじやろう」

ゴクウブラック「・・何故、私の力が必要なのだ?神々の戯れなどにそこまで全力を尽くさねばいけない理由があるのか?」

ラムーシ「大人しく従え・・と言いたいがお前みたいなダメな奴でも訳を聞かせない

のは理不尽じゃからの」

ゴクウブラック「ダメな奴だと・・！」

ラムーシ「全王様を楽しませなければならんのと力の大会で負ければこの第10宇宙は消滅じゃ」

ゴクウブラック「消滅？ 私はこの第10宇宙の者ではない。ましてや無理矢理連れられて消滅させられるかもしれないなど・・あまりにも馬鹿げている」

ラムーシ「ゴワスはお前達等本当は呼びたくないと思っておったわ。じゃがな、第10宇宙を救うにはどうしてもお前の力が必要なのじゃ」

ラムーシ「既に大会人数規定の10人は集まっておる。頼りになるわしの集めたメンバーでもゴワスは厳しい戦いになるとせがんでな。そこで、ザマスが無理なら孫悟空を気に入っている全王様なら孫悟空そのものの姿をしたお前なら出場を許可するかもしれないと呼んだのじゃ」

ゴクウブラック「誰が出場すると言った？」

ラムーシ「優勝賞品は超ドラゴンボールじゃ」

ゴクウブラック「す、超ドラゴンボールだと!？」

ラムーシ「ふん。急に興味を示しだしおったか」

ゴクウブラック「クククク・それを早く言えよ」

ゴワス「ラムーシ様。ザマスが目覚めましたぞ」

ラムーシ「なぬ!?早いな」

ザマスも力の大会と超ドラゴンボールの事を聞き自分のすべき事をゴワスに伝えられた。

最初こそ嫌悪感があったが神として最低限のルールは守れとラムーシに半ば強引に抑えられ仕方なく了承する。

ラムーシ「さて・・クスよ」

クス「・・分かりました」

クス「大神官様!ある戦士の事でお話があります」

天に話し掛けるクスとそれを見守るゴワス、ラムーシと第10宇宙の戦士達とザマス達。

天から男性の声が響き渡り、大神官の声と分かりゴワス達に緊張の色が走る。

大神官「お話とは何でございましょうかクスさん」

クス「力の大会の出場者についてなのですが・・・」

大神官「ゴクウブラックさんを参加させたいとの事ですね」

ラムーシ「は、はい！無理を承知なのは分かっております・・・」

大神官「肉体は人間ではありませんがその中身は界王であるザマスさんなので出場は無理なのですが・・・」

ラムーシ「ですが・・・？」

大神官「姿が姿です。孫悟空さんを気に入っている全王様ならもしかすると出場を許可してくれるのではないかと思われているのではと」

ゴワス「は、はい・・・わがままで申し訳ありませんが全王様にこのゴクウブラックを見てもらいたいです」

大神官「・・・そうですね」

ふぁーよく寝たね

うん、おはようだね

大神官「丁度目を覚ました様ですね。お聞きしてみましよう」
ラムーシ「あ、ありがとうございます」

大神官「全王様。目を覚ましたばかりで申し訳ありませんが第10宇宙の一人の戦士を見てほしいのですが」

全王「戦士？」

未来全王「どんな人？」

大神官「少しお待ちください」

大神官は何もない空間に指をパチン鳴らすと大きなビジョンが表れる。

そこに映し出されていたのはラムーシ達第10宇宙の面々であった。

全王「あれ？悟空？」

未来全王「悟空だね」

ラムーシ「ぜ、全王様！」

全王様の声が聞こえ頭を深々と下げるラムーシ達。

こればかりはゴクウブラックも頭を下げざるを得なかった。

中身はザマスなので神々の事については知識があり全王の存在とその恐ろしさも知っている。

全王「服装違うけど悟空だよね？」

ゴクウブラック「そ、そうです・・・」

大神官「肉体は孫悟空さんではありませんが中身は界王であるザマスさんです」

未来全王「そうなんだ。でも、悟空の姿だね」

全王「悟空が二人って面白いのね」

ラムーシ「そ、そうであります。全王様がお喜びになると思いこのゴクウブラックを連れてまいりました」

全王「ゴクウブラックって言うのね」

未来全王「悟空がもう一人出場なのは楽しそうなのね」

大神官「しかし、中身は界王でありますが・・・」

全王「見たいよね」

未来全王「うん、見たいよね」

大神官「了解いたしました。ゴクウブラックさんの力の大会出場を認めます」

ゴワス「ありがとうございます全王様!大神官様!」

ラムーシ「この第10宇宙必ずや全王様が楽しめる力の大会にしてみせます」

大神官「ただし界王神としての能力と神具の使用は禁止とさせていただきます」

ラムーシ「・・・ブラックよ。分かったな」

ゴクウブラック「・・・仕方がない」

大神官「期待していますよ」

大神官達との会話を終えゴクウブラックの変わりにジルコルは抜かれる事に。

ジルコルもゴクウブラックのただならぬ雰囲気自身よりも遥かに強い存在と分かり第10宇宙を託す事に。

ジルコル「頼みました」

ゴクウブラック「人間が私に触ろうとするな」

握手を拒否し腕を組み力の大会の開催まで静かに待つ。

そんなゴクウブラックに話し掛けられるのは一人しかいない。怪しく二人が話す姿にゴワスは良からぬ事を会話していると分かってはいたが止められなかった。

ザマス「超ドラゴンボールの願い事はどうするのだ・・・？お前は不死身に興味はないのだろうか？」

ゴクウブラック「フフフフ・・・どんな願いも受け入れる超ドラゴンボール。ならばやるべき事は1つ」

ゴクウブラック「人間の肉体はいずれ歳を老う。人間は不便だ。この肉体を維持するべく俺は永遠の若さを手に入れる」

ザマス「なるほど。それは素晴らしい願い事だ」

ゴクウブラック「本当は全王と大神官の消滅を願いたいがあの二人を前に願うのは危険であり出来るかは分からないからな」

ザマス「それはリスクがありすぎる。そして、私達の計画において最大の壁だ。：こればかりは壊せる壁とは思えない」

ゴクウブラック「今はいいだろう。俺のやるべき事は俺達が消滅されん様大会を終え永遠の若さを手に入れるまで」

ザマス「期待しているぞ相棒」

ラムーシ「ザマスよ」

ザマス「はい」

ラムーシ「わしらがいぬ間は界王神界を任せるぞ」

ザマス「分かりましたラムーシ様」

ザマス（お前達がない間、第10宇宙の人間を始末してやるぞ）

クス「ちやーんと大会に行っても監視してるからね」

ザマス「なっ!？」

クス「悪い事をしたら帰ってきた時にラムーシ様からのめっちゃくちやに痛い鼻ペシが待ってるからね♪」

ザマス「：ご心配なく。大人しくしていますよ。それに、弱小共の集まりでもブラックがいれば問題なく勝てるはずですから」

ザマス（例え不死身でもその様な気持ちが悪い攻撃は受けたくない）

ナパパ「俺達が弱小だと!？」

ザマスの発言に睨みを効かせる第10宇宙のメンバーだがザマスもただ不死身なだ

けではなく戦闘能力は高い。

ナパパがザマスに手を出そうとしたがオブニがそれを止める。

オブニ「やめるのだナパパ。こんな所で力を使う場合ではない」

ナパパ「・・・ちっ」

オブニ「ゴクウブラックとやらよ。私達は神 tube に投稿されている第6宇宙VS第7宇宙の破壊神選抜格闘試合を視聴しおそらくはこの中で出場するであろう戦士達をチェックするが・・・」

ゴクウブラック「そんな物を見なくとも俺は勝つ」

ゴワス「第7宇宙には孫悟空やベジータの試合もあるがそれでも視ないのか？」

ゴクウブラック「何故見なければならん？あの様な人間等気にもしていない」

ゴワス「その肉体が孫悟空の物なら何か新しい力を見つけられそうだと思わないか？」

ゴクウブラック「新しい力だと・・・？」

ラムーシ「これもチームプレイの一環じゃ！見ないと破壊する」

ゴクウブラック「またそれか・・・」

ラムーシ「ザマスは全員分のお茶を作るのじゃ」
 ザマス「・・・は、はあ」

—————

第10宇宙残り一人。

その戦士は本来なら出場は不可ではあるが絶対なる王が気に入り出場が許可される。
 黒き神は第10宇宙がどうなろうと気にもしていない。ただ1つの願いの為に勝利
 を掴む。

自愛

憎悪

絶対

自らを気高いと評しその力で人間を葬り、存在が悪であり失敗である人間という動く
 汚物を憎み処理し、絶対なる神の元自らがルールとなり世界を作り替え人間を死滅させ

る。

人間は悪、人間は罪、人間は死。

殺害が禁止である力の大会に苛立ちが募っていたが敗けた宇宙は消滅。

それならば問題ないと戦いを楽しむ。

ロゼの力がセルを確実に追い込んでいく。

ゴクウブラック「美しく気高くそして、神の領域を持つこの力に人間が敵うはずがない。神へ祈りを捧げる。そうすれば少しは神に対する尊意とみなし楽に脱落させてやろう」

セル「神に祈りなどという俗な行為はしない。貴様みたいな奴が神ならば誰でも神になれるだろうな」

ゴクウブラック「・・・やはり人間は消すべき存在だ」

セル「貴様は今の私が全力だと思っているがそれは大きな思い違いだ」

セル「その超サイヤ人が神の領域とならば私にとつても好都合だ。まずはお試しに私の鍛え抜いた力の1つを見せてやろう」

ゴクウブラック「どうせ勝ち目などない。同じ事の繰り返した。哀れな・惨めな・そして、浅はかな人間よ」

セル「ハアアアア・・・!!!」

セルの体内の細胞が蠢く。細胞の1つ1つが身体を突き破りそうな勢いで暴れ回る。暴れ回る細胞を声を張り上げ力尽くで止めると細胞が静まる。

姿は変わってはいないが細胞を回る血液の流れが暴走しておりセル自身も負担が大きいのかゴクウブラックに獣の様な鋭い眼光を飛ばす。

セル「私を持っている細胞の潜在能力を一時的だが覚醒させる。メリットばかりではないがな」

ゴクウブラック「力だけでは俺には勝てん」

セル「力だけか。貴様も浅はかだな。ぐっ・抑えきるのは困難だ」

ゴクウブラック「その細胞の1つ1つを刻み付け血だらけにしてやるぞ!!」

セル「この力はな・俺自身も暴走し凶暴さが増す!!ブルアアア!!!」

超サイヤ人第2段階で筋肉を肥大化させゴクウブラックの刃が通らないまま右肩にめり込む。

セルは口から怪光線を放ちゴクウブラックを狙うも右手で受け流す。が、セルは放った後に瞬間移動しゴクウブラックの背中に蹴りが直撃!

手を緩めない暴走するセルの攻撃に怒るゴクウブラックは刃を引き抜き鎌を作り上げセルの胴体を切り裂く!

ゴクウブラック「所詮この程度・・・」

ズドン
!!!!

ゴクウブラック「ぐあつ・・・」

セル「そいつが本体とは限らないだろ?」

蹴りを入れた瞬間に四身の拳で分裂し1つの分身が魔閃光を放ちゴクウブラックの

背中に当てる！

暴走はするも知性は失われておらず力と知能を駆使したセルのバトルスタイルにゴクウブラックは不敵に笑いながら鎌を振る構えを取った。

ゴクウブラック「知らぬぞ・・・！神への反抗は・・・」

セル「似たような言葉の返しでつまらんど神様よ」

ゴクウブラック「・・・!!」

怒りのまま紫の気の鎌が振られると空間を切り裂き裂け目を生じさせる。

気の鎌で生じた裂け目から溢れ出すピンク色の煙。

それが形になり自身の分身となる！

ベジータ「ちいつ・・・厄介なものをまた出しやがって」

全王「悪い悟空がいっぱいだね」

未来全王「全部で5人だね」

分身は煙になる事で打撃攻撃を無力化し、煙の流出を止めない限り増えるばかりだ。

セルは攻撃を仕掛けるも当然、無力化され分身ゴクウブラックにズタズタに切り裂かれこちらも分身の一体が消されてしまう。

ゴクウブラック「俺の怒りが更に力を増す・・・止められんぞ人間」

セル「何だこれは・・・。倒す術がないというのか!？」

ベジータ「セル!!ブラックをあのを裂け目から離せ!奴が離れば裂け目は消える!!」
セル「裂け目から奴を離すだど?どういう原理かは知らんがあので分身を相手していはキリがない。ここは・・・」

瞬間移動も裂け目の影響で出来ない。ならばとセルはもう一度四身の拳で分裂し更に四身で高速移動し数十体がいる様に見せ掛ける。

四身の拳と多重残像拳を混ぜた超分身技だ!

気を探れる物には効果が薄い残像拳ではあるが40体はいるであろうセルの分身。分かっていても数の暴力には流石のゴクウブラックも少し汗が滲み出る。

ゴクウブラック「所詮は何の変哲もない人間の分身。絶対に倒す事が出来ない俺の分身には精度も力も遥かに劣る！」

セル「狙いは奴一人だ」

40体の分身がゴクウブラックに襲い掛かる！

その内の10体ほどはゴクウブラックの分身により切り裂かれエネルギー弾をぶつけられ消えてしまう。

それでも残った30体ほどの分身がゴクウブラックに一斉攻撃を仕掛ける！

ゴクウブラック「無駄だと言うのが分からないか？低俗な人間よ!!」

30体ほどのセルの分身を鎌の一振りで自身の分身ごと切り裂いた!!

セルの分身は消えるも自身の分身は煙になりまた表れる。

無駄な足掻きと鼻で笑うゴクウブラック。

だが、小さな一体がゴクウブラックの前に立ちはだかる・・・。

セルJr.「ウキヤキヤー!!」

ゴクウブラック「何だこいつは!?!」

飛び掛かってきたセルJr.を刃で切り裂くと大爆発を起こし視界が悪くなりゴクウブラックも吹き飛ばされるのを防ぐべく両手で守りの体勢に。

黒煙に包まれてしまいゴクウブラックの分身の1体を切り裂きデススライサーがゴクウブラック本体を狙う!

ゴクウブラック「煙の中から狙うか・・・人間らしい狡い攻撃だ」

デススライサーは鎌を切り裂き更にゴクウブラックの首を狙う!

どうやらこのデススライサーはかなりエネルギーを込められており切れ味もあれば並のエネルギー弾を放つてもそれすら切り裂いてしまう程の耐久性があった。

ゴクウブラックは全身にデススライサーを破壊すべく徹底的にエネルギー弾を放

つ様指示し自身はそれを操っているであろうセルを捜す事に。

ゴクウブラック本体を追尾するデススライサーだったが全分身の攻撃もあつて簡単に破壊されてしまった。

気を感じたゴクウブラックは右側の岩柱にエネルギーを控え目にしたブラックかめはめ波を放ち岩柱ごと破壊し戦士が攻撃を受け痛声を上げる。

その声がセルだと分かるもまた分身かもしれないと警戒し周囲を見回す。

ブラックー!!!

ゴクウブラック「ベジータ!?!」

不意のベジータのエネルギー弾をかわしたその瞬間だった!

ビルス「今だ行けえ!!!」

セル「ぐっ・波ーっ!!!」

痛声を上げたセルは本物だった!エネルギーの控え目にしたブラックかめはめ波を地に足をめり込ませ吹き飛ばされないよう耐えかめはめ波を溜めていたセル。

気を感じさせたのも自身がいると分かせベジータの不意の一撃に気付かせない為でもあった。

ポロポロになりつつもかめはめ波を放ちゴクウブラックにそれが直撃する!!

ゴクウブラック「に、人間がああ・!!」

セル「さらば第10宇宙」

ベジータ「所詮貴様の身体は借り物だ」

ゴクウブラック（俺が脱落する・?ならぬ。神が人間より下に立ち見下ろされるなど・!!）

ゴワス「ザ、ザマス!!!」

ラムーシ「あやつは怒りを力にする。まだ落ちはせんじやろう」

ゴワス「切り札を使うのかザマスよ!?!」

ゴクウブラック「神は絶対だ・・!!その神を侮辱し反逆を犯す。人間は宇宙の罪：人間は神が作り上げた失敗!」

セル「・・ギリギリ耐えているか。ふん、更に力を入れてやる。今度こそ消えろ!第一0宇宙!」

ゴクウブラック「消えるべきはお前達人間だ・・。前菜共に俺の更なる力を見せてやるぞ!」

分身を消しゴクウブラックが大声で気合いの声を張り上げかめはめ波を抑える。

右足を前に出しかめはめ波に何と突っ込んでいく!!

超サイヤ人ロゼのゴクウブラックにはロゼ特有の禍々しい赤紫のオーラともう一つ深紅のオーラが・・。

ベジータ「か、界王拳だど!?!」

ゴクウブラック「フハハハハ!!」

セル「バ、バカな!!」

かめはめ波を突っ込みながら消しセルの右顔面に界王拳のスピードも付けた強烈な拳の一撃がぶちこまれる!

セルは吹っ飛ばされ更にラツシュを受ける!

セル「グアアアアアア!!」

ゴクウブラック「これが神だ・・分かったか。哀れなる細胞まみれの人間よ」

ダメージを大きく受け弱々しくなったセルの頭部を掴み投げ飛ばそうとした時、1つの気弾がゴクウブラックの背中を狙うが片手で軽く弾き飛ばされる。

ヒットとフリーザ、そしてケフラとの戦いでダメージを受けているものの超サイヤ人ブルーのベジータがゴクウブラックとのバトルに。

片手から離されたセルが地に横たわりゴクウブラックを睨む。

ベジータ「フン・・・ようやく手応えのある相手になった様だな」

ゴクウブラック「俺にとってお前は手応えがない相手だ。前菜よ」

セル「くっ・・・貴様は必ず俺が・・・!!」

ピシユン

セルJr.「キキツ!」

セルは瞬間移動で万が一の為にゴクウブラックから離れた場所にセルJr.を置き
気を察知し瞬間移動が出来る様になっていたのだ。

ゴクウブラックはセルを脱落させるのを後にしダメージを受けているベジータを落
としにかかるのであった。

セル「まだもう一段階強化する必要がある。強化した後は必ず奴を・・・!」

セルJr.「ウキヤキヤキヤ」

しかし、セルもこのままでは終わりにはしない。ゴクウブラックを自身の手で必ず倒

すと誓うのであった。

究極の更なる究極へ：地球人とサイヤ人の血をもつ男孫
悟飯！

ビルス「ブラックめ・・・まさか悟空のあの技を覚えていたとは」

シン「どこで界王拳を知ったのでしょうか？確かに悟空さんの肉体を持っているなら使うのは可能だと思いますが存在を知らなければ使えないはずです」

ウイス「破壊神選抜格闘試合からでしょうね」

老界王神「神tubeで第7宇宙と第6宇宙の戦士の特徴等は見れるからの」

ビルス「あの時よりも更に悟空達は強くなっている。データだけでは計れないよ」

ウイス「確かに強くはなっているでしょう。けれど悟空さんの技を使われたのは痛い
ですね」

クリリン「ベジータ・・・大丈夫かな？」

老界王神「界王拳の倍率によつてはケフラよりも強力なパワーとスピードで追い込む
かもしれないのう」

ウイス「確かにそうではありませんがその力に過信しすぎると・・・」

うわああああ!!!

ビルス「む、息子お!!」

第7宇宙の観覧席の近い武舞台の端でデイスポの一方的な攻撃で脱落しそうになる悟飯。

苦しそうに息を上げるも耐えて場外から離れデイスポに立ち向かう。

デイスポ「ここまでやられてなお立ち向かうか」

悟飯「負けれないんだ・・・いつも通り地球に・・・第7宇宙の毎日を守る為に・・・」

デイスポ「それは俺達も同じなんだよ。今日を生きる第1宇宙の人々が安心できる様に勝つて戻らなければならねえ」

デイスポ「こうしてる内に第1宇宙では俺達に助けを求める人々がいるかもしれない。研修生達では敵わない相手が現れているかもしれない!そんな時に俺達がいなければ

ば誰が第1宇宙を守るといなのだ!!」

デイスポの攻撃が激しさを増す! ジャステイスキックを悟飯のみぞおちに浴びせそこから両手から繰り出される光速のパンチの連打に押されていく。

悟飯はただただガードをするしかない。シールドを張る暇すら与えないデイスポの光速の攻撃。

場外には落ちない様うまく立ち回れてはいるがこのままでは体力が切れていつ脱落してもおかしくない。

デイスポ「ジャステイスクラッシュユ!」

両手から放たれるエネルギー弾が爆発しそれを防ぐも両腕からビリビリと痺れる感覚が迸り腕が動かない。

蓄積された痛みとジャステイスクラッシュの衝撃で悟飯の両腕の感覚がどんどんなくなっていく。

耐える悟飯だがデイスポには既に悟飯が限界に近づいているのが分かっていた。

デイスポ「分かるぜ・・お前はもうろくに戦う事が出来ないってな」

悟飯「ま、まだだ・・まだ僕は・・!」

デイスポ「ジャステイスフラッシュユ!」

悟飯「ハアツ!!」

シールドを張るが弱った悟飯の気ではジャステイスフラッシュユすら防げずシールドが破られまともにジャステイスフラッシュユを受けてしまう。

追撃に光速の膝蹴りが腹部に直撃し吐血しながら吹っ飛びダウン。

ビルス「む、息子・・」

クリリン「あのデイスポって奴の攻撃が全く見えねえ・・」

天津飯「動作の1つ1つに隙が見当たらない。悟空は攻撃が直線的と言っていたがそれでもあの速さを攻略するには並大抵ではない」

老界王神「潜在能力を解放してやったのに負けるんでないぞ!」

シン「ご、ご先祖様・・悟飯さんはもう限界です。よく戦ってくれましたよ」

老界王神「馬鹿者!!あいつが一番分かっているはずじゃ!まだ自分は戦えると」

老界王神が潜在能力を解放したと聞きなるほどと視線を悟飯に向けるジーン。その眼は厳しいが何処か期待している様にも見える。

アグ「ジーン様。孫悟飯はもう限界なのでは？」

ジーン「限界・・・か。それを越えられればまだ勝機はあるだろうな」

ジーン「だが、孫悟飯はその前に相手に恐れている。あの感情をまずは祓わなければ限界を越える事はもちろん勝機はまずない」

アグ「この大会中にその限界を越えるのは厳しいのでは・・・？」

ジーン「アグよ。俺の求める究極の強さとは単純なパワーアップではない。種族としての限界を越えた最大のパワーだ」

ジーン「確かに孫悟飯の潜在能力は限界を越え解放されたのだろう。が、まだそれは完璧な物ではない。あいつも戦いの最中経験したことがあるかもしれん。遥か格上相手でも自身の限界を越えダメージを与えた事が」

ジーン「恐怖よりも怒りが上回り予想だにしない力を発揮するだろ人というのは。それは潜在能力を解放しただけでは得られん。何故ならばそれは秘められる力・・・いわば

感性から得られる物だからだ」

アグ「は、はあ・・・」

デイスポ「しぶといんだよ!!」

ズグオ
!!!!

悟飯「が・・・あつ・・・」

立ち上がる悟飯は何度もデイスポの攻撃を受け意識が飛びそうになるも気力だけで耐える。

隣で戦う父さんとジレン。

激しい拳の撃ち合いの音が聞こえるピッコロさんとトツポ。

苦しみつつも立ち向かっているベジータさんとゴクウブラック。

セルも敗けたとはいえゴクウブラックに切り札を使わせたじゃないか。

悟飯（今の僕は・・・）

デイスポ「お前程度がよく俺と戦う気になったな。まあ、心配するなよ。俺を倒せない奴がトツポとジレン相手に何をやっても通用しないだろうからな」

悟飯（無力だ。情けない）

デイスポ「弱さはこの力の大会では罪だ。お前はこの生き残った戦士で一番弱い。あの緑の奴に引っ付いてれば足手まといにはなるがそれなりに生き残れただろうに！」

ズドツ!!

悟飯「があっ・・・」

18号「悟飯、あんたはよく戦ったよ！もう、無理するな!!」

17号「出来ないんだろうな。第7宇宙の消滅の

事はもちろんだがそれ以上に退いてはならない物がある」

デイスポ「元はといえばお前の親父がいけないんだぜ。力の大会の全参加宇宙の神々が全王様と話し合えばもしかすると解決できたかもしれない件だったのだからな」

デイスポ「バカな親父を持って災難だよお前は!!ハッハッハッハ!!」

悟飯「と、父さんを・・・」

バカにするな
!!!!

悟飯「ダリヤアー!!!」

デイスポ「バカにバカと言って何が悪い!!」

悟飯「グアツ!!・・・ぐっぐぐぐ・・・!!」

デイスポの連続の光速パンチをノーガードで耐え抜き反撃に出ようとしたが背後にジャステイスクラッシュが当たり爆発。

デイスポは光速パンチで攻撃するほんの一瞬移動し背後からジャステイスクラッシュを放っていたのだ。

破壊神ですらそうそう見えないデイスポの速さ。

恐るべきデイスポのスピードと予期せぬ攻撃に悟飯の意識は朦朧とする。

デイスポ「消滅したくないから必死に戦うのも当然といえは当然。だが、それは俺達も同じだ」

デイスポ「怖いだろうよ。消滅する時の絶望の瞬間はな。仲間は、家族は、世界は……そう、全て消えちまう」

悟飯「ああつ……ぐうつ……」

デイスポ「けどな。しようがねえんだよ。俺達も第1宇宙を守る為に何がなんでも負けるわけにはいかなからな!!これで終いだ。サークルフラッシュュ!」

悟飯「つ、捕まる訳には……」

ビシツ!!

デイスポ「チツ!! 右腕は逃れたか」

小さなサークルフラッシュが2つ放たれ右腕は触れずに済んだが左腕にサークルが当たり束縛される。

サークルが悟飯の左腕をギュウギュウと締め付け骨にまで響く程の痛みだ!
その痛みから左腕ではまともに攻撃はおろか動かす事も出来ない。

デイスポ「このまま左腕を使い物に出来ない様にしてやろうか?」

悟飯「うわああああ!!!」

カイ「自ら脱落する事を進めます。あなたにとって死よりも苦しい目に会うかもしれ
ませんよ?」

悟飯「僕は・・・み、自ら脱落するつもりはない・・・」

カイ「どちらにせよあなたがいても今の状況では第7宇宙の中で何の戦力にもならな

いのでは？」

ビルス「勝手に決め付けるな！第一宇宙!!」

ベルモッド「事実だろ？まさか、プライド・トルーパーズの3精鋭にこの男が立ち向かえるとも？ビルス君」

ベルモッドとカイの嫌味つたらしい態度に両手に握り拳をつくり悟飯に負けるなど一喝するビルス。

だが、状況が状況。ベルモッドとカイの言う通り、悟飯がデイスポ以上に強いであろうトツポやジレンはもちろんゴクウブラックや変身したシャンツアに勝てる見込みはない。

いや、限りなく0に近い。何とかして助けに行きたいピッコロだがトツポがそれをさせてくれる訳もなく悟空もジレン相手に四苦八苦。

このまま左腕が使い物にならなくなってもいい。それでも戦う！
退かない悟飯にデイスポは挑発する。

デイスポ「サークルフラッシュは爆破も可能なんだよ。爆破したらどうなるか分かる

な?」ニツ

悟飯「……………」

デイスポ「左腕は吹っ飛ぶ!!ドカーンってな!!!痛いではすまされんぞ!」

悟飯「だから何なんだ……!」

デイスポ「こいつ……………」

悟飯の鋭い眼光がデイスポに向けられる。

イカれている奴と少し焦るデイスポだが宇宙を守るべく爆破させるつもりであった。

デイスポ「1つ聞く。お前には家族がいるか?」

悟飯「……………」

デイスポ「その反応はいるのだな。左腕が使い物にならなくなる瞬間を見なくて良かったな」

デイスポ「それに、この俺に触るのもやつとな姿を見れば失望するだろうしな」

悟飯「やつとなら触っているって事じゃないか・・・」

デイスポ「・・・あ、あつ？」ブチッ

カイ「デイスポ。正義は時に残酷だと思ひ知らせてやりなさい！」

デイスポ「分かりましたカイ様」

悟飯（・・・ビーデルさん、パン、サタンお義父さん、ブウ、ベエ・・・）

また弱虫に戻るのか悟飯!!

悟飯（ピッコロさん・・・）

テレパシーから話し掛けるピッコロ。トッポとの激しいバトルの中、弟子が諦めてい
る心の声が聞こえ喝を入れる。

更に観覧席からクリリン達が応援する!!

天津飯「悟飯。お前の底力を俺は知っている。このままいい様にやられる男ではないはずだ!」

亀仙人「わしらでは到底敵わん相手。じゃが、お前さんはまだ強くなれる可能性があるかも知れん」

18号「さつきはさ。無理するなって言っただけど・・・こいつに何もしないまま脱落だなんて許さないからな!むしろやつちまいな!」

17号「消滅の事は考えなくていい。第1宇宙で残っている奴の中で一番弱い奴の言葉を鵜呑みにするなよ」

クリリン「悟飯・・・乗り越えるんだ。恐怖を乗り越えるんだ!!!」

悟飯「み、皆・・・!!」

脳内に浮かぶビーデル達の笑顔・・・。

この笑顔を守らなければならない。いや、絶対に守る!

皆の笑顔をぶち破る様に脳内にはデイスポの悪魔の笑みが浮かぶ。

悟飯「お前は僕が・・・！」

デイスポ「フィニッシュ!!」

ボガーン
!!!!!!!

サークルフラッシュが爆破！これで終わったとニヤリとするデイスポ。

ジーンもニヤリしている。だが、デイスポとは全く違う理由で口を緩めていた!!

ジーン「まずは乗り越えたか」

アグ「な、何がですかジーン様!?!」

デイスポ「長話がすぎたが・・・これで終わりだな。煙が消えるとそこにいるのは痛み
のあまり動けないあいつの姿だ」

爆煙が薄れていきぼんやりと人影が見えてきた。

デイスポは悟飯と分かり光速のスピードで顔面を殴って脱落させようとした時だ!

パシツ
!!!!

デイスポ「なっ!?!」

殴ろうとした右拳が右手で抑えられる。爆煙が完全に消えると悟飯の身体の回りに
はうつすらと白いオーラがあり両手にはギザギザしたオーラが纏われていた!

亀仙人「恐怖を克服したようじゃ」

天津飯「あの力は・・・?」

クリリン「まさか悟飯も目覚めたのか!?!」

無我の境地に!!

無我の境地アルティメット悟飯

恐怖を克服し迷いがなくなった悟飯。

少年時代、ラディッツに体当たりを仕掛け大きなダメージを与え時間稼ぎでナメツク星でのフリーザ最終形態を殴り飛ばせたのも怒りが恐怖を越えた時の力の一つ。

あの時から悟飯は無我の境地に近い力を発揮していたのだ。

デイスポ「いつまで掴んでやがる！」

デイスポは無理矢理右手を離し悟飯から距離を取りジャスティスクラッシュを放つ。悟飯は無言のままジャスティスクラッシュを右手で抑え宙へと投げ飛ばしてしまつた。

デイスポ「なっ!?!」

カーセラル「冷静になれデイスポ! 奴は左腕を動かしていない。片手だけでしか戦えないのだぞ!!」

悟飯「違う」

悟飯が口を開く。少し低い声で微動たりともせずその気と心は静か。

左腕も普通に動かしているがあえて右手のみでデイスポの光速の攻撃を防いでいる。悟飯の威圧はジレンも振り向くほどであった。

ジレン「・・・!!」

悟空「ウオラァー!!」

ジレン「ふん」

キシヤー!!!

ドズツ
!!!!

ピッコロ「ドウオ!!!」

空間から突然現れたシャンツアがピッコロの腹部に頭突きをぶち込む!

シャンパ「あの野郎!!」

キテラ「消えてもらうぜ。第6宇宙!!」

シャンパ「ただの頭突きがピッコロに効くかよ!」

トツポ「・・・奴等で戦うか。好都合だ」

トツポはピッコロとシャンツアを後にしディスプレイを助けるべく離れた東側に向かう。

デイスポはヒット&アウェイの戦法で光速の攻撃を仕掛けてはすぐに距離を取りの繰り返しでの攻撃で慎重に立ち回る。

だが、悟飯はデイスポの攻撃を全て手に取る様に読んでいる。

静かな気と落ち着いたその姿……。恐怖等微塵もない。あるのは目の前の敵を倒す覚悟……！

デイスポ「な、何故だ……。有り得ん。有り得んぞ!!俺は認めねえぞお前の強さは見せ掛けだー!!」

悟飯「勝手に思えばいい」

デイスポ「グガッ……!!」

背後を狙ったデイスポの攻撃を読み右手で首を掴み地に叩き付ける！
形勢逆転されベルモッドが頭を抱える。

カイも驚きの表情を晒けてしまう。

ベルモッド「バカな！プライド・トルーパーズの精鋭のデイスポがあんな様な凡人に負

ける等あつてはならん!!」

カイ「人間レベルが低い宇宙のしかもただの凡才が何故急にデイスポと争える様に・・・」

マルカリータ「今の孫悟飯は神の気は持たなくとも神の領域に近い力を持っているですます」

ベジータ「バカ共が。悟飯の才能は俺やカカロットの様な純粋なサイヤ人を上回るかもしれない可能性を秘めている。修行を怠っていないければ今頃は俺達を越えていたかもしれないのだからな」

ゴクウブラック「神の前では無に等しい・・・お前達人間は」

セル「孫悟飯・・・貴様のその力。フツツ、殺しがいのある相手にはなった様だな」

ビルス「じいさん。あの力はクリリンも使っていた奴と同じなのか?」

亀仙人「ふむ・・・そうなのじゃが・・・」

クリリン「俺もあの力を得てからは手を抜いてくれてたとはいえ超サイヤ人ブルーの悟空のかめはめ波と張り合ったんです。もし悟飯が目覚めたのなら物凄い力ですよ!」

シン「まさか、まだ悟飯さんが強くなれる可能性があったなんて．．」
老界王神「当たり前じゃ！潜在能力を解放したからといってそれが全てではないわ
い」

その通りだ

シン・老界王神「!?」

ジーン「今の孫悟飯には迷いがなくなっている。第3宇宙消滅時に覚悟を決めてはいたがまだあの時は内心消滅を恐れていた。それが完全になくなり今は守る為に戦っている」

ジーン「きっかけ一つで人間はこうも変わる。恐怖を乗り越えそして今、あいつは決心したのだろう。他の宇宙を犠牲にしても第7宇宙を、あいつと関わる者全てを守ってみせるとな」

ビルス「やけに肩入れしてるね第12宇宙」

ジーン「勘違いするな。お前達が消滅しようがどうでもいい。だが、孫悟飯の力は俺が好む究極の力なだけだ」

ジーン「神の気など天使に鍛えてもらえればいつでも身に付けられる。孫悟飯の力はいわば潜在能力の解放から更に自力で身に付けた神の領域に匹敵する力、と言えればいいかもな。クククク・・・」

クリリン「それじゃ俺も神の領域に・・・？」

17号「それはないんじゃないか？」

クリリン「・・・だ、だよな。ハ、ハハハ・・・ハア・・・」

デイスポ「な、ナメヤがって。少なくとも俺から受けたダメージは残っているはずだ・・・」

悟飯「どうした。得意の光速攻撃はやめたのか？」

デイスポ（左腕を動かしていたが強がっているだけに違いはない。俺のサークルフラッシュを受けて効かないはずが・・・）

悟飯「爆破する瞬間外した」

デイスポ「・・・えっ!？」

悟飯「聞こえている。お前の心声もお前の心情も」

デイスポ「ふ、ふざけるな・・・！絶対に認めん。お前の力はただのまやかしなんだよ
!!」

怒るデイスポは光速を越え紫の不気味なオーラを身体に纏い超最光速の動きで悟飯を翻弄しようとする。

あまりの早さに神PADにつけたスローモーション機能も追い付かない。

悟飯は落ち着いて深呼吸をし目を閉じ両手に握り拳を作りデイスポが仕掛けるのを待つ。

デイスポ（俺の超光速はジレンですらその気にならねえと捕らえられねえんだぜ。お前ごときに捕まる訳がない）

悟飯「勝手に思えばいい」

デイスポ（ああ、思ってたやるさ！お前には捕らえられん!!）

ズドツ
!!!!

悟飯「・・・・・・」

デイスポ「ア、アガツ・・・」

左側から超光速のジャスティスキックをぶつけようとしたが悟飯は咄嗟に右足で回し蹴りを浴びせデイスポを吹っ飛ばす！

だが、デイスポもただやられただけでなく悟飯の左足をサークルフラッシュで抑える。

デイスポ「左足も使えねえ様にしてやる・・・」

悟飯「・・・・・・」

悟飯はデイスポの宣告を無視しサークルフラッシュが付いてある左足を突然西側に向け蹴る。

空を切る左足と同時にサークルフラッシュが悟飯の左足から外れ、別の戦士がサークルフラッシュに捕らえられる！

デイスポ「なっ、何!？」

トツポ「これはデイスポの技ではないか!？」

デイスポを助けるべく向かっていたトツポの胴体にサークルフラッシュが捕らえてしまっていたのだ。

トツポは倒れ力付くでサークルフラッシュを解こうと気を強く入れる。

悟飯「これで終わりにする」

デイスポ「どうせあのかめ何とか波だろ？気を長く溜める技など俺に当てられるものか!!」

超最光速で今度は何100体に分身し絶対にかめはめ波に当たらない様に対策を取る。

悟飯はそれでも左腕を使わない。かめはめ波の体勢もセルを倒した時の様に片手だけで気を溜めていた。

ビルス「おいおい・・・息子の奴。遊んでるんじゃないだろうな」

老界王神「潜在能力を解放した時も自分の力を楽しんでたからの・・・」

ウイス「心配には及びませんよ。悟飯さんは右腕にエネルギーを集中しているのですよ」

悟飯「かーめー・・・」

デイスポ「これは絶対にかわせん!!」

分身の一斉攻撃がかめはめ波を溜める悟飯に襲い掛かる!

ずば抜けた集中力で無数の攻撃をかわすも流星に全てをかわしきる事は出来ずある

程度のダメージは覚悟しかめはめ波を溜める。

トツポは悟飯の集中力と気を遠目ながらも確認するとデイスポに大声で警告の言葉を呼び掛ける。

トツポ「全力で逃げろ!!デイスポ!!!」

デイスポ「へっ。当たる訳ねえよ」

本物のデイスポがいる場所は悟飯からかけ離れた岩柱の頂。

悟飯は100体の分身の中からデイスポを捜す・・と思わせていた。

悟飯「はーめー・・」

波ーー!!!

片手から放たれるかめはめ波。

かめはめ波を放つ時の気の放出で分身が全て消し飛ぶ。

放たれた場所はデイスポがいる岩柱の頂だ!

デイスポ「けっ! 気付いていたか。だが、そんな隙だらけの直線の光線など当たるかよ」

トツポ「大馬鹿者が・・・!!」

トツポはサークルフラッシュを力付くで壊したがデイスポを今から助けに行くのは不可能であり見守る事しか出来ない。

トツポは分かっていた。悟飯の右手からのかめはめ波は布石に過ぎないと。

デイスポ「追尾もするのかあの光線は・・・だが当てるには遅すぎるぜ」

悟飯「僕はお前に勝つ・・・! これで・・・!!」

終わりだあ
!!!!

使わなかった左腕をついに動かす。そして、左手を額にかざし誰も見たことのない気功波『超激烈魔閃光』が放たれる！

かめはめ波から逃げていたデイスポの左には武舞台の瓦礫の山と右には場外が待ち構えていた。

デイスポ「これくらい飛び越えられる！」

！
かめはめ波を誘導させ瓦礫の山にぶつけ消そうとした時に超激烈魔閃光が目の前に
が、それも超光速でかわす。かめはめ波は瓦礫の山を崩し超激烈魔閃光は場外に飛んでいった。

デイスポ「ふう・・・危なかったぜ」

ズボツ!!

デイスポ「うおっ!?」

地から出てくるかめはめ波を咄嗟にかわすその瞬間を悟飯は逃さなかった!

悟飯「ダリヤーー!!!」

デイスポ「ハツ!」

両手を構えたままデイスポの右脇腹に跳び蹴りが直撃! 押されたデイスポは地から出てくるかめはめ波に宙高く飛ばされていく!!

逃れようと前を向きもがくデイスポだが、無駄なあがきでそのまま押される。

デイスポ「こんなバカな事が……！俺はプライド・トルーパーズの精鋭だぞ！こんな凡人の技など……」

グアアン
!!!!

クンシー「デイ……」

カーセラル「デイスポ……！！！！」

デイスポ「ガツ……ファ……」

場外へと消えたかに思われた超激烈魔閃光を操作しデイスポにぶつけたのだ。

右手から放たれるかめはめ波、左手から放たれる超激烈魔閃光の2つがぶつかり合い大爆発を起こしデイスポは遙か宙高く吹っ飛びそのまま……。

悟飯「凡人でも何でもいい。僕は・・・守るんだ」

大神官「第11宇宙デイスポさん。脱落です」

デイスポ「有り得ん・・・有り得ん有り得ん!!!俺はプライド・トルーパーズのスピードを誇る戦士なのだぞ!負ける等・・・」

負けたのだ。

悟飯「!!」

すかさず悟飯に右拳をぶち込むトツポだが右手一本で防がれる。

トツポは悟飯の無我の境地の強さを自身の拳を片手だけで防いだのを確認し悟った。

トツポ「なるほど・・・デイスポでは敵わないのも分かる」

デイスポ「な、何だと!？」

トツポ「元よりお前は自信過剰のせいで負けた様な物。將軍の知恵とクンシーの助けがなければ早々脱落している事を忘れるな」

デイスポ「くっ・・・」

トツポ「ドラキヤ星人の操る宇宙生物ごときに捕まったのもその慢心からだろ？自身の不甲斐なさを反省しておく事だな」

デイスポ「・・・くそつ。後は頼んだぜトツポ、ジレン」

ジレンは何も声を掛けず悟空に攻め立てる。

カイもベルモッドもトツポのリーダーとしての重い言葉を受け止めデイスポには劣いの言葉を掛けず戦いを見守る。

悟飯「・・・」サツ

トツポ「強い決意だ・・・今の私・・・『プライド・トルーパーズのリーダー』トツポとして勝てるかは分からない」

悟飯「テヤアッ!!」

トツポ「ヌン!!」

苦戦の末、デイスポを倒した悟飯。だが、すぐにトツポとのバトルとなり静かに構える悟飯。父悟空とは違う強さを身に付け『無我の境地』を得た悟飯は果たしてトツポに勝てるのか!?

力の大会終了まで残り8分!

続く

白と黒の死闘!! 悟飯VSゴクウブラック

前半

ベルモツド「トツポですら追い込まれているのか」

カイ「彼等第7宇宙では『無我の境地』と呼ばれていますね」

ベルモツド「トツポよ……」

トツポ（……パワーだけではない）

悟飯「……!!」

ズンツ!!

トツポ「ぐぬっ……」

トツポ（攻撃の速さ、そして：私の行動をまるで未来予知しているかの様な回避。何よりも……）

悟飯「魔閃光!!」

クリリン「両手で魔閃光!？」

亀仙人「ふむ・・・わしらが思っている以上に悟飯は無我の境地に入り込んでおる」

ビルス「いいぞー!そのままそいつも落とすんだ悟飯!!」

ウイス「ビルス様もすっかり力を認めた様で」

ベルモッド(どうしたトツポよ。お前なら勝てるはずだ。何故あれを使わん!)

トツポ(・・・分かっておりますベルモッド様。けれども、あれは最終手段。私はまだプライド・トルーパーズのリーダー、トツポとしてこの男に挑みたいのです)

悟飯「・・・」

悟飯は手を止める。トツポとベルモッドの心の中での会話を聞いている。

ベルモッドも声を聞かれていると分かりながらもトツポと話を続ける。

ベルモッド(そうだったな。お前は我らが誇るプライド・トルーパーズのリーダー。

私達がお前の力を信じないといけなかった」

ベルモッド（お前の全力を孫悟飯に見せてやるのだ!!そして、覚悟を決めたならあれを使うのだ）

トツポ（はっ！ベルモッド様!!）

トツポ「すまなかつたな。わざわざ待つてくれるとは」

悟飯「あなたからは強い正義の心が見えます。出会いが会いなら僕達は正義の戦士として共闘していたかもしれぬ」

トツポ「ほう・・・お前も第7宇宙では正義の戦士として戦っているのか？」

悟飯「平和を乱す悪を懲らしめる、という共通点は同じです。普段は学者として世のために働いていますが」

トツポ「・・・なるほど。お前の心は透き通るほど綺麗なのは分かった。世の為に役立つとうとするその人間性はジャステイス！」

トツポ「だが、私はお前と違い勝つ為には手段を選ばん戦いに入るかもしれん。第1宇宙を守る為にな」

悟飯「僕はそれも1つの正義だと思います。宇宙を守らなければならない。それに正

しい間違いはないと思うんです」

トツポ「お前の名は覚えておくぞ孫悟飯。いざ、尋常に勝負!!」

カイ「手強い相手でしょうがトツポならば・・・」

ベルモツド「マルカリータ。どう思う? あれを使わんトツポは孫悟飯に勝てるか?」

マルカリータ「厳しい戦いになります。それでもあれを使わないのはリーダーとしてのプライドと一目見て確信した孫悟飯の強い正義の心とまともにぶつかり合いたい思いがあるのでしよう」

ベルモツド「真つ向勝負を望んでいるという事か・・・」

カーセラル「確かにあの男、孫悟飯からは強い正義心を感じ取れる」

デイスポ「トツポ! 負けるなよ!!」

悟飯とトツポの戦う場から少し離れた所ではベジータとゴクウブラックがバトルを繰り広げていた!

超サイヤ人ゴッドのベジータと超サイヤ人口ゼのゴクウブラック。疲労もあつてかゴッドのベジータはゴクウブラックに少しずつ押されている。

が、攻撃する時のみ超サイヤ人ブルーになって攻撃するベジータのパワーにはゴクウ

ブラックも押され両者同レベルの押し合いが続いていた。

ベジータ「チツ!!本気を出しやがれ!界王拳は使わんのか!!」

ゴクウブラック「お前ごときには使う必要もない。強大なる神の力を易々と人間に見せる物か」

ベジータ「いいだろう・・・なら、使う前に落としてやるまでだ。クソ野郎!!」

ゴツドのままゴクウブラックの首もとを蹴りその反動で距離を離し連続エネルギー弾を放つ。

一連の行動が速くゴクウブラックは連続エネルギー弾を受けてしまう。

ゴクウブラック「貧弱なゴツドの攻撃が効くと思う・・・」

ベジータ「テヤア!!!」

ゴクウブラック「ぐあ・・・!」

連続エネルギー弾と共にゴクウブラックに突撃し超サイヤ人ブルーで右頬をぶん殴り吹っ飛ばす。

更にダッシュで接近し至近距離で両手からエネルギー波を放つダブルギヤリック

キヤノンで追撃!

ベジータの素早くかつ威力の高い連続攻撃でブラックもダメージを受けベジータに憎悪の感情を剥き出しにし両手にエネルギーの刃を出す。

邪悪な表情と殺意剥き出しの死神の妖しく輝く刃に第10宇宙の一部の戦士は身体を震わせていた。

リリベウ「あ、悪魔よ・・・」ガタガタ

ジウム「仮に第10宇宙が勝ってもあいつに・・・ブルブル

ムリサーム「ラ、ラムーシ様・・・あの者に本当に超ドラゴンボールを・・・」ガクガク

ラムーシ「約束は約束じゃ。変えるつもりはない」

ゴワス「ザマス・・・」

ベジータ「これでもまだ遊んでいられるか?」

ゴクウブラック「何故ここまで愚かなのか人間よ・・・」

ベジータ「愚かなのは貴様の方だ。純粋な戦闘バカなカカロットの肉体を奪い取って

この程度だからな」

ゴクウブラック「別世界のお前は、大した相手ではなかった……。そんなお前が俺を……神を越える等あつてはならないのだ」

静かな口調だがゴクウブラックは怒りの感情を剥き出しにし、赤いオーラを身に纏っていた。

本気で殺しにかかってもこいつ等サイヤ人はそうそう死にはしないだろう。刃を突き立て殺害するつもりでベジータに突っ込んでいった!!

ベジータ「所詮はカカロットの真似事だ！ 貴様が界王拳を使つてもたかが知れてい
る」

ゴクウブラック「言っておくぞベジータ。俺はこの力を孫悟空よりも上手く扱えるの
だぞ？」

ベジータ（何だ？ 急速に気が上がつ……）

ズガッ!!

ベジータ「グオオ・・・」

ゴクウブラック「元々は向こうの下っ端界王が扱っていた技らしいからな。中身は界王神である俺の方が上手く扱えるに決まっている」

相手に迫る際は界王拳2倍、そして攻撃する時のみ一瞬だけ3倍へと上げている。

原理はベジータのゴッドから攻撃する時のみブルーになるのと同じで一瞬だけパワーを引き上げる。

得意とする戦法の一つを真似されたと怒るベジータ。ゴクウブラックは怒る理由を知る由もなくベジータのキレた姿を哀れと見下していた。

ゴクウブラック「俺はまだ倍率を上げる事を可能としている・・・それがどういう意味か分かるな？」

ベジータ「黙れえ!!」

ゴクウブラック「どこまでも哀れだ・・・人間よ」

ブルーベジータとロゼ界王拳のブラックの争いに注目する全王。

強者同士の戦い、というよりも蒼と紅の輝かしいオーラのぶつかり合いが鮮やかだからなのもあつた。

熾烈なバトルになるもベジータが押されている。ジレンとのバトル、アニラーザやケフラから受けたダメージも響きゴクウブラックに追い込まれていく！

ゴクウブラック「人間は消滅すべき存在。宇宙全体を美しく清掃するにはまず人間の排除が不可欠だ」

ゴクウブラック「この身体を持った時、真つ先に孫悟空一家を斬殺した」

ベジータ「だ、黙れ・・・」ハア、ハア

悟飯（別世界では母さんも悟天も僕も殺されたのか!?)

トツポ「フン!!」

悟飯「戦いに集中しないと!」

トツポ「ジャステイスフラッシュ!!」

悟飯「魔閃光!!」

両手で力強く放った魔閃光はジャステイスフラッシュを打ち消しトツポに直撃。想像を越える威力の魔閃光を放ったとほぼ同時にトツポの左頬を蹴飛ばす。魔閃光をまともに受け蹴飛ばされたトツポは一撃一撃の重さに顔が歪んでいた。

トツポ「ぐっ……強いな」

悟飯「……効いてるけれど何かまだ切り札があるはず。油断できない」

ゴクウブラック「……ベジータ、お前の一家もだ。お前が死んだときの一家の絶望したあの顔はとても良かったぞ……」

ベジータ「き、貴様！ブルマやトランクス達までも手にかけてやがったのか!？」

ゴクウブラック「だが、俺が一番殺した中で最高の瞬間だったのはやはり孫悟空の一家だ。あいつの妻の絶望した表情と悲鳴、ガキは泣きじやくり愚かにも俺に突っ込み斬り刻まれる肉の音は最高のハーモニーだったぞ！クッククッククック……」

悟飯（あ、あいつ……!!）

ベジータ「グアアア!!!」

ゴクウブラックは怒りのベジータの連続攻撃を全て防ぎ右膝でベジータの腹部をぶち込む。界王拳で威力が上がった一撃にベジータもたまらず地に膝がついてしまった。

悟飯は無我の境地に目覚めてからは相手の心を読む事ができ相手の心の中で思うビジョンもある程度は浮かべられる。

ゴクウブラックの心のビジョンに映るは恐怖と悲しみの表情をしたチチ、無謀にも戦って惨たらしく斬殺されそうな悟天、ザマスに入れ換えられ何も出来ず切り捨てられた悟空の姿があった。

悟飯（母さん、悟天！）

チチ『ご、悟天!!』

悟天『お、お母さん・・・』

ゴクウブラック『次はお前だ』

チチ『悟天!! やめてけろ悟空さ・・・なしてこんな事を』

ザマス(悟空)『や、やめろ。チチ、オラはこっちだ・・・』

ゴクウブラック『まだ生きていたか・・・しぶとい人間め!!』

ザシユ!!

ザマス(悟空)『グッ・・・ガッ・・・』

ゴクウブラック『お前達人間は全てあの世に送ってやるぞ』

チチ『いやああああ!!!』

心のビジョンは残酷、卑劣、凄惨・・・。

トッコ「余所見をするなど・・・むっ?」

トツポは悟飯の計り知れない怒りに気付き攻撃をやめた。

そして、怒りに怒る悟飯の飛び蹴りがベジータを苦しめるゴクウブラックの右脇腹を狙うが右手の刃で防がれた！

ゴクウブラック「お前は・・・」

悟飯「父さんの身体を利用して母さんや悟天を・・・！」

ベジータ「悟飯!？」

ゴクウブラック「お前も別世界で殺してやったぞ。お前は殺してもそこまで面白くなかったがな」

悟飯「お前は、お前は・・・!!」

許さないぞー!!!

悟飯「ハアアアア
!!!!」

気を溜め怒りに震える悟飯。ゴクウブラックに右手、左手で魔閃光を放つが両手の刃で切断される。

怒りの一撃にゴクウブラックは刃で切断した時でもズンと重みがあつた魔閃光に警戒する。

ベジータ「おい悟飯。あいつは俺が倒す。邪魔をするな・・・」

悟飯「ベジータさん。すみませんが僕があいつを倒します」

ベジータ「ふざけるな！俺が倒・・・な、なっ!?!」

ベジータが驚いていたのは自身やカカロットとは違う進化を果たした無我の境地の力と超サイヤ人ロゼ相手でもほぼ同レベルで争えている事であった。

ゴクウブラックの右手の刃が悟飯の身体を貫こうとしたが雄叫びを上げ気を溜めると右手の刃が消滅した！

ゴクウブラック「何だと!?!」

悟飯「どうしても僕が倒したいのです……。お願いします！」

ベジータ「貴様もすっかり戦士の顔をする様になったな。ガキの頃は思い出すぜ」

ベジータ「……いいだろう。俺はあの第1宇宙の2番手で我慢してやる！」

悟飯「ありがとうございますベジータさん」

ベジータ「悟飯」

悟飯「はい！」

ベジータ「やるからにはあいつを完膚なきまでに叩きのめせ。貴様なら分かるだろう？ あいつはカカロットではないとな」

悟飯「分かっています！あいつは父さんなんかじゃない。そして、あいつは本当の父さんの力を使う事など出来るわけがありません！」

ベジータ「ふん。それだけ分かれば十分だ」

ベジータはトッポに不意のエネルギー弾を放つがトッポには効いていない。

本当はベジータに身体を休めてほしいと悟飯は思っていたがプライドが高く戦いを好むサイヤ人の性格なので止めても無駄と分かりトッポをベジータに任せた。

ゴクウブラック「ベジータと組まなくていいのか？」
悟飯「お前は僕が倒す!!」

悟飯VSゴクウブラックのバトルが繰り広げられる!!!

白と黒の死闘!! 悟飯VSゴクウブラック 後半

セル「孫悟飯め。あいつを倒すのはこの私だ。手を出すな・・・」

セルは身体を再生し回復はしていたが今のままではゴクウブラックに挑むには厳しいと分かっておりあるやり方で強化を計っていた。

セルJr. がセルを不安そうに見つめていたがセルはセルJr. の頭を撫で落ち着かせた。

セル「心配するな。私は死なんし負けん」

セルJr. 「ウキヤー!!」

ピッコロ「確かに厄介な攻撃だ」

シャンツァ「ツァー!!」

空間を行き来するシャンツァと動かずに精神を統一し攻撃の出を窺うピッコロ。

シャンツアが背後から攻撃を仕掛けてきたが眼を見開き左拳を左手一本で抑え力尽くでシャンツアを地に叩き付ける!

シャンツア「ギジャア!!」

キテラ「何!？」

クル「シャンツアの空間攻撃を読んだ!？」

シャンパ「ハーツハツハツハ!!頼みの切り札もこの程度か第4宇宙!やはり同化したピッコロは最強だな」

ビルス「僕達の宇宙の戦士なんだけどね」

ウイス「……………」

ウイスはシャンツアよりも第4宇宙の見えない戦士が気になっていた。コニツクが連れてきた戦士ならばただ見えない戦士だけではないはず。

天使の中でも特に洞察力に関しては異才を放つコニツク。ウイスだけでなくヴァドス、マルカリータもコニツクが気掛かりになっていた。

クル「シャンツアの攻撃が通用しないとは・・・」

コニツク「どうしますか？一人減らして確実にピツコロ君を・・・」

キテラ「もう少し様子を見る。意識があればシャンツアが場外に落ちる事など100%ないからな」

ピツコロ「デヤアアア！！！！」

ズガーン！！！！

シャンツア「ギヤアアア！！！！」

激烈光弾を受けたシャンツアは岩柱を突き破り場外近くに追い込まれる。

ピツコロはシャンツアから離れた隙に両手を上に掲げ気を溜めていた。

ピッコロ「あいつらは龍族とも同化していた様だな。デンデの様な治癒能力も今の俺には扱える」

ピッコロの両手から練られる鮮やかな黄色の丸い4つの気の塊。

それを宙高く飛ばすと丁度シャンツアがピッコロの頭上から空間を引き裂く様に現れた!

シャンツア「ギシャア!!」

ピッコロ「しぶとさだけは認めてやるぞ」

その頃、悟空はジレンに追い込まれる。

超サイヤ人ブルーで立ち向かうもジレンは余裕で全ての攻撃をいなし悟空の右足からの顔面狙いの蹴りを右手で受け止め場外に投げ飛ばしたが瞬間移動で背後に悟空は回った。

が、それも読んでおり瞬間移動をすると読み左のみぞおち狙いのキックで悟空を吹っ飛ばす!

悟空「へへ．．．ほんとすげえな．．．ん？これは？」

ベジータ「これは．．．ちっ、ピッコロの奴か」

悟飯「デンデが使っていた回復能力と同じのエネルギー．．．きつとピッコロさんだ。ありがとうございますピッコロさん」

セル「ふっ．．．今は使わん。大事に持っておけ」

セルJr.「キキー！」

黄色の丸い気の塊は悟空、ベジータ、悟飯の身体を優しく包み込み傷と疲労全てを完治させる！

セルは自身の気で気の塊を包み込みセルJr.に預けブラックの元に向かっていく。

全快した悟空達は今までよりも更に攻撃を激しく繰り出す！

キテラ「予定変更だコニック。あいつを早急に落とすぞ」

コニック「分かりましたキテラ様」

ゴクウブラック「回復した? それでも俺には勝てんぞ。孫悟空の息子よ」
悟飯「・・・お前を倒すだけだ」

ゴクウブラック「なっ? グファア!!」

回復した悟飯の想像を超えるスピードで右頬を蹴飛ばされ吹き飛ばす。

怒りの感情はあるもその表情と戦闘姿勢は冷静そのもの。

ゴクウブラック「神の気を纏ってもいないお前ごときに俺がダメージをくらう等・・・」
悟飯「父さんはお前よりももつと強い。お前では父さんの力を扱えない!」

ゴクウブラック「グアツ!!ち、調子に乗るな。カスめが・・・!」

ゴクウブラックに顔面に回し蹴り、腹部に飛び蹴りを叩き込む連続攻撃である爆裂魔衝を浴びせた後にすぐに片手の魔閃光をぶつけようとしたが瞬間移動でかわされてしまう。

ゴクウブラックは界王拳を発動し背後にそのまま悟飯の背中にパンチをぶち込み吹っ飛ばした！

悟飯「グウアー!!!」

ゴクウブラック「消えるのだ人間!!」

両手を広げると無数の赤い針状のエネルギー弾がゴクウブラックの背後から現れ放たれた。

裁きの刃は着弾と同時に爆発し悟飯を更に追撃する。

ビルス「悟飯!!」

クリリン「殺す気満々じゃねえか・・・」

18号「無茶苦茶な奴だよ」

天津飯「悟空の身体を利用しているが攻撃手段は悟空とは全くもって異なる」

亀仙人「どれも殺人向けの技ばかりじゃ。あ奴の心は歪みに歪んでおる」

17号「あいつ・・・」

悟飯「ハア、ハア・・・せっかく・・・回復したのに」

ゴクウブラック「無駄にあがくな。殺しは失格になる。人間を殺さずに戦うのはかなり苦勞するのではな」

悟飯「まだ僕は・・・」

大きなダメージを受けながらも悟飯は立ち上がりかめはめ波の姿勢を取った。しぶとい悟飯にゴクウブラックは不快感を露にする。

ゴクウブラック「相手を選ぶべきだったと後悔するがいい」

悟飯「かーめー・・・!」

ゴクウブラック「隙だらけだぞその技は。当てれると思ってるのか?」

悟飯「はーめー・・・!」

ゴクウブラック「所詮は人間の技。お前の父に教えられた技は全て俺から見れば無駄な物だ!」

それはどうかな？

ガシツ!!

ゴクウブラック「敗北者が何を・・・」

セル「私ごとやれ孫悟飯！」

悟飯「セル!!」

ゴクウブラック「ふざけた事を・・・！」

ゴクウブラックを後ろから抑えつけるセル。

少し躊躇ったがセルの特性を理解しかめはめ波を放つ!!

悟飯「波ーっ!!!」

ゴクウブラック「結果は同じだ。ハアアー!!!」

セル「ち・・・ちくしよおおお!!!」

界王拳で抑え付けていたセルを弾き飛ばしセルはそのまま悟飯のかめはめ波に飲まれていった・・・。

界王拳の速度を利用しかめはめ波をかわし逆にゴクウブラックがかめはめ波の体勢に入る。

悟飯「くっ・・・!!」

ゴクウブラック「孫悟空の子にしてはよく戦った。褒美にお前の父の得意な無駄な技でお前を落としてやる。有り難く思え」

ゴクウブラック「中身は神と言えど俺の肉体は紛れもなく孫悟空。父親に負けるのなら本望だろ?」

悟飯「お前は父さんなんかじゃない・・・!!」

悟飯は再度かめはめ波を撃とうとした。

ゴクウブラックも気を溜めかめはめ波を撃とうとした瞬間!

ピッ

ゴクウブラック「ウグツ!!!」

ゴクウブラックの胸部に極細のビームが貫通する。

かめはめ波を撃てず胸を抑える。抑える胸からは赤い血が流れていた。

誰に当たったかな？

悟飯「やはりか」

ゆつくりと悟飯に歩み寄るセル。

手には黄色の丸いエネルギーの塊を持っておりそれを胸に詰め込んだ。

セル「フウ……。流石の私でも二回も瀕死からの復活をするのは身体に負担が掛かる」

悟飯「僕のかめはめ波を利用してパワーアップを計ったのだな」

セル「ついでにあいつも落とせたらと思ったが・・まあ、これはこれでいい」

セル「貴様は黙ってみておけ。私があいつにケリを付けてやる。最も屈辱的なやり方でだがな」

悟飯「それは出来ない。僕にとつてもあいつは倒さなければならぬ!」

セル「邪魔をするな。今は味方でも邪魔をするなら巻き添えにして脱落させるぞ」

悟飯「なら、早い者勝ちだ!!」

セル「待て孫悟飯!!!」

クリリン「悟飯とセルが・・」

天津飯「共闘している」

亀仙人「理由はあれどあの二人が一人の戦士を倒すべく立ち向かうとは・・」

18号「それほどまでにあのゴクウブラックって奴は極悪人って事か」

17号「セルは一度敗れたからリベンジしているだけだろうな」

ゴクウブラック「何度相手しても結果は同じだと人間は何故受け入れようとしない」
セル「見えるか？この私の気が・・・」

ラムーシ「あやつめ。また強化しおったのか？」

ゴワス「それでもブラックを相手するには厳しいはず・・・」

老界王神「あの銀の気は・・・」

シン「フリーザのゴールデンの気と感じが似ています」

ビルス「パワーアップしてフリーザのゴールデン化の気を得たのだろうね。でも、フリーザと違って体色は変わってないし色も違うし気の強さもフリーザよりは劣っているけどね」

ゴクウブラック「それがお前が復活から得た力なのか？大それた行為でパワーアップをしても大したことがない。神の領域に少し踏み込んだくらいでいい気に・・・」

セル「界王拳!!」

ゴクウブラック「何!?!」

悟飯「セルが界王拳を!？」

セルは何とフリーザのゴールデンに近い銀の気と赤い気の界王拳を混ぜたエネルギーでゴクウブラックを狙った!

エネルギー弾を両手の刃で防いだがその瞬間にがら空きのゴクウブラックの腹部に右のストレートがヒットし声を上げる間もなく宙高く蹴り飛ばす!

そして、瞬間移動しゴクウブラックの後頭部にハンマーナックルをぶちこみ地に叩き付ける!!

悟飯「は、速い・見えなかった」

セル「俺にだってこれくらいは出来るぞ? 神様よ」

ゴクウブラック「き、き・貴様ア!!」

今までにない屈辱を受け怒りが爆発したゴクウブラックは立ち上がり地を砕くほどの気を放出し落ちてくるセル目掛け界王拳で突っ込んでいく!

セルもそれが分かり界王拳同士でぶつかり合いゴクウブラックと取っ組み合いに。

ゴクウブラック「人間めが・少し力を得たくらいで神に敵うと思うなあ!!」

セル「焦っていないか？神様というのは自分より強い存在を認めたくないのかな？昔の私みたいだ」

ゴクウブラック「黙れ人間・全力で貴様を殺してやる」

怒りのゴクウブラックがフルパワーの界王拳でセルを押し込んでいく！

フルパワーの界王拳はかなりのパワーであり強化されたセルでさえも敵わず押され今度はセルが地に叩き付けられる。

そして、右手から鎌を出しセルにとどめを刺そうとしたが!?

悟飯「ハアアア!!!」

悟飯が両手で気を練った超激烈魔閃光がゴクウブラックを鎌ごと吹き飛ばした！

セルは身体に付いていた埃を手で払い立ち上がる。

セル「助けなくとも奴に反撃していた」

悟飯「僕は僕であいつを倒す！」

ゴクウブラック「人間めが・・・許さんぞ！許さんぞおお!!!」

最大限に怒ったゴクウブラックは界王拳をまたもフルパワーで出し二人に襲い掛かる！

セルは悟飯にある助言を吹き込み二人でゴクウブラックを抑えようと立ち向かう！

ゴクウブラック「人間は・・・人間は0にすべき存在!!!」

悟飯「これを抑えきれば・・・」

セル「足を引つ張るなよ？」

悟飯「僕は出来る限りやるまでだ!!ハアアア!!!」

セル「ふん！少しは言い返しても良かったのだぞ？ブルアアア!!!」

ゴワス「これで全てが決まる」

ラムーシ「二人が落ちるかそれとも・・・」

クス「ブラック・勝って」

ビルス「ん？セルの奴、何故界王拳を使わないのだ」

ウイス「使わずとも悟飯さんとなら抑えきれると思ったのでは？おそらくですがセルさんの本当の狙いは押し合いに勝つ事ではないと思いますので」

ピッコロ「セルめ・J・r・を犠牲にするつもりだな」

シャンツァ「グギギギ・ギギヤ!？」

ウギヤー
!!!!

ピッコロ「何だ？あいつ、苦しんでいるぞ!？」

ゴクウブラック「天へと誘ってやるぞ。全力の裁きの刃でな!!!」

界王拳を使用している裁きの刃は無数の刃ではなく1つの特大の血の色をした剣と化しセルと悟飯を貫かんとばかりに襲い掛かる!!

二人はかめはめ波で押し返そうとするも裁きの刃はそれでも止まらない!

セルはたまらずフリーザのゴールデン化と同じ効力の銀の気を出し更に黄金の気の超サイヤ人の力を出しかめはめ波の威力を高める!!

悟飯も負けじと爆発しそんな身体の中に溜め込んでいた無我の境地のエネルギー全てをかめはめ波につき込んだ!

全王・未来全王「おっっ!!」

ゴクウブラック「神に抗う愚かな人間めが・・・!」

悟飯「神ならば罪の無い人々を殺すだけでなく殺戮を楽しんでいるのか!?」

悟飯「父さんや母さんや悟天だけじゃない!!人間を全て根絶やしにする神なんて：例え神でも僕は許さない!!!」

セル「孫悟空の肉体を借りて人間を殺す。どうやら貴様は元の身体には全く自信がな

かった様だな」

セル「神は黙って見守るべきだったな。貴様は所詮、仮染めの神だったという事だ！」

ゴクウブラック「お前達人間の言葉等神には受け付けん！俺こそが孤高で美しい神なのだ!!」

2つのエネルギーは激しくぶつかり合う。

どちらも動かない。同じ威力のエネルギーの波は次第に耐えられず大爆発を起こす

!!!

刃は砕けあちこちに刃の破片が飛び散り武舞台に突き刺さり亀裂が出来る。

3人は大爆発する反動でも吹き飛ばさず睨み合う。

爆煙が消えそこにいるのは……。

ゴクウブラック「……?」

ラムーシ「ブラック!?!」

ゴワス「ロゼが解かれている!?!何故だ!?!」

ビルス「なるほどね。セルはこれを狙ってたのか」

ウイス「悟空さんも起こした遅発性乱気症。ゴクウブラックはこの激しい戦いの末に自身の力の限界を使い果たしてしまったのです」

クス「ブラック!!」

ゴクウブラック「な、何故だ?力が入らん・・どうなっているのだ!?!」

セル「貴様に一言アドバイスをくれてやろう」

セル「ご利用は計画的に、とな」

悟飯「・・・」

ゴクウブラック「な、何が言いたい・・お前達などこのままでも・・」

マフウバ
!!!!

悟飯「!?」

ゴクウブラック「ウワアーアー!!!こんな物・・・こんなも・・・の・・・!!」

ピッコロが持っていた小瓶（21話で天津飯がピッコロに渡したかった物の正体）をセルJ r. が奪いセルJ r. が魔封波を発動したのだ!

ある程度の知能と言葉なら発せるのでセルはそれを利用しセルJ r. に魔封波を變わりに発動させたのだった。

魔封波の渦に逆らえず飲み込まれていくゴクウブラック。

初見では攻略困難かつゴクウブラックは遅発性乱気症の影響でエネルギーを上手く

扱えない。

スポツ!!

セルJr. 「ウキヤキヤキヤ・・・キヤア・・・」

ドサツ

大きく戦闘能力が開いていた為にセルJr. は小瓶に栓をする前に力尽きてしまった。

セルが瞬間移動し変わりに小瓶に栓をし手に小瓶を手取る。

第10宇宙の観覧席にいる戦士達は絶望と消滅の恐怖で青ざめている。

セル「いい眺めだ・・・。人の恐怖する顔、もう命はないと分かった瞬間の絶望。クク

ク・・」

第10宇宙に小瓶を見せつけそれを第10宇宙の観覧席の目の前の場外に投げ付ける。

小瓶は落ちていく・・容赦もなく。時は止まらない。

セル「今度こそさようなら」

第10宇宙の皆様

大神官「第10宇宙ゴクウブラックさん。脱落です」

悟空「・・・ゴワス様の宇宙も」

ベジータ「あいつらの宇宙も消滅か」

大神官「第10宇宙全戦士脱落。これにより第10宇宙・・・」

消滅でございます!!

全王・未来全王「はーい!!」

ゴワス「ザマス。よく頑張ったな」

ゴクウブラック「俺は・・・負けたのか」

ラムーシ「よくぞ最後まで意地を見せた。ゴワス、後悔はないのだな」

ゴワス「・・・はいラムーシ様。ザマス。お前が弟子で良かった、と言えば嘘になるか

もしれんが・・・」

ゴクウブラック「ゴワス・・・」

クス「ラムーシ様・・・嫌だ」

ラムーシ「これクス。何を悲しんでおる。天使がその様な態度を取ってはいかんぞ」

クス「皆が消えるなんて嫌だ！第10宇宙が好きだったのに！！嫌だよ・・・」

ゴクウブラック「ゴワス。俺はお前を殺した事を謝罪するつもりはない。だが・・・」

俺を弟子にしてくれたのは・・・感謝している。

ゴワス「私も何だかんだお前が弟子で良かった。・・・ザマスよ。やり直せれたならやり直してみたくないか？」

ゴクウブラック「・・・バカを言う・・・言わないでください。私達はもう・・・」

ラムーシ「のうクス」

クス「……………」

ラムーシ「お前のまづい料理も悪くなかった」

全王・未来全王「キュツ!!」

第10宇宙消滅。これで残りの出場宇宙は半分に。

クス「最期くらい・・・最期くらいは悲しい表情してよラムーシ様・・・皆……………」

悲しむクス。第3宇宙の天使カンパーリ同様強い思い入れがあった。

最期まで弱味を見せなかったラムーシにビルスは敬意を評しクスに向かって話す。

ビルス「……………タイムマシンを使った事は許すよ。生き残る為に禁じ手を使ったその度胸……………第10宇宙。お前達は強かった」

これで残りは第4宇宙、第6宇宙、第7宇宙、第11宇宙のみとなった。

そして、この先新たな強者が現れ第7宇宙に脅威が迫る……………!!

大神官「第4宇宙ガミサラスさん。自滅でございます」

ピッコロ「発狂が止まった!?!」

力の大会終了まで残り6分!

続く

第7宇宙から新たな犠牲者!第4宇宙と第11宇宙の切り札!! 前半

ピッコロ「・・・何だこの気は？」

ピッコロと戦っていたシャンツア。

突如頭を抱え苦しみながら発狂したその後は信じられない程に静かに佇んでいた。

その佇まいにピッコロは何かが生まれたと感じ取れていた。

何故か分からない。だが、奴は生を手に入れた。

自身を舐める様に見回すシャンツア。

5体、角、尻尾を動かしてそしてピッコロに歯を剥き出しにニタリとし口を開く。

——おはよう

ピッコロ「!?」

クル「喋った!？」

第4宇宙の戦士の面々とクルは驚くがキテラもシャンツアの様にニタリと妖しく笑みコニツクは何も変わらない表情。

ビルス「何だあいつ……。さっきまでとは全く違う」

シャンパ「へっ！バカみたいに発狂したかと思えば言葉を覚えただけか!!ピッコロー!!ブツ飛ばしちまえ!!!」

シャンツァ「僕はとても気分がいい」

ピッコロ「俺は貴様が気味が悪い奴だと不快に思っている」

ドグツ
!!!!

ピッコロ「グガツ
!!!!」

ピッコロの背から腹部を貫いた尻尾。

挨拶変わりに空間から尻尾を出す。だが、今までの空間移動とは違う。どこかで見たことのある能力・・・。

腹部を再生するも読めなかった攻撃に冷や汗を垂らす。

シャンツァ「次はこれ」

そう言い放つとシャンツアは獣の様に身軽に武舞台を動き回る。

素早い身のこなしと予測が出来ないシャンツアの引つ掻き攻撃にピッコロはダメー
ジをくらいつつも落ち着いてシャンツアの出を窺うがシャンツアはピッコロの真正面
から今度は連続パンチを繰り出す。

シャンツア「突きを打てば打つほど早く強くなる」

ピッコロ（ぐっ・何だこの技は!?!）

全王「どれも見たことある技なのね」

未来全王「びつくりなのね」

大神官「アニラーザさん、カクンサさん、ロージイさんが使っていた技です」

シャンパ「消滅した宇宙の奴等の技を何で使えるんだよ!!!」

ヴァドス「採られたのでしょうか」

キヤベ「採られた?」

ヴァドス「大会が開始した時から見えなかった二人の戦士の正体は・・・」

コニック「ガミサラス君は自身の仕事を果たし死にました。お疲れ様です」

ガミサラス「第4宇宙を守るためなら何だってするぜ」

天津飯「あれが正体・・・。小さな虫だったとは」

モンナの横にいる非常に小さな紫の虫。第4宇宙の見えない戦士の正体。紫の虫の戦士ガミサラスは頭に輪っかがあるも自身の仕事を果たしドツシリと座りニタリとしていた。

第4宇宙を守る為なら手段を選ばない。ガミサラスの役目と陰謀の宇宙の企みが見事に合致していた。

亀仙人「ま、まさか人の細胞を採取しおったとは・・・」

キテラ「ジジイ。どうやらボケてはねえ様だな。そうさ!ガミサラスは大会出場者の

戦士達の細胞を採取していた」

キテラ「ある程度細胞を採取すれば戦闘力も上がるがこいつ等は技そのものは使えねえ。そこで、採取した細胞を他の戦士の脳に送り戦闘力を上げ技を使える様にしたんだよ!!」

ビルス「まさかそれが・・・」

キテラ「キキキキ！それがシャンツアだ!!ただでさえ戦闘能力があり底知れない力を持つ第4宇宙の邪神がもしもだ。各宇宙に集う猛者達の力を使える様になるとどうなる?」

シャンパ「どうなるんだよ?」

キテラ「キキキキ。お前達が思っている以上にこの力の大会はな・・・」

100倍ヤバイサバイバルなんだよ!!!!

ヤツチャイナー拳で吹き飛ばされるもすぐにピッコロの身体を拘束するビッグアムール。

消滅した第2宇宙の戦士達の技を嘲笑うかの様に使うシャンツア。

気のできた弓矢を弾き動けないピッコロを的にする!!

シャンツア「楽しい、楽しい」

ピッコロ「グアアアアアア!!!!」

悟飯「ピッコロさん!!」

シャンツア「うるさい」

悟飯「グハツ・・・」

迫りくる悟飯を後頭部に空間移動した尻尾で叩き付け地にひれ伏させる。

あまりにも桁違いな強さを身に付けたシャンツアにピッコロは悟飯に逃げる様に呼

び掛けたがシャンツアは尻尾を悟飯の首に巻き付け逃げられない様にした。

ピッコロ「ご、悟飯!!」

悟飯「アガツ・・グツ・・」

シャンツア「快感・・！」

ピッコロ「調子にのるなよ!!」

口から怪光線を放ちシャンツアに直撃しビッグアムールが解かれるがシャンツアには全く効いていない。

悟飯「この・・」

ピッコロ「逃げろ悟飯!!」

悟飯「どうしてですか!？」

ピッコロ「お前はゴクウブラックとの戦いでダメージを負っている。回復してやりた
いがこの状況だ」

シャンツァ「シヤア!!!」

ピッコロ「野郎!!」

クンシー「あれって・・・」

カーセラル「デイスポの光速移動からのジャステイスキックではないか!？」

デイスポ「あの野郎、俺の能力までも・・・!まさか!？」

デイスポはジレンがビアラーマを倒しカーセラル達と談笑していた時、足下が何か虫の様にチクリと刺された事を思い出す。

あの時に細胞を採取されたのかもしれないと拳を作り自身の油断に怒っていた。

デイスポ「くそ!あれは奴の仕業だったのか」

悟飯「ピ、ピッコロさん・・・」

ピッコロ「デヤア!!!」

ジャステイスキックはかわすも眼前に突然現れた拳を抑え触覚から電気を流す怪光波を拳に浴びせこれは少し効いたのか手を引つ込める。

後ろにいた弟子に師は厳しい言葉を浴びせた。

ピッコロ「今のお前では足を引つ張るだけだ。身体を休めて次の戦いに備えておけ」

悟飯「・・・それでも僕は」

ピッコロ「早く行け！悟飯!!」

悟飯はそれでもピッコロの加勢に入りたかった。

確かにシャンツアは強い。それでも、ここでピッコロさんを助けなければいつ助けるんだ。

悟飯が気を溜め決心した時、ピッコロがシャンツアの腕に吸い寄せられていた！

ピッコロ「こいつ、どれだけ技を持っていやがる・・・！」

悟飯「ピッコロさんグッ!!」

空間から今度は手が伸び悟飯の口元を抑えながらピッコロから距離を離され押し出されていく。

悟飯はピッコロを助けたかったが押し出された場所の背にはベジータとトツポが戦っていた。

17号「また第2宇宙の奴の技だぞ」

クリリン「というか、おかしくねえか? どうして消滅した宇宙の戦士の細胞が残っているんだ?」

キテラ「そのつるピカ。いい所に気付いたな。確かに細胞だけの採取ならば消滅した宇宙の細胞は消されていたかもしれない」

キテラ「だが、それを見越してガミサラスには細胞を採取した後に自身の細胞に送り細胞を吸収する構造になっていたのだ!」

クリリン「採取した細胞を細胞で吸収!?!」

キテラ「つまりだな。採取した細胞の宇宙が消滅してもガミサラスに送られ吸収された細胞は『ガミサラスの細胞』として体内に残ってるって事だ」

コニツク「ガミサラス君は既に消滅した宇宙の細胞を完全に我が物にした、と云えばいいでしょうかね。例えば第2宇宙の細胞を第4宇宙の物にすれば消滅は免れるのではないかという事でしたがセル君を見て消滅はしないと分かりました」

18号「セルを見て？」

コニツク「セル君も細胞を完全に我が物にしています。フリーザ君の技を使えるのなら消滅したフリーザ君の細胞がなく使えないはずですからね。そこで残ると確信したのです」

シン「かなり複雑な構造で・・・」

クル「私も初めて聞きましたよ・・・」

シン「分からないことだらけで大変です」

クル「もつと勉強しなくては」

ピルス「・・・もう一匹いるって事か」

キテラ「探してみるか?小さく気はほぼ感じ取れない。かといって手を出せば脆く死ぬ可能性もあるぜ」

キテラ「いくら強くても殺したら失格。ベルモッド。ジレンは最強だとお前は抜かしているが殺したら失格に変わりはないからな」

ベルモッド「馬鹿な事を言う奴だ。力加減くらいジレンなら余裕だ。そして、ジレンはどんな悪人でも殺さないポリシーを持っている」

悟空「ダリヤリヤリヤ!!!」

ジレン「・・・」

悟空のラツシュをいなすジレン。

悟空もジレンが本気を出していない事に気付いている。

トツポ「・・・ぐおっ!」

ベジータ「ピッコロや悟飯と戦ってダメージを受けている様だな。今の貴様には覇気が全く感じられん。所詮2番手といった所か」

トツポ「お前もだろ・・・!」

ベジータ「ふん。吠えるのは得意な様だな。・・・終わりにしてやるぜ」

ファイナルフラッシュ
!!!!

トツポ「オオオオオ
!!!!」

トツポも赤い大きなエネルギー弾を出しファイナルフラッシュとの押し合いに。

押していくファイナルフラッシュ。あっさりと赤いエネルギー弾を青白いエネルギー波が飲み込みトツポをも飲み込んでいった!!

トツポ「グオオオオオオ!!!」

ベジータ「この程度か」

悟飯「ベジータさん」

ベジータ「ブラックを倒した様だな」

悟飯「僕ではなくセルが倒してしまつて・・・」

ベジータ「それよりも貴様。ピッコロを放つておいて一人逃げたのか?」

悟飯「僕だつてあのシャンツアつて奴と戦うつもりにしていまして!」

ベジータ「まあいいだろう。同化しても所詮はナメック星人。戦闘民族であるサイヤ人の俺達が相手をすれば大した奴ではないはずだ」

悟飯「そうですね。早くピッコロさんを助けに行きましょう!」

二人がシャンツアに挑もうとした時、おぞましい気を感じ気を取れた方角に目を向けた。

そこはトツポをファイナルフラッシュで吹き飛ばした場所。

悟飯とベジータはまだトツポが残っていると分かり構える。

—— 覚悟は決めた

ビルス「バカな！こんなことがありえるのか・・・」

シン「この気は・・・神の気に限りなく近い・・・」

ベルモツド「今こそ見せてやれ。あの力を」

悟空「感じたことのねえ神の気だ。けど、これってビルス様とかがよく放つ気だぞ・・・」

ジレン「覚悟を決めたか。トツポ」

キャベ「トツポさん・・・」

キャベはトツポと話をした事を思い出す。

『いつか決断せねばならない時が来るであろう。その時には私はもう正義と言う言葉はただの戯言にしかならんのだろうな・・・』

師のベジータのファイナルフラッシュでプライド・トルーパーズのユニフォームが破れ上半身が露になった姿を見て確信するキャベ。

キャベ「トツポさんは正義を捨てて勝利のみを手にするべく決断したんだ・・・」
カリフラ「何だって!？」

シャンパ「おいおい、嘘だろ!？」

トツポが怒号を上げるとベジータと悟飯のいる周辺を爆破する気を放出し体つきも変わっていく。

巨体が一回り大きくなり筋骨隆々な肉体に。そして、全体に暗い紫のオーラを纏い眼の色も光がなくなる。

シャンパはトツポの姿に震え上がる。

シャンパ「おいヴァドス！あれってよ・ま、まさか・・」
ヴァドス「破壊のオーラです。トツポさんは破壊神トツポへと変貌してしまいました」

カイ「トツポは我が第1宇宙における破壊神候補！」
ベルモッド「破壊神トツポの誕生だ!!」

ベジータ「破壊神だと？くだらん。ちよつと容姿が変わったくらいで神にでもなったつもりか？」

ベジータがエネルギー弾を放つとトツポの身体を覆うオーラがエネルギー弾を塵の様に破壊する。

今度はトツポがベジータ目掛けて禍々しい黒紫色の丸いエネルギー弾を放つ！
ベジータは難なくかわすも岩柱が破壊されてしまう。

爆発もせずただ静かに消滅した岩柱を見てビルスも認めた。

ビルス「間違いない・・あいつ、破壊の力を行使している！」

クリリン「破壊神が力の大会に出るなんてそんなのありかよ・・」
ウイス「あくまでも破壊神候補ですからね。とは入ってもあの破壊の力は他の破壊神の方々と遜色はありません」

悟飯「は・・破壊神・・」

ベジータ「丁度いい。貴様を倒せば破壊神を越えたことになるって事だな」

トッポ「私は破壊神になってまだ間もなくベルモッド様よりは弱い。だが、お前達を倒すには十分だ」

ベジータ「ほざきやがれえ!!」

悟飯「逃げない・・相手が破壊神でも!!」

ベジータと悟飯の二人がトッポに攻め立てる!

ピッコロはシャンツアに追い込まれピンチに陥るが・・。

シャンツア「おしまい」

ピツコロ「……!!」

シャンツアが空間から拳を突きだしピツコロの左頬に当たる瞬間!

攻撃を放つシャンツアの背後から気功砲が直撃しシャンツアのいた場所が長方形に穴が開く。

セル「呆気なかつたな」

ピツコロ「……奴がこれくらいで落ちるとは思えん」

シャンツア「その通り」

セル「!？」

直ぐ様セルの背後に立っていたシャンツアはニタリと嫌な笑みをこぼしながらデスビームをセルの背後にお返しと言わんばかりに胸部に放ち貫いた。

ガミサラスはフリーザの細胞をも採取していたのだ!

第7宇宙から新たな犠牲者!第4宇宙と第11宇宙の切り札!! 後半

トツポ「正義と悪。もはやその次元は超えた。今は勝つこと、生きることがすべて」
悟飯「・・・手段を選ばないとは破壊神になる為の・・・」
ベジータ「くっ・・・攻撃が全く効いていない」

ベルモッド「無駄だ!トツポの身体を覆う破壊エネルギーはあらゆる攻撃の威力すら破壊する。生半可な攻撃は全て無意味なのだ!」

カイ「破壊神相手に人間がどう立ち向かうのです!」

ビルス「破壊神候補だと言ったな?お前引退でもするつもりなのか?」

ベルモッド「今回の力の大会出場は私にも責任がある。もしもの為にトツポを私とマルカリータで鍛え、来るべき時が来たら破壊神の座を渡そうとも思っていた」

ベルモッド「もちろん私も簡単には渡さん。トツポが私と戦い勝利すれば破壊神の座

を渡すつもりだ」

カイ「ベルモツド様は今回の力の大会出場に大きく責任を感じています。責任も何も感じずただ消滅したくないと思っっているあなた達とは違うのですよ」

シン「責任も何も感じずって・・・私達だって・・・」

カイ「人間レベルの低いあなた達の宇宙が責任を語ってもうわべだけにしか思えない」

シン「くっ・・・人間レベルが高いからって」

シャンパ「おい、ボロクソに言われてるぞ。言い返さねーのか？」

フワ「別にいいのでは？ふわ〜」

シャンパ「お前はぶれねーな・・・」

クル「責任は感じてはいますが今は生き残る事のみに集中するしかないのです」
キテラ「けっ！ああいう糞真面目な奴は生け好かねえ」

トツポ「足掻いても無力を晒すだけだ。戦士達よ」

ベジータ「グアアアアア!!!」

悟飯「ウアアアアア!!!」

左手にベジータ、右手に悟飯を頭から捕らえ締め付けていく。

圧倒的なトツポの破壊エネルギーの防御能力と格段に上がっているパワー。

悟飯とベジータ二人がかりでも相手にならない。

そして、離れた場所ではピッコロとセルがシャンツアに攻められこちらも大苦戦。
第7宇宙に危機が迫る!!

悟空「なあ、破壊神になったトツポとおめえってどっちのが強いんだ?」

ジレン「下らん事を聞くな」

悟空「・・・トツポのがつえーんか!？」

ジレン「・・・!!」

手取り足取り読まれてしまう。ブルーの悟空ではジレン相手に通用しない。ジレンは悟空を倒すためだけに戦う。圧倒的なパワーで戦士達を倒す。流れ作業の様に悟空に攻撃を浴びせる。

——…孫悟空。

悟空（ん？この声は…）

ジレン「ん？」

突然悟空がジレンから距離を離しブルーを解く。

ジレンも突然悟空が攻撃を止めた事に少し反応を示す。

ジレン「…観念したか」

悟空「悟飯達がピンチだ。おめえと戦うのはやめにする」

ジレン「お前が決める権利等ない」

悟空「ジレン。おめえも分かかってんだろ?オラを呼んでる奴を」

ジレン「・・・」

悟空「おめえとは一端休戦だ!あいつとは一対一で戦わせてくれよな!」

ジレンは腕を組み悟空をそのまま行かせた。

第7宇宙だろうが第4宇宙だろうが自分にとつて大した相手ではない。

今争っている奴等がどうなろうと知ったことではない。

大会終了まで近付こうが気にもかけていなかった。

トツポ「それがお前達の手だ」

悟飯「ハア、ハア・・・」

ベジータ「何が破壊エネルギーだ。当たれば消滅して貴様が失格になる諸刃の刃にす

ぎん」

エネルギー弾を放ちその反動でトツポの手から逃れた二人。今までよりも慎重に立ち向かうべくトツポから距離を離す。

トツポ「調節は出来る。それとも2番手が破壊神だったという事実が怖いか？」
ベジータ「2番手は2番手だ!! 貴様を倒しジレンもぶつ倒すだけだ!!!」

悟飯「ベジータさん!」

言葉を交わさずとも二人は全開のパワーで互いの技をトツポにぶつけようと気を溜めた。

トツポは微動だにしない。まるで撃つてこいと言わんばかりの堂々とした立ち振舞い。

トツポの余裕な態度に怒りを込める超サイヤ人ブルーのベジータ。

トツポの手段を選ばない戦いに勇気をもって立ち向かう無我の境地の悟飯。

全開のファイナルフラッシュとかめはめ波がトツポ目掛けて放たれた!!

ベジータ「くたばりやがれー!!」

悟飯「これでどうだあ!!」

トツポ「くだらん」

トツポはビー玉程度の破壊エネルギーを作りそれを軽く指で弾くだけで2つのエネルギー波を破壊してしまった。

恐るべき破壊の力に唖然とする二人。

トツポは固まっている二人を殴り飛ばし更には両手から破壊エネルギーを放つ!

抑える悟飯とベジータだが膨大な破壊の力が凝縮されている破壊エネルギーは手に触れるだけで痛みが迸りとても人が触れられる物ではなかった。

ベジータ「手がイカれちまいそうだ・・・」

悟飯「うつ・・・ぐっ、あああああ!!!」

トツポ「残りは3人か」

ピシユン!!

トツポ「きたか」

あのままでは二人が場外に落ちていた。瞬間移動で二人を救った悟空。ベジータは納得がいかないとそっぽを向く。

悟飯は助けてくれた父に礼をしトツポが破壊神になった事を告げた。

悟空「・・・トツポが破壊神になったのは分かってる」

悟飯「更には手段を選ばない戦いかたをすると行ってましたので何をしてくるか分かりません」

悟空「よし！おめえらは休んでくれ。トツポとは決着をつけてえつてのもあるから」

話は終わりか?

悟空・悟飯・ベジータ「!?」

心の中から低い声が聞こえたと思つた途端に武舞台がバカッと割れる!!

ゴクウブラックが放つた裁きの刃で出来た亀裂から破壊エネルギーが亀裂を通し武舞台をバラバラにしたのだ!

焦る悟空達と別の場所で戦うピッコロ達。

だが、その一瞬が命取りとなる!!!

トツポ「ふん!!」

悟飯「ううあー!!」

悟空「悟飯!!!」

トツポは悟飯目掛けて自分の手のサイズ程の武舞台の破片を投げ付け悟飯の胸部にぶつける。

破片の勢いが止まらない。武舞台はバラバラになり足場も散らばり本来あった足場がなくなっている。

ビルス「ごはーん!!!」

トツポ「さらばだ。清き正義の心をもつ男よ」

悟空「ご、悟飯!!」

ベジータ「やめろカカロット! 貴様まで脱落するつもりか!」

悟飯のいる場所に瞬間移動をしようものなら悟空も脱落してしまう。

何とかして悟空を止めたベジータだが悟飯は・・・。

悟飯「僕達は・・・負けない」

トツポ「ん?」

悟飯「第7宇宙を勝利に導く為に必ず立ち上がる・・・」

悟飯「そして、お前を・・・破壊神を倒す!!」

トツポ「・・・いい啖呵だな」

ドンツ!!

悟飯「ぐっ・・・は・・・」

悟飯（父さん、ピッコロさん、ベジータさん、セル。必ず勝ってください）

破壊神の強烈なハンマーナックルで武舞台から落ちる一人の戦士。

一人の破壊神はゆつくりと首を頷き讃えた。

ジーン「よく意地をみせたな孫悟飯。お前の戦いは見事な物だった」

大神官「第7宇宙孫悟飯さん。脱落です」

ピッコロ「悟飯!!」

セル「ぐっ・いい気になるなよ?」

シャンツア「いい気を見せる」

シャンツアは額に指を当てその一本に気を集中する。

まさかと驚きの顔になるもすぐにセルと共に攻め立てる。

セルはデスビームで貫かれた胸部は再生させるも軽々と貫いたシャンツアに怒りを見せる。

セル「貴様の技も使うらしいな」

ピッコロ「魔貫光殺砲・俺の細胞までも採取されていたのか」

ガミサラス「やつちまえシャンツア!!」

シャンパ「くっそ!!人の物は取っちゃダメだと教育してないのか!」

キテラ「キキキキ!生き残る為には何だつてやるぜ」

キテラ「後、シャンパ。いい事を教えてやるよ。ヒットを落としたのはこのガミサラスだぜ」

ガミサラス「そうだぞ!第6宇宙最強討ち取つたり!てな」

シャンパ「何だど!?!こんな小さな虫にヒットが落とされたつて言うのか!」

キャベ「ヒットさんを落とされたのがあの様な小さな虫だなんて・・・」

フロスト「全く。油断しているからですよ」

カリフラ「死んだお前が言えた口かよ」

フロスト「なっ・・・何ですつて!?!」

ケール「姐さん、喧嘩はダメですつて!」

ヒット「・・・悪かった」

ボタモ「おいおい謝んじやねえよ。らしくねえ」

マゲッタ「シユポー!!」

Dr. ロタ「ヒット君はあのジレンと最後まで争っていた。誰も恨まないよ」

フロスト「私は恨みますけどね！」
カリフラ「てめー空気くらい読みやがれ！」

ピッコロ「分身したか。俺もそれで魔貫光殺砲を放った事があるが．．」
セル「風ぎ払ってやるまでだ」

セルはかめはめ波を左から右にスライドさせる様に放ちシャンツアの分身を消していく。

どれも消えていき本物ではないと分かる。なら
、本物はどこへ!?

ピッコロ「後ろだ!!」

ピッコロは構えをとらず魔貫光殺砲を放つ。

溜める時よりも威力は劣るが貫通能力は変わらない。

キテラはピッコロの放った魔貫光殺砲を見てほくそ笑む。

キテラ「残念だな。それは……」

パラレルワールドのシャンツアだよ!!

シャンパ「嘘だろ!?!」

ヒット「……!」

シャンツアの腹部を魔貫光殺砲が貫くが全く動じない。

だが、強烈な威力のピッコロの魔貫光殺砲はパラレルワールドを割り実物のシャンツアが現れた。

実物はパラレルワールドから右側にずれておりそこからシャンツアの魔貫光殺砲が放たれる!

シャンツア「覚悟はいいか」

スツ!!

セル「奴はどこに!?!」

シャンパ「ピッコロー!!! 後ろだ!!」

ズオビツ
!!!!

ピッコロ「ぐっ・・・がっ・・・」

クリリン「ピッコロ!!!」

ビルス「時飛ばし・・・!」

ピッコロの背後を時飛ばしで移動したシャンツアが魔貫光殺砲でピッコロの腹部を

貫きピッコロが武舞台から離れていく。

バラバラになった武舞台の足場には当たらずそのまま宙高く飛ばされていってしま
う・・・。

セル「ふざけた攻撃を・・・！」

セルがシャンツアに攻撃し魔貫光殺砲は消えるもピッコロはもう・・・。

ピッコロ（すまなかったな・・・第6宇宙のナメック星人）

サオネル（全力で戦ったのだろ？怨みなどない）

ピリナ（お前に預けて良かった。第7宇宙のナメック星人よ）

ピッコロ（・・・）

サオネル（お前と同化した短い時間・・・）

ピリナ（・・・悪くなかったぞ・・・）

大神官「第6宇宙サオネルさん、ピリナさん。第7宇宙ピッコロさん。脱落です」

サオネル「ぐあっ！」

ピリナ「ぐっ！」

シャンパ「サオネル！ピリナ！」

悟飯「ピッコロさん！」

傷をウイスに治してもらいピッコロを心配する悟飯。

が、ピッコロにとっては自身の傷よりもサオネル、ピリナが同化から解除された事に驚いていた。

両手を見つめると同化していた時のパワーが感じられなくなっていた。

サオネル「・・・申し訳ありません」

シャンパ「よく戦ったな」

ピリナ「力及ばず・・・」

シャンパ「いいんだよ。最後の最後まで戦い抜いたんだろ?」

カリフラ「けどよ。お前等同化しても一人も落とせなかつたよな?」

サオネル「えっ?」

ピリナ「た、確かに・・・」

カリフラ「ちよつとお仕置きだなこれは!」

サオネル「うわっ!」

ピリナ「こっちは怪我人だぞ!」

カリフラ「どうせ再生すんだろうが!!」

ケール「姐さんダメですって!」

キャベ「カリフラさん!!」

大神官「第6宇宙全戦士脱落。これにより第6宇宙・」

消滅でございます!!

全王・未来全王「はーい!!」

ヴアドス「まさか本当に消滅するとは・・およよ・」

シャンパ「つておい!第7宇宙の席に座ってんじゃねーよ!!」

悟空「ヒット・」

ヒット(孫悟空)

ヒットは消滅とわかっていても表情を変えない。

悟空にテレパシーで話し掛ける。

ヒット(戦いを楽しめよ)

悟空「ヒット・・・。そうさせてもらうさ。そんなもつともつと強くなつからな!」

ヒット(それでこそお前だ)

少し笑むヒット。

変わらず高みを目指す悟空に安堵の表情を浮かべていた。

キャベ「師匠。どうか、ご武運を・・・」

カリフラ「あ、そうだ!おい、キャベのししよ・・・いや、ベジータ!!」

絶対約束忘れんじゃねーぞ!!

ケール「……」

カリフラは消滅するにも変わらず元気にベジータに向かって声を張り上げる。

ケールもベジータに一礼。サイヤ人としての誇りをベジータから知り一つ強くなれた。感謝の気持ちがあった。

サオネル（第7宇宙のナメック星に行きたかったものだ）

ピッコロ（俺も第6宇宙のナメック星とナメック星人に興味が沸いた。脱落した俺が言うのもあれだが宇宙の復活が出来ればな）

ピリナ（ふっ…必ず勝つのだぞ。第7宇宙よ）

シャンツアは第6宇宙の観覧席に悪魔の様な笑みを浮かべる。

そして、手を振り一言吐き捨てた。

シャンツア「バイちゃ」

クル「や、やりすぎなのは……」

キテラ「これぞ邪神だ。第6宇宙は負けた。力のない宇宙は消える運命なんだよ」

シャンパ「あの野郎・・・おい、兄弟!!」

ビルスはシャンパが何か話し掛けてきても目を合わせず武舞台にいる悟空達を見守る。

シャンパも察していたが構わず話し掛けていた。

シャンパ「・・・」ベー

無言であっかんべーをする。子供の様な態度を取るシャンパにも何の反応も示さず武舞台を見守る。

消滅の光が眩しい。全ての宇宙の王の手が光と共に握られる。

全王・未来全王「キュツ!!」

第6宇宙も消滅・・・。ヴァドスは無言でシャンパ達がいた第6宇宙の観覧席に一札を

した。

ビルスはシャンパ達が消滅し一言寂しげにつぶやく……

ビルス「何か言えよ……」

キテラ「寂しいかビルス？安心しろ。第7宇宙も消滅させてやるぜ！キキキキ」

寂しげなビルスに嫌味つたらしく絡んでくるキテラ。

ビルスはスルーする。今はキテラがどうかどうでもいい。第7宇宙の勝利を願うのみ。

ベジータ「最悪の気分だ……」

弟子の消滅を目の当たりしたベジータ。壊れた武舞台の1つに腕を組み微動だにしないジレンがいた。

どちらにせよ第7宇宙が勝利するにはあいつ等を倒さなければならない。時間までに逃げるのは無理だろう。

ベジータ「くそつたれがあ!!!」

悟空「ベジータ!!うわっ!」

トツポ「あの力を使わなければ私には絶対に敵わぬぞ」

悟空「やれるならやつてるさ」

トツポ「ならば使わせるまでだ」

破壊エネルギーで小さな武舞台の瓦礫を破壊し悟空を睨むトツポ。

禍々しいオーラを放つも悟空も負けじと睨み返す。

ベジータはジレンに立ち向かう。

絶対に倒す!

そして、超ドラゴンボールは俺が必ず手に入れてやる!

約束を果たす為に最強への挑戦が始まる!!

セル「貴様もいい趣味を持っているが・・・」

シャンツァ「・・・」

セル「貴様と隠れている奴を倒し貴様はもちろん第4宇宙の奴等の絶望する姿を見た
ものだ」

シャンツァ「無理無理。僕に勝つのは」

第6宇宙も消滅しこれで残る宇宙は第4宇宙、第7宇宙、第11宇宙のみとなった。
ここままで残る戦士は強者ばかり。武舞台もバラバラになり更に激しさを増す力の大会。
終了まで残り4分30秒！

越えろ限界を破壊神を！最大パワーの界王拳！！ 前半

長い戦いも残り5分を切り残り戦士も一桁となった。

残る宇宙も3宇宙となりすっかり観覧席も寂しくなる。

二人の全王も寂しいと思う中、大神官がある提案を下す。

大神官「こうしましょう」

全宇宙の観覧席に地鳴りの様な音が鳴り響き動き出す。

そして、観覧席が1つの場所にまとまり合体し1つの観覧席に。

全宇宙の観覧席が合体し第7宇宙は大会に参加している戦士や神々が左右に。

第4宇宙が左側、第11宇宙が右側。第7宇宙含め消滅がかかっているので殺伐とした空気が流れる・・・。

キテラ「けっ！何がよくてビルスの隣にいなきやならねーんだよ」

ビルス「それは僕も同じだよ。うるさいネズミめ」

キテラ「ハゲネコがえらそーにしやがって！」

ビルス「いちいち言い返すな！」

キテラ「何度でも言い返してやるぜハゲネコ！」

ビルスとキテラは相変わらず仲が悪く互いにふんぞり返る。

それを見てベルモットとカイは呆れ果てていた。

ベルモット「やれやれ。レベルの低い宇宙は態度もレベルが低いな」

カイ「ほうっっておきましよう。バカがうつりますよ」

キテラ・ビルス「何だと!？」

シン「あ、あの・・・」

カイ「黙りなさい。私に話し掛けるなどおこがましい」

シン「お、おこがましいって！」

クル「シン様もカイ様も喧嘩はやめましょう。戦うのは私達神々ではありません」

シン「そうでした……。すみません」

カイ「ふん」

クル「シン様が苦労をなさっている事はキテラ様のスパイ活動からではありませんがお聞きしました。シン様のご先祖様も封印されていたとお聞きました。が……」

老界王神「全く酷いもんじや。能力が気に入らないからとビルス様に封印されたからの」

クル「そ、そんな事が……」

ビルス「おい変な嘘を吹き込まずな!」

キテラ「事実だろ!お前ならやりかねねえ」

ビルス「あのうるさいネズミめ……!」

クル「私もキテラ様とコニック様に振り回されて……」

シン「そちらもですか……」

老界王神「お前さんも若いのに苦労してるんじやの」

クル「まあそれはそれとして。宇宙消滅がかかつてはいますが神々がいがみ合っても

仕方がありません」

クル「私達は戦士を見守るのが役目。この先、何があっても恨み辛みはなしにしましょう」

シン「はい。その、悟空さんについてなのですが．．やはり．．」

クル「各宇宙を巻き込んだと言われていますが本当は我々消滅する宇宙に生き残るチャンスが与えられた。彼の神々に対する態度は無礼ではあるけれども全王様があれほどまでに一人の人間に興味を示しているのです」

クル「孫悟空・神々の領域と言われる身勝手の極意を発動し更には破壊神と化した第11宇宙のトツポと戦っていても恐れを全くなしていかない。彼の強さは底知れない。我々第4宇宙は警戒しています」

キテラ「警戒だあ？あんな奴シャンツアが本気になれば終わりだぜ」

ビルス「人の細胞を盗んで強化された奴が強いとは思えないね」

キテラ「言ってる。地獄を見せてやるからな」

クル「すみません。キテラ様がこの様な態度で．．」

シン「いえいえ」

老界王神「どっちもどっちじゃよ」

クル「とにかく今は戦いを見守りましょう」

シン「はい!」

クルの神としての正しき態度に安堵するシン。

クルも気ままなキテラの態度と行動には苦勞しておりビルスの扱いに苦勞するシンの気持ちも分かる。

その為か消滅がかかっているにも関わらず話が弾みやすく意気投合していた。

マルカリータ「まあまあ。第6宇宙なき今、どうして第7宇宙にくつついてるのですます?」

ヴアドス「第6宇宙なき今第7宇宙に世話になろうと思いましたがね。オホホホ」

ヴアドス「それはそうと第2宇宙が世話にならないのを見ると第1宇宙は住みにくいのでしょうかね」

マルカリータ「そんな事は・・・」

サワア「・・・」

マルカリータ「な、何か言うでます!!」

コニツク「世話になりますか？」

モヒイト「・・・」ギロツ

コニツク「おやおや、嫌ですか。嫌われたものですよ」

観覧席が盛り上がっている？中、悟空は臆せず超サイヤ人ブルーでトツポに迫る！

トツポは微動だにせず立ち尽くす。悟空は遠慮せず右拳をトツポの顔面にぶち当てるも全く効いておらずトツポは真顔で悟空を見ていた。

悟空「受け止めもしねーのか・・・」

トツポ「する必要もない。お前の攻撃はしれている」

悟空「ジレンでも受け止めはするのにな」

トツポ「破壊エネルギーの前では破壊を越える攻撃でなければ全ては無だ!!
フンツ
!!」

悟空「うわっと！」

トツポは右腕を軽く振るうだけで地が割れる。

破壊の力を使わずとも身体能力も大幅に向上していた。悟空は離れてエネルギー弾を放つのも当然受け付けず破壊する。

トツポ「本当に強い力とは正義も悪もない純粹なる破壊だ。全てを滅し全てを無に帰す。それが破壊神」

トツポ「お前は何を思い戦う？宇宙を守るのかそれとも超ドラゴンボールが得て自分の願いを叶える為か？」

悟空「そんなもん宇宙を守る事に決まってっぞ！」

トツポ「ならば半端な力で私にかかろうとするな・・あれで私と戦え。・・身勝手の極意で私と戦え!!」

悟空「さつき言ったじゃねえか！なれるならなってるってよ」

トツポ「なれぬのならそのまま脱落させるまでだ！」

破壊玉を放ち悟空を狙うも悟空は破壊玉を放つのに少しの溜めが必要だと気付く。

更に破壊玉の威力は強大ではあるが速度はあまり早くなくかわすのも容易であり悟空は破壊玉に突っ込むと見せ掛け瞬間移動でトツポの頭部を右足で踵落としをぶち込むもそれでも微動だにせずトツポは破壊エネルギーを放出させ悟空を吹っ飛ばす！

悟空「くっ……こりや本当にやべーかもしんねーな……」

トツポ「お前は戦いが好きなのだろ？ どうだ？ 楽しいか今の状況は？」

ブルーに変身したベジータもジレンに攻撃を当てるも大して効いておらず蹴り飛ばされ、セルはシャンツアのヤツチャイナー拳で殴り飛ばされ更に5本の右手の指からマシガンのようにデスビームを放たれ守りに徹するばかりで攻撃が出来ずにいた。

第7宇宙は残り戦士3人と一番多いが状況は最悪。

悟空の顔には冷や汗が流れる。

悟空「……久々にワクワクしねえよ……おっそろしくてよガタガタしてらあ」

トツポ「それが恐怖心という物だ」

悟空「けんど逃げて何も解決しねえ。それによトツポ。おめえも今まで力を隠して本気になってなかったんだろ？ おめえ、ほんとつえーな」

トツポ「お前は一つ誤解している様だな。今の私とプライド・トルーパーズの私は別人だ」

トツポは話をするも攻撃の手は緩めない。両手で自分の顔のサイズ程の破壊エネルギーを出しそれを投げ付ける。

小さめの破壊エネルギーなので溜めも短く悟空は回避に専念し超サイヤ人ゴッドになり気の節約をしている。

だが、現状を何とかしようと考えていた悟空に気付きトツポは破壊玉を放つのをやめた。

トツポ「下らん」

悟空「!？」

トツポ「ジレンにも放った元気玉とやらを私に放ってみろ。あれが身勝手の極意以外だとお前の最高の技なのだろう？」

悟空「おめえ、待ってくれるのか？」

トツポ「あれを跳ね返せば身勝手の極意に目覚めるのだろう？」

悟空「・・・あの時は確かにそこから目覚めたけどよ」

トツポ「ならばやってみるがいい」

悟空「おう。見せてやるぞ！よーっし・・・！」

ビルス「悟空!!!」

悟空「うおっ!?おっかねえ声上げてどうしたんだビルス様?」

ビルスはすぐさまトツポのやるべき事が分かっていた。

正義を捨てたトツポならば溜めるのに時間が凄まじくかかる元氣玉を放とう物なら溜めている間に攻撃される。

残り時間も少ない。わざわざ敵に攻撃を与える時間など無駄なだけ。

正義も何もない。ただ敵を倒すだけ。

そんな奴がわざわざ攻撃を待つとは到底思えない。

ビルス「そいつは溜めている間にお前を落とすつもりだ!!」

シン「元氣玉を放つ時は超サイヤ人の状態では使えません。あまりにもリスクがあり

すぎます」

トツポ「やるかやらぬのか決めろ」

悟空「自由の戦士なんだよなおめえ？」

トツポ「それも捨てた。お前に立ちはだかるのは破壊神としての私だ」

悟空「そうか？オラから見ればまだおめえは正義を捨ててきれていないと思えるけどな」

トツポ「・・・何が言いたい？」

悟空「おめえは破壊神になっても正義の戦士のトツポだつて言いてえんだよ」

トツポ「・・・黙れ」

トツポは正義の戦士と言われたからか怒りを露にし悟空に殴りかかる！

咄嗟に超サイヤ人ブルーに変身し攻撃を防いだがガードするだけでも破壊エネルギーの影響か防いだ右腕が痛む。

悟空「ぐああ!!」

トツポ「二度と私の前で正義の戦士という言葉を発するな!!」

悟空「グツ・・・アガツ」

左手で悟空の首もとを掴み地に叩きつける。

正義を語るな。トツポの決意は半端な物ではないと理解したがそれでも悟空はトツポに言い返す。

悟空「おめえはトツポだ・・・破壊神と化しても正義の心は消えちやいねえ」

ベルモッド「孫悟空。お前が正義という言葉を軽々しく扱うな」

悟空「・・・」

悟空は観覧席にいるベルモッドを見ると厳しい表情をしている。

ベルモッドもトツポ同様悟空に対し怒っていた。

ベルモッド「お前に教えてやる。トツポの覚悟をな」

そして、ベルモッドは語る。トツポの破壊神になるまでの経緯を・・・。

ベルモッド「トツポは産まれた頃から孤独だった。両親は物心がつく前に殺されトツポ自身も既に悪と戦わざるを得ない程過酷な環境で育ち時には逃げ時には悪に立ち向かい己を鍛えぬいた」

ベルモッド「生きる為には勝つしかない。そんな幼き男が一つの憧れを正義を持つていた。プライド・トルーパーズとの出会いは一つの情報紙だった」

ベルモッド「長く続く正義のチーム。弱きを守り悪を挫く。他人の情報紙を覗き見し正義のチームの活躍の詳細を見て少年は夢を持った」

ベルモッド「自分も正義の為に戦いたい！自分の様な人間を産み出したくない！トツポはひたすら悪との戦いに明け暮れた」

ベルモッド「少年はみるみる内に逞しく成長しつつか故郷の悪を全て根絶させたのだ。圧倒的な強さと弱きを守る優しさからプライド・トルーパーズにスカウトされ瞬間にリーダー候補となり回りからの信頼も得た。この時がトツポにとって最高の瞬間だったんだ」

ベルモッド「だが、プライド・トルーパーズ史上最大最悪の事件が起こった。ある惑星での悪たる者の違法品の取り引きを止めようと当時のプライド・トルーパーズの精鋭

が向かった時だ」

ベルモッド「違法品の取り引きをしていた悪の更なる別の悪の存在がプライド・トルーパーズの跡をつけており奴等は兼ねてから計画を立てていた正義を絶滅させるべく惑星に毒ガスを撒き散らしたのだ！」

ベルモッド「この事件によりトツポ以外の部隊は全滅。生き残ったのは惑星へと向かっていない見習い達のみ。カーセラル、デイスポ等今の戦士達が見習いだった」

ベルモッド「トツポは自身の無力を思い知った。それを忘却しようとして以前より更に悪を倒す事に強い執着心を持った」

ベルモッド「同期であり強さの次元が違うジレンならば仲間を救っていたかもしれない。ジレンはリーダーにはならずあの時は別の任務を軽々と遂行していた。トツポも厳しい訓練と己を磨くことに一切の怠りもなかった」

ベルモッド「それでもジレンには及ばない。何度も戦ったがジレンは本気を出すまでもなくトツポを圧倒する。リーダーとして新たなるプライド・トルーパーズを引っ張るも自分の正義とは何だったのかと自身の無力さに頭を抱える」

ベルモッド「そんなトツポを我々は放っておく訳には行かなかった。既にジレンと関わっていた私達はトツポの強い正義感が気に入り鍛えてやった」

ベルモッド「トツポは悩んだ末に私とマルカーイタと共に破壊神への訓練を受諾し

た。トツポはただ正義の心を持つだけでは守れないと理解した。そして、この力の大会でついに決意したのだ」

ベルモツド「正義も悪もない。生き残るのは強い者だけ。今のトツポはプライド・トルーパーズリーダートツポの誇りを捨て破壊神トツポへと覚悟を決めたのだ!!」

悟空「・・・それでもオラはトツポはトツポのままだと思っぞ」

ベルモツド「貴様には分からんのか!正義の為に戦ってきた男が全てをかなぐり捨てて破壊神になった事を!!」

悟空「だったらオラをわざわざ呼んで戦うなんて事しねえさ」

トツポ「・・・もうよいですベルモツド様。この男は破壊の力を持つて倒すまで」

ベルモツド「・・・そうだな。無知なる人間には神の裁きを与えるのだトツポよ」

トツポが片手で破壊玉を溜める。

元氣玉を作るのをやめた悟空は再度超サイヤ人ブルーになりトツポに挑むのであった。

越えろ限界を破壊神を！最大パワーの界王拳!! 後半

カーセラル「トツポがそれほどまでに悩んでいたとは。俺達はリーダーだからと頼事も度々あったが苦悩していた事に気付けないとは・・・」

デイスポ「ベルモツド様に鍛えてもらっているのは知っていたがまさか破壊神になるべくマルカリータ様も手解きをしていたとはな・・・」

カイ「自分が正義でも悪でもなくただ戦いに勝つ為にトツポは破壊神へと化したのです。私はもちろんベルモツド様もマルカリータ様もトツポへの期待は大きいです。我々には見えます。第1ー宇宙の勝利が」

悟空「ハアアア!!!」

トツポ「何を繰り返しても無駄だ。破壊の力は人間では到底敵わぬのだあ！」

悟空とトツポの拳がぶつかり合い今度は地に亀裂が走りパツクリと地が割れる。

破壊のエネルギーが込められた拳は悟空の拳を痛め付ける。

悟空「ウアアアア!!!」

トツポ「破壊の力に生身で挑むのは愚かな行為だ。その右腕が使い物にならなくなるぞ」

悟空「へ、へへっ・・・アドバイスあんがとな。そんじやオラも最大パワーで挑むかな!!!」

トツポ「最初から使え。今までの私と思うな」

悟空「ハアアア・・・!!」

赤いオーラを身に纏い悟空は再度トツポに突っ込む!

流石のトツポも大幅にパワーアップした悟空の気を感じとり右腕を突きだし攻撃を受け止める体勢に入った。

トツポ「ふん・・・軽いぞ」

悟空「けんど受け止めるって事はよ。くらったらまずいって意味じゃねえのか？」

トツポ「減らず口を叩くな」

悟空「ウアツ!!」

防いでいた右腕から破壊玉を放つが悟空はトツポを右足で蹴りその反動でかわす。

ブルー界王拳の一撃ですらトツポには何の問題もなく無傷だった。

悟空は今度は4倍界王拳でトツポに挑みまとも右腕で防がれたが今度はトツポの踵が少し地から離れた。

が、それもすぐに返されトツポも左手からジャスティスフラッシュの構えから極小サイズの破壊玉を乱射!

ビルス「破壊を普通の攻撃の様に扱いやがって・・・!」

ベルモッド「心配するな。直撃しても死なない程度に調節はしてある」
マルカリータ「けども、当たれば痛いではすまないですますよ」

悟飯「父さんなら必ず・・・」

デイスポ「何が必ずだ」

悟飯「ん？」

デイスポ「破壊神相手に人間がどう戦い勝つのだ。ジレンの様な桁外れな強さを持った人間等普通は存在せん」

デイスポ「それともあの身勝手の極意とやらをまた発動させればとも思っているのか？」

悟飯「・・・それしか勝つ方法はないかもしれない。だから父さんは可能性を信じて破壊神相手でも立ち向かえられるんだ」

デイスポ「チツ!!ギャンブルに出るしかねえって事だろうが」

トツポ「次は何倍だ？」

悟空「10べえだあ!!!」

リスクがあるのは分かっている。それでもあいつを吹っ飛ばせるくらいの威力がなきや勝ち目がねえ!

10倍ブルー界王拳も片手で防ごうと構えるトツポだが悟空はトツポに拳を向けた

瞬間に瞬間移動で無防備な右脇腹に移動し拳をぶち込んだ！

拳が身体に触れ破壊エネルギーのオーラを貫いたがトツポの身体そのものも頑丈で
大したダメージを与えられず簡単に踏ん張られてしまう。

トツポは右腕を振り回しリアットの要領で悟空をぶつ飛ばし左手でまたも極小サ
イズの破壊エネルギーを乱射する。

トツポ「本気を出せ。ジレンにも使っていただろ？」

悟空「ああ・・・そこまでしねえとおめえを吹っ飛ばすことも出来ねえ」

トツポ「結果は見えているがあえて受けてやるのだ。ありがたく思え」

悟空「やってみねえとわかんねえぞ!! 界王拳・・・20ベえだあ!!!」

最大倍率のブルー界王拳で破壊神トツポに真正面に突撃する!!

トツポは待ち構える。全てを無に帰すと宣言わんばかり。

1つの彫刻の様なトツポの立ち尽くす姿を崩してやろうと悟空がトツポのみぞおち
に拳を集中的に浴びせる。

悟空「波ーっ!!!」

更に溜めていないので威力は落ちるがめめ波を至近距離で放つ!

こればかりは効いただろうとクリリンと天津飯は安堵の表情を浮かべていたが亀仙人とピッコロは冷や汗を流している。

ピッコロ「・・・化物め」

クリリン「あ・・・ああ・・・」

18号「あれほどのパワーでも・・・」

17号「無傷なのか・・・」

トツポは何事もなかったかの様に堂々と立つ。

悟空は唾然とするも諦めず再度突撃し今度はトツポの右足を掴み投げ飛ばし何発もエネルギー弾をぶつける。

地を砕きながら着地するトツポに最大パワーのかめめ波を放とうと構えた。

悟空「とっておきを見せてやる」

トツポ「ほう・・・」

悟空の両手から強大なエネルギーの塊が作られその両手を構えると丸いエネルギーの塊が現れ計り知れない気が崩壊した武舞台に青の光が照らす。

強大な気に観覧席にいる脱落した戦士達は驚きの顔を見せていた。

ベジータ、セルも強大な気に気付いてはいるが気に掛ける暇がない。

悟空「ゴツド・・・」

かめはめ波!!!

気で龍の口が現れ口が開きそこから超絶なるかめはめ波が放たれる！

青の龍光が破壊神を丸ごと飲み込んでいく!!

デイスポ「トツポ!!」

ベルモツド「心配しなくてもいい。あれくらいではやられん」

デイスポ「は、はあ・・・」

悟空「ハアアアア
!!!!!!」

ビルス「あのかめはめ波、僕でもまともにくらうのは嫌だね」

ウイス「超サイヤ人ブルーでの悟空さんの大技ですからね。けれども・・・」

シン「これは効いているでしょう!」

クル「物凄い気・・・これは破壊神であつてもただではすまないのでは」

かめはめ波が消え地には放った跡があつた。

挟れた地もいつ崩壊してもおかしくない。

悟空も流石にこれは効いたと思つていたのだが・・・。

——気はすんだか？

悟空「なっ・・・!？」

地を踏み締める度に後ろから崩れる地。

感じ取れる破壊神の気。あいつはいる・・・。

悟空は驚きと共に足が動かない。

トツポ「少し飛ばせただけでも見事と褒めてやろう」

悟空「くっ・・・・・・・・」

ゴツドかめはめ波で激しくエネルギーを消耗するもそれでも果敢に立ち向かい攻撃をぶつける。

破壊神の壁は固く悟空がどれだけ攻撃をぶつけても動じない。

悟飯「あれ程の攻撃を受けても無傷なんて・・・」

キテラ「シャンツアが手を下すまでもねえか。まあ、第7宇宙から脱落者が出るなら何でもいいぜ」

ビルス「悟空・・・」

攻撃を連打する悟空だがトツポには受け付けていない。無茶に攻撃を連打する悟空にトツポは失望し右手で頭を掴えられた。

トツポ「お前とは・・・」

悟空「ウアアアア!!!!」

ギシギシと頭に痛みが迸る。絶望的な強さに観覧席にいる第7宇宙の面々はショックを隠しきれない。

悟空も何とか抜けようとトツポの手を掴むがその行為に及べば及ぶほど掴む手の握力が更に強まる!

トツポ「プライド・トルーパーズのリーダートツポとして決着を付けたかった」
悟空「グツ・ギツ・ガ・ア・ア・」

トツポ「破壊」

右手で掴んでいた悟空に左手で破壊を使うとブルー界王拳が解かれる。
脱け殻のようになった悟空。力が残っていない。。

ビルス「気を破壊したというのか!？」

マルカリータ「修得させておいて良かったですすね」

ベルモッド「相手の持っている気を破壊。まあ、放出されている気だけを破壊しただけだがな」

カイ「それでも、十分すぎる効果ですね。この勝負。トツポの勝ちです!!」

トツポ「ふん！」

悟空「うわあああ!!!」

投げ飛ばされ宙に浮いていた武舞台の欠片にめり込む。
動けない悟空。トッポは両手で巨大な破壊玉を作る。

トッポ「勇猛果敢に神相手でも臆することなく立ち向かった人間としてお前の事は決して忘れん。さらばだ我が好敵手。孫悟空!」

クリリン「逃げろ悟空ー!!!」

悟空「……」

頭では逃げたいと思っている。身体が動かない。
自分目掛けて放たれる破壊玉。これをくれば終わり……。

——
まだだ

諦めたくねえ・・まだ戦いてえ！

あいつに勝ちてえ！！

グワ
アア
アア
アア
!!!!!!!

ベルモツド「誇ってもいいぞ第7宇宙の諸君。孫悟空はトツポを少しでも動かす事が

出来た。それだけでも人間の中でもずは抜けた強さを持っていた」

クリリン「ご、悟空・・・」

悟飯「父さん・・・」

18号「残りは二人か・・・」

17号「・・・まだ脱落の宣言がない」

カーセラル「まだ決まっていないのか!?!」

デイスポ「運良く他の足場で倒れているかもしれんな」

ビルス「・・・悟空」

静まる武舞台。孫悟空を倒した。

第11宇宙の面々はトップの勝利に酔いしれようとした時・・・。

マルカリータ「まだですます」

ベルモツド「望み通りの展開じゃ〜ん・・・」

キテラ「またあれか？」

コニツク「・・・悟空君はこの危機にまた目覚めてしまったのでしょうか」

ウイス「再び殻を破ったようですね。まさかここでもう一度見ることになるうとは思
いも寄りませんでしたよ」

ビルス「見せてもらおうか・・・！あの力をまたこの目で・・・」

トツポ「ふん・・・待ち焦がれたぞ」

——クラッシユ・オブ・ゴツド

静かなる熱と穏やかな気。

全身が青白いオーラに包まれ、銀色に光り輝く虹彩が浮かび上がる。

ギラギラと銀の眼光を破壊神の背に向ける。

破壊神は振り向き眼と眼を合わす。

穏やかな気で移動したのに気付かなかったものの今は分かる。

これで、ようやく全力の戦いをやれると・・!

トツポ「神の真なる極意・お前なら必ずもう一度発動させると信じていた」

悟空「・・・」

トツポ「何も言わずとも分かる。神と神の激突に正義も悪もない。あるのは勝者と敗者のみだ」

トツポ「そして、私は負けん・・!お前を倒し第1宇宙の消滅を免除する!!」

トツポが初めて自ら悟空に特攻を仕掛けて来た!!

矢継ぎ早に繰り出される拳を身勝手の極意は鮮やかにかわす。

距離を取って右指から極小破壊玉を乱射するもこれもかわし飛んできた破壊玉の一つを左手で弾き飛ばす。

破壊の力さえも弾き返し、トツポですら目で追えないスピードで一気に詰め寄せられ拳を腹にめり込ませる!

悟空「ハアア!!!!!!」

トツポ「ウグオ!!!!」

全王「悟空のあれカッコいいのね」

未来全王「カッコいいのね」

直線の動き、直線の拳。なのにかかせない。

破壊エネルギーを貫きトツポの頑丈な身体にも響かせる神の一撃にカイは慌てめく。

それとは対称的にベルモッドは冷静に戦況をマルカーターと共に会話しながら見守っている。

ベルモッド「これでいい・効いてはいるが耐えられん一撃ではないはずだ」
マルカリータ「吹っ飛びはしたものの倒れはしていません。身勝手の極意はまだ兆しの段階。攻撃を耐え続ければ身勝手の極意が切れトツポの勝ちです」

ウイス「悟空さんの力とトツポさんの守り。どちらが勝つか・・」
ビルス「悟空・・やってみろ。お前なら越えられるかもしれん」

破壊神をな。

トツポ「ベルモッド様、マルカリータ様以外に破壊神となった私に身体に響くダメージを与えたのはお前が初めてだ孫悟空」

トツポ「おそらくジレンでも私にダメージを与えられるだろうがそれ以外ではお前しかいないだろう・・さあ、始めるぞ。神と神の戦いをな!!」

悟空「・・・」

キテラ「ちっ・言つてやがれ。ジレンさえ採取すればあいつにも勝てるのだからな」
コニック「トツポ君は既に採取済みであります。ですが、採取するだけでは破壊の力を得るのは不可能でしょう」

キテラ「だからこそジレンの細胞だ。必ず奪い取つてやる。何なら殺されてジレンを失格に追い込ませてもいい。勝つのは俺達だ・・」

ウイス「第11宇宙はやはり狙つたのでしようね・・」

トツポと悟空の神と神の戦いが始まる！悟空の勝利を信じる第7宇宙の面々。第11宇宙はベルモッドとマルカーータは余裕の表情でトツポの戦いに期待している。そして、第4宇宙も黙つてはいないだろう。

今まさに最高峰の神同士の戦いが展開される!!

力の大会終了まで残り3分!

続く

付けようぜ：決着を 神次元の極致！身勝手の極意孫悟
空VS破壊神トツポ!! 前半

カイ「まさかここに来てまた身勝手の極意とは・・・」

ベルモツド「フツ・・・」

ベルモツド（トツポよ。分かっているな）

トツポ（ベルモツド様）

ベルモツド（奴の身勝手の極意は長くは持たん。お前のその破壊エネルギーと頑強な
肉体で守り抜き身勝手の極意が解けるまで耐えるのだ）

トツポ（・・・）

ベルモツド（トツポよ。どうしたのだ？）

トツポ「行くぞ！孫悟空!!」

ベルモッド「トツポ!？」

寡黙な悟空にひたすら攻めにかかるトツポ。

あの時の、全覽試合の決着を付ける。

黒と紫のオーラを身に纏う神の力と銀のオーラが輝く神の力。

対比する色彩のぶつかり合い。

破壊の力で攻めるがまたもかわされ左頬にパンチが飛び出し浴びせられる。

トツポ（全く当てられん・・・）

悟空「ハアアアアア!!!」

今度は悟空が攻め立てる！

身勝手の極意の攻撃は早いだけでなく切れ味も鋭い。

が、それでもトッポは守りに入らず攻撃を仕掛ける!

ベルモツド「何をしているトッポ!攻めに入るな!!」

マルカリータ「全覽試合・・・ですますね」

ベルモツド「全覽試合だと?」

マルカリータ「大神官様に止められたあの時の戦いの決着を付けるべく戦っているのですます」

カイ「それではまるで破壊神としてでなく・・・」

マルカリータ「一人の戦士として孫悟空を倒しにかかっているのかもしれないですます」

ベルモツド「くっ・・・」

トッポ「ヌグッ!!グオッ!!」

悟空「・・・」

トッポ「グオオー!!!」

クリリン「す、すげー．．破壊神相手にダメージを与え続けてるぜ悟空」

天津飯「破壊の力も受け付けないとは：悟空。お前はどこまで強くなっていくんだ」

シン「このまま押ししてください悟空さん！」

クル「恐るべき身勝手の極意．．．」

トツポの攻撃が当たらず悟空の攻撃が一方的に当たる。

攻撃をかわされカウンターの連続。トツポは耐えるも蹴り飛ばされ吹っ飛ぶ。今までの余裕がなく歯を食い縛り両手に握り拳を作り弱い自分に怒っていた。

トツポ「何の為に破壊神となった．．何の為に力を得た．．！」

悟空「．．．」

トツポ「攻撃は耐えられる．．だが、攻撃は当てられん。ならば．．」

悟空「ハアアアア!!!」

ズドツ!!

トッポ「フグツ・・ヌオオオオーー
!!!!!!」

ゴツ
!!!!

悟空「グアツ!!」

トッポのボディープローが直撃!身勝手の極意であつても悟空は耐えきれず浮かぶ足場を壊し別の足場に上手く着地した。

それを見逃していないトッポは極小破壊エネルギーを乱射する!

18号「攻撃が当てられた!」

ピツコロ「ダメージ覚悟でぶつけにきたな」

ウイス「悟空さんの身勝手の極意は防御面こそ制御出来ていますが攻撃面は攻撃に移る際に攻撃を意識してしまい無意識から外れてしまっているのです」

クリリン「けれど、攻撃に入った時かわせていたような？」

ビルス「攻撃に入った時に攻撃が当てられそうになった瞬間に咄嗟に守りに入ってるんだよ。つまり攻撃面は半減して一撃が弱くなっている」

ビルス「対して相手は物理的な守りに強い。身勝手の極意の一撃が強くて普通にも耐えられる・・・」

ウイス「トツポさんは攻撃を当てられた瞬間、つまり攻撃が入って一瞬守りに入らなくなつた瞬間を狙い攻撃を当てたのです。このまま行けばピンチなのは悟空さんの方かもしれません」

クリリン「そ、そんな・・・！」

トツポ「弱点は見つけた。お前の一撃は確かに強い。だが、耐えられん一撃ではない」

悟空「・・・」

トツポ「下手な攻撃はエネルギーの無駄だな・・・」

トツポは極小破壊エネルギーの乱射をやめ悟空にまたも突撃し攻めに掛かる！

悟空はかわしトツポに仕返しと言わんばかりにボディーブローをぶち込む。

だが、トツポも負けじとまたも悟空にボディブローで返す!!

トツポ「ウグツ・・・」

悟空「ガッ・・・」

ビルス「ウイス。何か手はないのか!?あのままだと悟空が先に倒れてしまうぞ」

ウイス「悟空さんには身勝手の極意を極めてほしいのですが今の状態では厳しいでしょうねえ。このまま殴打の応酬になるとトツポさんが有利ですし」

ビルス「だからどうするんだ!」

ウイス「意識がある・・・を利用すれば現状を打破できるかもしれません。最も悟空さんがそれに気付いていたらの話ではありませんか」

トツポ「グオ!!」

悟空「ウア!!」

悟空が攻撃をぶつけければトツポは直ぐ様攻撃を返す。

トツポは悟空から仕掛けてくるのを待っている。

守りの面は完璧な為、いくら攻撃を繰り返しても体力の無駄と分かり悟空が攻撃をぶつけた瞬間を狙っていた。

身勝手の極意は長くは持たない。だからこそ攻めに転じ早期決着を付けなければ身勝手の極意は解かれる。それは、すなわち悟空の敗北となる。

悟空「・・・クツ」

トツポ「純粋な肉弾戦なら望むところ。お前のパワーと私のパワー。パワーならお前が上であろう。だが、物理的な守りならば私の方が上だ」

トツポ「どちらかが倒れるまで・・・この撃ち合いは終わりはせん！」

トツポ「ウオオオオ!!!!!!」

悟空「ハアアア!!」

悟空（ダメだ・・・どうしても意識してしまうぞ。このままだとやられちゃう・・・）

トツポ「ヌグオ!!」

悟空「ガツ・・アア・・」

ベルモッド「いいぞトツポ!お前のその耐久力ならば耐えられる!孫悟空をそのまま倒してしまえ!!」

カイ「これが破壊神の力です。ぽっと出の神の領域等、厳しい鍛練を受け続けた
本当の神の力には敵わないのですよ!」

シン「そんな事はありません!!悟空さんなら・・悟空さんなら!」

トツポ「そうだ!逃げてても仕方ないぞ。さあ、向かってくるのだ!!」

悟空「・・・!!」

ブンツ!!

トツポ「な、何!?!」

トツポの拳が空を切る。悟空の首もとを狙った拳が通り抜けトツポは隙だらけに！

ズガツ!!!

トツポ「ウグオ・・・」

ベルモット「何だと!？」

カイ「ば、馬鹿な!？」

マルカリータ「意識がある一瞬を利用したのですますね」

天津飯「い、今のは!？」

亀仙人「残像拳じゃ・・・」

攻撃を意識する瞬間を利用し意識を持ったその瞬間で残像拳を使い攻撃をかわしトツポの後頭部を蹴り飛ばし吹っ飛ばした！

頭から割れた武舞台の瓦礫に埋もれトツポはなかなか出てこない。悟空は瓦礫の山へと向かう。無意識ながら分かっている。

あれくらいでやられる程、トツポはやわじやないと。

破壊

その一言を吐くと瓦礫の山が暗めの紫色のエネルギーと共に破壊されてしまう。破壊された場所から一人の破壊神が現れ悟空に再度攻撃を仕掛ける。

守りに入っている悟空にはトツポの攻撃は全く当たらず右腕を掴み投げ飛ばす!

トツポが投げ飛ばされ振り返ると右頬を悟空に殴り飛ばされそのまま地に叩き付けられる!!

トツポ「グオオオオオ」

悟空「ダリヤアアア」

余りに激しすぎる一撃に武舞台が爆発しバラバラになり両者が落ちていく！

落ちながらも戦いは止まらずトツポは体勢を立て直し悟空もまたトツポと攻撃のラッシュに。

トツポ（これ程までとは・・・）

トツポ「ウグオ!!」

悟空「・・・!!」

トツポ（戦えば戦うほど一撃が重くキレのある攻撃が飛んでくる）

トツポ「ガツ・・・」

悟空「・・・!!」

トツポ（・・・それでも、負ける訳にはいかない。私の敗北は破壊神の力を得るべく鍛えてもらったベルモッド様達に対する侮辱と同じだ・・・!）

トツポは後ろを振り向いたが残像拳を本の少し移動させただけで悟空はトツポの前面にいたままであった。

そして、そのまま地に叩き付ける形で強烈なスマッシュをトツポの右頬にぶち込んだ！

落ちていく先には足場がありトツポは脱落を免れたが目を開けると悟空が全身を激しく高速回転させ落下しながらギロチンの様な踵落としを腹部に浴びせる!!

トツポ「グフォオ!!!」

デイスポ「ト、トツポー!!!」

シン「悟空さんの一撃が完璧に決まりましたね！」
ビルス「・・・まだだ」

シン「えっ!？」

ジレン「トッポ」

ベジータ「余所見するなあ!!」

ブルーベジータの一撃を軽く掴みそのまま投げ飛ばしトッポの元へと向かうジレン。
ベジータは上に浮かぶ足場に叩き付けられる。

ベジータ「グアア!!・・な、ナメるなよ。ジレン。貴様を・・貴様を倒すのはこの俺だ!」

トッポ（まだ終わる訳にはいかん・・）

トッポ「ぐぐ・・まだだ・・」

悟空「・・・・」

クリリン「何てタフな奴だ・・。あれ程の攻撃を受けてまだ立つなんて」
シン「けれども、もう立つのもやつとです。この戦い悟空さんの勝ちです!」

カイ「トツポ！」

ベルモツド「ん？ジレンか!？」

ジレンがトツポを別の足場で見下ろしていた。

その表情は変わらず無表情。トツポは加勢されまいと構えを取り悟空に睨みを聞かせる。

トツポ「ジレン。こ、これは私と孫悟空の戦いだ。手出しは無用・・・」

ジレン「・・・・・・」

ボロボロのトツポの姿を見てジレンが加勢すると思った第1宇宙の面々。
だが、ジレンはトツポに容赦のない罵声を浴びせた！

ジレン「フン、無様だな。所詮、この程度か」

カーセラル「ジ、ジレン!!」

デイスポ「お、おい!トッポだつて死に物狂いで戦つてるんだぞ!!そんな言い方は無いだろ!」

ジレンの罵声に批難するプライド・トルーパーズの面々と困惑した表情を浮かべるカイ。

それを止めるかの様にベルモッドが話す。

ベルモッド「お前達、やめるのだ。・・あれは、ジレンなりの激励だ」

クンシー「し、しかしベルモッド様!」

ベルモッド「まだトッポは戦える。黙って観てやれ」

クンシー「は、はい!」

トツポ「無様は構わん……。だが、この程度だと……!!」
ジレン「守りたいのなら勝て。勝利こそが全て」

トツポ「ジレン……!」

ジレン「……無様なりに全てをぶつけろ」

悟空がトツポに向かってくる。トツポの眉間が険しくなりジレンに言われた通り無様なりに全てをぶつけるべく更に力を解放した!

魔獣の様なおどろおどろしい咆哮を上げるトツポ。

トツポの破壊のオーラが更に広がり肉体も膨大する!

男の脳裏に映る第1宇宙の民、今のプライド・トルーパーズの仲間達と失ったメンバー達。

片隅に置いていた記憶。破壊神となっても忘れられずにいた。
怒る……。そして、頭に掌を置き……。

トッポ「いらぬ物を映すな。俺は・・お前を倒す」

破壊

カイ「自分に破壊を!」

ベルモツド「そこまでして孫悟空に勝ちたいのか。トッポよ・・」

トッポは自身の頭に破壊を行い記憶を失わせる様にし視線に映る一人の男を倒す事を強く決意する。

無の界全体に響き渡る咆哮と共に巨体が悟空目掛け突撃してくる!!

ビルス「あいつにはもう悟空しか見えていない」

ウイス「破壊神としてのプライド。獣の様な闘争本能。混じりあつたあの姿は正しく魔獣」

ウイス「もちろん、ただの魔獣ではなく破壊神の力も宿す狂獣。お互い長くは持たないでしょう」

ビルス「これで決着がつく。悟空、あいつを破壊神を超えてみろ！」

付けようぜ：決着を 神次元の極致！身勝手の極意孫悟
空VS破壊神トツポ!! 後半

観覧席で見守るプライド・トルーパーズの面々は豹変したトツポに驚愕する。
敵しながらもチームを牽引しどんな悪にも勇猛果敢に立ち向かった自由の戦士。

が、武舞台にいるリーダーはもはやプライド・トルーパーズ、ましてや自由の戦士と
は程遠い破壊と勝利に全てを注いだ魔獣と化していた。
言葉を失う面々。だが、それでも勝たなければ消滅。

張り詰める空気が漂う第1宇宙の観覧席に一人の男が重い口を開ける。

カーセラル「・・俺達の知っているトツポではないがそれでも武舞台で戦っているの
は紛れもなくトツポだ」

カーセラル「今は応援しても雑音にしかならんだろう。・・それでも、俺はリーダー
を・・トツポを信じる」

ココット「將軍……」

デイスポ「決まってるだろ。破壊神であろうとトツポはトツポだ」

ケツトル「必ず勝ってくれるさ。俺達のリーダーは」

ゾイレー「それにジレンもいる。絶望だなんて微塵にも感じねえ」

ブーオン「戻ったら真つ先に脱落した俺は怒られるだろう。いつもの感じだな」

タツパー「リーダーなら必ず孫悟空を倒せる！」

クンシー「將軍。俺達は驚いてはいるがリーダーに対する信頼は変わっちゃいないぜ」

カーセラル「お前達……そうだったな。すまん」

ベルモツド（いい仲間恵まれたな。トツポ、ジレン）

激しい拳と拳のぶつかり合い。

今度は逆に互いの攻撃が当たらない撃ち合いに。

身勝手の極意の力に匹敵する解放されたトツポ。

その力に全宇宙の破壊神が驚き戦いの行方を見守っている。

ビルス「身勝手の極意を相手にひけを取っていないとはな」

ウイス「動物の本能とでも言うのでしょうか？悟空さんが攻撃を繰り出す度にトッポさんは自然に身体が動き回避行動を取っています」

ビルス「まさか、あいつも身勝手の極意を？」

ウイス「それは違います。非常に特殊な状態である事は確かなのですが」

ウイス「闘争本能を剥き出しにしながらも心は落ち着き脳に伝えずとも身体が動いているのです」

クリリン「・・・悟空を倒す為だけに戦っているんだよな。ベジータのそれとは全く違うけど」

ウイス「トッポさんの頭には転位行動そのものが見受けられません。全て己の本能のみで戦っているのです」

悟空「・・・!!!」

トッポ「ガアアア!!!」

拳がぶつかる度に足場が衝撃で割れていく。

ジレンは腕を組みながら悟空達とは別の足場で二人の戦いを静観している。

盟友であるトツポの何もかもを捨てきった戦闘を見届けるのと身勝手の極意の孫悟空の力をじっくり見たい理由もあつた。

ベジータ「ジレン！俺を無視するなあ!!」

急降下しながら攻撃を仕掛けるベジータにジレンは強めの目力で吹っ飛ばし改めてトツポと悟空のバトルを静観。

あまりの強烈な目力でベジータはブルーが解け悟空達がいる足場で倒れてしまう。

18号「どんな目力なんだい・・・」

悟飯「ベジータさんが相手でも動かさずとも吹っ飛ばせるなんて・・・」

セル「いつまでも貴様の思い通りになると思うなよ・・・!!」

シャンツァ「なるよ」

セルのエネルギー弾をキューブ状に分解して瞬時に移動してかわし背後に回る。
しかし、セルはそれを読み身体をひねりながら右手で叩き付ける様にシャンツアの顔をぶつけ地に無理矢理ひれ伏させる!

シャンツアにひたすら攻められ怒りが込められている一撃だ!!

セル「ふん!!」

更に銀の気を纏わせ地にめり込ませる。

フリーザのゴールデン化の力と同じ気を放出させ威力を強める!

セルのパワーにシャンツアは追い込まれる・・かに思われた。

ガシツ!!

セル「ぐっ!!」

シャンツア「ビツクリした。が、所詮その程度」

両腕を伸ばし拘束し今度は逆にセルを地に叩き付ける！
ギリギリと絞め付けられていたが両手は動く。

セル「き、貴様は俺が必ず・・・」

ピシユン

ゴズツ!!

シャンツア「ギツ!!!」

瞬間移動しシャンツアを右エルボーを浴びせ衝撃波で吹っ飛ばす！

シヤンツアは直ぐ様空間移動でセルの背後に回り透明の気弾を放とうとしたがバリアーで弾き飛ばされた。

セル「それはバリアーでは防げんからな」

シヤンツア「ギギギ・・・!」

トツポ「ガア!!!」

悟空「グツ・・・」

ピッコロ「さつきから悟空の攻撃が見えやすくなっている」

ウイス「・・・そろそろ身勝手の極意が切れかかっているのでしょうか」

シン「けれどトツポの方も様子がおかしいですよ」

トツポ「ゼエー、ゼエー・・・」

トツポの口から黒い煙みたいな物が漏れている。

トツポも苦しそうに息を上げるが集中は途切れていない。

それは、悟空も同じ。互いの激しいラッシュが繰り返される！

悟空「オリヤリヤリヤー！！！！」

トツポ「ヌオオオー！！！！」

バチィ！！

ズドツ！！

悟空「ウワア！！」

トツポ「ウゴオ！！」

ビルス「悟空！」

ベルモッド「トツポ！」

両者の拳がお互いの頬にクリーンヒットし両者ぶっ飛んでいく!!
離れながらも両手から極小破壊エネルギー弾を放つトツポ。

その極小破壊エネルギー弾をかわしながらトツポに近づく悟空。

トツポ「ガフツ・・・ヌゴオオオ!!!」

悟空「ウグア・・・ハアアア!!!」

黒い煙を大きく吐きながらも突撃。

身体に電撃が走る様な痛みが迸るが退かずに突撃。

二人の神は止まらない。身体が無茶苦茶になってもいい。

お前を倒す

おめえを倒す

突き動かす物は己の意思と意思だけ。

止められた戦いの決着を今ここで付ける。

頭ごなしに考えるなんてしない。

正義だとか関係ない。

あいつを倒す。

トツポ「俺は負けん!!」

悟空「オラだって負けねえ!!」

全王「二人ともカッコいいのね！」

未来全王「興奮するのね！」

アナト「二人の力は拮抗しています。こちらにまで戦いの余波を感じ取れる程に……」
イワン「このまま行けば互いに力が尽きるであろう」

アナト「孫悟空があの力を極めれば話は変わりますが・・・」

アラク「もしも、力の大会に我が宇宙が出場していたら危なかったかもしれない」

オグマ「もしもではありませんよアラク様。出場していたらと思うと・・・ああ、恐ろしい!」

イル「これからはもつと計画を立てて人間レベルを上げないと」

リキール「それなりに強い人間も計画の不備になると破壊してしまつたな・・・」

コロン「全王様のご機嫌次第では第8宇宙も出場していたかもしれないですよ。何せギリギリの合格ラインなのでしたから」

イル「うつ・・・そ、そうではありませんな」

リキール「くつ・・・」

ジーン「いつ限界が来てもおかしくない緊迫した展開。あの二人の思考も似たような感じだろう」

アグ「最初は殴り合っていたのに対し今はかわし続け攻撃をぶつけ合う。確かに思考

は同じで」

ジーン「ならば限界が来る瞬間も同じかもしれないな。どちらも苦悶の表情を出さずにいるが間違いなく身体への負担は大きい。効果が切れた後立てなくなるほどにな」

悟空とトツポは徐々に攻撃のスピードが緩やかになっていく。

手を休めよう物なら一気に押され負けてしまう。

限界等当に越えており残っているのは意地だけと言つてもいい。

悟空「ハア、ハア・・ラアアアア!!!」

トツポ「ゼエー、ゼエー・・ウオオオオ!!!!!!」

悟空『オラが悪ならおめえが正義のヒーローだな』

トツポ『口を閉じろ』

悟空『拳で会話するつちゆうわけか』

トツポ（悪も正義もない。お前とは拳で会話するのが一番分かり合える）

悟空『ありがとなトツポ』

悟空『オラこんなワクワクを待ってたんだ』

トツポ『悪に感謝されるいわれはない』

悟空「・・・へへ。ギリギリなのによ。ワクワクが止まんねえ」

あの時の決着を、続きを。

燃え上がりそうな双方の肉体。動けば動くほど熱く呼吸が苦しくなる。
止められない。止めれば負ける。

トツポ「ヌン!!」

悟空「ハアア!!」

拳と拳がぶつかる。退けない二つの拳。

気合の掛け声と共にもつと押し合いが激しくなり爆発する！
爆発した影響で両者吹っ飛び離れてしまう。

トツポ「やるしかない・・・」

トツポは両手を合わせ力を込め少しずつ両手を離していくと破壊玉が現れる。

悟空「かー・・・」

悟空も同じ気持ちだった。これが最後のぶつけ合い。
決着を付けなければ共倒れになる。

引き分けは認めない。勝利を掴むべく最後の攻撃に!!

トツポ「ヌウウ・・・」

悟空「めー・・・」

トツポ「行くぞ・・・」

悟空「はー・・・」

トッポ「これが全力の・・・」

悟空「めー・・・」

トッポが作り上げた破壊玉は悟空がジレンにぶつけようとした元気玉と同じくらい
の巨大エネルギー玉だ。

悟空が溜めている全力のかめはめ波も相当な威力であろう。

大神官「いけませんねこれは」

大神官が二人の全王を守るべくバリアーを張る。

観覧席もウイス、マルカリータがバリアーを張り観覧席にいる戦士、神々に攻撃が当
たらぬ様になっている。

ビルス「これで決まる・・・」

ベルモッド「・・・」

トツポ「破壊の力だ!!!」

悟空「波———!!!」

暗い紫色のエネルギー玉と蒼白の光の線がぶつかり合う!!

これで押しきった方が勝ち。押されると負け。

単純明快。力と力のぶつかり合い。

別の足場から見ていたジレンもこのぶつかり合いは危険と判断し更に離れた場所から決着を観戦していた。

トツポ「俺は・・・お前に勝つ!」

悟空「ウグググ・・・」

トツポの破壊玉が押していく!!

悟空が力を更に入れる。それでも押すのを止めるのがやつとだ!

カイ「そのまま押しきるのですトッポ!!」

シン「悟空さん!!!」

トッポ「俺は勝たねばならんのだ!!」

悟空「オ、オラだつて・・・勝たなきやなんねえ・・・!」

トッポ「破壊神である以上負けてはならん!!ガアアア!!!」

悟空「オラは・・・オラは・・・!!」

悟空の頭に浮かぶチチや悟天や牛魔王のおっちゃん。

出会った人達やあの世にいる孫悟飯のじいちゃん。

今も残つて戦うベジータやセル。

そして、観覧席で見守る悟飯、クリリン、じつちゃん、天津飯、ピッコロ、18号、17号。そして、ビルス様やウイスさん。

消滅なんて絶対させねえ．．!!

ジレン「．．．ん!?」

悟空「神だとかそんなのどうだっていい．．ただ、おめえに勝ちてえんだ．．!」

ビルス「悟空の気が強くなっていないか!？」

トツポ「勝ちたいのは俺も同じだ!これでしまいだあ!!」

トツポは更に破壊玉を作り破壊玉同士を押し合いかめはめ波を押ししていく!
ウイスは悟空の異変に気付き天使らしからぬ驚きの顔を出してしまっていた。

ウイス「更なる段階に．．もしもそれならば．．」

マルカリータ「ま、まさか．．．」

悟空「ハアアアアア

!!!!!!!」

トツポ「な、何!？」

今度は破壊玉が押され悟空のかめはめ波がトツポを押ししていく!!

破壊玉を押しかめはめ波を押し返そうと力を振り絞るトツポ。

悟空は気付いていないが髪が白い光沢に包まれていた。

ウイスはそれを見て確信したのだ。

ウイス「あれこそ極み・・！」

ビルス「・・し、信じられん」

トツポ「俺は・・お、俺は・・!!」

トツポ『私が破壊神に!？』

ベルモッド『ああ。だが、破壊神になるという事は正義も悪もなくなる』

マルカリータ『けれども、絶大なる力を得るのですます』

トツポ『力・・』

カイ「トツポが!!!」

デイスポ「トツポー!!!」

大きな雄叫びがどんどん小さくなる。

かめはめ波に押され武舞台から離れそして・・・。

大神官「第1宇宙トツポさん。脱落です」

カーセラル「トツポ!!」

デイスポ「嘘だろ!?!トツポが敗れるなんて・・・」

カイ「な、何て事です・・・残り一人・・・」

悟空は力を使いきりその場に座り込む。

身勝手の極意の効果が切れ到底まともに動ける状態ではない。

そんな悟空に向け空気の入った拍手をする者がいた。

ベルモッド「素晴らしいよ孫悟空。まさか、破壊神になったトツポを倒してしまうとは」

カイ「ベルモッド様!？」

拍手をしていたのはベルモッドだった。残り一人なのに余裕の表情。

それもそのはず。残り一人、その一人こそが第11宇宙最強の存在だからだ。

ベルモッド「その力をもっと見たかった物だ。実に惜しいよ」

ビルス「くっ……」

シン「何を言ってるのですか!?!こっちは3人、時間も僅か。逃げ切れれば私達の勝利です!」

シンの正論にカイは何も言い返せないがベルモッドはニタリと口角を上げ言い返す。

ベルモッド「バカだね君は。今、一番ピンチなのは第7宇宙だと気付かないのか?」

シン「そんな事・・・」
ビルス「お前達ー!!!」

ビルスが立ち上がり物凄い声量で悟空達に呼び掛ける。
ビルスとウイスは気付いていた。

トッポは身勝手の極意を使わせる為の身代わりに過ぎないと!

ビルス「もう、落とす必要はない!逃げろ!逃げ切れー!!」

キテラ「キキキキ・・・こっちは残り二人。弱っている孫悟空ともう一人を落とせば俺達の勝ちだ!」

キテラ「シャンツア!孫悟空をまずは落とせ!!」

シャンツア「分かった」

セル「逃がす物か!」

シャンツアは悟空の前に空間移動で現れ脱落させようと手を伸ばしたがセルが瞬間

移動でそれを防ぐ。

セル「さつさと逃げろ!!」

悟空「う、動けねえんだよ。身体が言うことを聞かねえ・・・」

セル「・・・ふん!」

悟空「うわあ!!」

悟空を強く投げ飛ばしセルJr.を一匹出しある命令を下しセルJr.を宙高く投げ飛ばし戦闘に入る。

シャンツァ「無駄」

セル「さて・・・どうするか」

ジレン「まだやるのか」

ベジータ「俺は勝ってあいつ等の約束を果たす・・・」

ジレン「下らん」

激闘の末、破壊神トッポを倒した悟空。

しかし、悟空はもう戦える状態ではなく第7宇宙はベジータとセルの二人に運命が掛かっていた!

果たして3人は生き残り第7宇宙を守る事が出来るのか!?

力の大会終了まで残り1分!

続く

絶対絶命!! さよなら孫悟空!?

前半

ベジータはジレン相手に距離を離しながらエネルギー弾を撃ち続ける。

力の大会終了まで一分を切り何がなんでも勝ち超ドラゴンボールを手に入れる為、攻めるのを極力控え目にし逃げを計っていた。

ジレン「逃げるつもりか？」

ベジータ「俺は超ドラゴンボールを手に入れあいつ等の約束を果たす。その為には手段等選ばん！」

ジレン「約束か・下らん」

ベジータ「能面野郎には分かるはずもないだろうな」

強気なベジータだが実力差は明白。プライドが本来は許さないのだが、ブルマ達家族、約束したキャベ。

それを無くし破る訳にはいかない。ベジータらしからぬ逃げの立ち回りが続く。

ビルス「いいぞベジータ。恥じる事はない」
ベルモッド「ちよこまか逃げてても同じだ・・・」

ジレンが瞬時に背後を突きベジータの後首に重い拳をドンとぶつけ気を失わせようとした。

ジレンの一撃に倒れそうになったベジータだがブルマの姿が脳裏に浮かぶ・・・。

ブルマ『ベジータ! しっかりしなさいよ!』

ベジータ「チツ・・・いちいちでしゃばるってくるな・・・」

ジレン「ん!？」

右足で踏ん張り耐えたベジータ。

ここで倒れたら終わりだ。耐えろ：帰りを待っている。ブルマ、トランクス、ブラ、ブルマの父母。

格上相手でも戦いから逃げなかったベジータ。今回は逃げに徹する戦いで無様で情

けない事等分かっている。それでも・・・！

ベジータ「笑うなら笑いやがれ・・・俺には守りたい物がある。貴様には何かがある？宇宙以外にな」

ジレン「時間の無駄だ」

ジレンはベジータにひたすら攻撃を浴びせる。

ガードに入るだけで精一杯なベジータ。止まらないジレンの連続攻撃に耐え続けた。いた。

大神官「残り45秒」

コニツク「キテラ様。これ以上は・・・」

キテラ「ああ、分かっている」

セルはシャンツアの攻撃に時たま反撃に入るがそれでも空間移動や時飛ばしを使われ攻撃が当たらない。

何よりもシャンツアは空間移動で身勝手の極意を使い果たして戦えない悟空を集中的に狙いにかかっている!

シャンツア「キシシャー!!」

セル「次は何で来る? 時飛ばしか? 光速移動か?」

セルは構えていたがシャンツアは空間移動で悟空を再度狙う!

その度に瞬間移動でシャンツアから攻撃を防ぎセルJr. 2体が悟空の警護に入り悟空を担いで移動する。

セル「いい加減にしろ。貴様の相手は俺だ」

シャンツア「・・・孫悟空倒す」

悟空「すまねえな・・・」

セルJr. 1「ウキヤキヤ」

セルJr. 2「ウキツ!」

セルも不本意だが悟空が落ちようものなら第4宇宙と並んでしまう。

セルJr. 2体を出し更に悟空を守らせていた。

それでも、残り時間内でシャンツアを倒し悟空を守れるかは分からない。

セル「行くぞ！」

シャンツア「……」ニタリ

シャンツアは動かない。隙だらけだ。

だが、何かあるかもしれないとセルはシャンツアに近付いた時に瞬間移動で背後から攻撃を仕掛けた！

ビシッ!!

セル「何だ!？」

シャンツア「バカな奴。ガア!!!!」

セル「グオオオオ!!!」

セルが殴りかかろうとした時に突如右足下を何者かに叩かれバランスを崩しその隙をシャンツアが振り向き口から怪光線を吐き吹き飛ばす!

セルはもちろん第7宇宙の観覧席にいるクリリン達もそれが何かすぐに把握していた。

天津飯「虫の戦士か・・・」

亀仙人「細胞を採取するだけでなく相手に気付かれない様に援護も出来るとは・・・」

キテラ「キキキキ!! よし、シャンツア! 今度こそ孫悟空を叩き落とせ!!」

セル「下らん搦め手を・・・」

シャンツア「孫悟空倒す」

シャンツアが空間移動で孫悟空の前にまたも現れた。

だが、そこには二人の小さな戦士が迎撃の体勢に入っている！

セルJr. 1・セルJr. 2 「ウキヤー!!!」

セル 「バカは貴様だ」

シャンツア 「ウギヤ!!」

両者はかめはめ波を放ち空間から現れたシャンツアにぶち込む！

シャンツアは空間から吹っ飛び瓦礫が崩れ落ちていったが背中 of 管から飛び脱落を免れる。

17号 「あいつには飛行能力もあつたな・・・」

18号 「飛行能力と空間移動か。脱落させるには気絶させるしかないじゃないか！」

シン 「脱落対策も完璧とは・・・試合開始の小さな姿の時に落としていれば・・・」

クル 「あえて小さな姿で目立つ事はせず隠れていたのです。私もシャンツアの本性を

知らなかったたのであの姿に変身した時は身の毛がよだちました」

老界王神「確か第4宇宙では極悪人であったの」

クル「邪神と呼ばれ1000年程前に第4宇宙は破滅の危機に陥りました。星を見ては荒らし壊し生命も奪う。ただ殺戮を繰り返し邪念の心しか持たない」

クル「キテラ様も当時はまだコニツク様に鍛えてもらっておらず苦戦していました。が、死闘の末何とか倒せました」

キテラ「クル! 余計な事を言うな!」

シン「破壊はしなかったのですか!?!」

キテラ「破壊等するか。いつか第7宇宙に送り込むつもりだったからな」

セルは新たにセルJr.を一体出しシャンツアに立ち向かう。

シャンツアは右手にサーベル状のエネルギーを出しセルに斬りかかる。

シャンツア「斬る」

セル「ふん・・」

セルの右腕が斬られる。わざと斬られて斬られた右腕からエネルギー弾を放とうとしたがその前にシャンツアに腕を取られてしまう。

シャンツアがセルの右腕を左手に取りエネルギーギアを集中して与えると何と一つの剣に！

クリリン「け、剣!?何なんだよあいつ・何でもありかよ」

ビルス「くっ・・自身の能力で出した武器だからありだな」

シャンツア「僕には勝てないよ」

セル「ふっ・・貴様を倒す術なら既に考えてある」

ピッコロ「ベジータがまずいぞ！」

ビルス「くうっ・・」

ジレン「約束等すぐに破れる物だ」

ベジータ「だ、黙れ……」

ジレンにひたすら拳を浴びせられ自身の力不足に怒りを覚える。それでも耐える。勝ち目がないのは分かっている。それでも、それでもベジータは立ち上がる!

大神官「残り33秒」

ベジータ「頭に来るが……貴様を落とす必要はもうない。俺が勝てなくても第7宇宙が勝てばそれでいいからな!」

ジレン「勝負はもうついている。だが、お前をそこまで突き動かすものは一体なんだ? 守る物があるだけでここまで動ける物なのか?」

ベジータ「貴様には永遠に分からんだろうな……能面野郎の脳内等知り得たくもないがな」

ジレン「ふん。終わりだ」

ベジータ「終わるのは貴様だ……。ジレン!!」

消えろ

掴まれる首から紅いエネルギーの光弾の光が漏れている。

それでも、ベジータは諦めていない。

ジレン「プライドが高いだけでは何も救えん。強さこそが全て。それ以外はいらん。仲間も家族もな」

ベジータ「クツ・・貴様の意見も、この戦いでは最もだ・・強さこそが全てなのは・・だがな」

ジレン「・・ん?」

ベジータ「俺はいつのまにか・・家族に情を持つようになった」

ブルマ『ベジータ!』

少年トランクス『パパ!』

ベジータの脳内に響く家族の声。

未来トランクス『父さん!』

別世界の家族の声も響く。

ベジータ「……気に入らなかった。俺は悪人に戻って戦った事もあった。それでも捨てきれずにいた」

ジレン「……」

ベルモット「何をしているジレン! さっさと落ととしてしまえ!!」

ベジータ「俺は……あいつ等を守る為なら死んでも構わん」

ジレン「ふん……家族か。いてもいなくても同じだ。強さの障害になる」

紅いエネルギー弾がベジータの首に放たれ吹き飛ばされる……かに思われた。

ベジータはそれに耐え赤く燃える炎のオーラと超サイヤ人ブルーのオーラでジレンの左頬に強烈なパンチを浴びせジレンが一瞬怯んだ!

ビルス「あの時、僕を殴った奴だな。怒りに震えているねベジータの奴」

ベジータ「貴様の様なひねくれたガキに宇宙が消滅される等、死んでもごめんだ。俺は・地球の代表として誇り高きサイヤ人として戦うベジータ様だあ!!!」

ジレン「面倒な奴だ」

ベジータ「くらいやがれジレン!!ファイナルフラッシュ!!!!!!」

最後の力を振り絞ったファイナルフラッシュがジレンに直撃!

ファイナルフラッシュに当たった足場は次々と消えていく。強力無比な威力であるのは確かだ!

それでも……。

ジレン「戦士よ。眠れ……」

グオアアアアアア

!!!!!!

ベジータ（：約束を果たせないとはな。俺はとんだ馬鹿野郎だ。すまない、ブルマ、キャベ……。カカロット、セル……。後は頼んだぞ……。）

ジレンは何事もなかったかのように一気にベジータにつめより右拳を顎にクリーンヒットさせベジータをぶっ飛ばした！

ベジータは右手からエネルギーの塊を放ちそれを離れている悟空の小さな気を感じ取って放つ。ぶっ飛ばされた時に涙を流しながら……。

シャンツアがそれを奪い取ろうと空間移動しようとするがセルがそれを抑える。

セル「……孫悟空の物だ。貴様が触れていい物ではない」

シャンツア「グギギギ・・・」

大神官「第7宇宙ベジータさん。脱落です」

ピッコロ「ベジータ!」

悟飯「ベジータさん!」

ベジータは氣を失っておりウイスが回復させる事によって目が覚める。
後少しだった。後少し耐えれば時間切れで第7宇宙は勝っていた。

大神官「残り25秒」

ビルス「ベジータ。お前は本当によくやったぞ」

ウイス「ここまで戦い抜いたのです。お疲れ様です」

ベジータ「ふん・・・」

キテラ「さあ、残り人数が並んだぞ!! ジレンの奴が孫悟空を狙ってくれるのなら好都

合なんだがな」

ベルモツド「落とすべきはまずは第7宇宙だ・・ジレン。お前に全てを任せるぞ」

セル「さつさと落としてやる。セルJ r. よー！」

セルJ r. 「ウキヤキヤ!!」

セルは超サイヤ人とフリーザのゴールデン化と同じ効力の気を放ち抑えていたシャ
ンツアを蹴飛ばしフリーザがクリリンを爆死させる時に使った超能力でシャ
ンツアの動きを止める。

そして、セルJ r. は萬國驚天掌で更にシャンツアを封じる。

シャンツア「ギギギ・・下らない・・」

それでもシャンツアは少しずつ動きつつある。

セルとセルJ r. はアイビームをひたすら乱射しシャンツアを追い込む。

握る拳も弱くなり握り締めていた剣を地に落としてしまう。

セルは全力で抑えに来ている。足下から虫の戦士が攻撃出来ない様にバリアーも

張っていた。

激しく気を消耗しているがそれでもシャンツアを落とすべく全力のパワーで超能力を放つ!

ビルス「あえて足場の下まで移動したのは脱落を早くすませる為か」

クリリン「よし! 超能力が効いてきた。あの技は思い出したくないけどな」

天津飯「足場から離れた。後は動かせない様に超能力で場外に落とすだけだ!」

キテラ「何しているシャンツア!! そんな超能力さつさとぶち破れ!!」

コニツク「やるしかありませんね」

キテラ「チツ・ジレンは諦めざるを得ないな。ダモン!!!」

ダモン「勝つのは第4宇宙だ!!」

緑色の極小サイズの小さな虫の戦士が徐々に超能力で落ちていくシャンツアに飛び

乗り左耳に侵入する。

すると、またもシャンツアが発狂する！

ピツコロ「あれは・・・まさか！」

大神官「第4宇宙ダモンさん。自滅でございます」

キテラ「これで残りはシャンツアだけになったが・・・第7宇宙は確実に消滅する！」
クル「残り人数が並んだままで終わるとどうなるのでしょうか？ルールブックにはそれについては載っていませんでしたので」

キテラ「普通に考えりや落とした戦士の数じゃねえのか？」

コニツク「それは分かりませんがそうなるのなら第7宇宙が圧勝ですね」

キテラ「尚更消滅させなきやならねえ・・・」

シャンツア「・・・」

ピシユン

セル「ち、ちくしょう・・・！」

セルの超能力とセルJ r. の萬國驚天掌を解き瞬間移動でセルの背後に。背後から感じる強大な存在・・・。劍を拾いセルの腹部を突き刺す！

セル「ぐふあ・・・!!」

セルJ r. 「ニゲロ！」

セルJ r. は逃げ出し足場に立つのはセルとシャンツアのみに。

シャンツアは残り時間の事を考えセルを蹴り飛ばし直ぐ様場外へと落とす準備に入る。

セル「ちくしょう……ちくしょ……!」

セルは頭に来て観覧席からシャンツァに攻撃を仕掛けようとしたがフリーザがそれで消滅した事を思い出しエネルギー弾を納め悔しい表情で右手に握り拳を作りながら観覧席に座った。

隣にはセル同様に悔しさを滲ませながら武舞台を観ているベジータ。両者話もせず黙っていた。

クリリン「あ、ああ……」

天津飯「残りは……」

亀仙人「悟空だけになってしまおうた……」

悟飯「父さん……」

大神官「残り16秒」

悟空「ジ、ジレン……」

ジレン「・・・」

ついに第7宇宙は悟空だけに・・・。ベジータに少しのエネルギーを貰ったとはいえまともに戦えない悟空と万全の状態のジレンと更に強化されたシャンツア。

第7宇宙にとって絶対絶望の16秒が始まる・・・。

絶対絶命!! さよなら孫悟空!? 後半

シン「あああ!!もう、ダメです!悟空さんはもう戦えないのに二人に狙われるなんて・・・」

クリリン「セルJr. 達もジレンが来ると分かって逃げちまった。何やってんだよ:悟空を守れよ!!」

ビルス「悟空・・・耐えてくれ」

大半の戦士が悟空とジレンを見つめる中、セルJr. がさつきから散らばっている事に気付いたベジータとピッコロ。

そして、気付く。セルが予め立てていたであろう策に。

ピッコロ「そういう事か」

ベジータ「奴等も一応は貴様が出した『物』扱いだからな」

セル「第1宇宙の奴が第3宇宙の奴と同士撃ちしていたのを目撃してな。脱落しても自分が出した能力は残る事が分かった」

カーセラルとカトペスラとの戦いでカーセラルが脱落した際にジャステイス・カプセルを出しカトペスラを封じ込めそのまま脱落させていたのをセルは目撃していた。

そして、エネルギーを分け与えたベジータのおかげで悟空はある程度なら動ける。もちろんジレンとシャンツアに勝てる可能性は0ではあるが・・。

大神官「残り10秒」

悟空「ぐあっ!!」

ジレン「終わりだ」

悟空「太陽拳！」

ジレン「無駄だ」

ズドツ!!

悟空「ウアアアアア!!!」

太陽拳も効かずジレンに蹴り飛ばされるがこの瞬間を利用し瞬間移動でセルJ r. のいる場所に。

だが、それを読んでいたシャンツァが待ち伏せしておりセルJ r. を紫のエネルギーの刃で串刺しにして殺し悟空の右肩が突き刺さる!!

シャンツァ「達磨になるか? 孫悟空」

悟空「ウギヤアアアアア!!!!!!」

キテラ「やれーシャンツァー!!!」

ベジータ「ブラックのエネルギーの刃か……! 他人の細胞を利用しやがって」

悟空「ぐっ……」

ピシユン

大神官「8」

シャンツア「生憎私も瞬間移動が出来る様になつてね」

ドズツ
!!!!

悟空「ウワアアアア
!!!!」

別の場所にいたセルJ r. ごと今度は左太腿に刃が貫かれる。
それでも、悟空は瞬間移動で別のセルJ r. がいる場所に移動する。

大神官「6」

キテラ「くそっ! 痛みを堪えて瞬間移動しやがる」

老界王神「後6秒じゃ・耐えてくれ」

セル(セルJ r. は残り二匹。孫悟空、ここで終わりたくなければ耐えろ)

セルJ r. 「ウキヤー!!!」

シヤンツア「フン」

悟飯「あれはオブニさんの技だ」

気の流れと体の動きをずらしセルJ r. の渾身の魔貫光殺砲を軽々とかわしカウンターで右拳がセルJ r. の腹部を貫き殺し悟空には右足で左腕を蹴飛ばし骨が砕ける。

悟空「ガッ……」

それでもかろうじて動く右手で最後の1体のセルJ r. がいる場所に……。

大神官「4」

悟空「!？」

シャンツア「何!？」

グワアアーン
!!!!

悟空「うわあああ!!!」

シャンツア「ジ、ジレンめー!!」

ジレン「・・・」

最後にいたセルJ r. の居場所は武舞台の大きな照明。

ジレンはそこで待ち伏せしておりセルJ r. を一方的に攻撃を仕掛け気を失わせた後、悟空とシャンツア両者を落とす為に両手でパワーインパクトを溜め叩き落としにかかっていた。

右手から放たれたパワーインパクトで悟空は宙へ吹っ飛びパワーインパクトが爆発し落ちていく。

左手から放たれたパワーインパクトでシャンツアは突然の攻撃に吹っ飛び爆発に巻き込まれるが気は失っておらず空間移動でジレンの目の前に現れ反撃を仕掛ける!

大神官「2」

シャンツア「やってくれたなあ!!」

ジレン「ふん」

シャンツア「なんて・・・」

ピシユン

大神官「1」

シャンツア「ばいちゃ。第7宇宙」

ズドツ
!!!!

悟空「お、おめえ……」

シャンツアが落ちていく悟空の胸部を踏みつけ更に落下速度を上げる。
シャンツアは空間移動で別の足場に立ち脱落は免れた。

大神官「0。そこまでです！」

大神官がコールするとジレンとシャンツアは観覧席に転送れる。

悟空は転送されずこのまま脱落すれば第7宇宙は消滅となってしまう。
悟空は落ちていく……シンはもう終わりだと目を覆う。

ピルス「くっ……悟空……！」

ベジータ「カカロット……これで終わる貴様ではないはずだ」

キテラ「もうすぐだ。第7宇宙が終わる!!」

クリリン「悟空ー!!」

悟飯「父さん!!」

悟空（オラが落ちちまったら第7宇宙が消えちまう・・・）

老界王神「運命を受け入れる覚悟は出来ておる・・・」

天津飯「悟空・・・」

トツポ「・・・孫悟空」

18号「マーロン・・・ごめんね」

17号「ここで終わるお前じゃないはずだ」

悟空（左足と左腕が動かねえ。使えるのは右足だけか・・・）

ウイス「最後まで戦い抜いたのですけどね・・・」

亀仙人「悟空、お前さんはよくやったわい。わしらにもっと力があれば・・・」

セル「俺達もいよいよ消滅か」

悟空（色んな事があつたな・・・ブルマ達と出会って・・・じつちゃんの元でクリリンと修行して・・・）

ピッコロ「・・・まだだ」

クリリン「ピッコロ？」

ピッコロ「悟空!!俺との戦いを思い出せ!!!」

悟空（ピッコロとの戦い・・・）

ピッコロ「俺がマジニアと呼ばれていた頃の時を!!」

悟空（・・・!!）

数々の激戦、死闘を繰り返して広げ沢山の技を使ってきた悟空。ピッコロとの空中戦であのまま地に叩きつけられそうになったけどカウンターで返した。

戦いの記憶の一つが悟空の身体を自然に動かす!

悟空「かーめー・・・」

ベルモット「何をするつもりだ!?!」

ビルス「悟空・・・?」

亀仙人「まさか!?!」

天津飯「思い出したぞ」

クリリン「ああ!俺もだ!!」

悟飯「一体何を・・・?」

悟空「はーめ・・・」

キテラ「無駄だ!!早く脱落しろ!!!」
クル「あの目は・・全く諦めていない!」

波——!!!
!!!

身体を何回転もさせ右足一本で放たれるかめはめ波!

第23回天下一武道会にて悟空はピッコロとの戦いで足からかめはめ波を放ちカウ
ンターを仕掛けた事があったのだ。

勢いよく放たれたかめはめ波だが後少しで場外判定になる場所からであったので一
番近い足場でもエネルギーが少ない悟空にとっては遠く感じる。

だが、ここで脱落すれば第7宇宙は消滅してしまう。

絶対に脱落してはならない!!!

悟空「オラが落ちたら終わりだ……。ここでオラがやらなきや誰がやるんだ」

ハアアアアア

!!!!!!!

全王「悟空諦めないのね」

未来全王「頑張ってほしいのね」

悟空のかめはめ波が大きくなる。もうすぐで足場に!
が、もう少しの所でかめはめ波が消えてしまう……。
そのまま悟空は……。

ガシツ!!

悟空「まだだ．．．後は登れば．．．グギツ．．．アアア」

かろうじて右手の人差し指と中指のみで足場にしがみつく。
右肩をシャンツアのエネルギーの刃で突き刺されている為、激痛が走る！

キテラ「しぶといぞ！諦めて脱落しやがれ！」

ベルモツド「くっ．．．まだ体力が残っていたか」

ジレン「．．．．」

ベジータ「カカロット!!ここで終わる事は俺が許さんぞ!!!」

悟空「べ、ベジータ．．．」

ベジータ「．．．貴様は俺が認めたNo.1だ。ここで落ちてみる。俺が直々に貴様をぶっ殺してやる！」

悟空「ベジータ、おめえ．．．．」

ベジータ「サイヤ人なら・・・これくらい」

越えやがれ!!!

あのベジータが檄を飛ばす。そして、クリリン達も応援している。

18号や17号もだ。セルは特に表情を変えちゃいねえ。

けれど、あいつの事だ。オラがこの程度じゃ落ちる様な奴じゃねえと思ってるんだろ
うな。

悟空「あんがとな皆・・・グツギギ・・・オラは・・・オラは・・・」

落ちねえぞー
!!!!!!!

——武舞台は静まり神々、戦士達も静まり返る。

ハア、ハア、ハア……

全王・未来全王「おーー！」

セ、セーフだよな……全ちゃん。

全王「凄い根性なのね！」
未来全王「うん。もちろん」

全王・未来全王「セーフ!!」

悟空「へ、へへ。やったぜ・・皆」

悟空は右肩の激痛も何のその。生き残る思いが痛みを上回り右手に力を振り絞り右腕を曲げ飛ぶ勢いで一気に足場に倒れ込んだ。

ギリギリの中、第7宇宙は悟空を残しまず消滅を免れたのだ!!

シン「ああ悟空さん!! 本当に！本当にありがとうございます!!」

悟空「ち、ちよつと界王神様。いてえつて・・」

ビルス「よくやったぞ悟空。これで戦士全員脱落からの消滅は免れた!」

悟空「へ、へへ・でも礼を言うならピッコロに言ってくんねえか。ピッコロの発言がなけりやあのまま落ちてたかもしんねえ」

ビルス「そうか。ピッコロ、お前も本当によくやったぞ!」

ピッコロ「・・・この後どうするのかが分からないのでは?」

ビルス「確かにな。だけども戦士を落とした数なら僕達が一番だよ。力の大会前提の判定なら第7宇宙が有利だ」

カイ「くつ・落とした戦士は第1宇宙が一番少ない・・・」

ベルモッド「・・・人間レベルが大事だ。私達の宇宙は免除までギリギリだったのだからな」

コニツク「第4宇宙は何もかも半端ですねキテラ様」

キテラ「うぐぐ・・・」

クル「・・・全王様の決断を待つしかありませんね」

力の大会は一旦時間が切れ終了となった。

第4宇宙、第7宇宙、第11宇宙それぞれ一人ずつ残り決着は付かず仕舞いに。
後は、大神官、全王二人の判断を待つ悟空達であった。

続く

3宇宙の運命 宇宙最大のくじ引き!

力の大会が終わり残った3宇宙はどうなるのかと残った宇宙の戦士、神々がざわめく。

人間レベルを重視するのか、それとも力の大会での成績を重視するのか。。。

全王「どの宇宙も一人ずつ残ったね」

未来全王「一緒だね」

大神官「私もこれは予想だにしていませんでした」

全王「どうする?」

未来全王「どうしよう?」

ベルモツド「全王様、大神官様。失礼ながら、
。」

大神官「はい。どうされましたか？」

ベルモツド「ここは人間レベルで判断されればと思ひまして・・」

キテラ「何言つてやがる!!」

ビルス「全くだ。大会の成績が重視だ！全王様が開いてくださったこの力の大会で一番成績を残した宇宙が勝者だ！」

キテラ「うっ・・・く、くそお・・・」

ベルモツド「お前達が残つた所で免除宇宙と比べたら惨めに思われるだけだ」

カイ「人間レベルがギリギリとはいえ出場するのは当然です。私達はこの力の大会出場を強く反省し更なる人間レベルの向上に勤しみたいと思ひます」

カイ「もしも私達を残してもらえらば100年、いえ、70年で第8宇宙と第5宇宙の人間レベルを越えてみせます！」

ビルス「何勝手に生き残ろうと思ってやがる第11宇宙!」

シン「そうですよ。宇宙を守る為に必死に戦った戦士達がいるのですよ!! 大事なものは必死に戦った戦士達の成績です!」

ベルモツド「お前達第7宇宙の人間レベルは下から2番目・いや、第9宇宙がいなくなつたから一番人間レベルが低いか。こんな荒れた宇宙が残つた所で全王様の手を煩わせてしまうだけだ」

ベルモツド「それに話によれば第7宇宙の別世界は全王様によって消滅させられたらしいな。そうだろ? マルカリータ」

マルカリータ「ええ」

ビルス「あれは第10宇宙のザマスが宇宙そのものになつてしまつたから仕方なかつたんだ!」

悟空「ウイスさん。一番成績を残した奴が優勝つちゅー事は一番戦士を落とした奴が最優秀賞つて事になんのか?」

ウイス「もしもそれで決まるのならそうなるでしょうね。第7宇宙で一番戦士を落としたのはブリアンさん、ナパパさん、ジラセンさん、ムリチムさん、悟空さんと悟飯さんと共同して落としたアニラーザ、ゴクウブラックと9人落としたセルさんが最優秀賞になります」

悟空「9人も落としてたんかセル！」

セル「第10宇宙の雑魚共3人を落としたのは大きかった。私が優秀賞に選ばれたなら分かっているよな孫悟空？」

悟空「ああ。一番戦士を落とした宇宙が優勝って決まったらな」

ウイス「次に多く落としたのはボタモさん、オブニさん、ガノスさん、共同して落としたアニラーザ、デイスポさんと8人落とした悟飯さんですね」

悟空「悟飯も落としてんなあ」

ウイス「悟空さんはアニラーザ、トツポさんと5人です。ジレンさんとの戦いで大きなダメージを受けたのは痛かったですね」

クリリン「俺とピッコロは誰一人落としてないな・・・」

悟飯「でも、クリリンさんとピッコロさんはサポートの方で凄く活躍したじゃないですか」

18号「リブリアンとの戦いはクリリンがいなかったら危なかったからね」

悟空「ピッコロがアニラーザの弱点見つけたしな」

ピッコロ「だが、あの時の力は出せん。同化して得た力だったからな。脱落したと同時に第6宇宙のナメック星人の同化が解かれてしまいもうあの様な力は出せない」

シン「ナメック星人の同化が解かれるなんて事があるのですか？」

ピッコロ「普通ならば解かれる事は無いのですが流星にそこは大神官様のお力と言うべきで・・・」

ビルスとベルモッドの言い合いが続き二人の全王はどうするかと考えていた。宇宙消滅がかかっているのが当然、二人の破壊神は必死の形相になっている。仕舞いには取っ組み合いに・・・。

そんな中、今まで静かにしていた第4宇宙の破壊神キテラが口を開く。

キテラ「最終決戦だ!!」

ビルス・ベルモッド「何だと？」

キテラ「全王様。もう一度戦いを観たくはないでしょうか？」

全王「また戦ってくれるの？」

未来全王「くれるの？」

キテラ「はい。ただし10人ではなく3人が戦うという形式で」

ベルモッド「・・・3人だとプライド・トルーパーズの3精鋭も入れられる。だが、するかしないかと言われたらしたくはない」

ビルス「・・・このままだと力の大会の成績も人間レベルも中途半端な第4宇宙が一番高い確率で消えるだろう。必死だな」

ビルスの発言にイラつと来るもそこは抑え全王に懇願するキテラ。

二人の全王はまた戦ってくれるのならと興奮気味になり即決する。

全王「いいね。やってやって」

未来全王「やってやって」

キテラ「もちろんでございます!ただ少しばかり作戦会議と大会中に死んだ戦士の復活を許可できないでしょうか?」

ビルス「勝手に決めるな!」

大神官「ふむ・・・このままでは埒があかないですね」

全王「大神官。また戦うの観たいのね」

未来全王「観たいのね」

大神官「お待ちください全王様。第7宇宙と第11宇宙の意見も間違つてはおりませ
るので・・・」

ビルス「もしもキテラの意見が通つてしまうのなら悟空、ベジータは確定だろう。
ピッコロはあの力はもう出せないとなると悟飯かセルか・・・」

悟飯「ビルス様。僕よりもセルの方が強いと思います」

セル「ほう、少しは弁えているな」

ビルス「お前の無我の境地は強力だと思うが・・・」

悟飯「あの力を発揮してもブラックには敵いませんでした。セルはその点、攻めきれ
ていたので・・・」

ビルス「そうか・・・お前がそこまで言うのなら・・・。セル、もし最終決戦になるのな
ら頼んだぞ」

セル「ご期待に応えられる様戦いますよ。破壊神様」

ビルス「ちよつと嫌味つたらしい言い方だね君・・・まあいい・・・最終決戦はしたく
ないね」

全王「え〜っ。最終決戦観たい〜」

未来全王「観たい〜」

大神官「ではこうしましょう」

大神官が指をパチンと鳴らすと無の界の宙高くに3つの武舞台の照明と同じサイズの惑星が現れた。

赤、青、黄色とそれぞれの惑星があり大神官がその惑星に指をさす。

大神官「くじ引きといたしましょうか」

ビルス「くじ引き・・・ですか？」

ベルモツド「一体どことなくじ引きをなされるのでございましょうか？」

大神官「簡単です。破壊神の3人が惑星を選び惑星を破壊し内一つが綺麗な花火を放ちます。花火を放った惑星が当たり惑星と当たった方のルールに乗っ取るという形に致します」

大神官「後、この惑星は無人の惑星なので安心して破壊してください」

全王「くじ引き楽しそうなのね」

未来全王「それで決定なのね」

キテラ「な、なるほど．．．それでは俺から．．．」

ビルス「何を言ってるやがる。僕からだ！」

ベルモッド「．．．順番すら決めるのにもキリがないな。どうせ運なのだから私は最後まで構わないよ」

キテラ「なら、腕相撲で決めようぜ」

ビルス「ふざけるな！自分が有利な条件ばかり選びやがって．．．」

キテラ「キキキキ。お前は俺に負けたからな」

クリリン「えっ？俺はてつきりビルス様が腕相撲で負けたのは第1宇宙の破壊神と
思っていたのですが．．．」

ウイス「いえいえ、ビルス様が腕相撲で負けたのは．．．」

ビルス「ウイス、余計な事を言うな！」

キテラ「認めるよビルス。お前は負けたってな」

クリリン「何だかややこしいな。ウイスさんの発言通りだと第4宇宙に破壊神ですらかなわれない人間がいるんじゃない」

ウイス「あの時は少しばかりの発破をかけたのですがビルス様もそれにのっちゃいましたね。けれども・・もしかすると第4宇宙にも本当に破壊神に匹敵する人間が出てくるのかもしれない」

第4宇宙に視線を向けるクリリン。

第4宇宙の戦士達は惑星を見ていたが一人だけ目を瞑り眠りについていた。

シャンツア「・・・」

クリリン「俺の細胞も採られていたりするのかな・・」

ビルス「じゃあ僕からだね」

キテラ「くそっ!!」

結局はウイスの提案でじゃんけんで決めビルスが勝ち一番最初に惑星を選ぶのはビルスに。

ビルスは黄色の惑星を選んだ。

キテラ「じゃあ、俺は青だ。ビルスに一番近い色だから破壊しがいがあるぜ」
ビルス「僕も本気で破壊してやるからな」

ベルモツド「それでは私は赤か」

大神官「皆様選びましたね。では、お願いします」

3人の破壊神が破壊玉を手から出し惑星に向けて放たれる。

これはただのくじ引きではない。宇宙の運命をかけた史上最大のくじ引きだ！
各界王神と戦士達からは緊張の汗が吹き出る。

クリリン「お願いします。神様、仏様、ビルス様。当たってください」

悟飯「これで決まる・・・」

トツポ「ベルモッド様が当たりを引けば我々の消滅は免れる」

デイスポ「第7宇宙が当たりを引いたら第4宇宙と共に消滅か・・・」

キャウエイ「消滅なんていやよ・・・キテラ様ー!」

ガノス「皆キテラ様を信じろ!」

シャンツア「・・・」

破壊玉が飛んでいき惑星に触れる。

3つの惑星が同時に爆発し運命が分かる!

ビルス「・・・くっ」

ベルモツド「……」

キテラ「……!!」

大神官「花火が出たのは……」

青の惑星でございますね。

キテラ「よし!!!」

クル「消滅は免れましたね」

ベルモツド「消滅は免れたが・・・」

ビルス「最終決戦になるか・・・」

大神官「それでは第4宇宙の提案である『力の大会最終決戦』と致しましょう」
キテラ「よろしくお願いいたします」

全王「また戦いが観れるのね」

未来全王「ドツキドキなのね」

大神官「免除宇宙を含む各破壊神は武舞台の修理をお願いします。一部破壊された武舞台の破片は再生させておきますので。それまでは各戦士の皆様はインターバルとなります」

大神官「ルールは先程と同じく自分の能力で出す物以外の武器の使用は禁止、殺しも禁止でございます。ただし、最終決戦となるので時間は無制限、戦士は各宇宙3人とまでとさせていただきます」

シン「時間は無制限ですか・・・」

老界王神「逃げてても無駄というわけじゃない」

大神官「後、この大会で死亡した戦士の復活も認めます」

コニツク「良かったですね。それでは・・・」

コニツクがガミサラス、ダモン、シヨウサに杖を当てると何と天使の輪が消え復活し

た。

天使の持つ能力に寝ているシャンツァ以外の第4宇宙の全戦士が驚く。

ガミサラス「やったぜ」

ダモン「けど、俺達はまた死ななきやならねーかもだけどな」

シヨウサ「復活したぞ！病気も治ってる・・ああ、生きるって最高だ・・」

ガノス「良かったなシヨウサ！」

マジョラ「ある意味一番身体を張ったのはお前だからな」

シヨウサ「俺は大した力はないから全力で応援するぞ!!」

ビルス「おい、ちゃんとやれよ！」

キテラ「お前こそ俺が置こうとした場所に置くな！」

ベルモッド「ふん・・ジレンがいる私達がどつちにしろ勝つのだがな。誰が来ようと

ジレンは絶対に勝てない存在だ」

リキール「おい、ベルモッド」

アラク「お前の所の界王神は70年で我々の宇宙の人間レベルを越えられると言ったな」

ベルモツド「・・・それがどうした？」

リキール「随分と大口叩くじゃないか」

アラク「所詮は力の大会に出場した低レベルの宇宙。ましてやお前の宇宙はプライド・トルーパーズ頼りの宇宙ではないか。すぐにレベルを上げる等出来ないと思うが？」

ベルモツド「カイの奴は大袈裟に言う所もあるからな。だが、少なくとも第8宇宙ならば70年かからずとも人間レベルを越えられる。計画も立てすぎると強い人間がいなくなるのじゃないか？」

リキール「だ、黙れ!!」

ベルモツド「気を付けておく事だなお前達も。また、力の大会が開催されたら・・・今度はお前達の宇宙も第12宇宙も第1宇宙も出場しなければならなくなるって事もあ

り得なくはないからな」

各破壊神が武舞台をしている中、悟空達は作戦会議に入っていた。

戦士達の傷は各天使に治され全員が万全の状態で戦いに臨める。

第7宇宙はビルスが話していた様に悟空、ベジータ、セルの3人で出場。

そして、第11宇宙も3精鋭であるジレン、トツポ、デイスポの3人が出場。

そして、最終決戦の提案をした第4宇宙は・・・。

キテラ「俺は諦めてはいねえ。ダモン、ガミサラス。分かっているな」

ダモン「やはりですか」

ガミサラス「宇宙を守る為です。必ず採ってみせます!」

キテラ「頼んだぜ。キキキキ・・・」

武舞台が元の円形状の姿に戻り選ばれた戦士達が新しくなった武舞台に転送され、戦いの構えに入る!

力の大会最終決戦が始まろうとしている!!

真の強者揃いし戦い 力の大会最終決戦!!

クリリン「大丈夫かな？悟空達・・・」

17号「あいつらに言ったって命令通りしないからな」

ピッコロ「元々そんな奴等だ。だが、やる時はやるだろう」

亀仙人「今度は時間が無制限。逃げ延びても意味がない・・・本当に最後まで生き残った戦士が勝者じゃ」

ガノス「シャンツア！頼んだぞ!!」

キャウエイ「あなたが第4宇宙の運命を握ってるんだからね！」

シャンツア「・・・」

モンナ「まだ寝てるのかい・・・」

マジヨラ「戦う気があるのか？あいつは・・・」
キテラ「心配すんな。戦いになれば目が覚める。今は少しでも身体に負担を掛けねえ様にしてるだけだ」

クル「キテラ様。本当にダモン、ガミサラスで良かったのでしょうか？もう二人の存在は各宇宙にバレていきますし逃げ延びても意味がないですよ？」

キテラ「逃げる？バカを言え。俺は諦めていねえ。絶対にジレンの細胞を採ってもらわないとならないからな」

トツポ「ジレン。第4宇宙の虫の戦士には・・・」

ジレン「分かっている。俺の細胞は渡さん」

デイスポ「お前の細胞を採られたら太刀打ちできるのはお前しかいなくなる。それだけは避けないとならん！」

トツポ「私はすぐにでも破壊神になれる様にはしておく。デイスポ、お前は・・・」
デイスポ「分かっている。俺はこの耳で第4宇宙の虫共を見つけて落としてやる」

悟空「また戦けえるなんてな！第4宇宙の神様も分かっているなあ」

ベジータ「おいカカロット。ジレンの野郎は俺がぶつ倒す！貴様はあの破壊神かネズミか物真似野郎でも相手しやがれ」

セル「その物真似野郎は私が必ず倒す……。あいつだけは絶対に許さん！」

悟空「ベジータ。抜け駆けはずりぞ。オラもジレンと戦う気だ」

ベジータ「ふん！」

大神官「各宇宙の戦士の皆様、よろしいでしょうか？」

9人の最終決戦……！

大神官が右手を上げ始めの合図が下されようとしていた。

ビルス「これで本当に決まる……！」

キテラ「……負けるものか」

ベルモツド「3精鋭よ。今度こそ本当の強者とは誰なのか教えてやれ」

シン「勝つても負けても・・・」

クル「もちろん。恨みっこはなしです」

カイ「正義が勝つ・・・。これは絶対なのですよ」

全王「始まるのね」

未来全王「楽しみなのね」

大神官「それでは、力の大会・・・」

最終決戦始め!!!

悟空「へへっ」

ピシユン

ベジータ「カカロット！貴様〜!!」

悟空「ジレン！勝負・・・」

トツポ「フヌオ!!」

悟空「ウアツツ!!」

始まりと同時に瞬間移動でジレンの前に移動したがその直前にトツポが攻撃を仕掛けてきた！

ジレンと戦えなかったがトツポとのバトルに嬉々する悟空。

トツポも悟空に敗れたりベンジを果たすためか自分でもらしからぬと分かる程心が高ぶっていた。

悟空「へへっ・・リベンジっちゅー訳だな？」

トツポ「負けっぱなしは嫌なのでな。・・悟空、勝負だ!!」

ベルモッド「トツポめ。意地になりやがって・・」

マルカリータ「孫悟空同様にトツポも戦いを楽しんでいます。孫悟空との戦いで心の変化があつたのかもしれないね」

カイ「トツポが逆に相手に興味を持って戦うなんて・・。孫悟空・・神々の領域の身勝手の極意を使い全王様も一目置く程の人間。あまりにも常識離れしている」

ベジータ「ジレン、今度こそ貴様を倒す!!」

デイスポ「させるか！」

ベジータの前に攻めかかるデイスポだが、ベジータは超サイヤ人ゴッドでデイスポの光速のキックを右手のみで抑え投げ飛ばした。

デイスポは投げ飛ばされ地を滑りつつも倒れずにすんだが簡単に投げ飛ばされたのに相当頭に来たのか光速のスピードで再度ベジータの前に現れる。

デイスポ「お前、またネズミって言ったよな？」

ベジータ「そのスピードでここそこ逃げたらどうだ？おっと、もう逃げても意味はないか」

デイスポ「許さん！俺がお前を倒してやる！」

トツポ「デイスポめ。自らの使命を忘れてはないだろうな？」

悟空「ハアアアアア！！！！」

トツポ「ヌン！！」

超サイヤ人の悟空の激しい攻撃のラツシユをガードし続けるトツポ。

自身も本気になっていないので以前戦った時と違い黙りつつ攻撃を受け止め隙を伺う。

トツポ「まだ本気を出すには早いのだな？」

悟空「おめえもだろ？」

トップ「……このプライド・トルーパーズのユニフォームを着ている限りはプライド・トルーパーズのリーダートップとして戦う」

悟空「じゃあ、破って破壊神にしてやつぞ！」

ジレンは腕を組み動かない。

ジレンの周囲には地に潜りながら虎視眈々と細胞を採ろうとダモン、ガミサラスが狙っている。

もちろんジレンはそれに気付いており気のバリアーで採れない様になっている。

ダモン（近付こうものなら吹っ飛ばされるぞ）

ガミサラス（……ケケケケ）

デイスポ「グオツ!!!」

ベジータ「3番手ごときが俺に勝てる訳がないだろ」

デイスポ「チツ……俺のスピードが通用しねえとはな」

ベジータに蹴飛ばされ背には場外が見える。

超サイヤ人ゴッドでもベジータはデイスポに優勢だった。

それでもデイスポはベジータに突っ込んでいく!

デイスポ「今度は簡単に掴まらんぞ!」

ベジータ「相変わらず直線的な奴め・・・」

ギヤツギヤツギヤツギヤツ
!!!!

ベジータ「な、何!?!」

何とデイスポの動きが直線ではなくジグザグに動き回りベジータを翻弄する!

そして、ベジータの右脇腹に鋭い膝蹴りが突き刺さり吹っ飛ばされる!!

ベジータ「クア!!!」

デイスポ「おいおい、俺がいつ直線にしか動けねえと言った？」

ベジータ「・・・調子に乗るなよ」

超サイヤ人ブルーでデイスポを捉えようとするが変則的なデイスポの動きを捉えられずひたすら攻撃を受けてしまう。

直線的だからこそ捉えやすかっただけに変則的にジグザグ駆け回ったり急カーブに駆け回られたりすると捉えるのは非常に困難だ。

デイスポ「どうだこのデイスポ様の動きは！速さなら誰にも負けん!!」

ベジータ「・・・やはりその程度か」

デイスポ「強がりも滑稽だ！じわじわいたぶり叩き落としてくれる！」

ベジータは一步も動かさず集中する。デイスポが眼前に来たがこれをスルー。

と、突然左側に真っ直ぐに拳を振るう！
すると、現れたデイスポの右頬に直撃し宙を舞う!!

デイスポ「ガファ・・・な、何だと・・・!?」

ベジータ「所詮は3番手。この中で戦う奴等では一番貴様は弱い」

デイスポ「虫以下とでもいうのか!? ふざけるなよ・・・ふざけんじゃねえぞ!!!」

デイスポ「サークルフラッシュユ!!」

サークルフラッシュユがベジータの右腕を捉える。

が、ベジータはわざと右腕を捉えられる様にも見えた。

余裕な態度に怒り更に動きを激しくさせ複雑に動き回るデイスポ。

全王二人の神PADにすら映らないほど凄まじいスピードだ!

全王「見えない」

未来全王「見えないよ〜」

大神官「今はこれが最大で申し訳ございません。次までには更にバージョンを上げておきますので」

デイスポ（・・・落ち着け。熱くなりすぎるのが俺の悪い所だ。何故あいつは俺の攻撃してくる場所を把握しているのかをまずは考えろ）

デイスポ（攻撃に入る・・・）

デイスポ（攻撃を仕掛ける・・・！）

ベジータ「テエヤ!!」

バチイ!!

ベジータ「ん？」

デイスポ「なるほどな・・・」

デイスポがベジータの右の一撃を両手で抑えた。

今までなら何故攻撃を当てられたかが分かりニヤリと笑みを浮かべるだろう。

が、デイスポは決してニヤリとしない。真剣な表情だ！

デイスポ「ファイニッシュ！」

ベジータ「貴様に返してやる!!」

サークルフラッシュをデイスポに向けてエネルギー波と共に返す様に放ったがファイニッシュと言った瞬間からデイスポはいなかった。

エネルギー波は場外にそのまま飛んでいきサークルフラッシュも武舞台から離れた場外の果てで爆発。

ベジータは攻撃する瞬間の気でデイスポの攻撃を判断していたが気がバラバラに散らばっており読めない。

ベジータ「どうなっていやがる・・・」

ズドツ!!

ベジータ「グオア・・・」

デイスポ「もう、冷静さは欠かねえ。俺がこの中で一番弱いのも認める。だがな・・・」

第1宇宙の・・・正義の宇宙は負けんぞ!

カイ「デイスポ・・・」

ベルモッド「正義は必ず勝つ。どの宇宙でも常識だろ?」

キテラ「けつ、くせえつたらねえ」

ビルス「ベジータでも読めないのか・・・」

ウイス「気を頼りに攻撃を予測していましたがデイスポさんはどうやら光速の速さを活用し分身を出して気を分散させてる様ですね」

マルカリータ「普通ならば分身するだけでは簡単に読まれるでしょう。けれども、デイスポの光速の分身を読むのは並大抵では読めません」

ベルモッド「孫悟飯の時の戦いとは違い冷静だ。ムキにならず冷静さを保っていればデイスポの攻撃はそうそう読めないのさ」

悟飯「ベジータさん!!音です!足音から光速の行動を察知して攻撃すれば・・・」

ビルス「それは出来ないよ」

悟飯「えっ?」

ビルス「それはお前の無我の境地の飛び抜けた集中力と心を読み取る能力があるから出来たんだよ」

ウイス「更にデイスポさんは今までの直線的な動きがなくなり非常に読みづらくなっています。悟飯さんも今のデイスポさんを捉えろと言われたら苦戦するかもしれませんがよ?」

悟飯「……」

悟飯は集中してデイスポを観察するが線で捉えられたのに対し今のデイスポは変則的かつ分身の気もバラバラで全く読めない。

もし、冷静なまま戦われていたら勝てるか分からなかったかもしれないと額に汗が流れる。

悟飯「僕の場合は冷静さを欠いてたから勝てたんだ」
ピッコロ「ベジータもガードに徹するほどか……」

ベジータ「チイツ!!! ふざけやがって……!」

ビシツ!!

ベジータ「くっ!!」

デイスポ「何転びそうになってんだよ！」
ベジータ「グアア!!」

デイスポの分身からの東西南北全ての方角のジャスティスキックが直撃しベジータが悶絶!

転びそうになったのはデイスポの仕業ではなく・・・。

ガミサラス（ケケケケケ・採取済みのパーツの一部はもう必要ないからな。お前ら二人をまずは落としてやる）

極小の紫の虫の戦士がベジータとデイスポの戦いに気付かれない様に混ざる。

単純に極小で気付かれにくくかつ気も感じない戦士は他の宇宙から見れば非常に厄介。

ガミサラスはジレンとの戦いで弱っていたとはいえヒットを落とした実績があり更に細胞を採取されると厄介である為、ジレンも多少ながら警戒するほどであった。

！）
デイスポ（このままダメージを与え続けサークルフラッシュで拘束して叩き落とす

ピシユン

やれやれ、随分と手こずっている様で。

デイスポ「ぐがっ!!」

ベジータを守り同時にデイスポを弾き飛ばす薄緑のバリアー。

瞬間移動でセルがベジータの前に現れ構えていた。

ベジータ「邪魔をするなセル。あいつを倒すのは俺だ!」

セル「ジレンとやらを倒すのではないのかな? 今、奴は全く動かさず暇そうにしている

が？」

ベジータ「貴様もあのシャンツアと戦わんのか？ 奴も動かさず眠っているぞ」

セル「奴は後でも構わん。まずは確実に倒せる奴を狙う。何の間違いでもないだろ？」

デイスポ「俺を確実に倒すだけだあ？」

セル「この中では一番安定して倒せそうなのでね」

デイスポ「フーツ・・・」

デイスポは一呼吸を置き落ち着いて静かに構える。

相手の挑発には乗らない。すぐカツとなるのが自分の悪い所。

ベジータはジレンと戦うべくセルをデイスポに任せるがデイスポはベジータに襲い掛かる！

だが、またもセルはバリアーを出し今度は止まって弾き飛ばされるのを防いだ。

デイスポ「まあいい。ジレンと戦う事は自殺行為と同じだからな」
セル「奴と戦う為に軽くウォーミングアップでもするかな」

力の大会最終決戦は始まる瞬間から激しいバトルと策略が繰り広げられる!!
3宇宙の運命の戦い。制限時間がない最終決戦で最後に残るのはどの宇宙なのか!?

続く

防御と速度の戦い 両者を狙う極小の影 前半

セルがバリアーを張りデイスポを弾き飛ばそうと突撃するもデイスポは持ち前の光速移動で難なくかわす。

パワーのぶつかり合いなら大会中に何度も見てきたが防御と速度の戦いは見たことがなく二人の全王は神PADでセルとデイスポの戦いを映し拡大して注目している。

全王「防御！」

未来全王「スピード！」

全王「また防御！」

未来全王「またスピード！」

ベルモット「あのバリアー、なかなかの耐久力だな」

カイ「バリアーを張られる前に入って攻撃を仕掛ければいいのでは？」

ベルモット「デイスポは既にバリアーの中に入って攻撃を当てていた。それでもセル

は微動だにしていない」

カイ「・・・デイスポの攻撃を受け付けていないって事ですか？」

ベルモッド「セルの身体にも薄いバリアーが張られているのだ。が、攻撃が全く効いていない訳ではないだろう」

カイ「なら、強がっているだけです。デイスポの連続攻撃を受け続けていれば耐えられず倒れるでしょう」

セル（スピードもだがなかなかのパワーではないか。ウォーミングアップには丁度よい）

デイスポ「なるほど・・・。その大きなバリアーと自身を纏うバリアー。二重の守りで攻撃を防いでるのだな」

デイスポ「だが、俺の攻撃を受けた時に大きなバリアーが解けるといふ事はバリアーを張る集中が途切れている」

セル「・・・」

デイスポ「時間は無制限だ。お前が何も出来なければ繰り返し攻撃を浴びせていけば

ダメージを受け続けお前は倒れる。現実性を重視しお前に勝つ!!」

デイスポは更に攻撃を激しく浴びせる！セルは大きなバリアーを張るのをやめ身体を纏う薄いバリアーでデイスポの攻撃をガードし続ける。

防戦一方のセルにシンは不安な表情になるもビルスは目を細めセルは何かを企んでいると察していた。

ビルス「余裕の態度を取っているな。何を企んでいるか見物だね」

デイスポ（これでいいんだよな？確実に奴にエネルギーを使わせかつダメージは少しでも与えられているはずだ）

セルは何も話さない。ただ、ひたすらに薄いバリアーと共にガードに徹する。

セルとデイスポの戦いの少し離れた場所では悟空とトツポが戦っておりトツポは動かないセルが何かを企んでいるのではないかと怪しさを感じ取っていた。

トツポ「何を考えているのだ奴は」

悟空「ハアアア!!!」

超サイヤ人の悟空の拳のラツシユを左腕のみで受け止め右手でジャステイスフラツシユで反撃し悟空が回避運動を取っている所を更に左手でもジャステイスフラツシユ放つ。

両手からのジャステイスフラツシユは回避できずダメージ覚悟でトツポに突っ込んでいく。

トツポ「フヌウン!!」

悟空「読んでつぞ!!」ピシユン

トツポ「お互い様だ」

トツポに近付き瞬間移動で背後を狙ったがトツポは右腕を振り回しバックナツクルの要領で悟空の右足のミドルキックとぶつかり合う！

トツポのパワーが上回り悟空を押ししたが押された悟空はすかさずエネルギー弾を

トツポの顔面目掛けて放つ！

トツポ「くらわんぞ」

エネルギー弾をかわさず手に取り向かってきた悟空目掛けてエネルギー弾を投げ返す！

が、悟空は投げ返されたエネルギー弾を超サイヤ人からの界王拳で右足で蹴り返したのだ！

凄まじい速度で跳ね返されるエネルギー弾。

トツポの首もとに直撃し仰け反り悟空はその瞬間にみぞおちに超サイヤ人の界王拳で今度は左足の跳び蹴りを浴びせトツポを吹っ飛ばし距離を取った！

トツポ「クオツ!!」

悟空「よいい、ドン!!」

掛け声とともにクラウチングスタートの構えから突撃！

連続攻撃を繰り返してトツポはガードするも手数が多さに押され攻撃を受け、ラッシュの最後にトツポの真上に跳び上がりかめはめ波を放った！

悟空「波ーっ!!」

トツポのいる場は砕ける。が、神の気を纏い全くの無傷であり悟空に指を射す。

トツポ「そろそろ互いに力を上げていくべきではないか？」

悟空「だな」

トツポ「力を上げていくぞ！」

互いに力を見せ合っている。それは、戦士として好敵手として。

らしからぬと思いつつも悟空との戦いを楽しんでいた。

悟空との戦いは正義でも悪でも仕事の為でもない。一人の武道家として更に自分を押し上げてくれる。

気が付けば互いに力を調整して戦っている。

トツポ（消滅さえなければこうして戦い続けたい。不思議な物だ。戦いがこうも楽し

く感じるのはな)

悟空「超サイヤ人ゴッドで行くぞ！」

トツポ「ふっ・・・」

ジレン「無駄と分かっついていながらも戦うのか？」

ベジータ「黙りやがれ。俺は必ず貴様をぶっ倒す！」

ベジータは最初から超サイヤ人ブルーでジレンに立ち向かう。

全ての攻撃を軽くないはずジレンだが、ベジータは右の拳を浴びせようと突っ込むと見せ掛け軸になっている左足に気を多く纏わせ踏み込んだ時に地を砕き破片を飛ばして視界を悪くさせる！

ジレンは目力だけで破片全てを砕くが破片に集中していた所をベジータは右足でジレンの右くるぶし部分を蹴飛ばしジレンの体勢を悪くさせ左手で左足を掴み無理矢理転倒させようと計ったがジレンの左足が全くもって動かない。

が、ベジータはそれを利用し狙い通りに左手で左足を掴み威力を強めたエネルギー弾を自分もダメージを受ける覚悟で爆発させジレンにダメージを与えようとした!!

ジレン「貴様・・・！」

ベジータ「ぐっ・・・！能面野郎にも感情はあるのだな」

ジレン「黙れ」

ベジータ「ウグオアアア！！！！」

左足のシューズが傷付き初めてジレンの身体にまともな攻撃が通った。

が、ジレンには大して効いておらず肉体そのものも頑丈であるのが分かる。

ベジータは爆発で吹っ飛んでいったがジレンの地を砕く突撃で追い付かれ腹部に右膝蹴りをぶちこまれ悶絶する。

ベジータ「ぐっ・・・だが、貴様にもきちんとダメージを与えられるのが分かったぜ」

ジレン「お前の攻撃等無意味だ」

ベジータ「その割には怒りで俺に向かったがな。本来の貴様なら感情等露にしないはずだ」

ベジータ「貴様の間抜けなキレ具合は笑い者だな。ハッハッハッハ！！」

ジレン「……!!」

右頭部に血管が浮き出ておりジレンは怒りに満ち溢れていた。

怒り任せにベジータに攻撃を仕掛ける。ジレンらしからぬ感情を露にしての攻撃。

ベジータは怒り任せのジレンの攻撃に対応しかわし続ける。

攻撃が当たらない事に更にヒートアップするジレンの激しい攻撃のラツシュ!

ベジータ「怒りに任せっきりの攻撃程読みやすい物はない」

ジレン「くっ!」

ベジータ「ハアツ!!」

ベジータはスライディングを仕掛けまたもジレンを転倒させようと計ったがジレンはこれを飛んでかわしベジータを叩きつけようとしたがそれを読んだベジータが瞬時に腹に拳を刺しその拳でエネルギー波を放った!

過去ザーボンを葬ったギャリックバーストを当てジレンを吹っ飛ばし更に素早く移動し今度は吹っ飛んだジレンを地に蹴り落とし背中を見せたジレンに威力を強く込め

たエネルギー弾を当て爆発！

ギャリックインパクトが決まりジレンの背中にはエネルギー弾が当たり円形状にユニフォームが破れた!!

ジレン「ぐっ・・・！」

ベルモッド「ええい！何をしているジレン!!そんな奴のトラッシュトークなど無視しろ！」

カイ「冷静になるのです！」

ベジータ「説教される姿もお似合いだな。中身がガキな貴様には保護者がいないと何をしでかすか分からんからな」

ジレン「・・・」

ズドツ
!!!!

ベジータ「グオア!!!」

ジレン「確かにお前にとっては俺が何をしでかすかは分からんな」

デイスポに匹敵するスピードでベジータの首もとに右足のハイキックを浴びせぶつ飛ばしエネルギー弾をすかさず連射。

エネルギー弾はかわしたが移動箇所を読み右腕を真っ直ぐに伸ばし首もとにラリアットをぶち込みベジータが倒す!

ベジータ「ガッ……くそつたれが」

ジレン「ん!?!」

ぐあああああ!!!

ジレンの足下に吹っ飛んできたデイスポ。

セルがデイスポに襲いかかっていた!!

17号「あの様なバリアーの使い方は初めて見た」

18号「わざと攻撃を受けたのはそういう理由だったとはね」

セル「貴様の一撃は軽い。おかげで蓄積も容易だったぞ」

デイスポ「軽いか。どこぞの殺し屋にも言われたがそれを言った直後に俺の攻撃をくらいやがったぜ」

セルはバリアーを17号の様にコーティングし攻防両方使える力でデイスポからの攻撃を防いだがバリアーはそれだけの能力ではなかった。

バリアーに攻撃を蓄積しそれを解放する事で強力な衝撃波を発生させるカウンター式のバリアーにもなるのだ！

生半可な攻撃では逆に攻撃を蓄積してしまう恐るべきバリアーを纏っていたのだ。

デイスポ「……確かに効いた。だが、ネタが分かればどうって事はない！」

ジレン「……」

セル「私はこいつと戦いたいのですね。邪魔はしないでほしいが？」

ジレン「勝手にしろ」

ベジータ「どけろセル!!」

セル「ふつ・ご自由にこいつと戦いたまえ」

デイスポ「バリアーを張りたければ張りやがれ!!」

立ち上がったデイスポは光速移動で分身を作りセルに襲い掛かるも言う通りに身体にバリアーを纏い守りに入る。

無意味だとセルは腕を組み余裕の態度。

それでも分身を駆使し攻撃をひたすらぶつける。

デイスポ「デヤアアア!!!」

セル「ふん!!」

分身の中に紛れた本体を溜め込んだバリアーの衝撃波で弾き飛ばした!!かに思われた。

本体と思っていたデイスポが消えたのだ！

セル「何だと!？」

デイスポ「ジャステイスキーツク!!!」

ジャステイスキーツクがセルの後頭部に直撃し吹っ飛んでいく！

セルは吹っ飛ばされ頭から地に叩きつけられ転がりあわや場外に。

セル「エネルギーを本体とほぼ一緒に固めたか・・・やってくれるでは・・・」

ビシツ!!

セル「くおっ!？」

ビルス「第4宇宙か!？」

クリリン「相変わらずずるいぜ・・・」

場外に落ちていくセル。が、そこは対策済みで焦らず瞬間移動でデイスポの前に現れ脱落を回避！

デイスポに攻撃したが分身であり消えてしまう。

セル「やれやれ、第4宇宙の虫共も狙っているという訳か。小賢しい奴等だ・・・」

デイスポ「サークルフラッシュユ!!」

セル「くっっ!」

瞬間移動した場所は武舞台の真ん中に近い場所であった。

そこから全方向に飛ばされる無数のサークルフラッシュユ。

バリアーをする間もない程のスピードで飛んできた為に瞬間移動でデイスポの気を感じ取り移動したがその直後に殴り飛ばされ無数のサークルフラッシュユがセルの身体を捕らえ完全に動きを封じる！

デイスポ「甘かったな。瞬間移動は予測済みだ」

セル「ぐっ・・き、貴様・・」

デイスポ「トリヤ!!!」

拘束されたセルを蹴飛ばしそのまま場外へ落としかかる。

今までのデイスポなら一声二声は挑発しにかかっていただろう。それを一切せず脱落させる事に集中している。

デイスポ「これで一人!!」

セル「・・・」

セルを蹴飛ばし場外に。今度はサークルフラッシュユで縛っているから脱落は確実に下ろす。

ようやく自分も一人の戦士を脱落させたとほっと胸を撫で下ろす。

デイスポ「・・・俺の役目を忘れてはならねえ。第4宇宙の虫の戦士共を落とさなければ

ばならん。よし、捜しだして叩き落と・・・」

ピシユン
!!!!

デイスポ 「ん!？」

ズドツ!!

デイスポ 「がはっ・・・ば、バカな・・・瞬間移動は出来ないはず・・・」

セル 「貴様の技から解放されれば可能だが？」

セルの身体に纏われている超サイヤ人の金の気とゴールドデンフリーザには劣るが銀の気が纏われていた。

2つの気の方でサークルフラッシュを解き瞬間移動でデイスポの腹部に強烈な蹴り

が浴びせられる。

想像を超えるセルの気にデイスポは腹部を抑えつつも一つの覚悟を決める。

デイスポ「ぐっ……貴様を倒すには命を賭けなければならぬかもしれないかもしれんな」

セル「そのちっぽけな命を賭けた所で私には勝てんぞ」

デイスポ「ちっぽけか・確かにそうかもな。だがな、こんな命一つ捨ててでも守りたい物があるんだよ」

デイスポ「……見せてやる。音を光を遙かに超えた禁断の速度を」

ベルモッド「何をするつもりだデイスポ!？」

マルカリータ「禁断の速度……?」

第11宇宙の観覧席はデイスポの禁断の速度について知っている事はないかとメンバー同士で話すも誰も分からない。

トツポもジレンもその事については知らない。

デイスポは紫の気を纏いそして目を瞑った。

セル「口だけなら何とでも言える。足掻くな」
デイスポ「正義は勝つ・必ずな。正義の為に命を捨てる覚悟は決めた。俺は貴様を倒す。行くぞ・・！」

神速!!!

防衛と速度の戦い 両者を狙う極小の影 後半

セル「消えたか・・・だが、貴様の一撃は軽い。速さを極めた所で同じだ」

大きめのバリアーを張り完全に守りの体勢に。まずは様子見といった所だ。
セルはデイスポの気を探るが感じ取れない。

観覧席にいる戦士、はてには破壊神ですら気を感じ取る事が出来ない。

ビルス「ウイス。奴はどこにいる!？」

ウイス「何とかデイスポさんの姿が見える程度です。ですが、捕まえろと言われたら
至難の技ですね」

ビルス「な、何だと!？」

ベルモット「神速か・・・」

マルカリータ「あまりの速さに長く身体が持たないですます」

カイ「本当に死ぬ覚悟で・・・」

コニツク「過剰なスピードは気がまるで消えた様に感じます」

キテラ「放っておいたら死ぬのдарろ？」

コニツク「そうですね」

クル「生き残る為に死を・・・私達の宇宙もですが宇宙存続の為に死を選ぶのはやはり残酷な・・・」

キテラ「仕方のない事だ。それを覚悟して戦ってるのだつたら見届けてやるのが神としての使命だ」

大神官「全王様。デイスポさんを捜すよりセルさんを視ていた方が面白いですよ」

全王「うん、分かったのね」

未来全王「セルの映像、映像・・・」

セル「蒸発したのか・・・？」

ザシユ
!!!!

セル「ぐおお!!」

突如セルの左腕が吹っ飛ぶ!

立て続けに右腕も吹っ飛ばされ両腕を失ってしまう。

バリアーは簡単に突き破られてしまいセルが一方的に攻撃を受け続けていた!

ビルス「み、見えん……。やろうと思えば頭もかつ切れるだろうな」

ピッコロ「音も気も何も感じ取れん。打撃音も遅れて聞こえる」

悟飯「パワーアップしたセルが追い込まれる程に……」

クリリン「破壊神を越えた存在と破壊神と破壊神ですら見えない速度で駆け回る戦士がいるなんて……」

セル「調子に乗るな……!」

即座に両腕を再生し身体を纏うバリアーを張り攻撃を受けている前面にエネルギー波を放つが当たらない。デイスポは間違いなく前面で攻撃を仕掛けているにも関わらず。

バリアーを張るも強烈な一撃はカウンターが出来ず身体を纏っていても身体に響く程だ！

セル「グフア・・・」

たまらずセルは血を吐く。眼でも気でも終えないデイスポに為す術がない。そして、場外に追い込まれてしまう！今度こそ万事休す！

セル「ぐおああああ!!!」

セルはあつけなく場外に落ちていく・・・？

ドスツ
!!!!

セル「くつ・・俺が一番目に落ちる等あつてたまるか」

武舞台に尻尾を伸ばし突き刺した事で脱落は回避するが尻尾を踏まれた感触がして
激痛が走る。

痛みに堪えるセル。だが、踏まれた感触が分かるとセルの脳内には一つの仮説が生ま
れる。

セル（先程の攻撃が当たらなかつたのは単純に奴はかわしたただけだ。奴に触れられな
いという訳ではない・・ならば）

瞬間移動でクリリン達がいる観覧席の前に現れそのまま武舞台に落ちていく。

観覧席に立ったりはしていないので反則にはならない。このままセルは武舞台に落
ちていくがその間に両腕で両肩を掴む様な構えを取る。

その構えにセルが何をするのかをすぐに理解したのはピッコロだった。

ピッコロ「爆力魔波か」

クリリン「あの大爆発する技か!？」

天津飯「まさか武舞台ごと爆破させるつもりか!？」

亀仙人「そこまではしないはずじゃ。それをやると第4宇宙には空を飛べる戦士があるからの」

ピッコロ「大方奴を吹き飛ばすという魂胆か」

デイスポ（持ってくれ・俺の身体）

セルが地に着いた瞬間に爆力魔波を発動させ周囲がドーム状に大爆発を起こす！
観覧席に影響が及ぶ為、ウイスがバリアーを張り観覧席を守る。

どうやら武舞台に影響を及ぼさない程度の大爆発であり近くで戦っていたベジータとジレンはジレンは大爆発に巻き込まれても無傷でありベジータは超サイヤ人ブルーのままバリアーを張り身を守った。

セル「近付けんだろ」

セルはまたも両腕で両肩を掴み爆力魔波の体勢に。

今度は先程より威力と範囲が落ちるも大爆発を起こす！

18号「あいつ何をしたいんだい!？」

17号「近付かせない作戦か？それにしては派手なやり口だな」

セル（・・・命を捨てる覚悟か。あれほどのスピードを出すという事は限界がいつか来るはずだ）

ズンツ!!

セル「グオアツ!!!」

デイスポ（この程度の爆発なら突っ切れる）

セルの腹部に槍の様な鋭い衝撃波がぶつかり左膝が地につき悶絶する。半端な爆発ではどうやら効果がないと分かりセルも一つの覚悟を決める。

セル「いいだろう・・・貴様の覚悟と俺の覚悟・・・どっちが強いかな勝負だ!!」

そういうとセルの腹部が膨らみスラツとした姿からふつくと風船の様に膨らみ肥満体の様な姿へと変貌しそれがどんどん膨らみ大きくなる。

デイスポは攻撃を仕掛ける前にセルへの攻撃がどれ程までに危険かを察し仕掛けられなかった。

悟空とベジータはもちろん観覧席にいるクリリン達も驚きの顔を出し特に武舞台にいる二人は戦いの手を止めてしまっていた。

トツポ「どうしたのだ？」

ジレン「ん？」

ダモン「何だあれ・・・」

ガミサラス「やばくないかあれ？」

シャンツァ「……………クークー

クリリン「何やってんだ!!やめろー!!!」

18号「あれは何なんだい!？」

ピッコロ「お前は気を失っていて知らなかったな。簡単に言えば自爆だ。・・地球を爆破させるほどのな」

18号「地球を爆破させるほどだって!？」

悟飯「やめるんだセル!!父さんやベジータさんも殺すつもりか!!」

ビルス「正気ではないな・・」

大神官「いけませんね」

大神官も二人の全王を守るべくバリアーを張る。

セルの身体の膨らみが完了し野太い声でディスプレイを挑発する!

セル「攻撃するか!?しよものなら貴様を巻き込み武舞台も木っ端微塵だ!観覧席に

逃げれば守ってくれるぞ。潔く脱落するべきではないか!？」

デイスポ（野郎・・・嫌な思い出を掘り起こしてくれるじゃねえか）

ダモン「ガミサラス！」

ガミサラス「分かっている！シャンツアの体内に逃げるぞ！」

悟空「まずいなこりや・・・」

ベジータ「バカさ加減は相変わらず治らなかつたか」

ベルモット「自爆か。トツポとジレンの耐久力なら何とかなるかもしれないがデイスポだとまずいな」

カイ「自爆とは何と愚かな・・・あの姿といい醜い」

キテラ「まあ、問題ないだろ」

クル「勝つためには手段を選ばないですね・・・」

シン「私的にもやめてほしいんですけどね・・・」

クル「まあ、私達も細胞を採取して強化をしているので人の事は言えませんが・・

デイスポ（・・自爆を防げず罪無き市民を巻き込み敵も死なせてしまった）

デイスポ（自爆した奴も元は悪人ではなかった・・あの頃は手柄がほしかったあまり俺一人で事件を解決しようと先走って失敗したのさ）

セル「どちらにせよ爆発する!!貴様はもちろん他の戦士も全員皆殺しだ!!!」

ジレン「・・・」スツ

デイスポ「ジレン、俺がやる!」

ジレン「ん!」

ジレンが拳圧でセルを吹き飛ばそうとしたがデイスポがセルを押し出しそのまま場外へ更には照明のある場所にまで突っ込む!

神速の脚力は照明まで飛び跳ねれる力がありあつという間にセルは照明に置かれデイスポは武舞台へとすぐに戻った。

セル「無駄だ！この界ごと爆破してやるまでだ!!」

トツポ「デイスポ！」

デイスポ「こ……これ……で終わ……だよな……」

トツポがバリアーを張りデイスポとジレンをバリアーに入れる。デイスポは弱っている。このままでは死んでしまうかもしれない。

悟空はベジータと共にバリアーを作り自爆から身を守る。

悟空「とんでもねえな」

ベジータ「ムキになって手段を選ばん性格は変わっていない様だな」

セル「消えてしまえー！！！！」

ドーン
!!!!!!

大爆発が無の界を眩しく包む。

照明がないと真つ暗闇な無の界が真つ白な光に包まれそれはむしろ輝いて美しくも見えた。

二人の全王から見ればそれは美しい輝きに見えるが武舞台で戦う戦士達の事を思う3つの宇宙の戦士、界王、破壊神達は不安な気持ちに。

ビルス「大丈夫なのか・・・？」

キテラ「シャンツアなら大丈夫だろ」

ベルモツド「爆発範囲は凄まじいが威力はそこまでないな。トップのバリアーなら耐えられる」

大爆発がおさまると武舞台は暗闇に包まれる。

照明が大爆発に巻き込まれ跡形もなくなり武舞台も前にトツポが破壊神となって破壊した時の様にバラバラになっていた。

悟空「何とか耐えれたな・・・」

ベジータ「ちつ・・・照明が壊れて何も見えん。気で感じ取って戦えという訳か」

トツポ「無事か？」

ジレン「下らん事をする奴だな」

デイスポ「あ、ああ・・・」

ビシツ
!!!!

デイスポ「うおっ!!」

トツポ「デイスポ!?!」

ガミサラス（終わりだぜ!!）

暗闇の中奇襲されるディスプレイ。トツポは駆けつけようとしたが何かにぶつかる。

武舞台が砕けた為に出来た岩柱かと思われたが感触が違う。

硬い身体にぶつかった感触がしたのだ。

トツポ「何者だ!？」

ズドツ
!!!!

トツポ「グフオア・・・」

シャンツア「夜になったら・・・こんばんはだったな？こんばんは」

頑丈なトツポでも苦しむシャンツアの一撃。危機を感じたトツポは破壊神になる準備に入るが・・・。

悟空「ハアアア!!!!」

シャンツア「んっ!？」

悟空が超サイヤ人ブルーに変身しシャンツアを蹴り飛ばしトツポを見つけ戦闘体勢に入る。

ベジータもジレンを見つけ悟空と同じく戦闘体勢に入った。

悟空「戦いの続きやろうぜ! なっ!」

トツポ「わざわざ目立つとは。全くお前という奴は・・・」

ジレン「・・・」

ベジータ「貴様を逃がすつもりはない!」

悟空はトツポに、ベジータはジレンに立ち向かういつもの構図が戻る。
が、神PADで何も見えない全王が不満に。

全王「何も見えないよ」

未来全王「見えないよ」

大神官「そうですね。観覧席にいる皆様も戦いを観たいと思われまますので照明は元に戻させてもらいます」

大神官が指をパチンと鳴らすと照明のみが巻き戻され武舞台にまた光が灯される。すると、真っ先に目立ったのはデイスポが追い込まれ脱落寸前になる所だった！

デイスポ「ぐはっ・・・ぐう・・・」

神速の影響で身体が言うことを効かないデイスポはガミサラスに追い込まれてしま
う。

砕けた武舞台の破片の端に詰められ下は真っ暗。場外が見えていた。

デイスポ（くそお・・・だが、自爆して実質一人は撃破できた。後は・・・）
ガミサラス（じゃあな！）

デイスポ「見つけたぞ」

ガミサラス「うわっ!!は、離しやがれ！」

人差し指と親指でガミサラスを捕まえ離さない。デイスポの身体が動かない。指だけに気を使い静かに落ちていく。ガミサラスは動けずデイスポと共に落ちていくのだった。

ガミサラス「やめろー!!」

大神官「第4宇宙ガミサラスさん、第1ー宇宙デイスポさん。脱落です」

キテラ「バカ!何してるんだあ!!」
ガミサラス「す、すみませーん！」

ベルモッド「驚いたぞデイスポ。あれほどの能力を隠していたとはな」
デイスポ「禁断・・・の能力なので」

マルカリータ「身体の構造も大きく変化してしまっています。これ以上使い続けていけば死んでいたでしょう」

マルカリータに傷を治してもらいデイスポは静かに座った。

後はトップとジレンに任せる。ただ悔いがあれば第4宇宙のもう一匹の虫の戦士を落としたかった。

カーセラル「大丈夫かデイスポ？」

デイスポ「何とかな。この大会を通して俺も変わった気がするぜ・・・」

デイスポの顔は清々しい物があつた。トップは変わったデイスポを見て戦いにやる気が入る。

一人の男が覚悟を決めて戦い抜いた。

苦しみながらも二人を倒した。

拳が熱くたぎる・・!!

トツポ「お前の分は私とジレンが必ず・・行くぞ！」

悟空「そうこなくつちやな!!」

セルは自爆してしまい現状は不明。それを気にせず戦う悟空とトツポ、ベジータとジレン。

シャンツアは悟空に蹴飛ばされたが気にもせずまた眠りについた。

激しい戦いがまだまだ続く！

怒りを越えた先に ベジータ覚醒!! 前半

ベジータはジレンの隙がほぼ見られない攻撃のラッシュをいなしつつほんの僅かな隙を見つけては攻撃を仕掛ける。

それでもジレンにはダメージが通らない。今まで攻撃を受けて苦しんだ表情すらしておらずベジータは何としてでも大きな一撃を浴びせジレンに一矢報いてやると力が入っていた。

クリリン「ベジータがジレンの攻撃にある程度ついていけてますね」

ウイス「ジレンさんは本気にはなっていませんよ。まだまだ様子見といった所ではないでしょうか」

亀仙人「ヒットとやらの戦いでは一瞬だけ本気になっておったの」

ビルス「あの時ばかりはジレンもピンチだったよ。ヒットが万全の状態ならば脱落していたかもしれないと言ってたからね」

ベルモッド「焦る事はない。時間は無制限。相手の力を伺い全力で向かわせそこを潰す。それがジレンの芸風だからな」

カイ「それにしても第4宇宙は全く戦いに入っていませんね。あのままでよろしいのでしょうか？」

ベルモッド「放っておけばいいさ。何をどう足掻こうとジレンには勝てん。細胞も取られん」

キテラ（今は動かねえよ。シャンツアの狙いはジレンじゃねえ）

クル「第7宇宙とは違い我々第4宇宙には物理的に強い戦士がなかなかいないのですよ。シャンツアが例外なだけであってほとんどの住人は知恵を使い生きてるので」

老界王神「なるほどのお。だから目視するのが難しい小さな戦士や道連れにしようと思んだ戦士を連れてきていたんじやの」

シン「そうなのですか？ 私から見ればガノスさんやモンナさんはかなりお強いと思われたのですが・・・」

クル「まともに戦えば孫悟空やベジータはもちろん、第7宇宙の戦士には敵わないかと。搦め手の方でも第7宇宙には見事にやられてしまいましたからね」

クル「それにシャンツアも強いとは言ってもダモン、ガミサラスの能力があつてこそ。もし二人の能力がなければピッコロに普通に押されて危うかったです」

シン「それでも前の力の大会では第7宇宙は第4宇宙に4人落とされ18号さんは失格にさせられました。第7宇宙から見れば手強い相手ですよ」

クル「そうでしたね：でも、第4宇宙は6人も第7宇宙にやられてしまいました。お互い様です」

シン「今思えば……。勝つてほしいと必死に祈っていたので全く気付きませんでした。冷静に戦況を見つめないといけませんね」

ビルス「おい、何楽しく談話してるんだ」

老界王神「どうぞどちらかは消えるのじゃからそれまでは話しても構わんじやろ？」

ビルス「……ま、まあそうではあるが」

キテラ「何だビルス。界王神共にすらい返せんのか？」

ビルス「お前達の宇宙と関わると面倒なんだよ。ウイスもお前のとこの付き人を苦手としてるからな」

キテラ「どうでもいい事だ。勝つのは俺達に変わりはないからな。今の内に好きにやらせてやってもいいだろ」

ビルス「チツ・・・」

キテラ「ハゲネコはこれだから困るぜ。キキキキ」

ビルス「いちいち一言多いぞ!!ネズミが!」

クリリン「やっぱり無謀だぜベジータ・・・」

亀仙人「かと言って今はセルがおらず悟空しかおらん。しかも、悟空も戦っていて助けに入れんわい」

天津飯「更に厄介なのは第4宇宙のシャンツアだ。今は黙って眠っているが必ず何か仕掛けてくるはず・・・」

ジレン「信頼、約束、プライド。さしずめお前が俺に立ち向かえるのはこの3つからか」

ベジータ「勝手に決めつけるな・・・サイヤ人こそが宇宙最強の種族でありそのサイヤ人の王子であるこの俺様こそが宇宙最強と証明させるべく戦っているだけだ!!」

ジレン「・・・家族がいると言ったな？さぞお前が帰ってくるのを待ちわびているだろうな」

ベジータ「どうでもいい事を聞くな。チエアー!!!」

ジレン「だが、お前達に明日はない」

ズギヤツ
!!!!

ベジータ「グツアア・・・」

まともにミドルキックを受けるもベジータは耐える。

そこから反撃に出るが目力で武舞台の別の足場まで飛ばされてしまう。

ジレン「約束も信頼もプライドも全て俺が砕く。お前ごときでは何も守れん」
ベジータ「・・・」

パワーインパクトを溜めているジレン。このままベジータがいる足場ごと吹き飛ば

超サイヤ人ブルーからの怒り!!

ビルスがブルマをはたきそれで怒ったベジータがビルスを殴り飛ばした力。悟空が名付けた『すげえ超サイヤ人』の力も混じりジレンが放ったパワーインパクトを弾き飛ばした!

ベジータ「くたばりやがれえ!!!」

ジレン「・・・!!」

強烈な一撃がジレンの左頬にぶち込まれジレンが吹っ飛ぶ!

が、ジレンはそれでも体勢をすぐに立て直し小さな足場をバネ変わりに利用しベジータに突っ込む。

殴られたとはいえダメージが全くない様だ。

ジレン「それがお前の限界だ」

ベジータ「勝手に決めるなど言っただらうが!!!」

ジレンとベジータの両拳がぶつかり合う!

両拳から凄まじい衝撃が発生し二人がいた足場からはピシピシと音を立てながらヒビが入っていきやがて崩れていった。

落ちながらラツシュ仕合うが手数もパワーもやはりジレンが一枚上だ。

ベジータ（・・・これでも奴は本気を出していないのか）

ベジータ「ぐあっ!!」

ベジータ（くそつたれが・・・怒りだけでは勝てん。これじゃない・・・奴を倒せる力は）
ジレン「終わりだ」

ベジータ「うああああ!!!」

悟空「ベジーター!!!」

強烈なエネルギー弾を受けベジータはエネルギー弾と共に宙高く飛んでいく。

ベジータが飛ばされるのに気付いた悟空だがトッポとの戦いで助けに行けない。

このまま脱落かと思われたが・・・。

ジレン「・・・運が良かったな」

運良くエネルギー弾が武舞台の破片に直撃しベジータごと巻き込んでしまったがベジータは別の破片にシューズが引つ掛かり脱落は免れた。

だが、ベジータが受けたダメージは軽いものではない。それでも意識はあった。

ベジータ（・・・うるさいぞ）

ベジータの頭の中にまたもブルマが応援している様に聞こえた。

トランクスの姿も・・・ブラの姿も・・・。

ベジータ「さっさと優勝して帰るから黙りやがれ・・・」

ジレン「家族がそんなに大事か？」

ベジータ「貴様には永遠に知る由もない事だろうがな」

ジレン「・・・サイヤ人には期待していたが外れに終わった。お前程度が王子とは底が

知れている」

ベジータ「俺達サイヤ人はこの大会で戦う度に進化している。第6宇宙のサイヤ人共
も戦う度に強くなっていった」

ベジータ「カカロットも悟飯も細胞だけを持っているセルもだ」

ジレン「お前の力はさっきの怒りの力が限度なのだろう？」

ベジータ「それだけでは貴様に勝てん……。貴様と戦い俺は更なる力を得るつもりだ
からな」

ジレン「無駄だと分かんのなら二度と立ち上がれん様、完膚なきまでに仕留めてや
る」

ベジータは超サイヤ人になり引っ掛かっていた足場から落ちていくが別の足場に立
つ。

ジレンが直ぐ様拳を叩き付けベジータがいた足場を崩すが別の足場に移り反撃に出
る。

ジレン「同じ事の繰り返しだ」

ベジータ「いつまでもふんぞり返れると思うなあ!!」

超サイヤ人ブルーに変身しジレンの目力に怯まずダツシユで接近し至近距離で両手からエネルギー波を放つダブルギャリックキャノンをつける。

ダブルギャリックキャノンも右手を突き出されるだけで防がれるが今度も同じ様に至近距離で両腕を大きく広げ気が燃焼するように強力なエネルギー波を放つ!

過去ナメツク星での戦いでリクームにぶつけたギガブラスタード!

今のベジータならば溜める必要もなく放てるようになっていた。

ベジータ「これしきで倒せるとは思えん」

爆煙でジレンの姿が見えない。が、今までの事を思えばこれでやられる事は絶対にないと過去魔人状態の時に使った魔人ブウの体を貫くエネルギー弾、アトミックブラストで気を感じ取り更に追撃した。

今まで放っていた技の一つ一つが超サイヤ人ブルーにより以前よりも遥かに威力と精度が上がっている。

それでも爆煙が消えると平然と仁王立ちするジレンの姿が・・。

ジレン「まだ分からののか？」

ベジータ「貴様の問答など知った事かあ!!」

ひたすら攻撃を繰り返すベジータだがジレンは無駄だと分からせる為に右手から拳
圧を放ちベジータを吹き飛ばした！

拳圧だけでエネルギー弾も自身も軽々と跳ね飛ばされてしまう。

クリリン「やっぱりあいつ化物だぜ……。悟空の身勝手の極意でなければ対処できねえ
よ……」

ビルス「今のジレンならば身勝手の極意でなら何とか勝てるだろう。……だが、本気
の力がまだ未知数だ。それを思うとな……」

ベジータ「くそつたれがああ!!」

ジレン「傲慢な攻撃と態度だ。だから、底が知れている」

ベジータ「ほざきやがれ!!」

何度ぶつ飛ばされようと攻撃を受けようとしぶとく立ち向かうベジータ。ジレンは最初こそ無駄な足掻きとあしらっていたが内心は勝利への執念だけは確かに認めてはいた。

クル「何故、無謀な戦いにあそこまで挑み続けるのですか？」

シン「ベジータさんの負けず嫌いな性格もありますが好戦的なサイヤ人の人間性もあるからです」

老界王神「悟空と出会わなかったら今頃第7宇宙のメンバーはベジータに地球を壊されるか殺されるかで皆が揃わなかったかもしれないからの」

クル「孫悟空との出会いから？」

シン「ベジータさんは元は極悪人でした。けれども、悟空さんとの戦いを経て、大事な人と出会った事で人間性が大きく変わったのです。言葉では出しはしませんが誰よりも消滅させたくない気持ちが強いと思いますよ」

老界王神「愛じゃよ愛。あやつは家族想いじゃからの」

クル「愛・・・ですか」

ある程度立ち回っていく度にジレンの癖が少しずつ分かってきた。

ベジータは頭で考えて動いていたがその処理がウイスと初めて修行していた時よりも格段と早くなっておりかつ正確になっていた。

それでも、ダメージが通らない。必要なのはジレンにダメージを与えられる事が出来るパワーのみであった。

ベジータ「貴様の攻撃、判断はある程度読めてきた」

ジレン「・・・」

ベジータ「後は、パワーだけだ。貴様をブツ飛ばす事が出来るパワーがあれば俺は勝てる」

ジレン「そのパワーがないからこそお前は俺には勝てん」

ベジータ「分かっている・俺は貴様とは違う。強さのみに固執した能面野郎とは違う!!」

ジレン「バカにはつける薬がないとはよく言ったものだ」

ベジータ「バカでも構わん・俺は・俺は・!!」

ジレン「ん?」

キャベ『力の大会ではどちらかの宇宙は消えてしまいます。ですからその約束を守ることは永遠にできません・・・』

ベジータ『俺が優勝して超ドラゴンボールで貴様たちを生き返らせてやる』

キャベ『え、ええっ!?!僕たちを?』

ベジータ『これで約束を果たせる』

キャベとの会話を思い出し瞼を強く閉じ力を溜める。

ベジータが超サイヤ人ブルーのまま激しく気を出し続ける!

先程まで怒りに身を任せ戦っていたがそれでは勝てないと分かり怒りの感情をコントロールすべく気をひたすら強く溜める。

キャベ達の思い、そして帰りを待っているブルマ。

気が付けばベジータはここにいる誰よりも人の為に戦っていた・・・!!

自分の為に戦い進化していった男は今や人の為に戦える優しさも持っている。

すげえ超サイヤ人を経てベジータの気合いのこもった叫びが無の界に響き渡る!!

ベジータ「あいつ等との約束を守らなければならんんだ・・!だから、俺のやり方で限界なんぞ超えてやる・・。そして、ジレン。貴様に勝つ!!」

チエアアアアア

!!!!!!!

ジレン「ん!」

大神官「ベジータさんも限界の殻を破った様です」

ベジータのすげえ超サイヤ人が超サイヤ人ブルーと混じり新たなる進化を遂げる・・

!

怒りを越えた先に　ベジータ覚醒!!　後半

超サイヤ人ブルーの進化。瞳が更に蒼く輝き全身が銀色に輝き、髪色やオーラはより青みを増している。

キャベ、カリフラ、ケール・・・3人との出会いは日が浅い。だが、同じサイヤ人。そして、キャベと交わした約束。

クリリン「俺にも分かるぜ・・・。ベジータの気が大きく上昇しているのが！」

天津飯「凄まじい気と気迫が神の気を纏っていても感じ取れる・・・悟空とはまた違う力なのかも分かる」

ウイス「怒りをコントロールしたのではないでしようか？」

ビルス「僕を不意に近いとはいえぶつ飛ばした力をかい？あれをコントロールしたただけではそこまで強くはなれないと思うけどね」

ウイス「怒りを越えた先・人間ならではの進化かもしれません」

ウイス「神が持つ気と人間が持つ気。二つの気が混じる事で新たな領域へとベジータさんは目覚めたのかもしれない」

ピッコロ「ベジータといえは悟空を越える為に超サイヤ人、超サイヤ人2といった様に進化していったが今回は違う。あいつが誰かの為に新たな力に目覚めたケースは初めてだ」

17号「第6宇宙のサイヤ人の約束と言っていたな。宇宙は違えどサイヤ人はサイヤ人という訳か」

18号「ギラギラ輝いてるね・眼光が銀と蒼で混じりあつて綺麗にすら見えるよ」

ベジータの超サイヤ人ブルーの進化の力を見せ付けられるもジレンの表情に変わりなし。

少しばかり戦える様になった程度としか思っておらずエネルギー弾を挨拶程度に放つがベジータが逆に目力だけでエネルギー弾を掻き消す！

ベジータ「デエヤアアアア!!!」

ズグツ!!!

ジレン「グツ……ガツ……!?」

カイ「ジレン!?!」

マルカリータ「ジレンが久しぶりに『痛み』を感じ取ったですます」

ベルモツド「ベジータめ……。ジレン! お前にとつて約束や信頼など最強のパワーの前では無のはずだ! 真の純粋なパワーの前ではいかなる敵も抗えないと分らせるのだ!!」

ベジータ「本気を出せジレン。これ以上痛みを受けたくなければな」

ジレン「……断る。お前ごときに出すつもりはない」

ベジータ「そうか。なら、勝手にしやがれ。超ドラゴンボールを得る為ならば俺は本気でないまま貴様が脱落しても別に構わないからな」

17号「あいつ、冷静さも得た様だな」

天津飯「ケフラとの戦いの時とは真逆だ。相手と戦う時は常に本気の力を望んでいたが今は勝つためならば手を抜かれたままでも構わないとは」

亀仙人「戦いの中でベジータは力も知恵も精神も向上しおった。そして、あの新たな進化で今までより更に向上したのじやろう」

悟飯「ベジータさんの攻撃がジレンを追い込んでいます!!」

ジレン「グオツ!？」

ベジータ「サイヤ人を甘く見るなよ・・・!」

ベジータの高速ラッシュの技、ライトニングバーストが今までダメージを与えられなかったジレンの上半身のあらゆる箇所にめり込み肉体に痛みを感じ取れていた。進化したベジータのパワーをまともに受けたジレンの額に汗が流れる。

ジレン「ぐっ・・・」

ベジータ「どうした? 今までとは明らかに顔色も変わっているぞ。得意の目力だけで俺を抑えられるのだろ?」

ジレン「黙れ!!」

ベジータ「声も荒げて貴様らしくないな。まあいい。手加減したまま脱落する無様な展開も面白いからな」

ベジータ「それとも、貴様よりあの破壊神の方が強いんじゃないか？カカロットの野郎が元氣玉のエネルギー抜きで身勝手の極意とやらに再度目覚めたのもあいつからだったからな」

ジレン「・・・!!」

眉間にしわが表れ怒りのこもったジレンのラツシュをベジータは全ていなしジレンの右手を左手で弾いたと同時に右手で腹部に拳をめり込ませエネルギー弾を腹部にぶつけ爆発させた！

すると、ジレンが眼を見開き苦悶の声を上げる!!

ジレン「グハッ・・・!!」

カイ「ジレン!!!」

ベルモツド「バ、バカな!？」

ベジータ「デエヤアアア!!!」

頭の中に浮かぶキャベとの約束。惑星サドラに行く約束を果たさなければならぬ。だから、相手が誰であれ負けられない。それが最強の存在だろうが何だろうが。

キャベ・弱気なあいつの態度に頭に来ていたがまだあいつは若く自身だけでなく宇宙そのものの消滅が掛かった大会で戦えというのも過酷な物だ。

カリフラの様に戦闘そのものを好み消滅を気にしちやいな奴の方が珍しいくらいだ。

サイヤ人なら戦闘を好むのは当然だが俺は家族を持つてから消滅はさせまいと必死になっている。

ケールの奴もあの力を制御してからは弱々しい態度は消え失せた。サイヤ人の可能

性は計り知れない。下級戦士であったカカロットも神の更なる領域に入っているのだから。

ジレン「・・・今までの気とは違い洗練されている。戦うにつれお前は進化しているというのか？」

ベジータ「それがサイヤ人という種族だ。そして、貴様が期待外れと吐き捨てたサイヤ人のパワーだあ!!!」

ベジータがジレンに突っ込み更に激しいライトニングバーストを仕掛ける!

ジレンも負けじとラッシュするが想像を超えるベジータの攻撃の一つ一つに追い込まれ左の真っ直ぐなキックを腹部に受けその直後に左右の拳が目にも止まらぬ速さでジレンの胸部に何発も撃ち込まれ拳の跡で胸部がへこむ!!

ベジータ「見えるだろ。サイヤ人の誇りがな。例え消滅してもあいつらのサイヤ人としての誇りは俺の胸の中に刻まれている」

ベジータの背に映る一人のサイヤ人の幻影。

ケールの幻影が見えたと思えばベジータの左腕の気が強まりその一撃がジレンの右頬にぶち込まれる！

ベジータ「俺は超ドラゴンボールであいつらを復活させる!!そして、貴様に勝ちサイヤ人こそが宇宙最強の戦闘民族だと教えてやる！」

今度はカリフラの幻影が映る。その瞬間に右腕の気が強まりジレンの左頬に浴びせ両頬に拳の跡が残る。

ジレン「き、貴様・・・!!」

ベジータ「よく覚えておけ。何もかもを信頼せずただ迫り来る敵を倒すだけのマシンと同等の貴様では絶対に得られんこの力をな!!!」

ハアアアア
!!!!!!!

ジレン「俺は負けん・・・!!」

ジレンの表情が変わっていた。基本的に無表情だった男が一人の戦士に怒りを露にし潰しに掛かっていたのだ！

怒りと共に赤々と燃える様なエネルギーが両手にこめられる！

ベジータは赤々と燃えるパワーインパクトがこちらに来るまで身体を大きく左側にひねり気を溜めていた。

気を溜めている時にキャベの幻影が映る。弟子のサイヤ人の誇りを胸に師の気が高まっていく……！

そして、パワーインパクトが自身に当たりそうになった所で気を解放し一気に両手から強烈なエネルギー波を発射した！！

ベジータ「くたばりやがれえ!!!」

ギャリック砲の強化技『バーストギャリック砲』が放たれパワーインパクトを呑み込み巨大なエネルギー波がジレンを呑み込んでいく！

最初こそ抑えてはいたが武舞台の破片ごと消し飛ばしジレンは足を付く場所がなくなりそのままバーストギャリック砲に呑まれ吹き飛んでいった！！

ジレン「うおおおおお!!!」

トツポ「ジ、ジレン!!」

悟空「やるじゃねえかベジータ!! オラも一発見せてやつぞ!!」

トツポ「むっ!?!」

カイ「どうして人間レベルが低い宇宙にあれ程の戦士達が現れるのです!？」

ビルス「人間レベルでしか計れないお前には分からないかもね」

カイ「くっ……」

ビルス「どれだけレベルが低かろうが宇宙を仲間を家族を思いやり戦う奴だっている。第7宇宙であれ第6宇宙であれ第9宇宙であれ」

ビルス「人間は神々ですら驚く程に力を向上させる時がある。・僕自身が一番身をもって知らされたからね」

シン「人間レベルで計算するのはやめましょう。力の大会に出場した戦士の方々に人間レベルがどうか関係な……」

カイ「黙れ黙れ!!人間レベルの低い宇宙の界王神が軽々しく私に話し掛けるな!!!」

ベルモッド「いちいち反応するなカイ。ジレンがあれしきで負けると思うか？」

カイ「し、しかし・・・」

マルカリータ「大神官様の脱落の宣言がないですます」

ベルモッド「そういう事だ。身勝手の極意を使う孫悟空以外にようやく力を出せる相手が出てきたのだ。ジレンの本気のパワーが見られるかもしれない」

カイ「そうでした・・・。ジレンは絶対に負けない存在。まだ本当の力を発揮していないのに脱落等あり得ませんからね」

ベジータはジレンが残っているのが分かっており更に警戒心を強める。

悟空は超サイヤ人ブルーからかめはめ波を放とうとしていた。

トツポは止めようと突撃するが悟空は巧みにかわしていく。

トツポ「まともに受ければ耐えるのは困難。おそらくあのエネルギー波を放つてくる」

悟空「よーし！行くぞトツポー!!ゴッド・・・」

トツポ「だが、逃げはせん。お前の技を全力で受け止める!!」

トツポはバリアーを張り守りを固める。

覚悟を決めたトツポに悟空は歯をニツと剥き出しに喜びながら放つ!!

かめはめ波ー!!!

トツポ「ヌググ……」

バリアーが割れ生身のままゴツドかめはめ波を受け雄叫びを上げる。

トツポもやられてしまったのかと慌てめくカイだがベルモッドはニタリと不気味に笑む。

ベルモッド「サイヤ人の人間性は私も気に入ったよ。だが、相手が悪すぎる」

悟空「トツポ。いるんだろ? オラ覚悟出来てるからな」

ベジータ「ジレン。さっさと出てこい。それともサイヤ人に恐れをなしたのか？」

二人のサイヤ人が正義の戦士二人を待っている中、第4宇宙のシャンツアはまだ眠っておりダモンはベジータとジレンのバトル時にジレンの細胞を採ろうとしたがジレンはバトルの最中にでも近寄らせない様に薄いバリアーを張り細胞を採らせない様に対策していたのだった。

キテラ「来るな。いよいよ・・・」

コニツク「はい」

キテラ「・・・大丈夫なんだろうな？これに失敗したら第4宇宙は消滅が確定する様な物だからな」

コニツク「100%とは限りませんからね。・・・50%？いえ、30%？・・・20%かもですね」

キテラ「どんどん確率減ってんじやねえか!!本当に大丈夫なのか・・・」

ジレン「・・・トツポか」

トツポ「ジレン。ベジータは手強いか？」

ジレン「下らん奴だ。純粋なパワーの前では全てが無だと分からせるまで」
トツポ「そうか・・私もまた覚悟を決める時が来た」

ジレン「あいつを倒す」

トツポ「もう一度あいつと決着をつける・・！」

ベジータ「そこにいたか。来るなら来やがれ。逃げるのなら今の内だがな」
悟空「トツポ！破壊神になるんだろ!?今度は簡単に負けねえぞ！」

ジレン「サイヤ人・・その力は確かな物だ」

トツポ「ここからは私もプライド・トルーパーズとしてでなく破壊神としてお前に挑ませてもらうぞ」

ベジータ「ふん。いつまで上から目線で接してやがる。貴様の力等もう知れているぞ」

ジレン「お前に見せてやろう・・その誇りと捨てない思いに敬意を評し全開のパワー」

をな」

トツポ「身勝手の極意にならなければ太刀打ちは出来んぞ」
悟空「さつき言ったじゃねえか。なれるならなってるってよ」

トツポ「ふん・・・」

トツポとジレンが怒号を上げると武舞台の破片が揺れ観覧席にもその強大な気が伝わる。

二人がいた武舞台の破片は簡単に崩壊し悟空とベジータは別の足場に場所を移しそれぞれが戦いに入る。

赤黒いオーラを纏う本気のジレン。

黒紫のオーラを纏う破壊神トツポ。

ジレンと対する超サイヤ人ブルー進化ベジータ。

トツポと対する超サイヤ人ブルー界王拳孫悟空。

全王「おー！凄いのね」

未来全王「ジレンも本気なのね」

ビルス「いよいよジレンの奴も本気になったのか」

ベルモッド「こうなったジレンに勝つのは完全に不可能だ。まあ、本気にさせただけでも大したものだよ」

カイ「第7宇宙もいよいよ消滅の時が近付いてきましたね」

シン「悟空さんとベジータさんなら・・・」

四人の全力の激戦が繰り広げられようとしていたのだった!!!

キテラ「さあ、目を覚ませシャンツァ！あの細胞を活性化させるのだ!!」

続く

目覚めた邪神 第4宇宙の乾坤一擲!! 前半

シャンツア「フアアア・・」

眠っていた邪神が目を開け伸びをする。

悟空が起きたシャンツアに気付いたが破壊神となったトツポが破壊玉を飛ばしてきたのでそれをかわし戦いに集中する。

シャンツアには空間攻撃がありどこからでも攻撃を仕掛けられる事を警戒していた悟空だがそれを気にしすぎているとトツポの攻撃をかわせない。

よってシャンツアはスルーしトツポとの戦いに全神経を集中させる！

シャンツアの右肩に乗るダモン。そして、右耳に近付き会話する。

ダモン「ようやく起きたか。ガミサラスが落とされた！後は俺とお前だけだからな」
シャンツア「それで細胞は？」

ダモン「そればまだだ・・」

シャンツア「何をやっていた？ふざけているのか？」

ダモン「お前も手伝えよ！ジレンの奴バリアー張ってて近付くことすらも・・・うわわわ」

指先から球体のエネルギーの塊を出しダモンを球体のエネルギーの中に閉じ込めそれをデコピンで弾き飛ばした。

ダモンを閉じ込めた球体は赤黒いオーラを纏うジレンに目掛け弾き飛ばされる。

ジレン「ベジータだったな」

ベジータ「ようやく人の事を名前で呼びやがったか」

ジレン「新たなパワーに目覚めたばかりで悪いが落ちてもらうぞ」

ジレンに近付くと球体のエネルギーが赤黒いオーラに焼かれてしまいダモンはその熱さに思わず逃げてしまった。

もはやバリアーの問題ではない。ジレン自身に覆われるオーラは並大抵の人間では近付くことすら不可能。

ダモンはジレンから逃げる様に武舞台の破片をあちこち跳び回り最上にあつた破片

で避難する事に。

「ダモン「あいつ俺を殺す気で閉じ込めやがった！ジレンの細胞はどうすんだよバカ！」」

シャンツア「ジレンを相手するつもりはない。私の狙いは・・・」

ベジータ「脱落するのは貴様だジレン!!チエアアア!!!」

ジレン「・・・!!」

ベジータが特攻をかける。それを待ち受けるジレン。

右腕から目にも止まらぬ突き『ファイナルブロー』を浴びせようとしたがジレンは左手でベジータの右腕を掴みファイナルブローを見よう見真似で右腕でベジータのみぞおちにぶち込んだ!

凄まじい威力にブルー進化したベジータですら悶絶!真の力を見せたジレンのパワーを前に第7宇宙の観覧席では信じられないと言わんばかりにクリリン達の表情が

凍りついていた。

クリリン「あ……ああ……」

天津飯「ベジータの攻撃も俺達には全く見えなかった。が、それ以上に……」

亀仙人「ジレンの一撃は遥かにベジータを越えておる……」

悟飯「ベジータさん……」

ベルモット「今まで出来る限りお前達に合わせて戦っていたのだジレンは。夢はもう十分見ただろ？お前達の武術はジレンから見れば子供がやる格闘ごっここと変わらないのさ」

ベジータは苦しみながらも立ち上がり攻めの姿勢を忘れない。

ベジータ「夢は十分に見ただと？ふざけやがって……！」

ジレン「お前のその最後まで捨てない志は見事な物だ。ベジータ、お前を一人の戦士

として認める」

一人の戦士に感銘し全力に等しい力で挑む。
サイヤ人の秘めたるパワーは相当な物だ。

ジレン「だが、終わりだ」

ベジータ「ハア!!」

ディスポの速度に匹敵するほどのスピードで攻め寄るもベジータは高く跳び自分の何十倍も大きな武舞台の破片を片手で掴む。

そして、それを力任せにジレン目掛けて投げ付ける！

全王「凄いパワーだね」

未来全王「豪快でカッコいいね」

ジレン「今の俺には通用せん」

「そう呟きながら振り向かず左拳を後ろ向きに振るうとレーザーの如く気が放たれ背後を狙おうとしたベジータの腹部に直撃しぶっ飛んで行った!」

「レーザーを見て汗が流れるビルス。一人の人間がこれ程までのパワーと察知能力がある事に信じられずにいた。」

18号「エネルギー波の威力が桁違いだ。殺さない程度に抑えてるだろうけども」

17号「ただのパンチですらあいつにとっては遠距離攻撃にもなるのか・・・」

ベルモット「本気の一端を見せ始めたな」

カイ「あなたの言う通りです。あれはジレンにとってただのパンチです」

ジレン「ん?」

カイ「あれもジレンの強大なる気により地が震えているのです」

ベルモット「・・・あれは違うぞ」

カイ「えっ?」

「ジレンにより地が揺れているのでなくぶっ飛ばされたベジータが足場の下に移動し

足場ごとジレン投げ飛ばそうと企んでいた！

下らないとジレンは地に拳を振るうとレーザーの気が放たれ逆にベジータが押されていく！

ベジータ「ぐっ・・馬鹿力め」

ジレン「所詮はこの程度か。だが、俺に痛みを味合わせた事は評価してやる」

ベジータ「くそつたれめえ・・!!」

ベジータは何とか別の足場に着地しレーザーを抑える。

しかし、ジレンは力尽くでベジータを落とそうと一本のレーザーに力を注ぐ。

シャンツア「さて・・私もそろそろ運動するか」

シャンツアがニタリとし悟空とトツポのバトルを静観。

何か良からぬ事を考えているのが明白である。

悟空「へへ・・・やっぱすんげえなあ」

トツポ「破壊神相手では身勝手の極意にならなければ勝機はないと分かっているはずだ」

悟空「確かに身勝手の極意になんきや力のぶつかり合いじゃ勝てねえかもしねえ。けんどよ・・・何も力だけじゃねえぞ！」

ズバツ!!

トツポ「!?」

トツポの足場がスパツと綺麗に切れる。

悟空は隙がある時に密かに気円斬を作りトツポに気付かれない様に今まで隠していたのだ。

トツポは直ぐ様別の足場に跳び移るもその足場も別の気円斬が切り裂きトツポを地に着かせず脱落を計る！

トツポ「なるほど・お前の事だから真正面から向かってくると思っていたが搦め手も出来るのだな」

悟空「ビツクリしただろ？でも、それだけじゃねえんだぞ？」

トツポ「むっ？」

ビルス「へえ。悟空も頭を使って戦えるんだな」

ウイス「アニラーザ戦でも耳を切断したじゃないですか」

クリリン「それでも、あれで脱落する相手とは思えねえ・・」

天津飯「確かにな：けれど、また身勝手の極意を使ってしまうとジレンやシャンツアを止められなくなってしまう」

亀仙人「ふむ・ジレン、シャンツア両者を身勝手の極意で倒すのが理想なのじゃがそれでも倒せるかは分からんからの」

18号「確かにあの力は強烈だけども。二人相手はきついだろ」

17号「ジレンの本気が今の状態ならば孫悟空は勝てると思うけどな」

ピッコロ「となると、問題はシャンツアか。さつきから悟空の戦いを静観してるがあいつの狙いはやはり悟空か」

ビルス「うむ・・・キテラの事だ。どうせ僕の宇宙を狙うに決まってる」
ウイス「おや、悟飯さん。先程から指を顎につけて何か考え事でもしているのですか？」

悟飯「あいつは父さん狙いではないと思うんです」

ビルス「・・・何故だ？キテラは僕に嫌がらせするのを楽しんでいる。それ以外に何が
ある？」

悟飯「セルの細胞の事を思うと・・・」

クリリン「セルの細胞？あいつ持つてるのかな？」

悟飯「強者の細胞を採取するのならセルの細胞は使えます。そして、セルの特性を思い出してください」

悟飯「セルはバラバラになり再生する度にパワーアップを果たしています。更にパワーアップを果たす度に新しい力を身に付けていく・・・」

ピッコロ「・・・だが、それを得られるとは思えんぞ」

悟飯「そうなんです。いくらあの細胞を持っていても有り得ないと。けど、引つ掛かるんですよ。邪神と呼ばれているのが・・・」

コニツク「邪神は異名です。シャンツア君は別に神様でも何でもないですよ。私達から見ればあなた達と同じ人間です」

キテラ「セルの細胞も持っているぜ。ダモンが確か採取したな」

クリリン「お、俺の細胞は・・・」

キテラ「お前は採ってねえ。そこのハゲ3人は採ってるけどな」

亀仙人「光栄と思えばいいのかの・・・」

天津飯「あいつも四身の拳や気功砲が使えるという事か・・・」

ピッコロ「サイヤ人の細胞は採ってるだろうな。戦闘能力の向上には使えるだろうか
らな」

キテラ「人造人間だったか？お前達は採らなかつた。お前達は人間の細胞だけでは大幅な戦闘能力向上に期待できねえし特にこれと言った特殊な技もねえし。永久にエネルギーを使える機械は流石に採取できないからな」

18号「別に採らなくて結構さ」

17号「という事は第3宇宙のマシンの戦士も採れないという事か。だが、アニラーザはあの科学者との合体だからこそ完全なマシンじゃなくなり採取したのか」
キテラ「その通りだ。お前、なかなか頭がキレるじゃねえか」

シン「大幅な戦闘能力向上・・・」

クル「分かってしまいましたか？」

老界王神「ワシは分かっどるがの」

シン「一体何が起こるのでしようかご先祖様？」

老界王神「よ、よく観察すれば分かるじやろうに馬鹿者」

シン「えっ? そうなのですか？」

クル「・・・始まりませすよ」

クルは真剣な眼差しで武舞台を見つめる。

クルの眼差しにシンと老界王神も同じように武舞台を、そして何か仕掛けるであろうシヤンツアに着目した。

次々と足場を切断する悟空だがトツポは巨体に反して身軽に足場に跳び移り脱落から逃れ少しずつ確実に悟空がいる場所に近寄っていく。

簡単に脱落はしないと分かっていたがもし戦闘になれば今の悟空ではまだトツポ相手は厳しい。

悟空「ベジータのブルー進化ならもしかすつとダメージを与えられるかもしんねーけどなあ」

トツポ「破壊」

迫ってきた気円斬を破壊し悟空に隕石の如く突撃する巨体。

搦め手をやめ悟空も超サイヤ人ブルーでトツポに突っ掛かろうとしたその時であった!!

キューン!!

ピッ!!

トツポ「ん!？」

悟空「お、おめえ・・・!」

シャンツア「まずは小手調べを」

シャンツアが手をグーにし親指を合わせていた。

小さな姿の時に使っていた幻術で、その左右にはフリーザとヒットの幻影が悟空とトツポに攻撃を仕掛けたのだ!

悟空はフリーザのデスビームを受け身体は貫かれなかったものの不意に背を撃たれダメージを負ってしまう。

トツポは破壊エネルギーの影響もあり無傷でやり過ごせたがシャンツアの姑息な不意打ちに怒りを露にする!

トツポ「力の大会において正義はない。だが、お前のその消滅した人間を弄ぶ行為は不愉快だ」

シャンツア「正義？何だそれは？やれ」

幻影ヒット「消えろ」

幻影フリーザ「消えろ猿」

トッポ「下らん技を」

シャンツアは二人から離れヒットとフリーザを操る。

どうやら大技は使えないらしくヒットの幻影は時飛ばしの移動をせずフリーザと二人でトッポに襲い掛かる！

悟空はその隙にシャンツアを狙おうとかめはめ波を放つ！！

悟空「波ー！！」

シャンツア「くくくく・・・」

かめはめ波がシャンツアの腹部に直撃！

が、かめはめ波が全く効いていない。

悟空「いいい!?!」

何と逆にかめはめ波が悟空の元に跳ね返ってきた!!

シャンツアの腹部が銀に輝いている。採取した戦士の能力を使っている事は確かだが誰がその能力なのか分からずにいる第7宇宙の観覧席のメンバー。

困惑した表情をするメンバーにキテラはニタニタとしコニックが口を開く。

コニック「知らないのも無理はないでしょう。プラン君はフリーザ君達に狙われすぐに脱落したのですから」

クリリン「誰だ? そんな奴いたっけ?」

18号「第2宇宙の戦士か・・・」

17号「茶色の太った奴の能力か。強力な能力を持っていたのだな」

悟空「うわっと・・・あぶねーあぶねー。かめはめ波を跳ね返すなんてな。こりやかな

り厄介だぞ」

シャンツア「お前も遊びたいのなら召喚してやろう。心広い私の慈悲に感謝するのだ」

両手の握り拳を一瞬だけ離し手の甲を合わせるとシャンツアの前に黒い球体の物が現れそれが形に・・・それは悟空と同じシルエットの幻影。

悟空はそれが誰の幻影なのかすぐに分かりトツポとの戦いを後にし幻影相手に集中する。

悟空「・・・ブラツク」

幻影ゴクウブラツク「人間は消えろ」

シャンツア「消滅した負け犬共に落とされろ」

悟空「ダリヤア!!!」

幻影ゴクウブラツク「人間を0に。人間0、人間0、人間0・・・!」

トツポ「無駄な事を・・・」

幻影フリーザ「ゴミはゴミ箱に」

幻影ヒット「お前達を消滅させる」

ビルス「悪趣味な奴だ」

ウイス「けれども、かなりの使い手です。破壊を行使してももすぐに別の幻影が作られキリがありませんね」

キテラ「シャンツアから見ればこれはただのお人形遊びだな」

このままでは埒が明かないと判断した悟空はブラックの幻影を蹴飛ばし離れた場所
でフリーザとヒットの幻影と戦っているトツポに呼び掛ける。

悟空「トツポ!!一旦休戦だ!!」

トツポ「・・・奴の構えを解かなければ無限に幻影が現れるらしいな。いいだろう。ここは手を組もう」

悟空とトツポが同じ足場に立ち構える。

ライバル同士のコンビが結成された!!

シヤンツアはそれを見て歯を剥き出しにし不気味な笑みをこぼす。

邪神は何を思い何を企んでいるのか・・・。

目覚めた邪神 第4宇宙の乾坤一擲!! 後半

クル「だ、大丈夫なのですかキテラ様! コニック様!」

キテラ「心配するな。孫悟空とトツポの細胞を持つてるシャンツアが負ける訳がねえ」

カイ「破壊神となったトツポに生意気な態度でしかも手を組むとは・・孫悟空何と無礼な!」

マルカリータ「けれどもシャンツアの能力は未知数です。幻影を出すだけの戦士ではないですよ」

ベルモッド「破壊神トツポにわざわざ挑むとは愚かな奴だ・・」

シャンツア「手を組んだか・・なら、これはどうかな?ヌウウン!!」

シャンツアがまた合わせていた両握り拳を離すが今度は力を込めている。

悟空がさせないと超サイヤ人ブルーで突っ込むがフリーザ、ヒット、ゴクウブラック

の3幻影に妨げられてしまう。

トツポがその隙に破壊玉をシャンツア目掛けて放ったが咄嗟に気付いた幻影ゴクウブラックが瞬間移動でシャンツアの前に立ち変わりに破壊される。

シャンツアの両握り拳の間に現れる巨大な黒く巨大な球体が現れる。

シャンツア「こいつは強いぞ」

ビルス「ま、まさか!？」

ウイス「これは驚きました」

シン「そんな・・あれは・・」

カイ「第3宇宙最強の戦士までも・・」

悟空「あ・・ああ・・」

トツポ「ほう・・」

巨大な球体が形に・・みるみるそれはシャンツアより巨大にそして、羽根を広げなが

ら咆哮を上げる。

悟空は開いた口が塞がらない。アニレーザーの幻影が現れたのだ!

シャンツァ「こいつを出すには他の幻影を消さないと私の脳が持たない。脳で創造し
幻術を創るがこいつクラスの巨大サイズを創造するにはなかなか脳に負担が掛かるの
でね」

幻影アニレーザー「グオオオオオオ!!!」

トツポ「何を驚いている。あいつの構えを解けば消える。大した脅威ではないだろ」

悟空「そ、そうだったな・・。またあいつが現れたと思っておどれえちまった」

トツポ「私はアニレーザーと戦う。お前は奴の構えを解け」

悟空「おし、やってやつぞ!!」

幻影アニレーザー「ウオオオオ!!!」

トツポ「プライド・トルーパーズのトツポと思うな。今の私は破壊神トツポだ!」

感觸もしたぞ」

シャンツア「ブウとは誰か知らんが私がただの身体ではないのは確かだ」

トツポ「私は慈悲を与えんぞ」

トツポが遠距離から掌でちょうど掴めるサイズの破壊玉を投げ付けシャンツアの左腕に当て破壊！

悟空は突然背後から飛んできた破壊玉に驚くまもなく冷や汗を流すがそれとは対称的にシャンツアは余裕な表情で左肩からグチャリと不気味な液体音と共に左腕が再生する。

やはりかと察するトツポと悟空。

シャンツアの身体にはセルやピッコロの細胞もあるが液体の身体を持つマジッカーの細胞も持っていた。

シャンツア「おっと、危うく破壊される所だった。破壊神は怖いな」

シャンツア「が、一人の人間も破壊出来ないのだな。・こんな奴が次期破壊神とは笑わせる」

トツポ「口だけは達者だな」

シャンツア「お前程度の奴を破壊神にすべく鍛えた奴等は見ると目が合わないな」
トツポ「私の事はいくらでも言えればいい。だが、カイ様やベルモツド様やマルカリ―
夕様を侮蔑する事は許さん！」

シャンツア「・・・馬鹿な神々に育てられた馬鹿な破壊神の誕生だな」

トツポ「許さん!!!」

悟空「うわっ!!」

トツポがシャンツアに突撃してきたのでシャンツアの前にいた悟空は高くジャンプしてギリギリ突撃は当たらなかったがトツポとシャンツアのぶつかり合いからの衝撃で悟空は吹っ飛ぶ!

クリリン達は吹っ飛んだ悟空を心配するが別の足場に転がりながらも何とか脱落は免れほつと息を吐いた。

クリリン「全く無茶苦茶な戦いだぜ・・・」

天津飯「悟空は助かったがああ二人の戦いには混ざらない方がいいだろう」

ビルス「キテラの奴、何を考えている・・・あいつが破壊神相手に勝てると思っ
ているのか？」

コニツク「勝ち負けではございませんよ」

ビルス「勝ち負けではないだど？」

キテラ「これはいわば実験だ。シャンツアにとつて少し激しい運動に過ぎねえ」

ベルモツド「運動だど？破壊神相手に随分と余裕だな。消滅が近付くのが分かつて正
気でいられなくなつたか」

キテラ「キキキキ・・・正気だあ？」

ベルモツド「ん？」

キテラ「消滅が掛かっつていて正気になれると思ふか？」

ビルス「・・・」

キテラ「宇宙が消えるんだぜ・・・弱い宇宙は必要がないのは当然の理屈だ。だから最
高だぜ力の大会は・・・！」

ベルモッド「偉く楽しんでるようだな・・・」

キテラ「ああ、楽しくて仕方ねえ!! 正に本当の意味でのデスマッチ! こんなに楽しいゲームは初めてだ!!」

キテラ「第7宇宙が消えたらどんな面をして消滅する? 第1宇宙が消えたらどんな面をして消滅する?」

キテラ「俺はその瞬間が待ち遠しくて仕方ねえ!! キキキキ・・・ギャハハハハハ!!」

ビルス「チツ・・・完全にイカれてやがる」

ベルモッド「異常な奴め・・・!」

キテラのあまりにも狂った態度に不快な気分になるビルスとベルモッド。
ガノス達もキテラの異常性には流石に顔が凍り付く。

全王「考えはそれぞれなのね」

未来全王「なのね」

大神官「力の大会を楽しんでくださるのでしたら全王様もさぞかし喜ぶでしょう」

キテラ「第4宇宙はここから力を見せますよ全王様」

全王「でも、シャンツア追い込まれてるのね」

未来全王「負けちやいそうなのね」

二人の全王が言うようにシャンツアとトツポの戦いはトツポが圧倒していた。

シャンツアの多彩な攻撃も破壊のオーラを纏うトツポにダメージを与えられない。

ニヤリと右唇を上げるベルモッド。たかが細胞を採った人間が破壊神に抗うなど無
知な存在に等しい。

言葉で語らずともその様な表情をしながらトツポを見守っていた。

クル「やはり破壊神に敵う訳が・・・」

シン「いくら悟空さんの細胞やベジータさんの細胞を持っていても破壊神相手では普
通なら敵いませんよ」

キテラ「言っただろ？これは実験だつてな」

ウイス「何を企んでいるのですかね・・・」

マルカリータ「企みがあったとしても破壊神トツポには敵わないですますよ」

コニツク「ですね。敵いません」

マルカリータ「はい？」

コニツク「素晴らしい力ですトツポ君は。シャンツア君も必死に立ち向かっているに・・・参りましたね」

キテラ「は？」

シャンツア「グギャア!!!」

トツポ「不屈き者には罰を与えねばならんな」

シャンツア「ギギギ・・・髭面野郎め」

トツポ「それが私に対して最後のメッセージだな」

キテラ「おいコニツク!!どういう事だ!?!」

コニツク「いえ、トツポ君は強くて敵わないので参りましたと」

キテラ「ふざけるなあ!!強化出来るんじゃないのか!? シャンツアは更に強くなれるんじゃないのか!? お前さつき話してただろ!!」

コニツク「さあ・・・それは分かりません」

ベルモッド「残念だったなキテラ。これで残りはあの小さな虫の戦士だけになるが、それで我々に勝てるのかな？」

キテラ「だだ、黙れ!! シャンツアは負けねえ!!!」

トツポ「これで終わりだ」

シャンツアの倍はあろう破壊玉が放たれ直撃。

シャンツアは破壊玉を抑えるが破壊エネルギーの痛みが身体に渡り悲鳴を上げる。

シャンツア「ギギヤアアアア!!!」

トツポ「無理をするな。いくら再生能力があっても完全に消滅するぞ」

シャンツア「グギヤギヤギヤ!! ごわゝれるゝ!! あゝあゝ あああ!!!」

悟空「おいおい、あのままじゃあいつ破壊されちまうぞ・・・」

シャンツアはあまりの痛みに口を開け涎が溢れ舌も出しっぱで下品極まりない顔に。愚者に対し当然の始末だと鼻で笑うベルモッド。

キテラは両手で目を覆いもうダメだと言わんばかり。

ビルスは第4宇宙は終わったなど破壊神トッポとジレンにどう悟空とベジータが立ち回るのかを考えていた。

——悪趣味ですネキテラ様も

上手く言つちまつてニヤケ面がバレちまう所だったぜ

ベルモッド「な、何が起こっている!？」

カイ「破壊エネルギーが・・・？」

シャンツア「ブオオオオオ!!!」

トツポ「もしや・・・俺の細胞が・・・！」

マルカリータ「まさかトツポの細胞を・・・」

コニツク「トツポ君の細胞を活性化させたのですよ。かなりの賭けでしたが上手く
いって何よりです」

キテラ「あいつ言つてたよな？プライド何たらなのトツポと破壊神トツポは別人だと

よ」

キテラ「だったら細胞そのものも変わっちゃまってると可能性も無きにしもあらずだ。それを利用してトツポの細胞をシャンツアの両手に移動させ活性化させたんだよ！見る!!」

破壊エネルギーがシャンツアの両手の中で輝きそれがシャンツアの手にもまるで見えられたかのように纏われていた！

有り得ないと身体を震わせるカイ、シャンツアの計り知れない可能性に驚くシンとクル。

ビルスはキテラが焦っていたのも全て演技だと分かり焦っていた当初は多少なりとも黙って第4宇宙を見届けようとしたが今は怒りに震えていた。

キテラ「何だビルス？まさか第4宇宙は終わりだと思ったのか？」

ビルス「うるさいぞ・・・！」

キテラ「キキキキ！まあ、見とけ。苦労して破壊神になった奴とちよつと細胞を盗んだだけで圧倒的にパワーアップした奴との戦いをな！」

シャンツア「これが破壊のエネルギーか・・・お前と違って破壊は行えないがお前の細胞が活性化されて力が沸き出てくるぞ」

トツポ「いい気になるな！愚者め!!」

シャンツア「ああっ？」

トツポが破壊エネルギーを指から乱射するもシャンツアが両手の纏われた破壊のエネルギーを利用しそれを無効化する。

そして、デイスポの光速移動で詰めより右頬に拳を叩き付けトツポにダメージを与える！

破壊神トツポの戦闘力を得たシャンツアのパワーはトツポの破壊エネルギーと頑丈な身体にもダメージを与えられる程強化されていたのだ！

悟空「トツポにダメージを与えてっぞ・・・またやべーのが現れちまったな」

ベジータ「ぐっ・・・何だこの強大な気は・・・!?」

ジレン「うむ・・・」

ジレンはベジータに攻撃を行うのをやめシャンツアをこの眼で見ると移動。
ベジータはジレンのレーザーを抑えるのに精一杯でブルー進化を解き体力回復に専念する事に。

ベジータ「くそつたれめが……」

トツポ「ぐはっ!!ぐがっ!」

ベルモッド「トツポがどれほどまでに破壊神になるのに苦労したと……!」
キテラ「それはご苦労なこつた。人の苦労や努力等どうでもいい。必要なのは力のみだ」

キテラ「終わらせろシャンツア!!お前の好きな陰湿なやり方でな!!!」

シャンツア「ジャステイス……」

トツポ「お、おの……れ……」

シャンツア「ボンバー!!」

トツポ「グオオオオオオ!!!」

シャンツアの右手から出される気の塊がトツポの身体にぶつけられ爆発した後、トツポの巨体が宙に浮く!

何とか別の足場へと行こうとするもシャンツアが光速で移動しそのまま真下にハンマーナツクルをぶち込み叩き落とす!

トツポ「このまま落ちる訳には……なっ……」

シャンツア「これで決めてやる……破壊エネルギーからの……」

かめはめ波だ!!

悟空「なっ……あっ……!!」

トツポ「こ、こいつ……ぐっ、おおお……」

トツポの重傷に心配する第1宇宙のメンバーとカイ。

ベルモッドは想像を絶するシャンツアのパワーでもジレンには及ばないと信じていた。

ベルモッド「大丈夫だジレンなら・・・ジレンは負けん存在だ」

コニツク「シャンツア君の強化、見事上手いききましたね」

キテラ「ああ。トツポの細胞が破壊エネルギーに反応して良かったぜ。後はジレンの細胞さえあればシャンツアは誰も止められねえ・・・！」

悟空「やるしかねえ・・・」

破壊神を倒した邪神。恐るべきパワーをもつ相手に悟空は戦いを挑むのであった!!

続く

身勝手の極意封じ 孫悟空脱落計画 前半

ウイス「破壊神の能力、破壊は使えませんが破壊神のエネルギーを目覚めさせるとは・・・」

ビルス「かなり特殊な状態だね。破壊神のパワーは持っているが破壊の力は使えない。が、さっきの破壊エネルギーからのかめはめ波の様に破壊の力ではなく破壊神の強大な神の気を使つての攻撃は可能という訳か・・・」

トツポを余裕綽々で叩き落としまだその倒した瞬間の余韻で調子に乗っているシャンツアを落とそうとジレンがパワーインパクトを放とうとした。

だが、一人の戦士がシャンツアに挑もうと歩み寄つてるのが分かりパワーインパクトを放つのをやめ静観する事に。

悟空「トツポを倒すなんてやるなおめえ」
シャンツア「孫悟空」

悟空「よし、今度はオラと戦わねえか!？」

シャンツア「……………」

キテラ（おい、シャンツア）

シャンツア（キテラか）

キテラ（呼び捨てかよ！……まあいい。お前も破壊神の戦闘能力を得ているからな）

キテラ（お前なら分かるだろうが孫悟空とは全力で戦おうとするなよ）

シャンツア（何故だ？）

キテラ（分かんねえのか・孫悟空には身勝手の極意があるからだ。もしも、全力で挑みそこからお前の強大なパワーから身勝手の極意に目覚める可能性が……）

シャンツア「いいだろう。遊んでやるぞ」

キテラ「コラ、シャンツアー!!!」

コニツク「シャンツア君の強大なる力の代償は我々の意見が受け付けなくなっていくのです」

キテラ「……まあ構わねえ。遊びながら落とすんだらうよ」

シャンツア「まずはこれだ！キシヤシヤシヤシヤシヤシヤシャー！！！！」
悟空「連続エネルギー弾・ベジータの技か！」

連続エネルギー弾が悟空に目掛けて放たれるが突然連続エネルギー弾が消える。

悟空は分かっていた。

消えたのではなく空間移動で背後に飛んでくる事を！

悟空「分かっつてっぞ！」

シャンツア「ふん！」

連続エネルギー弾をかわすも今度はその連続エネルギー弾が真上に飛んでいき静止する。

無数のエネルギー弾の狙いは……

ピッコロ「今度は俺の技か!？」

シャンツア「くたばれ！」

悟空「それも読んでんぞ！」

追尾するエネルギー弾を悟空も負けじとエネルギー弾で相殺し攻撃を防ぐ。

防いでる間にシャンツアは今度は手で四角の形を作り悟空を範囲に定める気を放つ。

悟空「天津飯の技か！」

クリリン「無茶苦茶だぜあいつ・・・」

18号「あの空間移動が厄介だね。あいつからは逃げられないからな」

シャンツア「ほう、仲間の技に恐れず突っ込むか？」

悟空「界王拳!!」

気功砲にそのままブルー界王拳で突撃しシャンツアの首もとに右の一発を浴びせようとしたがシャンツアは身体をキューブ状に分解し攻撃を回避。

そして、キューブ状の身体を元に戻し背後から悟空を殴り飛ばし魔閃光を放つ！

悟空は瞬間移動でシャンツアの背後につき魔閃光をかわしつつ蹴飛ばそうとしたが尻尾で左足を捕らえられ投げ付けられてしまう。

シャンツア「今の戦闘、空間移動を除くと第7宇宙の奴等の技しかお前には使っていないぞ」

悟空「くっ・・・」

シャンツア「それでも私には及ばない。分かっているな？それがどういう事かを・・・」
悟空「・・・オラじやおめえには勝てねえ・・・て、言いてえのか？」

シャンツア「私は今機嫌がいいのでな。もし諦めるのならば少しだけ痛め付けるだけで済ませてやる」

悟空「結局いてえー目みるなら戦うしかねえじゃんか」

シャンツア「断るのか？」

悟空「断るも何も全力で来いシャンツア！第7宇宙以外の技も使ってもいいんだぞ」
シャンツア「お前には使うまでもない。ふん！」

悟空「うわっ!!」

さわやかな風が悟空に送られる。セルが前の力の大会でこの技で脱落した事を覚え

ておりしつかり足に地を付けふんばる。

そのふんばる悟空の腹部目掛けて右手からデスビームが放たれ直撃！
肉体には貫通せずとも痛みが迸る。

悟空「ぐっ・フリーザの技か」

シャンツァ「一応セルも使うぞ」

クリリン「完全に遊んでいやがる・・・」

ピッコロ「本気になればあいつは全ての指からフリーザのビームを撃てる」

ジレン「・・・」

カイ「ここはジレンも様子見してますね」

ベルモット「わざわざ割って入る意味がないからな。だが、しぶとい奴もいる」

ジレン「サイヤ人は戦う事が好きだな」

ベジータ「言ったはずだ。貴様を倒すのは俺だとな」

ジレン「第7宇宙はどいつもこいつもしぶとい」

ベジータ「こつちを向きやがれー!!!」

超サイヤ人ブルーでジレンに挑むがそれでは通用しない。

だが、ベジータは超サイヤ人ゴッドから超サイヤ人ブルーへの一瞬の変身からの爆発的な一発を相手にぶつける要領で超サイヤ人ブルーから超サイヤ人ブルー進化でジレンの背中にダツシユボムをぶつけると予想を越える一撃にジレンは吹っ飛び足場から足が離れる！

ジレン「一瞬の爆発力か」

ベジータ「攻撃自体は効いてないが貴様を吹き飛ばせるのだな」

ジレン「それがどうした？」

ベジータ「隙を突けば貴様を場外に叩き落とすのも不可能ではないという事だ」

ジレン「・・・」

ベジータ「チツ!!」

離れた場所からパンチという名のレーザーが放たれた。

レーザーがベジータの頬にかすり僅かながら血が流れる。

隙は見せないと己の攻撃でベジータに見せしめるジレン。だが、ベジータもお返しと言わんばかりにビッグバンアタックを放つ。

ジレン「どこまでも反抗的な奴だ」

ベジータ「それが俺のサイヤ人としての生きざまだあ!!」

武舞台の上段ではベジータVSジレン、下段では悟空とシャンツアが戦っていた。

第7宇宙はセルが自爆でいなくなり残り2人。

第4宇宙はシャンツアとジレンの細胞を狙うダモンの2人。

そして、第11宇宙はジレンのみであった。

現在の状況ではやはり各宇宙の強者の細胞を集め強化されたシャンツア、破壊神に匹敵あるいは凌駕すると言われているジレンを相手に悟空とベジータは苦しい戦いを強いられている。

シャンツア「お前は所詮私にとってパーツの一部に過ぎない。あらゆるパーツを持っている私に勝つ等、不可能なのだ」

悟空「セルみてえなもんだろ？」

シャンツア「そのセルの細胞も私は持っている。こいつの細胞は純粋な戦闘能力強化として活用させてもらっている」

悟空「第7宇宙はクリリンと人造人間達以外の細胞は持つてるっちゅう訳だな？」

シャンツア「そうだな。戦闘能力が低いであろう天津飯、亀仙人。こいつらはその分お前達にはない特殊な技を持っている。この様にな！」

悟空「当たんねえぞ!!」

シャンツアの左手から出される萬國驚天掌を瞬間移動でかわしつつ背後に回り攻撃を繰り返そうとしたが、シャンツアの角からビームが放たれ悟空の身体に激痛が走る！

悟空「ウワアアアアア!!!」

シャンツア「更に・・・」

ビビビビッ
!!!!

天津飯の技の一つであるマシンガン突きがビームを受け苦しむ悟空を追撃。

ピッコロの触覚からのビームと天津飯のマシンガン突きの連続攻撃に苦しく息を上げる悟空。

だが、シャンツアは突然手を止める。

ダメージを与え刺激を感じさせると身勝手の極意へと目覚める可能性も0とは言えない。

シャンツアは採取した細胞の影響で知能も格段と向上しており悟空の細胞を持っていても悟空の可能性には内心警戒しているのであった。

シャンツア「前の力の大会の様に身体を突き刺し骨を砕いてやろうか？」

悟空「おめえ、どうして手え止めたんだ？」

シャンツア「・・・遊んでやってるのだ。お前は一欠片のパーツ。パーツを合わせ強化された私に一欠片のちっぽけなパーツに何が出来る？」

悟空「ちっぽけか：へへっ。ちっぽけでもよ、限界越えたら分かんねえかもしんねえぞ？」

シャンツア「知力が低いと訳の分からん理屈を語るのだな」

悟空「けど、おめえの力も仲間のおかげじゃねえか。おめえだけの力だとピツコロ
といい勝負してたよな？」

シャンツア「仲間？私にそんな物はない。私を利用し消滅を免れあいつ等を利用し
更に私は強くなる。互いの為に持ちつ持たれつの関係なだけだ」

悟空「そっか。まあ、おめえも消滅はしたくねえもんな」

シャンツア「お前は細かい話が苦手なものも分かっている。拳で語る方がよさそうだ」

聞いている瞬間にシャンツアの右手が空間移動し悟空の背後を狙ったが悟空もシャ
ンツアの奇襲攻撃を読み超サイヤ人ブルーでシャンツアに詰め寄る！

シャンツアは左腕一本でガードするも悟空の一撃は重かったのか足が地を滑る。

悟空「ダリヤリヤリヤリヤリヤ!!!」

シャンツア「チイツ!!」

更にラツシュを仕掛けシャンツアを追い詰めるが右手が空間移動から戻ると何か危

険な予感を感じ悟空は一旦はシャンツアから距離を取る。

咄嗟に距離を取った悟空にシャンツアはニタリと右手に握り締められた物を舌なめずりしていた。

シャンツア「いい判断だ。もし、あのままラツシユを仕掛けていたらお前の身体をこ
れが貫いていたぞ」

悟空「どつからそんなもん持ってきたんだ？」

シャンツア「お前の一本の髪の毛からだ」

シャンツアは右手で悟空は捕らえられずも髪の毛一本を取りそれを魔術で剣に変化
させていた。

その剣を一振りすると斬撃が飛び宙に浮く足場を切り裂く！

たった一本の髪の毛から切れ味鋭い剣に変化させる魔術に第7宇宙、第11宇宙だけ
でなく免除宇宙の神々も驚きの顔をしていた。

イワン「あのシャンツアという者、とてつもなく邪悪な気を感じるが強さはかなりの

者である」

アナト「第4宇宙にこれ程の隠し玉があるとは思いませんでした」

オグマ「ああ、恐ろしい・・・これからはもつと人間レベルを上げないと行けませんよ
アラク様」

アラク「ふむ・・・」

イル「免除宇宙で期待した宇宙の中で我々が期待していた第2宇宙が一番最初に消え
第1宇宙が期待していた第1宇宙だけが残りましたな」

リキール「残りは誰も期待していなかった第4宇宙と第7宇宙か。まさか、第4宇宙
が最後まで残るとは思いも寄らなかった」

アグ「ジーン様は確か第7宇宙に期待していたのでは？」

ジーン「そうなるのかもな。俺は面白いと思っただけだが」

悟空「おめえ魔法使いか？」

シャンツア「串刺しにしてやろうか？」

今度は劍を悟空の胸元目掛けて投げ付ける！

真つ直ぐ投げ付けられた劍をかわすのは容易ではあったがもし突き刺さるうものなら死んでしまう。

シャンツアは悟空がわざと突き刺さって死ぬ様な下らない策を取らないのを知っている。

悟空「おいおい、あんなの刺さつちまったらオラおつ死んじまうぞ？」

シャンツア「ふん」

悟空「いいっ!？」

投げた劍が今度は背後に襲い掛かってきた！

シャンツアの右人差し指の動きでギリギリ劍の動きの予測ができ右脇腹にかする程度ですむ。

シャンツアは劍を空間移動させ右手に持ち直す。

シャンツア「まあ、劍で遊ぶのはこれくらいにしてやる。お前はドジだから刺し殺し

てしまうかもしれんからな」

剣を投げ付け空間移動させるとジレンと戦闘中であつたベジータの眼前に空間を裂き剣が現れた！

突然現れた剣に驚くもベジータは身体を左側にひねりながら剣を回避する。

が、隙だらけになつた所をジレンの拳から放たれるレーザーが直撃し吹っ飛ばされてしまう！

ベジータ「ウアアアア!!!」

ジレン「……………」

ジレンはパワーインパクトを左手で放つたがベジータは別の足場に立ち即座にブルー進化で抑える。

右手からもパワーインパクトを放つたが抑えていたパワーインパクトを押し出す形で相殺させ大爆発した瞬間にベジータとジレン互いに突っ込んでいき拳をぶつけ合う！

ベジータ「チエアアアア
!!!!!!」

ジレン「ヌウウン
!!!!」

ビルス「ダメだ。力勝負ではジレンには敵わない」

ウイス「かと言って技をひたすら繰り返していても効果はありません」

ビルス「ベジータの力も決して弱くはない。ジレンの強さが異常だ・・・」

ベジータ「く、くそお・・・」

ジレン「それがお前の限界だ」

ベジータ「ウオアアアア
!!!!」

ベルモット「これで第7宇宙は孫悟空だけだな」

カイ「本気のジレン相手によく粘りましたね。そこだけは評価して上げますよ」

シン「ベジータさん!!!」

老界王神「またも悟空だけになってしまふのか・・・」

ジレンの拳からのレーザーに押され脱落へと近付くベジータ。

このまま押され脱落する・悟空のみでまた前の戦い同様絶望の戦いになるのかと震えるシン。

悟空もジレンのとてつもない気を感じベジータがやられたと思ひ覚悟を決めていた。

ウキヤー!!

ベジータ「!?」

吹っ飛ばされたベジータを素早い動きで捕まえ脱落から救う！
小さな身体とはいえ力強さがある！

ベジータ「チツ、セルのガキか・・・」
セル Jr. 「ウキキキ」

身勝手の極意封じ 孫悟空脱落計画 後半

ピッコロ「セルJr. がいたか！」

17号「セルの奴、いつの間に産み出していたんだ？」

18号「理由はともかく脱落は免れたね」

悟飯「セルは生きてるんじゃない？」

クリリン「・・・自爆したと思わせてトランクスを殺したからな」

ビルス「ん？トランクスってあの未来の方のか？」

クリリン「セルは未来世界のトランクスと地球を巻き添えにしようとした自爆でセルと共に瞬間移動した悟空と界王様も巻き添えにしたのですよ」

ビルス「へー、あいつも悪い奴だね」

悟飯「後、タイムマシンを使って僕達の世界に来たので・・・」

ビルス「何？あいつもタイムマシンを使ったのか!?どいつもこいつも・・・」

セルJ r. 「ウキヤキヤ」

ベジータ 「セルは生きてるのだな？」

セルJ r. 「キツ？ウゝン．．」

ベジータ 「知らないのか．．ならば貴様はいつセルから．．」

ビシイ
!!!!

セルJ r. 「キイイ!？」

ベジータ 「チイツ!! 厄介なレーザー．．いや、あいつにとってはただのパンチか」

ベジータの右肩に僅かにかすると同時にベジータとセルJ r. がいた小さな足場がレーザーにより粉碎されベジータは離れている西側の足場に移動、セルJ r. は落ちていった。

セルJ r. は観覧席に戻ってこない。セルが出した『物』となるので消滅されてしま
う。

17号「戦士ではないからな」

悟飯「でも、可哀想な気が・・・」

クリリン「とは言ってもあいつ等俺達を殺そうとしたからな」

ベジータ「どうする・・・」

ジレンのレーザーをひたすら足場を転々と飛び移り回避するベジータ。

セルJ r. の助けがなければ今頃・・・頭に来るぜ。

実質セルに助けられた様な物だ。あの野郎に助けられたと思うと・・・！

ベジータ「虫唾が走るぜ・・・!!」

ジレン「・・・」

粘りを見せジレンのレーザーをかわしていくベジータ。

悟空はその頃、シャンツアの連続攻撃に守りを中心に立ち回り少量のエネルギー弾を放つのかやつとの反撃であった。

当然、シャンツアは全力を出しておらず未だに第7宇宙の戦士の能力しか使っていない・・・。

悟空「セル以上に他人の能力を駆使してんな・・・だけんどちよつとずつ分かってきたぞ」

シャンツア「フフフ・・・」

ピシユン

ピシユン

悟空「ダリヤアアア!!!」

シャンツア「キシャー!!!!」

ガガガガガ
!!!!

ダダダダダ
!!!!

互いに瞬間移動して拳をぶつけ合い激しいラッシュが始まる。

シャンツアが空間移動で背後を狙えば悟空は行動を予測し攻撃をぶつけシャンツアも負けじと攻撃をぶつけあう！

クリリン「悟空もある程度動きを読み取って争ってるぜ！」

天津飯「だが、あいつはまだまだ力を出し切っていない。それどころか・・」

亀仙人「この撃ち合いも遊びに過ぎんじやろう・・」

悟空「ハアアアア!!!!」

シャンツア「ウギツ!!」

超サイヤ人ブルーの悟空の右拳の一撃がシャンツアの左頬に浴びせられる！

空間移動を読んでからのカウンター。見事な一撃ではあるがシャンツアはニタリと不気味に笑む。

すると、シャンツアが消え頭上からもう一つの空間移動をするシャンツアが現れたのだ！

悟空「しまった！」

シャンツア「一撃決めたぞ、と思ったのか孫悟空？」

天津飯「四身の拳か・・・」

クリリン「悟空!!」

悟空「グア!!!」

シャンツア「その頑張りは認めてやろう。パーツにしてはよく戦えている」

悟空「オラ、おめえのパーツになった覚えなんかねえぞ・・・」

頭上からエネルギー弾をまともに受け地が砕ける程の一撃を受けるが悟空は立ち上

がる。

シャンツアは四身の拳を消し立ち上がる悟空の胸ぐらを掴み狂気表情を浮かべていた。

シャンツア「私はお前の細胞を持っている。お前達大会出場者は私にとつては力の糧に過ぎないのだ」

悟空「いつ、オラの細胞を採ったんだ？」

シャンツア「さあ・・・キテラや虫共なら知ってるかもな。ガーツ!!!」

悟空「ウワアアア!!!!」

みぞおちに口から怪光線を浴び吹っ飛び場外へとあわや落ちかける。

悟空は落ちそうになったが何とか片手で別の足場に掴まり助かったのだが・・・。

悟空「このまま・・・やられっぱなしは嫌だぞ・・・」

シャンツア「終わりだ孫悟空」

ビシツ
!!!!

悟空「なっ・・・！」

クリリン「悟空ー！！！」

ビルス「まさか・・・!?」

キテラ「よくやったぞダモン！孫悟空は終わりだあ!!!」

掴んでいた悟空の右手をダモンが蹴飛ばし場外へと叩き落とすに掛かる！

第4宇宙は身勝手の極意を発動させず不意の一撃を浴びせ悟空を脱落させる計画を立てていたのだった。

第4宇宙ならやりかねない策だとビルスは今になって気付き後悔していた。

キテラ「場外判定から近い下の足場だ。誰も助けられねえぜ。足からのかめはめ波も間に合わねえ！」

ビルス「悟空・・・！」

シャンツア「終わりは一瞬。そして、消滅も一瞬だ・・・」

悟空「や、やべえ・・・」

ダメかと思った時、一つのカーブが掛かった蒼白いエネルギー弾が悟空の背中に当たり場外から少し浮かせる。

咄嗟に気付いたベジータがエネルギー弾を悟空に当てたのだ。

ベジータ「下らん脱落をするな」

ジレン「・・・」

悟空「サンキューなベジータ・・・」

悟空は少し足に溜めたかめはめ波で足場に掴まる。

が、シャンツアが空間移動で目の前に現れ右手の5本の指から一斉にデスビームが放たれ何としてでも脱落させようと容赦がない。

シャンツア「さつさと脱落しやがれ!!」

悟空「うわっ!!」

足場から手を離し一斉デスビームはかわすがまたも落ちていく。

が、今度はさつきと違い右指を額に当て瞬間移動しシャンツアの背中に蹴りをお見舞いし逆にシャンツアが足場から離れ落ちる!

シャンツア「ぐっ・・・」

悟空「波ーっ!!」

溜めがないかめはめ波をぶつけ脱落を計ったがそこはシャンツアの真骨頂。脱落対

策を完璧に備えている。

シャンツァは背中の臀部にかけ生えている四本の管から空気を送りだし空を飛ぶ事が可能。

それを利用し空を飛びかわし、更に自分を落とそうとした悟空に対し少しばかり罰を与えようと背後から無数の怪しく輝く紅色の刃が降り注がれる。

悟空「ブラックが使ってた技か・・・」

裁きの刃が悟空と悟空と同じ足場にいるダモンに降り注がれる！

刃が足場に無数に刺さり足場が紅に染まっていく・・・。

ダモン「ヒ、ヒイ!!」

悟空「オラ達の宇宙じゃない技を使ったな・・・」

シャンツァ「こいつは確か人間を強く憎んでいたな。お前そつくりな間抜けな奴だったのは覚えている」

ダモン「お、お前殺すつもりかあ!!」

「ダモンは小さな身体で身軽な為、距離が離れている足場でもジャンプで移動できシャ
ンツアはそれを見越してあり躊躇なく裁きの刃を爆発させ足場は影も形もなくなる。」

「シャンツアにとってゴクウブラックの存在もただの細胞のパーツに過ぎない。」

「それどころか今のシャンツアにはキテラの存在も破壊神と分かっけていても態度を変
えずに接している。」

「クル「キテラ様。仮にですが我々第4宇宙が残ったとしてもシャンツアはどうするの
ですか？」」

「キテラ「まあ、あいつは使えるからな。免除宇宙にでも送って荒らしてやるつもりだ」
クル「荒らすのはやめましょうよ……。それよりもキテラ様の命令に従うとは思えな
いかと……。それに……。」

「キテラ「それに何だ？」」

「クル「キテラ様でも敵える相手なのかと。……」

「キテラ「あいつに負けるとでも？クル、いくら何でもビビりすぎだろ。俺には及ば
ねえよ」」

シャンツア「おい、キテラ」

シャンツアが観覧席まで空を飛びキテラを睨み付けている。

第4宇宙の面々はシャンツアの威圧感に恐怖を感じ震える者、ダラダラと汗を流す者がいた。

あの時の小さな姿とは比べ物にならない程の圧倒的な存在。それでも、キテラは変わらず余裕の態度を取る。

キテラ「何だ。また様を抜いたな」

シャンツア「お前を殺したら破壊神になれるのか？」

キテラ「なれねえよ。破壊神つてのはめんどくせえからな。お前には合わない役職だ
と思うぜ」

シャンツア「・・・そうか」

キテラ「なーに、この戦いでお前が勝って俺達が生き残ったらもつと楽しい事を教えてやるよ」

シャンツア「楽しい事？私は自由がほしいが？」

キテラ「ああ、大会に勝ったら自由にしてやる。だから早く終わらせろ」

シャンツア「……」

——キテラに利用されている気がしてならない。

それでも、大会で勝たなければ消滅。キテラを再度睨み付け複雑な思いを胸に観覧席から空間移動で悟空の正面に現れ今度は足技で攻め立てていった。

ガノス「キテラ様。シャンツアを自由にするのは危険過ぎるのでは……」

キテラ「キキキキ：別にいいじゃねえか。第4宇宙はあいつこそが最強の戦士だ。お前達が束になっても敵わねえのは確かだ」

キテラ「まあ、いざとなりや適当に免除宇宙にでも送り込むつもりさ。他宇宙に人間を送り込むのは別に問題にはならねえ。神々を殺してしまった場合はまずいだろがな」

クル「それを行ってしまえば我々第4宇宙も消滅してしまうのでは……」

キテラ「・・・そうなるな」

クル「どうするのですか!?!やはりシャンツアを邪神を目覚めさせるべきじゃなかったのですよ!」

キテラ「あいつがいなきや今頃俺達は消滅してるだろうが!!勝つためには悪魔だろうが邪神だろうが手を組むぜ俺は!」

クル「・・・」

キテラ様の考えも間違いではない。宇宙消滅が掛かっているのならばどんな人間であつても宇宙が助かればそれでいい。

しかし、シャンツアを誰も止められない様になってしまえば結局は・・・。

隣に座るシンはクルの困り果てた表情に何かフォロー出来ないかと思っていたが察した老界王神がクルに言葉を送る。

老界王神「今のわしらは見守るのが役目じゃ。その後の事を考える前に戦士達の戦いをきちんとしてやらんとならん」

クル「シン様のご先祖様・・・」

老界王神「わしらが勝っても、お前さん達が勝っても、第11宇宙が勝っても恨みはなし。例え相手が邪悪な者であってもものう」

老界王神「それに悟空はワクワクしておる。未知なる強者相手に自分の力がどこまで通用するのか・・・あやつにとつて楽しくてしようがないのじゃよ」

クル「それがサイヤ人の人間性なのですな・・・」

シン「消滅が掛かっているにもかかわらずフェアな戦いを望んでますからね」

悟空「おっと！第9宇宙の奴の技だな」

シャンツア「ふん」

両足から赤いオーラが出ており今度はバジルの能力を駆使し激しい足技が繰り出される。

悟空はシャンツアがようやく他宇宙の技を使い自身に対し力を出しているのが分かりワクワクしていた。

悟空「やつぱこうでなくっちゃな！」

シャンツア「何喜んでいやがる・・パーツの分際で！」

ベジータ「貴様にダメージを与えられなくともぶっ飛ばすのが可能ならば勝機はある」

ジレン「もう、油断はせん。お前では俺に勝てん」

ベジータ「ほざきやがれ。最強の戦闘民族はサイヤ人だと言う事を教えてやるぞ!!!」

シャンツア「最強だあ？あいつも私のパーツに過ぎん分際で・・・グツ!!グア!!」

悟空「おめえの相手はオラだぞ！」

ベジータの発言で一瞬油断が生まれたシャンツアに悟空はラツシユを仕掛け追い込む！

だが、シャンツアの身体が膨らんでいく・まさかと思い悟空は攻撃をやめシャンツアから距離を離す。

シャンツア「何だ？やめるのか？」

悟空「オラ知ってっぞ。それも第9宇宙の奴の能力だってな」

シャンツァ「そうか知っているのか。ならば・・・」

息を両手に吐くと毒々しいオーラが纏われた。

第9宇宙のトリオ・デ・デンジャーズの能力を一人で使いこなし悟空に襲い掛かる！

悟空「両手に当たる訳にはいかねえ・・・！」

シャンツァの多彩な技の数々、ジレンの圧倒的なパワーに悟空とベジータは勝てるのか!?

第7宇宙の運命は二人に全てが掛かっているのであった!!

続く

最強と最凶 ベジータ最大の危機!! 前半

悟空「このまま攻撃すつとでっかくなっちゃう・・・」

シャンツア「どうした孫悟空。攻撃しないのか？」

ベルガモの能力で攻撃を受けると身体が膨れ上がりパワーアップする。

全覽試合においてベルガモとの戦いではそのまま超サイヤ人ブルー界王拳でごり押しに近い形で倒したもののシャンツア相手にそれは通用しないだろう。

が、このまま何もしない訳にはいかなない。シャンツアはラベンダの能力、毒の息を両手に纏わせ相手を毒に侵す攻撃で悟空を攻め立てる。

悟空「当たるわけにはいかねえ！」

シャンツア「ふん！」

ズギヤ!!

悟空「うあ!!」

シャンツア「甘いな」

グワアン!!

悟空「うわああ!!!」

バジルの足技を両腕で防ぐ。だが、シャンツアはそれを見越しシャイニングプラスターを放ち悟空を吹き飛ばす!

更に吹き飛ばした悟空に襲い掛かるデスビームのマシガン。

たまらず超サイヤ人ブルー界王拳に変身しシャンツアに突撃する!

悟空「4ベえだ!!」

シャンツア「ふん・・」

身体をキューブ状に分裂し突撃を回避する。

悟空はキューブの動きを読み背後から毒手を向けるシャンツアに対しエネルギー弾を顔面にぶつけた！

シャンツア「ぐうっ！」

悟空「ダリヤリヤリヤ!!!」

シャンツア「バカめ。お前の攻撃はこの身体の強化に過ぎないのだぞ」

激しいラツシユをひたすらボディに浴びせる度にシャンツアの身体は大きくなる。バカな奴だと巨大な身体から眼を下に向け見下すが悟空はまだラツシユをやめない。

流石にしぶといと巨大化して右足を攻撃し続ける悟空にバジルの足技を駆使し踏み潰そうとしたが瞬間移動でかわし巨大化したシャンツアの頭の上に乗る。

悟空「でつけえつてのは攻撃が当てやすいからな」

シャンツア「私をそこらのデカ物と一緒にするな」

巨大化し低いトーンの声。シャンツアは頭に右手を叩きつけるがこれを回避。

悟空は右耳から体内に侵入。体内には不気味にバクバクと様々な形状、色素の細胞が蠢いている。

ダモン、ガミサラスが採取しシャンツアに送った細胞だ！

悟空がそれに触れるとネバネバして気持ちの悪い感触であった。

悟空「こいつを倒したらあいつが使ってる能力を使えない様に出来るんじゃないのか？」

ズボツ!!

巨大な手が体内をまさぐってきた！

シャンツアが自らの身体を貫き悟空を捕らえようとする!!

シャンツアの細胞にはマジカーヨ、ザーロインの細胞がある為、身体を貫いた所で

痛みはない。

シャンツア「どこだ孫悟空!!」

悟空「おめえの手から左だ」

シャンツア「さっさと出ていけ!」

手に握り拳が作られ悟空を殴り付けようとしたが瞬間移動で右側に移動し今度は右にいと呼び掛ける。

握り拳が右側に来るもこれも瞬間移動でかわし今度は股間に。

シャンツア「このや・・・」

ズンツ
!!!!

シャンツア「ぬぐぐ・・・」

自らの股間に拳が当たり冷や汗を垂らす。

巨大化し強化したはずなのに逆に遊ばれていたのだった。

悟空「でっけえ相手は慣れてっぞ」

ピッコロ「悟空め。遊んでいるな」

悟空「ゴツド・・・」

シャンツア「もう許さん!!!がーっ!!!
!!!」

だ!
キレたシャンツアが全身に気を溜める。爆力魔波で悟空ごと爆発に捲き込むつもりだ!

観覧席にいる第7宇宙メンバーもまずいと言わんばかりの表情になるも悟空は冷静だった。

ピシユン!!

シャンツア「そのまま吹き飛ばえい!!」

悟空「かめはめ波ーっ!!!」

界王拳10倍ゴッドかめはめ波をシャンツアの頭の下にその反動を利用し宙に飛んでいく。

シャンツアの爆力魔波をかわしかつかめはめ波をぶつけたのだ!

キテラ「まずい!!」

コニツク「押し込まれると確かに脱落してしまいますね」

シャンツア「パートごときに・・・うぐぐぐ」

爆力魔波の衝撃ごと巨体の頭から呑み込む蒼白い龍光。

そして、上半身、下半身、最後には武舞台の破片ごと呑み込んでいく!

シャンツア(もう、手は抜かん)

キテラ(シャンツア!?)

シャンツア「ガアアアアア!!」

雄叫びを上げると、呑み込まれた巨体が元のサイズに戻り紫のオーラが包んでいた龍光を打ち消す。

シャンツアの両手には破壊神トッポが纏っていた破壊のオーラが妖しく輝く。

破壊は使えないが破壊神のパワーを持つ。

悟空「怒ってんな」

シャンツア「ぐちゃぐちゃにしてやる」

空間移動でゴッドかめはめ波の反動で宙にいた悟空の背後に現れ殴り飛ばそうとし

たが悟空は抑える。

だが、抑えた手が突如いや、身体ごとすり抜けてしまう。

悟空はそれが何かすぐに気付き空中戦から落ちていく時には数体のシャンツアが少し悟空から離れ囲む！

悟空「時飛ばしだな！」

シャンツア「くたばれ!!!」

コニツク「これはいけませんね。シャンツア君は本気で悟空君を殺しにかかっています」

キテラ「落ち着けシャンツア!!」

悟空「結構エネルギー使っちゃったけど休ませてはくんねーよな」

時飛ばしからの透明の気弾と攻撃をかわしていく。

冷静さが欠けた攻撃は読みやすく本体である左の透明の気弾を放つシャンツアに右

頬に拳を浴びせ更に首もとに右回し蹴りをぶつけぶつとばす。

悟空「次は何で来るんだ？」

シャンツア「パーツが・・パーツがイキがりやがってえ!!」

破壊のオーラからの連続エネルギー弾で悟空を狙うもこれもかわされる。

後ろにあった足場は連続エネルギー弾の一つ一つが当たると木っ端微塵になり破片のみが宙に浮く。

シャンツア「殺す、殺す、殺す!!!」

怒りながら光速のスピードで詰め寄るが悟空は既に手を開き顔の横に置き構える。

悟空「太陽拳！」

シャンツア「ぐおあ!!」

悟空「ハア!!!」

シャンツアを宙に蹴りあげ更に叩き落とし地についた所をエルボーで吹っ飛ばす!

今度はメテオスマッシュシュが決まりシャンツアは別の足場まで吹っ飛びそこにあつた大きな岩柱にめり込み岩柱がガラガラと崩れ落ちていった。

クリリン「やったか!」

天津飯「ダメージはないだろう・・・」

亀仙人「あやつを倒すには肉弾戦では厳しいじやろう」

シャンツア「あゝあゝー!!!」

崩れ落ちていった岩柱、足場ごと気で崩壊させ怒りに狂う邪神。

禍々しい気を放ち背中の中の管で浮遊しながら悟空に恐ろしげな眼で睨み付ける。

その瞳からは悟空に対する怒り、憎悪が感じ取れ悟空は変わらずシャンツアがいつ襲い掛かってきても大丈夫な様に身構えていた。

シャンツア「絶対に殺す」

左人指し指を左から右にゆっくりとスライドさせると一つの光の線が現れる。

何が起るのかと動かずにいたがその光の線はガラスの様に砕け散るのが見えたと思つた瞬間に鋭利で無数の光の針に変化し悟空に向けて飛ばされていく！

シャンツア「キシヤハハ!!蜂の巣になれ!!」

キテラ「やめろシャンツアー!!殺せば失格になるんだぞ!!」

クル「落ち着くのです!」

針のシャワーを避けていくがシャンツアは放つのをやめない。

針のシャワーは広範囲に渡り飛ばされ別の場所で戦っているベジータとジレンにもシャワーが飛ぶ。

ベジータは避けていくがジレンは気だけでシャワーを掻き消していき気にも止めていかなかった。

殺意剥き出しのシャンツアに第4宇宙メンバーも恐ろしさと失格の恐れがある焦り

が混じるもただ見守ることしか出来ない。

ダモン「何とか侵入できて良かった・・」

ダモンは宙に浮いていたシャンツアに跳び乗り体内に侵入。

暴走したシャンツアのせいで細胞採取どころではない。

シャンツアに殺されるとシャンツアも失格になり第4宇宙は消滅。

正気を失っているシャンツアのせいで殺されのは勘弁だと体内で大人しく待機せざるを得なかったのだ。

ダモン「シャンツア。殺したら失格だと分かっているのか？」

シャンツア「黙れ。あいつは殺す」

ダモン「お前の失格は消滅と同じだ！いい加減に冷静になれ！」

シャンツア「役立たずの虫が偉そうに説教たれるな！」

ダモン「事実を言ったまでだバカ!!」

シャンツア「バカ・・だと？」

罵倒されるとシャンツアは突然攻撃を止める。

身体が震え怒りに満ちていた。シャンツアは罵倒される事を嫌いそのせいで過去、第4宇宙は多くの惑星が破壊されたのだ。

罵倒した当事者であるキテラはシャンツアは更なる暴走を起こすかもしれないとたまらず声を荒げる。

キテラ「いい加減にしろシャンツア！このままだと俺やお前も消滅するぞ!!」

シャンツア「うるさいキテラ！お前から殺してやるぞ」

キテラ「そんな事をすれば即失格だからやめろ!!孫悟空に過激に攻撃を与えるとどうなるか分かるだろ!」

シャンツア「孫悟空・・!!」

キテラ「お前とダモンで上手く孫悟空を脱落させろ。今のお前は勝手に自滅してるだけだ。孫悟空の蒼色の変身くらいお前なら簡単に対応できるだろ！」

シャンツア「あんなパーツ殺すことくらい訳がない！何故、殺してはならない!?」
キテラ「それがルールだからだ!!ルールは守れ！」

悟空「波ーっ!!!」

ピッコロ「この隙に溜めていたか」

シン「先程から悟空さんのエネルギーの消耗が心配ですね・・・」

老界王神「出来る限り抑えておる様には見えるが神の気を長く放出し続けるのは苦し
いのう」

クル「このままでは失格もあり得るかもしれません・・・とにかく落ち着くのですシャ
ンツア」

シャンツア「こんな物効くか!!」

身体を銀に変化させかめはめ波を跳ね返したが悟空は瞬間移動でかわしがら空きの
シャンツアの背中を蹴り上げる。

蹴り上げられるも空間移動で悟空の背後に現れ気の刃で刺し殺そうとするも気の刃を出す右腕を掴まれ投げ飛ばされ2発のエネルギー弾をぶつけられてしまう。効いてはいないが先程から悟空に攻撃に届いてない事に怒りが止まらない。

シャンツア「あいつの細胞はあるはずだ。何故だ！何故、攻撃がかわされる!？」

悟空「界王け・・・」

シャンツア「死ねえ!!!」

やけくそになり両手の指からデスビーム、角からビーム、口から怪光線、アイビームと身体のあちこちから光線やエネルギー弾を放ち大暴走！

正気がなくなっていくと失格どころか全王にも手を出すかもしれない。

我慢がなくなってきたダモンがシャンツアの脳に噛みつく！

シャンツア「ウギャ!!」

ダモン「お前が落ち着かねえのならこのまま噛み続けるぞ」

ダモン（というか体内に何かされても痛みはないはず・・・冷静さを欠いて能力も扱えていない証拠だな）

シャンツア「ハア、ハア・・・」

コニツク「何とか落ち着きましたね」

キテラ「ああ。全く何やってやがる！」

シャンツア「孫悟空」

悟空「・・・！」

ズドツ!!

悟空「がっ・・・」

空間から現れる右のホデイーブロー。がら空きの悟空の腹部に突き刺さる！
更に左手で破壊エネルギーから放たれるジャステイスフラッシュが悟空に直撃!!

ビルス「悟空!!」

悟空「うあああああ!!!」

デイスポ「桁違いな威力のジャステイスフラッシュだな・・」

トツポ「破壊の力は持たないが一撃の重みは私の破壊とそこまで変わらんかもしれんな」

倒れたままブルーが解かれる悟空に髪を掴み片手で持ち上げるシャンツア。

長くブルー状態のまままで戦い界王拳を使用したのもあるがシャンツアの一撃はそれを抜きにしても強烈であった。

シャンツア「所詮1つのパーツだ。体内に様々なパーツを注ぎ込まれた私には勝てんだ」

悟空「そ、そんな事ねえ・・・」

シャンツア「・・・」

ベジータ「チツ、カカロットの奴・・・」

ジレン「ふん!!」

ベジータ「デエエヤー!!!」

ベジータも瞬間的なパワーを駆使しジレンに挑むも真つ向勝負では勝つのは不可能。勝つにはジレンを倒すのでなくジレンをぶつ飛ばし場外に落とすしかないのであった。

ジレン「何度繰り返しても同じだ」

ベジータ「ぐああ!!」

通用せず何度もぶつ飛ばされるが、上手く着地し足場を砕きながら脱落は免れる。

ベジータが何度もジレンにぶつ飛ばされぶつ飛ばしたジレンがレーザーを放つ度にセルの自爆によりバラバラになった無の界に浮かぶ武舞台の破片、足場も少なくなつていた。

ジレンが立つ武舞台が足場が一番大きくその足場に一人仁王立ちで赤黒いオーラを纏いながらベジータを圧倒している。

ベジータ「ハア、ハア・現状はあいつに遊ばれている。このままでは体力の無駄だ・」

ジレンがパンチという名のレーザーを放ちそれをかわす。

上にある足場はほとんど残っていない。散り散りになった破片が宙一面に広がっており当然それは人が足場として使える様なサイズではない。

かわし続けるベジータ。足場がなくなり下にある足場まで落ちるとその前にいたのはシャンツアとシャンツアに落とされそうになった悟空の姿が！

キテラ「さあ、孫悟空を落とせシャンツア！」

シャンツア「……………」

悟空「まだまだ・まだオラは……」

シャンツア「何がまだなのだ？落ちろ!!」

ベジータ「チツ!!バカが!!」

ドーン!!

シヤンツア「何だ？」

ベジータ「カカロットを倒したくらいでいい気になるなよ。バカが!」

シヤンツア「バカだと!？」

ベジータ「バカ以外に何がある?・・・バカには分らんか」

シヤンツア「許さん!!」

ベジータ「ガキみたいな奴だ」

ベジータVSシヤンツア!!

最強と最凶 ベジータ最大の危機!! 後半

ジレン「……」

ジレンはレーザーを放つのをひとまずやめベジータとシャンツアの戦いを静観。

悟空はベジータの挑発に助けられるもジレンにも狙われているのならば勝ち目がないと察している。

悟空「すまねえ……ベジータ……」

ベジータは悟空に頭に来ていた。

純粋なブルー同士での戦いなら俺の方が上だろう。

だが、今のカカロットは身勝手の極意に目覚めればここにいるシャンツアやジレンより強いはずだ。

全力を出し切れず脱落等ふざけていやがる！

ベジータ「カカロット。貴様の腑抜けっぷりにはがっかりだ」

悟空「べ、ベジータ・・・」

シャンツア「バカはお前だ!!」

ベジータ「下らん攻撃だ」

シャンツァ「ギツ!!」

空間移動からのエネルギー弾を読み右手で弾き飛ばし左足で後ろ蹴りを空間移動したシャンツァの顔面に浴びせ蹴り飛ばした。

瞬時に対応されて驚くも冷静さを保ちベジータに縦横無尽に光速に移動する。

カクンサとディスプレイの能力を混ぜた攻撃だがつまらん攻撃と一蹴し左側から襲い掛かってきたシャンツァの腹部に肘撃ちを当てるもシャンツァは身体を液体化し攻撃を無力化させた。

が、それをも読んだベジータは肘を素早く抜き左手でシャンツァの穴が開いた腹部に

拳でエネルギー波を放ち爆発させるファイナルギャリックキャノンを放ちシャンツアの身体が内部から砕く！

ベジータ「さつさと再生しろ。どうせ効いてないのは分かっている」

悟空「ベジータ・おめえやるなあ」

ベジータ「俺と貴様を一緒にするな。俺は貴様よりも上回っている」

シャンツア「パーツの割には頭は回るのだな」

シャンツアの発言を無視しベジータは悟空と話を続ける。

俺もカカロットもこの戦いで新たな神の領域に目覚めた。

だが、今の俺はあいつを抑えるのに手一杯。ここにジレンも加われば止められない。

プライドが許さない・・・だが、今はそうも言ってられん。

ベジータ「おい、カカロット」

男の方に顔を向かず戦士は背中で語る。

いつも俺は貴様のお膳立てばかりだ。

ブウの時もそして、超サイヤ人ゴッドに一番最初に目覚めた時も。

そして、今の状況もだ。

だが、今回もそうも言ってられない。

負ければ宇宙そのものが消滅。

出来れば俺がこいつ等を倒し超ドラゴンボールを手にしたかった。

ベジータ「このままくたばってみろ。消滅する前に俺が貴様をぶっ殺してやる」

悟空「ベジータ、おめえ・・・」

ベジータ「・・・俺達は第7宇宙は生き残る。その為には・・・」

シャンツア「ふん!!」

ベジータ「貴様なら分かっているはずだ!!」

光の線が現れそれを針のシャワーとして放ってきたがベジータがバリアーを張り自身と悟空を守った。

歯を食い縛り自身の弱さに怒りたくも我慢する。

弱かろうが今はどうでもいい。勝たなければ意味がない。

ベジータ「早くしろカカロット!!」

悟空「わ、分かってっけどよ・・・」

シャンツア「ガア!!」

ベジータ「グツ・・・抑えきれんか」

悟空は立ち上がりベジータから離れる。

バリアーが打ち砕かれシャンツアはヤツチャイナー拳で撃ち争おうとしたがベジータは右手を上から扇ぐ様に動かすと地面からエネルギーの壁が現れそれを向かってくるシャンツアにぶつける。

シャンツア「何のつもりだ？」

ベジータ「どうでもいいだろ。脳足りんには関係ない事だ」

シャンツア「お前・・・殺すぞ」

ベジータ「それをすれば貴様は失格だ。バカはルールすら把握してない様だな」

シャンツア「ググ・・・こいつ、絶対に許さん!!」

挑発が聞いておりまたもシャンツアから冷静さが失われる。

ベジータにしか狙いを定めておらず悟空の事など今は頭の中にない。

悟空「ベジータ・・・今は頼んだぞ」

お前を放っておくと思うか？

悟空「ジ、ジレン・・・」

ジレン「わざわざ待つ理由もない」

ベジータ「あ、あの野郎・・・！」

シャンツァ「おっと、孫悟空は今度こそ終わりだな」

ベジータ「黙りやがれ!!」

スツ

ベジータ「何!？」

シャンツァ「パラレルワールドだ」

ズンツ!!

ベジータ「ぐあつ・・・」

シヤンツア「一緒に落とされたらどうだ？」

腹部にもろにボディーブローがヒットし苦しむベジータを蹴り飛ばすと空間が現れ移動する。

ベジータが蹴り飛ばされて倒れた場所はジレンの足下の前であった。

悟空「ベジータ!!」

ジレン「ん?」

シヤンツア「仲良く落ちろ」レロレロ

舌をペロペロと出し悟空とベジータを逆に挑発する。

ベジータは立ち上がろうとしたがジレンはその背中を踏みつける!

ベジータ「ぐああああ!!」

何度も踏みつけ地面が砕け超サイヤ人ブルーも解けたにも関わらず止めない踏みつけ。
悟空が止めようとフラフラと立ち上がるも突如右頬を殴り飛ばされる。

シャンツァ「仲間が苦しむ姿をしつかり目に焼き付けたらどうだ？」

空間移動を駆使用するシャンツァが悟空を尻尾で上半身を拘束し更に両手で踏みつけられているベジータの後頭部を殺さない程度にハンマーナックルで叩き付ける。

最強と最凶がベジータに容赦なく攻撃を浴びせる!!

ビルス「ベジータ!!」

ウイス「・・・これ程の攻撃を受けては例え脱落しなくとも戦い続けるのは無理があります」

クリリン「やりすぎだぜ・・・」

悟飯「ベジータさん!!」

ピッコロ「やめろ悟飯!」

17号「フリーザの様に消滅してしまうぞ」

悟飯「このまま見離すなんて・・・僕には!」

亀仙人「誰もが同じ気持ちじゃ!じゃが、脱落したわしらに何もする権利はない」

天津飯「悟空・・・お前にかかっている。頼む・・・」

18号「第4宇宙の破壊神・・・ニタニタしやがって!」

キテラ「いいぞシヤンツア。殺さない程度ならいくらでもボコボコにしてやれ!特に第7宇宙の奴等はない!キシキシシ!!」

ベルモツド「もうよいジレン。少し正義に走りすぎだ。例え悪でも動けない奴をいたぶるのは悪趣味だぞ」

全王「過激なのね」

未来全王「残酷なのね」

大神官「これも戦いです。容赦する事は出来ないのでしょうか」

全王「悟空のあれまた見れたらいいのにな」

未来全王「えっと・身勝手の極意だったね。あれまた見たいのね」

シャンツア「何だ。もう踏むのをやめるのか」

ジレン「・・・」

ゲシツ!!

横腹を蹴飛ばし悟空の前にボロボロのベジータを地に晒す。

ジレンは右手でパワーインパクトを溜める。

シャンツア「加勢してやる」

シャンツアは離れた所から両手に破壊のエネルギーを出し破壊エネルギーからのかめはめ波を放つ構えを取る。

空間移動で悟空とベジータの前にかめはめ波をぶつけるのだろう。

悟空「すまねえベジータ・なりたくてもやつぱなれねえ・」

ベジータ「・・・諦めるな・カカロット」

ベジータ「多くのピンチを・貴様は乗り越えてきたはずだ・」

ベジータ「俺が・時間を稼いだのもその為だ・・好きで貴様のお膳立てをした訳じゃない・」

悟空「わかってる・けんどよ・」

ベジータ「家族はどうするんだ・。お前と関わりある奴等はどうするんだ・。・。お前が目覚めなければ全て消えてしまうんだぞ・!!」

悟空「消える・」

シヤンツア「ばいちゃ」

ジレン「・・・」

赤のエネルギー弾、黒紫のエネルギー波が二人の前に近づく。
ボロボロの二人にそれを抑えるのは不可能。
消えてしまう。全てが……。

ベジータ「立てカカロット……! お前しかいないんだぞ……!!」

悟空「…………!!」

悟飯《父さん!!》

クリリン《悟空!!》

亀仙人《悟空!!》

天津飯《悟空!!》

ピッコロ《悟空!!》

17号《孫悟空!!》

18号《悟空!!》

セル《孫悟空》

ベジータ「カカロットー!!!」

——2つのエネルギーがぶつかり合い大爆発が起こる。

二人がいた足場は跡形もない。爆煙により前は見えなくともそれが分かるほどの凄まじい威力。

静まり返る武舞台。第7宇宙側の観覧席に悟空とベジータが転送されれば第7宇宙は……。

キテラ「形だけとはいえジレンと共同攻撃をしたんだ。あれで落ちねえ訳がねえ!!」
ベルモッド「さて、残りほうるさい第4宇宙の奴だけか」

それでこそ・・・サイヤ人だ

ジレン「ん!？」

シャンツア「第7宇宙はもうすぐ消滅するはずだ」

ウイス「まさかこの土壇場で再度目覚めるとは思いもありませんでしたよ」
ビルス「待ちくたびれたぞ。見せてもらおうじゃないか」

身勝手の極意！

全王「来たのね！」

未来全王「身勝手の極意来たのね！」

全王「悟空、カッコいいのね！」

未来全王「カッコいいのね！」

ベルモッド「孫悟空め！何度、限界を突破するつもりだ！」

カイ「人間レベルの低い人間がどこまでもしぶとい・・！」

ベジータ「ふん・・サイヤ人に限界はない」

悟空「サンキューなベジータ」

悟空はジレンの背に移動しベジータも助けた。

ベジータがいなければ目覚めなかっただろう。悟空は身勝手の極意になりながらもベジータに感謝する。

シャンツア「ぐあっ!!!」

そして、ベジータに礼の言葉をかけた途端に悟空は離れたシャンツアに何10発の拳を上半身、下半身に浴びせシャンツアを蹴飛ばす!!

更にジレンにも迫りラツシユを仕掛けたがジレンは対応している。

キテラ「くそっ! 発動させちまった!!」

コニツク「けれども、身勝手の極意が解かれれば悟空君の負けですよ?」

キテラ「そうだけだよ・・・ん?」

ジレン「ヌオオオオ!!!」

悟空「・・・!」

ズドツ!!

ジレン「グハツ!!!」

軽いボディーブローに見えたがジレンの目が見開きたまらず口から体液を吐いてしまふ。

それを見たトツポがまずいと目が大きく開く。

トツポ「ジレンがついに大きなダメージを受けてしまったか。まずいぞ・・・」

デイスポ「だ、大丈夫なはずだ。あれくらいじゃジレンは・・・」

トツポ「違う。第4宇宙だ!」

キテラ「ダモン!!!」

シャンツア「ついにやりやがったなジレン」

ダモン「やるからには勝てよシャンツア」

体内にいるダモンがシャンツアの空間移動能力で顔のみを出しジレンの体液を触覚につけ採取。

ジレンの細胞が混じる体液をシャンツアに送りダモンは死ぬ。

思わぬ形でついに待ち望んでいたジレンの細胞を手に入れたのだ!!

シャンツア「グギギギ・・みなぎるぞ。私が・・いや、俺こそが最強の戦士になる時が来たのだ!!」

大神官「第4宇宙ダモンさん。自滅でございます」

キテラ「やったぞ!!これならば孫悟空に勝てる!!!」

クル「本当にそうなのでしょうか・・」

シャンツアがついにジレンの細胞を採取したにも関わらず神々と第7宇宙のメンバーは悟空に注目していた。

3回も身勝手の極意に、神の領域へと目覚めたのだ。

注目するなという方が無理だといってもいいだろう。

アナト「孫悟空・・・今度こそ本当に身勝手の極意を習得したのかもしれないね」
イワン「孫悟空・・・恐るべし」

ジーン「あいつの可能性・・・なるほど。どうりで息子の孫悟飯もあれほどの可能性を持つ訳か」

アグ「宇宙消滅の危機にまたも目覚めるとは・・・」

オグマ「何という事・・・アラク様！」

アラク「面白くなってきた。二人の強大な戦士にどこまで立ち向かえるか・・・」

リキール「ただの人間が神の領域に踏み込みすぎだ・・・孫悟空め」
イル「一体この戦いはどうなるのやら・・・」

悟空「こっからが本当の勝負だぞ。おめえら」

ジレン「・・・面白くなってきた」

シャンツア「くっ・・孫悟空め」

第7宇宙の危機、ベジータの言葉を機に限界を越え3度目の身勝手の極意を呼び起こした。

果たして最後に武舞台に立っているのは悟空達か、それともジレン、シャンツアなのか!?

続く

限界超絶突破！極めし神の領域！！ 前半

3度目の身勝手の極意に目覚めた悟空。

その神の領域の力に免除宇宙の神々、そして全天使も注目が集まる。

ウイス「これが最後のチャンスです。身勝手の極意が切れた時それが、この戦いの決着となるでしょう」

ビルス「・・・これが最後か。悟空、お前の全てを出し切れよ」

キテラ「何が神の領域だ。あいつはただの人間だろ！」

コニツク「しかし、破壊神となった第1宇宙のトツポ君を倒したのは紛れもない事実です」

キテラ「気に入らねえ・・・何が気に入らねえってビルスの宇宙にあんな奴がいるのが気に入らねえんだよ」

コニツク「私的にはシャンツア君を悟空君と戦わせるのは止める事を勧めます」

キテラ「何言ってやがるコニツク。シャンツアだけじゃねえ。ジレンも孫悟空を狙ってるんだぜ。ここは手を組んで孫悟空を落とせば・・・」

コニツク「ジレン君がシャンツア君の様な悪とは手を組まないでしょう。ましてや強者を待ち詫びていたジレン君ならば戦いの邪魔をされようものならシャンツア君に狙いを変えますよ」

キテラ「チツ・・・シャンツア!ここは退け!!孫悟空とは戦うな!」

シャンツア「俺の力を試すのに丁度いい相手だ。貴様等神の指示など受けん!!」

キテラ「おい、やめろ!!」

シャンツア「孫悟空!!無敵の力を得た俺に勝てると思うな!!」

悟空「・・・」

シャンツア「ギジャハハ!!ジレンのパワーを得たのだぞ!!破壊神のパワーとジレンのパワー!!2つのパワーに敵うと・・・」

ドズツ!!!

シャンツア「ぬぐお・・・」

キテラ「シャンツアが腹を抱えて苦しんでるだど!?」

コニツク「神の御技。それは人間の能力ですら無に返す」

ウイス「シャンツアさんの再生能力も身勝手の極意の力では防げません。ましてや、僅かな細胞だけで得た半端な能力では尚更」

ビルス「だが、奴には空間移動がある。脱落させるには身勝手の極意だけでは難しいだろう」

シャンツア「ぐがが・・・俺は無敵の筈だ・・・あいつはただのパーツの筈だ。負ける等有り得ん・・・」

ジレン「何も出来んのならどける」

シャンツア「ぐあっ!!」

ジレンは苦しんでいたシャンツアを右手で殴り飛ばし身勝手の極意に目覚めた悟空と対峙する。

全身が青白いオーラに包まれている悟空のその姿に口が緩む。

ジレン「それがお前の全力だな？」

悟空「ああ。今のところはな」

ジレン「・・・ならば俺もこのパワーを最大まで上げるぞ」

ジレンが声を張り上げると赤黒い気が更に上昇する。

尋常ではないその熱い気は観覧席まで感じ取れる。それは正に破壊神をも凌駕するパワーだ!

ビルス「人間の力がこれほどまでに・・・」

ウイス「超サイヤ人ゴツドの事で目が覚めそして、悟空さん達と出会って良かったかもしれないですね」

ビルス「今思えばあれから全てが始まったのだったな。僕と戦いたいと破壊神に対して不屈き者だったあいつが今や僕に匹敵する程とは・・・」

ウイス「ビルス様ですら超えているかもしれないませんか？」

ビルス「そんな訳があるか！」

ベルモツド「調子に乗るんじゃないぞビルス。ジレンは絶対に負けやしない。そして、負けられないのだ」

ビルス「負けられないだと？」

ベルモツド「そうさ。あいつは負けられない。超ドラゴンボールを手に入れなければならない理由があるからだ！」

トツポ「・・・」

ジレン「行くぞ」

凄まじく燃え上がる気と共に悟空に襲い掛かる!

パワー、スピードどれもが桁外れであるにも関わらず身勝手の極意はそれすらも容易にかわしていく。

額から汗が出るジレン。焦れば焦るほど攻撃が必死になり乱雑になる。

悟空「どうした?焦ってちゃ当てようにも当てれねえぞ」

ジレン「ぐほぁ・・!!」

身勝手の極意に目覚める度に悟空は慣れていき挑発をする余裕も出来る程に。

ジレンの胸部に右の拳が深くめり込みジレンはまたも目を見開き胸部を抑え悟空を睨み付ける。

ベジータ「カカロットの奴め・・どこまでも頭に来る野郎だぜ」

怒るシャンツアが自らの体内に気を溜める。

自爆をするのと分かりベジータは離れるが悟空は逃げずに手を抑えたまま。

ジレン「オオオオオ!!!」

カイ「どうしたのですかジレンは!？」

ベルモッド「自分より強い存在が現れたのだ。なりふり構わず落とすに掛かっているのだから」

トツポ「それは少し違うかと」

ベルモッド「違うだと?」

マルカリータ「心の内は嬉しさも垣間見えます。ジレンは恐らく求めていたのでしょうか」

マルカリータ「自分と並んで戦える者。そして・・・」

トツポ「死んでも構わないと思える程の相手を求めこの力の大会に出ていると・・・」

ベルモツド「死だど!？」

トツポ「ジレンは悪に故郷を滅ぼされ武術の師に助けられました。が、その師も同じ悪に殺され師の元に集まっていた仲間達も悪に立ち向かわず諦め信じられるのは強さのみと今日を生きてきました」

トツポ「力の大会に出場したのも第1宇宙を守る名目があるも他宇宙に自身に匹敵または超える戦士が現れるのではないかという可能性に賭けていたのかもしれない」

カイ「何故、そこまでして戦いを・・正義の為とはいえ死の戦いなどあつては・・」

トツポ「それがジレンの求める死んでも構わない戦いの条件なのです」

カイ「条件・・・」

トツポ「もちろんジレンは負ける気などさらさらありません。持てる力を出し相手を倒すという心持ちは変わっておりませんので安心してください」

デイスポ「心なしかジレンの奴隷しそうにも見えるな」

カーセラル「ああ。俺達の事は仲間とすら思っていなかったのは知っていたが孫悟空

との出会いで少しは変わったらしいな・・・」

悟空「意地になってでも勝ちたくなつたんだな」

ジレン「俺は負けん」

悟空は左手でシャンツアを右手でジレンの拳を抑えシャンツアを空間の中から引きずり出し宙高く投げ飛ばす。

自爆しようとしたシャンツアは宙高く大爆発を起こしジレンは抑えられた右手からレーザーを放ち悟空を吹き飛ばす。

悟空は直ぐ様ジレンに近づき激しいラツシュが始まる。

あまりの速さに観覧席にいるクリリン達はもちろん神PADで観ている二人の全王にも見えない。

ただ二人の全王は悟空が大暴れしているだけで満足の様だ。

キテラ「シャンツアめ。ようやく大人しくなつたか」

コニツク「だといいですけどね」

クル「あのジレン相手にこれ程までに争えるとは・・・」

シン「私も驚いてます。悟空さんは今まで何度も宇宙と地球の危機を救ってききましたが、またも救ってくれるかも・・・」

ジレン「ヌウウン!!!」

悟空「・・・!!」

両者の拳がぶつかると凄まじい衝撃と熱が観覧席まで届き武舞台の破片が衝撃により碎ける物もあった。

ベジータにとって衝撃だけでも重みと傷に響く。

ベジータ「チツ、この勝負が第7宇宙の運命を分ける。負ければ終わりだ。絶対に勝てカカロット!!」

ジレン（やはり攻撃の瞬間に隙がある）

ジレン「ハアアアア
!!!!!!」
悟空「!?!」

戦いに入る度に磨かれている身勝手の極意だがその僅かな隙をジレンは突きカウンターの要領で悟空の攻撃をかわし左頬に拳をぶつけた!

トツポの同士討ちと違いジレンの一撃のみが見事に決まったのだ!!

ビルス「何て奴だ。身勝手の極意ですらあいつのパワーは通じるとでもいうのか!?!」
ウイス「ジレンさんのパワーも悟空さんのは違いがあれど神の領域に踏み込んでいるといつてもいいでしょう」

ベルモッド「そうだジレン。神の領域ですらお前の圧倒的なパワーの前では無だと証明させるのだ!」

ジレン「お前も本気を出せ。トツポとの最後の撃ち合いで一瞬だが今のパワーを更に超えたパワーを発揮していたのを俺は確認している」

悟空「覚えてねえな・・ただ負けたくねえってなった事だけは覚えてる」
ジレン「ならば嫌でも覚えさせるまでだ」

全力の戦いがしたい。その力を更に最大限までに発揮してみろ。

ジレンは悟空の力に益々興味を持っていた。

神の領域だとかそんな物はどうでもよくただ一人の戦士としてこの男を倒す。
無表情な男が少しながら笑みをこぼしていた。

悟空「・・・!!」

ジレン「読んでいる」

またもラツシュに入るがジレンが少しずつ押しいき右手から瞬時に溜めたパワー
インパクトのエネルギーを手に纏い悟空の身体に触れることなく爆発させ吹っ飛ばし
た!

悟空も効いたのか声を上げ武舞台から転げながらも立ち上がる。

クリリン「何て奴だ・・身勝手の極意ですら相手にしないなんて・・」

天津飯「これ程までとは・・・悟空・・・」

ビルス「黙って観ておけ」

クリリン「ビルス様!は、はい!」

静かながらもその威圧感にクリリンも天津飯も黙って静観する。

ビルスは悟空があれしきで追い込まれる訳がないと信じていた。

初めて会った時、あいつは破壊神と手合わせを願いたいと理解できない行動を取っていた。

が、今思えばあの時からあの男は神に恐れるどころか興味を持ちただ純粋に強さを求めていたのだな。

ベジータもそうだ。あいつ等には歪んだ感情で強さを得たい等微塵にも思っていない。

ただひたすら己を磨き更なる高みへと目指し僕はもちろんウイスですら超えていきたいとも思っているのではないか?

ビルス「全く、サイヤ人というのは本当に変わり種ばかりだよ」

期待の眼差しで一人のサイヤ人の戦いを見守る。

必ずあいつならやってくれる。

兆しを超え極みへと踏み入れると。

ベルモット「最初こそ攻撃をかわされ苦戦は必至だろうと思っただけがそこはジレ
ンだ」

カイ「やはり本当のパワーの前では人間が起こした偽りの神の領域など受け付けない
のでしよう」

ズダダダダダダ
ガガガガガガ
!!!!!!

更に鋭さと激化さを増す二人の撃ち合い。

間から付け入る隙もない程に感覚が研ぎ澄まされておりまた氣に一切の無駄が見受けられない。

シャンツア「孫悟空もジレンも俺のパーツだ・・!こいつ等に劣るなんて事はないはずだ」

シャンツア「俺はこんなのは認めない。絶対に認めない。俺は大会で選ばれた強者の力を持つ完成された戦士のはずだ!!」

戦いを楽しんでいるジレンとは対称的に自分の力、能力は絶対であり負けるなどあつてはならないと憎しみ怒り狂うシャンツア。

自らの腕を引きちぎり剣に変え引きちぎった腕を再生させ剣を強く握り締める。

シャンツア「孫悟空、ジレン、ベジータ。こいつ等は所詮俺の一部に過ぎない。そんな奴等がまざまざと生きる等許されん」

シャンツア「必要のないパーツはガラクタ同然。完成された存在を前に尊大な態度を取るな・・!!」

ジレンのパワーが悟空を少しづつ追い込む。

兆しの段階では全力のジレンには及ばないのか……。第7宇宙の観覧席にいる戦士達はジレンの本気のパワーに悟空が負けるのではと不安になっていた。

だが、武舞台にいるベジータは逆で今の悟空の状況に眼を閉じ軽く鼻で笑う。

ベジータ「いい修行相手を見つけたな。カカロット」

悟空「……!!!」

ジレン「くっ……!!」

追い込まれ場外が近づいた時に気を放出しジレンを吹き飛ばす!

ジレンは両手をクロスさせガードするがその隙を見逃さず背後に瞬時に回り無防備な背中に蹴りを浴びせ今度はジレンを場外に追い込む!

ジレン「がっ……!!」

悟空「ハアアアアアアア!!!」

ジレン「つめが甘いぞ」

声を上げる攻撃は無意識ではない。

ジレンは攻め立ててきた悟空の拳を落ち着いてかわしカウンターで右の一撃を腹部にぶち込みぶつ飛ばす。

カイ「決まりましたね!」

ベルモツド「ふふっ……ん!」

ジレン「ぐはっ!!」

カイ「ジレン!!」

トツポ「……あの技か」

ぶつ飛ばされた悟空はぶつ飛ばされた瞬間に残像拳を発動させぶつ飛んだ残像を見せダメージを与えたと思いついたジレンの一瞬の油断を突き左側に移動しジレンの左

横腹に肘撃ちをぶつけぶっ飛ばした！

ビルス「あいついつの間にな・・」

ウイス「意識を逆に利用しましたね。今の悟空さんは身勝手の極意の無意識と普段の意識を操れています」

ジレン「ぐっ・・」

悟空「オラはただ一人の人間でもあるぞ」

ジレン「神と人間の力か・・」

ジレンを惑わせる無意識と意識。

悟空の身勝手の極意は戦う度に精度を上げていく。
最高の修行相手のおかげで更なる成長を遂げる！！

限界超絶突破!極めし神の領域!! 後半

ビルス「悟空のあの技・・・じいさんが教えたのか?」

亀仙人「教えたというより悟空の才能ならば見るだけで覚えたのかと」

クリリン「子供の頃、俺と悟空は武天老師様の元で教えを乞ってもらったのです」

クリリン「・・・神の領域に入っても亀仙流の武術の心得を忘れていないのは何だか嬉しいな」

ビルス「フツ・・・亀仙流か。じいさん・・・いや、武天老師。いい弟子達を育て上げたな」

クリリン「ビルス様・・・」

ジレン「お前にも師がいたのか」

悟空「オラがここまで強くなれたのは亀仙人のじっちゃんに出会ったつてもある」

ジレン「・・・ふん。人との繋がりで強くなったとでも言いたそうな口だな」

悟空「・・・ああ」

ジレン「そんな物はいつか途切れる。他人を信頼し戦うお前は半端者だ」

悟空「・・・怖いんだろ？失う事がよ」

ジレン「!?!」

悟空「カッコつけても分かるぞ。おめえは負ける事を恐れているってな」

ジレン「黙れ」

悟空「オラの故郷は記憶のねえ頃に滅んじまったけどよ。それでも人に助けられて今がある」

ジレン「黙れ！」

悟空「負けた事だつて何度もある。けど、その度に強くなれた」

ジレン「・・・黙れ!!」

過去を抉られた気がし怒るジレン。激しさを増す攻撃の乱舞だが悟空はかわして行く。

赤黒いオーラの熱さが増していく!

ジレン「勝利こそが全て。敗北は死と同じ」

悟空「どう思おうが勝手だ。おめえを倒す事に何も変わりはないからな」

怒るジレンの攻撃と冷静さを保った悟空の回避。

ムキになるジレンの攻撃の綻びを悟空は逃さない。

怒り任せの大振りの攻撃をかわし、がら空きの腹部に一瞬で何10発のパンチをぶつける。

苦しみながらも堪えるジレンは右腕を振り回し拳圧を放つも悟空は左手一本で吹き飛ばし右手の握り拳をジレンの右頬にめり込ませた!

悟空「ダリヤアアア」

!!!!!!

二人の戦う足場からジレンは大きくぶつ飛び足場を壊しながらまた別の足場にめり込みストップ。

脱落は免れたが流石に効いたのか息を上げていた。

カイ「そんなバカな!!ジレンが・・ジレンが!」

ベルモッド「落ち着けカイ。ジレンはまだ脱落はしていない」

マルカリータ「けれどもこのままではジレンが勝つのは厳しいですます」

ベルモッド「くっ・・・」

ジレン「・・・フツ」

ベジータ「ジレンの奴、何を笑っていやがるんだ?」

悟空「かかってこねえのか?」

観覧席の戦士達は悟空はジレンに呼び掛けているのかと思っていた。

が、それは違う。虎視眈々と悟空を倒す準備を仕掛けていた戦士が一人。

悟空の後頭部から突如剣が放たれる!

悟空「おめえ、オラを殺すつもりか？」

シャンツア「どうせその身勝手の極意とやらで当たらない。だろ？」

確かに当たりはしないとはいえ殺意むき出しのシャンツア相手でも心は動じない。

そんな悟空の態度に腹が立ったシャンツアは悟空の周囲から無数の剣を出しそれを全て放つ！

キテラ「おいおいおい!!何やってんだシャンツア!!!」

コニツク「ジレン君の細胞が悪い方向に性格を変えたのかもしれないね」

コニツク「圧倒的なパワーを得た反面、そのパワーが通じない相手に無理矢理でも自身のパワーを見せようと暴挙に出る。フリーザ君の細胞の様に悪の細胞も持っているのなら尚更危険思想も頭にあるでしょうね」

キテラ「あのバカ・孫悟空を殺して失格しようものなら実質第1宇宙の勝利になっちまうだろうが！」

シャンツア「貴様が神の領域に入れるのなら俺でも入れるはずだ!!」

悟空「……」

シャンツア「こんなのは認められん！俺は貴様やジレンの細胞も持っている！！俺こそが・俺こそが誰よりも完成された存在なのだあ!!!」

光速のスピードと四身の拳の組み合わせと空間移動で悟空の周囲に4体のシャンツアが動き回る。

端から見れば常識外れな能力を3つも駆使し翻弄している様に見えるが悟空には全て見えていた。

1つの光の線が悟空を襲うが身体を反らし楽々かわす。
もう1つの光の線が背後を狙うがこれも楽々かわされる。

シャンツア「これならどうだ!!」

空間移動で尻尾を悟空の足に絡ませ動きを封じようとするも尻尾を踏まれてしまう。
負けじと光の線が次々と悟空の至る箇所から攻撃を仕掛けるもかわされ仕舞いには光の線同士が直撃し2体の分身が消えてしまった。

悟空「もう、打つ手はねえのか？」

シヤンツア「図に乗るなよパーツ・貴様が俺に勝てる条理などある訳がないのだあ
!!」

シヤンツアが悟空に突っ込み攻撃をひたすら繰り出すも全てかわされ逆に攻撃をひ
たすら浴びせられる。

シヤンツアの身体は再生し痛みなど感じないのだが……。

悟空「……!!」

ズギヤ
!!!!

シヤンツア「ぐがっ!!!」

顎に拳が炸裂し岩柱にめり込む。

一方的に攻められ攻撃すら当たらない悟空の身勝手の極意に驚愕するキテラ。

シャンツアは立ち上がるも顔が歪む。

右手で口を拭うと赤い液体が手にこびりついていたのだ。

シャンツア「何だこれは・・・まさか、俺が血を・・・？」

身体を再生する時も血を流したことない。そんな自分が血を・・・として、身体に迸るズキズキとした感覚。

シャンツア「痛覚・・・だと・・・」

訳が分からない。この身体に痛みなんて物があるのか。痛みを与えた張本人はかかってくるのを静かに待っている。

シャンツア「孫悟空、許さん・・・!!」

憎しみと怒りが更に増し両手に握り拳を作り顔を上に向け発狂する。

正気を失いそうな程に狂った叫び声を上げる。

ベジータ「くっ……何だこの寒気は……」

シャンツアの身体には青黒い気が纏われる。

憎悪と邪念から作られる気は自身をめり込ませていた岩柱をアイスクリームの様に溶かす。

殺意全開のシャンツアのその眼には光がなく孫悟空という人間を殺す思考しかない。

シャンツア「グガアアアア!!!!」

悟空「!?!」

突如迫るシャンツアの一撃に両腕でガード。

その後もひたすらシャンツアは悟空に攻め立てる!

コニツク「ジレン君の気、破壊神トツポ君の気、そして、全ての細胞の気を解放した様です」

キテラ「孫悟空がかわせずには攻撃を防いでいる。いいぞ、シャンツア!そのまま孫悟

空を叩き伏せろ!!」

ウイス「シヤンツアさんの気。長く持ちはしませんが瞬間的なパワーならジレンさんに匹敵または上回るかもしれない」

ビルス「暴走だなあれは・・・」

シヤンツア「ウガアアアアア!!!!」

悟空「ぐあっ!!」

悟飯「父さん!!」

ピッコロ「ガードしても拳圧で飛ばしたか」

17号「あいつも今の孫悟空に匹敵する力を得たのか」

18号「くっ・・・しっかりしなよ」

ジレン（孫悟空・・・）

悟空「くっ!」

シャンツア「ギギャギャギャ!!!」

宙を飛びながら悟空の頭上から降り注がれる鋭い針のシャワーの様な気。

悟空は動けず守りの体勢に徹する。

シャンツアもまたジレンとは違う形で悟空に匹敵していたのだ。

ベジータ「くっ・・足場が少しずつ削られてやがる」

悟空のいる足場が針のシャワーで少しずつ削られこのままでは押され脱落してしまう。

自身と足場を守っているもののシャンツアの指から次々と放たれるシャワーが押し
ている様にも見えた。

ジレン（これで終わるお前ではない）

シャンツア「ギジャハハハハ!!!」

キテラ「早く脱落させろシャンツア!!今のお前の力ならばジレンも倒せるぞ!」

シン「悟空さん!!!」

クル「完全に正気を失ってしまったのかもかもしれません。シャンツアは・・・」
老界王神「強い邪の気と心があやつをここまで変貌させるとは・・・」

悟空「・・・!!」

シャンツア「ギジャハハ!!!」

ポツ!!

ベルモッド「押し返したのか!？」

トツポ「まさか・・・!」

針のシャワーの中に波状の気が1つ2つと増えていく。

シャンツアも異変に気付き針のシャワーを激しく降り注がせる!

ジレン(来るか・・・)

ベジータ「……………」

シャンツア「ギギギヤ!?!」

シャンツアの左肩に波状の気がかする。

そして、今度は腹部に矢の様な気が突き刺さる!

針のシャワーが次々と波状の気が衝撃音をたてて消していく。

悟空の足場が削れない。ついに悟空が守りに入りながらも放つ波状の気が針のシャワーを打ち消す!

シャンツア「グギギギギ!!!」

歯をむき出しにし怒り狂うシャンツアの右手から黒紫色の大きな球状のエネルギー弾を作り上げ悟空を落としにかかる。

破壊神のパワーとジレンのパワーインパクトを混ぜた球状のエネルギーであるが悟空は一步も退かない。

キテラ「諦めたか孫悟空!!」

コニツク「あれは・・・」

二人の全王は先程から興奮しっぱなしで戦いを見続けていた。

第4宇宙、第11宇宙は残り1人。第7宇宙も実質戦えるのは悟空のみ。

脱落しようものなら直ぐ様消滅。全王のワクワクした感情とは逆に緊張の糸が張りつめたまま。

悟空「・・・!!」

キテラ「終わりだ孫悟空!!!」

ビルス「悟空ー!!!」

シャンツア「ウギツ!?!」

——負けねえんだよ

黒紫色のエネルギー弾が消滅する。

理由は何なのだ？何故消えたのだ？

一瞬正気に戻ったがすぐに答えが出た。

シャンツァ「グギャー!!」

キテラ「シャンツァー!!!」

コニツク「極めた……」

ビルス「ウイス。悟空はどうとう辿りついたんだな？」

ウイス「はい」

瞳と髪色が銀色に輝く。2人の強大な戦士との戦いを経てついに……!!

ビルス「全くなんて奴だ……」

宙に浮いていたシャンツアを蹴落とし大きめの武舞台の足場に2人が立つ。シャンツアが蹴落とされた場所には大きなクレーターが出来ていた。

痛みをまとも感じとり怒り発狂するが悟空の神々しい姿に固まってしまう。

シャンツア「な、何なんだ貴様は・・・貴様は俺の一部に過ぎないはずだ・・・」

悟空は何も話さずただシャンツアの後ろを通り過ぎた。

何をされたのか分からないまま気が付けば光の衝撃がシャンツアの全身にぶつけられ地に伏せられる!!

シャンツア「ぐがつ・・・」

悟空「・・・」

その圧倒的な存在に免除宇宙の神々が立ち上がり孫悟空にという存在に着目する。ベジータもまた悟空の極めた姿を見て喜びに満ち溢れていた。

ベジータ「そうだカカロット。サイヤ人に不可能などない。神共に見せてやれ。極めたその身勝手の極意をな！」

シャンツアは倒れたまま。立ち向かえない。

神々しいあの悟空の存在に恐怖心が植え付けられていたのだ。

シャンツア「こんな事が……あつて……」

悟空「……」

ジレン「待っていた」

ジレンは悟空の極めた力を待っていた。

これでようやく死んでも構わない全力のパワーを發揮できる。

プライド・トルーパーズの面々さえ知らないジレンの本当の力はどれほどの物なのか……。

ベルモット「ジレン!!」

カイ「死んでも構わないと思った相手・・・」
トツポ「ジレンの本当の力が見れるでしょう」

ジレンの本当の力がついに発揮されようとしていた。
それと同時に宇宙の運命が決まるこの戦いももうすぐ決着がつくだろう。

果たして悟空達第7宇宙がこの戦いの勝者となれるのか!?

続く

強者達の超決戦！究極の聖戦始まる！！ 前半

悟空「……………」

ジレン「……………」

両者何も言葉を交わさず戦いが始まる。

極めたその力にジレンは見切れず頬に攻撃がかかる。

悟空のスピードに追いついていない！

シン「これならば悟空さんはいけますよ！」

クル「何と言う力ですか……………」

悟空「ハアアアアア!!!!」

ジレン「ぐほあ……………」

極めたその一撃にジレンは一方的。手も足も出ずにいた。

冷静に観戦していたベルモッドもこればかりは焦りの顔を隠せず頭を抑えていた。

カイ「有り得ない・・有り得ない!こんな事があっては・・!」
ベルモッド「ジレンは負けない!どんな時もな!」

キテラ「シャンツアめ、ビビって動けなくなってるじゃねえか」
コニツク「このままやり過ぎればよいのですが果たして・・」

シャンツア「俺はあいつ等の細胞を持つてるんだぞ・・あいつ等の力も能力も使える」
シャンツア「何故だ。俺は孫悟空より劣るといえるのか?ただの細胞の一欠片に過ぎない奴に俺は勝てないのか?」

悟空とジレンのバトルを見つつ両手に握り拳を作る。

シャンツアは何がなんでも認めたくなかった。

恐怖心もあるが今はそれ以上に怒りの感情が上回っていた。

爆発しそうな感情を抑え観覧席をチラリと眼を向ける。

シャンツア「……………」ニタリ

ジレン「はあああ……!!」

ジレンは両手を上げパワーインパクトを作りそれを放つ。

片手だけのパワーインパクトを上回る威力であるが…………。

悟空「……………」

悟空は軽々とエネルギーの線でパワーインパクトを破壊する。

軽々と防がれた事にジレンの顔から冷静さが完全に消えてしまった。

ジレン「かき消しただと!?!」

悟空「おめえの本気はこの程度なのか?」

ジレン「くっ……おとおおお!!!!」

半ばやけに連続エネルギー弾を放つが無意味だと言わんばかりにかわされ悟空の攻撃のラッシュが炸裂し反撃すらも届かず強烈なボディーブローが腹部に直撃！
自身の腹部が貫かれんとばかりに拳が深くめり込む!!

悟飯「さすが父さん！」

シン「これならば我々第7宇宙の勝利は間違いないです！」

クル「・・・これ程とは」

老界王神「恨みっこなしじゃからの」

クル「分かっています・・・けれど、シャンツアも黙ってはいませんよ！」

ジレン「ハア、ハア、ハア・・・」

息を荒々しく吐くジレン。

自分を超える存在。過去のトラウマを思い起こしたが今はそれとは違う。

目の前の男は自身を倒す為に正々堂々と戦いつている。

それに応えられない様では戦士として恥。

ジレン「お前の期待に応えねばな」

悟空「あまり長くは持たねえからよ」

ジレン「フツ・・そうであつたな。ならば行くぞ！」

うおおおおお
!!!!

天津飯「ジレンの気が更に膨れ上がっている！」

ジレンが限界を超える気を放つと武舞台に熱さと炎が舞う。

観覧席にも伝わる熱と気で観覧席にいる戦士達があわや吹き飛ばされそうになる。

18号「くつ・・一体どうなってやがるんだい！」

ピッコロ「これがジレンの限界を超えた力か」

轟々と武舞台を包み燃え盛る炎。

ジレンの気そのものが炎になっていたのだ!

プライド・トルーパーズのユニフォームが燃え上半身が露になっていた。

筋骨隆々の肉体を持つ男はその眼を一人の男に向け歩み寄る。

凄まじい熱気ではあったが悟空の表情は何一つ変わらない。

ベジータ「カカロットが追い詰めた事でついにジレンが全力を出したか・・・」

武舞台の炎はベジータにも伝わる。ただ炎が熱いだけでない。この炎全てがジレンの気であり孫悟空という一人の戦士に命を賭けても構わないという現れだと。

そして、この炎が消えた時それが決着になるのだと。

ビルス「まずいぞこれは・・・」

クリリン「ジレンの本気・・・悟空大丈夫かよ」

ピッコロ「悟空め。全力のジレンをみて笑ってやがる」

悟飯「ジレンも限界を突破してここから本気の戦いが出来るからなのでしょう・・・」

ウイス「ジレンさんも顔には出していませんが嬉しいのでしょうかねえ」

ベルモッド「あの様なジレン、初めて見たぞ」

マルカリータ「初めて合間見えた強敵、自身を超えているかもしれない存在。強さをひたすら求めていたジレンにとってこれ以上ない修行ですます」

カイ「感じますよ・・・この熱さと力強さ。今のジレンならば孫悟空を倒せると!!」

悟空「ようやくおめえも限界を突破したんだな」

ジレン「お前と同じで長くは持たない。ここからは死ぬ気で戦う。孫悟空、お前と出会えて光栄だ。だが、俺はどんな事があるうと・・・」

絶対に負けん!!!!

悟空「ぐっ!!」

右拳を防ぐも拳圧の威力も今までとは桁違いに広く重く防いだつもりが吹き飛ばさ

れる!

体勢を立て直した悟空だがジレンは直ぐ様次の攻撃に移っていた。

ジレン「オオオオオオオ!!!」

悟空「!!」

拳圧の範囲の大きさに身を動かすだけでかわすのは不可能。

悟空はジレンの拳を抑えるもジレンは持ち前の圧倒的なパワーで悟空をまたも吹き飛ばし更にパンチという名のレーザーで追撃する!

レーザーは弾き飛ばしたがジレンはそれを先読みし今度は目力で衝撃を放ち悟空を吹き飛ばしその背後を蹴り飛ばした!

悟空「がっ……!」

ジレン「……!!」

ベルモッド「いいぞジレン!!」

カイ「やはりジレンこそが最強の存在!」

マルカリータ「……………」

クリリン「悟空!!」

天津飯「どちらも底が知れない……」

ビルス「おい、ウイス。悟空の奴……」

ウイス「はい。ビルス様が思っている通りですよ」

ジレン「……………」

悟空「……………」

ジレン「背後を狙っていたのがわかっていたはずだ。何故、攻撃を受けた？」

悟空「……どれくらいつえーのか確かめたかっただけだ」

ジレン「品定めをするな。お前も俺を倒す気で戦え！」

悟空「悪かった。じゃあ、そうさせてもらうぞ」スツ

ジレン「ん!?!」

ズドツ!!

ジレン「がっは・・・!」

デイスポ「ジ、ジレン!!」

カーセラル「ジレンが抵抗もガードもできずダメージを受けるとは・・・」

ジレン「ハアアア!!!!」

悟空「・・・」

ジレンの攻撃を難なくかわし次々と攻撃を浴びせる悟空。

右頬に拳がめり込んだかと思えば既に胸部にも拳がめり込み更には腹部に足跡が深く浮き彫りになる程めり込まれジレンは吹き飛んだ。

ジレンの本気ですら身勝手の極意を極めた悟空の前では及ばない・・・!!

カイ「孫悟空のパワーとスピードがジレンを上回っている・・!?」

ベルモツド「有り得ん! あいつのどこからそんなパワーが出るのだ!」

カイ「くつ、人間レベルが低い宇宙の人間なのに・・」

ビルス「人間レベルだ人間レベルだうるさいね君。悟空は自分の為だけに戦っていない。こいつ等の分も背負って戦っているんだよ」

ビルス「ジレンはここにいる奴等を背負って戦っているのか? 僕からみたら自分の為だけに戦ってる様にしか見えないね」

ジレン「俺は・・お前を超えていく・・この生命(いのち)が燃え尽きてでもな」

悟空「オラは死にたくはねえ。全力で戦うのはいいけどよ、死ぬつもりで戦うつてのは間違いだぞ」

ベルモツド「何がいたいビルス! 勝利こそが全て! 勝利こそが正義! ジレンの考えは間違つてはいない!!」

ビルス「力の大会ではその理論も間違つてはいないよ。だが、人間というのは面白い生物でね。背負った思いを乗せて戦えば破壊神ですら興味を持つ程のパワーを發揮するんだよ」

ジレン 「ぐっ・・・はぁぁー!!!」

悟空 「熱くなりすぎじゃねえか？」

ジレン 「ぐおおぁぁ!!」

ジレンは距離を離し赤い追尾するエネルギー弾を乱射するも悟空が右腕を一振りするだけで全て消滅し一瞬でジレンの背後につく。

光の衝撃がジレンの身体全体を殴り付けるかの様にぶつけられ宙へとぶっ飛ばされていった!!

ジレンが圧倒され追い込まれている姿にプライド・トルーパーズの面々は啞然としていた。

ゾイレ 「あ、有り得ねえ・・・」

ブーオン 「ジレンが逆に痛め付けられてるとは・・・」

ケツトル 「こんな事が・・・信じられん」

タツパー 「ジレンが負けてしまうのか・・・」

ココット「ジレンの敗北は私達の宇宙の消滅・・」
クンシー「消えたくねえぞ。ジレン、勝ってくれ」

トツポ「・・・」

デイスポ「孫悟空め！何故あいつが神の領域に入れるんだ。くそお!!」

カーセラル「くつ・・俺があの時、ジャスティスカプセルで封じ込めた時に落として
いれば・・」

トツポ「黙って観ている!!!」

カーセラル「ト、トツポ！」

デイスポ「うおっ！でけー声いきなり上げるなよ」

トツポ「勝負はまだついていない！確かにジレンは追い込まれてはいるが、ジレンは
何度も立ち上がっている」

悟空「おめえはどうして何度やられても立ち上がれるんだ？」

ジレン「俺はお前を超えていく・・・」

悟空「それだけか。おめえの頭ん中は」

ジレン「俺は引かん!お前をこの力で必ずねじ伏せる!!うおおお!!」

ベルモツド「ジレン!俺達の事など気にするな!孫悟空を倒せ!!」

ベルモツド「お前こそが最強なのだ!力でどんな佳境も乗り越えてきたお前が人の思いを背負って戦う人間に負けるなどあつてはならん!!」

亀仙人「・・悟空には互いに高めあえる者達がおる」

ベルモツド「何だじいさん。何が言いたいのだ!」

亀仙人「それはお互いにとつて掛け替えのない大切なもの」

亀仙人「と、同時に悟空を奮い立たせる存在なのじゃ」

亀仙人「ここまで来たのは自分一人の力などとあやつはこれっぽっちも思つてないじゃろうな」

ベルモツド「くつ・・・」

ジレン「ぐがつ!!」

悟空「・・・!!」

ジレン（お前は俺を超えている。それは認める）

ジレンは過去の事を思い出す。故郷を悪人に滅ぼされ師や仲間が悪人に殺され残された者はその悪人に立ち向かうのを諦めジレン一人取り残された事を・・・。

あれ以降二度と負けないと誓い戦い抜いた。第11宇宙最強の人間となってもその思いは変わらない。

目の前にいる男は別の宇宙の人間。そして、自身を上回る存在。

敗北という2文字が頭によぎる。

ジレン（・・・あの時とは違う。あいつは孫悟空はただ戦いが好きな奴だ）

悟空「どうした？何か嫌な事でも思いだしたのか？」

ジレン「何も無い。お前を倒す。それだけだ」

ビルス「ジレンの奴もかなりタフだ。悟空、早く決着を付けないと身勝手の極意が持たないぞ！」

ウイス「ジレンさんもあの力は相当なエネルギーを消費しています。ジレンさんにとつてもここで悟空さんに勝たなければ第11宇宙は消滅するでしょう」

悟空「……!!」

ジレン（お前と出逢えて良かったぞ）

ジレン「ぐっ!!ウオオオオオオ!!!」

悟空「ぐあっ!!」

ビルス「何!？」

クリリン「ジレンの攻撃が悟空に届いた!？」

トッポ「私と同じダメージ覚悟で攻撃をぶつけたか」

カイ「ジレンなら・ジレンなら!」

ジレン「ヌウウン!!!」

悟空「ダリヤアア!!!」

ズダダダダダ
!!!!

ドズツ!!

ゴスツ!!

ジレン「ぐふっ!!」

悟空「うぐっ・・・!」

ベジータ「ジレンめ・・・カカロットの動きに少しずつ付いていきやがる」

両者のラッシュが激しすぎるあまり衝撃があちこちに分散する。
だが、両者は回りの事など気にもしていない。

互いの力と力をぶつけ合う。戦いではなくこれは闘いなのだ。

闘志を燃やす戦士達は宇宙の運命の事は頭にはなかった。

ただ純粋に闘い勝つだけ。重苦しい空気は抜きにしてただの喧嘩をする。両者はこの闘いを楽しんでいた!!

ベルモッド「ジレン！勝って故郷の者を超ドラゴンボールで復活させるのだから!?ならば、負ける訳にはいかないぞ!!」

トツポ「ベルモッド様。ジレンは故郷を戻すつもりはないと思われます」

ベルモッド「何？」

トツポ「ジレンに大会出場を頼んだと同時に超ドラゴンボールの旨を伝えた時・・・」

トツポ『・・・どうだ？大会で勝てばどんな願い事も叶えられる。お前にとってかけがえない者も・・・』

ジレン『負けた宇宙は消滅するのだから？』

トツポ『だからこそお前の力が必要なのだ。私の力に匹敵する奴が他の宇宙にいた。お前なら余裕ではあるが私達だけならば不安が残る』

トツポ『そして、お前の願い事ならばメンバーは全員分かってくれる。もし、他の宇宙が消滅し第1宇宙のメンバーだけが残ればお前に超ドラゴンボールを譲る。それでいいだろうか？』

ジレン『・・・下らん。他の宇宙を犠牲にしてまで個人の願いを叶えるつもりはない』
トツポ『何?それじゃ願いはどうするのだ?』

ジレン『願いを叶える為に多くの犠牲者が出るのなら俺の願いは犠牲者を0にする。それだけだ』

トツポ『ジレン・・・』

カイ「まさか消滅した宇宙を復活させようと戦っているとは・・・」

ベルモッド「正義の為に生きるジレンらしいな・・・」

トツポ「ジレンの大会出場は強者を捜すべくはもちろん犠牲者をなくす為に優勝を指しているのです」

クリリン「何だ。じゃあ、俺達が負けても復活出来るじゃ・・・」

ビルス「バカか!!本当にその願い事を叶えられるか分からだぞ!」

ウイス「全王様が消した宇宙は超ドラゴンボールでも元に戻るのかどうか・・・。検討がつきませんね」

悟空とジレンの激しいぶつかり合いが続く。

両者はただ勝つ事だけに全神経を集中させる。
互いに敬意を示し武闘家として闘いに臨んでいた！

強者達の超決戦!究極の聖戦始まる!! 後半

ジレン「ぐがつ・・・」

悟空「ハア!!!!」

ジレン「オオオオオオ!!!!」

全王「悟空もジレンもカッコいいのね!」

未来全王「熱い戦いなのね!」

ベジータ「くつ・・・凄まじい衝撃だ。そこらの奴では衝撃だけで吹き飛ばぞ」

両者の拳がぶつかり合うだけで強い衝撃が武舞台に発生する。

その衝撃の強さはベジータも感じ取れていた。

が、飛び交う衝撃の中、握り拳を作り歯をギリギリさせる戦士が・・・。

シャンツア「孫悟空：あいつは特に許されん。俺に血を吐かせたガラクタめが：！」

シャンツアの前に映る光景。

悟空とジレンがどこか楽しんで闘う姿。

何が楽しい・・何が嬉しい。

こいつ等は消滅する恐怖はないのか？

何故、こんな状況でも楽しめるのだ？

熱さとは真逆の冷たさが更に増す。

シャンツア「俺こそが最強なんだ・・。あんな奴等に劣るなど有り得ないのだ!!」

ジレン「くっ・・！ウオオオオオオオ!!!」

悟空「ハアアアア!!!」

ズポツ!!

悟空「なっ!?!」

ジレン「ん!?!」

突然悟空の拳が空間に飲まれジレンの拳が直撃!

吹き飛び受け身を取ったがその後も悟空の拳が空間を突き抜けてしまう。

悟空「……………」

ジレン「邪魔をするな」

シャンツア「ギジャハハハ!!これが俺の空間移動の恐ろしさだ!!!」

シャンツアの腹部が空洞になっておりどうやら悟空の拳を腹部に空間移動させている様だ。

全王二人も熱い闘いを止められない気分ではない。

キテラ「お、おいシャンツア！」

シャンツア「さあ、ジレン！孫悟空を痛め付けろ!!何なら俺も加勢してやるぞ」

ジレン「元に戻せ」

シャンツア「お前の方が強いのは俺が見ても分かるぞ」

シャンツア「信頼が何だ、仲間が何だ。そんな力を認めたらお前が必死に得た力を否定する事になるのだぞ?それでいいのか」

ジレン「次はないぞ。孫悟空を元に戻せ」

シャンツア「そんな力を認めるお前じゃないはずだ。さあ、お前の圧倒的なパワーで孫悟空を殺すつもりで・・・」

ジレン「・・・!!!」

ズドオオオン
!!!!!!!

シャンツア「ぐぎやあああああ!!!」

ジレン「消えろ。悪め」

シャンツアを拳圧で木つ端微塵に砕き悟空を元に戻し構える。

フェアな闘いを望むジレンに悟空もそれに応えるべく真剣な眼差しをジレンに向ける。

悟空「サンキューなジレン」

ジレン「・・・行くぞ」

クル「あの二人の闘いに割り込んではいけない。シャンツア、頭を冷やすのです・・・」

キテラ「シャンツアは!?まさか・・・」

コニツク「脱落はしてませんよ。けれども、嫌な予感はしますね」

シャンツア（許さん・・・どいつもこいつも）

砕けた身体を少しずつ再生していくシャンツア。

青の冷たい気が身体から吹き出る。

更に憎悪を強め身体を元に戻すと全細胞の力を使い巨大なエネルギー玉を一瞬で作り上げ両手に掲げそれを・・・!!

ベジータ「あいつ、何をするつもりだ!?!」

シャンツア「俺は最強なんだ・・・!俺が消滅する等絶対に認められん」

悟空「ハア!!」

ジレン「ぬん!」

シャンツア「消えるべきなのは貴様等なんだ。俺は生き残る。例え・・・」

悟空「・・・!!」

シャンツア「同じ宇宙の奴等が消えようともなあ
!!!!!!」

巨大なエネルギー玉を観覧席目掛けて放った!!

第7宇宙、第11宇宙はもちろん第4宇宙の面々までも巻き添えに破壊しにかかったのだ!!

観覧席にいる面々は突如放ってきた巨大なエネルギー弾に驚き観覧席に直撃しそうになったその時!

バシユ
!!!!

悟空「おめえ・・・!!」

悟空が観覧席に現れエネルギー玉を弾き飛ばしエネルギー玉は武舞台の破片を次々と破壊し無の界の空間へと消えていく。

悟空は仁王立ちでシャンツアを睨み怒りの形相に。

シャンツア「貴様の信じている力など簡単に消え去るんだぞ!!あんな風にな!」

悟空「これはオラ達の戦いだぞ。戦いに関係ねえもんを巻き込む奴は・・」

許さねえぞー!!!

目にも映らないスピードでシャンツアの右頬に怒りの拳をぶち込みシャンツアはぶっ飛ぶ!!

細胞の再生すら追いつけないスピードとパワー。

武舞台の破片にめり込み脱落は免れるも肉体はもちろん、精神的ダメージも大きかった。

するの难道?」

ウイス「はい。極めたその力は身体の内奥まで響かせます」

ジレン「ぐああ!ぐうっ!!」

ジレン(ここに来て更にパワーとスピード、キレが増している)

！
少しずつ悟空に付いていっていたジレンだが悟空はまたここに来て力を上げていた

一方的に攻められジレンのパワーが落ちていく。

ジレンの気がどんどん小さくなる。もはやジレンですら悟空を止められない!

ベルモツド「ジレン!!」

カイ「そ、そんな・・・ジレンが・・・」

悟空「波ーっ!!!」

ジレン「ぐああああ!!!」

アッパーでジレンの顎を殴り飛ばし飛ばした所をかめはめ波で更に吹っ飛ばした！
ジレンもまた脱落はしなかったが赤黒い気がなくなりその場に倒れ動けない。
悟空が倒れているジレンの前に立ち右手でエネルギー弾を放とうと構える。

ジレン「決着はもうついた・・・」

悟空「・・・」

ジレン「早く落とせ・・・。お前の勝ちだ・・・孫悟空」

ビルス「何やってんだ悟空！早くしろ！」

悟空「・・・」

ジレンは眼をつぶり覚悟を決めた。

完全な敗北を喫したが悔いはなかった。

むしろ死ぬ覚悟を決めた戦いに全力で向かってくれた悟空に感謝の思いもあった。

生死を掛けた戦いであつたが正々堂々武闘家として闘えた。

ジレン（俺が消えてもお前の記憶に生き続けられる・・）

光がジレンに向けられる。第11宇宙が終わる。

ドクン

悟空「がっ・・・!」

心臓の鼓動が聴こえたと同時に悟空の背中から多量の血が吹き出す!すると、悟空が倒れてしまった。。。

クリリン「悟空!!」

ビルス「何が起こった!？」

ウイス「限界を超えた神の力……。まさか、ここまで負担が大きいとは……」

悟空は何とか踏ん張って立ち上がるうとしたが紫の気が吹き出て激痛が走り悲鳴を上げる。

勝負があつたかに思われたバトルがまさかの危機に。

ジレンもエネルギーを凄まじい程に消耗していたが悟空を落とせるくらいの力は残っている。

ベルモツド「ジレン、孫悟空を落とせ!!」

ジレン「……………」

ベルモツド「このまま負けてしまってもいいのか!？」

ジレン「……………」

完全な敗北だった。しかし、今なら孫悟空を落とせる。

だが、それでいいのか?

ジレンに躊躇いが生じていた。早く落とせとベルモッドとカイが必死に呼び掛ける。

ベルモッド「超ドラゴンボールが入るんだぞ!お前の願いを好きに叶えられる!早くしろ!!」

カイ「急ぐのです!!」

ジレン「くっ・・・!」

ベジータ「カカロット!!ぐっ・・・な、何だ!?!」

ベジータが悟空を助けに行こうとしていたがベジータの身体を蒼い太い物が巻き付く。

ズドツ
!!!!

悟空「うわあああああ!!!」

ジレン「孫悟空！」

シャンツア「ざまあみる孫悟空・俺が一番だ。俺がい・ち・ば・んだ!!!ギジャハハハハハ!!!うぐつ・・」

空間移動で尻尾を移動させベジータを縛り悟空の胸部にパンチを浴びせ吹っ飛ばした!!

シャンツアの身体は元に戻ってはいたが身勝手の極意のダメージは誤魔化せていない様だ。

悟空が落ちていく・・第7宇宙の希望が絶望に変わる。

もうダメだ。第7宇宙が終わる。

キテラ「キシキシシ!!第7宇宙は終わりだあ!!!」

シン「悟空さーん!!!」

クル「勝負の世界は残酷なのです・・」

キテラ「ベジータも落とせば終わりだ。ビルス!!お前の消える瞬間を拝んでやるぜ!

ありがたく思え。キキキキ!ギャハハハ・・

ドーン
!!!!

悟空「うわっ!」

キテラ「な、何!?!」

天津飯「誰がエネルギー弾を!?!」

ピッコロ「あいつだ。おそろくな」

ウキヤキヤキヤ!!

シャンツア「チツ・・あのチビめ!」

セルJ r. 「ウキキキ!ウギツ!」

セルJ r. が悟空の脱落をエネルギー弾で吹き飛ばし武舞台の足場に倒れさせ脱落を防いだのだ。

シャンツアがセルJ r. に向かってデスビームで殺そうとしたがセルJ r. の様子がおかしい。

目を見開きピクリとも動かない。まるで時が止まったかの様に。

ピキツ

セルJ r. の頭に亀裂が走る。

バキバキバキ
!!!!

セルJr.の身体が殻を破ったかのようにバラバラになり一人の戦士が立つ。

——さて、舞台が整ったな。

クリリン「な、何て奴だ・・・!」

18号「あいつ・・・今まで隠れていたのか」

17号「まさか、子供の体内に隠れているとはな」

悟飯「ピッコロさんは分かっていたのですか？」

ピッコロ「あの程度の自爆では死にはしないだろう。だが、J r. の中から現れるのは俺も想像だにしていなかった」

ビルス「全く・・・第7宇宙の連中はどいつもこいつもしぶとい奴ばかりだよ」

シャンツァ「ぐっ！」

尻尾がデススライサーで切り裂かれベジータは解放される。

ベジータの元に行くセル。セルの身体は回復しており一人だけ体力に余裕を残していた。

セル「サイヤ人は強い者と戦うのが楽しいのだから？・・・笑えよ、ベジータ」

ベジータ「黙りやがれ。今はそんな状況じゃないのは貴様も分かっているはずだ」

後ろで倒れている悟空の前に立つ二人。

その姿は頼もしく悟空はセルとベジータに宇宙の運命を託す。

悟空「すまねえ・・・後は頼むぞ。二人共・・・」

セル「勘違いするな孫悟空。私は優勝して復活する為に戦っているだけだ。復活すれば貴様から殺してやる」

ベジータ「貴様に優勝等させるか!!」

ジレン「セル・・・だったか。あいつもしぶとい奴だ」

シャンツァ「あいつも所詮はパーツだ。恐るるに足らん」

セル「だが、私は寛大でね。ここまで活躍した貴様等に褒美をくれてやる」

セルが悟空とベジータに気を分ける。神の気は回復しないが超サイヤ人になる事が出来る様になった。

ベジータはあまりいい気分でなかったが勝つ為にはなりふり構わない。

ベジータはジレンに、セルはシャンツァに立ち向かっていった!

ベジータ「勝つのは第7宇宙だ！」
セル「惨めに消滅する姿を拝ませてもらおうかな」

限界を遙かに超えた死闘に悟空は大きな代償を負ってしまふ。そして、力の大会も終わりが近付く。果たして生き残るのはどの宇宙なのか!? 宇宙の運命がいよいよ決まろうとしていた!!!

続く

スピードが大きく落ち攻撃がかわしやすくなりそして・・・

ズドツ!!

ジレン「ぐっ!!」

ベジータ「今の貴様には気のバリアーを張る余裕がない。立っているのが精一杯のはずだ」

ジレン「お前ごときに俺は負けん!」

ベジータ「その形相を見ても分かるぞ。ダメージは隠せないとな!!」

ジレン「黙れ!!」

腹部にベジータの拳がめり込み顔を歪ませるジレン。

本来ならばそのまま攻撃を受けても問題はなかったが弱ったジレンには気のバリアーがない影響もあり痛みが腹部に迸っていた。

ベジータは更にラッシュを掛けジレンを追い詰める!

ベジータ「全力の貴様を倒したかったが今の俺では全力の貴様には勝てない。だが、俺は負けられん!必ず超ドラゴンボールを手に入れなければならんからだー!!!」

ジレン「ぐっ・・き、貴様・・!!」

ベジータ「そして、第7宇宙は勝つ!!力を失った貴様に勝機などない!!」

ジレン「勝機などない、だと?」

ガツ!!

ベジータ「ぐああああ!!!」

ビルス「ベジータ!!」

悟飯「まだ余力があるなんて・・」

ピッコロ「今の一撃・・ベジータの動きを覚えていたかの様な動きだ」

ベルモッド「そうだジレン!!お前は負けない存在だ!孫悟空が倒れたのもお前が耐え

超サイヤ人の気、フリーザの気を解放しシャンツアに立ち向かうもシャンツアは瞬間移動でセルの背後に回り蹴飛ばそうと目論んだ。

だが、セルは動きを読み瞬間移動した途端に右腕を曲げリアアットでシャンツアの首もとごと武舞台に叩きつけた!

シャンツア「ぐがっ!!」

セル「いつまで劣っていると言えるかな?」

シャンツア「パーツが思い上がるなあ!!」

怒ったシャンツアが破壊のエネルギーを纏わせながら連続エネルギー弾を乱射する。セルも負けじと連続エネルギー弾で相殺させていく。

悟空との戦いで弱ってはいるがそれでもセルとは互角の戦い。

シャンツア「ぐっ・・貴様あ・・!!」

セル「このまま落ちろ!!」

連続エネルギー弾をやめたシャンツアにセルが襲い掛かる。

苦しむ表情を見せるシャンツア。だが・・・。

シャンツア「なんちやつて」

カッ！！！！

セル「ぐああああ！！目、目が・・・」

シャンツア「俺を倒すのは貴様では不可能なのだ！！！」

セル「ぐおおああー！！！」

太陽拳をまともに受け視界を失った瞬間に破壊エネルギーからの小さめのデスポールでセルを場外へと落とす！

思わぬ攻撃手段ではあったがセルは視界が戻り右腕に気を溜めてデスポールを弾き飛ばし左手で額に指を当て瞬間移動し脱落は免れた。

しかし、それも読んでいたシャンツアはセルの背に瞬間移動し気の刃を腹部に突き刺し爆発させ吹っ飛ばした！

セル「ぐふっ!!」

シャンツア「ギジャハハハ!」

ベジータ「くっ・くそつたれめえ。完全に俺の動きを読んでいやがる」

セルとベジータそれぞれが別々の武舞台の破片にぶつ飛ばされる。

弱つてもあの二人には敵わないのか・・・。

第7宇宙の面々はこれまでかと諦めムードが漂っていた。

ベジータ「ハア、ハア・俺ではジレンに勝てん。だが、あいつならばどうにかなる
かしれん・・・」

セル「ベジータめ・私と同じ考えか。私もあいつならばどうにかなると思っていた
所だ」

ベジータ「チエアアアアア!!!」

セル「そいつは譲ってやるベジータ。だが、奴は私が倒す!!」

天津飯「戦う相手を変えたか！」

ピッコロ「確かにセルがジレンと戦うのは初めてだ。だが、力の差があれば動きを読む読まないは関係ないぞ」

17号「ジレンは弱っている。それに対しセルには余裕がある。作戦的には間違っていないと思うな」

ベルモット「ジレン！お前のパワーでその馬の骨を捻り潰せ!!」

キテラ「シャンツァー！ベジータも弱っている！そんな奴に負ける事は許されないぞ！」

セル「私はベジータの様に甘くはないぞ」

ジレン「相手が誰であれ倒す……。貴様の様な奴でもな」

ジレンはセルの邪悪な気に静かな怒りを見せる。

セルもシャンツァをベジータに任せたといい他人を頼った事に怒りを感じていた。

だが、結果はどうであれ生き残らなければ復活は愚か自身も消滅してしまう。

四の五の言つてられない状況。だからこそ、どんな手段も辞さない。

セル「死ぬんじゃないぞ。出来損ない」

ジレン「・・・!!」

怒れるジレンがセルにパワーインパクトを放つ!

安い挑発に乗り冷静さも欠けているジレンにセルはパワーインパクトをアイビームだけで相殺!

焦りの表情を見せるジレンとは逆に余裕の表情のセルがジレンの両肩にデスビームを当てた!

ジレン「ぐあ!!」

セル「ルアアアアアア
!!!!!!」

ジレン「ナメるなよ・・・!!」

セル「グウア!!」

顔面めがけたセルの拳を右手で掴み地に叩き付ける。

弱っているとはいえ。パワーならば自身を上回っている。

頭に来そうな物を抑えセルは身軽に後ろ向きに回転し地ごと破壊する右腕の一撃をかわし瞬間移動した!

そして、ジレンの後ろにつきバリアーを張り自らの身体を膨張させる!

セル「軽いケガではすまないぞ」

ジレン「……!!」

グウアアアアアアア
!!!!!!!

ジレン「ぐっは……」

セル「波——っ!!!」

トツポ「ジレン!!」

ビルス「あいつ、やりやがった……!」

ジレン「ぐうああああ!!!」

セルは自爆後、直ぐ様再生し太陽系破壊かめはめ波を放ちジレンに立て続けに大技をぶつける!

自爆でボロボロになり致命傷を負ったジレンに更なる追い討ちをかけたのだ!!

カーセラル「ジレンはよくやった……」

デイスポ「あいつが負けたら仕方ねえ……」

カイ「ジ、ジレン……」

ベルモッド「……」

セル「第1宇宙の面々はもう消滅の覚悟を決めているぞ」

ジレン「う、ぐぐ……！」

セル「貴様も受け入れてさっさと散れえ!!!」

かめはめ波に更に気を込めてジレンを落とすしにかかる。

苦悶の声を上げ両手で死に物狂いで抑えるがそれも限界に近い。

このまま脱落・するかに思われた。

ベルモツド「……まだだ」

カイ「ベルモツド様!」

ベルモツド「ジレン!これで終わるお前なのか!!」

トツポ「そうだ……。ジレン!この情けない姿がお前の最後か!!」

トツポ「お前がお前の強さを信じられなくとも俺達は信じている!!」

ベルモツド「お前は誰よりも強い!!お前こそが最強なんだとな!!!」

セル「ほざけえ!!!」

ジレン「黙れ・・・」

セル「なっ!?こ、こいつ・・・!!」

ジレン「ぬうう・・・オオオオ!!!!」

何とかめはめ波が気で押されている!

限界の中、ジレンの底力がセルのかめはめ波を気で掻き消したのだ。

そして、その強大な気の塊をセルに放ち逆にセルを追い詰める!

セル「こいつのどこにそんな力が・・・!!」

ビルス「耐えろセル!!」

セルはバリアーを張り守りの体勢に入るがそれでもバリアーがひび割れていく・・・。バリアーが割れようものならばセルの脱落は免れない。

セル「ふさげるな・・・死にぞこないの貴様に・・・!!」

ひび割れが増えバリアーからエネルギーが漏れる。
ついに耐えきれず気がセルを呑み込もうとした時！

ピシユン

ーあいつ、ほんとつえーだろ？

セル「孫悟空!？」

悟空「すまねえな。任せっぱなしになっちまってよ」

ベジータ「カカロットめ・・・」

シャンツア「・・・お前が俺に勝てるだど?」

ベジータ「貴様を倒す算段はついている」

シャンツア「孫悟空のあれは想定外だったがお前の力などしれているぞ」

ベジータ「貴様に一つ教えておいてやる」
シヤンツア「ああ？」ギロツ

ベジータ「サイヤ人の細胞は採取しただけでは本当の力を発揮出来んな!!!」

悟空とセルは何か気の塊を抑える。

ジレンも力を振り絞り気を更に高めていく。

クリリン「あいつに限界はないのかよ・・・」

悟飯「凄い量の気がジレンに集中していく・・・!」

亀仙人「これ程までとは・・・なんと恐ろしい奴じゃ」

悟空「オラとおめえでジレンを落とすぞ」

セル「孫悟空。忘れてはないだろうな」

悟空「・・・」

セル「私が優勝すれば復活する事をだ。あいつを倒し第4宇宙の奴も倒したら次は貴

様等を叩き落とす」

セル「貴様等の願いなど知ったものか。私は私の願いを叶えその後は貴様等を殺してやるぞー！」

悟空「ああ。おめえの約束忘れてねえよ。だからそれまではオラとおめえで手を組んでジレンに勝つぞ」

セル「・・・ふん。今回だけだぞ」

悟空・セル「ハアアアアア
!!!!」

ジレンの気を全力で押し返す二人。

今はジレンを落とす事だけに集中する。

悟空もセルもただその一つの思いだけで戦っていた！

そして、ジレンの力を振り絞った気の塊を打ち砕いたのだ！

ジレン「・・・フツ」

悟空「ダダダダダダ」

セル「ルアアアアアア
!!!!!!」

クリリン「悟空とセルと一緒に戦ってる・・・」

悟飯「セル。今だけは父さんと共にジレンを倒してくれ」

悟空とセルがジレンにラツシユを仕掛ける!

激しい撃ち合いになるがジレンもそれと同じかそれ以上のラツシユで悟空とセルと撃ち合う!

そんな撃ち合いの中、悟空とセルの背後からエネルギー波が放たれる!

セル「しゃがめ!」

悟空「分かってっぞ!」

ジレン「ぐああ!」

セルJ r. 「ウキヤー!!」

セルJ r. のかめはめ波がジレンの胸部に直撃し吹っ飛び浮かんでいる武舞台の破片にめり込む！

そのまま悟空とセルは武舞台の破片に飛び移っていき悟空は胸部にパンチを、セルはみぞおちにキックを浴びせた！

ジレン「ぬうう・・・」カツ！！！！

悟空「うああああ！！」

セル「ぐおおああああ！！」

ジレンの眼が紅く光ったと思えば自力で二人は吹き飛ばされる！
更に自身を吹っ飛ばしたセルJ r. を拳圧で場外に叩き落とす！

ピシユン

ジレン「!？」

セル「いつまで生き延びるつもりだ!!早く消えろ!!!」

18号「あいつ、まさか!」

17号「自分ごとジレンを落とすつもりか!」

瞬間移動したセルがジレンの右頬を殴り付けながら落ちていく!

ジレンのあまりのしぶとさに嫌気がさしジレンごと叩き落とそうと超サイヤ人とフリーザのゴールデンの力を合わせもったパワーで全力で落とすしにかかる!

ジレン「はああああ!!!」

セル「ぐううう!!」

悟空「だああああ!!!」

セル「おおおお!!!」

超サイヤ人の悟空が武舞台の破片に残りかろうじて脱落を免れたジレンにそのまま右の腹部に頭突きを浴びせる!

セルも叩き付けられたが直ぐ様立ち上がり勢いよく地を反動に右拳を左の腹部に浴

びせる！

ジレンは耐えるもその背には何も無い。

耐えられなければ場外に、即ち第1宇宙の消滅となる！

ジレン「ぐっ……!!」

キテラ「何をしているシャンツア!!早く落とせ！」

ベジータ「貴様の全ての細胞を消す……！」

シャンツア「俺を消すだと？お前ごときに出来るかあ!!」

シャンツアが空間移動でベジータの背後から気の刃を突き刺そうとしたがベジータはこれを難なくかわし気の刃を出した右腕を掴み投げ飛ばした。

投げ飛ばしたその瞬間に超サイヤ人ブルー進化になり大量の気を放出する！

ベジータ「貴様を倒すには2度と再生できない様、粉々に吹き飛ばすまでだ!!」
シャンツア「ほざけえ!!」

キテラ「な、何故だ!？」

コニツク「ベジータ君の放つ強大な気が空間移動の次元すら掻き消し強大な気の前では瞬間移動ですぐに別の気を感じ取るのは至難の技なのです」

キテラ「そ、そんな・・・!!」

シャンツア「こ、こんなもの・・・こ、こんなも・・・」

ベジータ「デヤアアアアア!!!」

シャンツア「ふざけ・・・俺は最強なんだ・・・お、俺は・・・」

抑えていたシャンツアの両手が消滅し身体も消滅していく!

死ぬ覚悟で放ったファイナルエクスプロージョンがシャンツアの細胞を身体を何もかも掻き消していく!!

ビルス「決めろ!!!悟空!!!ベジータ!!!セル!!!」

第7宇宙メンバー「いけえええー!!!」

ベルモッド「ジレーン!!!」

ジレン（これが信頼・第7宇宙の力なのか・・!）

悟空「ハアアアアア!!!!」

セル「ブルアアアアアア!!!!!!」

ベジータ「ハアアアアアア!!!!!!」

シャンツア「ギイヤアアアアア!!!!!!」

キテラ「シャ、シャンツアアア!!!!!!」

ーファイナルエクスプロージョンの大爆発が終えると一気に静寂に。

力の大会が始まる前の様な静かな空間・・だが、もう戦いは終わったのだ。
勝ったのは誰か？消滅する宇宙は？超ドラゴンボールは誰の手に？
緊張が走る中、観覧席に戦士が移送される・・！

シャ、シャンツア!!
ジレン・・!!

ビルス「あいつ等はどうなったんだ!？」

うあつ!!

ぐっ!!

亀仙人「二人脱落か・・・」

クリリン「もし第7宇宙からも3人脱落したらどうなるんだ・・!?」

大神官「その場合は3宇宙共消滅とさせていただきます」

クリリン「そ、そんな・・・」

天津飯「ダメか・・・」

キテラ「ぎ、残念だったなビルス。お前達第7宇宙も消滅する事が決まった!!」

悟飯「待ってください!武舞台から気を感じます!」

ピッコロ「あいつ・・・!」

キテラ「なっ・・・ま、まさか・・・!!」

——情けない姿だ。これで勝ったといえる物か。

だが、生き残る事が勝者の条件だ・・・。

だからこれでいい。これでいいんだ・・・。

爆風が完全に消えるとボロボロになりながらも武舞台に立っている戦士がいた。足をフラつかせながらもその目元はいつもの変わらないプライド高き戦士の眼。

戦闘ジャケットがなくなり上半身が露になりながらも戦士は少し弱々しい声で言葉を放った。

ベジータ「勝手に殺すな・・・くそつたれめ」

クリリン「ベジータ!!」

悟飯「ベジータさん!!!」

ピッコロ「ベジータめ。前に同じ技を使った時とは比べ物にならない程強くなったんだな」

悟飯「新たな超サイヤ人ブルーの力の影響もあってそれであの技に耐えられるようになったんですね!」

キテラ「ま、待て! シャンツアは消滅して死んだはずだ!! ならば殺したベジータは失格・・・」

コニツク「シャンツア君は生きてますよ。どうやら奇跡的に細胞の一片が消える前に場外判定になったようです。証拠に頭に輪っかはありません」

キテラ「くうっ・・・どうして生きてんだ! バカ野郎!!」

悟空「へへ・・・サンキューなセル」

セル「ふん・・・貴様に感謝などされたくもない」

悟空はベジータが生き残った事で第7宇宙が勝ち消滅が免れ安堵の表情を浮かべる。
この激しすぎる戦いでも大神官の容赦なき一声が待っていた。

大神官「第4宇宙シャンツアさん、第11宇宙ジレンさん脱落により第4宇宙、第11宇宙消滅でございます」

悟空「あっ……」

トツポ「ジレン」

ジレン「……」

トツポ「ありがとう」

ジレン「何故だ……俺は敗者だ。何も守れなかったのだぞ……」

キテラ「何で俺達が消えなきゃならないんだー!!!」

消滅を受け入れる第11宇宙の神々と戦士、何がなんでも認めないキテラ。

パニックになるキテラが右手を第7宇宙に向け暴拳に出た!!

キテラ「こうなったらテメーら全員道連れに・・・」

クル「おやめくださいキテラ様!!」

キテラ「黙れクル!!黙って消滅しろとでもいうのか!？」

クル「全王様が決めた事なのです。それを受け入れないのは神として恥ずべき行為」

キテラ「ふざけんじゃねえ!!!!どうせ消えるのならお前から消してやろうか!!」

シン「クル様!!」

クル「シン様。シン様のご先祖様。第7宇宙優勝おめでとうございます。第7宇宙にあつて私達の宇宙にないもの・・・それは信頼関係でしたのでしよう」

クル「私達が負けるのは必然だったのかもしれない・・・。けれども、また一つ勉強になりました」

消滅の光が第4宇宙と第11宇宙を照らす。

悟空はダメージを受け重く感じる身体を持ち上げる様に立ち上がりジレンに顔を向

け話し掛けた。

悟空「ジレン。おめえは嫌がるかもしんねえけんど・・」

悟空「鬪う事でオラ達は一緒に強くなれたんじやねえかって気がすんだ」

ジレン「孫悟空・・・」

また会いてえ。

ジレン「・・・」フツ

ジレンに少しの笑みがこぼれる。

後悔はなかった。むしろ本気にさせてくれた悟空に感謝の気持ちもあつた程に・・。

悟空「トツポ。おめえともまた鬪けてえ」

トツポ「悟空……」

トツポともすつかり今では好敵手（ライバル）であった。

出会ったあの時は憎まれていたが戦士として拳を交えていく度に武闘家として正々堂々とした闘いに変わっていった。

破壊神になってもそれは変わりがなかった。

悟空「シャンツア。おめえともな。でも、殺し合うのはやめにしてくれよな」

シャンツア「無理無理!ごめんなさい」

元の小さな姿に戻ったシャンツア。

どうやら体内に眠っていた邪悪な魂がなくなりシャンツア本来の人間性が戻ったのだ。

それは今までの悪魔の様な人間性とは全く違い気弱で臆病な性格だった。

悟空「そうか」

キテラ「くっ・・第7宇宙め。消滅すべきはあいつらだというのに」

クル「シン様。あなたといたこの短い時間忘れません。・・ありがとうございました」
シン「ク、クル様・・・」

クルはシンと握手を交わす。

良き神々、良き友として最後の・・・。

対称的にパニツクのキテラ。

今まで消滅した宇宙を嘲笑っていたが逆に自分達が消滅してしまう事実パニツクにすがる。

その姿は惨めで哀れ。消滅したどの宇宙の神々よりもみつともない。

キテラ「おいコニツク!!何かあるのだから!?消滅から免れる手段が!」

コニツク「キテラ様。これはノーコンティニューのアクションゲームみたいなものですよ。消滅は絶対なのです」

キテラ「じ、冗談やめろよ!!俺とお前の仲だろ!?!」

コニツク「・・私は所謂キャラ選択を行うカーソルの存在。あなたがたはプレイヤー。」

負ければゲームオーバー。ただそれだけです」

キテラ「・・・消えたくない!!消えるべきは第7宇宙の奴等なんだー!!」

全王・未来全王「キュツ!!」

キテラ「うわああああー!!!!」

クル「・・・さよなら!」

第4宇宙、第1ー宇宙消滅・・・。

残ったのは第7宇宙、武舞台に残るのはベジータ。

ベジータが超ドラゴンボールの願い事を叶えられる権利が与えられる。

コニツク「ゲームオーバー。とても楽しい最期でしたよキテラ様。フフフフ」

ビルス「あいつも嫌な付き人だな・・・」

ウイス「・・・」

シン「クル様・・・くつ、ううつ・・・」

シンはへたりこみうなだれる。

老界王神も寂しげな表情を浮かべながら誰もいなくなった第4宇宙の観覧席を眺めていた・・・。

ピッコロ「凄い奴だったな・・・」

悟空「ああ・・・」

大神官「ベジータさん」

ベジータ「・・・」

大神官「願いは決まっていますか？」

観覧席にいる悟空達と神々が一人の戦士に注目している。
果たしてベジータの願いとは!?

奇跡の決着!また会おう孫悟空! 後半

大神官「テエナカライガネテシソウユリノミカヨデイ」

チヨンマゲ!!

ベジータ「くっ!」

黄金の光が無の界を包み込み、その光が1つの形となり黄金の龍が現れ無の界を眩く照らす。

17号「あ、あれが・・・」

悟空「ああ。超ドラゴンボールだ」

大神官「さあ、ベジータさん。願いをどうぞ」

ビルス「ベジータめ。何を願うつもりだ」

クリリン「まさか、不老不死を叶えるつもりじゃ・・・」

悟飯「今のベジータさんにそれはないかと・・・」

悟空「でえじようぶさ。それにあいっだってやられればは悔しいだろうしな。・・・オラもジレンには結局一対一では勝てなかったしな」

ピッコロ「ふっ・・・第6宇宙のナメツク星にも興味が沸いた。復活した地球も見てみたかったものだ」

天津飯「俺も第6宇宙の地球には興味あったな・・・」

亀仙人「向こうにもピチピチギヤルはいたのかの・・・」

18号「私は第2宇宙だな。あの愛の力の根源。ちよつと気になるからね」

17号「第9宇宙の獣人達もなかなか強かった。あいつ等の生態を調べたくなっただな」

クリリン「俺は第3宇宙だな。第3宇宙のポリスマンは皆あのスーツ着てるのかな？なら第7宇宙のポリスマンにも分けてほしかったぜ」

セル「……ルールがなければこの私の手で直接ゴクウブラックを殺してやりたかったがな」

シン「……」

老界王神「時間が掛かっとの。どうしたのじゃ?」

悟飯「ベジータさん、まだ願い事を言ってもせんね。悩んでるのでしょうか?」

ベジータ「……」

全王「何でも言っているのね」

未来全王「何でも出来るのね」

全王「叶うのね」

全王・未来全王「どうするの?」

ベジータは目を瞑りある事を思い浮かべていた。

本当に叶えられる願いなのか。超ドラゴンボールならば可能なのか。

いや、ここまで戦い不可能なはずかない。それに……

——俺はその願いを叶える為に戦い抜いた。躊躇う理由などない。

目を開け閉ざしていた口を開く。

ベジータ「消えてしまった宇宙を全て元に戻してくれ」

イル「な、何と！」

オグマ「おお！」

アグ「何と慈悲深い・・・」

アナト「やはりですか」

悟空「へへ、やっぱりな」

全王「それでいいの？」

未来全王「いいの？」

ベジータ「叶えられるのなら早くしてくれ。さっさと帰らんとブルマの奴がうるさくてかなわん」

大神官はベジータの迷いのない表情を見た後、黄金の龍に顔を向け独特の言語で願い事を伝えた。

大神官「れくてつやてしどもにともをうゆちうのてべすたつましてえき」

願い事を伝えられ超ドラゴンボールは光の線となり無の界の天を高く舞い上がっていった。

ベジータ（お前との約束、守ったぞ。キャベ）

シャンパ「なっ!?!何だ!?!どうなった!?!」

カリフラ「ケール！あたしら生きてる！生きてんだよ！！」

ケール「あ、姉さくん！！」

フロスト「よ、甦っている」

ボタモ「よかったなお前！」

キャベ「あの時の約束守ってくれたんですね！師匠！！」

キャベ『待ってください！！僕はそ
の……』

ベジータ『何だ』

キャベ『出来るのならば1つの宇宙ではなく全ての宇宙を復活出来ればと……』

ベジータ『……』

キャベ『む、無理ですよ。いくら何でも……』

ベジータ『貴様は相変わらず甘いな』

約束を守ってくれた師匠。キャベからは一筋の涙が流れた。

キャベ「本当にありがとうございます・・師匠・・・」

カリフラ「おいキャベ!超サイヤ人3になる特訓付き合えよ!」

キャベ「えっ!?今からですか!」

カリフラ「つてか本当にあいつが勝つたんか!」

キャベ「間違いありません。師匠のはずです!」

カリフラ「そうか・・へっ!仮は必ず返すからなベジータ!いや、ベジータさんよー

!

ケール「ありがとうございますベジータさん」

ヒット「破壊神。俺達はいいつ等に助けられたらしいな」

シャンパ「・・ふん。礼は言わねえからな。兄弟」

ゴワス「ラムーシ様・・」

ラムーシ「ブラックめ。わしらが復活したと思つたらどこかへ行きおつたわい」

ゴワス「大丈夫です。ザマスもきつとこの戦いにおいて成長したはずです」

ムリチム「メチオープ！生き返っているではないか！」

メチオープ「はっ!?完全復活したのか!？」

オブニ「良かったな」

ラムーシ「成長か・・・あやつは変わらなそうな気がするがの」

ゴクウブラック「人間め・・・俺はそれでも許すつもりはないからな・・・」

太い木の枝に立ち天を舞う超ドラゴンボールを見上げるゴクウブラック。

許すつもりはないと言いつつも全王の恐ろしさを改めて知り人間0計画を達成できるとは到底思えずにいたのであった。

エア「はっ!?こ、ここは!？」

ミュール「戻ってきたんだな・・・」

エア「モスコ様！いえ、えっと・・・」

ミュール「ミュールだよ。改めてよろしくなエア」

エア「は、はい!ミュール様。これからはもっと人間レベルを上げていきましよう!」

パパロニ「これからはもつと働かないといけない」

マジルカーヨ「おいおいドクター。老体なんだから無理すんなよ。俺等も手伝うからよ」

パパロニ「・・・ふっ。頼りにしてるぞ」

カトペスラ「第7宇宙のポリスマン、クリリンよ。また合間見えたときは良き友として今度は戦いではなく両宇宙の交流を深めようではないか」

ブリアン「生きてる・・・私達と私達の宇宙が!」

スー「皆!!うう・・・生きてる」

サンカ「ヘレス様!ペル様!」

ペル「何と幸せなのだ・・・おー、愛する民達よ!」

ヘレス「奇跡じゃ．．．わらわ達は．．．ん？」

ザーロイン「チツ、どうせ俺は．．．」

ヘレス「ザーロイン」

ザーロイン「．．．覚悟は出来ている」

ヘレス「どれ程の悪人でも愛する我が宇宙の民。これまでの行いを償い生きていくのじゃ」

ザーロイン「ヘレス様．．．」

ブリアン「ザーロイン！皆と一緒にこの優しさの宇宙を守りましょう！」

サンカ「そうよ」

スー「優しくなれるはずよ」

ジームズ「今度は星を破壊するのでなく星を守っていかうではないか」

ザーロイン「ありがとう．．．ありがとう．．．！」

シドラ「生き返ったのだな．．．」

ロウ「．．．」

シドラ「皆よ。一からやり直そう。この荒れきった宇宙を修復するのは大変である

う」

シドラ「だが、我々にまた新たなチャンスを与えてくれた。このどうしようもない宇宙を変えていく事が全王様や大神官様への恩返しになる」

ベルガモ「もちろんお手伝い致しますシドラ様、ロウ様」

ラベンダ「やるしかない・・・俺達に出来ることを」

バジル「兄者達もやる気なら・・・よし!変えていくぞ!俺等がこの第9宇宙を!!」

ホップ・オレガノ・チャツピル・ローゼル・ヒソップ・ソレル「おお!!!」

シドラ「界王神ロウよ。いつまで呆けている」

ロウ「フリーザはどうなったんだ?」

シドラ「そういえば・・・」

第7宇宙のあの世の地獄では・・・。

フリーザ「くっ・・やめろ・・やめろおお!!」

妖精「さあ、はっじめつるよ!!」

ねえ笑って笑って

ねえ笑ってよー

フリーザ「うおおあああー!!!」

キテラ「復活・・したのか」

クル「生きている・・第7宇宙が我々を、おそらく全ての宇宙を復活させてくれたに
違いありません」

キテラ「くっ、くそおビルスめ!全王様や大神官様にいいとこ見せたのだな!!」

クル「もうやめましようキテラ様。私達神々は争うのでなく交流を深め切磋琢磨して
いくべきなのです」

キテラ「だ、黙れ黙れ黙れえ!!!くそっ!コニツクの奴も助けるどころか見捨てやがった。どいつもこいつも許さねえ・・・!」

クル「今後全王様がいつ力の大会以外の大会を開くか分かりません。出場して消滅の危機にまた瀕したらどうするのです?」

キテラ「くそお・・・俺は悪くない。俺は悪くないんだ・・・!!」

ガノス「シヨウサ!」

シヨウサ「復活して病気も治った・・・何と幸せな事か・・・」

マジョラ「良かったなシヨウサ」

シャンツア「平和が一番だね」

キテラ「シャンツアもすっかり変わっちまったか・・・第7宇宙を襲える奴がいねえ・・・」

クル「シン様、シン様のご先祖様。今度会うときは必ずお礼します。そして、第7宇宙と第4宇宙、いや、全ての宇宙が助け合い共にレベルを高め合える世界を目指しましょう・・・」

トツポ「ジレン」

ジレン「孫悟空は最後に俺に会いたいと言っていたな」

ジレン「だが、過去に囚われ生きてきた俺には誰も繋がりを持つ事など出来ない」

トツポ「ジレン、お前はそんな臆病な奴だったか？」

ジレン「ん？」

トツポ「最後の戦いでお前は俺達の期待に応えようとしただろう」

トツポ「お前が再び立ち上がったあの時、初めて繋がりが出来たんじゃないのか？」

ジレン「トツポ・・・」

トツポ「次に奴等に会うときはもう負けたりはしない！」

ジレン「ああ」

ジレン「次は勝つ。また会おう孫悟空」

願いを叶えた超ドラゴンボールは役目を終え黄金の光が消えた。

それを見届けたベジータは少しばかり顔が緩んでいた。観覧席がベジータに近寄るが、悟空は真つ先に武舞台に降りベジータの所に駆け付けた。

悟空「おいベジータ!!」

クリリン「悟空!」

ベジータ「何だカカロット」

悟空「へへ・・おめえがN o . 1だな」

ベジータ「こんなN o . 1などあるものか」

悟空「・・まあそれはそれとしてよ。あんがとな」

ベジータ「勘違いするな。俺は貴様等を喜ばせる為にやったのではない」

悟空「つたく素直じゃねーなおめえは」

ベジータ「ふん!」

ピッコロ「それにしても驚いたぞ。お前がああ技で死ななかつたのはな」

ベジータ「あの時の俺と今の俺を一緒にするな」

ピッコロ「そうだったな。今のお前は誰よりも守るべきものがあるだろうからな」

セル「用が済んだのならばさっさと私を地獄へ戻してほしいのだがね」

悟空「でも、おめえまだ時間が残ってんだろ？」

セル「復活が出来ないと分かればここにいる意味などない。それに貴様等が喜ぶハッピーエンドなど見たくもないのでな」

ウイス「ならばいっそセルさんもハッピーになられてはいかがですか？」

ウイス「ソー!!ホイ!!」

セル「くっ!?!・・・ん?」

ウイスが杖の先端をセルに向けるとセルの頭上には天使の輪が消えていた。
あの世からこの世に戻ったのだ!

第7宇宙メンバー「えくくっ!!!!」

悟空「消えた!!」

ベジータ「生き返ったって事なのか!?!」

ウイス「ビルス様からのプレゼントです。最後はなかなかのファインプレーだったとの事ですよ」

セル「フフフフ・・私は地球を壊すつもりでいる。それでも甦らせてもよかったのかな?」

悟空「そんなときは・・オラが倒すさ」

ベジータ「くだらん。俺が倒す」

セル「そう殺気立つな。全宇宙が復活したのだ。私にもやりたい事があるのでね」

全王・未来全王「悟空く!!」

悟空「おー全ちゃん!」

全王「すつごく楽しかったのね!」

未来全王「すごかったのね!」

シン「それにしてもベジータさんの願い事は意外でしたね」

大神官「全王様はこの結果を予測されていましたよ」

シン・老界王神・ビルス「だ、大神官様!!!」 スッ!!

大神官「最後まで勝ち残る戦士は他の宇宙の事を考えるだけの徳を持っているはずとお考えでしたから」

ビルス「もし、それ以外の願いを言っていたとしたら・・・」

大神官「もし自分本位な願いを言っていたのなら何もかも全て消すおつもりでした」

シン・老界王神・ビルス「エエエエエ!!!」

ヴアドス「なかなかハードなサバイバルでしたね」

ウイス「全王様は期待しておられたのかもしれませんがよ」

ウイス「悟空さん達なら何か変えられるかもしれない。人は変えられるのだと・・・」

全王・未来全王「ねえねえ悟空。次は何やる?」

ビルス「だーっ!!!」

ビルス「申し訳ございません全王様!その話は後日という事でお願ひします!」

シン「本日はこれにて失礼させていただきます!!」

大神官「第7宇宙の皆さん、見事な戦いぶり。そして、素晴らしい願い事でしたよ」
シン・老界王神・ビルス「ハハア・・・」

悟空「いちいち・・・」

全王・未来全王「ねえ悟空」

悟空「ん?」

全王・未来全王「また会いに来てくれる?」

悟空「ああ!もちろんだぞ!」

全王・未来全王「えへへ・・・うん!」

悟空「またな全ちゃん!!」

悟空と二人の全王はグータッチ。

そして、第7宇宙に悟空達は戻っていった。

悟空達がカプセルコーポレーションに戻ると朝陽が眩く射していた。

とうとう宇宙の存亡をかけた力の大会は終わりを告げ悟空達はそれぞれの日常へと戻っていった・・・。

ベジータ「抱き付くな！」

ブルマ「良かった！私達が勝って生き残ったのね!!」

悟飯「ベジータさんが最後まで残ったのですよ！」

ブルマ「本当!?ベジータ!あんたが優勝したの!?!」

ベジータ「当たり前だ」

ブルマ「孫君にも勝ったの!?!」

悟空「仲間同士争わねえぞ」

ベジータ「もういいだろ。俺は修行をする」

ブルマ「何よ。せつかく今日は大盤振る舞いしようと思ったのに」

悟空「うおおー!!すんげー飯があっぞ！」

ベジータ「ちっ・・・」

悟飯「早く戻らないと。家族の元へ！」

18号、17号、クリリンは南の島に。

17号「よく守ってくれたな」

悟天「うん。ミノタウロスも無事だよ！」

トランクス「まあ、俺一人で十分だったけどな」

悟天「僕一人でも十分だよ」

トランクス「悟天じゃ島ごと巻き添えにするから無理だよ」

悟天「トランクス君こそ暇だからって修行して木を折ったじゃないか！」

トランクス「あれは悟天がかわすから悪いんだろ！」

クリリン「お、おいおいやめろよ二人共」

18号「そーいやあんた達。あの時の天下一武闘会では失格になって最後まで戦えなかつたよな？」

悟天「えっ？」

トランクス「あつたなそんなの」

18号「どうだい。続きやんの？」

悟天「トランクス君！」

トランクス「ああ悟天！やろうぜ！」

18号「そこなくつちや。クリリン、マーロンを頼んだよ」

クリリン「18号さん!!」

マーロン「ママ〜！頑張れ〜！」

17号「やれやれ。子供っぽいところがあるからな」

サタンハウスでは。

ビーデル「ち、ちよつとパンちゃん！」

悟飯「すみませんピッコロさん・・・」

パン「ピッコヨ」グニグニ

ピッコロ「・・・」

ビーデル「パパもブウさんもすつかりこの調子で・・・」

サタン「ぐがー……」

ブウ「がー……」

悟飯「でも、こうして無事帰ってこれて良かった。例え他の宇宙が復活をしてくれども宇宙が家族が消えてしまうなんて考えたくなかったから……」

ビーデル「悟飯君……」

ピッコロ「孫やベジータもだが悟飯もこの戦いでかなり強くなった。俺はもちろんだが今ならフリーザにも勝てるかもしれんな」

悟飯「お、大袈裟ですよ……」

パン「ピッコヨ〜」グニグニ

ピッコロ「何より強くなったきっかけは家族の影響が大きい。俺的にはゴクウブラツクとの戦いは見事だったぞ」

悟飯「ありがとうございます。ピッコロさん」

パン「ピッコヨ〜」

ビーデル「パンちゃん!ピッコヨさんが困ってるでしょ!」

悟飯「ビ、ビーデルさん」

ビーデル「あ、ごめんなさいピッコロさん!」

ピッコロ「……」

パン「キヤツキヤツ。ピッコヨ」

カリン塔では。

亀仙人「ふむ……ここへ来るのも久々に感じるの」

カリン様「おぬしも宇宙を守るべく戦ったからの。よく消滅させずにすんだの」

亀仙人「わしはいうほど活躍は出来なかったがの。それどころかある若き戦士を倒せずチームに迷惑をかけてしまったわい……」

ヤジロベエ「そんならじいさんより俺が出た方が活躍したんじゃねえか」

カリン様「おぬしじゃ数秒ももたんわい」

ヤジロベエ「なんだとー！」

亀仙人「さてと……もう一昇りするかの。若いもんにまだ負けられんわい」

ヤジロベエ「おいじいさん！死ぬぞ！」

カリン様「やれやれ。武術の神『武天老師』。今よりも更に強さを求めるとは……おぬしも大会に出て変わったの」

天津道と街では。

餃子「天さん。これはここでいいの？」

天津飯「ああ。すまん餃子」

弟子「先生！先生の道場でユーリンさんと一人の女性が喧嘩してます！」

天津飯「何!？」

ユーリン「何だよ！掃除して何が悪いんだよ！」

金髪ランチ「テメーここは天津飯の道場だろ!!俺が掃除してんだから街の修復でもしてろ!!」

ユーリン「はあっ!?俺の勝手だろうが!お前こそ道場から出てけばーか!!」

金髪ランチ「んだと!!ガキ!!」

ユーリン「お前はおばさんだな!!」

金髪ランチ「ぶっ殺す！」

天津飯「お前、いつのまに!？」

金髪ランチ「おう天津飯!何だこの女は!まさか・・・お前の・・・」

ユーリン「3つ目ハゲ・いや、先生。この女何だよ！先生の女か？」

金髪ランチ「ば、ば・そんなんじや・そんな・」カァー

天津飯「ばば、バカな事を言うな。俺達は昔会っただけの仲だ」カァー

先生にあんな綺麗な人が・。

羨ましいぜ、先生。

俺も先生みたいに強くなればあんな可愛子ちゃんと・。

金髪ランチ「テメーらもぶつ殺すぞ!!」ダダダダダダ!!!!

ユーリン「機関銃ぶっぱなすんじやねえ！」

うわー!!

天津飯「まずい！餃子!!」

餃子「えい!!」

金髪ランチ「ヴェーックション!!!!」

青髪ランチ「あら?天津飯?私はどうしてここに?」

天津飯「それはこつちが聞きたい・・どうやってここを知ったのだ」

愛だらうな

先生を一途に・・なんて素敵な女性だ

先生はそれでも武道一筋なのか・・?

天津飯「やや、やめろお前達!!そんなのではないと言ってるだろ!」

ユーリン「はっはくん。先生の弱点見つけたぜ」

青髪ランチ「皆様に迷惑をかけてしまいごめんなさい。お詫びにフグ料理をおもてな
ししますの・・天津飯。ほんとにごめんなさい!」

天津飯「あ、ああ・・もういい。頼んだぞ」

ユーリン「どつちもどつちだな」

その後、腹痛を起こしたのは言うまでもない・・。

悟空はチチにまたも怒られていた。

チチ「悟空さ!!」

悟空「チチ！勘弁してくれよ」

チチ「いや！ダメだ！飯食ったら働いてもらおうける!!」

悟空「飯食った後は修行しねーと。他の宇宙にはオラよりつえー奴がいたからよ」

チチ「他の宇宙の事なんかより家計を気にしてほしいだ。悟空さも悟天も食費が凄
んだべー!」

悟空「そんな事言っちゃって・・・」

17号はその後、家族と共にクルーザーで世界旅行にもいき平和な毎日が続く。

17号がいない中でブルマン家ではパーティーが行われた。

第7宇宙のメンバーやそれ以外の仲間達はシン、老界王神、ビルス、ウイスも集まり盛大なパーティーが行われていた。

産まれたばかりのブラが可愛がられベジータも満足な表情をしている。

ビーデル「パンちゃん!!」

パン「キヤツキヤツ!!」

ベジータ（流石は俺の子だ。あいつも強くなるだろう）

クリリン「うわわ!」

ベジータ「何をやっている!赤子に武空術を使わせ・・」

ゴツン!!

ベジータ「くっ・・」

パン「アハハ」

悟空「ハハ!ベジータ派手にやられたな」

ベジータ「カカロット!貴様あ!!」

悟空「おっ?やるか!?!」

ベジータ「身勝手の極意を得たからといって俺に勝てると思うな!」

クリリン「お、おいおい！」

ジャコ「うわっ!!」

チチ・ブルマ「はあゝっ……」

相変わらず争う二人。

変わらない毎日が続くのであろう。

セル「フフフフ……」

それは力の大会が終わり帰ろうとした時……。

セル『待て』

ビルス『何だい』

セル『もう一つわがままを言ってもいいかな?』

ウイス『おや、欲張りさんですね』

セル『何、第7宇宙には迷惑は掛けない』

ピシユン

クス『な、何ですか?』

セル『宇宙が復活し戦士も復活したのだ。あいつがいるはずだ』

ビルス『行くのはいいが戻れなくなるかもしれないよ』

セル『構わない。あいつはきちんと私の手で仕留めないといけないのでね』

ウイス『クス姉様。よろしいでしょうか?』

クス『どうしてもというなら・・・』

セル『助かるぞ。天使様とやら』

悟空『セル』

セル『孫悟空。今は生かしておいてやろう。だが、私は更に強くなりいつかそつちの宇宙に向いてやる』

悟空『オラ達だつて強くなつてつからな』

セル『ふん．．今を精々楽しむことだな』

ゴクウブラック「わざわざ死にに来たのか？人間」

セル「クククク．．わざわざ殺しに向いてやったのだぞ。私を楽しませて死ねよ」
ゴクウブラック「死ぬのは貴様だー！！」

ベジータ「デエエヤ！！」

悟空「グツギギ！！」

ベジータ「おい、カカロット！身勝手の極意はどうした！！」

悟空「それが出来ねえんだ」

ベジータ「何!？」

悟空「あの大会で追い込まれて偶然出来たみてえだよ」

ベジータ「ほう。ならば俺がそれ以上の力を手に入れてやる!」

悟空「待てよベジータ」

ベジータ「黙れ!! 貴様だけは俺の先には絶対に行かせん!!」

悟空「へっ。ベジータ。オラ達もつともつと強くなれっぞ!」

ベジータ「当たり前だ! サイヤ人の強さに限界などあつてたまるか!!」

限界の向こうへ果てしない挑戦は続く。

まだ見ぬ強敵が現れた時、再び悟空達の冒険の日々が始まるだろう。

それまでしばしの別れ。

みんな、また会おう!

ドラゴンボール超 宇宙サイバイバル(超IF)

完